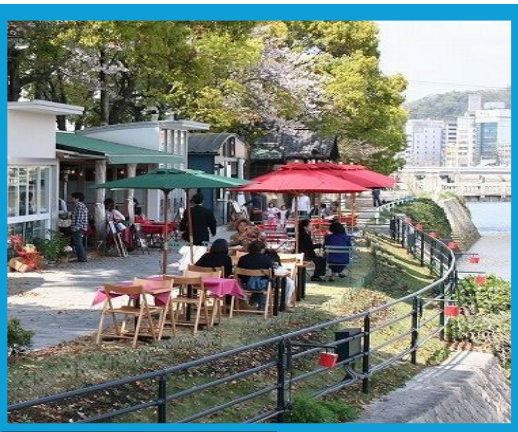
かわまちづくり計画事例集

令和8年3月
国土交通省　水管理・国土保全局






目次

01 はじめに P.2

02 「かわまちづくり」支援制度とは P.3

03 事例紹介-聖蹟桜ヶ丘かわまちづくり- P.6

04 かわまちづくり計画

・登録分布図 p.13

・事例一覧表 p.14

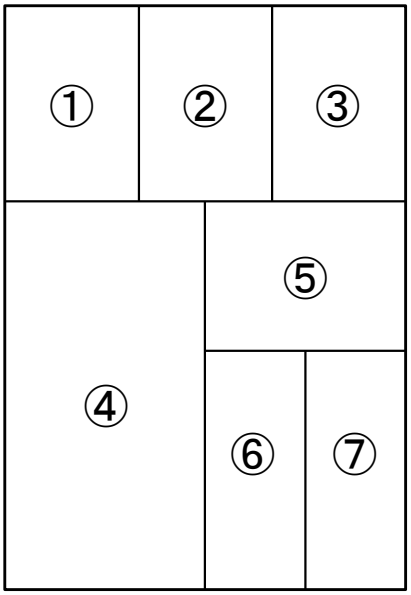
・事例の見方 p.21

・事例集 p.24

05 索引 p.417

06 参考情報 p.418

＜表紙写真＞



①石巻地区かわまちづくり（宮城県石巻市　旧最上川）

②天満川・旧太田川（本川）・元安川地区及び京橋川・猿猴川地区かわまちづくり（広島県広島市　元安川・京橋川）

③盛岡地区かわまちづくり（岩手県盛岡市　北上川・中津川）

④閖上地区かわまちづくり（宮城県名取市　名取川）

⑤長井地区かわまちづくり（山形県長井市　最上川）

⑥大垣市かわまちづくり（岐阜県大垣市　水門川）

⑦大阪市かわまちづくり（大阪府大阪市　道頓堀川他）

01 はじめに

「かわまちづくり」とは、河川空間とまち空間が一体となって賑わいを生み出し、地域活性化に資する良好な空間形成を目指す取組です。

水辺には、地域の歴史や文化、人々の暮らしの積み重ねによって育まれた多様な“資源”が存在し、その活かし方によって新たな価値を創出する可能性が秘められています。

こうした水辺の“資源”と地域の創意ある“知恵”を掛け合わせ、市町村、民間事業者、地元住民、そして河川管理者が連携して取り組むことで、「かわ」と「まち」を結びつけ、地域の「顔」や「誇り」となる空間づくりを進めることが「かわまちづくり」です。

平成21年度の「かわまちづくり」支援制度の創設以降、一定の要件を満たす場合には河川敷地での営業活動が可能となるよう河川敷地占用許可準則の改正を行うなど、制度面の充実を図ってきました。

また、川の価値を見いだし主体的に魅力を高める「ミズベリング」の展開や、平成28年度の支援制度の改定により民間事業者等も計画作成に参画できるようにするなど、多様な主体が関わる仕組みづくりも進めてきました。

こうした取組を通じ、各地で特色ある「かわまちづくり」が展開され、地域の魅力向上に寄与しています。

本事例集は、全国で取り組まれている多様な「かわまちづくり計画」を整理し紹介することで、地方公共団体や民間事業者をはじめとする関係者が新たに計画登録を検討する際の参考となる情報を提供することを目的としています。

国土交通省　水管理・国土保全局

02「かわまちづくり」支援制度とは

「かわまちづくり」支援制度の概要

支援制度に登録されると、直轄事業や交付金事業の対象となり、河川管理者は計画に基づき、区域指定等による河川空間活用に向けたソフト施策の支援と、河川施設整備などのハード施策を行います。

ソフト施策による支援

・都市・地域再生等利用区域の指定等によるオープンカフェなど河川空間の多様な利活用の促進

・優良事例に関する情報提供や必要な調査等により、計画の実現を支援

都市・地域再生等利用区域の指定の適用事例



水面上遊歩道のイベントや舟運等での活用
（道頓堀川／大阪市）



河岸緑地へのオープンカフェの設置
（京橋川／広島市）

先進的な取組の情報提供



民間事業者のエリアマネジメントによる
管理・運営（信濃川／新潟市）

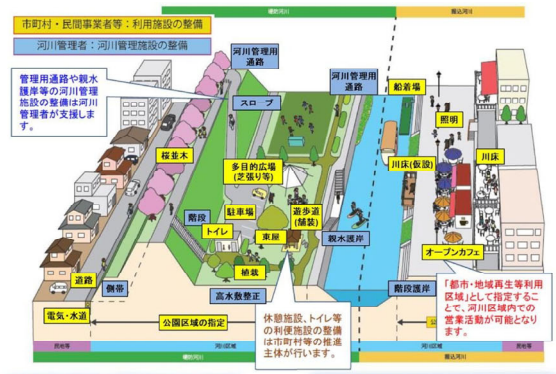


河川敷広場への新たな賑わい拠点の整備
（木曽川／美濃加茂市）

ハード施策による支援

・治水上及び河川利用上の安全・安心に係る河川管理用通路や親水護岸等の施設整備を通じ、まちづくりと一体となった水辺整備を支援

（市町村、民間事業者が河川空間の利用施設を整備）





河川管理用通路の利用
（最上川／長井市）



親水護岸の利用
（新町川／徳島市）

登録要件

支援制度の登録を受けることができる要件は、「かわまちづくり計画」の対象となる河川が次の各号のいずれかに該当するものとする。

1. 歴史的風致維持向上計画や観光圏整備実施計画など国による認定が個別法で規定されており、まちづくりと一体的に良好な河川空間を整備し、その利活用を図る必要がある河川

2. 都市再生整備計画や地方再生計画など国による認定が個別法で規定されており、地域活性化や地域振興に関する計画等において、まちづくりと一体的に良好な河川空間を整備し、その利活用を図る必要がある河川

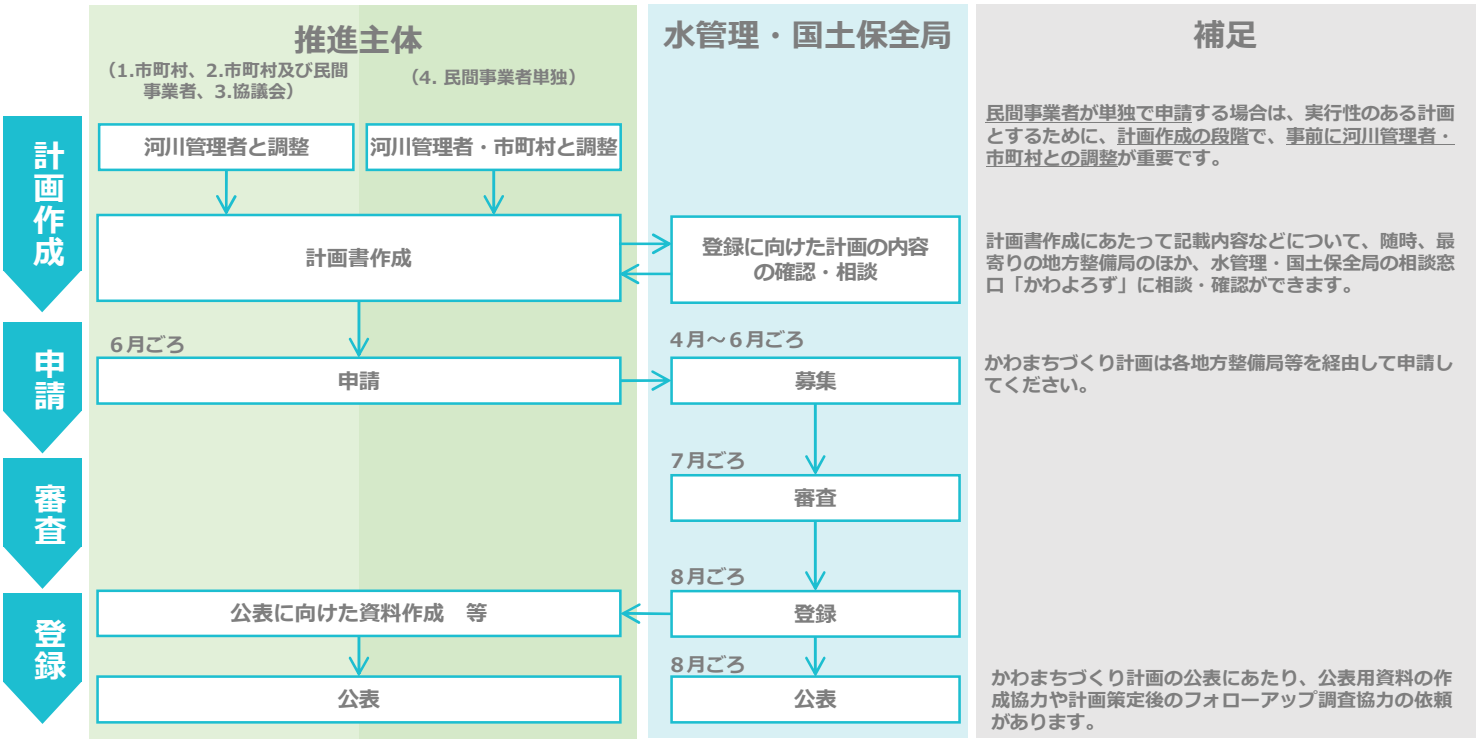
3. 中心市街地活性化、国家戦略特区、地方創生特区及び環境モデル都市など国として積極的に支援している地域活性化施策に関連して良好な河川空間を整備し、その利活用を図る必要がある河川

4. 推進主体が河川空間と一体となったまちづくりを行うために自らが整備・活用を計画し、賑わいある良好な河川空間形成のための諸活動を行っている等、推進主体の熱意が特に高く、地域活性化に資する河川整備を行う必要がある河川

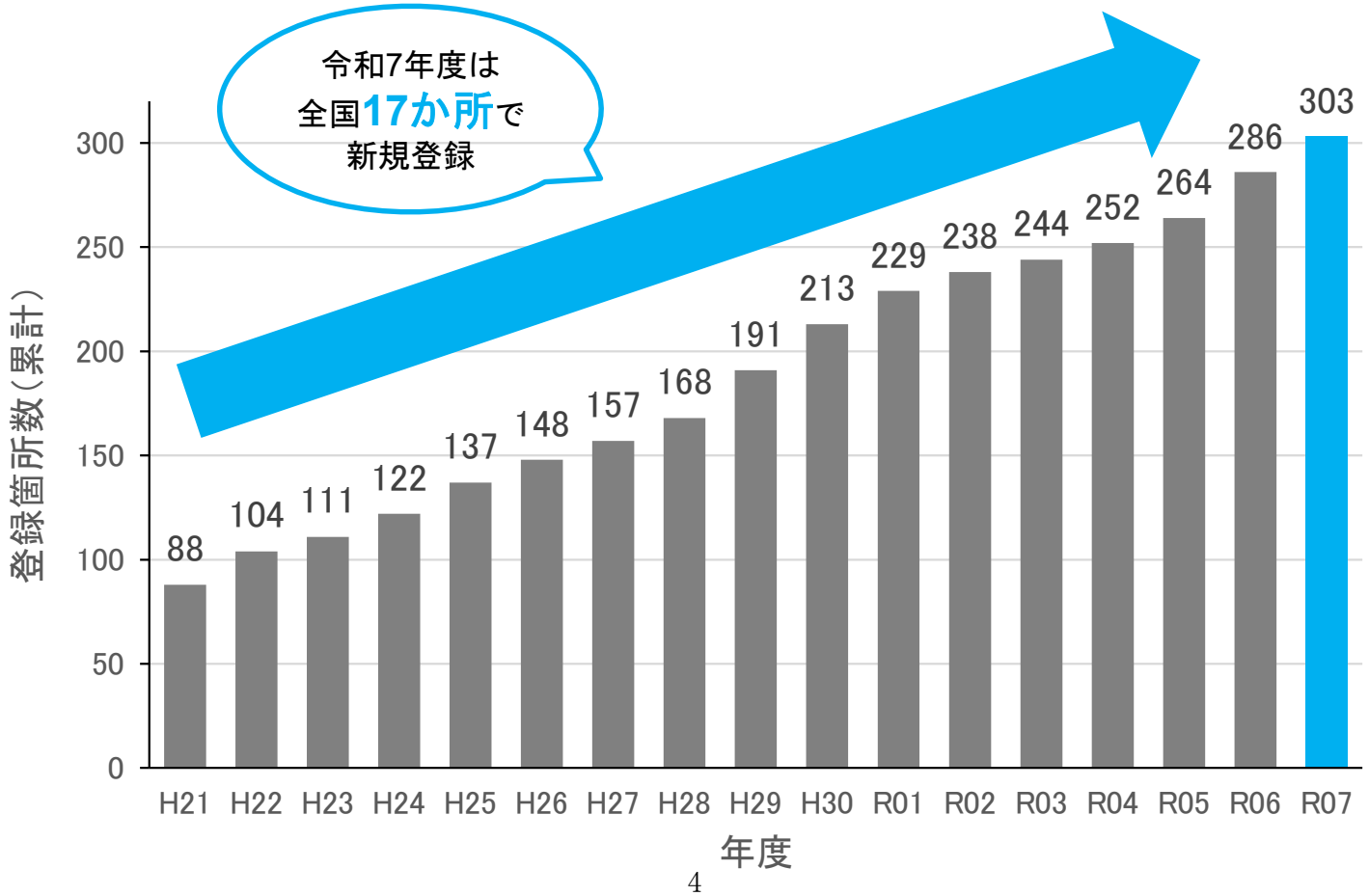
（「かわまちづくり」支援制度実施要領　第5　登録要件）

02「かわまちづくり」支援制度とは

登録の流れ



登録件数の推移



03 事例紹介ー聖蹟桜ヶ丘かわまちづくりー

官民が連携しながらプロセスを積み重ねることにより、日常利用が定着した都市近郊型のかわまちづくり



平日夕方の「せいせきカワマチ」※の利用状況：散策や滞在などの日常利用が混在する親水空間

【DATA】

自 治 体	東京都多摩市
河 川 名 称	多摩川（多摩川水系・国管理）
登 録 年 月	2020年（令和2年）3月
運 営 主 体	一般社団法人聖蹟桜ヶ丘エリアマネジメント
河川管理者	関東地方整備局　京浜河川事務所

【ACCESS】

京王線聖蹟桜ヶ丘駅から徒歩6分

【INFO】

運営主体WEBサイト（聖蹟桜ヶ丘エリアマネジメント）	https://seiseki.org/
かわまちづくり全国MAP（かわまちづくりWEBサイト）	https://www.mlit.go.jp/river/kankyo/main/kankyou/machizukuri/map/kanto/832180.html

※せいせきカワマチ：聖蹟桜ヶ丘かわまちづくり事業において整備された多摩川河川敷エリアの愛称。市民の投票により決定した。

03 事例紹介ー聖蹟桜ヶ丘かわまちづくりー

1. かわまちづくりの概要

「聖蹟桜ヶ丘かわまちづくり」は、多摩川中流域に位置する聖蹟桜ヶ丘地区を対象に、川を起点にまち全体に賑わいを創出することを目的として進められている。

対象エリアは、鉄道駅に近接し、商業施設や住宅地が集積する都市近郊部に位置しており、河川敷と市街地が比較的近い距離関係にあることが特徴である。

かわまちづくり事業では、芝生広場を中心とした河川空間の整備が進められ、イベント開催やキッチンカー出店、地域団体による活動など、日常的な利活用が行われている。これらの利活用は、民間主体のエリアマネジメント団体が中心となって企画・運営を担っており、社会実験による実証的な活用を重ねつつ、地域に開かれた水辺空間の形成が図られている。

本事例はこうした取組の積み重ねにより日常利用の定着を実現し、令和6年度かわまち大賞を受賞している。



施設整備の状況図（上）と使用区分（下）
（出典：R6年度かわまち大賞応募資料）

階段護岸・坂路・管理用通路等の河川管理施設の設計や配置計画にあたり、多摩市と密に打合せを行いながら、素材や形、整備範囲について意見交換を行いながら進めた。また、国の支援事業である「官民連携による地域活性化のための基盤整備推進支援事業」の紹介を行い、多摩市が活用した。（河川管理者）

もともとアクセスが困難であった河川空間に対し、土地区画整理事業やかわまちづくりのハード整備を一体的に進めることで、駅から河川敷までを極力道路を通らずに、安全・安心に移動できる動線を確保した。（市役所）

一般利用者が借りる遊具については、隣接する街区のアウトドアフィットネスクラブに窓口業務を委託しており、イベント等で使用する大きめの備品は、多摩市から貸与された河川に近接する市有地の一部に倉庫を設置し保管し、自分たちで都度運んでいる。（エリアマネジメント団体）

03 事例紹介ー聖蹟桜ヶ丘かわまちづくりー

2. 取組の経緯

かわまちづくり計画の登録以前から、行政と民間事業者との連携を基盤に、水辺空間の活用に向けた取組が制度・体制・運営の各側面で段階的に展開されてきた。

【制度・枠組み】
2013年から2020年にかけて、都市計画マスタープランへの位置づけや国の「かわまちづくり」支援制度への登録を通じて、水辺活用を公共施策として進めるための制度的な土台を整備。2024年からはオープン化の指定を受け、事業収益をあげながら本格運営を実施。

【体制・基盤】
2013年から行政・民間事業者が連携協定を結ぶことで官民連携の基礎をつくり、2020年の計画登録移行は、地域関係者も加え、協議会やエリアマネジメント団体の設立を通じて、水辺活用を担う体制と利用・運営の基盤を構築。同時にまち側・かわ側双方のハード整備を推進。

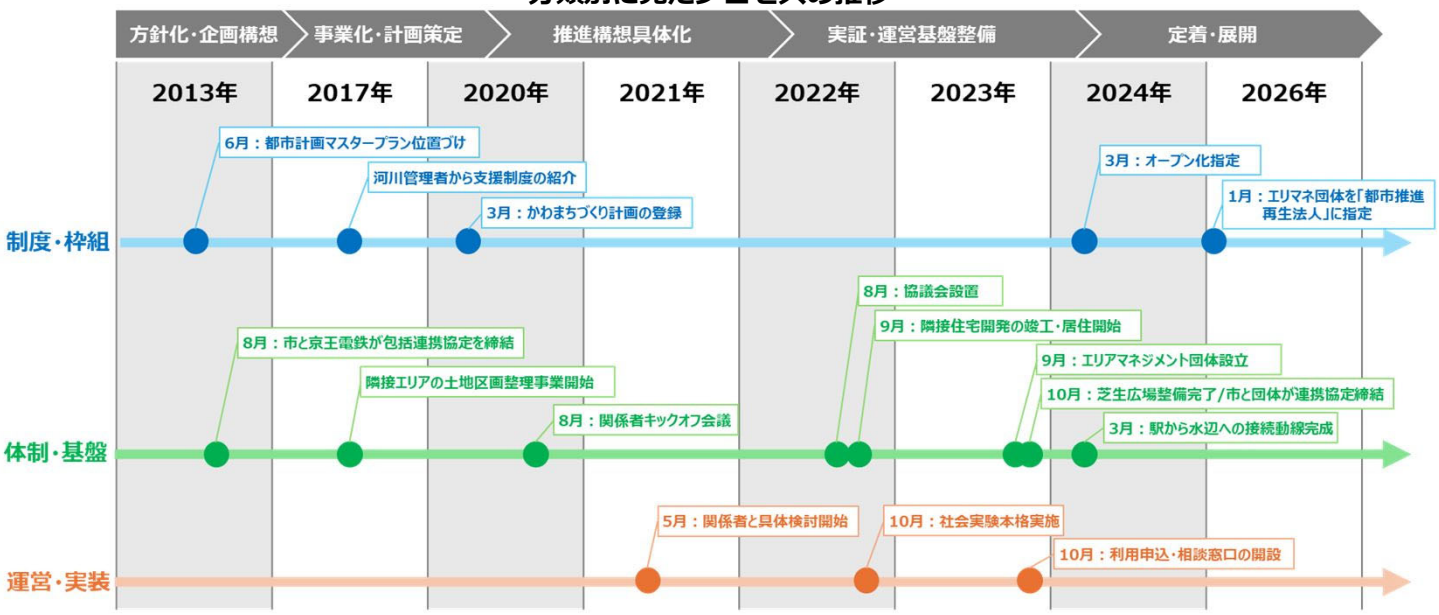
【運営・実装】
2021年以降、具体的検討を開始し、社会実験を通じて運営手法を検証しながら、実際の利用や出店を重ね、日常的な利活用と継続的な運営へと段階的に移行。

取組の経緯（年表）

2013.06	水辺空間活用を多摩市都市計画マスタープランに位置づけ
08	京王電鉄と包括連携協定を締結
2017	隣接エリアの土地区画整理事業の施工開始
	京浜河川事務所より「かわまちづくり」支援制度の紹介
2020.03	「聖蹟桜ヶ丘かわまちづくり計画」登録
08	関係者キックオフ会議
2021.05	地域関係者・団体との具体的検討開始
2022.08	協議会の設置
09	隣接タワーマンション竣工・入居開始
10	社会実験の本格実施
2023.09	エリアマネジメント団体設立
10	芝生広場「せいせきカワマチ」整備完了
	多摩市とエリアマネジメント団体が連携協定を締結
	利用申込・相談窓口の開設
2024.03	河川空間のオープン化の申請・指定
	駅から水辺への接続動線が完成
2026.01	エリアマネジメント団体が多摩市より「都市再生推進法人」に指定

※制度・枠組み関係を青、体制・基盤関係をオレンジ、運営・実装関係を緑で示す

分類別に見たプロセスの推移



土地区画整理事業が先行して、聖蹟桜ヶ丘北地区の整備が進められてきた。京浜河川事務所から「かわまちづくり」支援制度の紹介・打診があり、庁内で検討した結果、メリットがあるとして申請を行った。（市役所）

2013年に多摩市と京王電鉄で、まちの課題について検討する包括連携協定を結んでおり、その検討部会でかわまちづくりについて情報共有がなされて、かわまちづくりに取組むようになった。（エリアマネジメント団体）

03 事例紹介ー聖蹟桜ヶ丘かわまちづくりー

3. 体制と役割分担

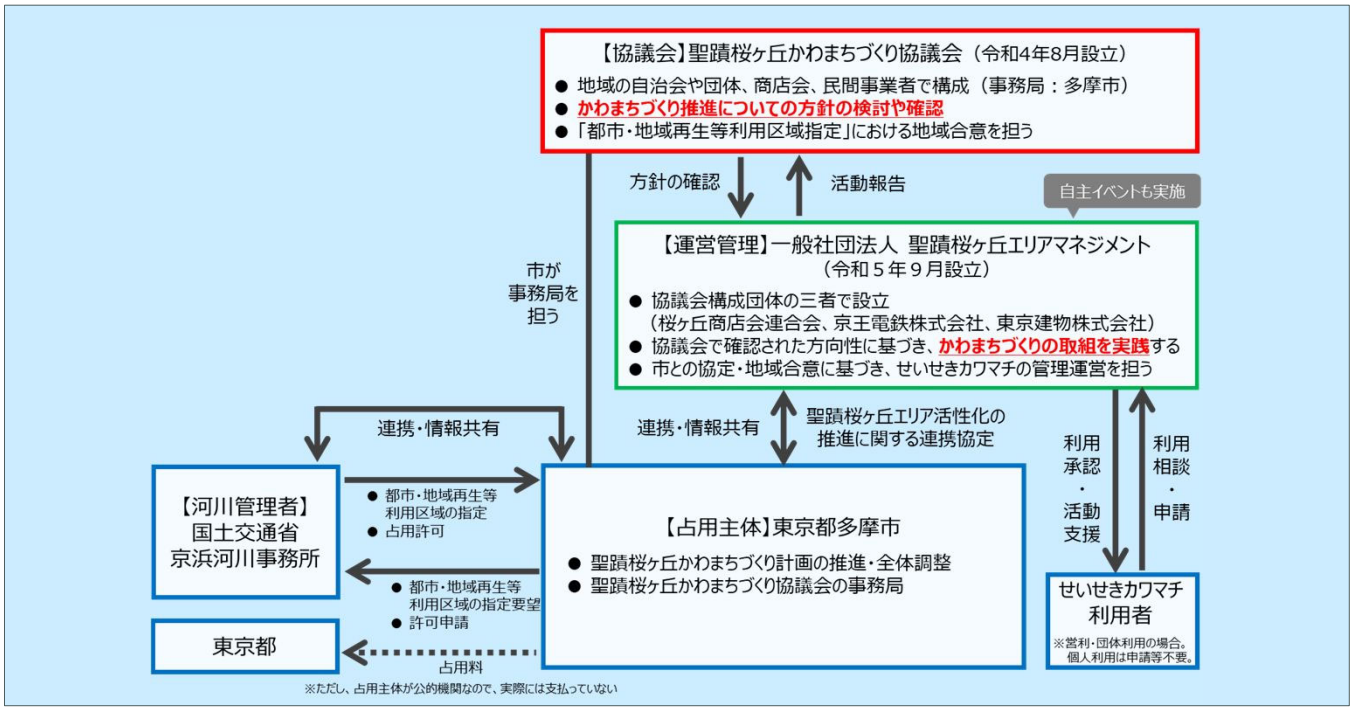
■エリアマネジメント方式※による運営体制

河川管理者である京浜河川事務所から地元自治体の多摩市が占用許可を受け、多摩市と連携協定を結んだ民間主体のエリアマネジメント団体「（一社）聖蹟桜ヶ丘エリアマネジメント」が、当該空間の利活用に関する企画・運営及び日常的な管理を担っている。

多摩市は、制度面・運営面での調整や支援を担い、河川管理者、民間事業者、地域関係者と連携しながら、民間主体による運営が円滑に行われるよう体制を構築している。

京浜河川事務所は、河川管理者として、治水・安全確保に加え河川環境の保全にも配慮しながら、占用許可や運用ルールに関する協議・確認を通じて、かわまちづくりの活動をサポートし、河川空間の適正な利用が図られるよう関与している。

また、地域や関係主体で構成される協議会にて、かわまちづくりの方針検討や確認を行うことで、運営主体であるエリアマネジメント団体の活動が、地域合意や公共性の観点から担保される仕組みとして機能している。



管理運営体制図

（出典：R6年度かわまち大賞応募資料）

■各主体の役割分担

◆エリアマネジメント団体：
芝生広場等における利活用に関する企画・運営、日常的な運営管理を実施している。

◆多摩市：
占用主体。制度面・運営面の調整や支援を行い、関係主体間の連携を図る。

◆河川管理者：
河川管理を行う主体として、治水・安全確保および河川環境への配慮の観点から、占用許可や運用ルールに関与している。

◆協議会：
かわまちづくりの取組の方針確認・共有を行い、地域合意と公共性を担保する。

■運営を支える前提条件・仕組み

- 対象区域を「公園」ではなく「広場」として整理することで、条例の制約を受けず、使用料の設定や事業実施に一定の柔軟性を持たせることが可能となり、民間主体がエリアマネジメントの担い手として継続的に関与する前提条件が形成された。
- 占用料は、東京都との協議により、公的機関である多摩市が占用し、上流側の公園とともに公的使用の範疇であるとされ、免除されている。
- 現在の運営にあたり、多摩市とエリアマネジメント団体との受発注の契約関係はない。自治体からの補助金（期間限定）を活用しつつ、会費や利用料、レジャーグッズレンタル料金の収入といった、民間主体による収入確保の取組が行われている。

※本事例での河川区域でのエリアマネジメントは、芝生広場等の占用許可を受けている範囲を対象としている。

関係課は、広報、経済、都市計画、河川、道路、公園、スポーツの各部署と多岐にわたり、必要に応じ、庁内で関係課長会議を開催して調整を行っている。当初から民間事業者の活力を利用することを想定して市が関わっており、令和4年度に協議会が立ち上がった際、「かわまちづくりの運営担う実行組織が必要」という意見から、エリアマネジメント団体が設立されたという経緯がある。（市役所）

03 事例紹介ー聖蹟桜ヶ丘かわまちづくりー

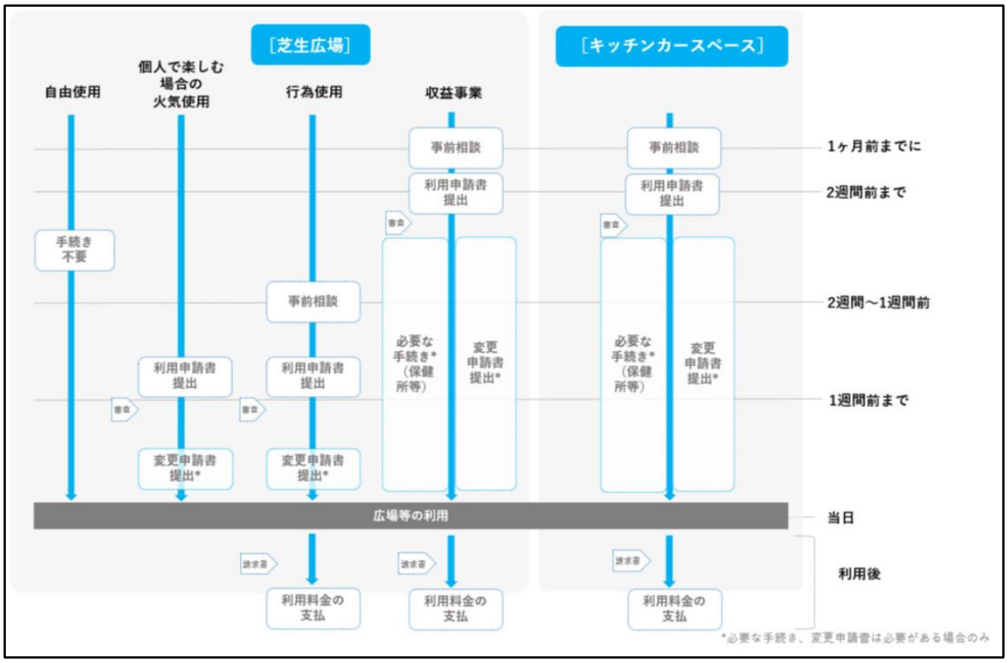
4. 運営・マネジメントにおける特徴

■段階的な社会実験による運営ルールの確立

社会実験を通じて得られた利用実態や運営上の課題を踏まえ、実践と制度整備を並行して進める運営手法が採用されている。制度やルールをあらかじめ固定するのではなく、試行を重ねながら段階的に整理することで、実態に即した運営体制を構築してきた。

▶利用ガイドラインの作成

社会実験を通じて整理された河川空間の利用ルールや留意点は、「利用ガイドライン」として明文化され、更新を重ねている。ガイドラインには、利用上の注意や利用料金、手続きの流れなどが整理されており、利用する事業者や団体が参加しやすい環境づくりにつながっている。



利用までの流れ

（出典：聖蹟桜ヶ丘多摩川河川敷広場等の利用ガイドライン、2025年（令和7年）8月版）

■運営を支えるソフト面の工夫

民間主体による利活用を広げるため、出店者が参加しやすく、継続的に関われる仕組みづくりが重視されている。

▶オープンデイ（お試し参加）開催

通常より低い使用料とすることで、初めての事業者でも参加しやすい入口を用意している。

▶オンラインコミュニティ・交流会・ツアー説明会の開催

出店者同士や運営側との関係性を育てるため、オンラインコミュニティや対面での交流会、ツアー説明会などを開催している。オンラインコミュニティには出店者および出店希望者約60名が参加し、LINEで情報交換や相乗り出店など、事務局が呼びかけるまでもなくオープンなやりとりが行われ、単発的な利用にとどまらないネットワーク形成につながっている。

▶利用申込・相談窓口の設置：

WEB手続きに加えて対面での相談機会を重視した運営が実施されている。相談窓口は不定期に河川敷での実施をよびかけるなど、参加への関心を高める工夫がなされている。



ツアー説明会に関する案内

（出典：せいせきカワマチWEBページ）

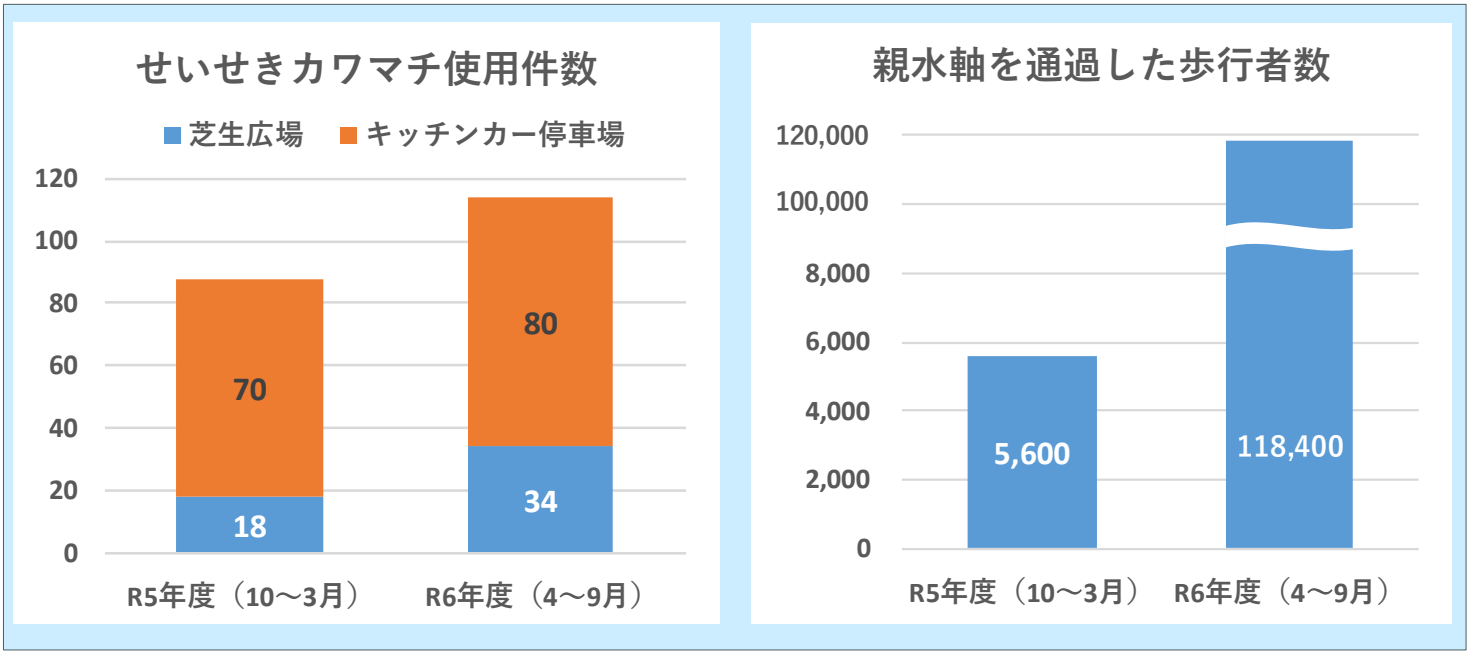
使用料について、社会実験の際に参加者から様々な意見を聴取して設定額に反映した。地域の方が出店等しやすい環境を整えることを目的としているため、これから挑戦する人でも参加できる水準として料金を安く設定し、広く参加を促す工夫を行っている。（エリアマネジメント団体）

03 事例紹介ー聖蹟桜ヶ丘かわまちづくりー

5. 効果の捉え方

■定量的な観点からの効果把握

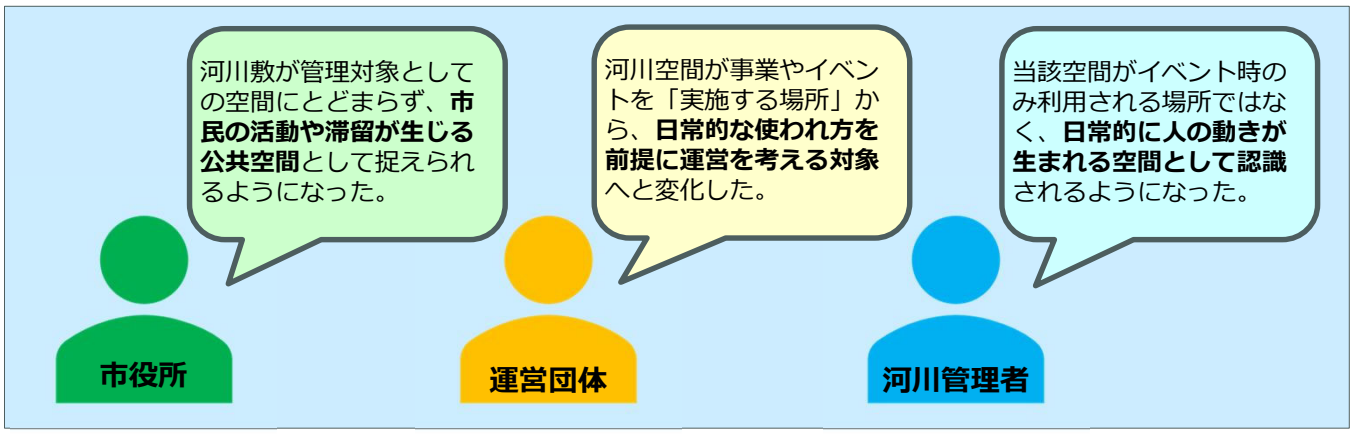
現時点で体系的なKPI設定には至っていないが、事業の経過に伴い比較可能な「水辺空間の使用件数」や「通過した歩行者数」などの数値を用いて、一定の効果確認を行っている。



定量的観点らの効果指標
（※R6年度かわまち大賞応募資料より）

■定性的な観点からの効果認識

定量的な指標に加え、関係者の間では、以下のような定性的な変化も効果として認識されている。
これらの変化は数値として明確に把握することは難しいものの、現場の実感として、関係者の間で概ね共通した認識が得られている。



関係主体の取組による意識変化

■現場における評価に対する認識と課題

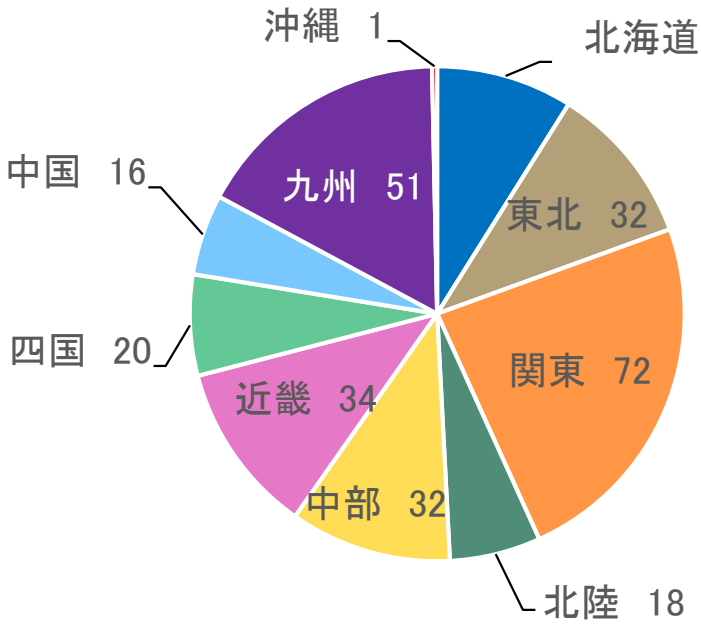
かわまちづくりの効果をどのように評価するかについては、現在も検討途上にあるとのことである。
市としては、かわまちづくりが区画整理事業や民間開発等と連動して進められていることから、かわまちづくり単体の効果を切り分けて評価することには難しさを感じている。
エリアマネジメント団体では、駅の乗降客数や地価・路線価の上昇傾向について整理しつつ、今後の因果関係の整理や、より実効性のあるKPIの設定に向けた検討を進めている。

聖蹟桜ヶ丘は、利便性が高いにもかかわらず地価がそれほど高くないという「かわまち事業の立地優位性」を持っており、そこで、駅・商店街・居住集積と多摩川を狭いウォーカブルエリア内でミックスし、川への動線を形成したことで利用者層が変化した。これらを民間事業者がリーダーシップをもって進めた点も大きい。（学識者）

04 かわまちづくり計画　事例集

04 かわまちづくり計画　登録分布図

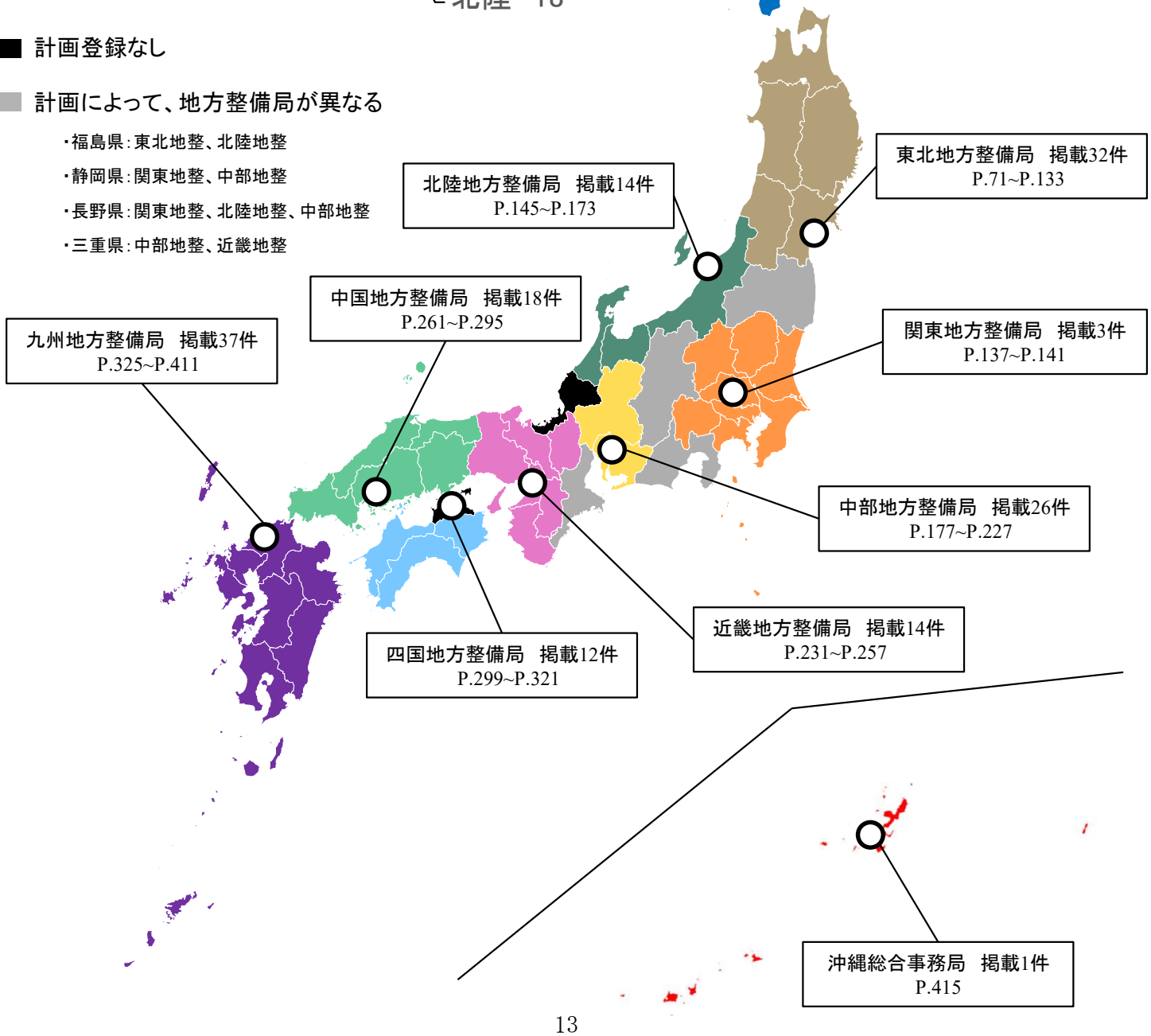
地方整備局別登録件数（n=303）



計画登録なし

計画によって、地方整備局が異なる

・福島県：東北地整、北陸地整
・静岡県：関東地整、中部地整
・長野県：関東地整、北陸地整、中部地整
・三重県：中部地整、近畿地整



04 かわまちづくり計画　事例一覧表（1/7）

No.	河川名			計画名	登録年月日	整備状況	P.
北海道開発局管内							
1	石狩川水系	石狩川	直轄	旭川市かわまちづくり	H21.5.22	事業完了	25
2	沙流川水系	沙流川	直轄	平取町かわまちづくり	H21.5.22	事業中	27
3	勝納川水系	勝納川	補助	天神地区外かわまちづくり	H21.5.22	事業中	29
4	十勝川水系	旧オベトン川	補助	浦幌町市街地地区かわまちづくり	H21.5.22	事業完了	31
5	折戸川水系	大沼	補助	大沼公園広場地区かわまちづくり	H21.5.22	事業完了	33
6	常呂川水系	小石川	補助	北見市東部地区かわまちづくり	H22.9.24	事業中	35
7	釧路川水系	釧路川	直轄	弟子屈地区かわまちづくり	H24.2.15	事業完了	37
8	オコツナイ川、ポンオコツナイ川水系	オコツナイ川、ポンオコツナイ川	補助	雄武町市街地区かわまちづくり	H24.12.17	事業完了	39
9	石狩川水系	美瑛川	直轄	美瑛川地区かわまちづくり	H26.3.26	事業完了	41
10	天塩川水系	天塩川	直轄	天塩かわまちづくり	H27.3.30	事業完了	43
11	網走川水系	網走川	直轄	網走かわまちづくり	H28.3.28	事業中	45
12	天塩川水系	名寄川	直轄	名寄川地区かわまちづくり	H29.3.7	事業中	47
13	十勝川水系	十勝川	直轄	十勝川中流域かわまちづくり	H30.3.26	事業中	49
14	十勝川水系	十勝川	直轄	帯広市かわまちづくり	H30.3.26	事業中	51
15	石狩川水系	雨煙別川	補助	雨煙別川かわまちづくり	H30.3.26	事業中	53
16	石狩川水系	当別川	補助	当別川かわまちづくり	H30.3.26	事業完了	55
17	石狩川水系	利根別川	補助	利根別川かわまちづくり	R2.3.13	事業中	57
18	松倉川水系	松倉川	補助	松倉川かわまちづくり	R2.3.13	事業中	59
19	石狩川水系	忠別川、牛朱別川	直轄	旭川駅周辺かわまちづくり	R5.8.10	事業中	61
20	鵡川水系	鵡川	直轄	むかわ町かわまちづくり	R6.8.8	事業中	63
21	石狩川水系	豊平川	補助	定山渓温泉かわまちづくり	R6.8.8	事業中	65
22	網走川水系	網走湖	直轄	網走湖呼人地区かわまちづくり	R7.8.1	未着手	67

東北地方整備局　管内							
1	岩木川水系	土淵川	補助	弘前地区かわまちづくり	H21.5.22	事業完了	71
2	北上川水系	北上川、中津川	直轄	盛岡地区かわまちづくり	H21.5.22	事業中	73
3	北上川水系	北上川	直轄	鳴波地区かわまちづくり	H21.5.22	事業完了	75
4	雄物川水系	雄物川	直轄	秋田地区かわまちづくり	H21.5.22	事業完了	77

04 かわまちづくり計画　事例一覧表（2/7）

No.	河川名			計画名	登録年月日	整備状況	P.
5	雄物川水系	雄物川、玉川、丸子川、横手川	直轄	大曲地区かわまりづくり	H21.5.22	事業完了	79
6	最上川水系	最上川	直轄	朝日地区かわまりづくり	H21.5.22	事業完了	81
7	最上川水系	最上川、置賜白川	直轄	長井地区かわまりづくり	H21.5.22	事業中	83
8	阿武隈川水系	荒川	直轄	ふくしま荒川地区かわまちづくり	H21.5.22	事業完了	85
9	阿武隈川水系	阿武隈川	直轄	本宮地区かわまちづくり	H22.9.24	事業完了	87
10	最上川水系	最上川、立谷沢川	直轄	清川地区かわまちづくり	H22.9.24	事業完了	89
11	最上川水系	最上川	直轄	河北町かわまちづくり	H22.9.24	事業完了	91
12	久慈川水系	久慈川、川上川	補助	塙町かわまちづくり	H23.3.31	事業完了	93
13	最上川水系	須川	直轄	須川かわまちづくり	H24.2.15	事業完了	95
14	米代川水系	米代川	直轄	根下戸地区かわまちづくり	H25.11.12	事業完了	97
15	赤川水系	赤川	直轄	三川町かわまちづくり	H25.11.12	事業完了	99
16	北上川水系	旧北上川	直轄	石巻地区かわまちづくり	H26.3.26	事業中	101
17	名取川水系	名取川	直轄	閖上地区かわまちづくり	H26.12.19	事業完了	103
18	田名部川水系	田名部川、新田名部川	補助	田名部川かわまちづくり	H29.3.7	事業完了	105
19	米代川水系	米代川	直轄	二ツ井きみまち地区かわまちづくり	H29.3.7	事業完了	107
20	阿武隈川水系	阿武隈川	直轄	桑折地区かわまちづくり	H30.3.26	事業中	109
21	最上川水系	最上川	直轄	寒河江地区かわまちづくり	H31.3.8	事業中	111
22	赤川水系	赤川	直轄	鶴岡市赤川かわまちづくり	H31.3.8	事業中	113
23	最上川水系	最上小国川	補助	最上小国川かわまちづくり	H31.3.8	事業完了	115
24	北上川水系	北上川、磐井川	直轄	一関地区かわまちづくり	R2.3.13	事業中	117
25	阿武隈川水系	阿武隈川	直轄	玉川村乙字ヶ滝かわまちづくり	R2.3.13	事業中	119
26	北上川水系	和賀川	直轄	西和賀町かわまちづくり	R3.3.19	事業中	121
27	鳴瀬川水系	吉田川	直轄	大郷町かわまちづくり	R5.8.10	事業中	123
28	名取川水系	名取川	直轄	名取川藤塚地区かわまちづくり	R5.8.10	事業中	125
29	北上川水系	江合川	直轄	江合川かわまちづくり	R6.8.8	事業中	127
30	阿武隈川水系	阿武隈川	直轄	阿武隈川丸森地区かわまちづくり	R6.8.8	事業中	129
31	北上川水系	北上川	直轄	花巻地区かわまちづくり	R7.8.1	未着手	131
32	気仙川水系	気仙川・川原川	補助	陸前高田かわまちづくり	R7.8.1	未着手	133

04 かわまちづくり計画　事例一覧表（3/7）

No.	河川名			計画名	登録年月日	整備状況	P.
関東地方整備局　管内							
1	利根川水系	常陸利根川（霞ヶ浦）	直轄	天王崎・沖洲地区かわまちづくり	H21.5.22	事業完了	137
2	利根川水系	常陸利根川（霞ヶ浦）	直轄	阿見地区かわまちづくり	H24.2.15	事業完了	139
3	利根川水系	霞ヶ浦、桜川	直・補	土浦市かわまちづくり	H26.3.26	事業完了	141
北陸地方整備局　管内							
1	荒川水系	荒川	直轄	高瀬・湯沢地区かわまちづくり	H21.5.22	事業完了	145
2	信濃川、阿賀野川水系	通船川、阿賀野川	直・補	新潟市かわまちづくり	H21.5.22	事業完了	147
3	信濃川水系	信濃川	直轄	蓮潟地区かわまちづくり	H21.5.22	事業完了	151
4	庄川水系	庄川	直轄	雄神地区かわまちづくり	H21.5.22	事業完了	153
5	信濃川水系	信濃川、五十嵐川	直轄	上須頃地区かわまちづくり	H21.8.7	事業完了	155
6	姫川水系	姫川	直轄	寺島地区かわまちづくり	H22.9.24	事業完了	157
7	信濃川水系	刈谷田川	補助	刈谷田川かわまちづくり	H22.9.24	事業完了	159
8	信濃川水系	信濃川	直轄	信濃川やすらぎ堤かわまちづくり	H28.3.28	事業完了	161
9	信濃川水系	千曲川	直・補	上田市千曲川×依田川地区かわまちづくり	H30.3.26	事業完了	163
10	信濃川水系	千曲川	直轄	千曲川北信5市町かわまちづくり	H31.3.8	事業中	165
11	大野川水系	浅野川	補助	金沢地区かわまちづくり	R2.3.13	事業中	167
12	犀川水系	犀川	補助	犀川かわまちづくり	R3.8.20	事業中	169
13	信濃川水系	犀川、前川	直・補	安曇野市犀川×前川かわまちづくり	R6.8.8	事業中	171
14	信濃川水系	千曲川	直轄	戸倉上山田地区かわまちづくり	R7.8.1	未着手	173
中部地方整備局　管内							
1	天竜川水系	天竜川、三峰川	直轄	下新田・伊那地区かわまちづくり	H21.5.22	事業完了	177
2	庄内川水系	土岐川	直轄	多治見かわまちづくり	H21.5.22	事業完了	179
3	木曽川水系	飛騨川	補助	飛騨川下呂地区かわまちづくり	H21.5.22	事業完了	181
4	天竜川水系	天竜川	直轄	天竜川下流左岸地区かわまちづくり	H21.5.22	事業完了	183
5	安倍川水系	安倍川	直轄	牛妻地区かわまちづくり	H21.5.22	事業完了	185
6	木曽川水系	木曽川	直轄	一宮北部地区かわまちづくり	H21.5.22	事業完了	187
7	庄内川水系	庄内川	直轄	清須地区かわまちづくり	H21.5.22	事業完了	189
8	宮川水系	宮川、勢田川	直轄	伊勢地区かわまちづくり	H21.5.22	事業完了	191

04 かわまちづくり計画　事例一覧表（4/7）

No.	河川名			計画名	登録年月日	整備状況	P.
9	木曽川水系	木曽川	直轄	美濃加茂地区かわまちづくり	H22.9.24	事業完了	193
10	木曽川水系	糸貫川	補助	北方町かわまちづくり	H25.11.12	事業完了	195
11	矢作川水系	乙川	補助	乙川リバーフロント地区かわまちづくり	H27.3.30	事業完了	197
12	狩野川水系	狩野川	直轄	函南町塚本地区かわまちづくり	H28.3.28	事業完了	199
13	木曽川水系	水門川	補助	大垣市かわまちづくり	H28.3.28	事業完了	201
14	大井川水系	大井川	直轄	大井川宝来地区かわまちづくり	H29.3.7	事業完了	203
15	木曽川水系	木曽川	直轄	可児市かわまちづくり	H29.3.7	事業完了	205
16	木曽川水系	川浦川	補助	富加町かわまちづくり	H30.3.26	事業完了	207
17	木曽川水系	木曽川、長良川	直轄	愛西市かわまちづくり	H30.3.26	事業完了	209
18	菊川水系	菊川	直轄	菊川かわまちづくり	H31.3.8	事業中	211
19	日光川水系	蟹江川	補助	蟹江川かわまちづくり	H31.3.8	事業完了	213
20	天竜川水系	天竜川	直轄	天竜川高森かわまちづくり	R2.3.13	事業中	215
21	木曽川水系	長良川	直轄	ぎふ長良川鵜飼かわまちづくり	R3.3.19	事業中	217
22	木曽川水系	千旦林川	補助	中津川市かわまちづくり	R3.3.19	事業中	219
23	木曽川水系	天王川	補助	天王川曲路地区かわまちづくり	R3.3.19	事業完了	221
24	木曽川水系	木曽川	直轄	木曽川中流域自転車で繋ぐかわまちづくり	R7.8.1	未着手	223
25	木曽川水系	木曽川	直轄	犬山市かわまちづくり	R7.8.1	未着手	225
26	木曽川水系	木曽川	直轄	一宮西部地区かわまちづくり	R7.8.1	未着手	227

近畿地方整備局　管内							
1	淀川水系	瀬田川	直轄	瀬田川かわまちづくり	H21.5.22	事業完了	231
2	淀川水系	道頓堀川、旧淀川（大川、堂島川、安治川）、木津川、尻無川、土佐堀川、寝屋川、第二寝屋川、神崎川、城北川、東横堀川	補助	大阪市かわまちづくり	H21.5.22	事業完了	233
3	淀川水系	天野川、穂谷川	補助	枚方市かわまちづくり	H21.5.22	事業完了	235
4	淀川水系	寝屋川	補助	寝屋川市かわまちづくり	H21.5.22	事業完了	237
5	揖保川水系	揖保川	直轄	今宿・中広瀬地区かわまちづくり	H21.5.22	事業完了	239
6	紀の川水系	紀の川	直轄	橋本地区かわまちづくり	H21.5.22	事業完了	241
7	淀川水系	木津川	直轄	南山城村地区かわまちづくり	H21.8.7	事業完了	243

04 かわまちづくり計画　事例一覧表(5/7)

No.	河川名			計画名	登録年月日	整備状況	P.
8	大和川水系	秋篠川、佐保川	補助	佐保、西の京地区かわまちづくり	H21.8.7	事業完了	245
9	大和川水系	佐保川	直轄	大和郡山市かわまちづくり	H21.8.7	事業完了	247
10	淀川水系	箕面川	補助	箕面市かわまちづくり	H23.3.31	事業完了	249
11	大和川水系	大和川	直轄	若林地区・太田地区かわまちづくり	H25.3.29	事業完了	251
12	淀川水系	芥川	補助	芥川かわまちづくり	H26.3.26	事業完了	253
13	淀川水系	野洲川	直轄	野洲川中洲地区かわまちづくり	H26.12.19	事業完了	255
14	樫井川水系	樫井川	補助	樫井川かわまちづくり	H31.3.8	事業完了	257

中国地方整備局　管内							
1	江の川水系	出羽川	補助	出羽川かわまちづくり	H21.5.22	事業中	261
2	太田川水系	天満川、旧太田川（本川）、元安川、京橋川、猿猴川	補助	天満川・旧太田川（本川）・元安川地区及び京橋川・猿猴川地区かわまちづくり	H21.5.22	事業中	263
3	太田川水系	太田川	直轄	とごうちかわまちづくり	H21.5.22	事業完了	265
4	太田川水系	古川	直轄	古川かわまちづくり	H21.8.7	事業完了	267
5	江の川水系	江の川、馬洗川、西城川	直轄	三次市三川合流部かわまちづくり	H22.9.24	事業完了	269
6	旭川水系	旭川	直轄	旭川かわまちづくり	H25.3.29	事業中	271
7	小瀬川水系	小瀬川	直轄	大竹和木かわまちづくり	H25.11.12	事業完了	273
8	佐波川水系	佐波川	直轄	新橋地区かわまちづくり	H26.3.26	事業完了	275
9	斐伊川水系	斐伊川(中海)	直轄	夕日ヶ丘地区中海かわまちづくり	H28.3.28	事業完了	277
10	吉井川水系	吉井川	直轄	和気町かわまちづくり	H30.3.26	事業中	279
11	芦田川水系	芦田川	直轄	千代田地区かわまちづくり	H30.3.26	事業完了	281
12	斐伊川水系	中海(斐伊川)	直轄	中海・錦海かわまちづくり	H31.3.8	事業中	283
13	斐伊川水系	斐伊川	直轄	木次地区斐伊川かわまちづくり	H31.3.8	事業完了	285
14	高梁川水系	小田川	直轄	小田川かわまちづくり	R3.3.19	事業中	287
15	高津川水系	高津川、匹見川	直轄	益田市高津川かわまちづくり	R4.8.9	事業中	289
16	佐波川水系	佐波川	直轄	とくぢ佐波川かわまちづくり	R6.8.8	事業中	291
17	江の川水系	江の川、馬洗川、西城川	直轄	巴峡三次かわまちづくり	R6.8.8	事業中	293
18	小瀬川水系	小瀬川	直轄	小瀬地区かわまちづくり	R6.8.8	事業中	295

04 かわまちづくり計画　事例一覧表（6/7）

No.	河川名			計画名	登録年月日	整備状況	P.
四国地方整備局　管内							
1	吉野川水系	今切川	直轄	今切川百石須地区かわまちづくり	H21.5.22	事業完了	299
2	那賀川水系	桑野川	直轄	桑野川かわまちづくり	H21.5.22	事業完了	301
3	吉野川水系	新町川、助任川	補助	内町・新町地区かわまちづくり	H21.5.22	事業中	303
4	吉野川水系	吉野川	直轄	芝生地区かわまちづくり	H22.9.24	事業完了	305
5	吉野川水系	吉野川	直轄	三庄地区かわまちづくり	H26.3.26	事業完了	307
6	仁淀川水系	仁淀川	直轄	江尻地区かわまちづくり	H26.3.26	事業完了	309
7	那賀川水系	那賀川	直轄	那賀川かわまちづくり	H30.3.26	事業完了	311
8	重信川水系	重信川	直轄	重信川かわまちづくり	H31.3.8	事業中	313
9	肱川水系	肱川	直轄	肱川かわまちづくり（第1期）	R2.3.13	事業中	315
10	仁淀川水系	仁淀川	直轄	波川地区かわまちづくり	R3.8.20	事業中	317
11	渡川水系	中筋川	直轄	中筋川流域かわまちづくり	R6.8.8	事業中	319
12	重信川水系	石手川	直轄	石手川かわまちづくり	R7.8.1	未着手	321

九州地方整備局　管内							
1	那珂川水系	那珂川、薬院新川、博多川	補助	那珂川かわまちづくり	H21.5.22	事業中	325
2	球磨川水系	球磨川	直轄	淋地区かわまちづくり	H21.5.22	事業完了	327
3	菊池川水系	菊池川	直轄	山鹿地区かわまちづくり	H21.5.22	事業完了	329
4	遠賀川水系	遠賀川	直轄	遠賀川山鹿地区かわまちづくり	H21.8.7	事業完了	331
5	遠賀川水系	彦山川	直轄	大任地区かわまちづくり	H21.8.7	事業完了	333
6	松浦川水系	松浦川	直轄	桃川地区かわまちづくり	H21.8.7	事業完了	335
7	大分川水系	裏川	補助	裏川かわまちづくり	H21.8.7	事業完了	337
8	筑後川水系	筑後川	直轄	日田地区かわまちづくり	H21.8.7	事業完了	339
9	緑川水系	御船川	直轄	御船地区かわまちづくり	H24.2.15	事業完了	341
10	矢部川水系	矢部川	直轄	船小屋地区かわまちづくり	H24.2.15	事業完了	343
11	白川水系	白川	直轄	熊本駅周辺かわまちづくり	H25.3.29	事業完了	345
12	菊池川水系	菊池川	直轄	高瀬地区かわまちづくり	H25.3.29	事業完了	347
13	五ヶ瀬川水系	五ヶ瀬川、大瀬川	直轄	五ヶ瀬川かわまちづくり	H25.3.29	事業中	349
14	松浦川水系	松浦川	直轄	駒鳴地区かわまちづくり	H25.3.29	事業完了	351
15	本明川水系	本明川	直轄	天満・永昌地区かわまちづくり	H25.3.29	事業中	353

04 かわまちづくり計画　事例一覧表（7/7）

No.	河川名			計画名	登録年月日	整備状況	P.
16	五ヶ瀬川水系	神代川	補助	神代川かわまちづくり	H26.3.26	事業完了	355
17	筑後川水系	筑後川	直轄	宮ノ陣地区かわまちづくり	H27.3.30	事業完了	357
18	松浦川水系	松浦川	直轄	河口部地区かわまちづくり	H27.3.30	事業完了	359
19	球磨川水系	球磨川	直轄	新萩原橋周辺地区かわまちづくり	H27.3.30	事業完了	361
20	遠賀川水系	彦山川、中元寺川、金辺川	直轄	田川地区かわまちづくり	H28.3.28	事業中	363
21	大淀川水系	大淀川	直轄	都城地区かわまちづくり	H28.3.28	事業完了	365
22	川内川水系	川内川、樋脇川	直・補	川内川水系かわまちづくり	H29.3.7	事業中	367
23	肝属川水系	姶良川	直轄	吾平地区かわまちづくり	H29.3.7	事業中	383
24	諏訪川水系	諏訪川	補助	諏訪川かわまちづくり	H29.3.7	事業中	385
25	筑後川水系	高良川	補助	高良川かわまちづくり	H30.3.26	事業中	387
26	嘉瀬川水系	嘉瀬川	直轄	嘉瀬川ダム地区かわまちづくり	H30.3.26	事業中	389
27	遠賀川水系	遠賀川	直轄	遠賀川中間地区かわまちづくり	H31.3.8	事業中	391
28	菊池川水系	迫間川	直轄	菊池市かわまちづくり	H31.3.8	事業中	393
29	大分川水系	芹川	補助	芹川かわまちづくり	H31.3.8	事業中	395
30	大野川水系	玉来川	補助	玉来川かわまちづくり	H31.3.8	事業中	397
31	山国川水系	山国川、中津川	直轄	山国川下流地区かわまちづくり	R2.3.13	事業中	399
32	筑後川水系	筑後川	直轄	大石かわまちづくり	R2.3.13	事業完了	401
33	大淀川水系	本庄川、深年川、綾北川	直轄	本庄川かわまちづくり	R3.8.20	事業中	403
34	松浦川水系	厳木川	直轄	厳木川中島地区かわまちづくり	R6.8.8	事業中	405
35	遠賀川水系	遠賀川、穂波川	直轄	飯塚地区かわまちづくり	R7.8.1	未着手	407
36	山国川水系	山国川	直轄	山国川中流地区かわまちづくり	R7.8.1	未着手	409
37	小丸川水系	小丸川	直轄	小丸川下流地区かわまちづくり	R7.8.1	未着手	411

沖縄総合事務局　管内							
1	安里川水系	久茂地川	補助	旭橋地区かわまちづくり	H21.5.22	始業完了	415

04 事例の見方

各計画の概要紹介 （見開き左ページ）

参考事例（令和4年度　かわまち大賞受賞）

登録年度

キャッチコピー
- 各かわまちづくりの内容や魅力を伝えるキャッチコピーを記載
（一部、記載のない計画も存在）

かわまちウェブサイトQRコード
- 読み取ることで、各計画が掲載されている全国かわまちづくりMAPの該当ページにアクセスできるQRコードを掲載
（アクセス先において、問合せ先の確認が可能）

【H21年度】*かわとお城を中心に歩いて楽しむかわまちづくり*

「盛岡地区かわまちづくり」（岩手県盛岡市）

登録年月日：H21.5.22
事業年度：H21～R7

かわまちづくり名称
各計画の名称を記載
（略称を用いる場合がある）

対象河川 ： 一級河川 北上川水系北上川・中津川 【国管理河川】
市町村名 ： 岩手県盛岡市
推進主体 ： 盛岡市



河川の管理区分
- 河川の管理区分を「国管理河川」や「県管理河川」等の区分により記載

1. 概要

盛岡市では、地域の景観、歴史、文化等の資源を活かした取り組みに取り組んでいます。

この取り組みを充実させるため、本計画では、河川管理用通路、親水護岸の整備等を行うことにより、良好な水辺空間を創出し、地域の活性化を推進するとともに観光振興を図ります。
国土交通省では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備のほか、河川空間において営利活動を実施する場合には、河川敷地占用許可準則第22に基づく 都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます

2. ハード施策の内容

国土交通省 ： 河川管理用通路、親水護岸 等
盛　岡　市 ： もりおか歴史文化館、もりおか町家物語館、案内看板 等

3. ソフト施策の内容

国土交通省 ： 都市・地域再生等利用区域の指定 等　　盛岡市 ： 舟運の社会実験 等

図面・整備イメージ・写真 など
- 地域との連携が分かる最新の情報を掲載









04 事例の見方

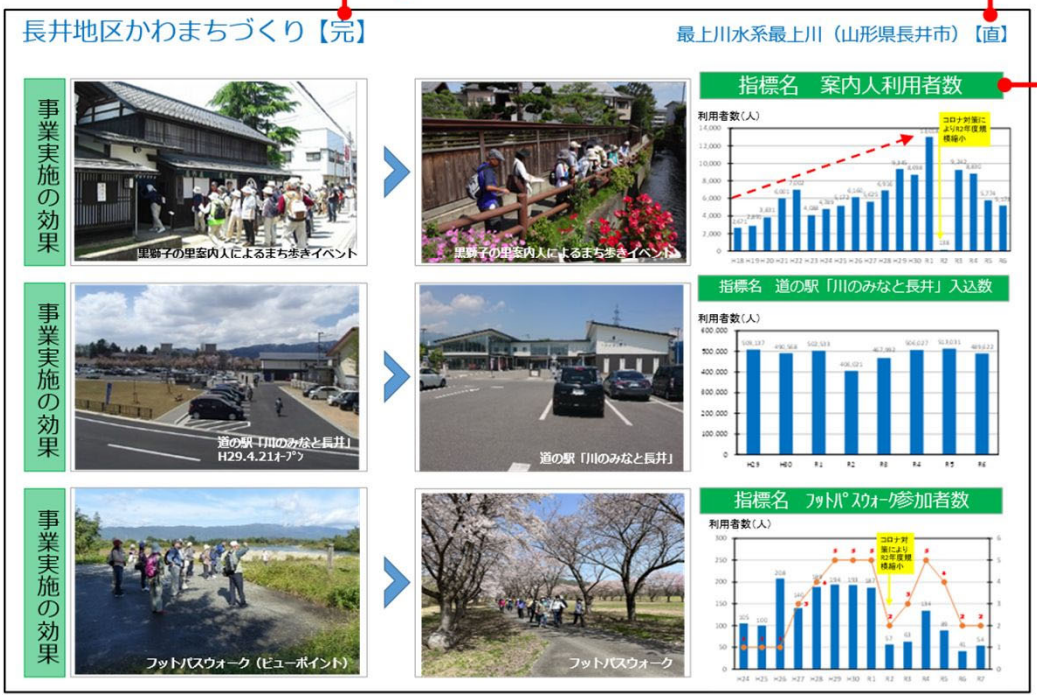
各計画実施による成果･効果の紹介 （見開き右ページ　上段）

参考事例（平成30年度　かわまち大賞受賞）

ハード整備状況
ハード整備が完了している計画については、登録名の後に【完】を記載

河川の管理区分
河川の管理区分を以下の表記で記載
- 直轄河川の場合：【直】
- 都道府県・市管理河川の場合:【補】
- 両方が対象の場合：【直・補】

※直轄河川＝国管理河川



事業実施の効果
かわまちづくりでの事業実施による効果を掲載

・事業完了・供用開始済の計画

：効果が確認できる場合に、その推移をグラフで示す

・事業中・未着手の計画

：効果が未発現の場合は、データの集計方法を示す

なお、定量化が困難な指標については、定性的な効果を記載

ソフト施策等の実施状況の紹介 （見開き右ページ　下段）

参考事例（令和5年度　かわまち大賞受賞）

ハード整備状況
ハード整備が完了している計画については、登録名の後に【完】を記載

河川の管理区分
河川の管理区分を以下の表記で記載
- 直轄河川の場合：【直】
- 都道府県・市管理河川の場合:【補】
- 両方が対象の場合：【直・補】

※直轄河川＝国管理河川



ソフト施策
- ソフト施策の実施状況が分かる写真またはイメージを掲載

参画機関
- かわまち計画の策定における、協議会の設置状況や関係機関との連携状況を記載
- ミズベリング会議の実施状況を記載

かわまちの運営（維持管理）
- 施設の老朽化に伴う修繕の実施体制について、地元自治体やボランティア団体などとの役割分担や関わり方を記載

水辺空間の利活用状況
- 河川敷地占用許可準則22条による水辺空間での占用許可状況等を記載

04 かわまちづくり計画　事例集

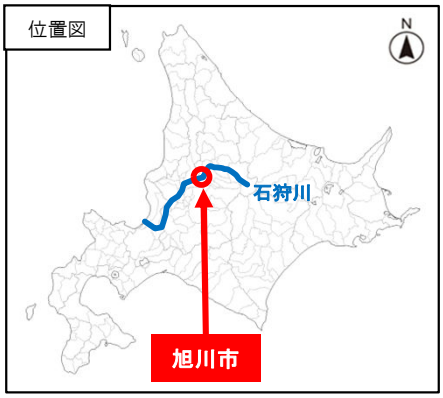
北海道開発局管内

【H21年度】

「旭川市かわまちづくり」（北海道旭川市）

登録年月日：H21.5.22
事業年度：H24～H28

対象河川　：　一級河川　石狩川水系石狩川　【国管理河川】
市町村名　：　北海道旭川市
推進主体　：　旭川市



1. 概要

旭川市の都市計画マスタープランでは、河川緑地の保全と北海道の拠点都市としてふさわしい都市空間の創出等が主要施策として位置づけられており、本計画では石狩川に隣接する常磐公園や美術館、公会堂、野外彫刻等がある地区を「文化芸術ゾーン」として位置づけ、それら施設と一体となった回廊及び河川公園の整備、緑道や街路樹等による中心市街地や周辺観光施設とのネットワーク化を図ることで、石狩川沿いの賑わいを創出し、地域の活性化を目指します。

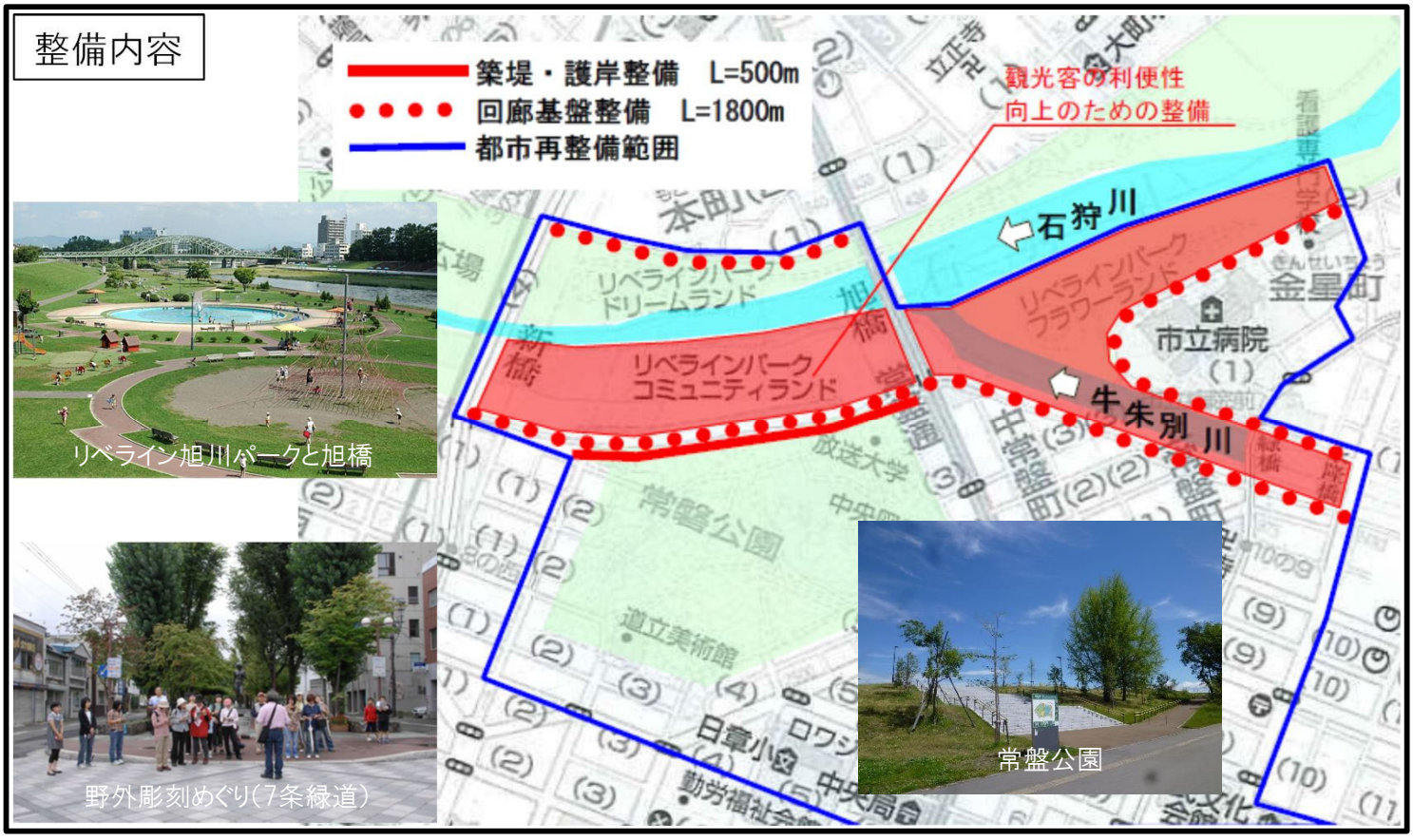
国土交通省では、この取り組みに対し、必要となる河川管理施設を整備等の支援を実施しています。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　高水敷整正、管理用道路工、側帯工
旭川市　　：　駐車場･ベンチ、公園整備等

3. ソフト施策の内容

旭川市　　：　民間事業者と連携した河川空間の有効活用、市民が文化芸術に触れ合えるイベントの日常的な開催、野外彫刻めぐりツアー　等

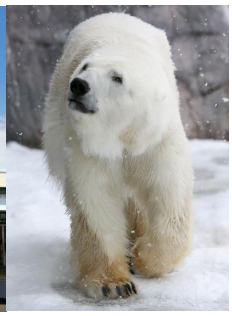


旭川市かわまちづくり【完】

石狩川水系石狩川（北海道旭川市）【直】

事業実施の効果





全国的に有名となった旭山動物園の効果で観光客の入込み数が急増した一方で、旭川市内に宿泊する観光客の消費額は伸び悩み、観光客の増大が地域の活性化に結びついていない状況となっていた。



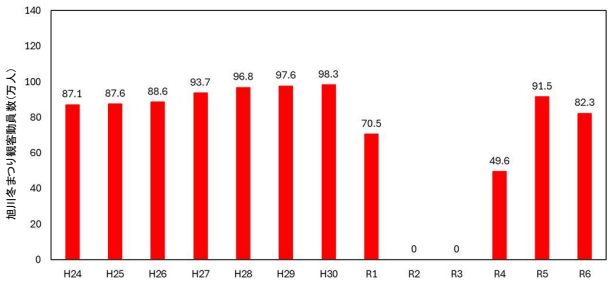


公会堂や美術館等の社会教育施設や野外彫刻、旭橋、石狩川等といった既存の施設や文化財に着目し、これらを再整備するとともに、堤防拡幅・緩傾斜化等を実施し、旭川中心市街地に魅力ある観光地を創出。

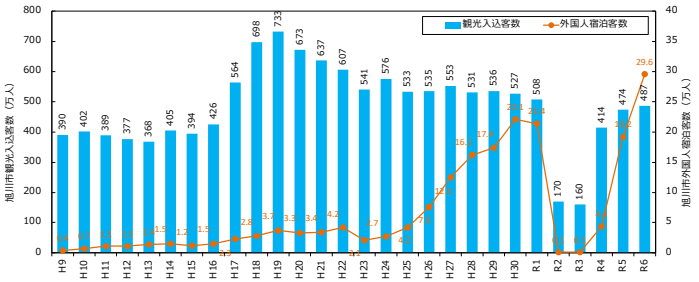
指標名：旭川冬まつり観客動員数及び観光入込客数

効果（方向性）

・整備開始の平成22年度以降、新型コロナウイルス感染症拡大で一時的に減少したものの、旭川冬まつり観客動員数及び旭川市の観光入込客数は概ね横ばいとなっている。



旭川冬まつり観客動員数（平成24年度～令和6年度）



旭川市観光入込客数（平成9年度～令和6年度）

旭川市かわまちづくり【完】

石狩川水系石狩川（北海道旭川市）【直】

ソフト施策









＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・河川法24条により旭川市が施設を占用している。
・今後、都市・地域再生等利用区域の指定や周辺地域との連携について検討を進める。

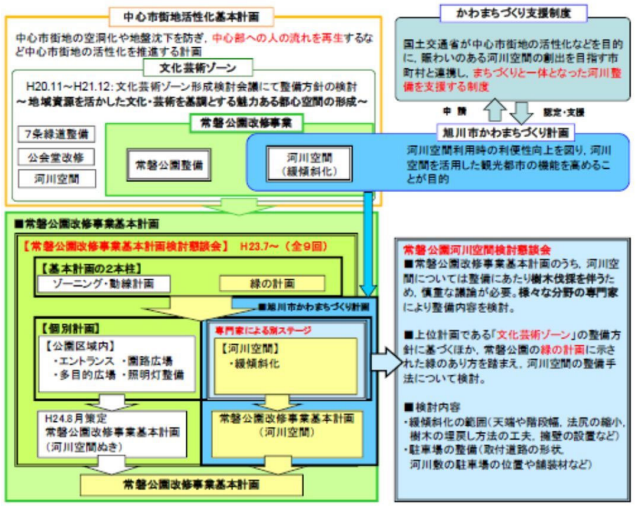
○今後の展望

・地域の歴史・文化や市民のニーズを踏まえ、関係団体や「旭川駅周辺かわまちづくり」等と連携して、水辺空間を活用した新たなイベント・アウトドア利用、河川管理用通路等を活用したアクティビティを推進し、地域の魅力向上及びブランドイメージ定着を図る。

＜参画機関＞

○参画機関

・市民団体、公募市民、有識者、旭川開発建設部等で構成する意見交換会の場として「文化芸術ゾーン形成検討会議」を設置。



＜かわまちの運営（維持管理）＞

○施設整備後の維持管理状況

・河川管理施設等の防災上必要とされる施設機能の維持管理は、施設管理者が行う（国交省：河川管理用通路等）。
・旭川市の占用施設については、指定管理者制度により維持管理を実施し、日常的な施設管理、清掃等は、旭川市が実施する。
・イベント時等は、地元の商店会や石狩川で活動している市民団体等と連携を図る。

【H21年度】*沙流川の歴史と文化伝承を活かした賑わいづくり*

「平取町かわまちづくり」（北海道沙流郡平取町）

登録年月日：H21.5.22
事業年度：H22～R14

対象河川　：　一級河川　沙流川水系沙流川　【国管理河川】
市町村名　：　北海道沙流郡平取町
推進主体　：　平取町



1. 概要

平取町は、アイヌ文化の保存・継承を通してふるさとの歴史や文化を愛する心を育み、文化の薫り高いまちづくりを積極的に推進しており、特にアイヌ文化が色濃く残る二風谷地区にコタン（集落）の再整備やイオル文化交流センター（仮称）の整備を行い、地域の歴史文化体験など、アイヌ文化の振興に取り組んでいます。

今回、この取り組みをさらに充実させるため、二風谷ダム湖岸や水路を水辺に気軽に近づける形へと整備し直すことに加えて、既存の施設を結ぶ管理用道路等を整備します。これにより、二風谷ダム湖岸の親水性を向上させるだけでなく、これまでの「かわまちづくり」支援制度で整備してきたフットパスの動線を生かして交流人口を増やすと共に、地区内の回遊性を高め、水辺の賑わい創出に取り組みます。

国土交通省ではこの取組に対し、必要な河川管理施設の整備していきます。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　緩傾斜整備、水辺整備、管理用道路整備　　平取町　：　案内看板整備　植樹

3. ソフト施策の内容

平取町　：　アイヌ文化の有用樹木育成、伝統文化研修





二風谷ダム湖岸（左岸）の現状



平取町かわまちづくり

沙流川水系沙流川（北海道平取町）【直】

事業実施の効果





地域素材の活用

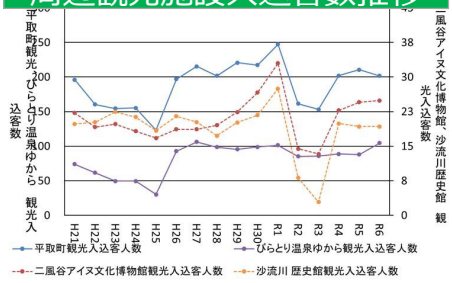
これまで他地域での植物素材を使用し、文化継承を図っていたが、水辺空間で収穫された植物素材を一部使用し文化伝承が図られるようになってきた。
これからは、地域素材のみでの文化継承が図られるようより多くの育成を実施する方針。

事業実施の効果





周辺観光施設入込客数推移



事業実施の効果





安全性の向上

これまで流況が安定せず、船頭の経験値によりチプ（丸木舟）の安定的航行が左右されてきたが、河岸整備により安全性が高まり水難事故の懸念が低下した。
合わせて、整備により乗船時の船舶固定箇所があることで、不安定なチプ（丸木舟）に安全に乗船できるようになった。

平取町かわまちづくり

沙流川水系沙流川（北海道平取町）【直】

ソフト施策



沙流川沿いで行われる「チプサンケ」と呼ばれる舟下ろしのアイヌ伝統文化



伝統的に水辺空間で採取・育成をしていた草本類植栽や雑穀栽培等の伝承活動





アイヌの自然観にふれる沙流川フットパスイベント、歴史を伝える解説板（紫雲古津川向大橋付近）

＜参画機関＞

・平取町で実施する「平取地域イオル再生事業」の推進体制として、「平取町アイヌ文化振興推進協議会」を組織。参画機関は下記の通り。
- 平取町・平取町議会
- 平取アイヌ協会
- 平取町自治振興会・びらとり農業協同組合
- 沙流川森林組合・平取町商工会

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・河川敷地占用許可
河川敷地占用許可準則22条による、都市・地域再生等利用区域の指定がされており、アイヌ文化有用植物植栽の場として活用されている。
→占用者　平取町長

＜かわまちの運営（維持管理）＞

施設整備後の維持管理状況

○水辺空間整備（実施済）
- 国土交通省（管理用通路の維持）
- 平取町（多目的広場、植栽場、遊歩道の維持）

○視点場整備（実施中事業）
- 国土交通省（管理用通路の維持）
- 平取町（案内板、休憩施設の維持）

○水辺を利用するアイヌ文化伝承場の整備（今後実施予定事業）
- 国土交通省（河岸整備、管理用通路の維持）
- 平取町（案内板、植栽の維持）

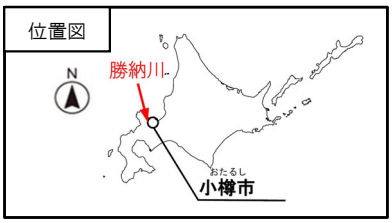
事業全体の日常的な施設管理は平取町が実施。清掃等は、地域のボランティアで実施することで調整予定。

【H21年度】交流・暮らし・自然がある小樽の『水辺風景の再生』

「天神地区外かわまちづくり」（北海道小樽市）

登録年月日：H21.5.22
事業年度：H21～R11

対象河川　：　2級河川　勝納川水系勝納川　【北海道管理河川】
市町村名　：　北海道小樽市
推進主体　：　小樽市



1. 概要

勝納川天神地区においては、小樽市が新幹線駅に予定地周辺のまちづくり計画に基づく検討を進めており、この中で勝納川は河川環境活用ゾーンとして位置づけられています（おたる新幹線まちづくりアクションプラン、2021.3）。また、上流の奥沢水源地には、平成20年に土木遺産に認定された階段式溢流路（通称：水すだれ）があり、小樽市は、歴史と自然の調和による市民が憩える親水空間の創出を目指しています。これら取組を充実させるため、本事業では、新幹線駅と奥沢水源地を結ぶ散策路や親水護岸を整備し、地域住民や子供たちが自然触れる機会を増やし、人のにぎわい創出を図ります。

2. ハード施策の内容

北海道　：　河川管理用通路、親水護岸　等

3. ソフト施策の内容

小樽市　：　イベント開催など
民　間　：　イベント開催、河川清掃など



天神地区外かわまちづくり

勝納川水系勝納川（北海道小樽市）【補】

事業実施の効果

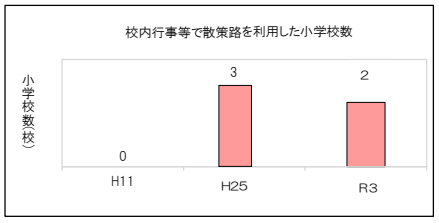


河川管理用通路（整備前）



河川管理用通路（整備後）

散策路利用数推移



事業実施の効果

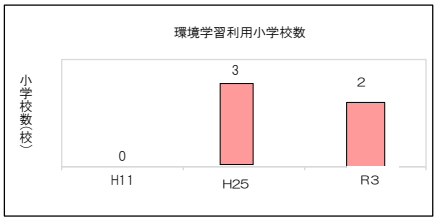


親水護岸（整備前）



親水護岸（整備後）

環境学習利用数推移



事業実施の効果

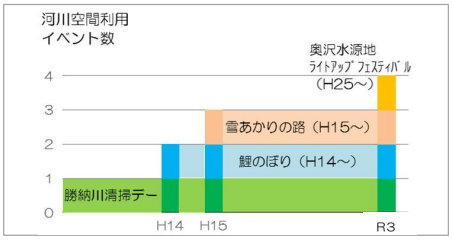


地域住民による維持管理



地域の恒例イベント

地域イベント利用数推移



天神地区外かわまちづくり

勝納川水系勝納川（北海道小樽市）【補】

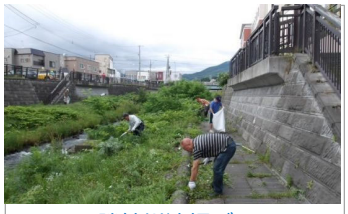
ソフト施策



鯉のぼり飾りつけ



環境学習など



勝納川清掃デー



小樽雪あかりの路

＜参画機関＞

・上流の奥沢水源地は、平成25年に保存・活用基本構想が策定され、徐々にイベント等に活用されはじめている。

・奥沢水源地ライトアップフェスティバル実行委員会
後援：小樽市、小樽観光協会、小樽青年会議所など

・千年の森プロジェクト
共催：毎日新聞社、小樽青年会議所

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・毎年、4月第２日曜～GWの期間、観光拠点である南樽市場周辺の河道内に、鯉のぼりや大漁旗で川面を覆うイベントが開催されている。

・実施団体：若松２丁目会、新栄会

＜かわまちの運営（維持管理）＞

施設整備後の維持管理状況

→毎年８月の勝納川清掃デーに沿川町内会主催の河川清掃を実施している。

→小樽水産高等学校の学生・教員による河川清掃を実施している。

→河川管理者による河川管理用通路周辺の草刈り、河畔林伐採（間引き）による維持管理を実施している。

【H21年度】こころふれあう未来をつくる“浦幌町”を流れる旧オベトン川

「浦幌町市街地地区かわまちづくり」（北海道十勝郡浦幌町）

登録年月日：H21.5.22
事業年度：H21～H27

対象河川　：　一級河川　十勝川水系旧オベトン川　【道管理河川】
市町村名　：　北海道十勝郡浦幌町
推進主体　：　十勝郡浦幌町



1. 概要

北海道十勝郡浦幌町は、十勝総合振興局管内の最東端に位置し、町の中央部を浦幌川や旧オベトン川が流れ、周辺には文教施設や森林公園があり、河川沿いは通学や散策等に利用されています。

河川周辺では、豊かな自然環境や景観の保全に努める街づくりが進められており、町有志により、河川沿いの桜並木の植樹や草刈り等の維持管理活動などが行われるなど、住民の「川」に対する思い入れが深い地域です。

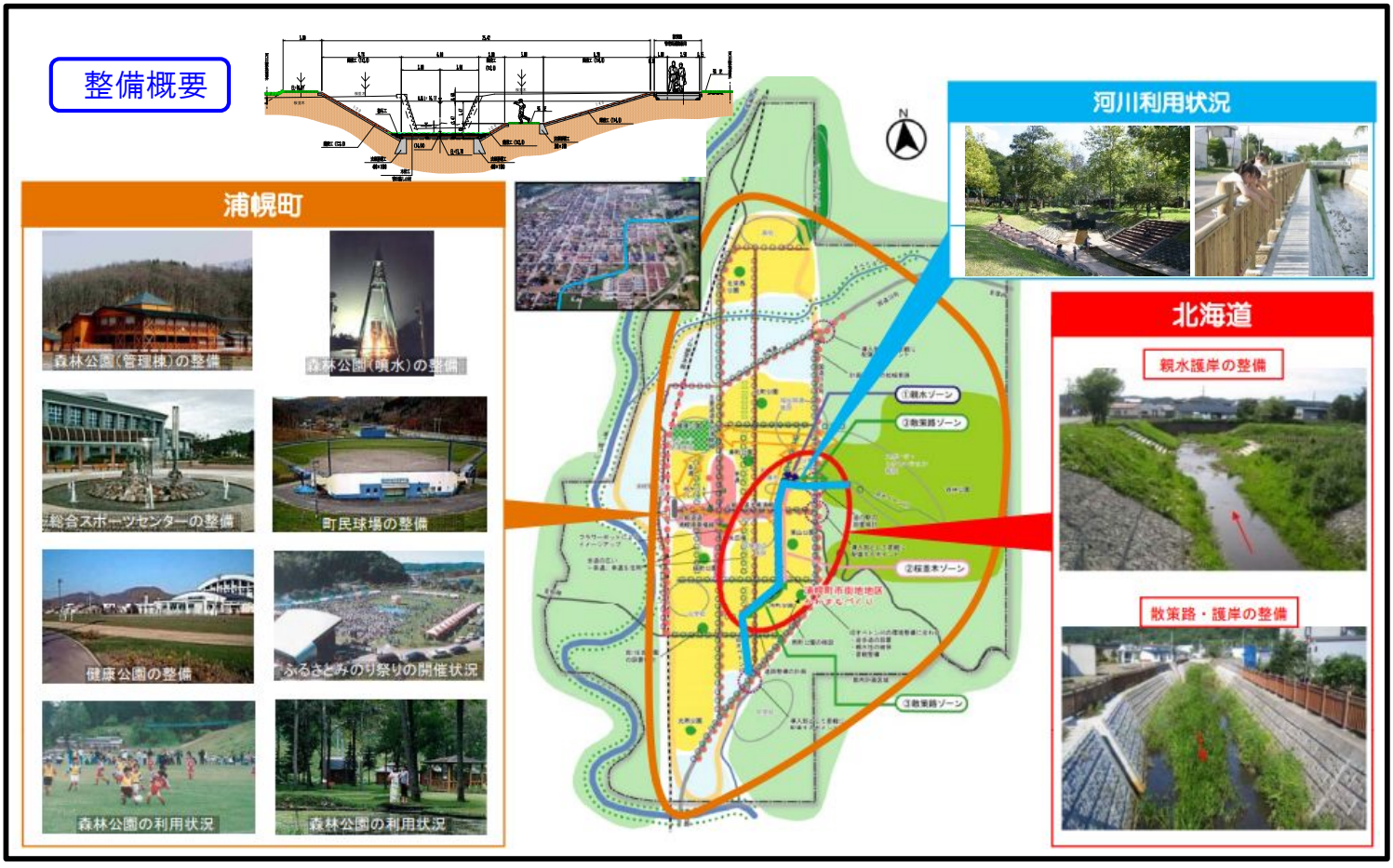
北海道ではこの取組に対し、旧オベトン川において、治水上及び河川利用上の安全・安心に係る河川管理施設の整備として、親水護岸や河川管理用通路の整備を実施しています。

2. ハード施策の内容

北海道：　親水護岸、河川管理用通路　　浦幌町　：　森林公園改修、町民球場整備
スポーツセンター改修、健康公園歩道改築　等

3. ソフト施策の内容

浦幌町　：　総合学習（水辺の学習ゾーン）での利用　等



浦幌町市街地地区かわまちづくり【完】

十勝川水系旧オベトン川（北海道十勝郡浦幌町）【補】

事業実施の効果



河川管理用通路（整備前）

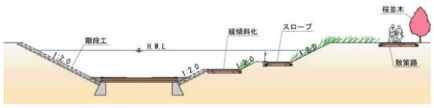


河川管理用通路（整備後）

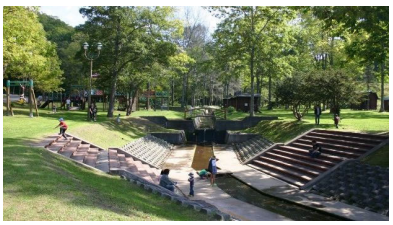
地域のコメント

整備された散策路を利用してウォーキングを楽しんでいます。
（60代女性、浦幌町在住）

事業実施の効果



親水護岸（整備イメージ）



親水護岸（整備後）

地域のコメント

森林公園内の水辺は、子ども達も安心して遊ぶ事ができるので、夏の暑い時はよく利用しています。
（60代男性、浦幌町在住）

事業実施の効果

指標名

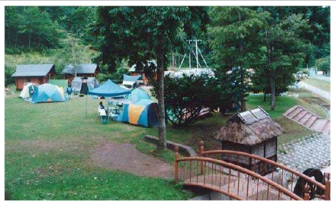
浦幌町市街地地区かわまちづくり【完】

十勝川水系旧オベトン川（北海道十勝郡浦幌町）【補】

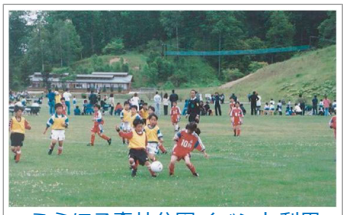
ソフト施策



ふるさとみのり祭り（９月）



キャンプ場利用者の増進



うらほろ森林公園イベント利用

＜参画機関＞

・H15～H16年度まで、行政（浦幌町、北海道）、町内会、商店街、市民団体等で、「旧オベトン川環境整備事業に伴うワークショップ」を4回開催し、意見交換をし、整備内容に反映させてきた。

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の利用状況

・川沿いに桜並木と一体となった河川管理用通路を整備。案内看板の設置により下流から上流まで安全な導線を確保した。このことより、浦幌町のまちづくりの方針である「施設をつなぐ歩行者空間」「歩行者に配慮した緑のネットワーク」の一翼を担い、日常的な利便性の向上がなされた。
・小学生や中学生の総合学習等において、水辺の学習ゾーンとして活用されている。

＜かわまちの運営（維持管理）＞

施設整備後の維持管理状況

→施設の維持管理については、施設管理者が行っている。

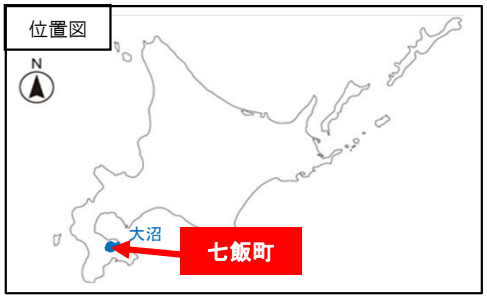
→日常的な維持管理、清掃等については、市民団体と連携を図りながら、浦幌町を中心に実施している。

【H21年度】*自然との共生による活力ある地域づくりをめざして*

「大沼公園広場地区かわまちづくり」（北海道亀田郡七飯町）

登録年月日：H21.5.22
事業年度：H21～H27

対象河川 ： 二級河川 折戸川水系大沼 【道管理河川】
市町村名 ： 北海道亀田郡七飯町
推進主体 ： 七飯町



1. 概要

大沼は大沼国定公園の中心で年間を通じ多くの方々に利用されており、七飯町では「自然との共生による活力ある地域づくりをめざして」を基本コンセプトに「大沼地域活性化ビジョン」を策定し、町や民間NPO 等では、ボランティア活動により大沼の水質改善や湖岸の美化に取り組んでいる。

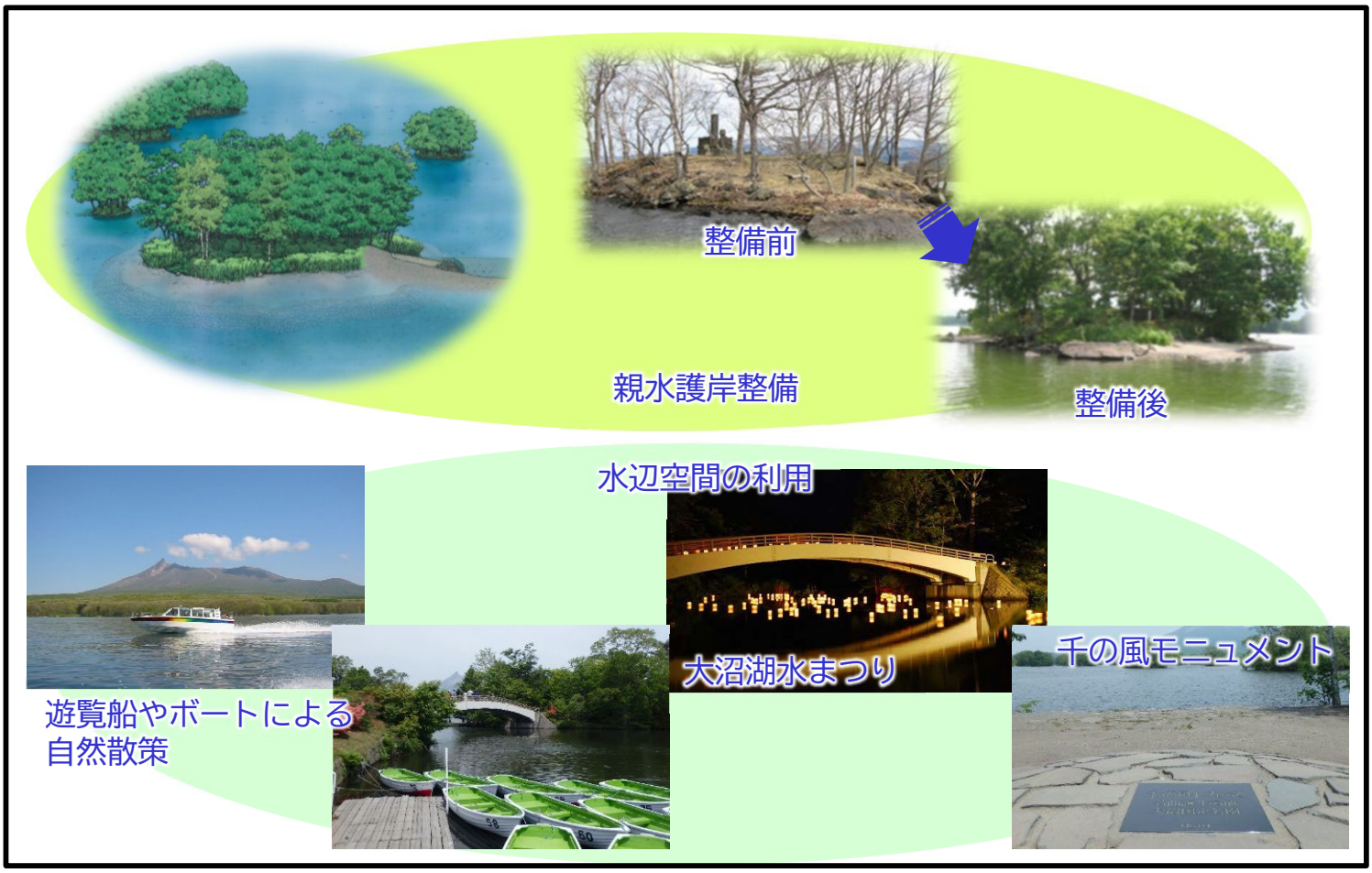
ラムサール条約の登録湿地となり自然環境への意識が高い地域であるため、自然との共生、景観に配慮した水辺空間を創出する。

2. ハード施策の内容

北海道 ： 親水護岸、河道整正　　七飯町 ： 水質浄化

3. ソフト施策の内容

七飯町 ： イベント開催など　　民間 ： 清掃など



大沼公園広場地区かわまちづくり【完】

折戸川水系大沼（北海道亀田郡七飯町）【補】

事業実施の効果



湖岸の浸食



湖岸護岸の整備

事業実施の効果



小島の浸食



小島 親水護岸の整備

事業実施の効果

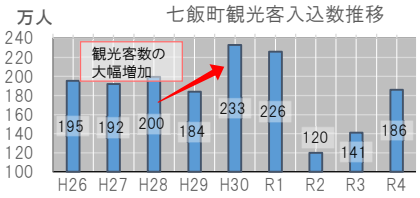


千の風になってモニュメントを設置



多くの観光客が訪れるスポットに

観光客入込数推移



大沼公園広場地区かわまちづくり【完】

折戸川水系大沼（北海道亀田郡七飯町）【補】

ソフト施策



遊覧船、貸しボート



大沼湖水まつり 灯籠流し



大沼函館雪と氷の祭典



釣り

＜参画機関＞

・公園施設：自然公園財団
・護岸：日常的な施設管理、清掃等は自然公園財団が実施するほか、利用の一環として（一社）七飯大沼国際観光コンベンション協会やボランティア団体と連携し維持管理を行っている。

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

河川敷地占用許可を利用することにより、大沼湖水まつり花火打ち上げ、冬期氷上遊戯施設（スノーモービル施設）設置など、イベント等で効果的に活用。

＜かわまちの運営（維持管理）＞

施設整備後の維持管理状況

→施設の維持管理については、施設管理者が行っている。

→大沼国定公園内の日常的な施設管理、清掃等については、自然公園財団が実施するほか、七飯大沼国際観光コンベンション協会、各市民団体によるボランティア活動と連携を取って維持管理を実施している。

【H22年度】歩いて楽しむ、川でつながる、親水と交流の水辺づくり

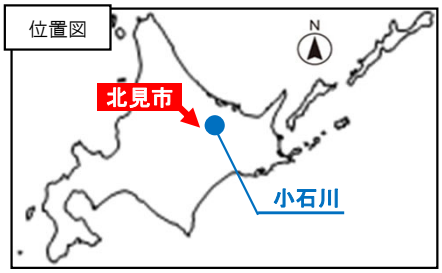
「北見市東部地区かわまちづくり」（北海道北見市）

登録年月日：H22.9.24
事業年度：H21～R11

対象河川 ： 一級河川 常呂川水系小石川 【道管理河川】

市町村名 ： 北海道北見市

推進主体 ： 北見市



1. 概要

北見市では、地域の生活拠点、観光･交流拠点、研究･教育拠点をつなぐ夕陽丘通りの整備を行い、近隣の公園･緑地の維持保全に取り組んでいます。

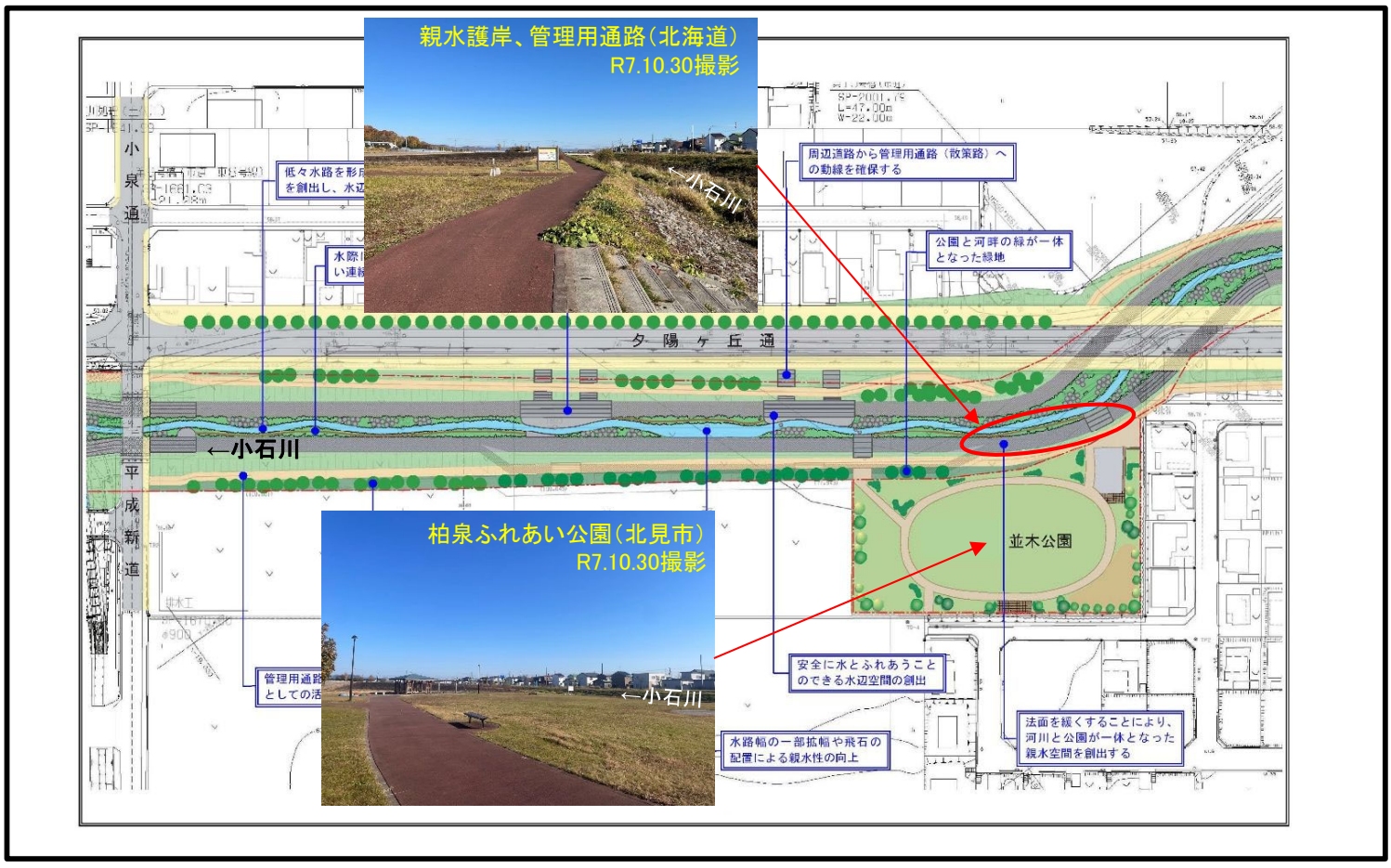
この取組を充実させるため、本計画では、小石川沿川の整備を通じ、水辺の潤い空間の創出やにぎわいある都市景観の形成により、周辺地域の活性化を図ります。

2. ハード施策の内容

北海道 ： 河川管理用通路、親水護岸 等　　北見市 ： 公園整備 等

3. ソフト施策の内容

北海道 ： 都市･地域再生等利用区域の指定 等



北見市東部地区かわまちづくり

常呂川水系小石川（北海道北見市）【補】

事業実施の効果



親水護岸・河川管理用通路・公園の整備



花見や夏祭りなどのイベント開催

指標名

※事業実施中
今後、イベント開催回数等調査。

事業実施の効果



河川管理用通路整備による周遊性向上



河川周辺の観光拠点入込数増加

指標名

※事業実施中
今後、入館者数等を記録している近隣施設等への調査。

事業実施の効果

指標名

北見市東部地区かわまちづくり

常呂川水系小石川（北海道北見市）【補】

ソフト施策



香りゃんせフェスティバル（7月）



河川清掃活動

＜参画機関＞

・小石川連絡協議会を設置し、自治体や町内会と協議し事業の川づくりに関する打合せや行事の打合せを行っている。

＜かわまちの運営（維持管理）＞

施設整備後の維持管理状況

→河川清掃について、地元自治体や地域住民等と実施している。

＜水辺空間の利活用状況＞
○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・憩いの場として、ベンチなどの休憩施設の占用許可について配慮を予定。

【H23年度】*弟子屈から始まる、釧路川の賑わいづくり*

弟子屈地区かわまちづくり」（北海道弟子屈町）

登録年月日：H24.2.15
事業年度：H21～R2

対象河川　：　1級河川　釧路川水系釧路川　【国管理河川】
市町村名　：　北海道弟子屈町
推進主体　：　弟子屈町



1. 概要

弟子屈町は観光を基幹産業として発展してきた町であり、今なお豊富に湧き出る温泉を利用した観光に力を入れている。当該地区では周囲の豊かな自然環境に目を向け国際競争力の高い観光ポテンシャルを活かして通過型観光から滞在型観光への転換を目指し各種取り組みを進めている。平成22年4月には観光圏の認定を受け、観光を基軸としたまちづくりが活発に推進されており、弟子屈市街中心を貫流する釧路川はまちづくりには欠かせない重要な資源として、親水護岸や河川管理用道路の整備など、まちづくりと一体となったかわづくりを実施する。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　緩傾斜護岸、管理用道路、積みブロック護岸　　弟子屈町　：　オープンスペース上屋物

3. ソフト施策の内容

弟子屈町：　水辺で乾杯･ビアガーデン･摩周ウインターフェスタ　　民間　：　くしろかわまちジャンボリー in弟子屈



釧路川ふれあい広場



環境教育(ヤマベ稚魚放流)



弟子屈地区かわまちづくり【完】

釧路川水系釧路川（北海道弟子屈町）【直】

事業実施の効果

事業実施前



水辺への親水機能がない

事業実施後



親水機能向上を図り
イベント開催

事業実施の効果

事業実施前



水辺への親水機能がない

事業実施後



緩傾斜護岸で親水機能を確保

事業実施の効果

事業実施前



旧　道の駅「摩周温泉」

事業実施後



拡大リニューアルして
観光客誘致

事業実施の効果

事業実施前



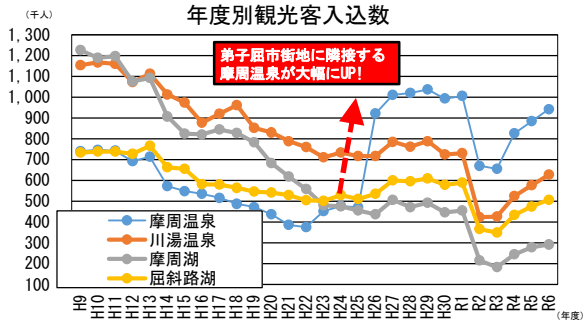
水辺への親水機能が乏しい

事業実施後

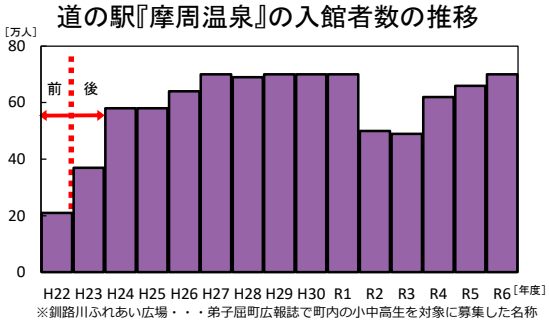


階段や広いスペースを利用
して大イベントが開催可能

指標名　弟子屈町の観光客入込数



指標名　道の駅「摩周温泉」入館者数



※釧路川ふれあい広場・・・弟子屈町広報誌で町内の小中高生を対象に募集した名称

弟子屈地区かわまちづくり【完】

釧路川水系釧路川（北海道弟子屈町）【直】

ソフト施策



［環境教育(ヤマベ稚魚放流)］



［定期的な河川清掃の実施］



［整備した広場でのイベント利用］



［新しい観光メニュー(足湯)］

＜水辺空間の利活用状況＞

○シーニックバイウェイとの連携

・道の駅「摩周温泉」から近隣の水郷公園への散策コースを紹介するパンフを釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイへ協力して作成。道の駅摩周温泉で配布中。

○今後の展望

・今後、地元の商店街や民間事業者及びてしかがえこまち推進協議会との連携を検討している。

＜参画機関＞

○参画機関

・自治会長、カヌー団体、商工会、観光協会、釧路開発建設部等で構成する「弟子屈地区川づくり検討会」を設置し、地域の意向を踏まえた「川づくり整備プラン」を策定している。
・道の駅「摩周温泉」の再建に向けて町民の意志を反映させることを目的に発足した「道の駅利活用検討委員会」を中心に、地域で一体となった体制で推進している。
・「てしかがえこまち推進協議会」等が中心となって、観光を軸としたまちづくりへの取り組みを推進している。
・平成２９年から道の駅「摩周温泉」で「水辺で乾杯」を実施している。
・令和７年にはかわまちで整備した「釧路川ふれあい広場」で「くしろかわまちジャンボリーin弟子屈」を実施した。

○今後の展望

・今後も、現状の体制を維持し施策を実施していく予定である。

＜かわまちの運営（維持管理）＞

○施設整備後の維持管理状況

・公園・道の駅については弟子屈町、緩傾斜護岸(芝生)・植栽・ベンチ・四阿については地元自治会、釧路川の護岸・管理用道路については河川管理者が維持管理を行っている。
・日常的な施設管理、清掃活動等は、弟子屈町・観光団体・商工会・自治会・町内団体等が各々連携し実施している。

○今後の展望

・今後も、現状の体制を維持し維持管理を実施していく予定である。

【H24年度】安全で緑と水がある防災まちづくり

「雄武町市街地区かわまちづくり」（北海道雄武町）

登録年月日：H24.12.17
事業年度：H19～R2

対象河川　：　二級河川 ｵｺﾂﾅｲ川水系ｵｺﾂﾅｲ川【道管理河川】
　　二級河川 ﾎﾟﾝｵｺﾂﾅｲ川水系ﾎﾟﾝｵｺﾂﾅｲ川【道管理河川】
市町村名　：　北海道紋別郡雄武町
推進主体　：　雄武町



1. 概要

雄武町では、「身近に水と親しめる水辺空間の創出」、「うるおいのある景観づくり」に取り組んでいます。

この取組を充実させるため、本計画では、オコツナイ川およびポンオコツナイ川沿川の整備を通じ、市街地のうるおいのある景観や水と親しめる水辺空間の創出し、周辺地域の活性化を図ります。

2. ハード施策の内容

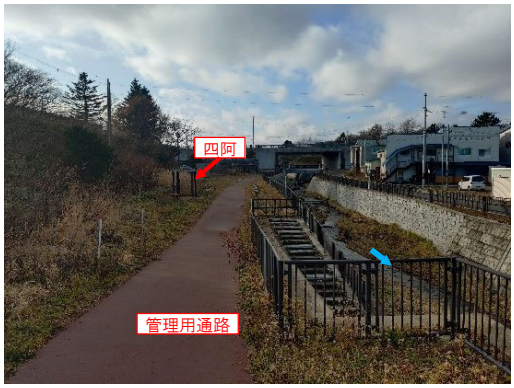
北海道　：　修景護岸、管理用通路　等

雄武町　：　植樹、四阿整備、連続照明整備　等

3. ソフト施策の内容

北海道　：　都市･地域再生等利用区域の指定　等

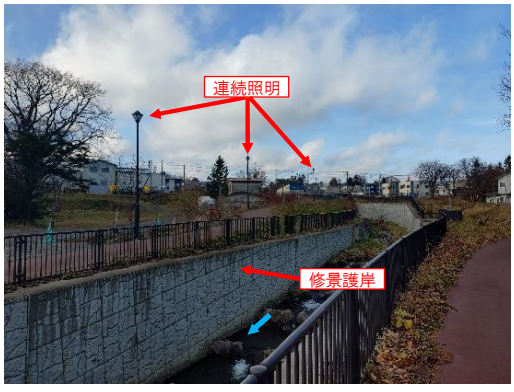
オコツナイ川





ポンオコツナイ川





雄武市街地区かわまちづくり【完】

事業実施の効果

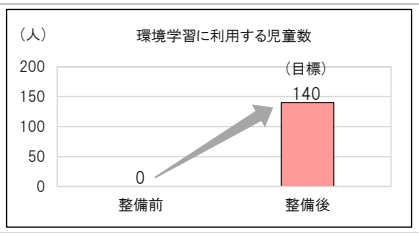


修景護岸（整備前）



修景護岸（整備後）

指標名　環境整備に利用する児童数



事業実施の効果

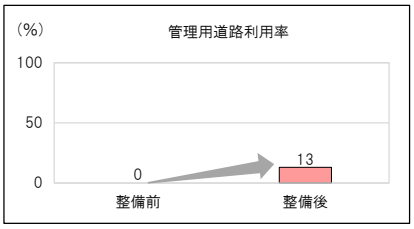


河川管理用通路（整備イメージ）



河川管理用通路（整備後）

指標名　管理用道路利用率



事業実施の効果

指標名

雄武市街地区かわまちづくり【完】

ｵｺﾂﾅｲ川水系ｵｺﾂﾅｲ川（北海道紋別郡雄武町）【補】
ﾎﾟﾝｵｺﾂﾅｲ川水系ﾎﾟﾝｵｺﾂﾅｲ川（北海道紋別郡雄武町）【補】

ソフト施策



おうむ産業観光まつり(６月)



うまいもんまつり(９月)

＜参画機関＞

・「オコツナイ川･ポンオコツナイ川 川づくり検討会」を開催し、市民協働の川づくりについて具体的な議論を行った。

・第1回（H23.8.24）
　＜委員：商工会長、自治会長等19名＞
・第2回（H24.2.28）
　＜委員：商工会長、自治会長等19名＞

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・雄武町の施設整備は完了、占用許可についても完了している。

＜かわまちの運営（維持管理）＞

施設整備後の維持管理状況

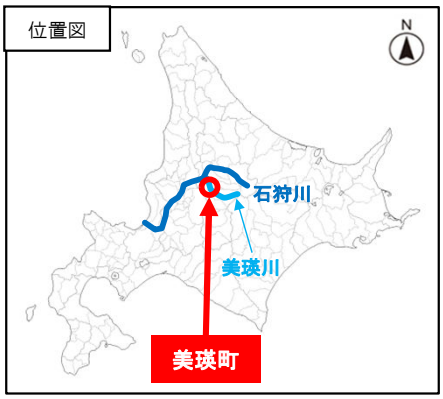
→施設の維持管理（草刈り、ゴミ拾い等）について、町民団体等との協働により、実施。（令和5年9月16日）

【H25年度】

「美瑛川地区かわまちづくり」（北海道美瑛町）

登録年月日：H26.3.26
事業年度：H27～R1

対象河川　：　一級河川　石狩川水系美瑛川　【国管理河川】
市町村名　：　北海道美瑛町
推進主体　：　美瑛町



1. 概要

美瑛町では「美瑛町観光マスタープラン」等に基づき、丘陵地帯と緑豊かで雄大な自然景観を活かしたサイクルツーリズムの普及を推進しており、本計画では高水敷整正や取付道路等の水辺整備を実施することにより、河川空間を活用したサイクリング等による地域の活性化や滞在型の観光振興を図っています。
国土交通省では、この取り組みに対し、必要となる河川管理施設を整備等の支援を実施しています。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　高水敷整正、盛土（休憩所・多目的スペースの基盤）、取付道路
美瑛町　　：　駐車場、休憩所、多目的スペース、看板、四阿、サイクルステーション、植樹

3. ソフト施策の内容

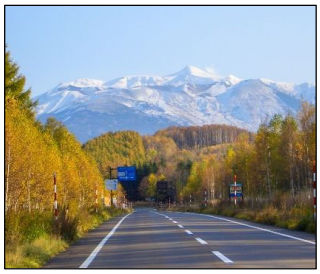
国土交通省　：　都市・地域再生等利用区域の指定　等
美瑛町　　：　様々な志向の人が好みに応じて気軽に参加できるようモデルコース・プランの設定、既に実施されているイベントでのサイクリングの利用、丘を利用した急斜面のコースを高速で下るダウンヒル等の新たな企画



美瑛川地区かわまちづくり【完】

石狩川水系美瑛川（北海道美瑛町）【直】

事業実施の効果





通過型観光地からの脱却が課題となっていた。
また、美瑛町市街地から白金温泉に向かう道道966号十勝岳温泉美瑛線は、歩道のない区間または道路幅員が不十分な区間があり、安全・快適にサイクリングを楽しめる状況とは言い難い状況であった。



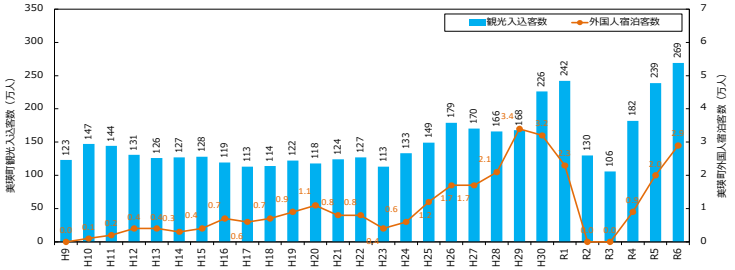


美瑛川沿いの水辺空間が賑わい、美瑛町の新たな魅力となることで交流人口が増大するとともに、魅力ある観光拠点が増えることで、従来の通過型観光地からの脱却も期待できる。

観光入込客数・外国人宿泊延べ数

効果（定量的指標）

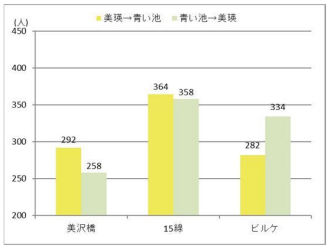
・整備開始の平成27年度以降、観光入込客数が増加しており、新型コロナウイルス感染症拡大で一時的に減少したものの、近年は回復。

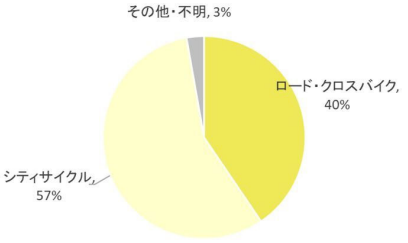


河川管理用通路の利用者数・利用形態

効果（定量的指標）

・サイクリングイベントに美瑛川沿いが含まれていたこともあり、美瑛町市街地と白金青い池の両方向からの利用者が多くなっており、地域観光に対するサイクリング利用の効果は高い。





美瑛川地区かわまちづくり【完】

石狩川水系石狩川（北海道美瑛町）【直】

ソフト施策







＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・今後、河川敷地占用許可準則22条による、都市・地域再生等利用区域の指定や周辺地域との連携について検討を進める。

○今後の展望

・サイクリングや散策に利活用可能となった美瑛川河川空間について周辺観光施設などと連携し観光客が増加するような取り組み、イベント等の検討を行う。
・交流人口の増加及び地域の振興を図るため、周遊性の向上や地域の魅力情報発信等を関係機関と連携し進めていく。

＜参画機関＞

○参画機関

・美瑛町、観光協会、有識者、旭川開発建設部等で構成する意見交換会の場として「十勝岳・美瑛川地域連携施策検討委員会」を設置し、地域の意向を踏まえた地域経済活性化計画、かわまちづくり計画を策定。
・美瑛町、観光協会、旭川開発建設部等で構成する意見交換会の場として「美瑛川地区かわまちづくりワーキンググループ」を設置。
・今後も美瑛町を中心とした地域で一体となった体制で推進し、関係機関が支援していく。









＜かわまちの運営（維持管理）＞

○施設整備後の維持管理状況

・河川管理施設等の防災上必要とされる施設機能の維持管理は、施設管理者が行う（国交省：河川管理用道路等）。
・河川等の占用に伴う占用物に対する日常的な維持管理・清掃に関しては、地元関係者と連携して美瑛町が実施する。

【H26年度】悠久の「川」、「人」、「自然」北加伊道　天塩國

「天塩かわまちづくり」（北海道天塩郡天塩町）

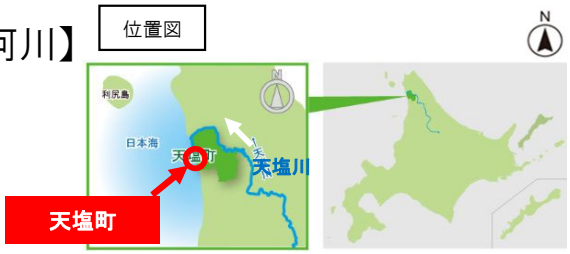
登録年月日：H27.3.30
事業年度：H28～R7

対象河川　：　1級河川　天塩川水系天塩川　【国管理河川】

市町村名　：　北海道天塩郡天塩町

推進主体　：　天塩町

位置図



1. 概要

天塩町では、平成31 年3 月に「第7 期天塩町総合振興計画」を策定し、町の資源（人・農林水産業・自然環境）を行政と住民が再認識するとともに、この資源を生かした活力ある協働のまちづくりを推進しています。

この取り組みを充実させるために、天塩町は町内看板の整備とソフト施策（町内フットパスや河川空間を活用したイベント、レンタサイクルの実施）を効果的に実施し、情報発信力と観光導線の強化、観光コンテンツの強化及び開発を図り、地域の観光振興及び活性化を推進します。

河川管理者（国土交通省）は、この取り組みに対し、必要となる河川管理施設（高水敷整正、管理用通路等）を整備する等の支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　高水敷整正、管理用通路　等　　天塩町　：　看板　等

3. ソフト施策の内容

国土交通省　：　河川区域占用許可　等　　天塩町　：　天塩川しじみまつり等イベント　等







●地域のイベントで河川空間を活用







天塩かわまちづくり【完】

天塩川水系天塩川（北海道天塩町）【直】

事業実施の効果

●事業実施前



●事業実施後



カヌーイベントで多くの参加者の利用がなされている



事業実施の効果

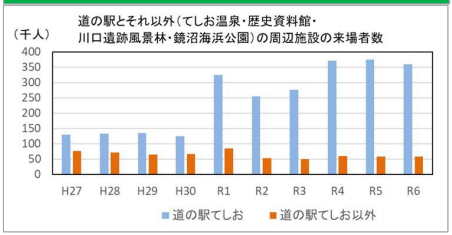
●事業実施前



●事業実施後



指標名：周辺施設の来場者数

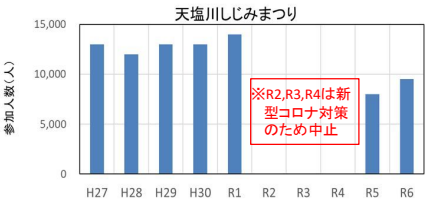


事業実施により水辺利用者が増加している





指標名　イベント参加人数



天塩かわまちづくり【完】

天塩川水系天塩川（北海道天塩町）【直】

ソフト施策









＜水辺空間の利活用状況＞

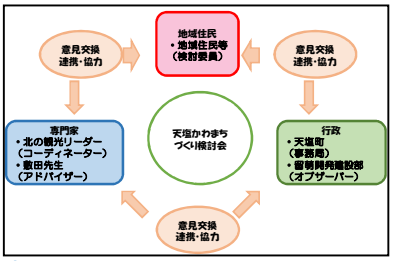
○かわまち計画範囲内の占用許可状況
- 天塩川しじみまつり
- 天塩スカイライトフェスティバル

※天塩町への長期占用許可の範囲内でイベント実施

＜参画機関＞

○天塩かわまちづくり検討会

天塩町役場、ＮＰＯ、地元住民、農林水産業関係機関、留萌開発建設部などで構成する意見交換会の場として「天塩かわまちづくり検討会」を設置し、外部から複数のコーディネーターを受け入れ、地域の意向を踏まえた観光振興策の策定を行っています。観光振興策の短期的な試行は、4つの「分科会」活動により行っています。



○ミズベリング天塩会議（平成27年10月30日開催）

地元天塩高校生が集い、天塩川の水辺の将来像を描きました。

○今後の展望

今後は、観光振興策の長期的な実践・実現に向けて地元有志による協議会を設置し、天塩町役場と連携して、関係機関や複数の専門家などの支援を得ながら推進していきます。

＜かわまちの運営（維持管理）＞

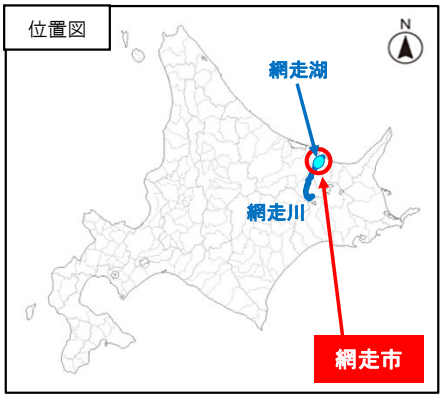
- 河川管理施設等の防災上必要とされる施設機能の維持管理については、施設管理者が行います（国：管理用通路、階段、看板等）。
- 河川等の占用に伴う占用物に対する日常的な維持管理・清掃に関しては、河川協力団体であるNPO法人天塩川を清流にする会をはじめとする、地元関係者と連携して天塩町が実施します（町：看板、フットパス、階段等）。

【H27年度】海川湖道（かわみち）で広がる水辺の賑わいづくり

「網走かわまちづくり」（北海道網走市）

登録年月日：H28.3.28
事業年度：H28～R10

対象河川　：　一級河川　網走川水系網走川　【国管理河川】
市町村名　：　北海道網走市
推進主体　：　網走市



1. 概要

網走市では「網走市総合計画」や「網走市観光振興計画」に基づき、地域資源を活かし網走観光の魅力をさらに高めるとともに、体験や滞在を楽しむ観光を推進しており、本計画では網走川沿いの河川管理用道路（散策路）を活用し、観光・交流施設を動線で結ぶことにより施設利用の増大を図るとともに、ウォーキング・サイクリングコースやイベントスペースとして利用することで、網走川沿いの賑わいを創出し、地域の活性化を目指します。

国土交通省では、この取り組みに対し、必要となる河川管理施設を整備するほか、河川敷地占用許可準則22条に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　河川管理用道路（散策路）、取付道路
網走市　　：　案内看板、ボックスカルバート内の照明設備　等

3. ソフト施策の内容

国土交通省　：　都市・地域再生等利用区域の指定　等
網走市　　：　散策・ウォーキング・ジョギング・サイクリングモデルコースの設定、防災・環境教育等の勉強会、既存のイベントや観光交流施設と連携した水辺イベント　等



網走かわまちづくり【完】

網走川水系網走川（北海道網走市）【直】

事業実施の効果

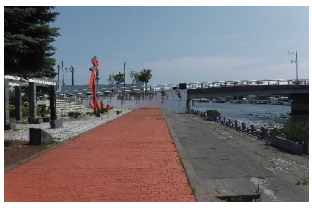


水辺の通路が橋で行き止まりになっており、網走川沿いのアクセスが阻害されていた

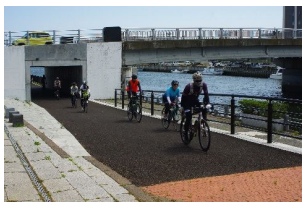


橋にボックスカルバートを整備して、網走川沿いのアクセスを確保した

事業実施の効果



河川管理用通路の整備により、網走川沿いの上下流のアクセスが確保され、周遊性が向上した



散策、ジョギング、サイクリング等で管理用通路を利用する人が増加している

事業実施の効果



河川管理用通路の整備により、網走川沿いの上下流のアクセスが確保され、周遊性が向上した

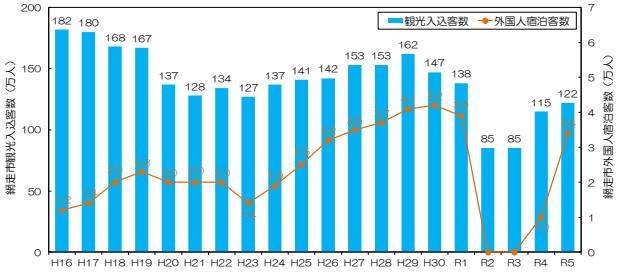


各種イベントへの来場や観光交流施設の入込増加に伴い、年間の観光入込客数は約122万人、外国人宿泊客数は約3万人となっている

観光入込客数・レンタサイクル台数

効果（方向性）

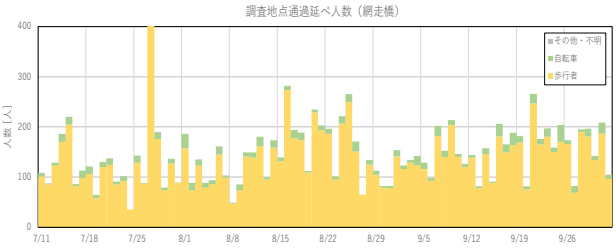
・整備後の網走市内の観光入込客数、レンタサイクル台数に関するデータを収集し、経年的な推移を整理する。



管理用通路の利用者数・利用形態

効果（方向性）

・管理用通路整備後の利用者数・利用形態（散策、ジョギング、サイクリング等）に関する調査を実施し、経年的な推移を整理する。



網走かわまちづくり【完】

網走川水系網走川（北海道網走市）【直】

ソフト施策

・網走川沿いに整備した散策路について、ひとつの街で「オホーツク海」、「網走川」、「網走湖」の異なる3つの水辺をつなぐ全国的にも珍しい散策路であることを踏まえ、「海川湖道（かわみち）」と命名した。







＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・令和3年10月に、河川敷地占用許可準則22条による都市・地域再生等利用区域の指定を呼人地区で受けたため、今後、民間業者の参入や活用等について検討していく予定である。

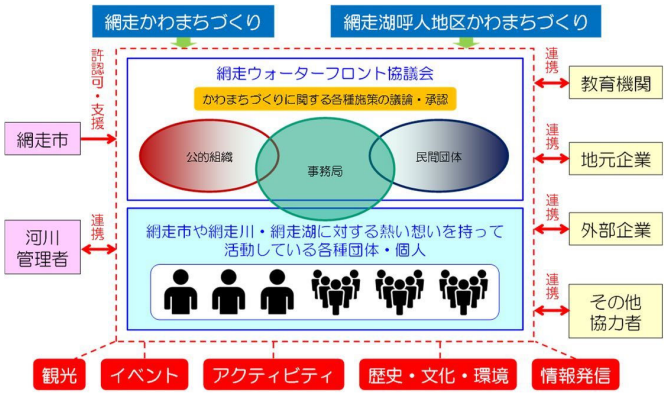
○今後の展望

・今後、河川管理用通路（散策路）や河畔公園、湖畔園地等を利用して、「オホーツク網走サマーイルミネーション」等の既に実施されているイベントとのコラボレーション、防災、環境教育等の勉強会、観光・交流施設と連携した水辺のイベント等の新たな企画を検討していく予定である。

＜参画機関＞

○参画機関

・かわまちづくりに関する議論の場としてNPO、地元住民で構成する「網走ウォーターフロント協議会」を設置し、地域の意向を踏まえた観光振興策の策定・具体化を行っている。
・関係機関や複数の専門家等の支援を得ながら、推進していく。
・網走港を中心に展開されている「みなとオアシス網走」と連携しながら、広域的なまちづくりを推進していく。



＜かわまちの運営（維持管理）＞

○施設整備後の維持管理状況

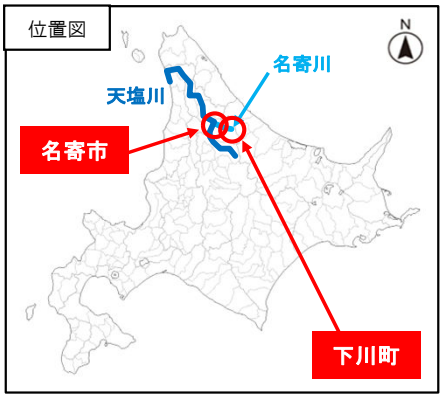
・河川管理施設等の防災上必要とされる施設機能の維持管理は、施設管理者が行う（国交省：河川管理用通路等）。
・河川等の占用に伴う日常的な維持管理・清掃に関しては、地元関係者と連携して網走市が実施する（網走市：看板等）。
・維持管理費用については、官民で分担して永続的に維持管理が可能となるよう、適切なライフサイクルコストを検討していく。

【H28年度】

「名寄川地区かわまち」（北海道名寄市、下川町）

登録年月日：H29.3.7
事業年度：H30～R14

対象河川　：　一級河川　天塩川水系名寄川　【国管理河川】
市町村名　：　北海道名寄市、下川町
推進主体　：　名寄市、下川町



1. 概要

名寄市及び下川町では観光振興計画等に基づき、両市街地・観光拠点間の周遊性向上による観光振興や低炭素まちづくり等を目指しており、本計画ではサンルダム周辺整備計画等と連携し、名寄川沿いの河川管理用道路を活用したサイクリングや散策等に取り組んでおり、名寄川沿いの賑わいを創出し、地域の活性化を図ります。

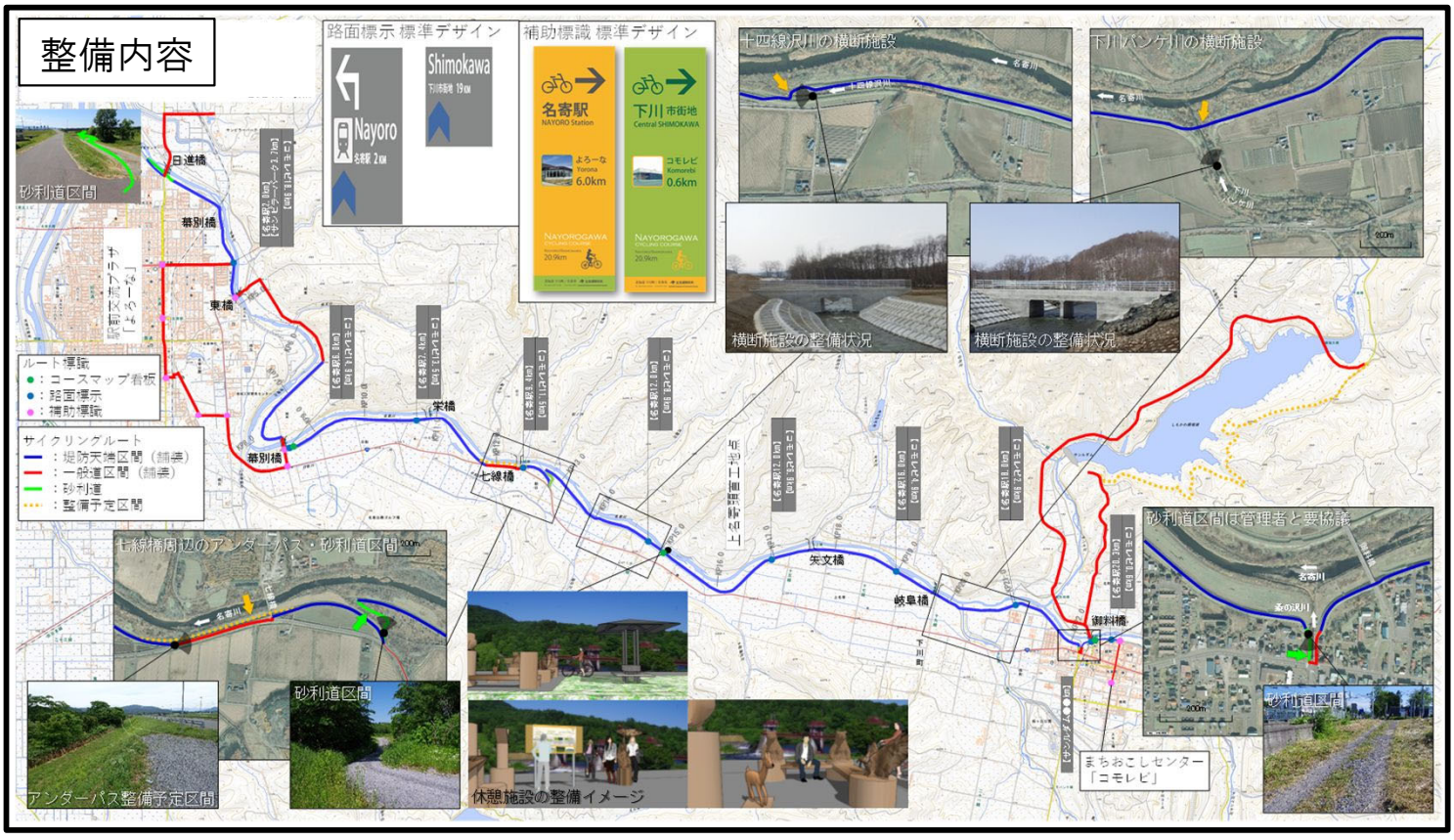
国土交通省では、この取り組みに対し、必要となる河川管理施設を整備するのほか、河川空間において営利活動を実施する場合には、河川敷地占用許可準則第22に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

国土交通省　　：　側帯、管理用道路等
名寄市、下川町　：　休憩施設、案内看板等

3. ソフト施策の内容

名寄市、下川町　：　サイクリングロードを利用した周辺観光地巡り、サイクルイベント等



名寄川地区かわまちづくり

天塩川水系名寄川（北海道名寄市・下川町）【直】

事業実施の効果









名寄川河川空間をサイクリングなどに活用することにより、二次交通が脆弱な名寄市、下川町間の周遊性を向上させ観光客の増加を期待。









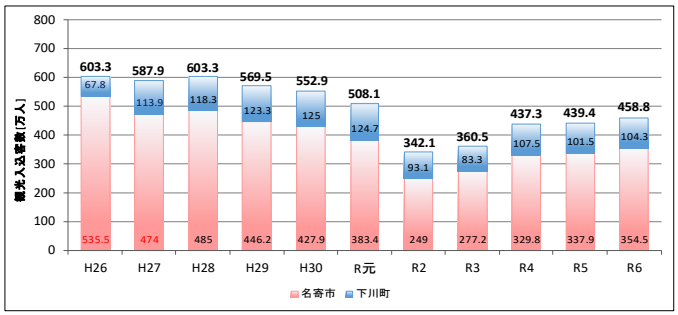
自由度や周遊性が高いサイクリング等による移動により地域のお店や観光施設の利用者が増え経済効果が期待でき、地域の活性化にもつながる。

行政、観光協会、民間、市民が連携し、既存資源を活用・見つめ直し、その魅力を発信することで交流人口の増加を目指し地域の活性化を図る。（道北スイスモビリティによるモニターツアー状況）

観光入込客数・外国人宿泊延べ数

効果（定量的評価）

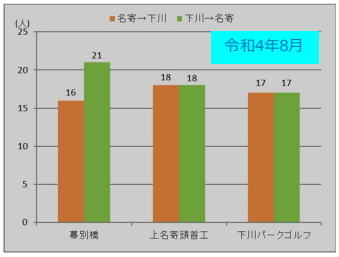
・整備後の名寄市、下川町の観光入込客数に関するデータを収集し、経年的な推移を整理する。

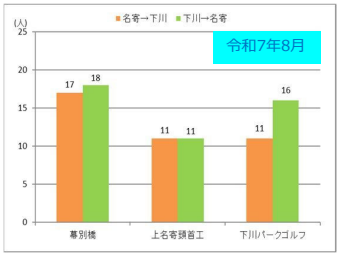


河川管理用通路の利用者数・利用形態

効果（定量的評価）

・河川管理用通路等整備後の利用者数・利用形態（サイクリング等）に関する調査を実施し、経年的な推移を整理する。





自転車種別では、スポーツタイプの「ロードレーサ、クロスバイク」が21%、一般的な「シティサイクル」23%、また原動機付自転車の利用が多い。

名寄川地区かわまちづくり

天塩川水系名寄川（北海道名寄市・下川町）【直】

ソフト施策







＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・名寄市市街地並びに下川町市街地において桜づつみ、パークゴルフ場が過年度整備され占用されており、各市街地における河川空間の利用は多い状況である。

○今後の展望

・サイクリングや散策に利活用可能となった名寄川河川空間やサンルダム周辺について周辺観光施設などと連携し観光客が増加するような取り組み、イベント等の検討を行う。
・交流人口の増加及び地域の振興を図るため、周遊性の向上や地域の魅力情報発信等を関係機関と連携し進めていく。

＜参画機関＞

○参画機関

・サンルダム周辺開発整備計画審議会
　有識者、地域住民などから構成された審議会でサンルダムの周辺開発について議論。
　平成27年11月に「サンルダム周辺整備計画」を策定。
・サンルダム建設と町の活性化を図る会
　地域住民、関係者によるサンルダムを活用した地域の活性化について議論を継続中。
・名寄川地区かわまちづくりワーキンググループ
　名寄市、下川町、観光協会、旭川開発建設部などで構成する意見交換会の場としてワーキンググループを設置。





＜かわまちの運営（維持管理）＞

○施設整備後の維持管理状況

・河川管理施設等の防災上必要とされる施設機能の維持管理は、施設管理者が行う（国交省：河川管理用道路等）。
・河川等の占用に伴う占用物に対する日常的な維持管理・清掃に関しては、地元関係者と連携して名寄市、下川町が実施する（自治体：休憩施設等）。
・自治体主催により毎年多くの地域住民が参加し河川清掃を実施。

【H29年度】川とまちがつながり生まれる、十勝中流の新たな賑わい

「十勝川中流域かわまちづくり」（北海道音更町、池田町、幕別町）

登録年月日：H30.3.26
事業年度：H30～R13

対象河川　：　一級河川　十勝川水系十勝川　【国管理河川】
市町村名　：　北海道音更町、池田町、幕別町
推進主体　：　音更町、池田町、幕別町



1. 概要

十勝川中流域は、年間約62万人の観光客が訪れる十勝川温泉や、北海道土木遺産である池田町千代田堰堤を中心に、憩いの場として古くから観光客や地域住民に利用されてきました。十勝川中流域に位置する音更町、池田町及び幕別町においては、各自治体で拠点整備がされているため、個々に独立した観光施設が当地域内に点在している状況です。そのため、十勝川中流域における施設間のネットワークの構築により、人の動きを活性化させることで、飽きさせない長期滞在型の観光地として、3町のまちづくりと一体となり地域振興に寄与することが求められています。

この計画]を充実させるため、音更町、池田町及び幕別町と国が連携し、十勝川中流域の更なるにぎわいの創出や地域の観光振興を目指して、十勝川沿いの河川敷へのアクセス路の整備、水辺景観の改善等をい観光振興の促進を目指します。

国土交通省では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備のほか、河川空間において営利活動を実施する場合には、河川敷地占用許可準則第22に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

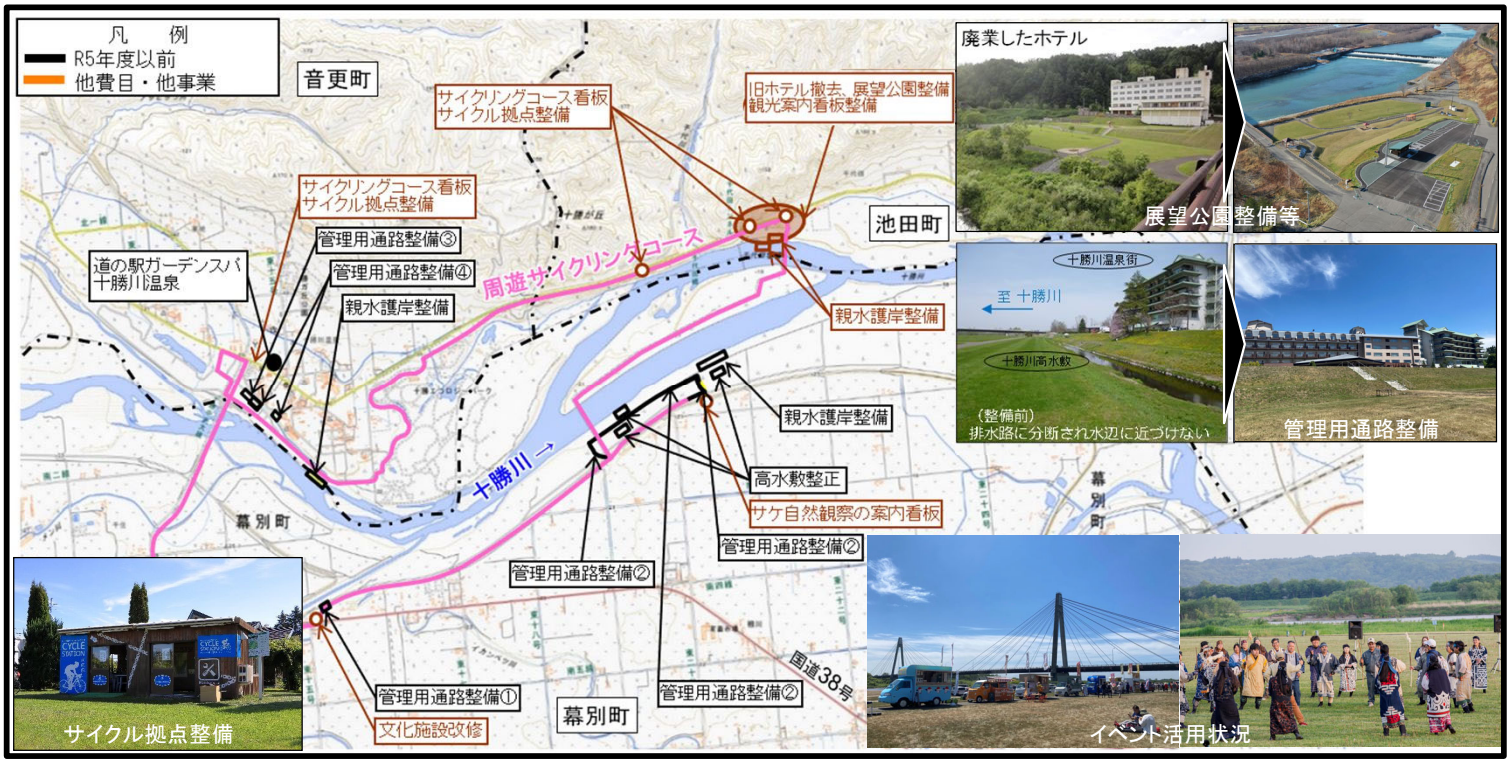
国土交通省　：　河川管理用通路、親水護岸整備　等

池田町　：　展望公園整備　等
音更町　：　サイクル拠点整備　等
幕別町　：　文化施設改修　等

3. ソフト施策の内容

国土交通省　：　都市・地域再生等利用区域の指定　等

自治体　：　イベント開催企画　等



十勝川中流域かわまちづくり

十勝川水系十勝川
（北海道音更町・池田町・幕別町）【直】

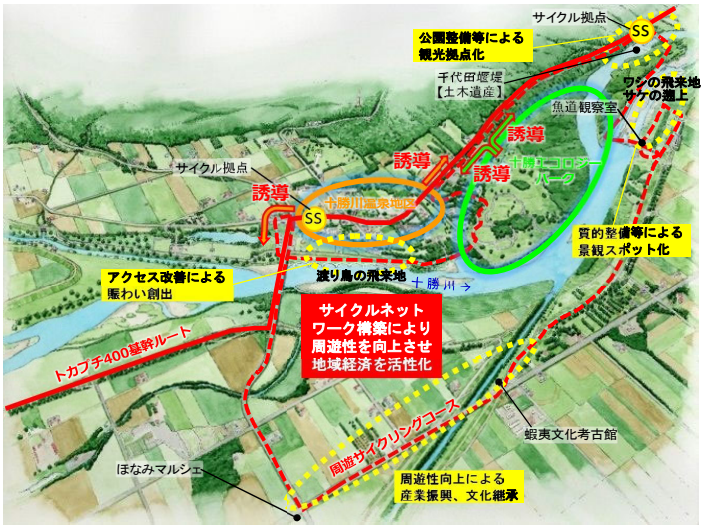
事業実施の効果



【事業実施前の状況】
過去に火災により廃業したホテル



【事業実施後の整備状況】
展望公園・売店等を整備し新たな立ち寄りスポットとして賑わいを創出



事業実施の効果



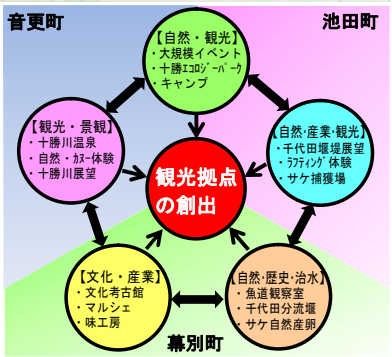
【事業実施前の状況】
排水路に分断され水辺に近づけない



【事業実施後の整備イメージ】
盛土・排水路の暗渠化によりアクセスを向上





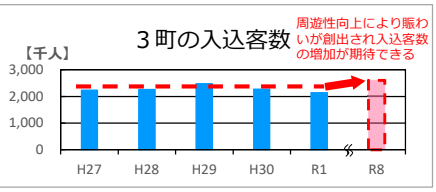


各拠点の特色を活かしたゾーニング展開

指標名：３町の観光入込客数

効果（方向性）

・３町の入込客数を調査し、経年的な推移を整理・検証します。



十勝川中流域かわまちづくり

十勝川水系十勝川
（北海道音更町・池田町・幕別町）【直】

<ソフト施策>

○音更町（Ｈ２８～）
・都市・地域再生等利用区域の指定：H28.4.19、R1.10.25
・オープンカフェ（夏期常設予定）
・季節的イベント開催（隔週）



○池田町（Ｒ１～）
・都市・地域再生等利用区域の指定（予定）
・直販施設の設置（夏期常設予定）
・季節的イベント開催（隔週）





○幕別町（Ｒ１～）
・観光ツアー：H29.9～実施

○今後の展開
・音更町の都市・地域再生等利用区域の指定箇所については、継続して民間事業者を活用したイベントを実施していく予定。
・池田町・幕別町については、現在、協議会で指定に向け検討中。

<参画機関>

○かわまち計画策定に当たって以下の関係機関と連携を図り実施。
・音更町、池田町、幕別町
・各町観光協会・商工会
・池田土地改良区
・（一財）十勝エコロジーパーク財団
・（一社）十勝釧路管内サケ・ます増殖事業協会
・北海道十勝総合振興局帯広建設管理部
・北海道開発局帯広開発建設部
※これまで協議会3回、現地WS1回、シンポジウム1回を開催。



○今後の展開
・今後も、現状の体制を維持し施策を実施していくほか、かわまちづくり策定後も、ＰＤＣＡサイクルにより、評価検討を継続的に行っていく予定でいる。

<水辺空間の利活用状況>

○かわまち計画範囲内の占用許可状況
・河川敷地占用許可準則22条による、都市・地域再生等利用区域の指定（H28.4.19、R1.10.25拡大）がされており、季節的イベント等による営業活動が実施されている。
→音更町十勝川温泉観光協会 1社



河川敷利用（都市・地域再生等利用区域）

○今後の展開
・サイクリングや散策に利活用可能となる十勝川中流域の河川空間周辺について、周辺観光施設や十勝管内の食・観光に関わる民間事業者などと連携し、観光客が増加するような取り組み、イベント等の検討を予定している。

<かわまちの運営（維持管理）>

○施設整備後の維持管理状況
・河川管理施設等の防災上必要とされる施設機能の維持管理は、施設管理者が行う（国交省：河川管理用通路等）。
・整備を行った箇所などの維持管理については、今後かわまち協議会の中で検討を進める。（国が整備した箇所を占用した団体が通常の維持管理を行うなど）

○今後の展望
・かわまち協議会の中で地域住民参加によるイベント等の具体策について検討を行っていく予定である。
（例）花火大会、音楽フェス、直売施設の設置

【H29年度】川がつなぐ、スポーツと暮らしの帯広スタイル

「帯広市かわまちづくり」（北海道帯広市）

登録年月日：H30.3.26
事業年度：H30～R13

対象河川　：　一級河川　十勝川水系十勝川　【国管理河川】
市町村名　：　北海道帯広市
推進主体　：　帯広市



1. 概要

帯広市は、農業を主要産業とする十勝地方の中心であり、現在では農産物集積地、商業都市としての役割を担っています。事業箇所である帯広市内の十勝川の河川敷では、緑地公園や運動公園などが整備され、日常的に川に親しむことができる憩いの場となっており、日本第4位の観客動員を誇る花火大会も開催されています。

この取組を充実させるため、本計画では、帯広市と国が連携し、帯広市新総合体育館の改築を契機に、帯広市新総合体育館周辺の十勝川河川敷へのアクセス向上のための親水施設の整備を実施し、全国規模のスポーツ大会及び練習場として誘致し地域活性化を図ります。

国土交通省では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備のほか、河川空間において営利活動を実施する場合には、河川敷地占用許可準則第22に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　河川管理用通路、高水護岸整備　等　　帯広市　：　新総合体育館整備、案内看板　等

3. ソフト施策の内容

国土交通省　：　都市・地域再生等利用区域の指定　等　　帯広市　：　イベント開催企画　等



帯広市かわまちづくり

十勝川水系十勝川（北海道帯広市）【直】

事業実施の効果

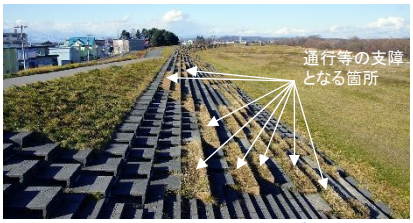


当該箇所の上流ではパークゴルフ、下流では親水公園・運動公園が整備されているため、その利用者や各種イベント参加者による無秩序な駐車がなされ荒れ地と化している。



管理用通路を整備し、帯広市と協定を結び管理を事業者に任せることにより、夏場のスケート練習場やスポーツ大会の開催、多目的利用する場合のルールに基づいた適正な駐車場所として利用することが出来る。

事業実施の効果



高水護岸では、一部、階段式護岸が整備されておらず、昨今、高水敷利用が高まりつつある中、安全かつ快適的に利用することが困難となっている。



一部の通行支障箇所を改良し、高水護岸一体を階段式護岸に整備することにより、多目的なイベント会場として、安全かつ快適な河川敷の利用推進を図ることが出来る。

事業実施の効果



十勝川河川空間（運動公園等）に隣接しながらも河川敷へのアクセスがないため閉鎖的に活用されていた体育館。



PFI事業の導入により、民間事業者の創意工夫や経験を活かし、より質の高い公共サービスの提供が図られ、従来より利用者層の拡大、質の高い維持管理が期待される。また、恒常的な賑わい創出・交流人口増加による地域活性化を図ることが出来る。

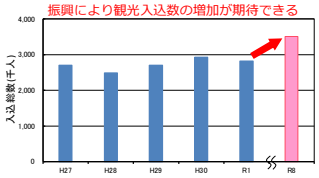
指標名：利用者数・利用形態

効果（方向性）

・帯広市の入込客数、新総合体育館や周辺の河川空間利用者数を調査し、経年的な推移を整理・検証します。（予定）

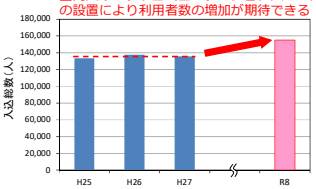
帯広市の観光入込客数

スポーツのみならず多目的な利用による観光振興により観光入込数の増加が期待できる



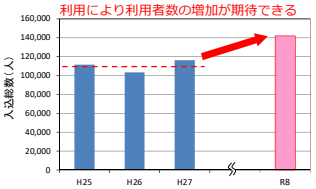
総合体育館利用者数

室内スポーツやコミュニケーションスペースの設置により利用者数の増加が期待できる



十勝川の河川空間利用者数

スポーツと一体となった河川空間の多目的な利用により利用者数の増加が期待できる



帯広市かわまちづくり

十勝川水系十勝川（北海道帯広市）【直】

<ソフト施策>

○帯広市

・都市・地域再生等利用区域の指定：R1.9.2

PFI事業者（民間事業者）が河川敷や体育館利用者に対しサービスの向上を行うことにより周辺施設の維持管理や体育館運営費に充てることができ更なるサービス向上に繋がる。



イメージ（カフェ・売店）

○今後の展開

・試行的にソフト施策を実施。

・その上で、民間事業者を活用した、オープンカフェ・イベント等を実施していく予定。

<参画機関>

○かわまち計画策定に当たって以下の関係機関と連携し実施する。

・帯広市（スポーツ課・商工観光課・みどりの課）
・とかちウェルネスファーム（株）（指定管理者）
・帯広市商工会議所
・河川敷沿川の町内会（連合町内会）
・帯広市体育連盟
・十勝川中流部市民協働会議（河川協力団体）
・北海道開発局帯広開発建設部
・十勝リバーベース（十勝川インフォメーションセンター指定管理者）

○今後の展開

・今後も、現状の体制を維持し施策を実施していくほか、かわまちづくり策定後も、ＰＤＣＡサイクルにより、評価検討を継続的に行っていく予定でいる。

<水辺空間の利活用状況>

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・河川敷地占用許可準則22条による、都市・地域再生等利用区域の指定（R1.9.2）がされており、以下の営業活動が予定されている。
→地域ＤＭＯによるイベントの開催
→産地直販やオープンカフェの設置



河川敷利用
（都市・地域再生等利用区域）

○今後の展開

・今後、サイクリングや散策に利活用可能となる十勝川の河川空間周辺について、周辺観光施設や十勝管内の食・観光・スポーツに関わる民間事業者などと連携し、観光客が増加するような取り組み、イベント等の検討を予定している。

<かわまちの運営（維持管理）>

○施設整備後の維持管理状況

・河川管理施設等の防災上必要とされる施設機能の維持管理は、施設管理者が行う（国交省：河川管理用通路等）。
・整備を行った箇所などの維持管理については、今後かわまち協議会の中で検討を進める。（国が整備した箇所を占用した団体が通常の維持管理を行うなど）

○今後の展望

・かわまち協議会の中で地域住民参加によるイベント等の具体策について検討を行っていく予定である。
（例）花火大会、スポーツイベント、オープンカフェ

【H29年度】水辺で遊び･学ぶ、みんなの雨煙別川

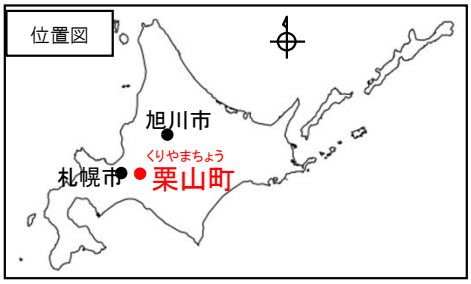
うえんべつがわ　　ほっかいどうくりやまちょう
「雨煙別川かわまちづくり」（北海道栗山町）

登録年月日：H30.3.26
事業年度：H30～R9

対象河川　：　一級河川石狩川水系雨煙別川【道管理河川】
（いしかりがわ　うえんべつがわ）

市町村名　：　北海道栗山町
（くりやまちょう）

推進主体　：　栗山町
（くりやまちょう）



1. 概要

雨煙別川は、町民が気軽に自然と触れ合える貴重な水辺空間であり、NPOなどの各種団体により環境学習、サケ･サクラマスの稚魚の放流、河川清掃などが継続的に行われています。

本計画では、雨煙別川の親水護岸および管理用通路整備により、町民の環境学習の充実や水辺利用の利便性と安全性を向上を図るとともに、環境学習の拠点であるコカ･コーラ環境ハウスと連結し、地域の自然を観光資源として活用するなどして周辺地域のにぎわいや活力を高めていきます。

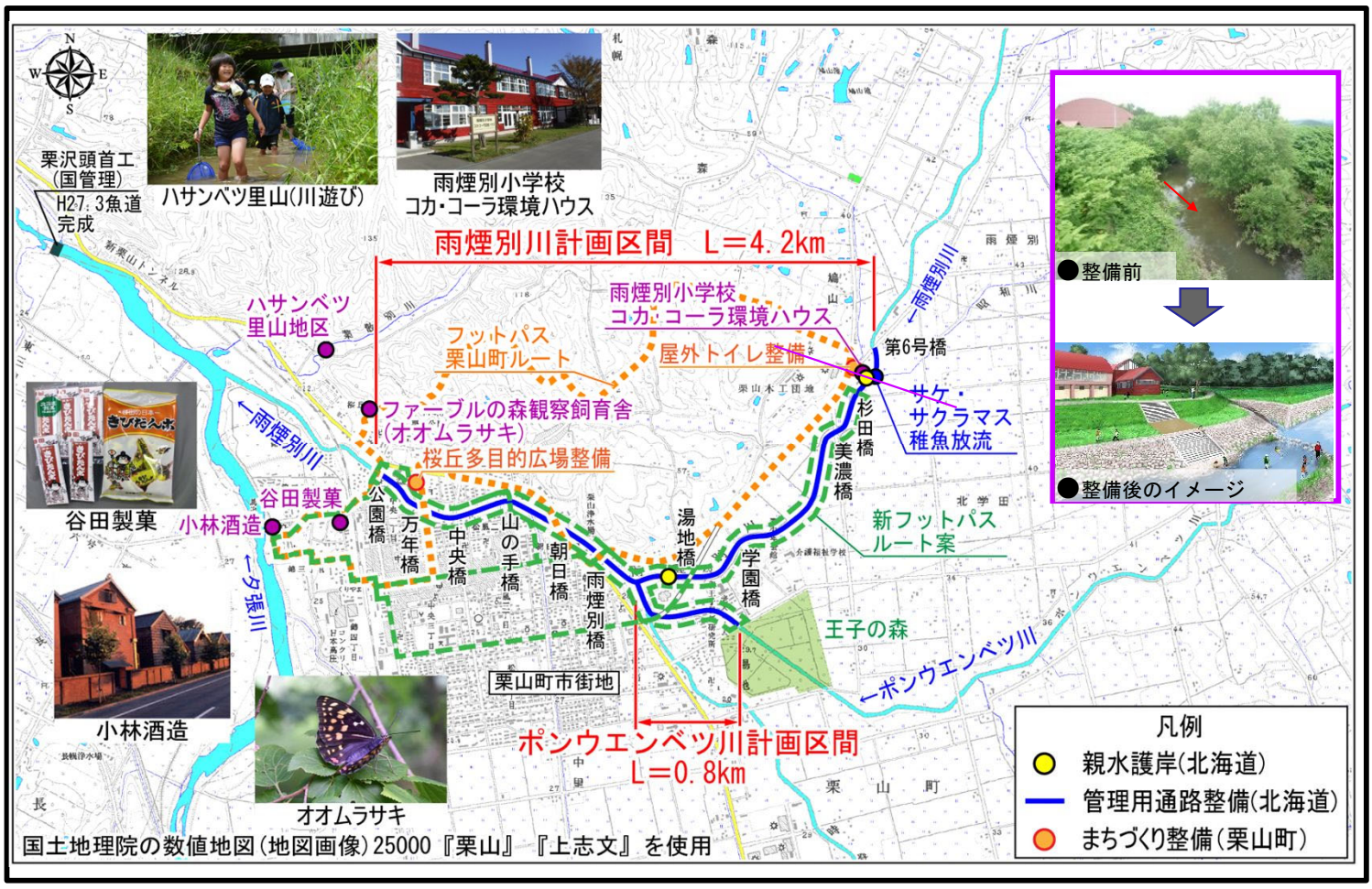
2. ハード施策の内容

北海道　：　親水護岸整備、管理用通路整備　等

栗山町　：　多目的広場整備、屋外トイレ整備　等

3. ソフト施策の内容

栗山町　：　イベント開催　等



雨煙別川かわまちづくり

石狩川水系雨煙別川（北海道夕張郡栗山町）【補】
石狩川水系ポンウエンベツ川（北海道夕張郡栗山町）【補】

事業実施の効果



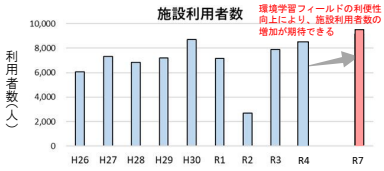
親水護岸（整備前）



親水護岸（整備イメージ）

指標名　施設利用者数

雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウスの利用者数を調査し、経年的な推移を整理・検証



事業実施の効果



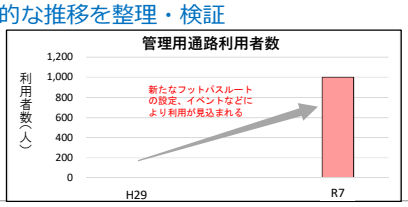
河川管理用通路（整備前）



河川管理用通路（整備イメージ）

指標名　管理用通路利用者数

河川管理用通路利用者数を調査し、経年的な推移を整理・検証



事業実施の効果

指標名

雨煙別川かわまちづくり

石狩川水系雨煙別川（北海道夕張郡栗山町）【補】
石狩川水系ポンウエンベツ川（北海道夕張郡栗山町）【補】

ソフト施策



歩けあるけ運動（5月）



くりやまハーフマラソン（10月）


NPO法人による環境学習

＜参画機関＞

・雨煙別川かわまちづくり協議会を立ち上げ、河川管理者、栗山町、沿川の町内会、夕張川自然再生協議会、NPO法人雨煙別学校、ハサンベツ里山計画実行委員会、一般社団法人栗山青年会議所など各種団体との連携を図りながら、かわまちづくり計画を作成。

＜かわまちの運営（維持管理）＞

施設整備後の維持管理状況

→施設の維持管理については、施設管理者より行う予定。

→河川清掃については、夕張川自然再生協議会による河川清掃「故郷の川　河川美化運動」（毎年9月に実施）を継続

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・各種主体による自然環境学習や河川愛護活動等での利用を積極的に支援する。

【H29年度】集い・笑える、水辺のリビング　当別川

「当別川かわまちづくり」（北海道当別町）

登録年月日：H30.3.26
事業年度：H30～R6

対象河川　：　一級河川　石狩川水系当別川　【道管理河川】
市町村名　：　北海道当別町
推進主体　：　当別町



1. 概要

当別川及び支川のパンケチュウベシナイ川は、当別町市街地近隣における貴重なオープンスペースであり、パークゴルフ場や日々の散歩など地域の人々に多く利用されています。

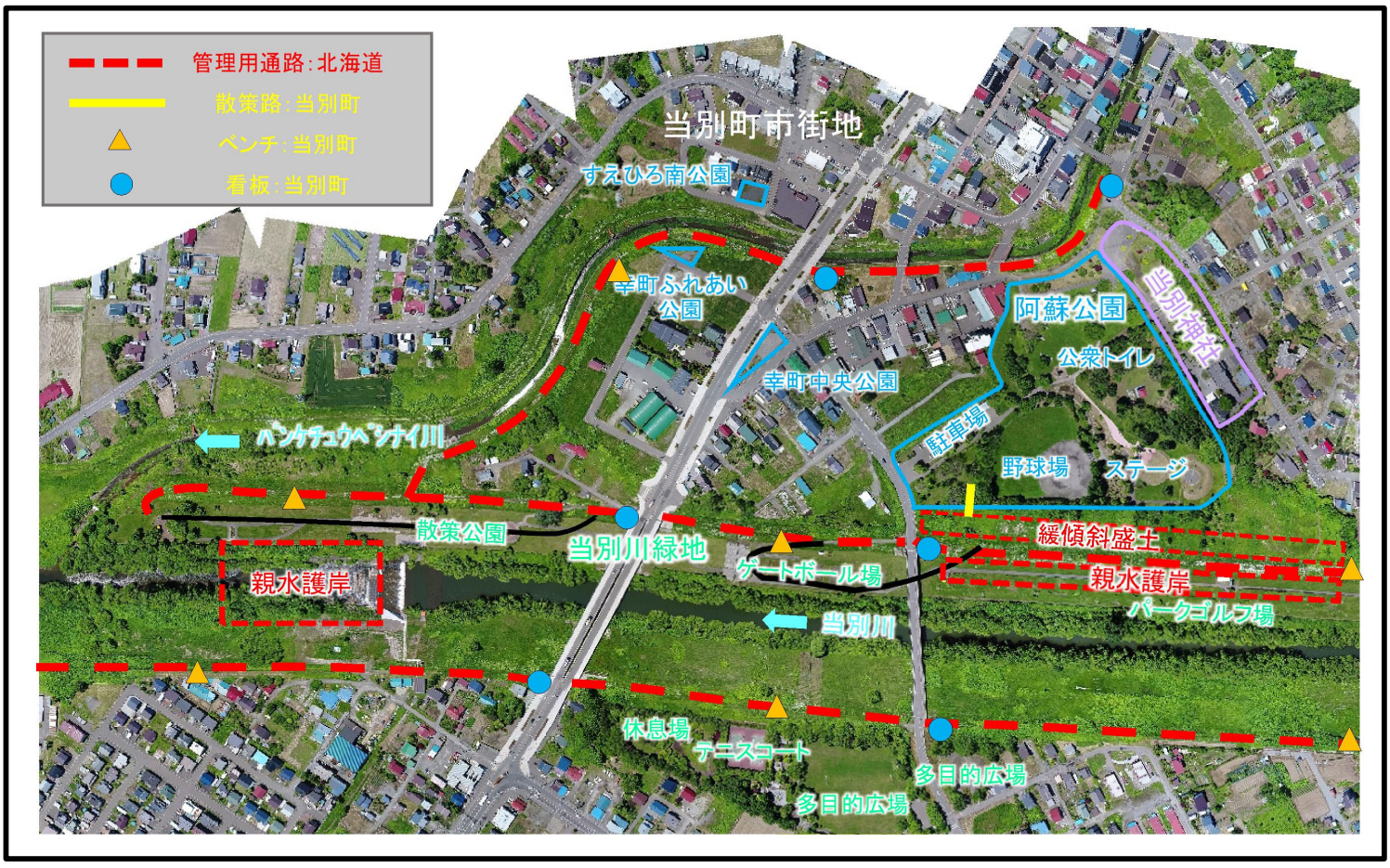
本計画では、河川堤防上に市街地や近隣公園などを繋ぐフットパスを整備することで地区一帯の周遊性を高め、利用の増大を図ります。また、緩傾斜盛土等の整備により、阿蘇公園と当別川が一体となった親水空間を創出し、川を利用したイベントの拡充及びウォーキングやレクリエーションの場として利用することで、当別川沿いの賑わいによるまちの活性化を目指します。

2. ハード施策の内容

北海道　：　管理用通路整備、親水護岸、緩傾斜盛土　等
当別町　：　散策路、ベンチ、案内看板　等

3. ソフト施策の内容

当別町　：　イベント開催　等



当別川かわまちづくり【完】

石狩川水系当別川（北海道石狩郡当別町）【補】

事業実施の効果



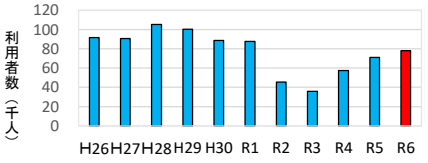
河川管理用通路整備により、阿蘇公園と近隣施設及び当別町市街地の連続性・周遊性を向上させ利用増進を図る。



阿蘇公園の地域住民利用状況

指標名　周辺施設利用実績数

周辺施設の利用人数を調査し、経年的な推移を整理・検証。



事業実施の効果



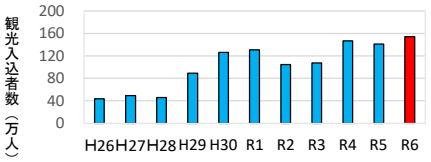
『北欧の風 道の駅とうべつ』に繋がるフットパスルートを整備・周知することで更なる経済効果を期待できる



平成29年9月にオープンした『北欧の風 道の駅とうべつ』

指標名　町観光入込者数

当別町の観光入込数を調査し、経年的な推移を整理・検証。



事業実施の効果



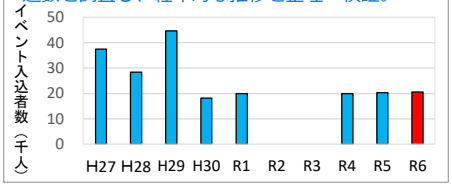
緩傾斜盛土を行い阿蘇公園と当別川河川緑地を一体化させることでイベント会場を拡大でき、更なる活性化に繋げることができる。



当別神社例大祭の出店で賑わう様子

指標名　イベント入込者数

当別神社例大祭、花火大会、ビアガーデンの入込数を調査し、経年的な推移を整理・検証。



※R2、R3は新型コロナ感染症拡大防止のため中止

当別川かわまちづくり【完】

石狩川水系当別川（北海道石狩郡当別町）【補】

ソフト施策



当別神社例大祭（8月）



野外ビアパーティー（8月）



パークゴルフ場（河川緑地）



あそ雪の広場（2月）

＜参画機関＞

・当別川かわまちづくり計画作成に伴う意見交換会を開催し地域の合意形成のもと、河川管理者、当別町、地元町内会、当別高等学校、地域活動団体と連携を図りながらかわまちづくりを推進。

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・阿蘇公園、栄公園、当別川河川緑地（パークゴルフ場等）
・今後、河川占用許可準則の特例措置により河川占用の緩和を実施し、水辺の賑わいを創出。

＜かわまちの運営（維持管理）＞

施設整備後の維持管理状況

→河川管理施設の維持管理は、施設管理者が行う。

→河川等占用施設の維持管理は、施設管理者が行う。

→この外、地元関係者との協働により、日常の維持管理（草刈り、ゴミ拾い等）を行う。

【R1年度】桜並木と深呼吸。利根別川はみんなの健康ロード

「利根別川かわまちづくり」（北海道岩見沢市）

登録年月日：R2.3.13
事業年度：R2～R8

対象河川　：　一級河川石狩川水系利根別川　【道管理河川】
市町村名　：　北海道岩見沢市
推進主体　：　岩見沢市



1. 概要

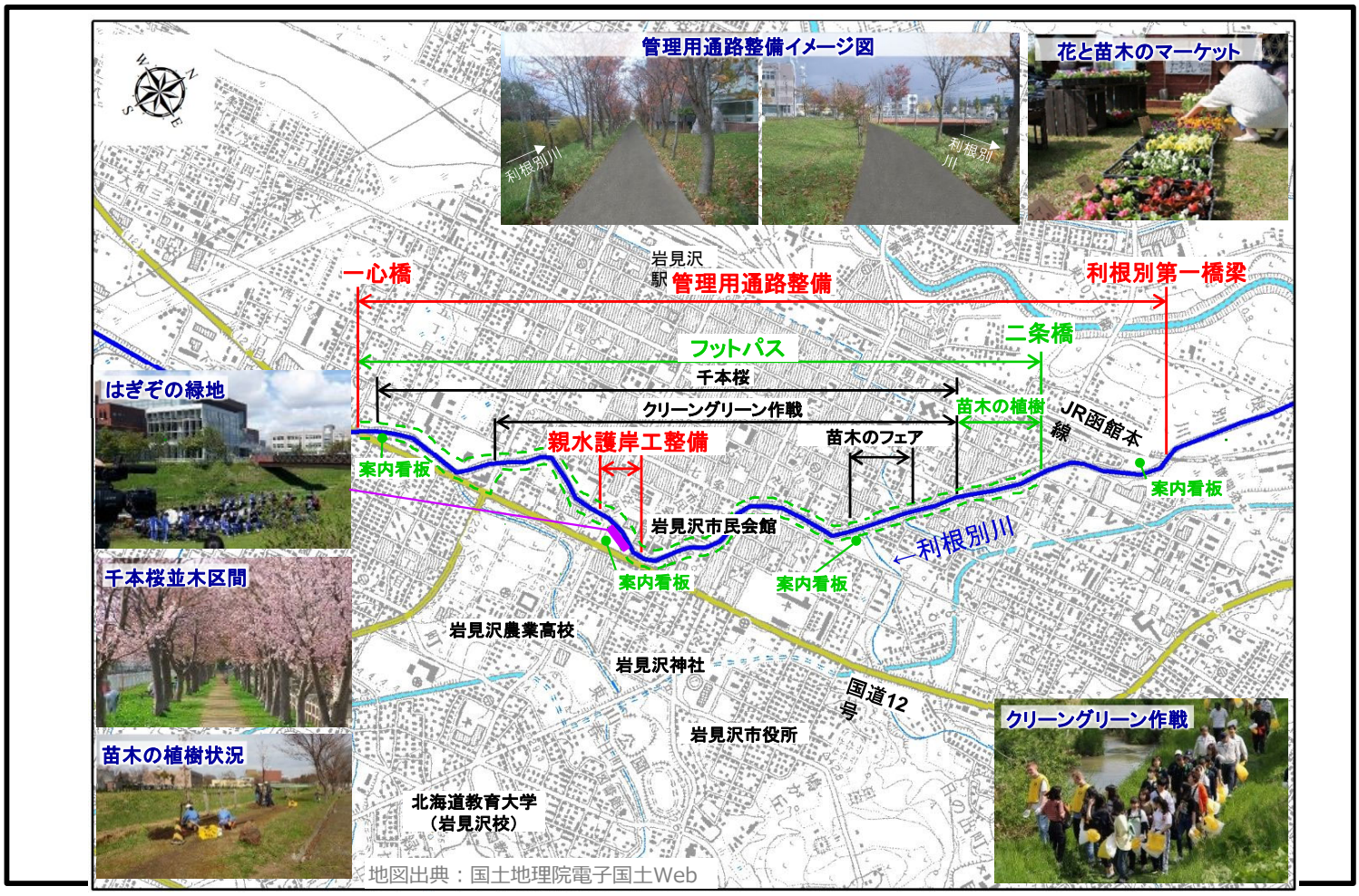
岩見沢市では、市街地を流れる利根別川の貴重な水辺空間を利用して「千本桜並木道」の整備や「クリーングリーン作戦（河川清掃）」、「花と苗木のマーケット」および「岩見沢神社祭」などの各種イベントに取り組んでいます。また、自治体として日本で初となる「健康経営都市」の宣言をしており、健康促進を掲げた“まちづくり”に積極的に取り組んでいます。この取組を充実させるため、親水護岸の整備による“自然と調和した快適な水辺空間”を形成するとともに、河川管理用通路を整備し、市街地を拠点とした安全・利便性に配慮したフットパスルートを確保し、岩見沢市が推進する「健康経営都市」の理念を踏まえた“だれもが健康で元気に暮らせる水辺空間”を創出します。

2. ハード施策の内容

北海道　　：　河川管理用通路、親水護岸　等
岩見沢市　：　案内看板　等

3. ソフト施策の内容

岩見沢市　：　フットパスの設定、苗木（千本桜）の植樹、灯籠流し、芸術品の展覧会　等



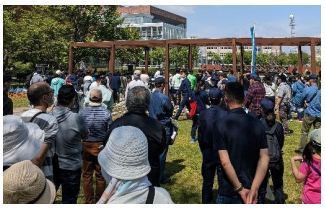
利根別川かわまちづくり

石狩川水系利根別川（北海道岩見沢市）【補】

事業実施の効果



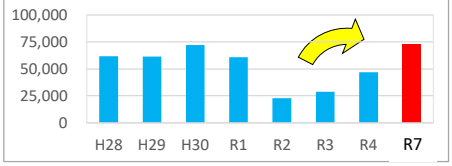
河川管理用通路の整備により、はぎその緑地と近隣施設及び岩見沢市街地の連続性・周遊性を向上させ利用増進を図る。



はぎその緑地を地域住民が利用している様子

指標名：周辺施設利用実績

効果（方向性）
・周辺施設の利用人数を調査し、経年的な推移を整理・検証します。



事業実施の効果



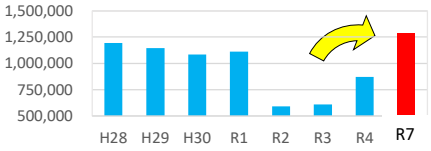
地元の農業高校による植栽の展示会、即売会を行ったり、地元大学や障害者による芸術品の展示会を管理用通路やはぎその緑地等を含め"まち一帯"で行うなど、利根別川の景観を活かしたイベントで、観光者の増を図る。



花と苗木のマーケットの様子

指標名：岩見沢市観光入込数

効果（方向性）
・岩見沢市の観光入込数を調査し、経年的な推移を整理・検証します。



事業実施の効果



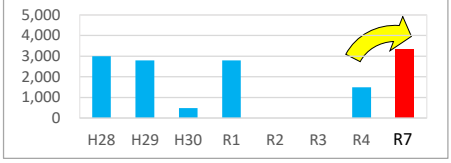
利根別川一帯の河川管理用通路（散策路）及び親水護岸を整備することで、さらなる活性化につなげることができる。



利根別川クリーン・グリーン作戦の様子

指標名：利根別川ｸﾘｰﾝ･ｸﾞﾘｰﾝ作戦の参加者数

効果（方向性）
・イベントの参加者数を調査し、経年的な推移を整理・検証します。



※H30は雨天のため一部イベントのみ実施、R2、R3は新型コロナ感染症拡大防止のため中止

利根別川かわまちづくり

石狩川水系利根別川（北海道岩見沢市）【補】

ソフト施策



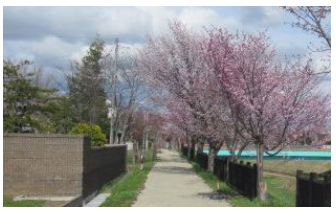
利根別川クリーン・グリーン作戦（5月）



花と苗木のマーケット（5月）



はぎその緑地



桜鑑賞（4月～5月）

＜参画機関＞

・「利根別川かわまちづくり計画」作成に伴う意見交換会を開催し、地域との合意形成のもと、河川管理者、岩見沢市、利根別川をきれいにする市民の会、北海道教育大学岩見沢校、岩見沢農業高校、南小学校、その他地域活動団体と連携を図りながら、かわまちづくりを推進する。

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・はぎその緑地
・岩見沢農業高校や南小学校における環境学習等の授業の場として活用する。

＜かわまちの運営（維持管理）＞

・河川管理施設の維持管理は、施設管理者が行う。
北海道：河川管理用通路
・河川等占用施設の維持管理は施設管理者が行う。
岩見沢市：案内看板、桜並木
・日常的な施設管理、清掃等については、地元市民や関係機関が実施する。３０年近く利根別川で活動している「利根別川をきれいにする市民の会」との連携を図る。

【R1年度】水辺を生かした湯の川温泉の賑わい空間の創出

「松倉川かわまちづくり」（北海道函館市）

登録年月日：R2.3.13
事業年度：R2～R12

対象河川　：　二級河川　松倉川水系松倉川　【道管理河川】
市町村名　：　北海道函館市
推進主体　：　函館市



1. 概要

松倉川下流部は、年間100万人ほどが宿泊する湯の川温泉街が位置しており、河口部では「湯の川温泉花火大会」など地域のイベントに利用され、また、近接する函館市熱帯植物園には多くの市民や観光客が訪れています。

本計画では、松倉川下流部の親水護岸の整備による安全で安心な水辺へのアクセス向上や景観向上、また河川管理用通路を活用して周辺観光施設との周遊性を向上させ、外国語表記の案内看板や誘導サインの設置によりインバウンド含む観光客の増大を図り地域経済の活性化に寄与します。川に近づける親水護岸の整備により、観光客や子供達を対象とした観察会や環境学習の実施など学びの場を創出します。

北海道では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備のほか、河川空間において営利活動を実施する場合には、河川敷地占用許可準則第22条に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

北海道　：　親水護岸、河川管理用通路　等
函館市　：　案内看板、誘導サインの設置

3. ソフト施策の内容

函館市　：　各種イベントの企画・促進、サイクリングコース・ウォーキングコースマップの作成
案内看板・標識の外国語表記、ユニバーサルデザイン化　等



基盤地図／国土地理院：「基盤地図情報サイト」を使用



空中写真／
国土地理院：「地図・空中写真閲覧サービス」を使用


導流堤（通路）イメージ


親水護岸


花火大会
画像提供／函館イベントガイド


函館市熱帯植物園
画像提供／函館イベントガイド

松倉川かわまちづくり

松倉川水系松倉川（北海道函館市）【補】

事業実施の効果



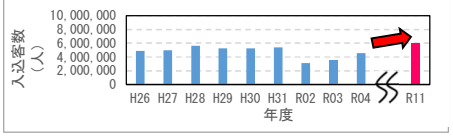
河川管理用通路を整備することにより、湯川地区に人が集まり経済効果を期待



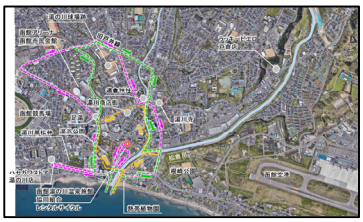
花火大会等により観光入込客数の増加

指標名　観光入込客数

・函館市の観光入込客数を調査し、経年的な推移を整理・検証。



事業実施の効果



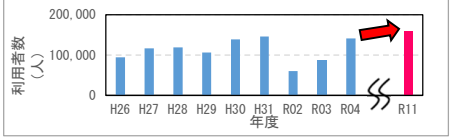
サイクリング・ウォーキングコースの設定により、近隣施設との連続性を向上



熱帯植物園を利用している観光客増加

指標名　植物園利用数

・熱帯植物園の利用者数を調査し、経年的な推移を整理・検証。



事業実施の効果



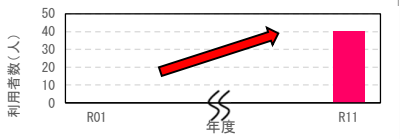
親水護岸を整備することにより、水辺を利用しやすくする



水辺を利用した環境学習等が実施可能

指標名　環境学習利用人数

・環境学習等の参加人数を調査し、経年的な推移を整理・検証。



松倉川かわまちづくり

松倉川水系松倉川（北海道函館市）【補】

ソフト施策



湯の川温泉花火大会の継続実施及び拡大



親水護岸での灯篭流しの復活



河川管理用通路等を利用したウォーキングツアー等の実施



親水護岸でのサケの遡上観察会の実施

＜参画機関＞

函館市、河川管理者、地元町内会、函館湯の川温泉旅館協同組合、地域活動団体などの各種団体との連携を図りながら、意見交換を行い、地域の合意形成の基、松倉川かわまちづくり実施計画を作成する。

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

今後、河川区域の河川占有の緩和を実施し、バル街やオープンカフェとしての利用が可能になるようにし、水辺空間の利用や周辺の賑わいを創出する。

＜かわまちの運営（維持管理）＞

・河川管理施設の維持管理は、施設管理者が行う。
　北海道：親水護岸、河川管理用通路、護岸、転落防止柵
・河川等占用施設の維持管理は施設管理者が行う。
　函館市：案内看板、誘導サイン

・この外、地元関係者との協働により、日常の維持管理（清掃等）を行う。

【R5年度】

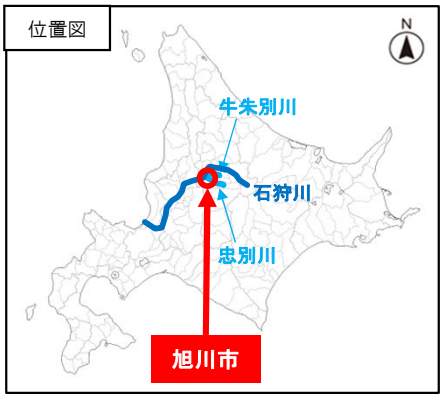
「旭川駅周辺かわまちづくり」（北海道旭川市）

登録年月日：R5.8.10
事業年度：R6～R15

対象河川　：　一級河川　石狩川水系忠別川・牛朱別川【国管理河川】

市町村名　：　北海道旭川市

推進主体　：　旭川市



1. 概要

旭川市では「第8次旭川市総合計画」に基づき、食と農等の様々な地域の資源や特性を活かした地場産業の振興やブランド力の向上等を図っており、本計画では、地域観光のゲートウェイであるJR旭川駅南側地区と忠別川・牛朱別川が一体となった水辺整備を行い、観光・まちづくりによる賑わいの創出により、旭川市街地の地域活性化を図ります。

国土交通省では、この取り組みに対し、必要となる河川管理施設を整備のほか、河川空間において営利活動を実施する場合には、河川敷地占用許可準則第22に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：［忠別川］親水広場、取付道路［牛朱別川］側帯
旭川市　　：［忠別川］橋梁標示、周遊コース案内看板［牛朱別川］路面標示

3. ソフト施策の内容

旭川市　　：　水辺空間での新たなイベント・アウトドア利用等



旭川駅周辺かわまちづくり

石狩川水系忠別川・牛朱別川（北海道旭川市）【直】

事業実施の効果



木が繁茂しておりラフティングボートの乗り降りが非常に難しい状況であった



親水広場が整備され、ボート乗り降りや水遊びも可能となり、利用者増加が見込まれる

事業実施の効果



路面標示がなく、道路と交差せず走行できるルートがわかりづらい状況であった

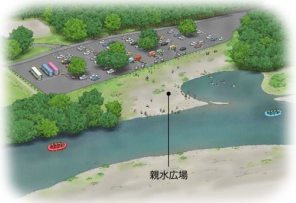


路面標示により、車道と交差することなく安心して長距離サイクリングをすることができる

事業実施の効果



神楽岡公園からは忠別川を見て水辺に親しむことができず、親水性が良好ではない状況であった

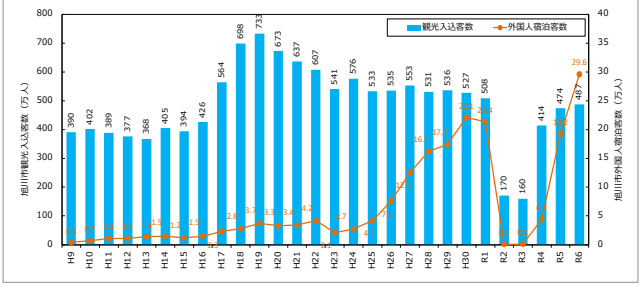


立木伐開により河川からも公園からも認識できるとともに、親水広場の整備によりラフティング中継地にも活用できる

観光入込客数・レンタサイクル台数

効果（定量的指標）

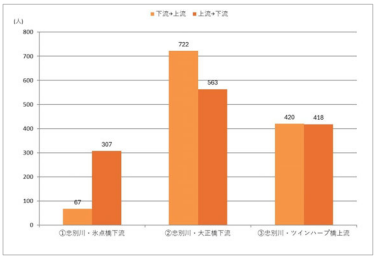
・整備後の旭川市内の観光入込客数、レンタサイクル台数に関するデータを収集し、経年的な推移を整理する。

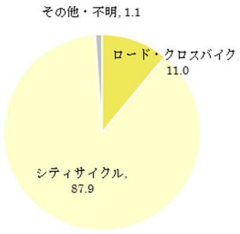


河川管理用通路の利用者数・利用形態

効果（方向性）

・河川管理用通路、親水広場等整備後の利用者数・利用形態（散策、ジョギング、サイクリング等）に関する調査を実施し、経年的な推移を整理する。





令和7年8月調査結果

旭川駅周辺かわまちづくり

石狩川水系忠別川・牛朱別川（北海道旭川市）【直】

ソフト施策



かわまちフェス（水辺で乾杯）



かわまちフェス（キッチンカー）



バーサーロペット・ジャパン



北彩都ガーデンフェスタ

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・河川法24条により旭川市が施設を占用している。
・今後、都市・地域再生等利用区域の指定や周辺地域との連携について検討を進める。

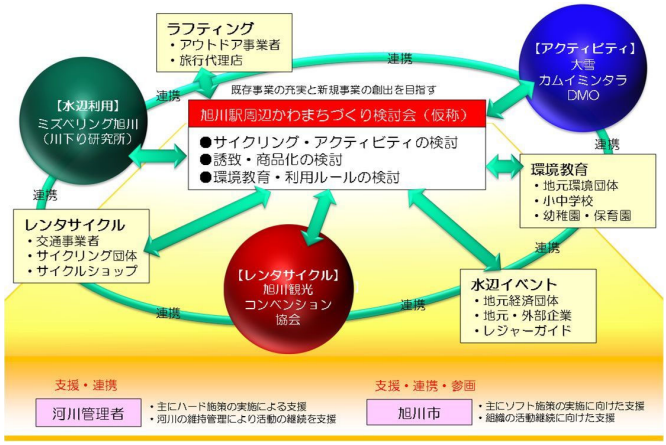
○今後の展望

・地域の歴史・文化や市民のニーズを踏まえ、関係団体等と連携して、水辺空間を活用した新たなイベント・アウトドア利用、河川管理用通路等を活用したファットバイクやスノーランニング等の冬のアクティビティを推進し、地域の魅力向上及びブランドイメージ定着を図る。

＜参画機関＞

○参画機関

・学識経験者、地元関係者等からなる「旭川駅周辺かわまちづくり懇談会」を設立し、河川空間とまち空間が融合した良好な空間形成を目指す取組について議論。
・関係機関や複数の専門家等の支援を得ながら、推進していく。



＜かわまちの運営（維持管理）＞

○施設整備後の維持管理状況

・河川管理施設等の防災上必要とされる施設機能の維持管理は、施設管理者が行う（国交省：河川管理用通路等）。
・河川等の占用に伴う日常的な維持管理・清掃に関しては、地元関係者と連携して旭川市が実施する（旭川市：看板等）。
・維持管理費用については、官民で分担して永続的に維持管理が可能となるよう、適切なライフサイクルコストを検討していく。

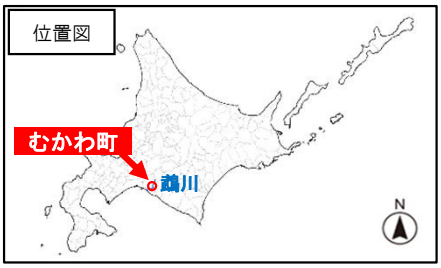
「むかわ町かわまちづくり」（北海道勇払郡むかわ町）

登録年月日：R6.8.8
事業年度：R7～R16

対象河川 ： 一級河川 鵡川水系鵡川 【国管理河川】

市町村名 ： 北海道勇払郡むかわ町

推進主体 ： むかわ町まちづくり委員会



1. 概要

むかわ町では、町名ともなっている鵡川を活かし、「むかわファンを増やし、賑わいと活力を創る」を基本方針として、地域産業の活性化とまちなかの再生に取り組んでおります。

この取組を充実させるため、本計画では、まちなかに点在する既設施設（四季の館、穂別博物館等）の活用の充実・強化に合わせ、河川敷地にある既設整備箇所（たんぽぽ公園、リバーサイドパーク等）の利用向上に資する環境整備により、サイクリングやSUP・カヌーなどのアクティビティーの民間事業者等の誘致を図り、居心地がよく歩きたくなる回遊性の高い賑わいのあるまちづくりを推進します。

国土交通省では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備のほか、河川空間において営利活動を実施する場合には、河川占用敷地許可準則22条に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます

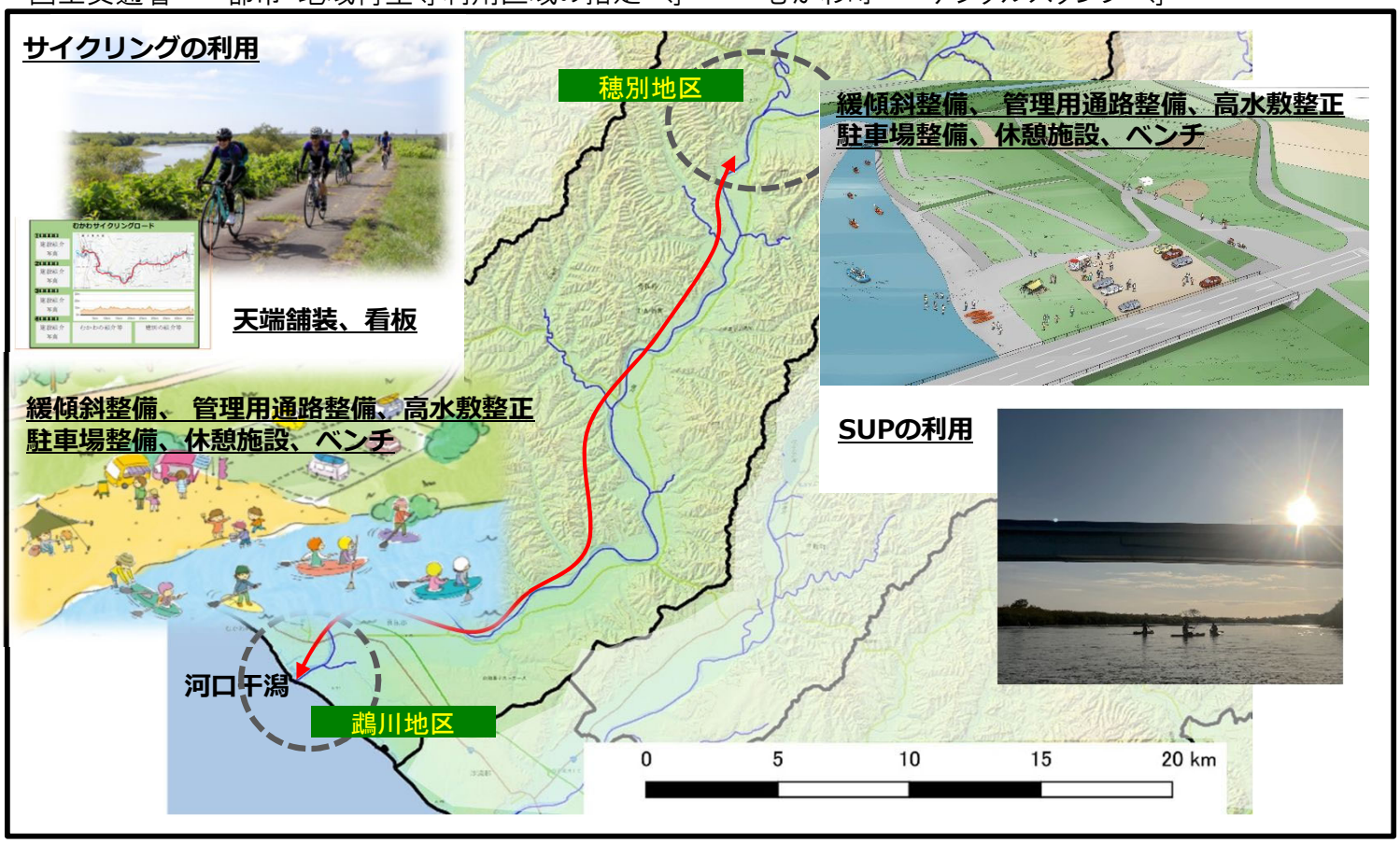
2. ハード施策の内容

国土交通省 ： 緩傾斜整備、管理用通路整備、高水敷整正、天端舗装

むかわ町 ： 駐車場整備、休憩施設、ベンチ、看板

3. ソフト施策の内容

国土交通省 ： 都市・地域再生等利用区域の指定 等　　むかわ町 ： デジタルスタンプ 等



むかわ町かわまちづくり

鵡川水系鵡川（北海道勇払郡むかわ町）【直】

事業実施の効果



急勾配かつ水際に草木が繁茂し、水際までのアクセスが困難であり、水遊び、SUP・カヌー等で安全な乗降ができない。



水際までのアクセス性が向上し、子どもたちの水遊びや環境学習での利用、周辺の交流拠点施設からの誘客が期待できる。

指標名
整備箇所周辺の交流拠点施設等の入込客数

効果（方向性）
・道の駅「むかわ四季の館」の来場者数、整備箇所周辺で開催される各種イベント数やその来場者数に関する調査を実施し、経年的な推移を整理します。

事業実施の効果



急勾配な水際に草木が繁茂し、水際までのアクセスが困難であり、一般道から水辺空間にアプローチするための動線が狭くなっている。



水際までのアクセス性・SUP・カヌー等の水辺アクティビティの利便性が向上し、水辺アクティビティ利用の増加が期待できる。

指標名
整備箇所での水辺アクティビティ利用者数

効果（方向性）
・かわまちづくり整備箇所（緩傾斜）でのSUP・カヌー等の水辺アクティビティ利用者に関する調査を実施し、経年的な推移を整理します。

事業実施の効果



鵡川地区～穂別地区においてサイクリング利用が盛んであるが、堤防天端未舗装区間が存在し、利用が困難な箇所が存在する。



堤防天端未舗装区間が解消されることにより、サイクリング利用時の安全走行性が向上し、サイクリング利用の増加が期待できる。

指標名
河川管理用通路の利用者数・利用形態

効果（方向性）
・河川管理用通路（堤防舗装）整備後の利用者数・利用形態（散策、ジョギング、サイクリング等）に関する調査を実施し、経年的な推移を整理します。

むかわ町かわまちづくり

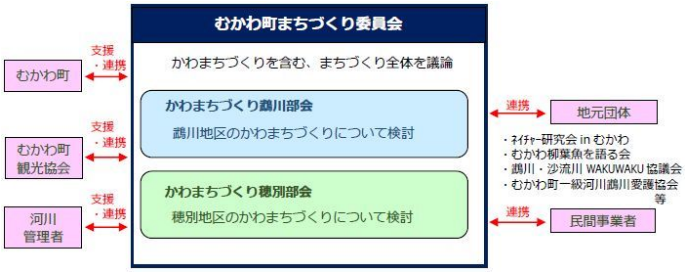
鵡川水系鵡川（北海道勇払郡むかわ町）【直】



＜参画機関＞

○参画機関
・「むかわ町まちづくり委員会」を設置し、かわまちづくりに関する議論、地域の意向を踏まえた取組の策定・具体化を行っている。
・河川に関わる地域の団体や河川管理者が参加し「かわまちづくり鵡川部会」「かわまちづくり穂別部会」を組織し、かわまちづくりにおける整備内容や利活用、維持管理計画を議論している。

○今後の展望
・今後も、現状の体制を維持し施策を実施していく予定である。



＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況
・「都市・地域再生等利用区域」への指定に向けた検討を進めており、河川管理者、むかわ町、むかわ町まちづくり委員会、事業者で構成する事業スキームにより、民間利用者の河川空間での活動を推進していく予定である。

○今後の展望
・今後、河川管理用道路、緩傾斜等を利用して、SUPやカヌー等の水辺アクティビティや自然体験・川遊び企画等の民間事業者との提携により、鵡川沿いでのテントサウナのイベントを企画し、鵡川で非日常の体験を味わえるようにしていく予定である。

＜かわまちの運営（維持管理）＞

○施設整備後の維持管理状況
・河川管理施設等の防災上必要とされる施設機能の維持管理は、施設管理者が行う（国交省：河川管理用道路等）。
・河川等の占用に伴う占用物に対する日常的な維持管理・清掃に関しては、地元関係者と連携してむかわ町が実施する（むかわ町：看板等）。
・維持管理費用については、官民で分担して永続的に維持管理が可能となるよう、適切なライフサイクルコストを検討していく。

○今後の展望
・今後も、上記の体制を維持し維持管理を実施していく予定である。

【R6年度】湯のぬくもり、川のきらめき。定山渓でほっと一息

「定山渓温泉かわまちづくり」（北海道札幌市）

登録年月日：R6.8.8
事業年度：R7～R9

対象河川　：　一級河川　石狩川水系豊平川【道管理河川】
市町村名　：　北海道札幌市
推進主体　：　札幌市



1. 概要

札幌市では、札幌市・北海道の強みである食や観光分野の産業を活かし、札幌市はもとより北海道の経済成長をけん引するまちを目指しています。定山渓地域は支笏洞爺国立公園の区域内に位置する緑豊かな温泉地で、足湯等の観光施設環境整備を進め、定山渓観光協会や定山渓温泉旅館組合などと連携しながら定山渓を代表するイベントを開催しエリア内の周遊促進と賑わいづくりを進めています。

北海道では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備のほか、河川空間において営利活動を実施する場合には、河川敷地占用許可準則第22条に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

北海道　：　親水護岸、河川管理用通路　等

札幌市　：　観光施設（足湯、園地整備、市道整備　等）
観光協会：　案内施設　等

3. ソフト施策の内容

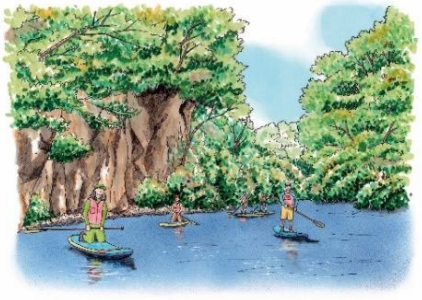
北海道　：　都市・地域再生等利用区域の指定　等

札幌市　：　パンフレット作成　等
観光協会：　各種イベントの開催　等









定山渓温泉かわまちづくり

石狩川水系豊平川（北海道札幌市）【補】

事業実施の効果



整備前



整備イメージ

指標名　未定

定山渓観光魅力アップ構想（2025改定予定）等を踏まえて目標を設定

事業実施の効果

指標名

事業実施の効果

指標名

定山渓温泉かわまちづくり

石狩川水系豊平川（北海道札幌市）【補】

ソフト施策


渓流鯉のぼり


定山渓ネイチャールミナリエ


カヌー、ＳＵＰ等のアクティビティ


雪灯路

＜参画機関＞

・令和5年7月、札幌市、学識経験者、地元関係者等からなる「定山渓地区（豊平川）かわまちづくり協議会」を設立し、定山渓温泉地区を拠点とする豊平川の水辺整備・利活用により、四季折々豊かな自然風景を活かした、地域特有の観光資源・アクティビティとの有機的な連携を図り、河川空間とまち空間が融合した良好な空間形成を目指す取組について議論してきた。

・令和5年9月以降、協議会委員以外の地域住民等も参画した「定山渓地区（豊平川）かわまちづくりワークショップ」を定期的に開催し、水辺整備や河川空間の利活用推進に向けた意見交換を行っている。


協議会開催状況


ワークショップ開催状況

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・河川敷地占用許可準則22条による、都市・地域再生等利用区域の区域指定に向け協議中であり、今後指定予定

＜かわまちの運営（維持管理）＞

・施設の維持管理については、施設管理者が行う。
　：北海道（親水護岸、管理用通路　等）
　：札幌市（足湯、公園施設、市道　等）
　：定山渓観光協会（案内施設　等）

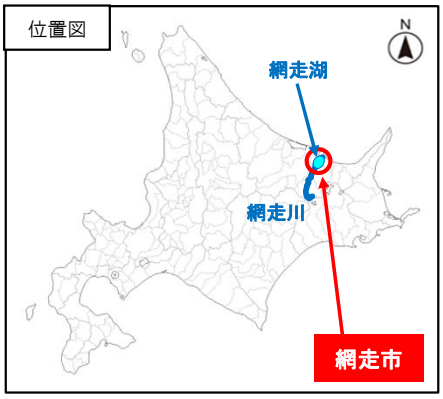
・日常的な施設管理、清掃等については占用者（委託管理者含む）が行う。

【R7年度】網走湖の豊かな自然環境を活かした賑わいづくり

「網走湖呼人地区かわまち」（北海道網走市）

登録年月日：R7.8.1
事業年度：R8～R17

対象河川　：　一級河川　網走川水系網走湖　【国管理河川】
市町村名　：　北海道網走市
推進主体　：　網走市



1. 概要

網走市では「第6期網走市総合計画」等に基づき、網走湖呼人地区の自然空間でのレクリエーション機能向上を目指しており、本計画では網走湖呼人地区を地域観光拠点に位置づけ、網走湖畔の連続的な水辺整備を行い、水辺とまちをつなぐ人の流れや河川空間の賑わいの創出により、網走市の地域活性化を図ります。

国土交通省では、この取り組みに対し、必要となる河川管理施設を整備するほか、河川敷地占用許可準則22条に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　河川管理用通路、親水護岸、緩傾斜整備・高水敷整正、取付道路
網走市　　：　利活用拠点整備（既存施設の有効活用）、案内看板

3. ソフト施策の内容

国土交通省　：　都市・地域再生等利用区域の指定　等
網走市　　：　アウトドア事業者等と連携した、年間を通した水辺空間を活用した新たなイベント・アウトドア利用の企画、網走湖の歴史・自然を学ぶ体験学習等の推進、網走湖と周辺の観光交流施設をつなぐ多様なアクティビティモデルコースの設定　等



網走湖呼人地区かわまちづくり

網走川水系網走湖（北海道網走市）【直】

事業実施の効果



水辺のアクセス性が良好ではなく、水辺の移動の連続性が確保されていない状況であった



国道39号と呼人浦キャンプ場を繋ぐ取付道路を整備し、周辺からのアクセス性向上を図る

事業実施の効果



国道39号から水辺までの間に繁茂した樹木があり、水辺へのアクセスが阻害されていた



網走湖畔沿いに河川管理用通路を整備し、水辺の連続性や新たな観光動線を確保する

事業実施の効果



網走湖畔に点在する水辺アクティビティの利活用拠点の連携や有効活用が課題となっていた

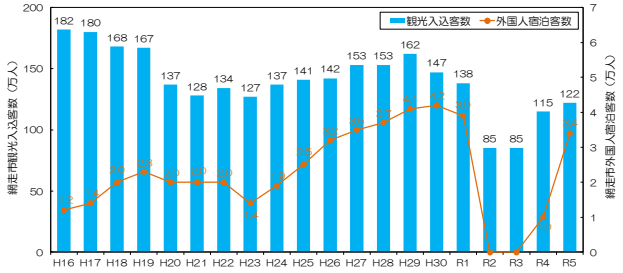


既存施設を水辺アクティビティ、サイクリング、水難救助活動（スロープや浮き輪等の緊急時用装備の備蓄等）の拠点として有効活用する

観光入込客数・レンタサイクル台数

効果（方向性）

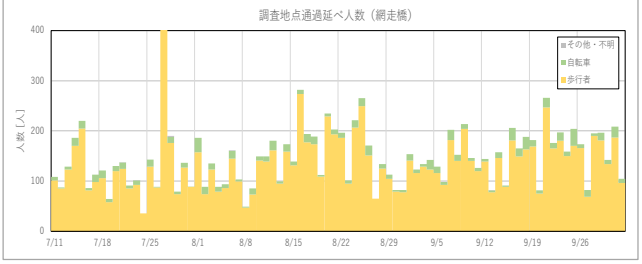
・整備後の網走市内の観光入込客数、レンタサイクル台数に関するデータを収集し、経年的な推移を整理する。



河川管理用通路の利用者数・利用形態

効果（方向性）

・河川管理用通路整備後の利用者数・利用形態（散策、ジョギング、サイクリング等）に関する調査を実施し、経年的な推移を整理する。



網走湖呼人地区かわまちづくり

網走川水系網走湖（北海道網走市）【直】

ソフト施策









＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・令和3年10月に、河川敷地占用許可準則22条による、都市・地域再生等利用区域の指定を計画範囲内で受けたため、今後、指定区域の拡大や周辺地域との連携について検討を進める。

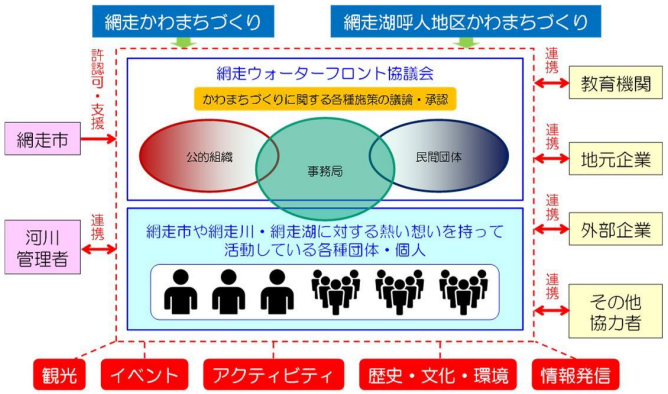
○今後の展望

・今後、地域の歴史・文化や市民のニーズを踏まえ、アウトドア事業者等と連携して、夏季のSUP、水上ヨガ体験や冬季の網走湖の凍った湖面を活用したファットバイクやスノーランニング等、水辺空間を活用した新たなイベント・アウトドア利用を企画・実施していく予定である。

＜参画機関＞

○参画機関

・かわまちづくりに関する議論の場としてNPO、地元住民で構成する「網走ウォーターフロント協議会」を設置し、地域の意向を踏まえた観光振興策の策定・具体化を行っている。
・関係機関や複数の専門家等の支援を得ながら、推進していく。
・既に推進されている「網走かわまちづくり」と連携しながら、広域的なまちづくりを推進していく。



＜かわまちの運営（維持管理）＞

○施設整備後の維持管理状況

・河川管理施設等の防災上必要とされる施設機能の維持管理は、施設管理者が行う（国交省：河川管理用通路等）。
・河川等の占用に伴う日常的な維持管理・清掃に関しては、地元関係者と連携して網走市が実施する（網走市：看板等）。
・維持管理費用については、官民で分担して永続的に維持管理が可能となるよう、適切なライフサイクルコストを検討していく。

04 かわまちづくり計画　事例集

東北地方整備局管内

【H21年度】弘前中心地の活性化と親水機能を両立させた、歩いて楽しい土淵川

「弘前地区かわまちづくり」（青森県弘前市）

登録年月日：H21.5.22
事業年度：H21～H25

対象河川　：　一級河川　岩木川水系土淵川　【県管理河川】
市町村名　：　青森県弘前市
推進主体　：　青森県



1. 概要

土淵川の徒橋下流1,060m区間においては、親水空間の整備が行われ、定期的な清掃活動や地元団体によるボランティア活動等により良好な環境を保ち親しまれてきたところですが、土手町商店街を流れるその上流区間については、買い物客等が川に親しめるような状況ではないことから、弘前地区かわまちづくりとして新たに徒橋上流1,120m区間において、低水路工、遊歩道工の整備等、平成20年7月に認定された「弘前市中心市街地活性化基本計画」におけるまちづくりと一体となった整備を行います。

2. ハード施策の内容

青森県　：　管理用通路、階段工、低水護岸、魚道　　弘前市　：　照明、公園･広場、歩道改良

3. ソフト施策の内容

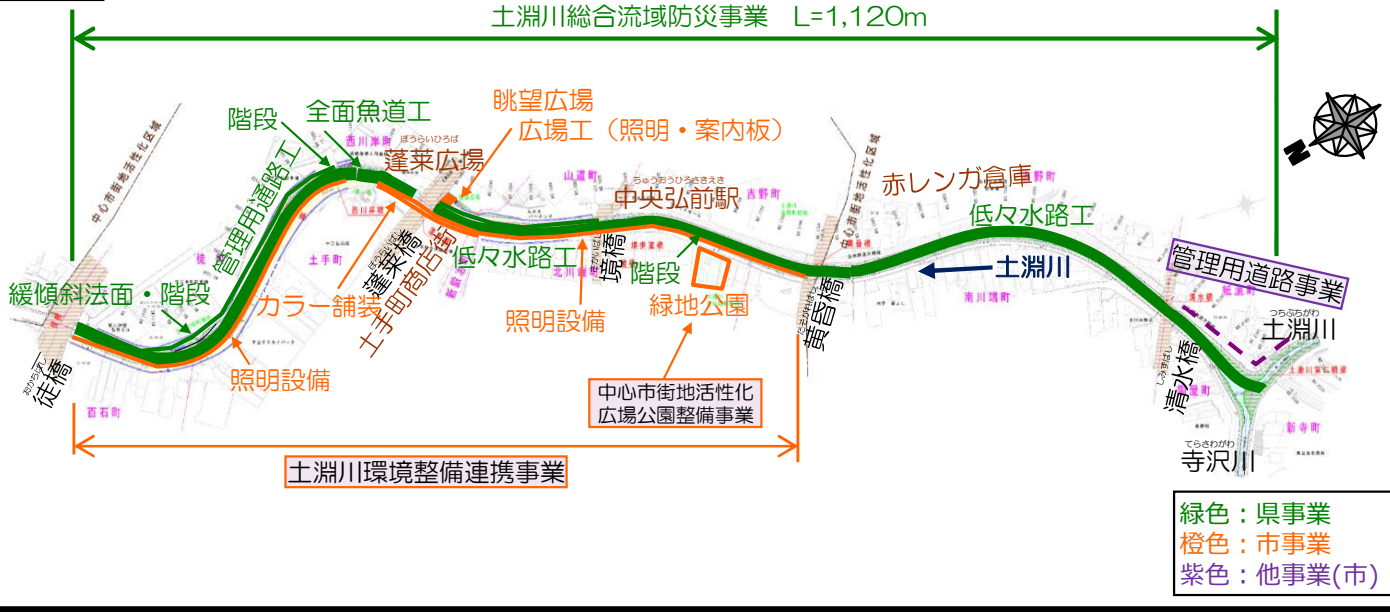
弘前市　：　情報発信、案内板設置　　民間　：　定期イベント、稚魚放流、河川清掃







平面図



弘前地区かわまちづくり【完】

岩木川水系土淵川（青森県弘前市）【補】

事業実施の効果





周遊性の向上

〈利用者の声〉

・以前は暗い感じだった土淵川周辺が、明るくて都会的な雰囲気になり、幼稚園に通う子供と散歩していても楽しいです！　（20代女性・弘前市在住）

・毎朝通勤時に土淵川の風景を見ながら歩くことが朝の楽しみの一つとなりました！　（30代男性・弘前市在住）

事業実施の効果





親水性の向上

地域住民がイベント等により水辺に親しむことができる空間を創出

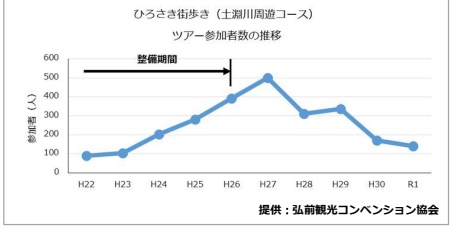


事業実施の効果





にぎわいの創出



弘前地区かわまちづくり【完】

岩木川水系土淵川（青森県弘前市）【補】

ソフト施策







＜水辺空間の利活用状況＞

土淵川プロジェクションイベント

：護岸へCG映像を投影したアート作品

ひろさき街歩き・弘前路地裏探偵団

：管理用通路を周遊コースとして利用





＜参画機関＞

行政や地元関係者、有識者等から構成する協議会などで検討を行い、民間事業者と連携し、さまざまなイベントに河川空間を活用しています。



カルチュアロード：市民サークルや地場産業を紹介するイベントを開催





エレクトリカルファンタジー

：ライトアップと街路樹のイルミネーションで各所を照らす

＜かわまちの運営（維持管理）＞

青森県水辺のサポーターにより、ゴミ拾い、草刈などの常時の維持管理を行うほか、施設の維持は県が実施しています。





【H21年度】かわとお城を中心に歩いて楽しむかわまちづくり

「盛岡地区かわまちづくり」（岩手県盛岡市）

登録年月日：H21.5.22
事業年度：H21～R7

対象河川　：　一級河川　北上川水系北上川・中津川　【国管理河川】
市町村名　：　岩手県盛岡市
推進主体　：　盛岡市



1. 概要

盛岡市では、地域の景観、歴史、文化等の資源を活かした取り組みに取り組んでいます。

この取り組みを充実させるため、本計画では、河川管理用通路、親水護岸の整備等を行うことにより、良好な水辺空間を創出し、地域の活性化を推進するとともに観光振興を図ります。

国土交通省では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備のほか、河川空間において営利活動を実施する場合には、河川敷地占用許可準則第22に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　河川管理用通路、親水護岸　等
盛　岡　市　：　もりおか歴史文化館、もりおか町家物語館、案内看板　等

3. ソフト施策の内容

国土交通省　：　都市・地域再生等利用区域の指定　等　　盛岡市　：　舟運の社会実験　等


木伏緑地ともりおか港


チャグチャグ馬コ


北上川フェスタ


盛岡舟っこ流し

盛岡地区かわまちづくり

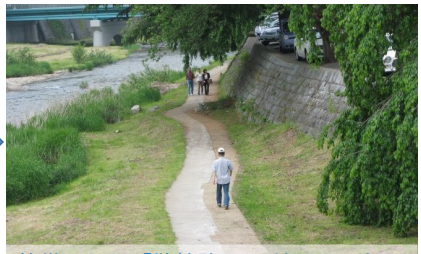
北上川水系北上川・中津川（岩手県盛岡市）【直】

事業実施の効果



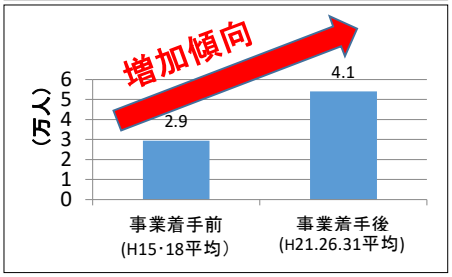


高水敷への散策路整備



整備された「散策路」を利用する人々

河川利用者が増加



事業実施の効果

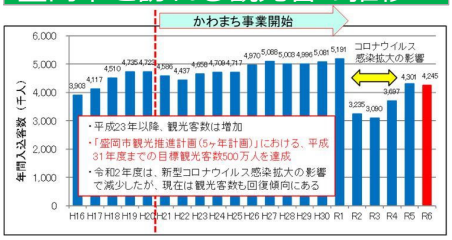


整備前の急勾配な簡易階段



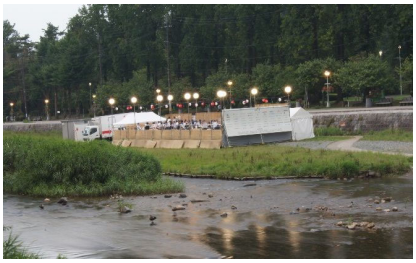
周辺の景観と合わせた緩勾配の階段

盛岡市を訪れる観光客の推移



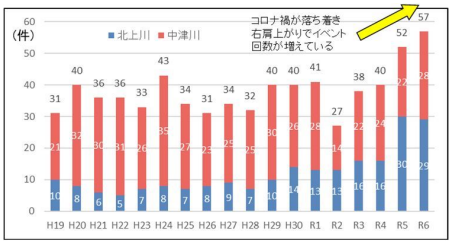
事業実施の効果





新たな夏の風物詩を目指し「中津川納涼桟敷」を試行

河川敷で行われるイベント回数が増加



盛岡地区かわまちづくり

北上川水系北上川・中津川（岩手県盛岡市）【直】

ソフト施策内容

- 整備されたオープンスペースを利用し、年間20回以上のイベントが継続的に実施されている。

<毎年開催される主なイベント>
- 大盛岡神輿祭り（中津川）
- 川守稲荷荒神神社祭（北上川）
- チャグチャグ馬コ（中津川）
- 北上川ゴムボート川下り大会（北上川）
- 舟っこ流し（北上川）
- 24時間テレビ（中津川）
- 北上川フェスタ　IN　MORIOKA　等々



水のほとり映画会（中の橋上流）





サケ稚魚放流会（中津川・中の橋下流）



舟運イベント（北上川・開運橋上流）と連携した河川敷のキャンプイベント



チャグチャグ馬コ





木伏緑地3周年「焚火トーク」



いわて健康ウォーク（中津川散策路）

<水辺空間の利活用状況>
○かわまち計画範囲内の占用許可状況

- オープンスペースを活用した「都市・地域再生等利用区域」の指定にむけて「オープンカフェ」、「中津川納涼桟敷」等の社会実験を実施。
- 現段階では、各団体による独自のイベント開催等について一時占用により実施している状況。
- 各種社会実験についても同様に一時占用にて実施。

<参画機関>

- かわまち計画策定にあたり、学識者や地域商工団体等による「盛岡地区かわまちづくり懇談会」を設置し、事業の進捗状況、今後の展開方針等を議論している。
- 地域で活動している方を中心に「盛岡地区かわまちづくり勉強会」を設置し、今後の利活用、維持管理手法等について議論を行っている。
- 平成26年度にミズベリング勉強会を開催
- 「北上川に舟っこを運航する盛岡の会」による舟運の情景復活
- 令和元年度から「（仮称）ミズベリング中津川」を開催

<かわまちの運営（維持管理）>

施設整備後の維持管理状況

- 地域団体等による清掃活動や特定外来植物の駆除活動などが積極的に行われ始めている。
- 河川協力団体による維持管理活動についても検討中。

【H21年度】

「鴇波地区かわまちづくり」（宮城県登米市）

登録年月日：H21.5.22
事業年度：H18～H21

対象河川　：　一級河川　北上川水系北上川　【国管理河川】
市町村名　：　宮城県登米市
推進主体　：　登米市



1. 概要

登米市では、「登米市総合計画」において、市内を貫流する北上川、迫川やラムサール条約指定登録湿地の伊豆沼・内沼などの豊かな自然を活かした「うるおいのあるまちづくり」を図っています。また、「登米市都市計画マスタープラン」では、北上川と迫川の河川敷を利用した親水・交流空間「水辺軸」として位置付けています。

この取組を充実させるため、本計画では、河川改修の歴史、土木遺産となっている分流施設等が存在していることから、河川の歴史を学ぶことのできる交流拠点として、登米市が実施する公園事業等と一体となった整備を実施し、地域の活性化を図ります。

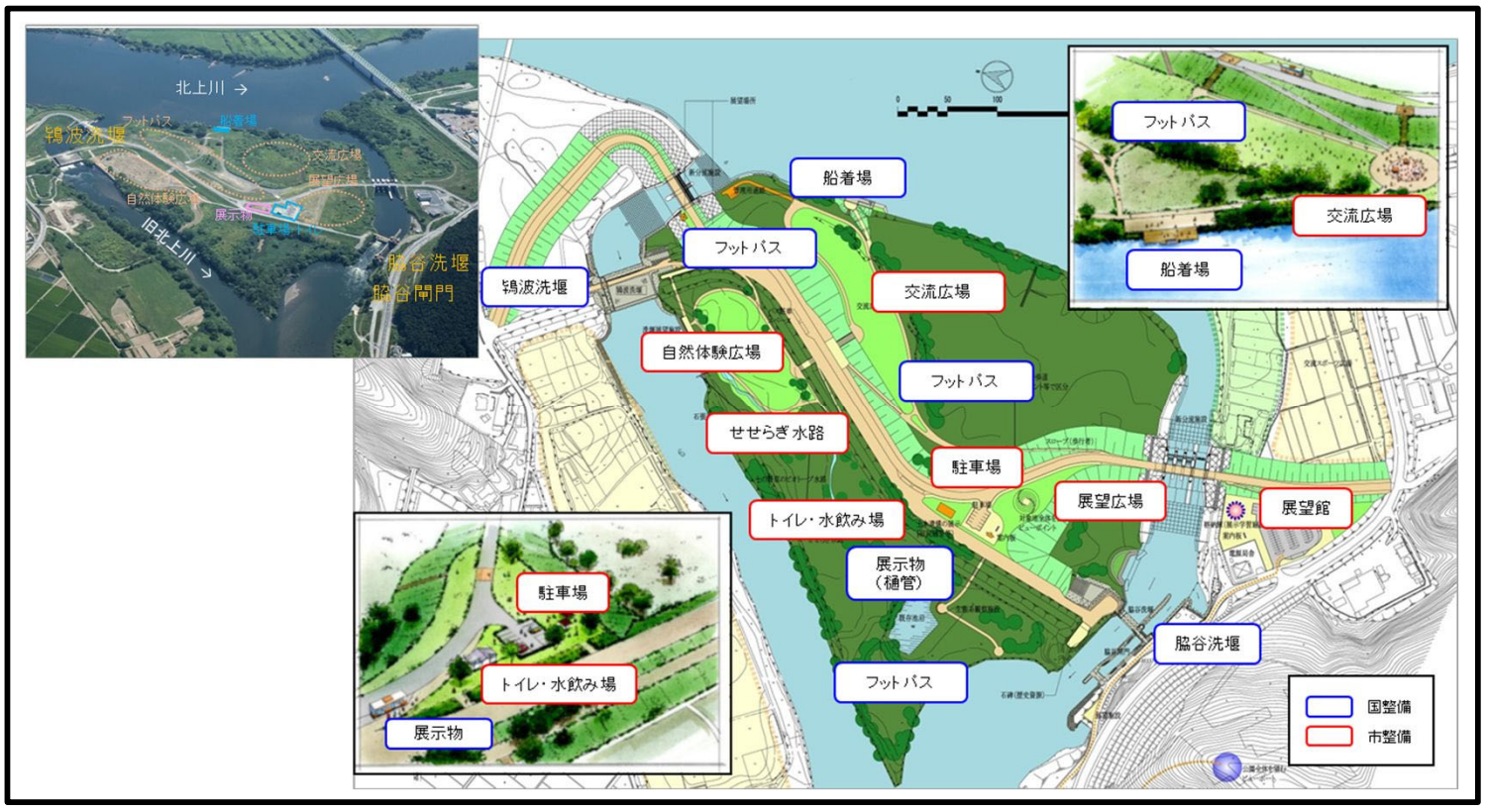
国土交通省では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備のほか、河川空間において営利活動を実施する場合には、河川敷地占用許可準則22条に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　堤防、護岸、管理用通路、分流施設、階段　等
登米市　：　広場の芝生、散策路、展望広場、案内看板　等
石巻市　：　観察広場舗装

3. ソフト施策の内容

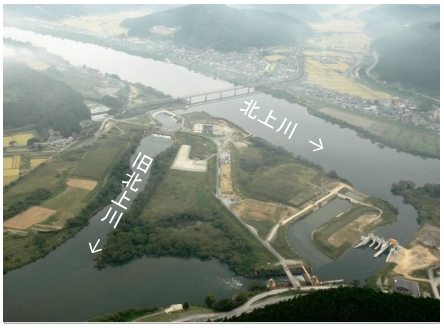
国土交通省　：　都市・地域再生等利用区域の指定　等　　登米市　：　情報発信、舟運、各種イベント　等



鴇波地区かわまちづくり【完】

北上川水系北上川（宮城県登米市）【直】

事業実施の効果





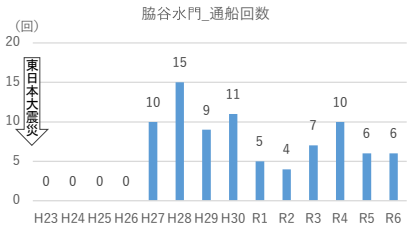
歴史公園は「学ぶ、体験する、交流する」をテーマとした河川歴史公園の整備を地元と協働で実施。

事業実施の効果





舟運実態調査

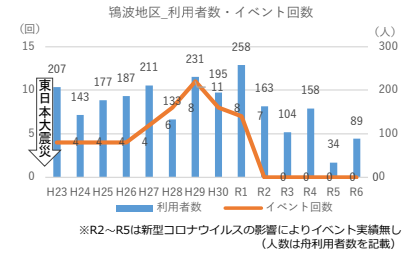


事業実施の効果





イベント実態調査



※R2～R5は新型コロナウイルスの影響によりイベント実績無し
（人数は舟利用者数を記載）

鴇波地区かわまちづくり【完】

北上川水系北上川（宮城県登米市）【直】

ソフト施策

- 鴇波地区周辺では、秋まつりや地元食材を活用したイベントが開催されている。整備箇所は広域的な観光・交流の公園として位置付けられており、オープンスペースを活用したイベントが計画されている。
- 北上川の歴史を学ぶ場として周辺地域の小学生の総合学習に利用されています。





※R2、R3は新型コロナウイルスの影響によりイベント実績無し

<参画機関>

- 地元の行政、市民団体、住民等で構成する「北上川河川歴史公園ワークショップ」により地域の意向を計画に反映してきた。



<水辺空間の利活用状況>

○かわまち計画範囲内の占用許可状況歴史公園は、既存の水辺プラザと連携し、北上川及び旧北上川の舟下り体験等の起終点として活用している。





<かわまちの運営（維持管理）>

- 施設の維持管理については、日常的な施設管理、清掃以外については各施設管理者が行う。
- 歴史公園：
  国土交通省
  （堤防、護岸、管理用通路、分流施設、階段）
  登米市
  （高水敷の広場の芝生、散策路、展望広場、案内看板等）
  石巻市
  （観察広場舗装）

- 日常的な施設管理、清掃等については、登米市及び石巻市が実施

【H21年度】

「秋田地区かわまちづくり」（秋田県秋田市）

登録年月日：H.21.5.22
事業年度：H19～H23

対象河川　：　一級河川　雄物川水系雄物川　【国管理河川】

市町村名　：　秋田県秋田市

推進主体　：　秋田市

位置図

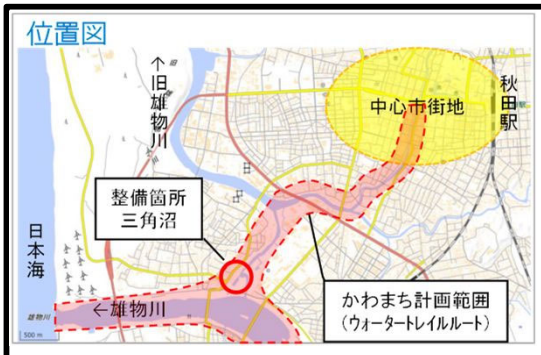


1. 概要

「かわ」と「まち」が連携した中心市街地活性化対策の一つとして、雄物川で盛んなカヌーや良好な水辺を活用し、中心市街地へ繋がるカヌールートを整備し、あわせて水辺の交流拠点等を整備。

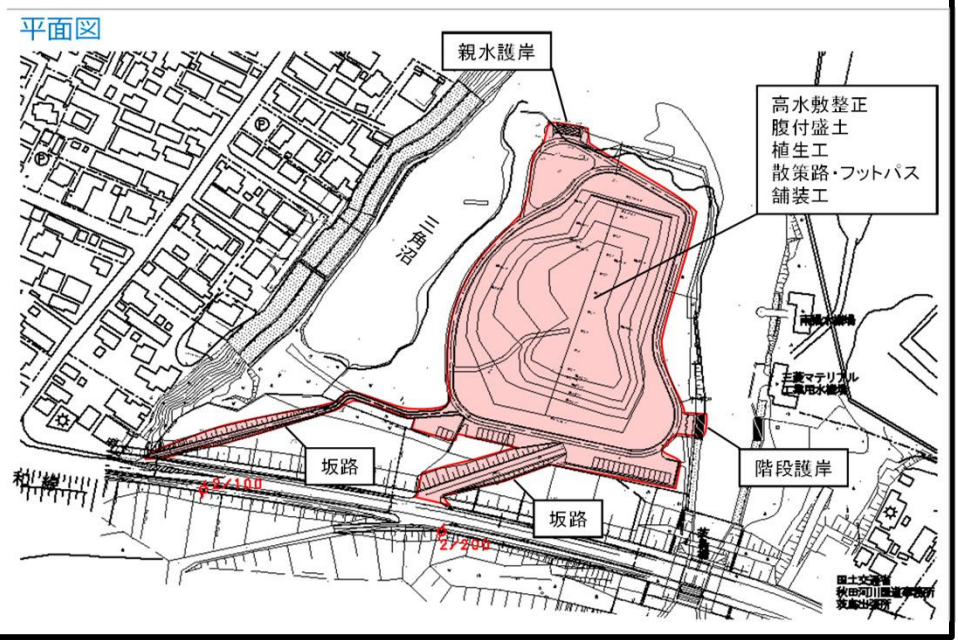
2. ハード施策の内容

- 国土交通省　：　高水敷整正、腹付盛土、植生工、散策路、坂路、舗装工　等
  秋田市　：　ベンチ、植栽　等





整備状況



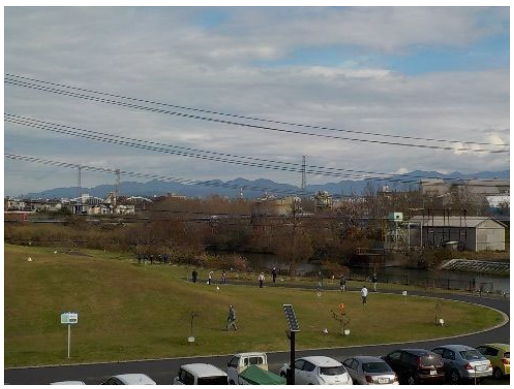
秋田地区かわまちづくり【完】

雄物川水系雄物川（秋田県秋田市）【直】

事業実施の効果



従前は工事用資機材置き場に使用



利用者数

利用者数
（河川空間利用実態調査）
○整備前（H21）
・調査なし
○整備後
H26.4.29（休日）天気：晴れ
利用者数　77人
H31.4.29（休日）天気：晴れ
利用者数　127人
（H26比　50人増 +65%）
※日の出から日没までの間で
２時間ごとに利用者数をカウント

川の通信簿

川の通信簿
（河川空間利用実態調査）
○整備前（H21）
・調査なし
○整備後（H31）
・総合評価４点（相当良い）
※５点満点中
→・「芝や花壇などの整備が
行き届いている」
・「安全に利用できる」

秋田地区かわまちづくり【完】

雄物川水系雄物川（秋田県秋田市）【直】

<ソフト施策内容>



低水護岸利用状況（三角沼）



水辺のオープンカフェ

H23年頃まで各ＷＳが活発にイベント等を企画実施。
※東日本大震災以降、広域的なイベントは実施無し。

・雄物川ＷＳ…オープンカフェ（4回）
・新屋左岸表町ＷＳ…散策マップ制作
・新屋右岸三角沼ＷＳ…SUN３マップ制作・ベンチ設置
・旭川川反ＷＳ…マップ制作・ウッドデッキ実験・まつり
・NPOパドラーズ…クリーンアップ、カヌー体験

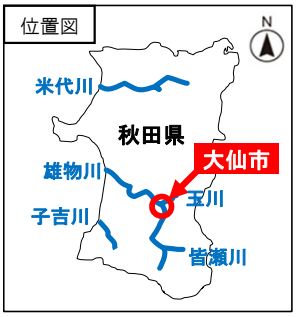
<かわまちの運営（維持管理）>
・河川管理施設の維持管理は国土交通省にて実施。

【H21年度】

「大曲地区かわまちづくり」（秋田県大仙市）

登録年月日：H.21.5.22
事業年度：H20～H23

対象河川　：　一級河川　雄物川水系雄物川　【国管理河川】
市町村名　：　秋田県大仙市
推進主体　：　大仙市



1. 概要

大仙市は、舟運時代の川港から発展するとともに、雄物川河畔での「全国花火競技大会」などが行われており、川との関わりが深い。

新たにかわとまちを散策路で結びネットワーク化を図ることで、舟運の歴史、花火等の特長を活かした水辺整備を行い、観光振興の推進を図ります。

国土交通省では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備のほか、河川空間において営利活動を実施する場合には、河川敷地占用許可準則第22に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　散策路整備、環境護岸整備　等　　大仙市　：　－－－

3. ソフト施策の内容

国土交通省　：　案内板設置　等　　大仙市　：　河川敷等を利用した行事やイベントの開催

■整備内容
・フットパス（散策路）
・駐車帯
・案内板　等



JR東日本「駅からﾊｲｷﾝｸﾞ」
神宮寺地区（H21.4.18）

神宮寺地区野鳥観察
（H21.4.22）

大曲地区かわまちづくり【完】

雄物川水系雄物川（秋田県大仙市）【直】

事業実施の効果

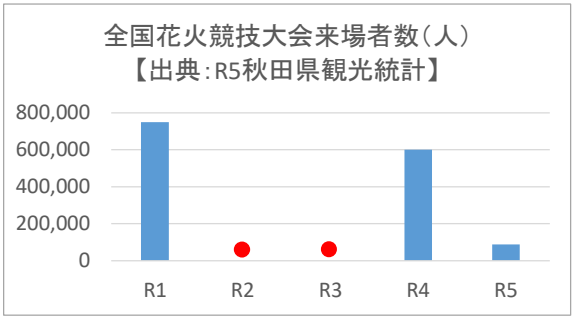


H20.11撮影
大仙市神宮寺地区（雄物川と玉川との合流点）



H21.4撮影
大仙市神宮寺地区（自然観察会開催）

指標名　：大曲の花火来訪者



来訪者数：秋田県観光統計（秋田県観光文化スポーツ部観光戦略課 ）より
※開催中止となったもの「●」で表記



大曲地区かわまちづくり【完】

雄物川水系雄物川（秋田県大仙市）【直】

ソフト施策



角間川地区親水公園の清掃活動
（H23.5.15）



大曲地区ｸﾘｰﾝｱｯﾌﾟ（H22.6.6）



JR東日本「駅からﾊｲｷﾝｸﾞ」
神宮寺地区（H21.4.18）



神宮寺地区野鳥観察
（H21.4.22）

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

オープンカフェ等はなく、占用もされていない（占用申請する案件がない）。

＜参画機関（各タイミングで様々な団体が参加）＞

かわまちづくり推進に係る意見交換会

H18.1月から12月までに大仙市と河川管理者で3回実施。

↓

かわまちづくりワークショップ

H19.3月から9月までに民間団体・地元住民により3回実施。

↓

かわまちづくりシンポジウム

H19.11.19大仙市内で開催。「かわ」と「まち」のつながりやその活かし方を市民の皆様と一緒に考えることを目的に実施。

↓

「かわまちづくり」計画書申請（大仙市）

↓

大仙市かわまちづくり協議会

平成21年度設立。フットパスを軸にしたまちづくりについて検討。メンバーは，「地域の代表者」「商工観光関係」「市民活動関係者」等。

＜かわまちの運営（維持管理）＞

・大仙市長と湯沢河川国道事務所長により、「大曲地区かわまちづくり管理協定書」を取り交わし、日常的な維持管理（清掃等）作業を大仙市、災害による施設の損壊等については、甲乙協議して対処することとしている。





日常的な維持管理
（清掃活動）の様子
（H22.7.4）

【H21年度】

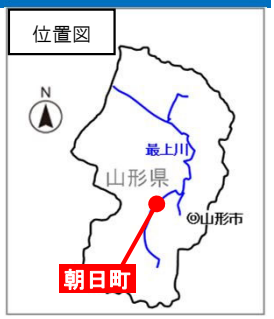
「朝日地区かわまちづくり」（山形県朝日町）

登録年月日：H21.5.22
事業年度：H19～H20

対象河川　：　一級河川　最上川水系最上川　【国管理河川】

市町村名　：　山形県朝日町

推進主体　：　朝日町



1. 概要

朝日町では、H15～17に「朝日地区水辺プラザ」の整備を行い、国内でも有数のカヌースポットとして、カヌーの大会やカヌー体験、ボートによる川下り体験等が開催されています。さらに朝日町総合発展計画の中心である最上川を核に、美しい自然、町が有している資源を活かし、観光客の受入体制の整備等に取組んでいます。

この取組を充実させるため、本計画では最上川フットパスの整備を実施し、川からまちへ、まちから川へとの動線を確保し、点から線、線から面へとさらなる賑わいの創出を図ります。

国土交通省では、この取組に対し、管理用通路等の必要な河川管理施設の整備のほか、河川空間において営利活動を実施する場合には、河川敷地占用許可準則第22に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　管理用通路、案内看板　等

朝日町　　：　公園整備　等

3. ソフト施策の内容

国土交通省　：　都市・地域再生等利用区域の指定　等　　朝日町　：　情報発信、案内板設置　等


クリーンアップ活動

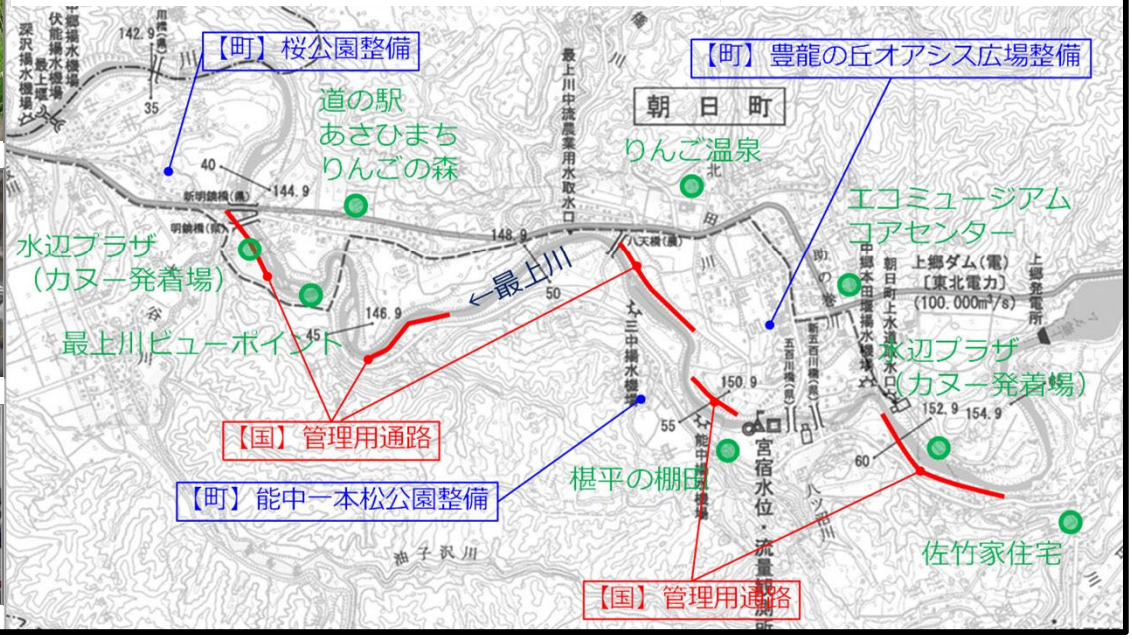

カヌー利用


朝日地区水辺プラザ


あさひフットパス


NPOによる史跡案内


道の駅「りんごの森」



朝日地区かわまちづくり【完】

最上川水系最上川（山形県朝日町）【直】

事業実施の効果





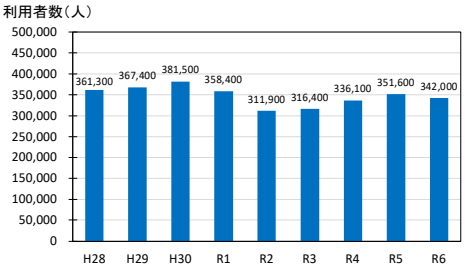
朝日町エコミュージアム主催で、「最上川を歩く」を年数回開催（15人程度／回）

事業実施の効果





指標名　道の駅「りんごの森」利用者数

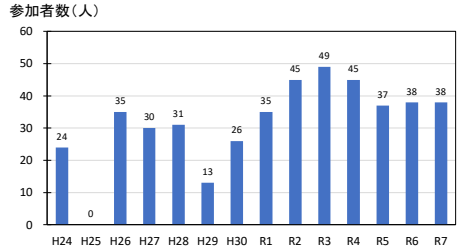


事業実施の効果





指標名　最上川縦断カヌー探訪参加者数



朝日地区かわまちづくり【完】

最上川水系最上川（山形県朝日町）【直】

ソフト施策






クリーンアップ活動



＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・河川敷地占用許可準則22条による占用：なし

＜参画機関＞

・朝日町フットパス整備推進協議会 H20年12月22日～
　構成団体：朝日町、エコミュージアム協会
　　山形県カヌークラブ、関係団体、住民

・平成20年4月　準備会、ワークショップ（第１回）

・フットパスについては、NPO法人朝日町エコミュージアム協会にてウオーキングイベントや清掃活動を実施。
・朝日町カヌーランドについては、SDスポーツにて、カヌースクール等を実施。

＜かわまちの運営（維持管理）＞

「フットパスあさひ」「朝日水辺プラザ」
維持管理協定（H24.4.1締結）
【国】　　河川管理施設に関する施設の維持管理
【朝日町】協定締結者
【地元団体】町と協力して維持管理を行う

施設整備後の維持管理状況
・朝日フットパス整備推進協議会の加盟団体により、クリーンアップ活動など維持管理をしている。
・河川管理施設は、国土交通省で補修している。

【H21年度】

「長井地区かわまちづくり」（山形県長井市）

登録年月日：H21.5.22
事業年度：H21～R8

対象河川　：　一級河川　最上川水系最上川、置賜白川　【国管理河川】
市町村名　：　山形県長井市
推進主体　：　長井市



1. 概要

長井市では、「水と緑と花」をコンセプトとしたまちづくりを実施するとともに、「かわ」と「まち」をつなぐフットパス（散策路）等を整備し、まち歩きやイベント等による観光振興に取り組んでいます。さらに、置賜白川においては、地域住民や子供たちを対象とした自然体験学習等の河川空間を活かした各種活動に取り組んでいます。

長井市では今後、舟運時代の川港として栄えた歴史を活かしたまちづくりを計画しており、これらの取組みを充実させるため、まちづくり計画と水辺が一体となった良好な空間の創出、及び地域住民が自然に触れあい、地域のコミュニケーションや地域活性化につながる河川空間の創出を図ります。

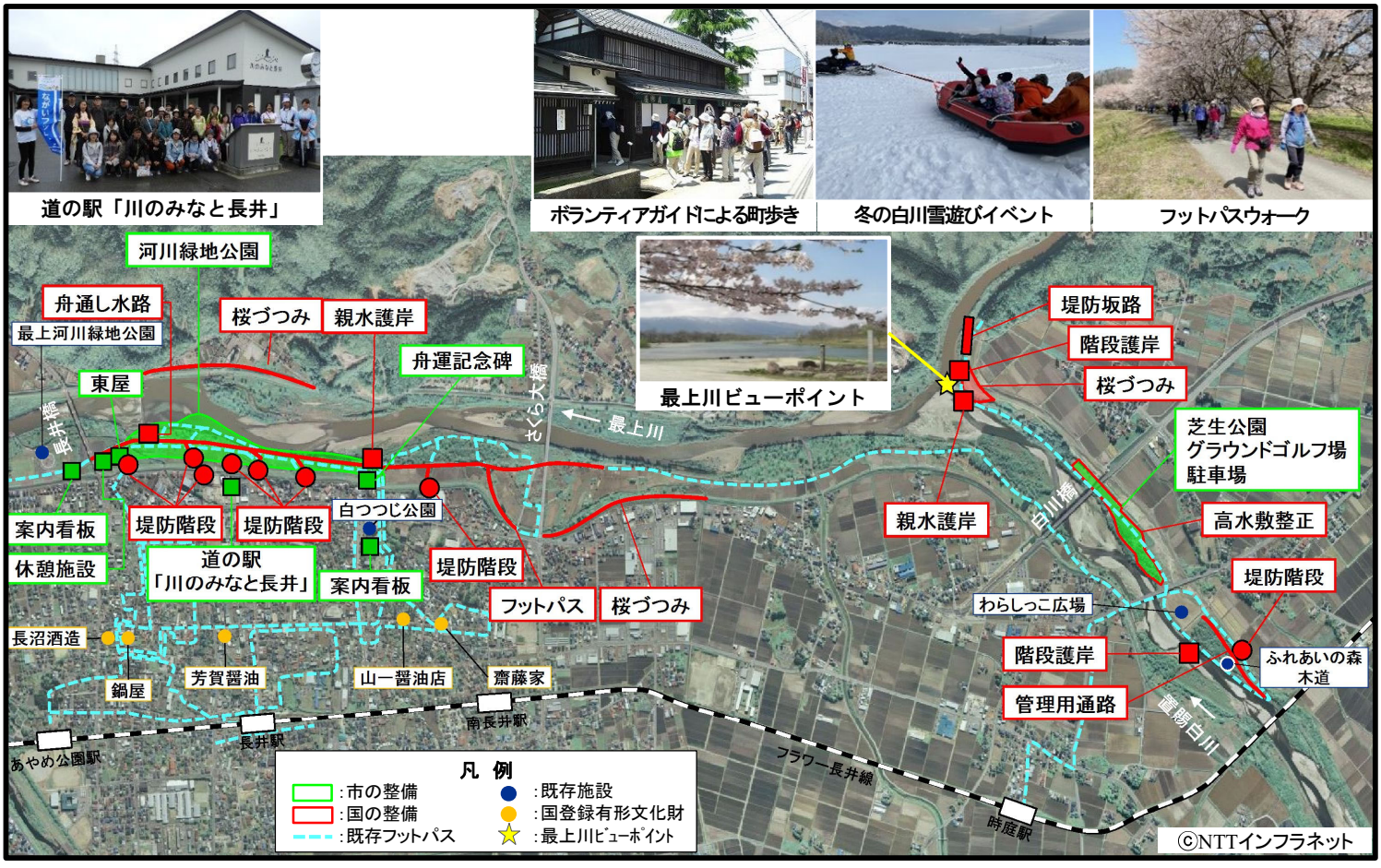
国土交通省では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備のほか、河川空間において営利活動を実施する場合には、河川敷地占用許可準則第22に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　管理用通路、トロッコ道、親水護岸、堤防階段、舟通し水路、側帯、高水敷整正　等
長井市　　：　河川緑地公園、案内看板、桜植樹　等

3. ソフト施策の内容

国土交通省　：　都市・地域再生等利用区域の指定　等　　長井市　：　情報発信、案内板設置 など



長井地区かわまちづくり【完】

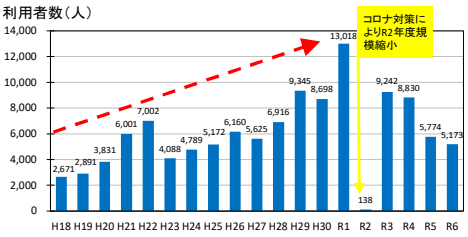
最上川水系最上川・置賜白川（山形県長井市）【直】

事業実施の効果





指標名　案内人利用者数

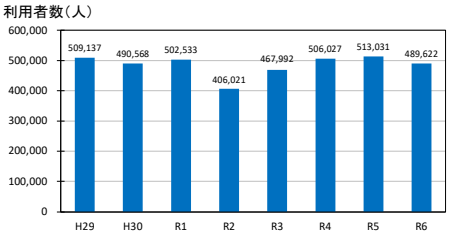


事業実施の効果





指標名　道の駅「川のみなと長井」入込数

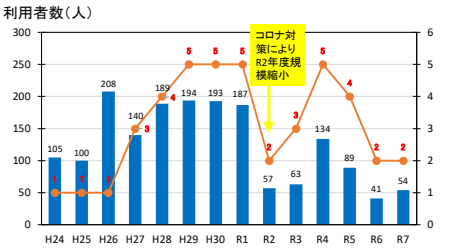


事業実施の効果





指標名　ﾌｯﾄﾊﾟｽｳｫｰｸ参加者数



長井地区かわまちづくり【完】

最上川水系最上川・置賜白川（山形県長井市）【直】

ソフト施策









＜参画機関＞

・長井市かわまちづくり推進協議会　設立：H21年9月21日
　地域住民：27団体
　行政等：　長井市、山形県、国土交通省
・H20年8月～　川とまちが一体となったまちづくり推進に係る打合せを開催
・H21年5月　　かわまちづくり計画を策定
・H21年12月～「かわ部門」「まち部会」「歴史・産業部門」にて利活用・維持管理計画を検討
・H27年8月～　豊田地区余剰地利活用検討委員会にて置賜白川の利活用・維持管理計画を検討
・H29年3月　　置賜白川の整備計画を追加登録

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況
　長井市では、河川法第２４条及び２６条に基づき、「最上川こいで河川公園」および置賜白川の「白川きらりふるさと河川公園」の占用許可を受けて、使用中である。

＜かわまちの運営（維持管理）＞

<<維持管理協定について調整中>>
【国】　　河川管理施設に関する施設の維持管理
【長井市】包括占用とする者
【住民】　包括占用の施設を具体に維持管理する者

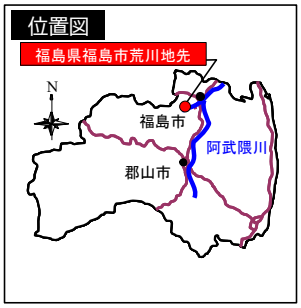
施設整備後の維持管理状況
（かわ地区）
・長井市かわまちづくり推進協議会の加盟団体により、クリーンアップ活動をしている。
・河川管理施設は、国土交通省で補修している。
（置賜白川）
・豊田地区ふるさと振興会、水辺環境整備促進協議会などの地域の団体により、既に除草等の維持管理がなされている。

【H21年度】交流拠点や歴史的な土木構造物等とのネットワークを形成

「ふくしま荒川地区かわまちづくり」（福島県福島市）

登録年月日：H21.5.22
事業年度：H19～H24

対象河川　：　一級河川　阿武隈川水系荒川　【国管理河川】
市町村名　：　福島県福島市
推進主体　：　福島市



1. 概要

福島市の都市マスタープラン等に基づき、阿武隈川・荒川において、水や緑のネットワーク化など親水空間の整備を進めました。

本計画では、市街地と既存の交流拠点や歴史的な土木構造物等をつなぐ堤防上の通路や散策路等を整備し、川とまちのネットワークを形成することで観光振興の推進を図っています。

国土交通省では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備のほか、河川空間において営利活動を実施する場合には、河川敷地占用許可準則第22に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　管理用通路、側帯、堰堤横断施設　等
福島市　：　看板設置　等

3. ソフト施策の内容

国土交通省　：　都市・地域再生等利用区域の指定　等
福島市　：　賑わい創出に係るイベント、ウォーキング活動　等


堰堤横断施設の利用（ウォーキングイベント）


荒川フェスティバル（高水敷整備）


クロスカントリー（管理用通路）

ふくしま荒川地区かわまちづくり【完】

阿武隈川水系荒川（福島県福島市）【直】

事業実施の効果



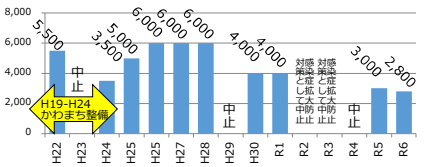
実施前は、市内から徒歩で来る場合の案内がなく、わかりづらかった。



実施後は、連続性のある案内板の設置により、徒歩で来場される方にもわかりやすくなった。

イベント来場者数

【荒川フェスティバル】（5月）
参加者数：2,800人（R6）



事業実施の効果



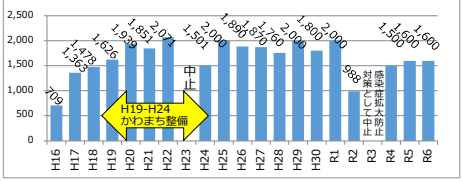
実施前は、仮設として横断施設を整備。
足元が不安定。景観的に見栄えがよくなかった。



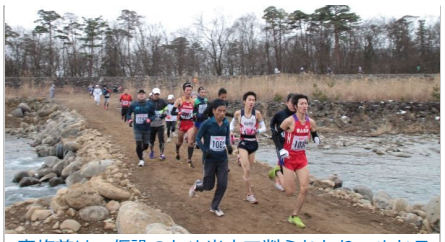
実施後は、荒川を横断するコースに設定。
足元が安定し、景観的に見栄えがよくなった。

イベント参加者数

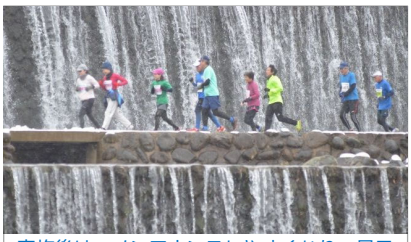
【あづまの郷ウォーク大会】（11月）
参加者数：1,600人（R6）



事業実施の効果



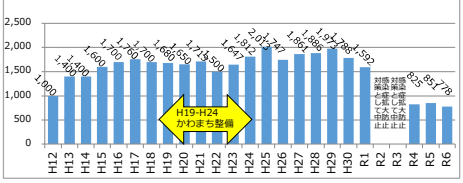
実施前は、仮設のため出水で削られたり、ぬかるんだり不安定だった。幅も狭かった。



実施後は、メンテナンスしやすくなり、足元が安定。幅も広くなり、安全になった。

イベント参加者数

【あづま荒川クロスカントリー大会】（12月）
参加者数：778人（R6）



ふくしま荒川地区かわまちづくり【完】

阿武隈川水系荒川（福島県福島市）【直】

ソフト施策









＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

- 荒川運動公園
  → 少年野球など
- 荒川桜づつみ河川公園
  → お花見、荒川フェスティバルなど
- 須川運動公園
  → 少年サッカーなど
- 水林自然林
  → 散策、野鳥観察など
- 自由広場
  → キャンプ、芋煮会など







＜参画機関＞

○「ふくしま荒川ミュージアム推進会議」(平成20年6月21日設立)

- 設立主旨：
  荒川とその沿川地域をフィールドとして、そこに点在する歴史的な治水・砂防施設、地域の風習や文化、豊かな自然、民家園等の各種資源を、地域の治水・砂防、生活・文化・歴史、自然を物語る題材・史料として捉え、これに関連する調査及び研究並びに教育等の事業等を行うことにより、貴重な地域財産である荒川流域の資源の保存及び活用を図ることを目的としている。

- 参加団体：
  ふるさとの川・荒川づくり協議会、福島市役所、福島市教育委員会、四季の里、福島県土木部河川課、福島商工会議所、福島県北森林組合、福島県都市公園・緑化協会、福島県北建設事務所、土湯温泉観光協会、福島大学、日本大学、福島河川国道事務所

＜かわまちの運営（維持管理）＞

○施設整備後の維持管理状況

- 国土交通省福島河川国道事務所と福島市において荒川の渡河施設等の管理について管理協定を締結。また、福島市は４つの団体(「公益財団法人福島都市公園・緑化協会」、「福島市観光開発株式会社」、「福島県北森林組合」、「ふるさとの川・荒川づくり協議会」)と管理について覚書を締結し、各自が関わるイベント等で渡河施設を管理・利用している。

- 「ふるさとの川・荒川づくり協議会」では、荒川沿川において、沿川企業や市民などがボランティアとして参加する「荒川クリーンアップ大作戦」（年２回開催）を開催している。

【H22年度】まちの魅力向上と川とまちの交流の場としての河川空間を創出

「本宮地区かわまちづくり」（福島県本宮市）

登録年月日：H22.9.24
事業年度：H22～R5

対象河川　：　一級河川　阿武隈川水系阿武隈川　【国管理河川】
市町村名　：　福島県本宮市
推進主体　：　本宮市



1. 概要

本宮市では、河川改修事業と連携し、まちづくり交付金を活用した「街なか再生事業」が実施され、交流拠点施設の整備やアクセス道の整備等により回遊性ネットワークの形成などを進めました。

本計画では、「まちと川を結ぶ」ネットワークを形成し、まちの魅力向上や、川とまちの交流の場としての河川空間の創出を行い、まちの活性化や観光振興を図っています。

国土交通省では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備のほか、河川空間において営利活動を実施する場合には、河川敷地占用許可準則第22に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　管理用通路、階段、高水敷整正　等
本宮市　：　憩いのスペース　等

3. ソフト施策の内容

国土交通省　：　都市・地域再生等利用区域の指定　等
本宮市　：　賑わい創出に係るイベント（各種お祭り）　等


河川堤防と河道内の管理用通路（散策路）



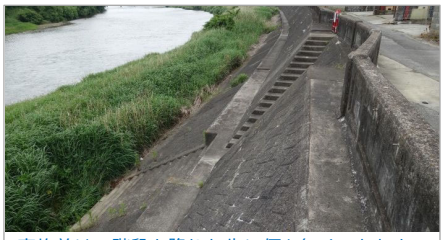
整備状況


夏まつりイベント（交流広場［駐車場］）

本宮地区かわまちづくり【完】

阿武隈川水系阿武隈川（福島県本宮市）【直】

事業実施の効果



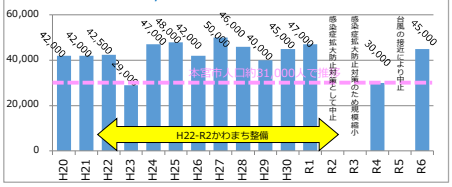
実施前は、階段を降りた先に何も無く、かわを眺める場所が限られた。



実施後は、一段高い手摺付きの展望場所ができて、ゆったりできる場所になった。

イベント来場者数

【本宮夏まつり】（8月）
来場者数：45,000人（R6）



事業実施の効果



まちと一体となった河川空間を整備。

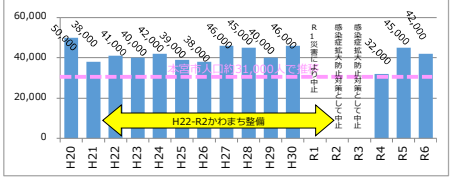


（撮影日:R5.6）

川とまちの交流“夢広場”では、夏・秋祭りなどのイベントステージ会場となり、大にぎわい

イベント来場者数

【もとみや秋祭り】（10月）
来場者数：42,000人（R6）



事業実施の効果



実施前は、堤防道路幅が狭く、車のすれ違いが困難だった。



実施後は、堤防道路が広くなり、また、歩道と車道の色を分けたことで安全性が高まった。



近隣小学校へ通う児童が安全に通行できるようになり、通学路としての利用が増えた。

本宮地区かわまちづくり【完】

阿武隈川水系阿武隈川（福島県本宮市）【直】

ソフト施策



＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

- 公園・緑地
  → グランド・パークゴルフ場など
- 坂路
  → 舟乗り入れなど
- 設置物
  → 歌碑・記念碑など
- 道路
  → 占用道路など
- 階段
  → 管理用階段など



＜参画機関＞

○阿武隈川本宮左岸地区まちづくり懇談会(平成19年10月22日設立)

・設立主旨：
本宮左岸地区の治水対策の実施にあたっては、河川事業のみならず阿武隈川に隣接する住宅地や商業地さらに街路等を含めた総合的な検討が不可欠であるため、地域の意向に十分配慮し、関係する事業者の役割分担と連携のもとに、まちづくりと一体となった治水対策の計画検討を目的に設立。

・委員：
日本大学土木工学科教授、本宮市長、本宮市議会議長、本宮市区長会連絡協議会長、本宮市商工会長、㈱Mot.Comもとみや代表取締役、阿武隈川本築堤早期実現期成同盟会長、福島県県北建設事務所長、福島河川国道事務所長

○阿武隈川本宮河畔利用調整協議会(令和3年11月15日設立)

・設立主旨：
「本宮地区かわまちづくり計画」を推進する上で幅広い知見から意見を聴取し、水辺空間活用の実現に向け、運営・維持管理活動の検討を行うことを目的に設立。

・委員：
㈱Mot.Comもとみや代表取締役、本宮市商店街連合会会長、本宮市商工会青年部青年部長、本宮市商工会女性部女性部長、(社)もとみや青年会議所理事長、本宮市区長会連絡協議会会長、本宮市観光物産協会専務理事、本宮市建設部部長、本宮市産業部商工観光課課長、本宮市建設部都市整備課課長、本宮市建設部都市整備課職員、福島河川国道事務所職員

＜かわまちの運営（維持管理）＞

○施設整備後の維持管理状況

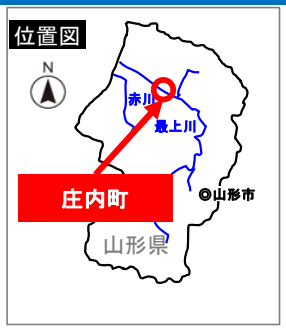
・まちづくり懇談会やワークショップ等を開催し、維持管理の役割分担等を進めて行く予定。
・利活用に向けて活動中。

【H22年度】

「清川地区かわまちづくり」（山形県東田川郡庄内町）

登録年月日：H22.9.24
事業年度：H23～H25

対象河川　：　一級河川　最上川水系最上川・立谷沢川　【国管理河川】
市町村名　：　山形県　東田川郡庄内町
推進主体　：　庄内町



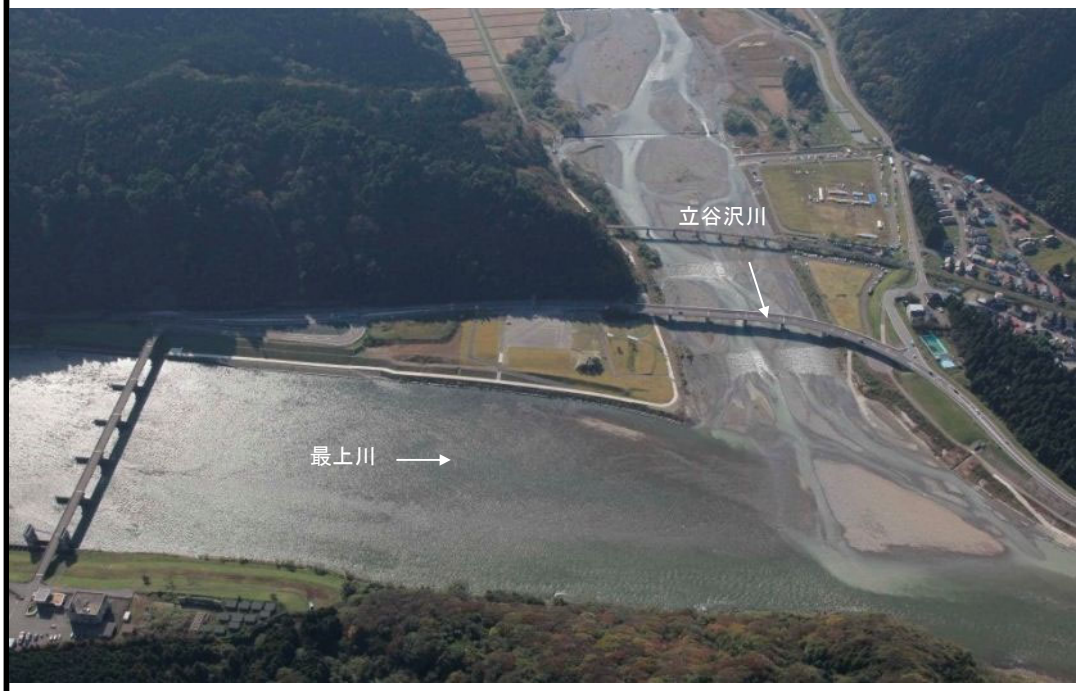
1. 概要

清川地区には、最上川舟運によって往来した源義経、松尾芭蕉、正岡子規等文人墨客の足跡が残されており、庄内町では「かわみなと歴史の小道」散策ルートとして歴史資産を広く紹介する案内看板等や、最上川・立谷沢川合流点では親水広場等の整備を行っている。また清川地区振興協議会が中心に「歴史の里」をキーワードとした活動を展開しており、NPO法人・最上川学推進センター等と多彩な体験型学習ツーリズムを新たに構築し、広く全国に情報発信している。

清川地区かわまちづくりでは、川にまつわる歴史・文化が色濃く残る「まち」と今なお利活用されている「かわ」とが融合する空間を整備することで、地域の活性化を支援するものである。

2. ハード施策の内容

国土交通省：管理用通路、避難誘導看板　等　　庄内町：多目的広場、親水広場、案内看板、あずま屋　等



「最上川・立谷沢川秋の味覚まつり」魚のつかみ取り風景



最上川200kmを歩く



月山龍神マラソン



清川地区かわまちづくり【完】

最上川水系最上川・立谷沢川（山形県庄内町）【直】

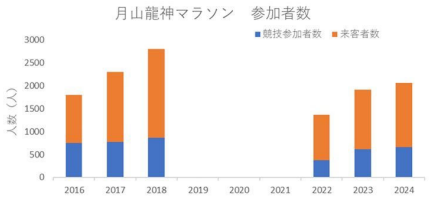
事業実施の効果





「月山龍神マラソン」の開催（2016年から）

指標名：ﾏﾗｿﾝｲﾍﾞﾝﾄ参加者数



・マラソンイベントとの相乗効果により、来訪者の増加が期待できる。（※2019～2021中止）

事業実施の効果

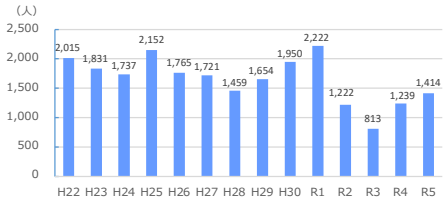


清河歴史公園との連携（2019年4月オープン）



清河八郎記念館との連携

指標名：記念館来館者数



・隣接する清河八郎記念館や清川歴史公園との相乗効果により、来訪者の増加が期待できる。

事業実施の効果



最上川さみだれ大堰



フィッシュギャラリー

指標名：ﾌｨｯｼｭｷﾞｬﾗﾘｰ来館者数



・隣接するフィッシュギャラリーとの相乗効果により来訪者の増加が期待できる。
（R2、R3はコロナの影響により、閉館期間あり。）

清川地区かわまちづくり【完】

最上川水系最上川・立谷沢川（山形県庄内町）【直】

＜ソフト施策＞



平成28年度から清川地区の魅力を再確認できる新たなイベント「月山龍神マラソン」を開催。

○月山龍神マラソン開催状況
- 第１回　平成２８年１０月９日
- 第２回　平成２９年１０月８日
- 第３回　平成３０年１０月１４日
- 第４回　(台風19号により中止)
- 第５回　(コロナ禍により中止)
- 第６回　(コロナ禍により中止)
- 第７回　令和４年１０月９日
- 第８回　令和５年１０月８日
- 第９回　令和６年１０月１３日



かわまちづくり整備箇所に周辺の歴史的観光施設の場所と概要を紹介した「案内看板を設置」し、清川歴史公園から街中への観光客の誘導を図ることにより、かわとまちの連携を図っている。

＜参画機関＞

・「かわまちづくり計画」策定検討会
　かわまちづくり計画の申請にあたり、庄内町「かわまちづくり計画」策定検討会を発足し、先進事例箇所の見学やかわまちづくり基本構成を決定した。

・連携するイベント
　月山龍神マラソン実行委員会

・連携する周辺施設
　清川歴史公園
　（設置：庄内町、管理：庄内町清川歴史公園管理運営委員会）
　清川八郎記念館
　（設置・管理：公益社団法人 山形県観光物産協会）
　フィッシュギャラリー
　（設置・管理：酒田河川国道事務所）

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・庄内町により河川法第24条に基づき、町民総合運動場として利用中。（河川敷地占用許可準則22条による、都市・地域再生等利用区域の指定はされていない。）

・平成28年度から開催している「月山龍神マラソン」や平成28年4月に登録された日本遺産「出羽三山」の構成文化財である「清川歴史公園（関川関所跡）」と連携することにより、観光交流や地域活性化を推進していく。

＜かわまちの運営（維持管理）＞

・良好な環境の保全のため、適切な維持管理として、点検、除草、伐採および清掃に類する通常の維持管理補修は、庄内町が実施し、災害による構造の損傷などは、国土交通省酒田河川国道事務所が実施する。
・河川公園等の維持管理として、庄内町による草刈り等を年に数回実施し、清川地区振興協議会を中心として清掃活動を実施している。



草刈活動状況



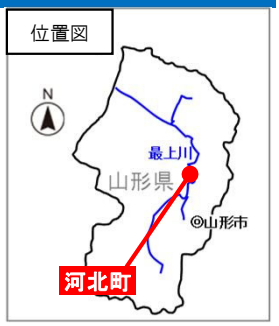
清掃活動状況

【H22年度】

「河北町かわまちづくり」（山形県河北町）

登録年月日：H22.9.24
事業年度：H22～H25

対象河川　：　一級河川　最上川水系最上川　【国管理河川】
市町村名　：　山形県河北町
推進主体　：　河北町



1. 概要

河北町では、H7～10に「谷地地区水辺プラザ」の整備を行い、地元中学校・高校のカヌー部練習場として利用しているとともに、最上川グリーンパークや地域活動・情報発信拠点となる道の駅の整備を行い、スポーツによる地域振興に取り組んでいる。

この取組みを充実させるため、本計画では管理用通路、堤防階段等の整備により、最上川沿川と周辺の町有施設を連携させ、町民の身近な暮らしに根付く、産業や文化、生活のネットワーク構築により地域の活性化を図ります。

国土交通省では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備のほか、河川空間において営利活動を実施する場合には、河川敷地占用許可準則第22に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　管理用通路、低水護岸、堤防階段、側帯、腹付盛土　等
河北町　　：　交流拠点施設整備、トイレ・駐車場整備、桜づつみ整備　等

3. ソフト施策の内容

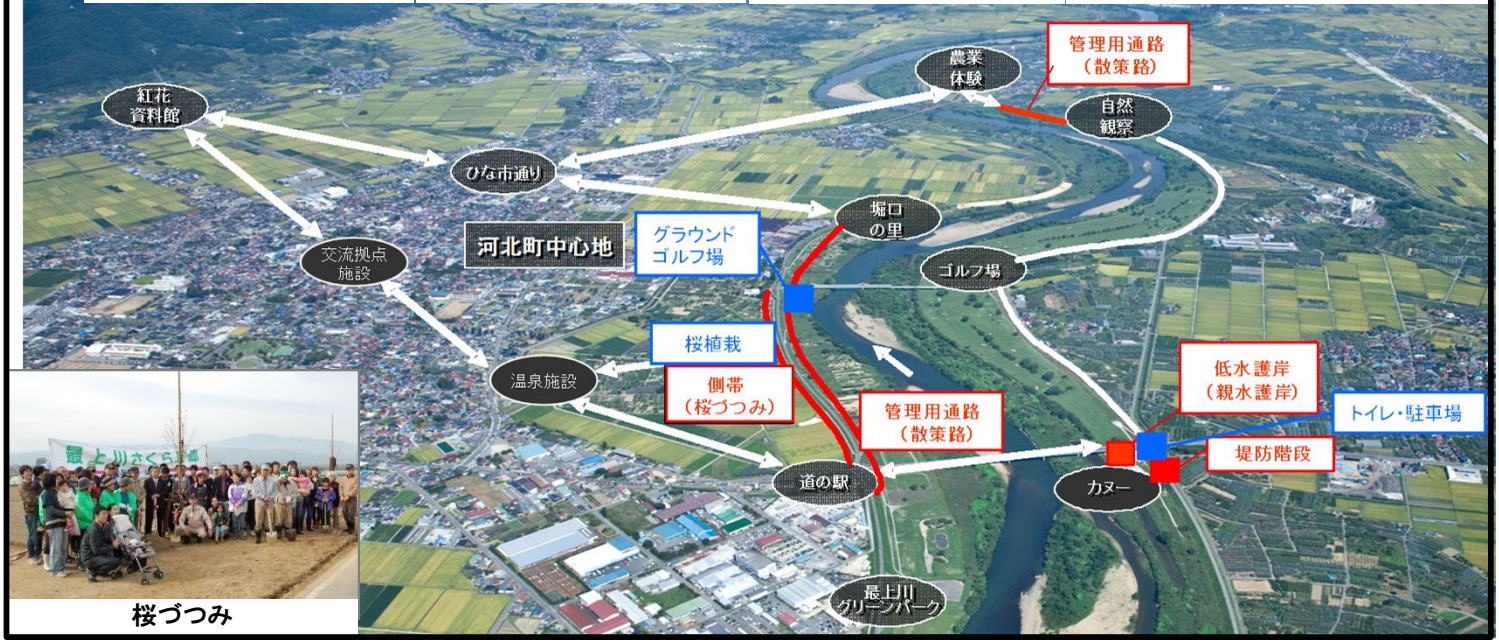
国土交通省　：　都市・地域再生等利用区域の指定　等
河北町　　：　情報発信、案内板設置、カヌー体験学習会、町民ゴルフ大会　等


道の駅河北「ぶらっとぴあ」


フットパス健康体験


カヌー体験


低水護岸



桜づつみ

河北町かわまちづくり【完】

最上川水系最上川（山形県河北町）【直】

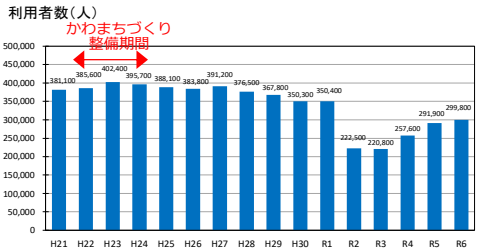
事業実施の効果







指標名 温泉・宿泊交流施設「ひなの湯」利用者数

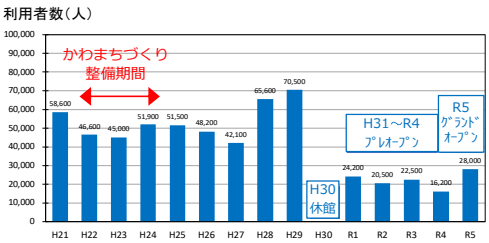


事業実施の効果



H30年4月～H31年3月まで一時閉館、H31年4月よりプレオープンとなっている。
令和5年4月グランドオープン。

指標名　道の駅かほく 利用者数

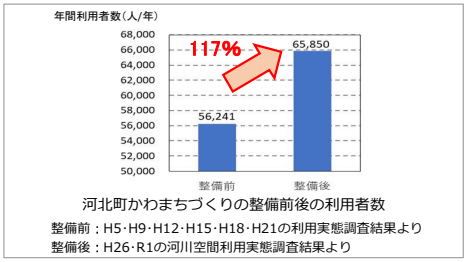


事業実施の効果





指標名　河川利用者数



河北町かわまちづくりの整備前後の利用者数

整備前：H5･H9･H12･H15･H18･H21の利用実態調査結果より
整備後：H26･R1の河川空間利用実態調査結果より

河北町かわまちづくり【完】

最上川水系最上川（山形県河北町）【直】

ソフト施策







<参画機関>
・河北町かわまちづくり協議会　H21年8月～
　地域住民：河川利用者、農業関係者
　行政等　：河北町、商工会議所、観光協会

<水辺空間の利活用状況>
○かわまち計画範囲内の占用許可状況
河北町では、河川法第24条及び26条に基づき、最上川グリーンパーク（左岸：わんぱく広場、やすらぎ広場）、（右岸：カヌー練習場公園）の占用許可を受けて、利用中。

<かわまちの運営（維持管理）>

桜づつみ管理協定：H25.3.29締結
【国】　河川管理施設に関する施設の維持管理
【河北町】樹木管理、除草等清掃作業

施設整備後の維持管理状況
・河北町かわまちづくり協議会の加盟団体により、クリーンアップ活動をしている。
・河川管理施設は、国土交通省で補修している。

【H22年度】～山水花のまちづくり～

「塙町かわまちづくり」（福島県東白川郡塙町）

登録年月日：H23.3.31
事業年度：H23～H27



対象河川　：1級河川久慈川水系久慈川・川上川【県管理河川】

市町村名　：　福島県東白川郡塙町

推進主体　：　塙町

1. 概要

塙町では、平成13年度に策定した『塙町第四次長期総合計画』において、水辺なども含めた「自然に親しむ空間づくり」を進めることとしており、特にシンボル的存在である当該エリアでは、河川敷や施設などを利用し、花まつり（4月）や塙流灯花火大会（8月）、水上俵引き競争（11月）等の行事のほか、地元ボランティア団体による花壇の維持管理等、一年を通じ、様々な形でふれあいがもたれています。

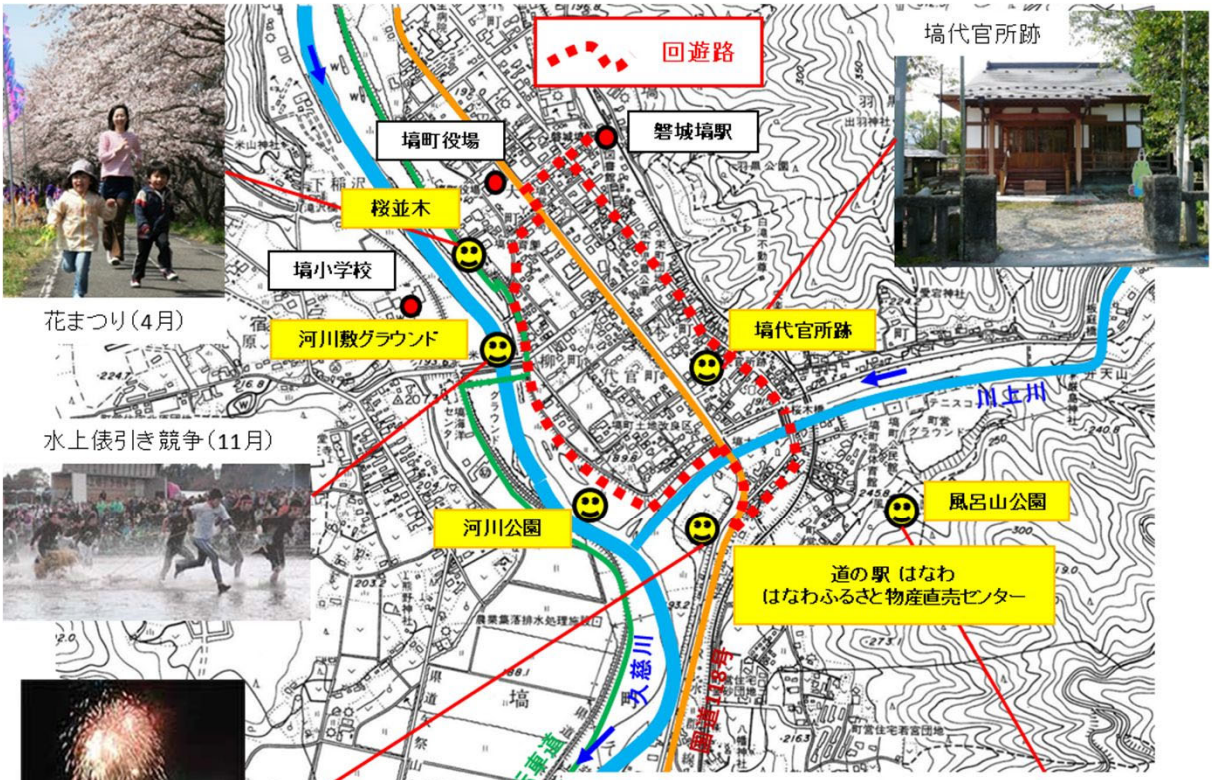
今後、塙町のかわまちづくりにおいて、これら水辺空間に加え、まちなかの史跡や景勝地を巡る回遊路を整備し、“かわ”と“まち”が一体となった空間の創出を図っていきます。

2. ハード施策の内容

福島県　：　階段工　等　　塙町　：　案内板　等

3. ソフト施策の内容

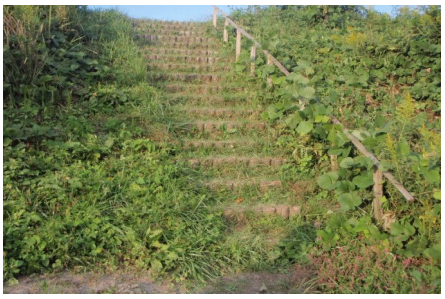
福島県　：　占用許可　等　　塙町　：　イベントの実施、運営　等



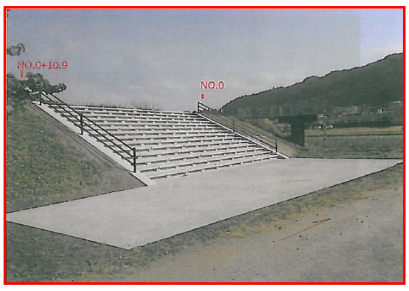
『まち』から『かわ』へ、『かわ』から『まち』へ！！

「水辺空間」と「まちなか」の連続性を確保し、人と自然が調和した空間づくりを創出する。

事業実施の効果



雑草の繁茂により利用しづらかった環境が…



階段工整備により利用者にやさしい河川公園への導線を確保！
利用環境が向上！

水辺とまちなかの確保

効果（地域住民の声）

階段工の整備により、『かわ』へ導線が確保され、河川敷でのレクリエーションにより賑わいが創出！！



グラウンドゴルフ

階段工の整備により、『かわ』へ導線が確保され、河川敷でのレクリエーションにより賑わいが創出！！



凧上げ大会

道の駅でイベントを開催することにより賑わいが創出！！

塙町かわまちづくり【完】　久慈川水系久慈川、川上川（福島県塙町）【補】

ソフト施策

４月中旬～下旬



約１２０本の桜並木は壮観です！

５月３日～５日



連休中は、イベントや出店で賑わってます！

平成２６年度設置



塙町の自然や歴史を楽しみながら散策してみませんか？!



毎月２４日は子育て地蔵尊の日としてお堂が開かれ、世話人の方々が子供たちを迎えています!

＜参画機関＞

「中心市街地活性化事業」
実施団体：塙町、塙町商工会、TMO
内容：・河川敷を活用したイベント
（桜祭り・流灯花火大会等）
・中心市街地各種イベント
（七夕祭り・町から川への導線整備等）

＜かわまちの運営（維持管理）＞

・塙町の「中心市街地活性化事業（まちなか回遊ルート整備事業）」と連携し、“まち”から“かわ”の導線を確保することにより、イベント時以外でも水辺空間の賑わいを取り戻すことができます。
・河川公園を利用し、四季折々のイベントを継続的に開催し、“まち”から“かわ”へ、“かわ”から“まち”への人の流れを誘導することにより、中心市街地活性化に寄与します。

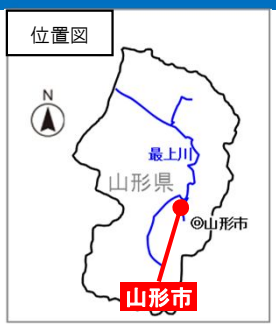
＜水辺空間の利活用状況＞
○かわまち計画範囲内の占用許可状況
・久慈川グランド
・中央広場
・ゲートボール場

【H23年度】

「須川かわまちづくり」（山形県山形市）

登録年月日：H24.2.15
事業年度：H24～R3

対象河川 ： 一級河川 最上川水系須川 【国管理河川】
市町村名 ： 山形県山形市
推進主体 ： 山形市



1. 概要

山形市では、須川を市民の生活に根ざした水辺空間として位置づけ、高水敷に点在する多目的グラウンド、パークゴルフ場、広場等を地域住民やさまざまな市民団体等の健康増進の場として更なる利活用促進に取り組んでいます。

この取組を充実させるため、本計画では、管理用通路（サイクリングロード）の整備を行い、須川とまちとのネットワークを構築するとともに、地域住民が健康増進の場、癒しの場として利活用しながら地域交流できる魅力的な川辺の空間を創出することにより、地域の活性化を図ります。

国土交通省では、この取組に対し、管理用通路、堤防階段等の河川管理施設の整備のほか、河川空間において営利活動を実施する場合には、河川敷地占用許可準則第22に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

国土交通省 ： 高水敷整正、管理用通路、低水護岸、堤防階段、坂路 等
山形市 ： パークゴルフ場、グラウンドゴルフ場、ソフトボール場 等

3. ソフト施策の内容

国土交通省 ： 都市・地域再生等利用区域の指定 等　　山形市 ： 情報発信、花火大会 等



須川かわまちづくり【完】

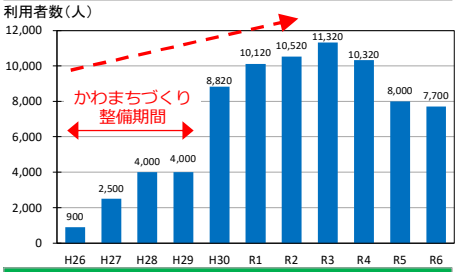
最上川水系須川（山形県山形市）【直】

事業実施の効果





指標名　パークゴルフ利用者数



事業実施の効果





指標名　飯塚地区グラウンド

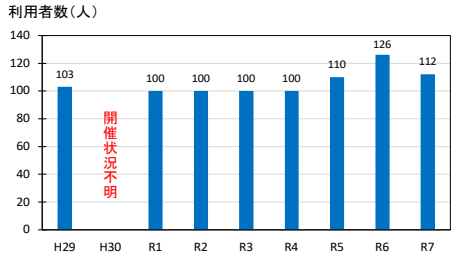
事業効果
　地区住民の他、女子中学野球クラブやスポ少野球部が飯塚地区グラウンドを練習場として使用中。

事業実施の効果





指標名　クロスカントリー大会参加人数



須川かわまちづくり【完】

最上川水系須川（山形県山形市）【直】

ソフト施策

パークゴルフ・グランドゴルフを通じた地域交流･イベント開催









管理用通路を利用した「サイクリング＆クリーンアップ」

＜水辺空間の利活用状況＞
○かわまち計画範囲内の占用許可状況
　山形市では、河川法第２４条及び２６条に基づき、パークゴルフ場、ソフトボール場、多目的広場等の占用許可を受けて、使用中。

＜参画機関＞

・須川かわまちづくり連絡協議会　H24年7月25日～
　地域住民：５団体
　行政等：　山形市、山形県、山形地区サッカー協会
　　国土交通省

・H29年7月　サイクリングロード完成式典
・H30年10月　飯塚橋運動広場オープンセレモニー

・須川かわまちづくり連絡協議会総会を年１回開催し、年間予定等について各団体から報告及び意見交換を実施。

＜かわまちの運営（維持管理）＞

【国】　河川管理施設に関する施設の維持管理
【山形市】包括占用とする者
【住民】　包括占用の施設を具体に維持管理する者

施設整備後の維持管理状況
・須川かわまちづくり連絡協議会の加盟団体により、除草作業やクリーンアップ活動などの維持管理を定期的に行っている。
・河川管理施設は、国土交通省で補修。

「根下戸（ねげと）地区かわまちづくり」（秋田県大館市（おおだてし））

登録年月日：H.25.11.12
事業年度：H26～H28

対象河川　：　1級河川　米代川（よねしろがわ）水系米代川（よねしろがわ）　【国管理河川】
市町村名　：　秋田県大館市（おおだてし）
推進主体　：　大館市（おおだてし）



1. 概要

大館市では、「大館市都市計画マスタープラン」（地域の景観、歴史、文化及び観光基盤などの資源等を活かした取り組み）に取り組んでいます。

この取組を充実させるため、本計画では、河川利用上の安全・安心に係る河川管理施設の整備（実現性の高い水辺の整備・利用に係る取り組み）を実施し、まちの活性化（地域の魅力の向上、観光振興の促進など）を図っています。

国土交通省では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備（渡河施設、高水敷整正　等）のほか、河川空間において営利活動を実施する場合には、河川敷地占用許可準則第22に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

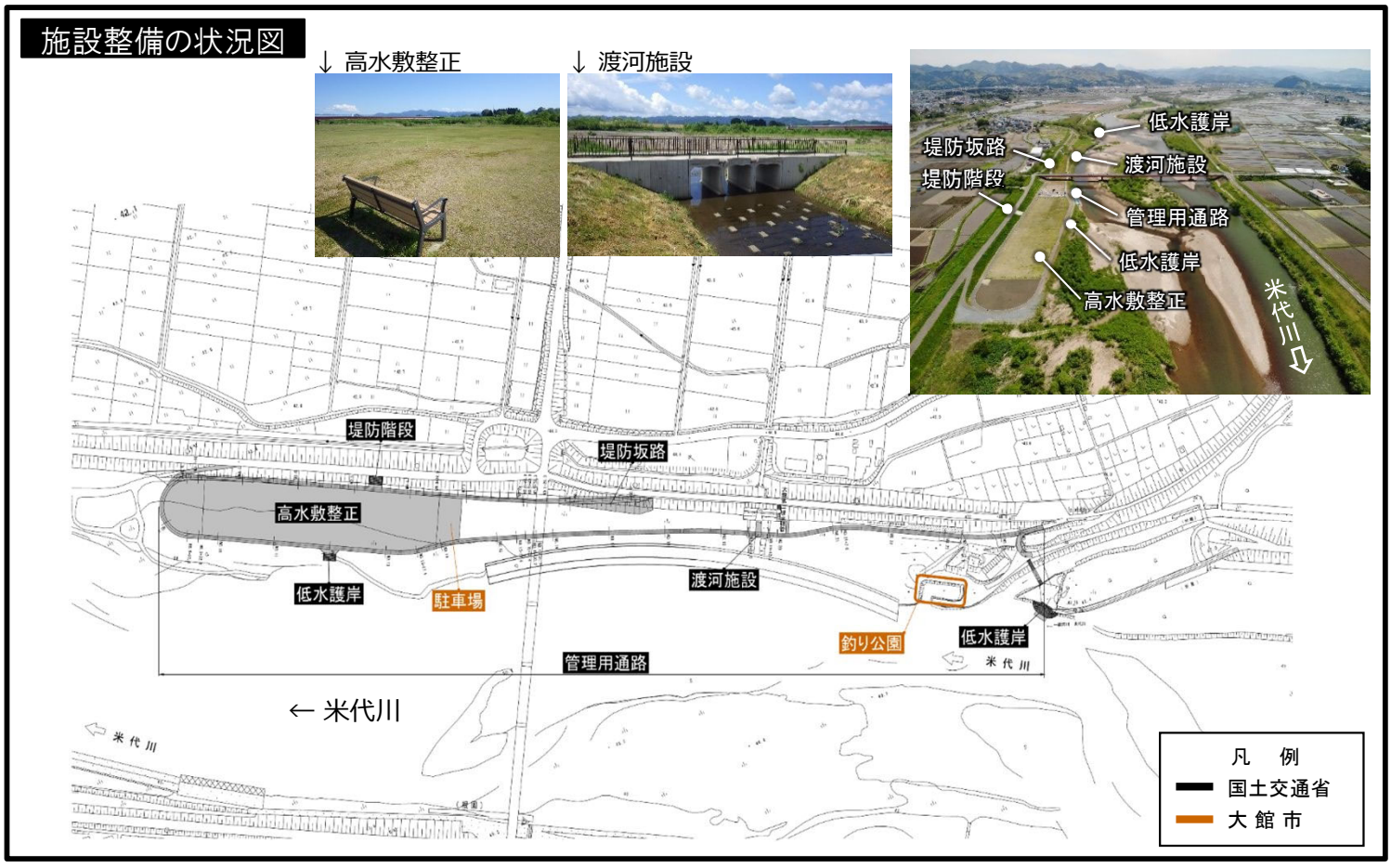
2. ハード施策の内容

国土交通省　：　渡河施設、高水敷整正　等　　大館市　：　多目的広場、駐車場　等

3. ソフト施策の内容

国土交通省　：　都市・地域再生等利用区域の指定　等　　大館市　：　情報発信　等

施設整備の状況図



根下戸地区かわまちづくり【完】

米代川水系米代川（秋田県大館市）【直】

事業実施の効果

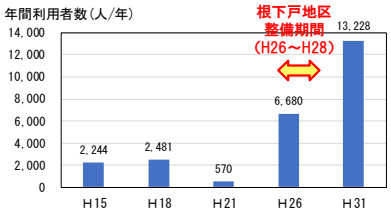


高水敷は草木が繁茂している。



R1年9月21日(土)開催の
第3回大館市長杯ｸﾞﾗｳﾝﾄﾞｺﾞﾙﾌ大会

指標名　根下戸地区 利用者数



事業実施の効果



河岸は草木が繁茂している。



R4年7月30日(土)開催の
米代川川下りカヌー体験

指標名　水辺の利用者状況

・毎年7月下旬に「米代川川下りカヌー体験」（大館市立田代公民館主催）が開催。根下戸地区河川公園から外川原地区河川公園まで約7.5kmを下り、参加者からは「楽しかった」「またやってみたい」の声が寄せられた。

根下戸地区かわまちづくり【完】

米代川水系米代川（秋田県大館市）【直】

ソフト施策



案内看板の設置



グラウンドゴルフ大会の開催



カヌー体験イベントの開催



秋田犬と散歩を楽しむ地域住民

＜水辺空間の利活用状況＞

○釣り公園にて地元の釣り大会を実施。



＜参画機関＞

【根下戸地区かわまちづくり懇談会】

平成２５年７月、８月、１２月の３回開催し、かわまちづくりの具体化に向けて、計画･利活用･維持管理等について検討した。



第1回（H25.7.9）



第2回（H25.8.19）



第3回（H25.12.20）

【根下戸地区水辺利用推進協議会】

平成２６年８月、１１月の２回開催し、維持管理体制や役割分担、管理団体の規約等をとりまとめた。

＜かわまちの運営（維持管理）＞

【根下戸米代川公園管理組合】

河川公園の清掃やパトロールを実施し、河川愛護の増進や地域の活性化、健康づくりに資することを目的に、平成２８年６月８日に「根下戸米代川公園管理組合」が発足し、その後 平成２９年３月１６日に河川協力団体に指定された。主な活動は、河川清掃及びパトロールを中心とした河川公園の維持管理を実施している。





【H25年度】

「三川町かわまちづくり」（山形県東田川郡三川町）

登録年月日：H25.11.12
事業年度：H26～R5

対象河川　：　一級河川　赤川水系赤川　【国管理河川】
市町村名　：　山形県東田川郡三川町
推進主体　：　三川町



1. 概要

三川町では、これまでに「赤川河川緑地」を整備し、主にグラウンドゴルフなどのスポーツやレクリエーション、文化活動などの活動の場として利用している。

本計画では、国土交通省が河川空間の利活用促進のための河川管理用通路、親水護岸の整備等を行うとともに、三川町が「第3次三川町総合計画」に基づき、現赤川河川緑地の面積を拡張し、防災機能や町民憩いの場・交流活動、健康増進、レクリエーションの場としての多面的な公園の整備を行うことにより、まちと連携・一体となり、地域の活性化を推進する。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　管理用通路、低水坂路、親水護岸、河畔整備　等
三　川　町　：　河川公園、駐車場　等



パルク赤川で開催された
三川町70周年記念イベント



かまど施設の利活用状況



「カヌー体験会」の実施状況



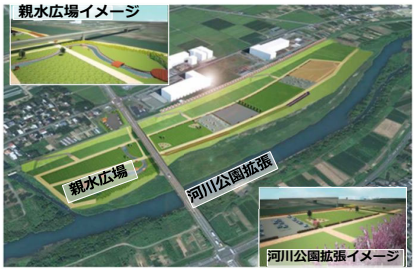
三川町かわまちづくり【完】

赤川水系赤川（山形県三川町）【直】

事業実施の効果



現況空撮写真



施設整備後イメージ

地域のコメント

・三川町における、文化交流、スポーツ、レクレーションの拠点として大きな期待が寄せられている。
・近接する工業団地、産業団地の拡充に伴い、従事者の憩いの場、交流の場としての活用が見込まれる。
・かわまちづくりにより整備された施設を活用することにより、町で開催している各種イベント内容の充実が図られ、魅力ある町としての情報発信が期待されている。

事業実施の効果

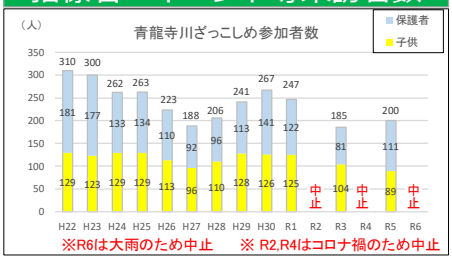


親水護岸を整備し、イベントによる利活用



親水護岸を利用したイベントの開催

指標名　イベント等来訪者数



事業実施の効果

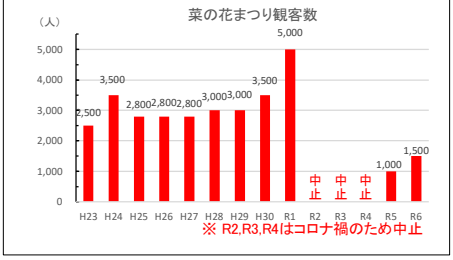


毎年GW開催の「菜の花まつり」



「菜の花まつり」開催状況

指標名　イベント来訪者数



三川町かわまちづくり【完】

赤川水系赤川（山形県三川町）【直】

ソフト施策



低水坂路（船着場）を利用したカヌー等の水辺利用



菜の花まつりと連携したイベント会場としての利用



親水護岸を利用したイベントの開催



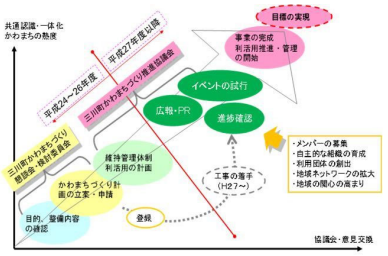
スポーツ・レクレーション教室やスポーツゴミ拾いを検討

＜参画機関＞

・かわまちづくり計画の申請までに「三川町かわまちづくり検討委員会」を発足し、かわまちづくり基本構成を決定した。
・かわまちづくり計画の登録後は、「三川町かわまちづくり推進協議会」を発足し、詳細な施設整備構造の検討を行うと伴に、新たなイベント開催等の検討を実施している。

○今後の展望

・「三川町かわまちづくり推進協議会」は事業完了まで継続開催する予定。新たなイベント等の開催や利活用の推進等について検討していく。



三川町かわまちづくりの進め方

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・三川町により河川法第２４条に基づき、河川管理者の許可を受け、河川緑地公園として利用中。
・毎年８月に親水護岸を利用したフェスティバル「ざっこしめ（魚の掴み取り）」を行い、町内外からの大人や子供に好評を得ている。
・都市公園として告示（H28.9）。
・ R3.４.1より公園の愛称をパルク赤川とし、交流エリアのかまど施設がオープンし、BBQなどでの利用が可能となった。

＜かわまちの運営（維持管理）＞

施設整備後の維持管理状況

・良好な環境の保全のため、適切な維持管理として、点検、除草、伐採および清掃に類する通常の維持管理補修は、三川町が実施し、災害による構造の損傷などは、国土交通省酒田河川国道事務所が実施する。
・「三川町かわまちづくり推進協議会」にて、イベント主催者による維持管理方法や、地元の各団体による日常の維持管理方法を検討する。

【H25年度】

「石巻地区かわまちづくり」（宮城県石巻市）

登録年月日：H26.3.26
事業年度：H26～R7

対象河川　：　一級河川　北上川水系旧北上川　【国管理河川】
市町村名　：　宮城県石巻市
推進主体　：　石巻市



1. 概要

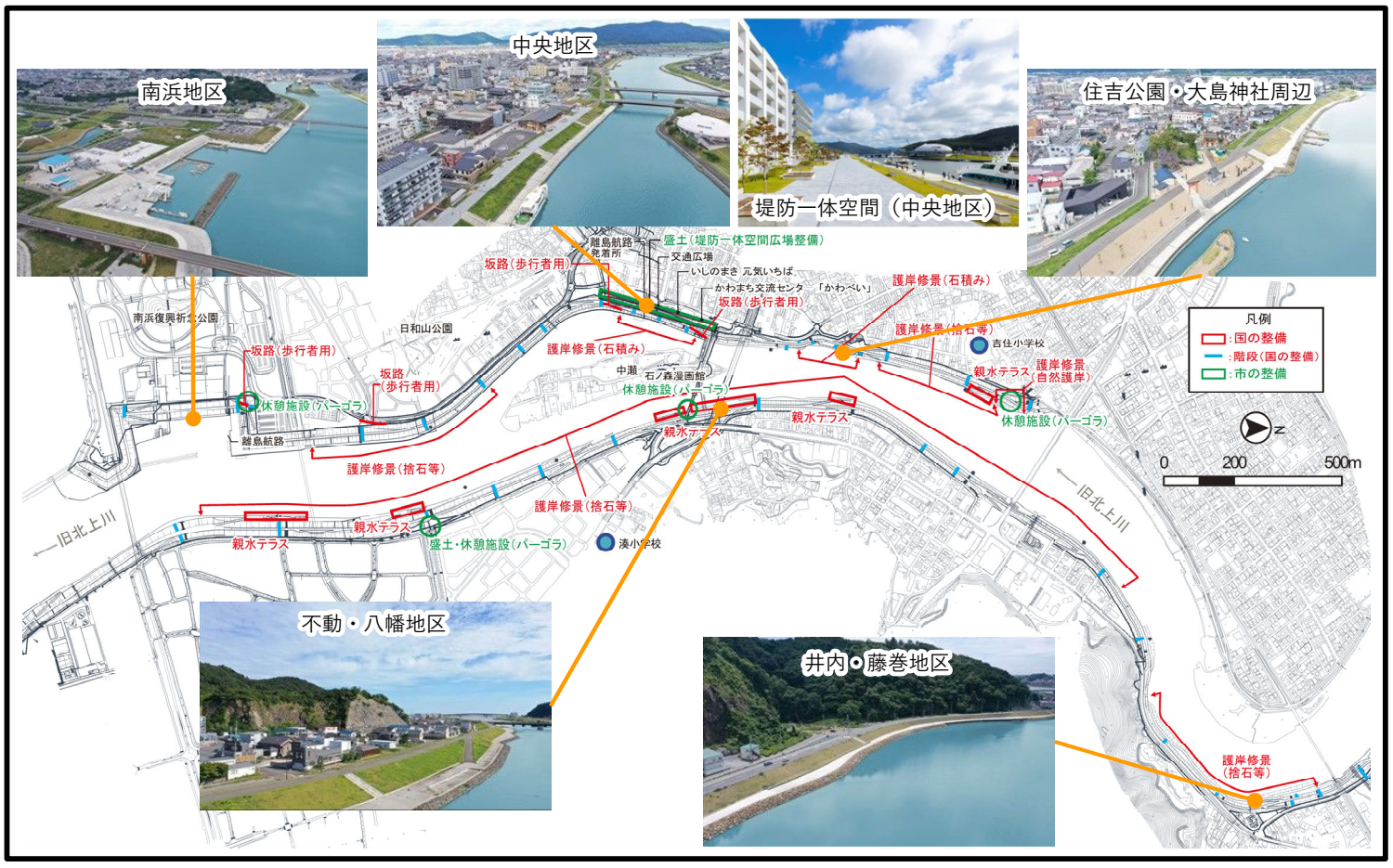
旧北上川河口部は古くから、海運・舟運基地や漁業基地として大変な賑わいを見せ、街も川湊を中心として発展してきた街である。近年では中瀬に造られた「石ノ森萬画館」が中心部の観光スポットとなっている。また、毎年8月には川を中心にした「石巻川開き祭り」が行われている。旧北上川は石巻市の歴史と文化の原点であり、産業や生活のよりどころである。復興には旧北上川の水辺を活かしたまちづくりが必要であり、新たに整備される堤防・護岸を活かし、背後のまちづくりと水辺が一体となった、新たな魅力をもった石巻らしいまちを復興、再生させるとともに旧北上川の水辺で市民や観光客が集い、交流できる水辺空間を新たに創出し地域の活性化を進めるものである。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　低水護岸、階段、坂路、転落防止柵　等
石巻市　：　盛土、照明施設、休憩施設、植栽整備、案内看板　等

3. ソフト施策の内容

国土交通省　：　都市・地域再生等利用区域の指定　等　　石巻市　：　各種イベント、オープンカフェ　等



石巻地区かわまちづくり【完】

北上川水系旧北上川（宮城県石巻市）【直】

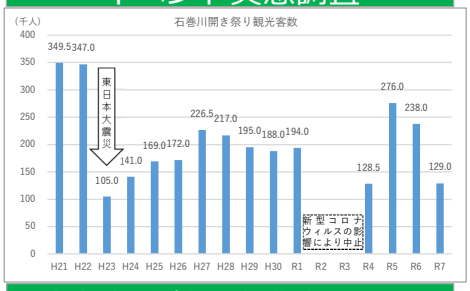
事業実施の効果



水辺の音楽祭（中央地区：震災前）


水辺の音楽祭（中央地区：震災後）

イベント実態調査

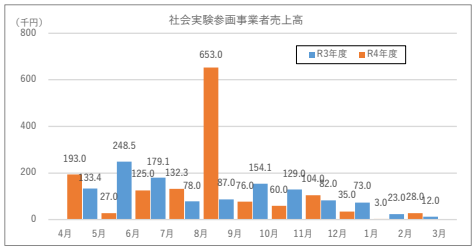


事業実施の効果




キッチンカーの利用状況

社会実験参画事業者売上高

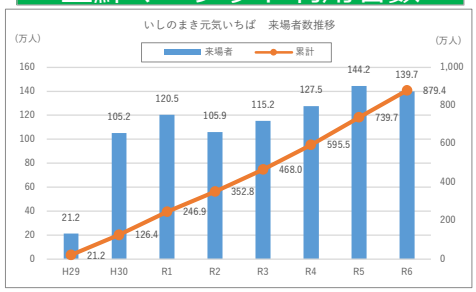


事業実施の効果




【民間】生鮮マーケット

生鮮マーケット利用者数



石巻地区かわまちづくり【完】

北上川水系旧北上川（宮城県石巻市）【直】

ソフト施策

○石巻市

・石巻川開き祭り

※R2、R3は新型コロナウイルスの影響により中止
R4は８月6日～7日に開催（12万8500人来場）
R5は８月4日～6日に開催（27万6000人来場）



・かわまちづくり対象区間においては、新たに整備する堤防や護岸等とまちが一体となった空間を整備し、市民とともに水辺空間の利活用を図り、水辺の活動や賑わいを創出する。
・まちづくりの核となる中央地区では、再開発などのまちづくり事業による商業・交流施設等と堤防を一体で活用し、オープンカフェやミニコンサート等を実施する。
・中瀬や住吉公園周辺、湊地区では、賑わいと交流とともに、地域の歴史や文化を伝え、学習や体験活動、伝統行事の開催など、市民とともに水辺を利活用する活動を実施していく。

＜参画機関＞

・かわまちづくり計画については、「旧北上川河口かわまちづくり検討会」を設置し、８回の検討会と7回の学識者ワーキングを開催し、景観の基本方針や堤防・護岸等のデザイン、拠点地区の整備の方向性などを検討
・地域の意見を聴取する場として、ワークショップ、市民部会の開催やパブリックコメントを実施
・ミズベリング石巻の開催状況として、みずべマルシェin北上川や水辺で乾杯等を実施。







＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・川沿いのオープンカフェやこれまでも行われてきた水辺のイベント等に対し、周辺で計画される商業集客施設を核とした運営組織が河川占用主体となって、出店者の調整、イベント実施等の管理運営を行うことを検討していく。





＜かわまちの運営（維持管理）＞

施設整備後の維持管理状況

・背後のまちづくりや利活用状況に応じて、各施設管理者が行うことを基本としつつ、町内会など住民が維持管理に参画し、河川管理者等とパートナーシップを図ることができるよう検討していく。

【H26年度】*名取川とともに復興し、新たな賑わいを生み出したまち　閖上*

「閖上地区かわまちづくり」（宮城県名取市）

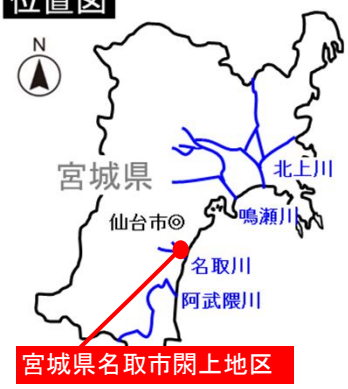
登録年月日：H26.12.19
事業年度：H27～R9

対象河川　：　一級河川　名取川水系名取川　　【国管理河川】

市町村名　：　宮城県名取市

推進主体　：　名取市

位置図



1. 概要

名取市閖上地区は、東北地方太平洋沖地震による地震・津波によって甚大な被害を受けた。このため、市民生活の早期再建をはじめとして、地域の社会的機能や社会経済活動の迅速な復旧など計画的な復興に取り組んでいくために名取市が策定した復興計画と連携した「かわまちづくり」を実施することにより、市街地整備（土地区画整理事業等）と一体となって賑わいのある水辺空間を創出し、地域の復興を支援するものです。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　河川管理用通路、親水護岸、船着場、階段、スロープ、側帯　等

名取市ほか　：　植栽整備、休憩施設、照明設備、多目的広場、乗船用桟橋　等

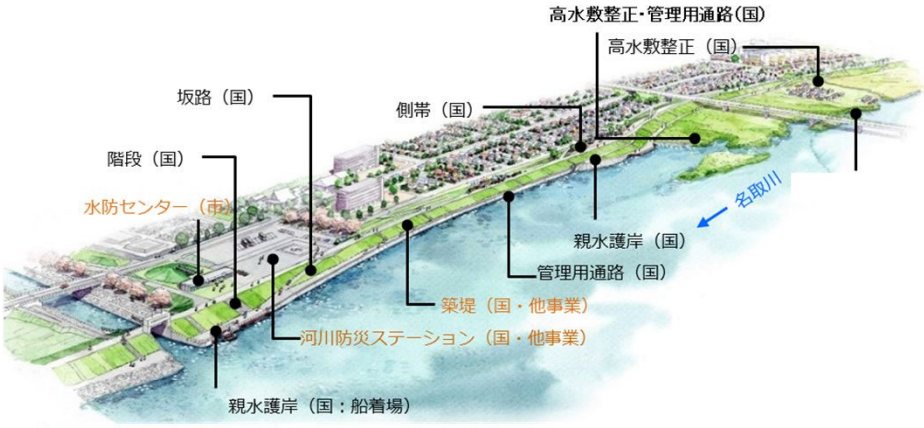
3. ソフト施策の内容

国土交通省　：　都市・地域再生等利用区域の指定　等

名取市ほか　：　舟運事業、SUP・カヌーや自転車を活用したツアー　等

整備イメージ

令和4年度整備完了



整備状況写真



閖上地区かわまちづくり【完】

名取川水系名取川（宮城県名取市）【直】

事業実施の効果



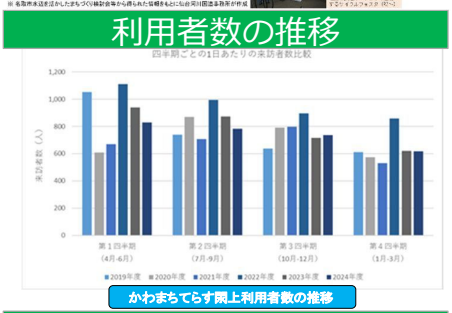




事業実施の効果







事業実施の効果





名取川舟運事業の状況



閖上地区かわまちづくり【完】

名取川水系名取川（宮城県名取市）【直】

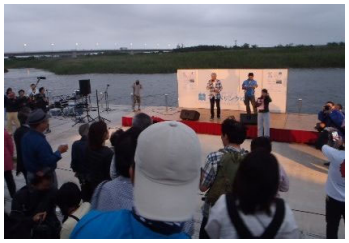
ソフト施策



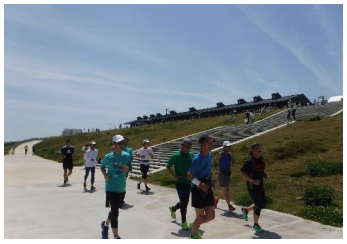
公募により集まった出店者や名取市及び名取市観光物産協会が出資して設立した(株)かわまちてらす閖上により、商業施設を整備。
平成31年4月25日にオープン。



閖上地区と仙台空港を結ぶ水上バスルートの運航を目指し、貞山運河舟運事業は平成30年8月から社会実験として運航開始し、令和3年から本格運航。



ミズベリングプロジェクトの一環として、ミズベリング閖上実行委員会による各種イベントの取り組みがされている。(水辺de乾杯in閖上2019状況)



河川管理用通路（主に堤防天端）をジョギング等コースとして設定し、地域再生や活性化を支援。令和元年5月26日にオープニングイベントとして「閖上地区まちびらきラン＆ウォーク」を実施。

＜水辺空間の利活用状況＞
○かわまち計画範囲内の占用許可状況

- かわまちてらす閖上の商業施設と水防センター整備後の状況も踏まえた社会実験を実施し、その結果を受け、令和3年3月、河川敷地占用許可準則22条による、都市・地域再生等利用区域の指定が名取市にされている。
- 社会実験のための河川占用(24･26条)を平成30年度に許可後、かわまちてらす閖上がオープン（H31.4.25）している。

＜参画機関＞

- 「閖上地区まちづくり協議会」を中心として、地域と一体となった体制で推進。
- 協議会では、今後の「土地区画整理事業」の具体的なまちづくりを進めるにあたり、公共施設や防災コミュニティなど、学識経験者や専門家などの支援を仰ぎながら、まちの将来像について住民が主体となって検討し、最終的には市に対して提案を行うものであり、地域が一体となった体制で推進する。

【閖上地区まちづくり協議会】

- 次世代に誇れる閖上地区復興まちづくりにあたり、住民が主体となって、名取市との協働のもと、安全安心に暮らすことができ、閖上らしさを活かした市街地形成や持続可能な価値あるまちづくりに寄与することを目的に平成26年5月11日設立。
- かわまちづくりの施設整備計画にあたって、地元関係者、学識者、関係機関等からなる「水辺を活かしたまちづくり検討会」・「閖上地区かわまちづくり検討部会」・「閖上地区防災拠点検討部会」を設立し、平成27年度に各３回の検討を、更に、「閖上地区かわまちづくり推進ワーキング」を平成28年度に3回開催。
- ミズベリング名取川水系勉強会(H28.3.17)等を開催。

＜かわまちの運営（維持管理）＞

- 良好な空間の保全を図るため、地域住民や事業団体、名取市、河川管理者等が集まり、地域の自立的・持続的な活性化につなげられる適正な管理の方法等を定めるため、「心地よい『閖上かわまちエリア』の保全と活用のための会議」を設立し、令和2年度に2回開催。
- 日常的な施設管理、清掃等については、河川管理者､名取市､(株)かわまちてらす閖上（H29.9.1設立、H29.10.5設立総会）、利用者が連携して実施する。
- 閖上地区に拡がる様々な施設が連携を図り、交流人口拡大に受けた施策について議論するため、令和2年度に「閖上ベイエリア協議会」が発足され、これまでに4回開催。

「田名部川（たなぶがわ）かわまちづくり」（青森県むつ市）

登録年月日：H29.3.7
事業年度：H29～R3

対象河川：二級河川　田名部川（たなぶがわ）水系田名部川（たなぶがわ）【県管理河川】
二級河川　田名部川（たなぶがわ）水系新田名部川（しんたなぶがわ）【県管理河川】

市町村名：青森県むつ市

推進主体：青森県



1. 概要

田名部川・新田名部川は、多くの市民に散歩やジョギング、ボート練習や大会に利用され、憩いの空間になっています。一方で、周遊や安全利用面において課題が残っており、安全に水辺を利用できる環境の整備が期待されています。

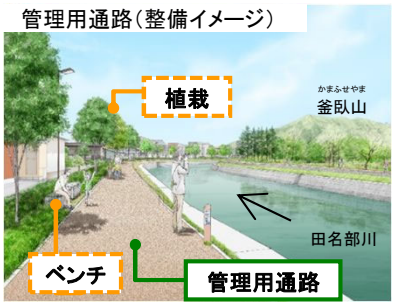
本計画において、安全に利用できる管理用通路等や植樹、ベンチなどを整備するとともに、イベントを川沿いで開催するなど、利用者が安らげる地域交流の場を創出し、田名部川とまちのネットワークを構築することで、地域活性化を推進します。

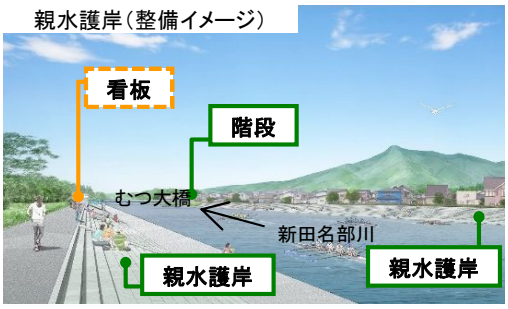
2. ハード施策の内容

青森県 ： 管理用通路舗装、親水護岸整備、階段設置　　むつ市 ： 植樹、ベンチ設置

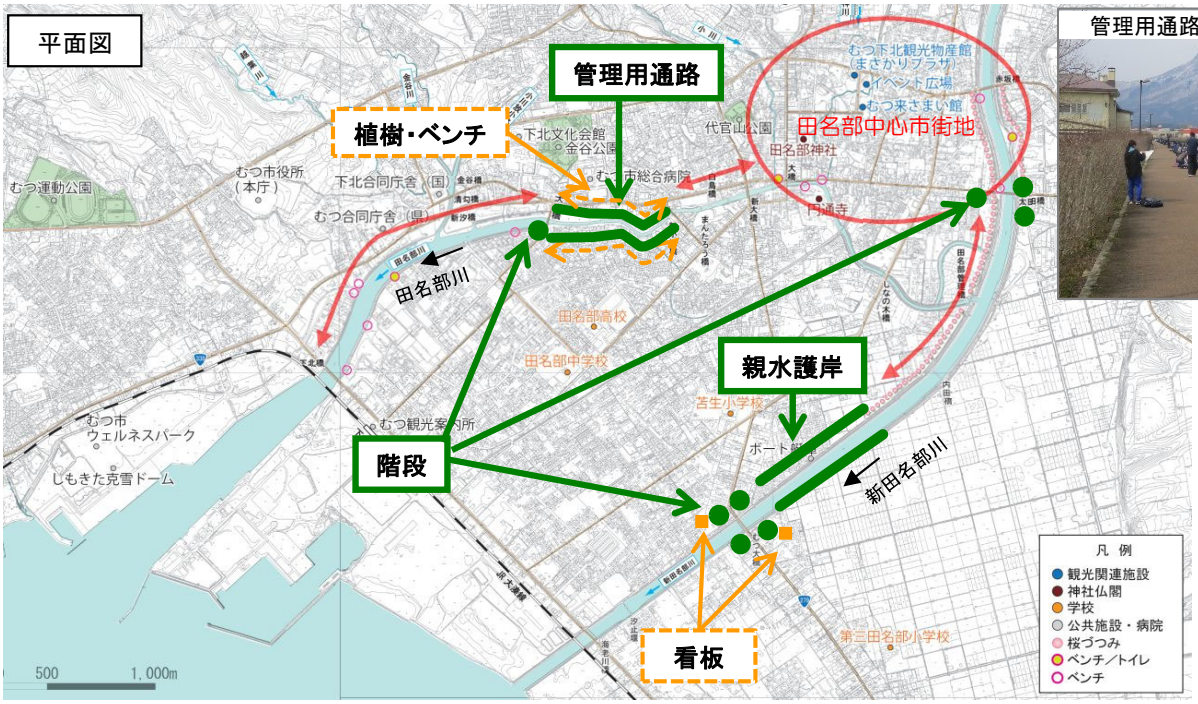
3. ソフト施策の内容

むつ市 ： 案内看板設置　　民間 ： 定期イベント開催、河川清掃











施工主体の別
青森県
むつ市

田名部川かわまちづくり【完】

田名部川水系田名部川・新田名部川（青森県むつ市）【補】

周遊性の向上



・砂利道のため散策しづらい



・散策したいと思える通路に
・植樹とベンチ、案内板等を整備し、やすらぎの場を創出

周遊性の向上

利用者数　区間観測結果
【田名部川下流区間（大瀬橋～新小川橋）】

	H27	R5	観測日
初夏(6月)	6	81	H27.6.18/R5.6.28
夏(8月)	5	64	H27.8.28/R5.8.28
秋(10月)	6	105	H27.10.23/R5.10.25

親水性の向上



・ほとんどが法枠護岸であるため住民が滑落する恐れがある
・護岸の老朽化が進んでいる



・階段護岸のため親水性が高い
・ジョギングやボート競技などスポーツを通した地域交流の場に

親水性の向上

親水性向上により、スポーツを通して地域の交流を楽しむ空間を創出



市民レガッタ大会「まさかりレガッタ」

田名部川かわまちづくり【完】

田名部川水系田名部川・新田名部川（青森県むつ市）【補】

<ソフト施策>





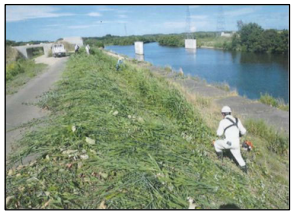
○ウォーキング大会
毎年10月開催で、今後も実施予定です。（むつ市）

○下北健康ウォーキング＆ジョギングロード推進事業
下北管内のウォーキング＆ジョギングができるおすすめコースを紹介するパンフレットを作成、配布しました。（青森県、平成27年度）

<かわまちの運営（維持管理）>

青森県水辺のサポーターがゴミ拾い、草刈など常時の維持管理を行うほか、施設の維持は県が実施しています。





<水辺空間の利活用状況>

○春季ボート選手権大会、まさかりレガッタ
新田名部川ボートコースは青森県内において大会を開催できる唯一のボートコース（日本ボート協会公認C級コース）であり、例年、県大会や東北地区大会が開催されています。7月に開催される市民レガッタ大会「まさかりレガッタ」には、毎年多くの参加者が集まり、賑わいを見せています。



←青森県春季ボート選手権大会（毎年5月開催、既設階段護岸を待機場所・観覧席として利用）

↓まさかりレガッタ（毎年7月開催、高水敷にテントを設営）





R5年度、4年ぶりの開催に賑わっている様子（R2～R4中止）　まさかりレガッタHPより

<参画機関>

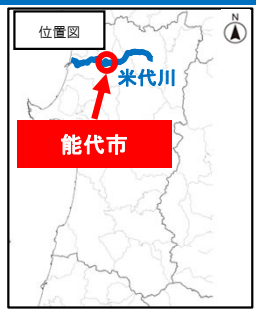
行政や地元関係者、有識者等で構成されたワークショップで検討を行い、まさかりレガッタをはじめとした様々なイベントに河川空間を活用しています。

【H28年度】新たな賑わいの場　かわまちづくり　川の駅「きみまちの里」

「二ツ井きみまち地区かわまちづくり」（秋田県能代市）

登録年月日：H.29.3.7
事業年度：H29～H31

対象河川　：　1級河川　米代川水系米代川　【国管理河川】
市町村名　：　秋田県能代市
推進主体　：　道の駅/川の駅 ふたつい利活用協議会
（構成員）：　能代市/（株）道の駅ふたつい/NPO法人 二ツ井町観光協会



1. 概要

能代市では、「能代市都市計画マスタープラン」（地域の景観、歴史、文化及び観光基盤などの資源等を活かした取り組み）に取り組んでいます。

二ツ井きみまち地区は、「かわまちづくり（川の駅）」「河川防災ステーション（MIZBEステーション）」「道の駅」「小繋インターチェンジ（仮称）」を一体的に整備したことにより、米代川を中心とする新たな水辺空間が形成され、観光・防災・地域振興が連携した拠点を創出しています。

国土交通省では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備のほか、河川空間において営利活動を実施する場合には、河川敷地占用許可準則第22に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　管理用通路（散策路）、親水護岸　等　　能代市　：　カヌー艇庫、歩道橋　等

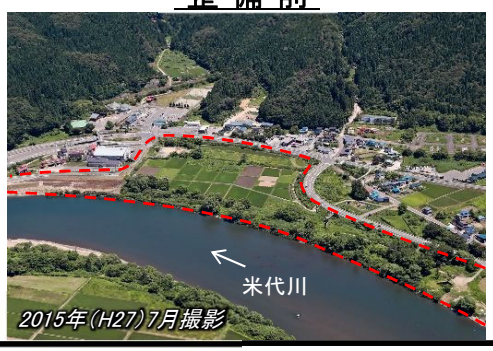
3. ソフト施策の内容

国土交通省　：　都市・地域再生等利用区域の指定　等　　能代市　：　情報発信　等

施設整備の状況図



整備前



整備後



二ツ井きみまち地区かわまちづくり【完】

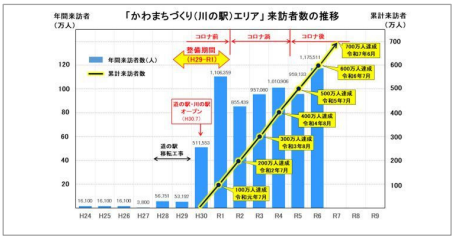
米代川水系米代川
（秋田県能代市）【直】

事業実施の効果





指標名　川の駅 来場者数

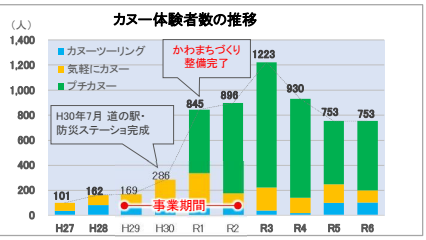


事業実施の効果





指標名　カヌー体験者数



事業実施の効果


河畔林が繁茂した田園風景



指標名　多目的広場 イベント

・多目的広場におけるイベントの開催、防災拠点の整備に伴う防災学習や訓練など、観光や地域交流の起点としての役割を担っています。

二ツ井きみまち地区かわまちづくり【完】

米代川水系米代川
（秋田県能代市）【直】

ソフト施策


管理用通路を利用したウォーキング


カヌーイベントの開催


地域連携イベント（多目的広場）の開催


水防訓練の様子

＜水辺空間の利活用状況＞
○民間事業者の参入拡大に向けた社会実験


【うまいもの大集合 in 二ツ井】　地元より25店舗が出店、約12,000人が来場

＜参画機関＞

【能代市「川の駅懇談会」】

平成２７年７月から１２月までの間に４回にわたり、国、能代市、市民、地元団体等によるワークショップを開催し、二ツ井地区かわまちづくりの実現に向けて、地元主体で整備計画の検討を行った。

- 7月30日 第１回ワークショップ
  - ●ワークショップ設立・意見集約
    利用や活動等に細分化し、ニーズやアイディアを集約、基本計画に基づく具体化
- 8月28日 第２回ワークショップ
  - ●計画案の提示・調整（第１回を踏まえて）
    計画（案）を通じて、具体的な行動計画、及び空間デザイン（イメージ図）の提案
  - アンケート調査実施
- 10月23日 第３回ワークショップ
  - ●「かわまちづくり」を見据えた「川の駅」意見交換
    整備計画、維持管理、有効活用策等の意見交換
- 12月21日 第４回ワークショップ
  - ●計画書のとりまとめ（第３回を踏まえて）
    計画書（案）の確認、役割分担、維持管理方針、事業スケジュールを確認
- 地域の意見・アイディアを取り入れた「川の駅」計画書（案）


能代市「川の駅」懇談会ワークショップの様子

【H29年度】「献上桃の郷・グリーンツーリズム」との連携と水辺空間を創出

「桑折地区かわまちづくり」（福島県桑折町）

登録年月日：H30.3.26
事業年度：R1～R10

対象河川　：　一級河川　阿武隈川水系阿武隈川　【国管理河川】
市町村名　：　福島県桑折町
推進主体　：　桑折町



1. 概要

桑折町では、「桑折町歴史的風致維持向上計画」として、阿武隈川を含む「こおり桃源郷」を拠点としたまちづくりを進めています。

本計画では「献上桃の郷・グリーンツーリズム」をテーマにまちづくりと連携し、阿武隈川沿川の良好な水辺空間を創造し地域の活性化を推進します。

国土交通省では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備のほか、河川空間において営利活動を実施する場合には、河川敷地占用許可準則第22に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

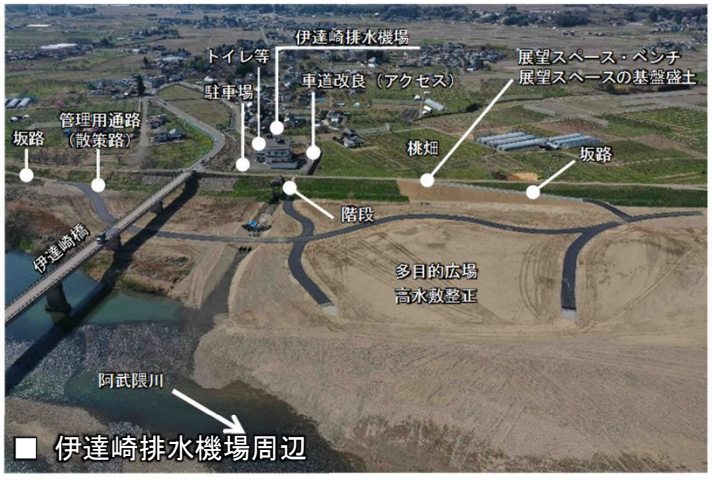
国土交通省　：　親水護岸、高水敷整正、管理用通路、坂路　等
桑折町　：　多目的広場、展望スペース、ベンチ、サイン　等

3. ソフト施策の内容

国土交通省　：　都市・地域再生等利用区域の指定　等
桑折町　：　賑わい創出に係るイベント、サイクリング・カヌー活動　等



■ 桃の郷ポケットパーク周辺



■ 伊達崎排水機場周辺


BBQフェス（高水敷整備）


サイクリングイベント（管理用通路）

桑折地区かわまちづくり【完】

阿武隈川水系阿武隈川（福島県桑折町）【直】

事業実施の効果



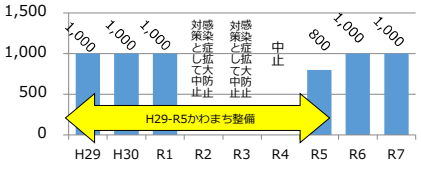
実施前は、水辺に近づける場所がなく、かわとの接点が少なく、親しみが感じられなかった。



実施後は桃源郷と一体的に多様な水辺体験・健康増進に寄与する空間整備を図ります。

イベント参加者数

【献上桃の郷BBQフェス】（4月）
参加者数： 1,000人（R7）



事業実施の効果

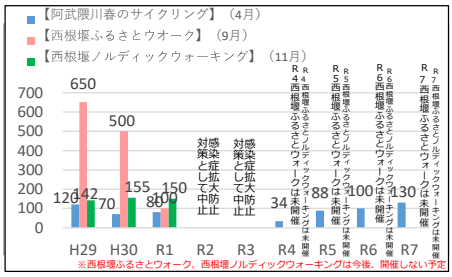


実施前は、水辺に近づける場所がなく、かわとの接点が少なく、親しみが感じられなかった。



実施後は桃源郷を活用したイベントとタイアップして水辺空間を活用します。

イベント参加者数



事業実施の効果



実施前は、伊達崎幼稚園として利用され、その後、閉園したことから、活用が望まれていた。



実施後は、【農業振興活動拠点施設】
Legare Koori(レガーレこおり)としてオープン

オープン1年目で3万2500人が来場。
・多目的レストラン『ピザスタ』では、手づくりピザ体験などもできます！
・研修として施設を活用したり、屋外では、マルシェなども開催。
・各種案内やイベントも開催中！。



桑折地区かわまちづくり【完】

阿武隈川水系阿武隈川（福島県桑折町）【直】

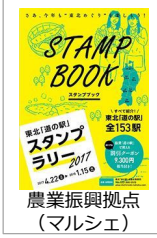
ソフト施策



阿武隈川舟運体験ツアー









農業振興拠点
（マルシェ）

＜参画機関＞

○「桑折地区かわまちづくり検討委員会」(H29.1.30設立)
・設立主旨：
桑折町では阿武隈川の資源を活かしたまちづくりを進めることを目的に「桑折地区かわまちづくり計画を策定するにあたり、地元住民の方々の意見を反映した計画とするため設立されました。
・検討委員：
桑折町商工会長、伊達崎住民自治協議会長、伊達西住民協議会事務局長、桑折町体育協会会長、町議会議員、民生委員、認定農業者、ノルディックウォーキングインストラクター、総合型地域スポーツクラブマルベリーこおりクラブマネージャー、ジョギングふくしま副会長、福島河川国道事務所伏黒出張所長





○「桑折かわまち協議会」(R3.11.10設立)
・設立主旨：
阿武隈川と桑折桃源郷を桑折まちなかと連携し、このエリアを賑わいのある空間を創出するためのアイディアを住民が出し合い、「桑折地区かわまちづくり計画」を作成し、この計画を基に国土交通省と桑折町で整備を進めていくなかで、この春ピーチリバーク157が完成し、この広場の活用と管理を地域住民が協働で担う組織として「桑折地区かわまち協議会」を設立することとなりました。
・検討委員：
伊達崎住民自治協議会会長、桑折町振興公社評議員、桑折町商工会長、福島県トライアスロン協会、桑折町振興公社理事長、吉沼町内会長、道林町内会長、大畑町内会長、桑折町社会福祉協議会会長、桑折町スポーツ協会会長、伊達崎地区住民代表、福島ユナイテッド企画室長、町議会議員、桑折学のすすめ編纂メンバー、総合型地域スポーツクラブマルベリーこおりクラブマネジャー、ジョギングふくしま副会長、福島河川国道事務所伏黒出張所長、桑折町地域整備課長、桑折町地域整備課農林土木係長

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況
・トイレ・イベント広場・駐車場
→ 桃の郷ポケットパークなど
・設置物
→ 標識など





＜かわまちの運営（維持管理）＞

○施設整備後の維持管理状況
• 隣接する一級河川佐久間川には、堤防の草刈を実施している「佐久間川河川愛護会」があり、伊達崎周辺の草刈を地元の町内会が行っており、地元では河川の維持管理を行う地盤ができています。
・今後、地元、河川を利用するカヌー団体、自転車、ウォーキング団体で作る「河川協力団体」の設立を目指します。





• 桑折かわまち協議会は、令和４年３月に福島河川国道事務所より、『河川協力団体』に指定されました。
• 多目的広場のごみ拾いなど、かわまち整備箇所の維持管理を実施しています。

【H30年度】

「寒河江地区かわまちづくり」（山形県寒河江市）

登録年月日：H31.3.8
事業年度：R2～R11

対象河川 ： 一級河川 最上川水系最上川 【国管理河川】
市町村名 ： 山形県寒河江市
推進主体 ： 寒河江市



1. 概要

寒河江市では、寒河江SA、最上川ふるさと総合公園、グリバーさがえの3施設を活用したイベント開催の他、フットパスルート等の整備により、市内の観光・交流拠点の回遊性を高め、観光客の誘致に取り組んでいます。

この取組みの充実を図るため、本計画では、市内を流れる最上川を活用し、これら3施設をつなぐ散策路の整備により、一体となった利活用の促進を図るほか、最上川沿いにオープンデッキ、自由広場等を整備し、来訪した人々が集い、憩うことのできる親水空間の創出を図ります。

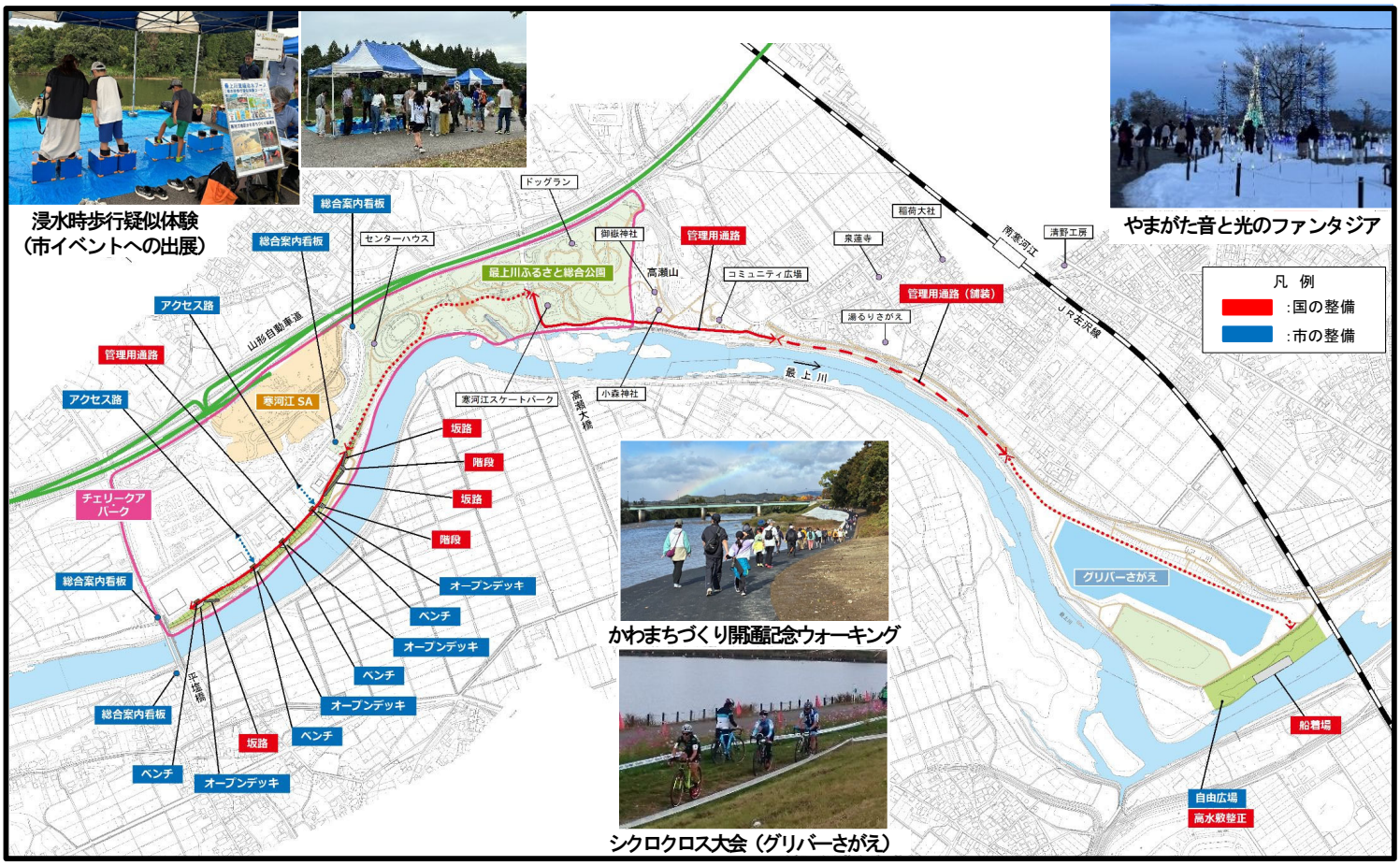
国土交通省では、この取組みに対し、階段、坂路、管理用通路等の河川管理施設の整備のほか、河川敷地占用許可準則22条に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

国土交通省 ： 管理用通路、堤防階段、堤防坂路、緩傾斜盛土 等
寒河江市 ： オープンデッキ、案内看板、アクセス路 等

3. ソフト施策の内容

国土交通省 ： 都市・地域再生等利用区域の指定 等　　寒河江市 ： 情報発信、案内板設置 等



寒河江地区かわまちづくり

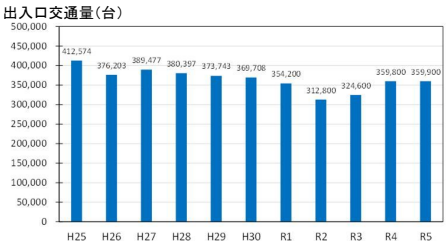
最上川水系最上川（山形県寒河江市）【直】

事業実施の効果





指標名　寒河江SA出入り口交通量

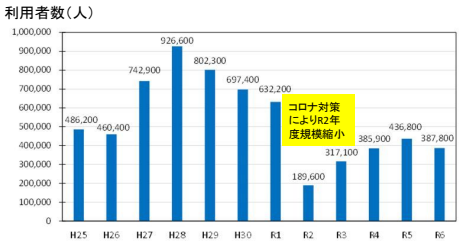


事業実施の効果

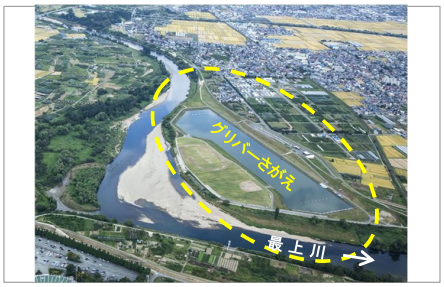




指標名　最上川ふるさと総合公園年間利用者数

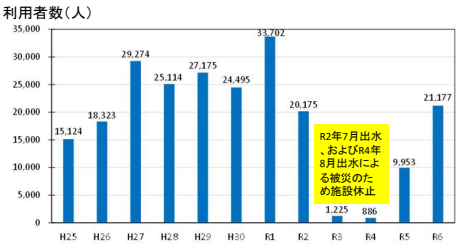


事業実施の効果





指標名　グリバーさがえ利用者数



寒河江地区かわまちづくり

最上川水系最上川（山形県寒河江市）【直】









＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・寒河江市では、河川法第24条の規定に基づき、最上川寒河江緑地（グリバーさがえ）の占用許可（H24）を受け、多目的水辺広場及び芝生広場を利用中。

・寒河江市では、チェリークア・パークの河道側のオープンデッキの利活用について、検討を進める。

＜参画機関＞

・寒河江地区かわまちづくり協議会
　設立：H30年7月23日
　構成団体：11団体
　行政等：　寒河江市、山形県、国土交通省

・H27年3月～　かわまちづくり支援事業勉強会を開催

・H28年12月～　寒河江地区かわまちづくりワークショップを開催

＜かわまちの運営（維持管理）＞

＜＜維持管理体制について調整中＞＞

【国】　河川管理施設に関する施設の維持管理

【寒河江市】包括占用とする者

【住民】　包括占用の施設を具体に維持管理する者

現時点での維持管理状況

・寒河江市かわまちづくり協議会の構成団体により、除草、河川清掃を実施。（3回/年）

【H30年度】

つるおかしあかがわ　　つるおかし
「鶴岡市赤川かわまちづくり」（山形県鶴岡市）

登録年月日：H31.3.8
事業年度：R2～R14

対象河川　：　一級河川　赤川水系赤川　【国管理河川】
（あかがわ　あかがわ）

市町村名　：　山形県鶴岡市
（つるおかし）

推進主体　：　鶴岡市
（つるおかし）



1. 概要

鶴岡市では、生活拠点の集約によるコンパクトなまちづくりを進めるとともに、市固有の歴史と文化を生かした良好な市街地の環境や街並み景観形成、まちなかの回遊機能向上などにより、観光客の誘致に取り組んでいます。

この取組を充実させるため、本計画では、生活拠点と隣接する赤川を活用し、赤川沿川にある松ヶ岡開墾場や黒川能等の歴史的文化施設との回遊性を向上させる案内看板等の設置、自然と触れ合える親水施設の整備などにより、赤川沿いに周遊ネットワークを構築し、市民や観光客を河川空間に誘導することで、地域の賑わいの創出を図ります。さらに、民間事業者にも参画を促し、河川空間を活用した地域の魅力の向上による観光振興の促進を図ります。

国土交通省では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備のほか、河川空間において営利活動を実施する場合には、河川敷地占用許可準則22条に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　親水護岸、河川管理用通路、高水敷整正　等
鶴　岡　市　：　園路、駐車場、案内看板、トイレ、広場　等



スロープ利用状況



親水広場オープニングイベント



赤川さくらマルシェ



鶴岡市赤川かわまちづくり

赤川水系赤川（山形県鶴岡市）【直】

事業実施の効果

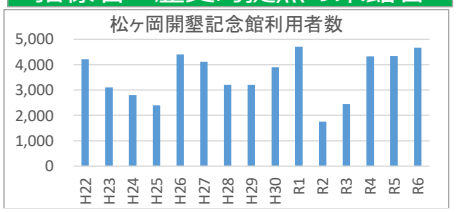


松ヶ岡開墾場との連携



馬渡桜づつみとの連携

指標名　歴史的拠点の来館者



・隣接する松ヶ岡開墾場および周辺観光要素との相乗効果により、来訪者の増加が期待できる。

事業実施の効果

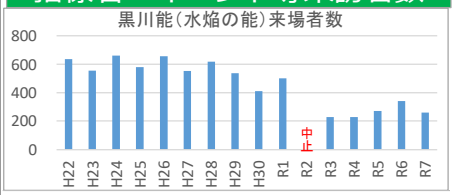


黒川能（水焔の能）の来訪者の増加



黒川能（水焔の能）の来訪者の増加

指標名　イベント等来訪者数

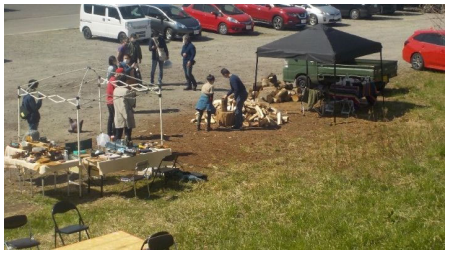


・黒川能などのイベントとの相乗効果により、来訪者の増加が期待できる。（コロナ禍によりR2は中止）
（R6は荘銀タクト鶴岡で開催）

事業実施の効果



社会化実験の来訪者の増加①



社会化実験の来訪者の増加②

指標名　イベント等来訪者数

・民間事業者を公募し、市民ニーズや営業活動の実態を把握することで、水辺における賑わいづくりでの利活用の在り方を検証するため、社会実験を実施（移動販売車等による飲食提供）しており、来訪者数を把握する。（R４活動状況：延べ１６日間、来客数２,876人）

鶴岡市赤川かわまちづくり

赤川水系赤川（山形県鶴岡市）【直】

ソフト施策



親水護岸を利用したイベント



マラソン大会



さくらマルシェ

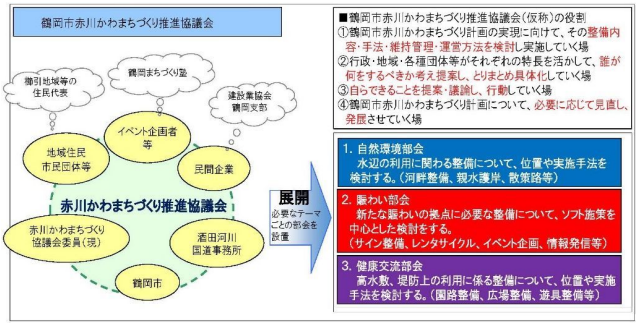


河川敷での水遊びイベント

＜参画機関＞

○鶴岡市赤川かわまちづくり協議会（設立：平成29年8月16日）

・観光部会などの専門的な組織体制とし、整備位置や形状、維持管理に関するより具体的な手法を検討協議し推進していく。
・幅広い意見を反映させた計画とするため、有識者、地域住民、利用団体、事業者、公募委員で構成される協議会を設立（委員数11名,アドバイザー：酒田河川国道事務所副所長,事務局：鶴岡市都市計画課）



＜水辺空間の利活用状況＞

営利活動等を行う民間事業者を公募し、市民ニーズや営業活動の実態を把握し、水辺における賑わいづくりの在り方を検証するために社会実験を実施。

・実施期間：R4.4～R4.11
・内容：移動販売車等による飲食提供他
・参画事業者：４事業者
・活動状況：延べ16日 来客数2,876人
（参考：R3　延べ19日間 来客数1,449人）



キッチンカーによる販売

＜かわまちの運営（維持管理）＞

施設整備後の維持管理

河川公園、休憩施設、案内看板等は鶴岡市で実施し、堤防、管理用道路、護岸等については、国土交通省酒田河川国道事務所が実施する予定。

各施設における清掃などの日常的管理は、市民団体等との連携を図り、市及び市民で実施する予定である。

【H30年度】先人から引き継ぎ、未来に伝える清流文化・最上小国川

「最上小国川かわまちづくり」（山形県最上町～舟形町）

登録年月日：H31.3.8
事業年度：R1～R6

位置図



対象河川：一級河川　最上川水系最上小国川【県管理河川】

市町村名：山形県最上町・舟形町

推進主体：山形県・最上小国川清流未来振興機構

1. 概要

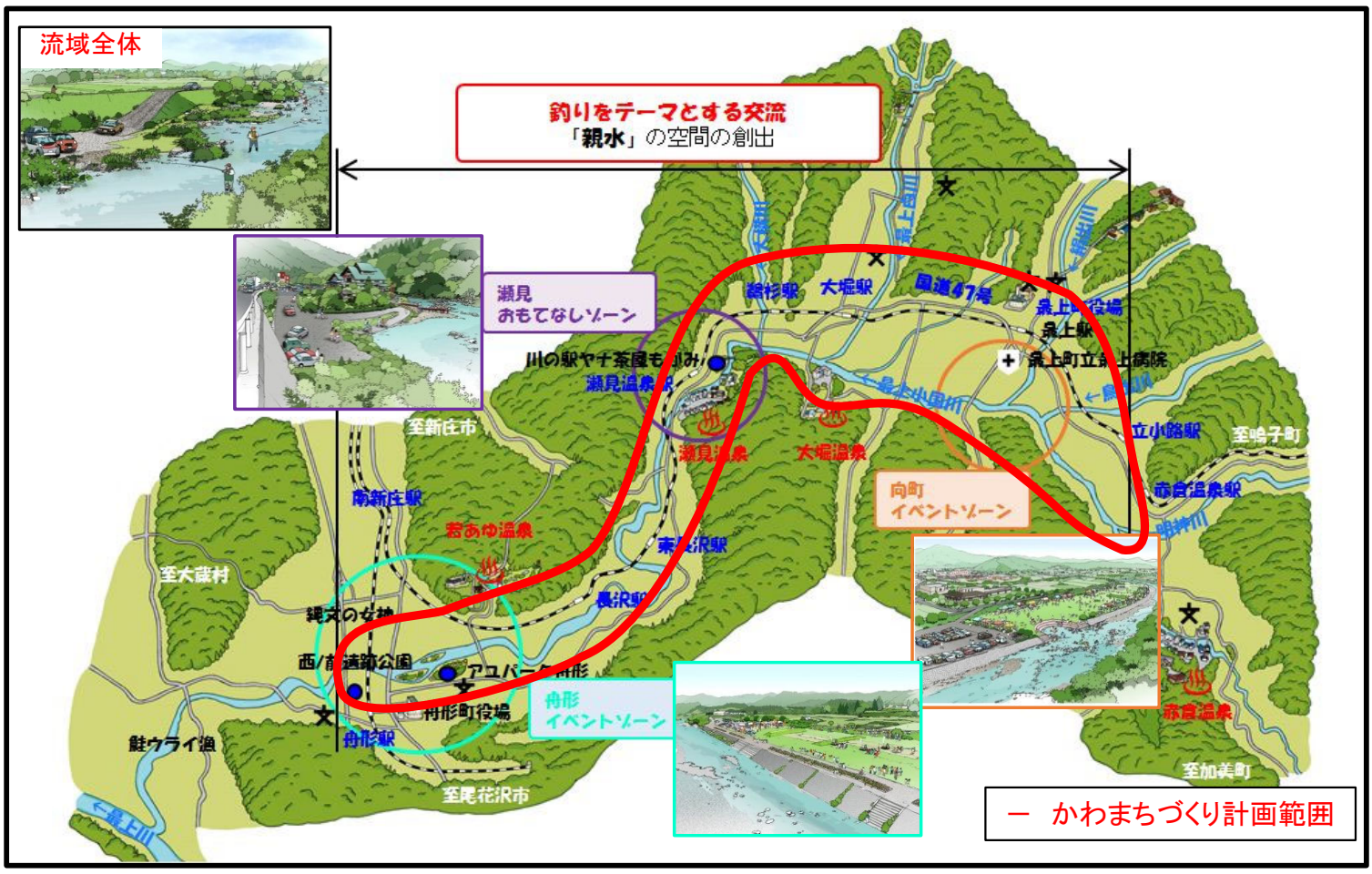
古から築かれてきた最上小国川の清流としての魅力や価値を継承しながら、地域資源に新たな魅力と価値を加え、川とまちとの良好なネットワークを形成し、地域交流の創出を図り、観光交流などの地域活性化を推進するため、流域全体では「親水」をテーマとし、重点的に活性化を目指す箇所については、それぞれ「ふれあい」や「憩い」をテーマとしたゾーンを設定し、空間の創出を図るとともに、安全・安心な河川整備を実施します。

2. ハード施策の内容

山形県　：　河川管理用通路、低水護岸　　最上町・舟形町　：　案内看板、駐車場　等

3. ソフト施策の内容

山形県　：　情報誌による発信　　最上町・舟形町　：　町報を活用した情報発信



最上小国川かわまちづくり【完】

事業実施の効果

事業実施前



向町イベントゾーン

事業実施後



親水護岸等を整備し親水空間を整備

指標名　環境教育

地域のコメント

ワークショップにおいて

・川を知り、川に親しむ地域にしたい。
・子供たちが川遊びできる地域にしたい。
・魚がどこでも見られる地域にしたい。

等の声が挙がっている。

事業実施の効果

事業実施前



瀬見おもてなしゾーン

事業実施後



河川管理通路を整備

指標名　観光

効果

・「鮎釣り」により集まった観光交流に対し、著名な温泉施設・観光施設周辺の環境整備や自然へのふれあいを行える「憩い」の空間を創出するとともに、障がい者や高齢者も楽しめる河川空間を提供することで、交流人口の拡大が期待される。

事業実施の効果

事業実施前



舟形イベントゾーン

事業実施後



河川管理通路を整備

指標名　観光

効果

・「釣り」をメインテーマとし、全国的な鮎釣り大会開催用の会場整備や、稚魚放流等の環境学習の場の整備により、人と人の「ふれあい」空間を創出、既設の観光施設や文化施設並びに河川公園等のつながりを強化し、日常的なジョギングや散策等の利用向上が期待される。

最上小国川かわまちづくり【完】

最上川水系最上小国川（山形県最上町舟形町）【補】

ソフト施策



稚魚放流



若者向け釣り大会



河川ゴミ回収



マラソン大会

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

河川敷占用許可準則22条による、観光やなが漁協により設置されている。（漁業協同組合、民間企業）





＜参画機関＞

最上小国川清流未来振興機構を設立（H27.４月）し、かわまちづくり計画について検討、策定を行っている。

最上小国川清流未来振興機構

«メンバー»

■最上町・舟形町（首長・議会議長・教育長）
■山形県（最上総合支庁長・県土整備部長・農林水産部長）
■関係団体代表者
（流域産地協議会・漁業協同組合・JA新庄もがみ
・最上広域森林組合
・ヤナ茶屋もがみ
・もがみ商工会
・最上町観光協会
・舟形町振興公社
・町内会
・山と川の学校
・川山を愛する会
・土地改良区）



協議会開催状況（R5.4月）

＜かわまちの運営（維持管理）＞

河川施設については、河川管理者が管理を行うとともに、遊漁期間中は、漁協によるゴミ拾いや草刈りの実施、また河川アダプト事業による企業や住民のボランティアによる草刈りを行う計画としている。

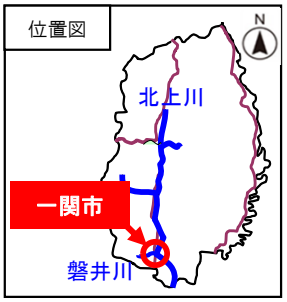
河川周辺の町施設やイベント等については、地元町や関係団体により維持管理運営を行う計画である。

【R1年度】

「一関地区かわまちづくり」（岩手県一関市）

登録年月日：R2.3.13
事業年度：R3～R12

対象河川　：　一級河川　北上川水系北上川・磐井川　【国管理河川】
市町村名　：　岩手県一関市
推進主体　：　一関市



1. 概要

一関市では、地域の景観、歴史、文化等の資源を活かした取り組みに取り組んでいます。

この取り組みを充実させるため、本計画では、河川管理用通路、親水護岸の整備等を行うことにより、良好な水辺空間を創出し、地域の活性化を推進するとともに観光振興を図ります。

国土交通省では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備のほか、河川空間において営利活動を実施する場合には、河川敷地占用許可準則第22に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　河川管理用通路、親水護岸　等
一　関　市　：　多目的公園、園路、小道、ベンチ　等

3. ソフト施策の内容

国土交通省　：　都市・地域再生等利用区域の指定　等　　一関市　：　パンフレット作成　等


磐井川川開き花火大会


かわまちマルシェ


一関バルーンフェスティバル

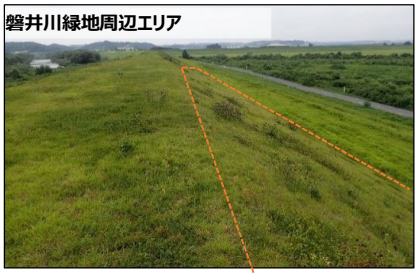


スケートボード広場

一関地区かわまちづくり

北上川水系北上川・磐井川（岩手県一関市）【直】

事業実施の効果



イベント等に利用しづらい。



堤防に親水護岸（階段型）が整備され、花火大会などのイベントに利用されている。

事業実施の効果



河川敷へアクセスしづらい。



堤防に階段が整備され、河川敷へのアクセスが容易となり、水辺利用への促進が期待される。

事業実施の効果

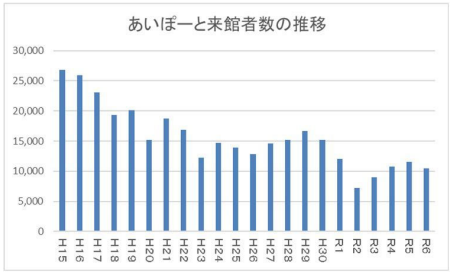


河川敷へアクセスしづらい。



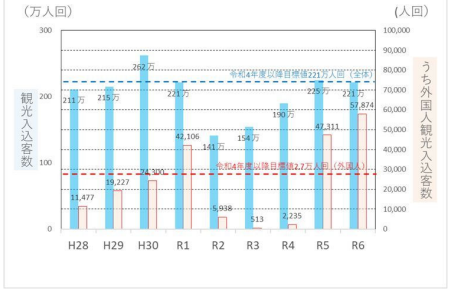
堤防に坂路が整備され、河川敷へのアクセスが容易になり、水辺利用への促進が期待される。

河川施設利用者数の把握



事業区域内にある既設施設の北上川学習交流館あいぽーと等の来館者数を把握し、事業効果を確認する。

一関市を訪れる観光客の推移



一関市を訪れる観光客数を把握し、事業効果を確認する。

一関地区かわまちづくり

北上川水系北上川・磐井川（岩手県一関市）【直】

<ソフト施策内容>

○回遊性の向上によるまちあるきの機会の創出を図る。
○各種イベント等の発展的・有機的開催と、情報発信を行う。

<毎年開催される主なイベント>

- 磐井川春まつり
- 一関市民マラソン大会
- 一関市水防訓練
- 一関夏祭り磐井川川開き花火大会
- 夢灯り大会
- 一関国際ハーフマラソン大会
- 磐井河原いものこ会
- 一関・平泉バルーンフェスティバル
- 一関地方産業まつり農業祭



■バルーンフェステバル



■やまのめ桜まつり



■自然観察会



■花火大会



■ジョギング

○磐井川緑地で社会実験として行われたミュージックフェスティバル（令和4年5月5日開催）



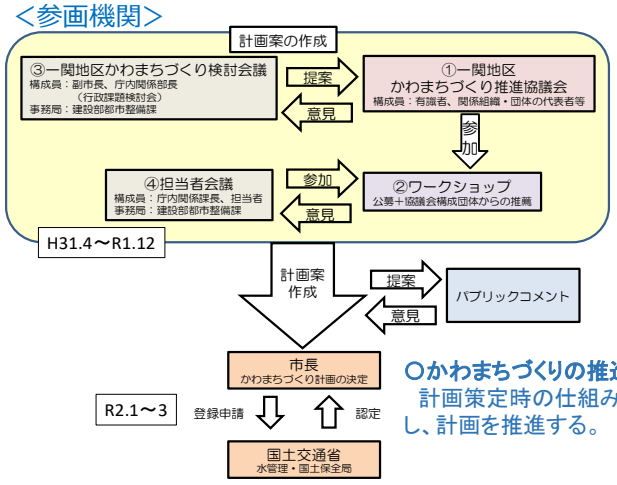


<水辺空間の利活用状況>

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・桜堤堤防を活用した「オープンカフェ」等の社会実験が実施されている。

<参画機関>



○かわまちづくりの推進
計画策定時の仕組みを利用し、計画を推進する。

<かわまちの運営（維持管理）>

施設整備後の維持管理（予定）

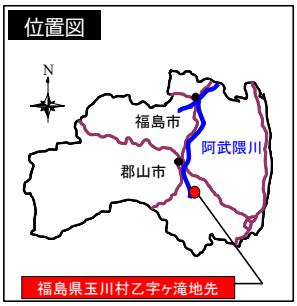
- 各施設の維持管理は施設管理者が行うことを基本とする。
- 日常的な草刈、清掃等については協議会を通じて地域住民、民間事業者、一関市が実施する予定。

【R1年度】*周辺市町村との連携と親水拠点の形成、交流人口を拡大*

「玉川村乙字ヶ滝地区かわまちづくり」（福島県玉川村）

登録年月日：R2.3.13
事業年度：R3～R12

対象河川　：　一級河川　阿武隈川水系阿武隈川　【国管理河川】
市町村名　：　福島県玉川村
推進主体　：　玉川村



1. 概要

玉川村では、「玉川村まち･ひと･しごと創生総合戦略」に「乙字ヶ滝周辺商業･観光整備計画（地域再生計画）」を位置付け、乙字ヶ滝を中心に観光客等の交流人口拡大の事業に取り組んでいます。

この取組を充実させるため、本計画では、乙字ヶ滝周辺が担うまちづくりの役割を踏まえ、福島空港及び空港公園、JR泉郷駅、道の駅、更には周辺市町村との繋がりや連携を図りながら、親水拠点の形成、交流人口の拡大を図ります。

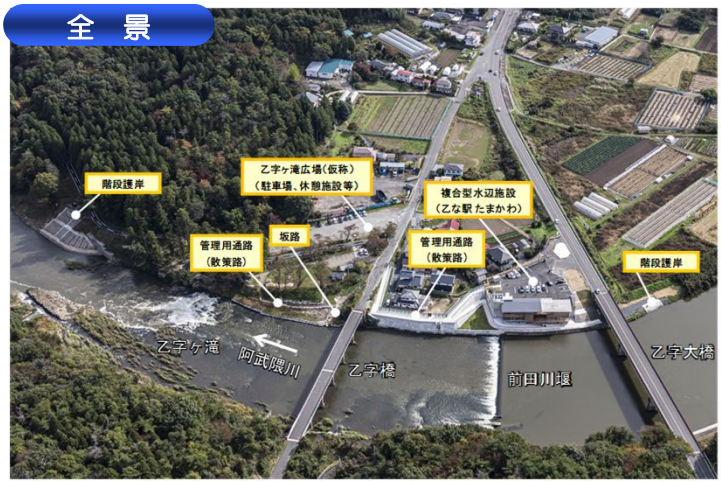
国土交通省では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備のほか、河川空間において営利活動を実施する場合には、河川敷地占用許可準則第22に基づく、都市･地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　管理用通路、坂路階段護岸　等
玉川村　：複合型水辺施設、駐車場、案内看板　等

3. ソフト施策の内容

国土交通省　：　都市･地域再生等利用区域の指定　等
玉川村　：　賑わい創出に係るイベント、カヌー体験、「乙字ヶ滝」の情報発信　等






イベント（乙な市）


カヌー体験

玉川村乙字ケ滝かわまちづくり

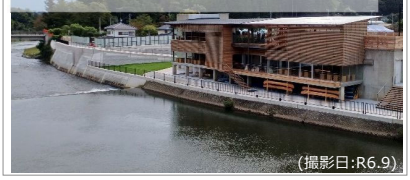
阿武隈川水系阿武隈川（福島県玉川村）【直】

事業実施の効果



実施前は隈研吾氏設計の蕎麦屋だったが、廃業し、空き店舗となっていた。

実施後は河川に面した施設での飲食や、カヌー体験等を行う新たな水辺の賑わいと、交流を促進する拠点として整備します。

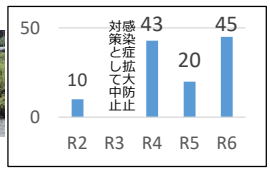


(撮影日:R6.9)

イベント参加者数

【カヌー体験】
参加人数：45人　（R6）





事業実施の効果



実施前は水辺に近づくための階段が、一部自然石で歩きづらいものであった。

実施後は乙字ケ滝の展望や、水辺での親水活動を促進させる空間整備を図ります。

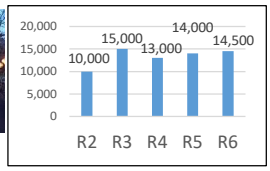


(撮影日:R5.3)

イベント参加者数

【ライトアップ光の乙字ケ滝】
参加人数：14,500人　（R6）





事業実施の効果



実施前は駐車場としての利用のため、敷砂利されていた。

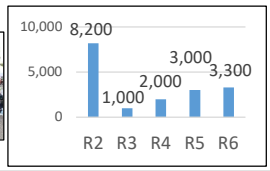
実施後はイベント等の開催により、公園の利用者への便益を図り、利用者同士の交流を促進する空間として活用します。



イベント参加者数

【テイクアウトイベント（キッチンカー）】
参加人数：3,300人　（R6）





玉川村乙字ケ滝かわまちづくり

阿武隈川水系阿武隈川（福島県玉川村）【直】

ソフト施策

民間業者によるキッチンカー営業（R1.11～現在）



カヌー体験（R2.7）





乙字ヶ滝公園を利用したイベント（集客社会実験：R3.3～5）



村内周遊手段による社会実験（R2.12.19）

＜参画機関＞

《検討委員会の開催状況》
第1回検討委員会：H30.9.21（金）
第2回検討委員会：H30.11.20（火）
第3回検討委員会：H31.2.25（月）
第4回検討委員会：R1.9.20（金）
第5回検討委員会：R2.3 書面会議

《玉川村乙字ヶ滝かわまちづくり推進協議会》
第1 回協議会：R3.2.18（火）
第2 回協議会：R3.3.16日（火）
第3 回協議会：R3.10.27（水）
第4 回協議会：R3.12.10（金）
第5 回協議会：R4.10.11（火）
第6 回協議会：R5.1.24（火）
第7 回協議会：R5.8.31（木）
第8 回協議会：R6.3.13（水）
第9 回協議会：R6.9.2（月）



玉川村乙字ヶ滝かわまちづくり推進協議会委員名簿
近隣住民
認定農業者
教育委員
株式会社こぶしの里（道の駅）
株式会社福島エンヤ　代表取締役社長
有限会社釘屋商店　代表取締役社長
アブクマエコロジー有限会社　代表取締役社長
村商工会長
村観光物産協会長
たまかわ元気スポーツクラブ会長
村商工会女性部長
あぶくまビール株式会社　代表取締役
株式会社トーカンオリエンス　専務取締役

玉川村乙字ヶ滝かわまちづくり推進協議会アドバイザー名簿
福島河川国道事務所　専門専門官
福島空港事務所　主幹兼次長
県中建設事務所企画管理部　企画調査課長

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・河川空間で営利活動を実施する場合には、都市・地域再生等利用区域の指定等を行う予定。

＜かわまちの運営（維持管理）＞

かわまちづくり計画を実行し、維持管理や利活用の推進を図っていくため、新たに「玉川村乙字ヶ滝かわまちづくり推進協議会」を立ち上げる予定。
令和3年2月18日に設立準備会から推進協議会として設立し、活動を行っております。

【R2年度】【どこにもない四季と湯の里】西和賀町と錦秋湖

「西和賀町かわまちづくり」（岩手県和賀郡西和賀町）

登録年月日：R3.3.19
事業年度：R3～R12



対象河川　：　一級河川　北上川水系和賀川　【国管理河川】

市町村名　：　岩手県和賀郡西和賀町

推進主体　：　西和賀町

1. 概要

西和賀町では、湯田ダムの貯水池である錦秋湖をはじめとして、水辺の利活用が活発に行われています。湯田ダムを活用し地域活性化を目指す湯田ダムビジョン推進協議会による多くの取組は、令和元年10月にはジャパンツーリズムアワードに入賞し、更に錦秋湖大滝ライトアップの取組は、令和2年7月に「日本夜景遺産」に認定されました。

この取り組みを一層充実させるため、和賀川及び錦秋湖周辺の公園等周辺施設の整備を着実に進め、地域の魅力向上と、観光振興の促進などを図っていきます。また、地域の温泉協会や観光協会等と連携し、民間事業者の積極的な参画を促し、春夏秋冬で様々な表情を見せる和賀川及び錦秋湖周辺の魅力を向上し、賑わいの創出に取り組んでいきます。

国土交通省では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備のほか、河川空間において営利活動を実施する場合には、河川敷地占用許可準則第22に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

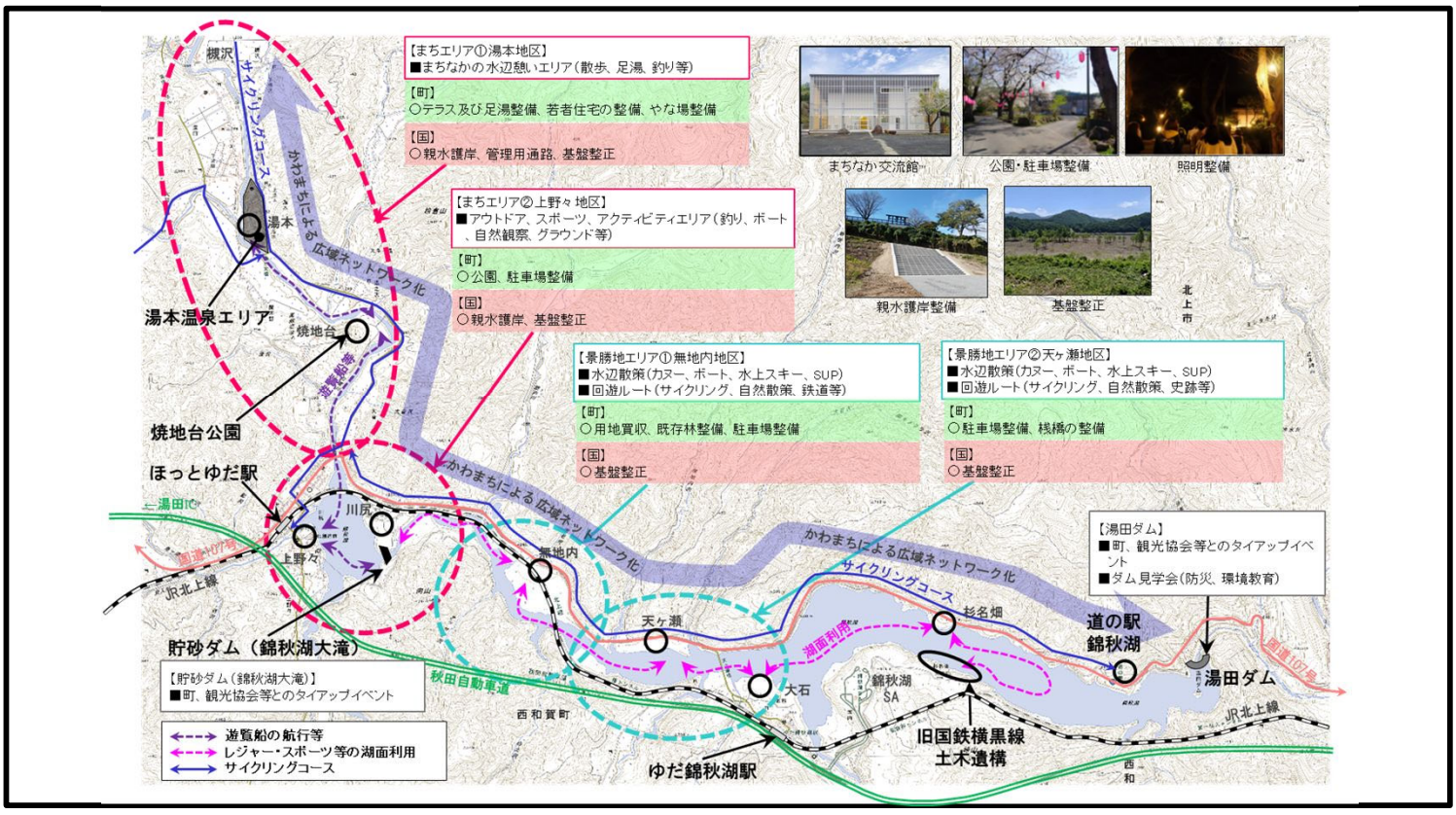
国土交通省　：　河川管理用通路、親水護岸 等

西和賀町：交流拠点、公園、イベント広場、駐車場、案内板、照明 等

3. ソフト施策の内容

国土交通省：都市・地域再生等利用区域の指定、森と湖に親しむ旬間イベント等季節に応じたダム関係イベント等

西和賀町：遊覧船運航、水辺散策ツアー、サイクリング・ウォーキングマップ作成 等



西和賀町かわまちづくり

北上川水系和賀川（岩手県和賀郡西和賀町）【直】

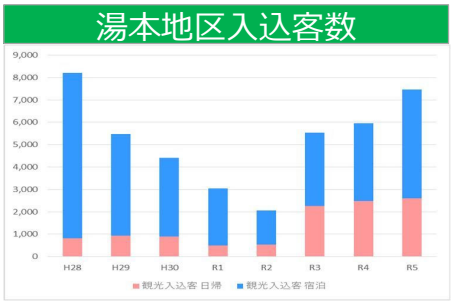
事業実施の効果



実施前は、水辺に近づける場所がなく、親しみを感じられなかった。



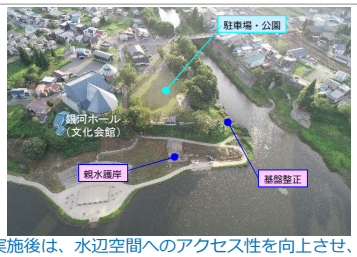
実施後は、まちなか賑わいを創出し、親水空間の構築を図ります。



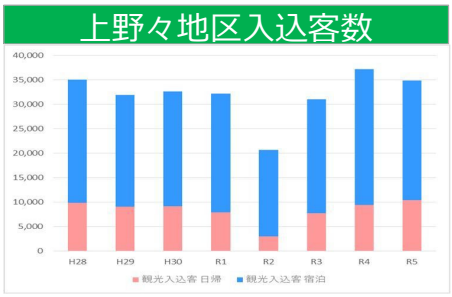
事業実施の効果



実施前は、駐車場がなく、管理用通路、湖畔ステージも活用されていなかった。



実施後は、水辺空間へのアクセス性を向上させ、文化ゾーンとして活用を図ります。



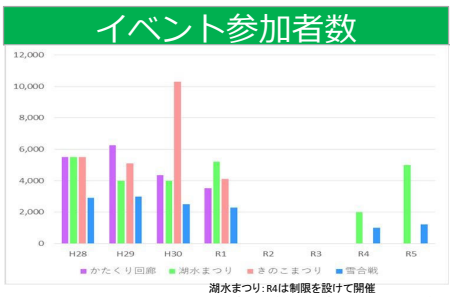
事業実施の効果



実施前は、水辺に近づける場所がなく、錦秋湖に親しみを感じられなかった。



実施後は、美しい水没林の景観を活用した河川空間活用を図ります。



湖水まつり：R4は制限を設けて開催
雪合戦：R4以降はチーム数に上限を設けて開催

西和賀町かわまちづくり

北上川水系和賀川（岩手県和賀郡西和賀町）【直】

ソフト施策



湖水まつり花火の様子



SUPによる水上散歩



水上スキー合宿



カヌーによる水没林の散策

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・公園・吊り橋・駐車場

→　川尻総合公園、オロセの吊り橋　など





＜参画機関＞

○「西和賀町かわまちづくり協議会」（R2.7.30設立）

・設立主旨：

西和賀町では、まちなか交流館を整備し、交流館を基点としたまちづくりの再生及び発展を目指し、まちなか再生検討会を設置しており、その内部にかわまちづくり部会を設置し、構想、計画、スケジュールについて議論を重ねてきた。その次の展開として協議会を設立した。

・検討委員：

工学院大学教授、稲田ランドスケープデザイン事務所、湯本地区協議会、上野々地区協議会、川尻一区協議会、川尻二区協議会、耳取地区協議会、協同組合湯本商店会、川尻地区観光協会、西和賀淡水魚協同組合、湯本青年会、ネビラキ

＜かわまちの運営（維持管理）＞

○施設整備後の維持管理計画

各々整備主体が実施するが、具体的な役割分担については、協議会において地域住民と検討していく。

・日常的な施設管理、清掃等については、関係機関、団体、地域住民の協力を得ながら西和賀町で実施。

・イベント等、不定期な維持管理は、イベント主催者が実施。

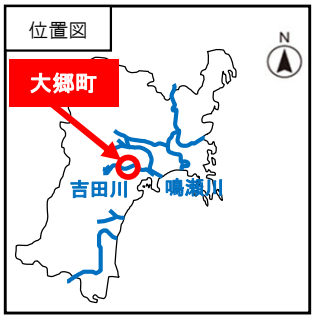
・錦秋湖周辺の樹木群等については、地域住民、イベント主催者、参加者が間伐、枝打ち等を実施。

【R5年度】

「大郷町かわまちづくり」（宮城県大郷町）

登録年月日：R.5.8.10
事業年度：R5～R9

対象河川　：　一級河川　鳴瀬川水系吉田川　【国管理河川】
市町村名　：　宮城県大郷町
推進主体　：　大郷町、大郷町かわまちづくり協議会



1. 概要

大郷町中粕川地区は、令和元年東日本台風によって甚大な浸水被害を受け、吉田川河川大規模災害関連事業とともに「中粕川地区復興まちづくり」に取り組んでいます。また、大郷町は町道兼用道路整備に伴う交通量増大を見越した受け皿として、農業振興にも寄与する「交流拠点施設」の建設整備の検討を進めています。

大郷町はこの取組を推進するため、良好なアクセス環境と豊かな自然環境を活かし、農村と都市との交流を促進することを基本に、河川改修事業、復興まちづくりにとどまらない地域活性化の拠点づくりを推進します。安全なまちづくり、復興シンボルの創造を果たし、船形連峰に抱かれたふるさとの水辺で多様な交流活動を展開し、交流人口の拡大を目指します。

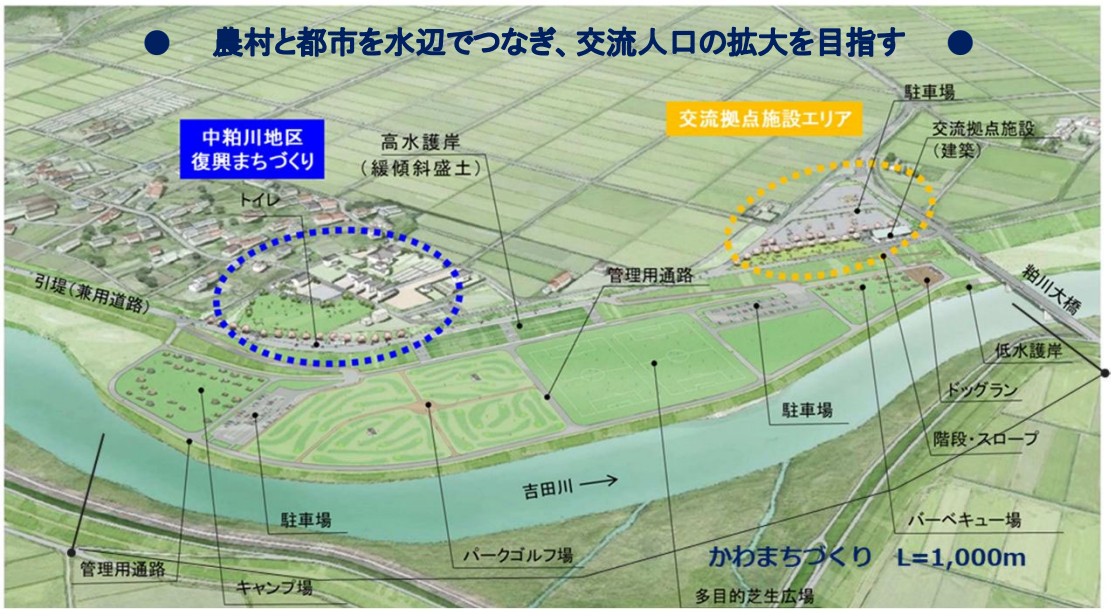
河川管理者（国土交通省）では、この取組に対し、必要となる河川管理施設を整備するほか、河川敷地占用許可準則22条に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　河道掘削、低水護岸、河川管理用通路、高水敷基盤整備、緩傾斜盛土、側帯（盛土）　等
大郷町　　：　多目的芝生広場、バーベキュー・キャンプ広場、水辺デッキ、駐車場、交流拠点施設　等

3. ソフト施策の内容

国土交通省　：　都市・地域再生等利用区域の指定　等
大　郷　町　：　管理運営人材・団体育成、各種イベント　等



※今後、工事実施のための詳細な設計等を実施することにより、実施内容を変更する場合があります。

大郷町かわまちづくり

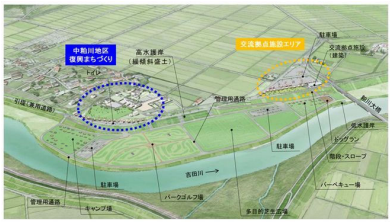
鳴瀬川水系吉田川（宮城県大郷町）【直】

事業実施の効果

事業実施前



事業実施後



地域住民の期待の声

地域のコメント
ワークショップにおいて
・親子で楽しめる水辺にしたい。
・誰もが安全・安心に健康で楽しく学べる場所にしたい。
・飲食の充実を期待する。
などの声があがっている。

事業実施の効果

事業実施前





交流拠点施設整備イメージ

観光交流　イベント

効果
・「水辺空間」における多様なスポーツ、イベントによる観光交流に対し、交流拠点施設を整備することで、農業体験などを通して観光客と地域が密接に交わるような交流人口の拡大が期待される。

事業実施の効果



道の駅おおさと



「道の駅おおさと」と連携したイベント実施予定

道の駅おおさと入込客数



かわまちと連携してさらなる増加を見込む

大郷町かわまちづくり

鳴瀬川水系吉田川（宮城県大郷町）【直】

ソフト施策


おおさとファミリーマラソン


おおさとB級グルメ


スポーツフェスタ


四季のいきもの観察

＜水辺空間の利活用状況＞
○かわまち計画範囲内の占用許可状況
・大郷町では、河川法第２４条の規定に基づき、吉田川かわまち計画事業箇所の占用許可手続き完了。
（Ｒ６年3月許可）
・河川敷地占用許可２２条による、都市・地域再生等利用区域の指定予定。

＜参画機関＞
・大郷町かわまちづくり協議会
設立：Ｒ４年１０月３１日
構成団体：５団体
行政等：大郷町、国土交通省、東北学院大学

・Ｒ４年　～　かわまちづくり勉強会を開催
・Ｒ４年１２月～　大郷町かわまちづくりワークショップを開催
・Ｒ５年　３月～　かわまちづくり視察研修会を開催

＜かわまちの運営（維持管理）＞

＜＜維持管理について調整中＞＞
【国交省】　河川管理施設による維持管理
【大郷町】　包括占用とする者
【民　間】　包括占用の施設を具体に維持管理する者

【R5年度】

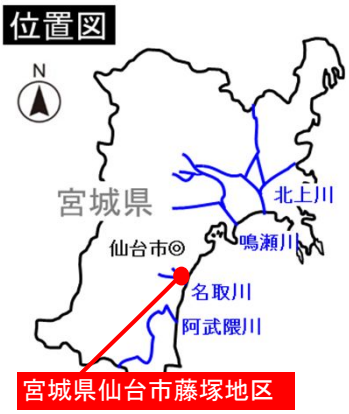
「名取川藤塚地区かわまち」（宮城県仙台市）

登録年月日：R5.8.10
事業年度：R6～R14

対象河川 ： 一級河川 名取川水系名取川 【国管理河川】

市町村名 ： 宮城県仙台市

推進主体 ： 仙台市



1. 概要

仙台市では、沿岸部の防災集団移転跡地において、東日本大震災以前の営みや震災の記憶、復興の軌跡を“伝え”、豊かな自然環境と人を“繋ぎ”、にぎわいや新たな価値、活力を“創る”ため、民間事業者や地域と協働で跡地利活用に*取り組んでいます。*

*この取組を充実させるため、本計画では、運河や湿地における自然体験*や水面利用の拠点となる施設の整備を実施し、運河を軸としたエリアの一体感の創出および回遊性の向上を図ります。

国土交通省では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備のほか、河川空間において営利活動を実施する場合には、河川占用敷地許可準則22条に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

国土交通省 ： 河川管理用通路、親水護岸、船着場、階段、スロープ、側帯 等

仙台市ほか ： 拠点施設（展望テラス 、オープンカフェ、トイレ、サイクルラック を含む）、ベンチ、植栽整備、照明設備 等

3. ソフト施策の内容

国土交通省 ： 都市・地域再生等利用区域の指定 等

仙台市ほか ： 舟運事業、SUP・カヌーや自転車を活用したツアー 等



名取川藤塚地区かわまちづくり

名取川水系名取川（宮城県仙台市）【直】

事業実施の効果

事業実施前



事業実施後



地域と一体となった賑わい創出

効果

・藤塚地区のかわまちづくりと海岸公園、対岸のかわまちてらす閖上等が一体となった賑わい創出が期待される。

事業実施の効果





地域特有の自然環境の利活用

効果

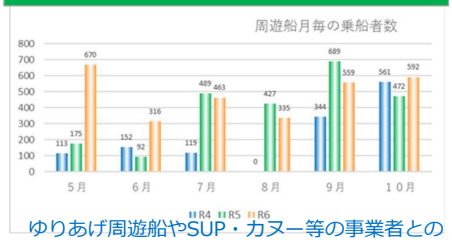
・干潟や湿地、河川等の豊かな自然環境を活かしたハード整備により、学びと体験の場の創出が期待される。

事業実施の効果





舟運利用者数



ゆりあげ周遊船やSUP・カヌー等の事業者との連携により、さらなる増加を見込む。

名取川藤塚地区かわまちづくり

名取川水系名取川（宮城県仙台市）【直】

ソフト施策



「防災集団移転跡地利活用」により貞山運河堤防背後の事業者使用ゾーンに開業した商業施設「アクアイグニス仙台」と連携してにぎわい創出。



サイクリスト向け休憩施設を整備し、貞山運河沿いに整備されている「仙台亘理自転車道」利用者の立ち寄り拠点とし、サイクリング利用促進を図る。



閖上地区で既に運航している「閖上周遊船」と連携し、左右岸の回遊性を高め、河口部の渡し船の運航により、サイクリストの名取川横断の安全性向上を図る。



井土浦および東谷地の貴重な自然環境を活かしたメニュー展開とし、専門知識をもつエコガイドによる生物観察会の実施。

＜水辺空間の利用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

【都市・地域再生等利用区域の指定に関する取組み】

- 令和6年度開催の「藤塚地区かわまちづくり協議会」にて、親水護岸やフットパス等の位置や仕様、維持管理方法について地元住民や関係自治体等と協議する中で、都市・地域再生利用区域の指定範囲についても検討していく。
- 都市・地域再生等利用区域の指定年月日は未定。

＜参画期間＞

- 令和３年度に「仙台市貞山運河周辺地域のにぎわいづくり関する勉強会」を2回開催。令和4年度からは、民間事業者と地元住民を交えた「藤塚地区まちづくり検討会」を開催。
- 令和６年度から、民間事業者や学識者、行政関係者等で構成される「藤塚地区かわまちづくり協議会・WG」を設置し、貞山運河の親水護岸や東谷地のフットパスや自然観察、拠点施設の整備、かわまちづくりによる対象地区のにぎわい創出のための検討を進めている。
- 今後も協議会を中心として、地域と一体となった体制で推進。

＜かわまちの運営（維持管理）＞

【継続的な有効利用に関する計画】

- 井土浦および東谷地の貴重な自然環境を活かし、専門知識を持つエコガイドによる生物観察会や自然体験ツアーを実施する。
- サイクリストが利用できる施設を整備し、自転車による周辺エリアの回遊性を高める。
- 名取市の舟運事業と連携し、藤塚地区と閖上地区の回遊性を高める。
- 名取川河口部の渡し船の運航により、サイクリストの名取川横断の安全性を向上させる。
- 既に閖上地区に参入しているSUP事業者や、仙台市の市民グループ等によるSUP・カヌーの体験プログラムを実施する。

【側帯上の利用に関する取組】

- 整備する拠点施設を、自然体験の拠点、サイクリストの休憩施設、渡し船の乗船券販売所・待合室として利用する他、ロケーションを活かしたオープンカフェの設置を検討する。

【維持管理計画】

- 清掃等日常的な施設の維持管理については、仙台市と河川管理者が連携体制を構築する。
- 地元自治会、市、事業者等からなる検討会にて一体的な利活用促進や維持管理の効率化を図る。
- 海岸公園の維持管理・運営に事業者が選定された場合は、事業者が日常的な施設管理・清掃等を行う。

【R6年度】

「江合川かわまちづくり」（宮城県大崎市）

登録年月日：R6.8.8
事業年度：R7～R16

対象河川　：　一級河川　北上川水系江合川　【国管理河川】
市町村名　：　宮城県大崎市
推進主体　：　大崎市、江合川かわまちづくり協議会



1. 概要

大崎市では、「第2次大崎市総合計画後期基本計画」において、地域資源を生かした地域間交流を展開し、地域の活性化と交流人口の拡大を図っています。また、「大崎市都市計画マスタープラン」では、江合川を自然と施設、水と人のふれあう親水空間「水辺軸」として位置づけています。

この取組を充実させるため、本計画では、芝生広場や親水護岸等の交流拠点の整備を実施し、古川桜ノ目地区を拠点とした周辺地域も含めた交流人口の拡大及び賑わいの創出を図ります。

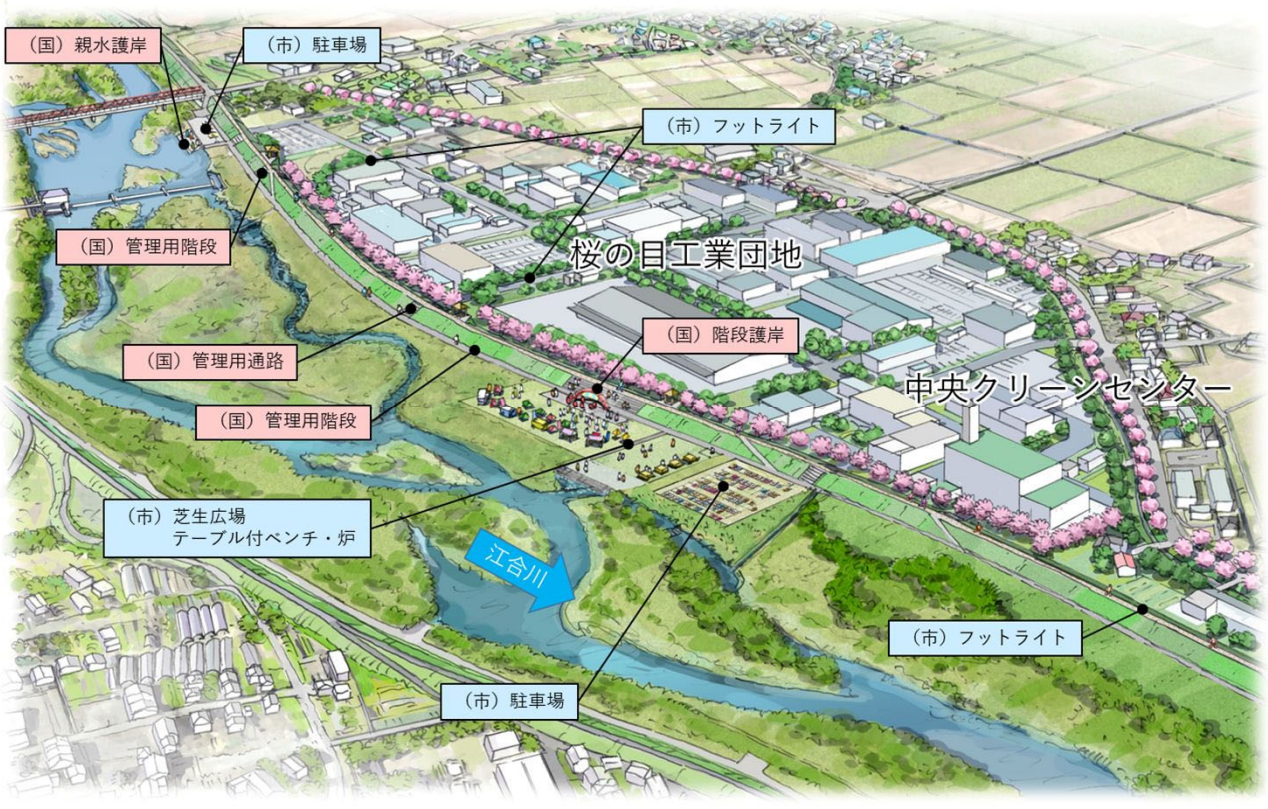
国土交通省では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備のほか、河川空間において営利活動を実施する場合には、河川敷地占用許可準則22条に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　管理用通路、親水護岸、階段護岸、坂路、高水敷整正　等
大崎市　：　駐車場、芝生広場、東屋、照明　等

3. ソフト施策の内容

国土交通省　：　都市・地域再生等利用区域の指定　等　　大崎市　：　管理運営人材・団体育成、各種イベント　等



※今後、工事実施のための詳細な設計等を実施することにより、実施内容を変更する場合があります。

江合川かわまちづくり

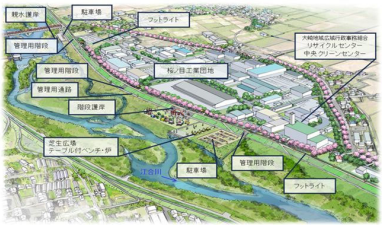
北上川水系江合川（宮城県大崎市）【直】

事業実施の効果

事業実施前



事業実施後



指標名　ハード整備

効果

・大崎市古川桜ノ目地域の江合川左岸周辺を整備により，豊かな自然を活かした交流拠点等の魅力的な河川空間を創造する。

事業実施の効果

ソフト事業実施における目標

No.	事業名	年間回数等（延べ）		年間集客見込数（延べ）	
		整備前	整備後	整備前	整備後
1	春夏秋～かわカフェ（マルシェ、フリーマーケット、集まれキッチンカー）	0回	3回	0人	1，500人
2	水辺のコンサート	0回	2回	0人	200人
3	芋煮会、バーベキュー	0団体	50団体	0人	500人
4	水辺の観察会（市内小学校等）	0団体	30団体	0人	1，500人
5	グラウンドゴルフ等ニュースポーツ	0団体	30団体	0人	3，800人
6	写真・川柳コンテスト	0回	1回	0人	50人
7	ペットボトルイルミネーションコンテスト	0回	2回	0人	200人
8	防災・安全教室	0回	1回	0人	50人
9	ウォーキング・ジョギング	365日	365日	6，160人	9，240人

指標名　ソフト事業

効果

・地域や地元企業との連携により，河川空間を活用したイベント等を行うことで，交流とにぎわいの創出につなげていく。

事業実施の効果

江合川かわまちづくり協議会設立



各種事業の運営



指標名　運営主体の育成

効果

・「江合川かわまちづくり協議会」が河川敷の維持管理やソフト事業の実施を継続的に行うため，法人化に向けて取り組んでいく。

江合川かわまちづくり

北上川水系江合川（宮城県大崎市）【直】

ソフト施策

江合川周辺の自然環境に触れ合う水辺の観察会などの実施



かわカフェなどのイベントの実施



河川敷の芝生広場を活用したグラウンドゴルフなどの実施



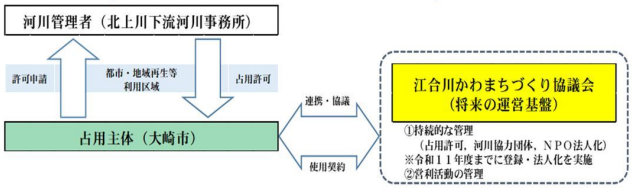
環境衛生施設での環境学習の実施



＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

都市・地域再生等利用区域の指定年月日：令和１１年度予定



※　将来的には，「江合川かわまちづくり協議会」の法人化を目指しており，河川協力団体として管理運営の委託などを予定している。

＜参画機関＞

・「江合川かわまちづくり協議会」は，地域住民１９名，地元企業９社，大崎市，大崎地域広域行政事務組合が構成員となっており，官民一体でまちづくりについて検討し，ソフト事業を実施している。
・周辺環境整備推進協議会や江合川漁業協同組合と連携し，より多くの関係機関とのつながりを形成している。
・令和３年に地域を考えるワークショップが開催され，ワークショップ参加者を中心として協議会が設立された。これまでに幹事会を１１回，協議会を９回開催してきており，ソフト事業の実施や，将来のかわまちづくりについて検討している。

＜かわまちの運営（維持管理）＞

・日常的な施設管理、清掃等は、地域主体で設立された「江合川かわまちづくり協議会」で実施できるよう連携を図る。また、親水護岸などの河川管理施設が水害等で基盤が損なわれた場合の復旧は国土交通省にて行う。
・大崎地域広域行政事務組合や地元企業の協力により，管理体制の充実と広がりをつくる。また，従業員等に親しまれる場所としての浸透を図る。
・持続的な管理運営のため、令和11年度までに占用許可を受け、河川協力団体としての登録、法人化を目指しながら，人材育成や収益事業の内容検討を進めている。
・運営主体の人材が安全講習研修会を受講し、水辺に関する知識を備えることで、利用者が安全に水辺に親しめるよう対策を講じる。また、防災・安全教室を行うことで水辺に関わる人材を増やしていく。
・主な収益としては、①河川管理（除草など）の委託費、②イベント出展者からの出展料、③イベント参加費、④炉の貸出料金、⑤地域貢献として地元企業からの協賛、出店、休業日の駐車場の提供などを想定しており、江合川かわまちづくり協議会にて受領・管理を行うことで、将来的な維持管理・運営の資金に充てていく。

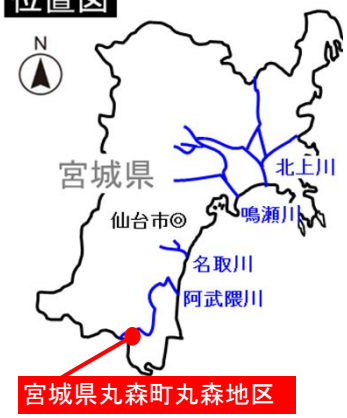
【R6年度】

「阿武隈川丸森地区かわまち」（宮城県丸森町）

登録年月日：R6.8.8
事業年度：R7～R15

対象河川　：　一級河川　阿武隈川水系阿武隈川　【国管理河川】
市町村名　：　宮城県丸森町
推進主体　：　丸森町

位置図



1. 概要

丸森町では、令和5年度に策定した丸森町観光振興計画の重点プロジェクトとして、「水辺の交流拠点整備プロジェクト」を位置づけています。

この取組を充実させるため、「阿武隈ライン舟下りの拠点」や「かわみなとフットパス」などの整備を行い、阿武隈川を軸としたエリアの一体感の創出および回遊性の向上を図ります。

国土交通省では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備のほか、河川空間において営利活動を実施する場合には、河川占用敷地許可準則22条に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　階段護岸、管理用通路、階段（観覧席）、坂路、側帯、高水敷整正　等
丸森町ほか　：　ベンチ（休憩場所）、河岸整正、照明設備、サインシステム　等

3. ソフト施策の内容

国土交通省　：　都市・地域再生等利用区域の指定　等
丸森町ほか　：　舟運事業、河川防災ステーションおよび大階段を利用したイベント、フットパスを活用した散策ツアー　等



阿武隈川丸森地区かわまちづくり

阿武隈川水系阿武隈川（宮城県丸森町）【直】

事業実施の効果

事業実施前



事業実施後



地域と一体となった賑わい創出

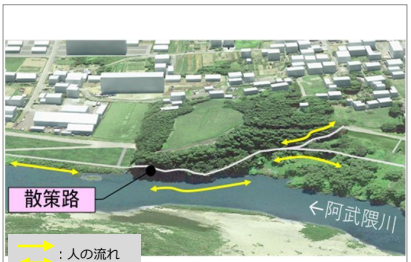
効果

・阿武隈ライン舟下りの発着場として利用できるようになります

・阿武隈川の景色を楽しんだり、水辺に親しんだりできる場所が創出されます

事業実施の効果



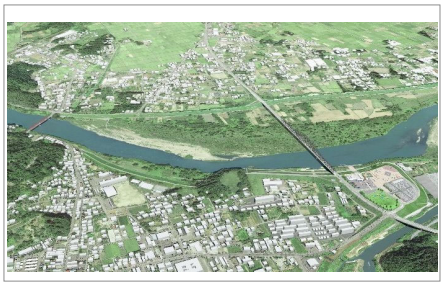


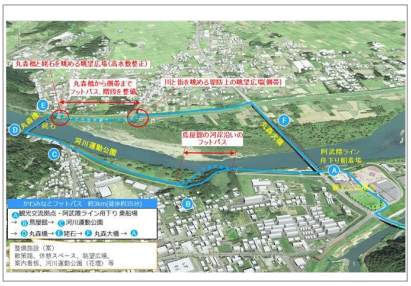
地域特有の自然環境の利活用

効果

・散策路が整備され、安全に自然を感じながら、阿武隈川沿いを散策できるようになります

事業実施の効果





眺望広場の整備

効果

・眺望広場が整備され、選奨土木遺産である丸森橋や姥石を眺められるようになり、川と街を一望出来るようになります

阿武隈川丸森地区かわまちづくり

阿武隈川水系阿武隈川（宮城県丸森町）【直】

ソフト施策



「舟下りプログラムの再構築、新しい楽しみ方の提案」に取組み、阿武隈川を活かした観光客の誘致を図る。



「トレッキング、サイクリングコース等の充実」、「丸森アウトドア」のブランディング・プロモーションにて、丸森の魅力が伝わる観光のコンテンツづくりを行う。



イベント広場を活用してマルシェを開催し、新たな販路を拡大させ、丸森の物販機能・商品開発等の強化を促進させる。



齋理屋敷をはじめとした歴史・伝統文化を活用し、丸森の魅力を高める観光資源の充実を図る。

＜水辺空間の利用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

【都市・地域再生等利用区域の指定に関する取組み】

- 令和6年度に開催する「丸森地区河川防災ステーション利活用検討委員会・検討部会」にて、阿武隈ライン舟下りの船着き場の位置や仕様、かわみなとフットパスの管理用通路や眺望広場の形状などを決定するとともに、観光交流拠点や芝生広場等、船着き場の階段護岸や管理用通路などの運営管理方法について、民間事業者を交え協議して、都市・地域再生等利用区域の指定範囲についても検討していく。
- ２年間の社会実験事業を経て、令和９年度末を目途に指定を目指す。

＜参画期間＞

- 令和３年度に「丸森地区河川防災ステーション整備・利活用検討委員会」を3回開催。令和4年度からは、「丸森地区河川防災ステーション利活用検討委員会・検討部会」を開催。
- 令和4年度から、民間事業者や学識者、行政関係者等で構成される「丸森地区河川防災ステーション利活用検討委員会・検討部会」を設置し、河川防災ステーションの上面利用、水防センター・観光交流拠点の整備、かわまちづくりによる対象地区のにぎわい創出のための検討を進めている。
- 今後もさらに具体的な事業運営の方法を検討する予定である。

＜かわまちの運営（維持管理）＞

【継続的な有効利用に関する計画】

- 「観光交流拠点」の眺望広場や芝生広場等を活用したイベントを展開し、土日・祝祭日の誘客を図る。
- 町内の子供たちから大人まで、幅広く防災教育・防災学習を展開し、防災学習室を積極的に活用するとともに、町内に整備される「遊砂地」などの防災施設の見学ツアーを実施する。
- 中心市街地（齋理屋敷など）との連携を強めるため、両者を結ぶ快適なフットパスを整備する。（観光客は「観光交流拠点」に駐車し、中心市街地の観光を楽しむ。）

【維持管理計画】

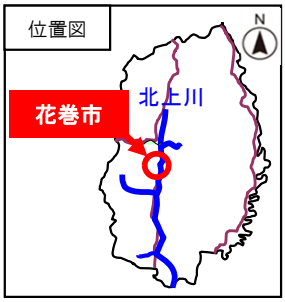
- 丸森町および民間事業者等が協議し、一体的な利活用の促進や維持管理の効率化を図る。
- 水防センター（観光交流拠点）は、指定管理者制度（河川占用敷地許可準則２２条に基づく都市・地域再生等利用区域の指定）の活用を予定。指定管理者は、民間事業者等と連携して日常的な施設管理・清掃等を行う。
- 民間事業者が主催する定期的な清掃活動（年1 回の阿武隈川清掃美化活動等）は、河川管理者と連携しながら、丸森町・民間事業者、地元ボランティアなどが自衛隊の協力を得ながら実施する。
- 日常的な清掃等、施設の維持管理については、丸森町と河川管理者が連携体制を構築。

【R7年度】

「花巻地区かわまちづくり」（岩手県花巻市）

登録年月日：R7.8.1
事業年度：R8～R17

対象河川　：　一級河川　北上川水系北上川　【国管理河川】
市町村名　：　岩手県花巻市
推進主体　：　花巻市



1. 概要

花巻市では、水上アクティビティなどの体験型の観光の他、花巻温泉郷や花巻市出身の詩人”宮澤賢治”関連の観光スポットであるイギリス海岸や下ノ畑など、歴史、文化などの資源等を活かした取り組みを行っています。

この取組を充実させるため、本計画では、階段護岸、河川管理用通路、親水護岸等の整備を実施し、地域の魅力の向上、観光振興の促進などを図ります。

国土交通省では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備のほか、河川空間において営利活動を実施する場合には、河川敷地占用許可準則第22に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

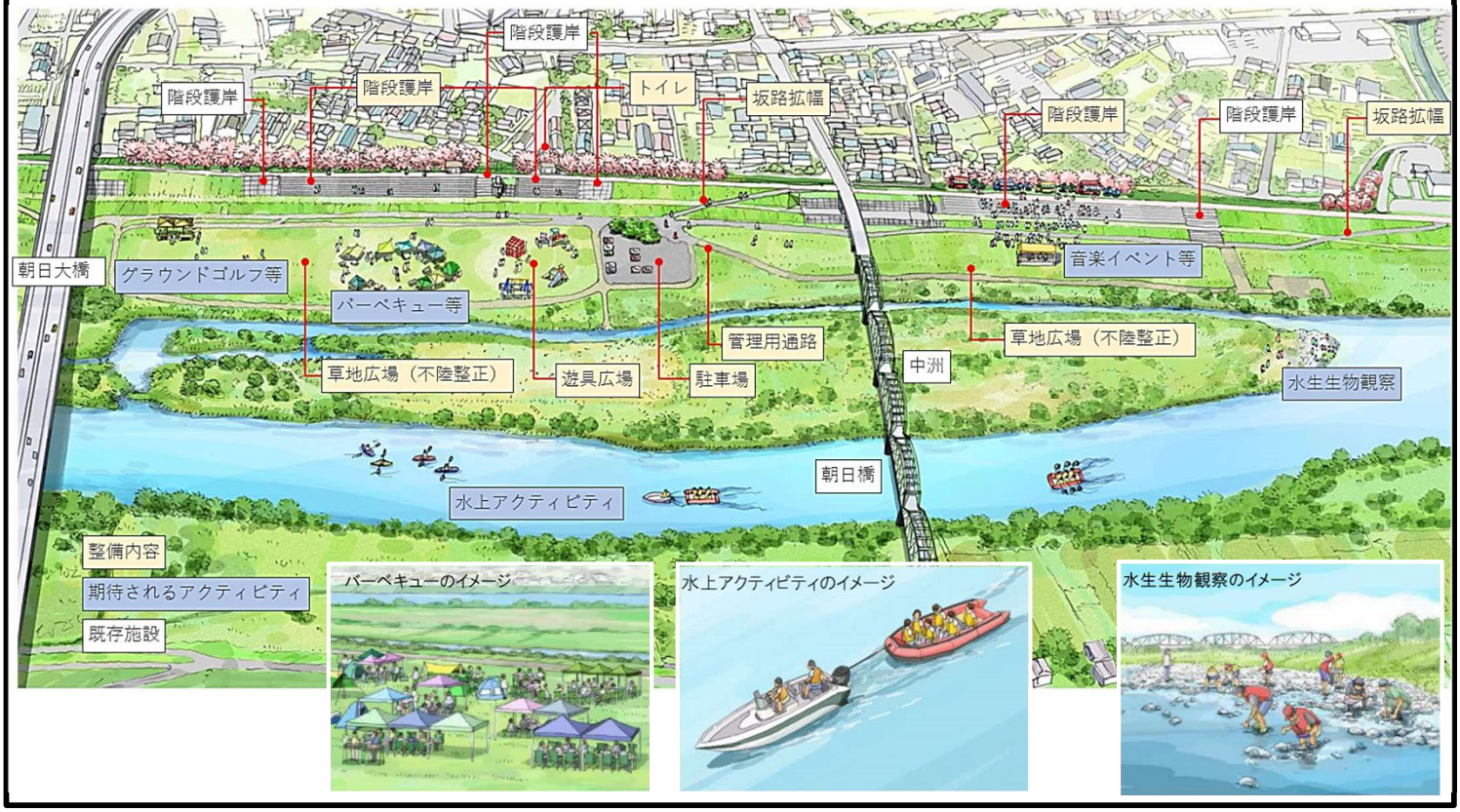
2. ハード施策の内容

国土交通省　：　階段護岸、河川管理用通路、親水護岸　等
花　巻　市　：　駐車場整備、シャワー・トイレ、案内看板　等

3. ソフト施策の内容

国土交通省　：　都市・地域再生等利用区域の指定　等
花　巻　市　：　社会実験の展開、整備後に生まれる新たな空間でのイベントの企画　等

北上川河川敷



花巻地区かわまちづくり

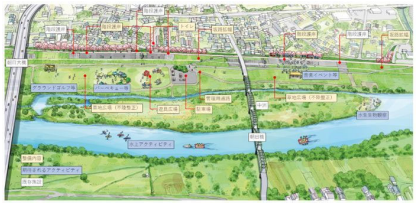
北上川水系北上川（岩手県花巻市）【直】

事業実施の効果

事業実施前



事業実施後



水上アクティビティ利用者数

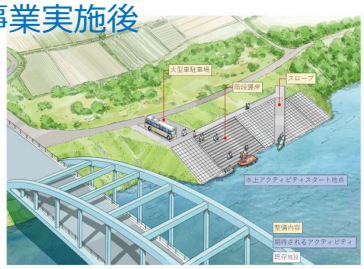
効果（定量評価）
・船着き場、更衣室、シャワー等を整備することにより、年間1,000人の利用者を目指します。

事業実施の効果

事業実施前



事業実施後



河川敷のイベント開催数

効果（定量評価）
・中心市街地活性化のため実施しているイベントと連携し、年5回以上の河川敷利用を目指します。

事業実施の効果

事業実施前

No.	指標名	事業実施前 現状
1	水上アクティビティ利用者数	700
2	北上川河川敷におけるイベント開催数	2
3	花巻温泉郷と水上アクティビティなどを両方利用した利用者数	100
4	観光環状バスの利用者数	51,000

事業実施後

No.	指標名	事業実施後 目標値
1	水上アクティビティ利用者数	1,000
2	北上川河川敷におけるイベント開催数	5
3	花巻温泉郷と水上アクティビティなどを両方利用した利用者数	200
4	観光環状バスの利用者数	60,000

観光環状バスの利用者数

効果（定量評価）
・観光環状バスの利用者数の増大は、かわまち利用者の増大に繋がる。

花巻地区かわまちづくり

北上川水系北上川（岩手県花巻市）【直】

ソフト施策

花火大会の実施



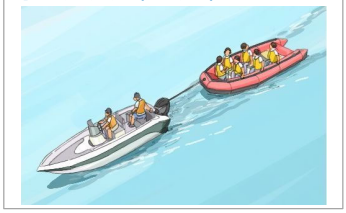
水生生物調査の実施



河川敷での音楽フェス



水上アクティビティ



<参画機関>
・「花巻地区かわまちづくり計画策定協議会」は、学識者1名、特殊法事１社、一般社団法人２社、民間活動団体２社、地域住民３名で構成されている。
・令和5年にかわまちづくり計画策定に向けたワークショップが開催され、ワークショップ参加者を中心にかわまちづくり計画策定協議会が設立された。これまでに協議会を３回開催しており、今後は推進協議会に移行する予定。
・「花巻地区かわまちづくり推進協議会」には、新たに事業者を加えて事業実施や社会実験等に対応できる体制を構築する。

<かわまちの運営（維持管理）>
・国、市、民間事業者、施設利用者等が適切な役割分担で継続的に維持管理を実施する。
・整備した施設等は、市で占用して通常時の維持管理を実施する。
・計画期間終了後も「花巻地区かわまちづくり推進協議会」を継続的に開催。管理運営に関する課題の解決や関係者で情報共有を図る。

<水辺空間の利活用状況>
○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・花巻水辺プラザ及び北上川高水敷を河川公園として占用している。

・都市・地域再生等利用区域の指定については、一般公募で広くアイデアを公募し、社会実験の形で取り組みを始める。

【R7年度】

「陸前高田かわまちづくり」（岩手県陸前高田市）

登録年月日：R7.8.1
事業年度：R8～R17

対象河川　：　二級河川　気仙川水系気仙川・川原川【県管理河川】
市町村名　：　岩手県陸前高田市
推進主体　：　陸前高田市



1. 概要

陸前高田市では、「陸前高田市まちづくり総合計画後期基本計画」において、地域資源を活かした観光振興を展開し、地域の活性化と交流人口の拡大を図っています。

本計画では、東日本大震災による犠牲者への追悼と鎮魂の思いと、まちの賑わい創出に向けた取組の両立を念頭に置きながら、親水護岸や河川管理用通路等の整備を行い、河川水辺空間を活用した魅力ある周遊ルートや、SUPやカヤック等の水上アクティビティが安全に利用できる場を提供することで、地域の魅力の向上や観光振興の促進を図ります。

県では、この取組に対し、必要な河川管理施設を整備するほか、河川敷地占用許可準則第22に基づき、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

2. ハード整備の内容

岩手県　：　河川管理用通路、親水護岸等　　陸前高田市　：　自転車周遊コースへの路面標示等

3. ソフト施策の内容

岩手県　：　都市・再生等利用区域の指定の支援等　　陸前高田市　：　利活用計画の検討・提案等



※今後、工事実施のための詳細な設計等を実施することにより、実施内容を変更する場合があります。

事業実施の効果

事業実施前



河川管理用通路が一部未整備であり周遊への利用が困難な状態

事業実施後（イメージ）



河川管理用通路を整備することで、川沿いの周遊ルートを形成し周遊利用を促す

川沿いの周遊ルートの形成

効果

・祈念公園や道の駅は、現状で多くの来訪者がある一方で、中心市街地への周遊利用はまだ十分とは言えない状況である。
・祈念公園、道の駅と中心市街地を結ぶ川沿いの周遊ルートを形成し来訪者等の周遊利用を促すことで、地域経済活性化、まちの賑わい創出を図っていく。

定量的目標

道の駅～中心市街地間の通行者数
⇒毎年増加

事業実施の効果

事業実施前



旧野外活動センターマリーナでは震災後、SUP、カヤック等による水面利用が減少

事業実施後（イメージ）



マリーナを再整備し、水上アクティビティ等の拠点として水面利用を促す

アクティビティの場としての水面利用

効果

・祈念公園や道の駅等への来訪者は、大半が施設周辺での短時間通過型の利用にとどまっている。
・親水護岸等を整備し、水上アクティビティや、自然学習及び震災学習等の要素を盛り込んだガイドツアーの拠点として、水面を利用してもらうことで滞在の長時間化を促していく。

定量的目標

SUPスクール・ガイドツアー等開催回数
⇒年間10回以上

陸前高田かわまちづくり　　気仙川水系気仙川・川原川（岩手県陸前高田市）【補】

＜ソフト施策＞



周遊ルート沿いへの桜の植樹（イメージ）



水上アクティビティ（SUP）



水辺での野鳥観察会（川原川）



周遊手段の充実（グリーンスローモビリティ）

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・河川敷地占用許可準則22条による占用：なし

＜参画機関＞

本計画の検討にあたり、観光振興等に関係する商工・観光関係者、地元団体、学識者等による「気仙川・川原川復興かわまちづくり協議会」にて、計画策定の趣旨、基本方針、個別施策の内容について付議し、計画の熟度を高めてきたところである。

【協議会の開催経緯】

協議会	日程	主な議題
第1回	R5.6.30	計画策定趣旨等
第2回	R5.12.8	計画骨子（案）、目標設定等
第3回	R6.6.28	個別施策、目標設定等
第4回	R6.10.17	計画素案等

＜かわまちの運営（維持管理）＞

○施設管理

・河川、公園、道路等の施設については、基本的には施設管理者及び管理受託者、指定管理者が管理する。

○日常的管理

・清掃や除草等の日常的維持管理においても、基本的には施設管理者及び管理受託者、指定管理者が管理するが、水辺空間を利用する民間事業者や団体等が行う河川の一斉清掃等により充実を図る。

○水面利用時の安全管理

・安全確保に関するガイドラインを定め、周知する。
・市内で活動するインストラクターを養成する。
・ガイドツアー等にあたり、インストラクター資格者が引率し、安全管理を行う。

04 かわまちづくり計画　事例集

関東地方整備局管内

【H21年度】

「天王崎・沖洲地区かわまちづくり」（茨城県行方市）

登録年月日：H21.5.22
事業年度：H17～H25

対象河川　：　一級河川　利根川水系常陸利根川　【国管理河川】
市町村名　：　茨城県行方市
推進主体　：　行方市



1. 概要

天王崎地区は、昭和40年代まで霞ヶ浦の湖水浴場として栄え、往時は貸ボート屋や屋台などが立ち並び大変なにぎわいだった。現在は霞ヶ浦の水質の悪化や住民の余暇活動の多様化、さらには国民宿舎白帆荘の閉館により、かつてのにぎわいが見られないが、あそう温泉白帆の湯や夕日、星空のロケーションなど、依然高いポテンシャルを有している。そこで本計画による周辺地域整備と一体となった水辺整備（養浜）等により、かつてあった砂浜の再生による賑わいのある水辺を創造し、新たなまちを醸成する。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　水辺整備（養浜）　等　　行方市　：交流拠点整備、桟橋整備　等

3. ソフト施策の内容

行方市　：　イベント運営、施設管理、清掃　等

天王崎・沖洲地区平面図






花火大会


環境学習


ビーチハンドボール大会

天王崎・沖洲地区かわまちづくり【完】

利根川水系常陸利根川（茨城県行方市）【直】

事業実施の効果

整備前（H18）の写真



整備後の写真



指標名　水辺利用

整備終了後は、ビーチハンドボール大会や水上オートバイクなどのスポーツ・レジャー利用が活発に行われています。

事業実施の効果

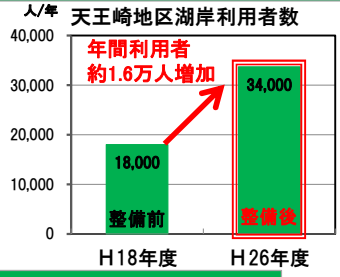
整備前



整備後



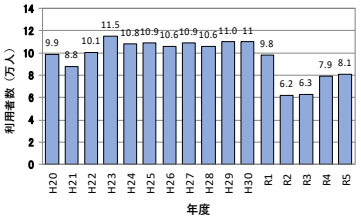
指標名　利用者数



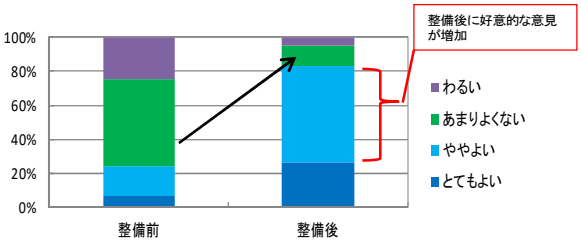
事業実施の効果



利用者の増加



指標名　利用者アンケート



天王崎・沖洲地区かわまちづくり【完】

利根川水系常陸利根川（茨城県行方市）【直】

ソフト施策

水辺利用　遠泳大会



水辺利用　花火大会



環境学習



環境学習



<参画機関>

・霞ヶ浦及び北浦における水辺の利活用について考究するとともに、市内の効果的な交流施策の展開を図るために設置された霞ヶ浦水辺利活用研究協議会が、「かわまちづくり」計画の策定や、養浜を核とした交流拠点整備計画（天王崎周辺整備計画）策定に関わった。
・養浜整備完了後は、地元のヨットクラブが、定期的に、除草作業等の維持管理を行っている。
・利活用については、隣接する天王崎公園で実施するイベント等と連携し、市体育協会やハンドボール団体が協力して、ビーチハンドボール大会を実施している。
　なお、令和元年８月２５日（日）茨城国体のデモンストレーションスポーツとして、ビーチハンドボールが実施されました。

<水辺空間の利活用状況>

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

地元市民団体、市と連携し、維持管理を実施



ビーチハンドボール大会

<かわまちの運営（維持管理）>

地元市民団体による、清掃活動を実施。





【H23年度】

「阿見地区かわまちづくり」（茨城県稲敷郡阿見町）

登録年月日：H24.2.15
事業年度：H24～R3

対象河川　：　一級河川　利根川水系常陸利根川　【国管理河川】
市町村名　：　茨城県稲敷郡阿見町
推進主体　：　阿見町



1. 概要

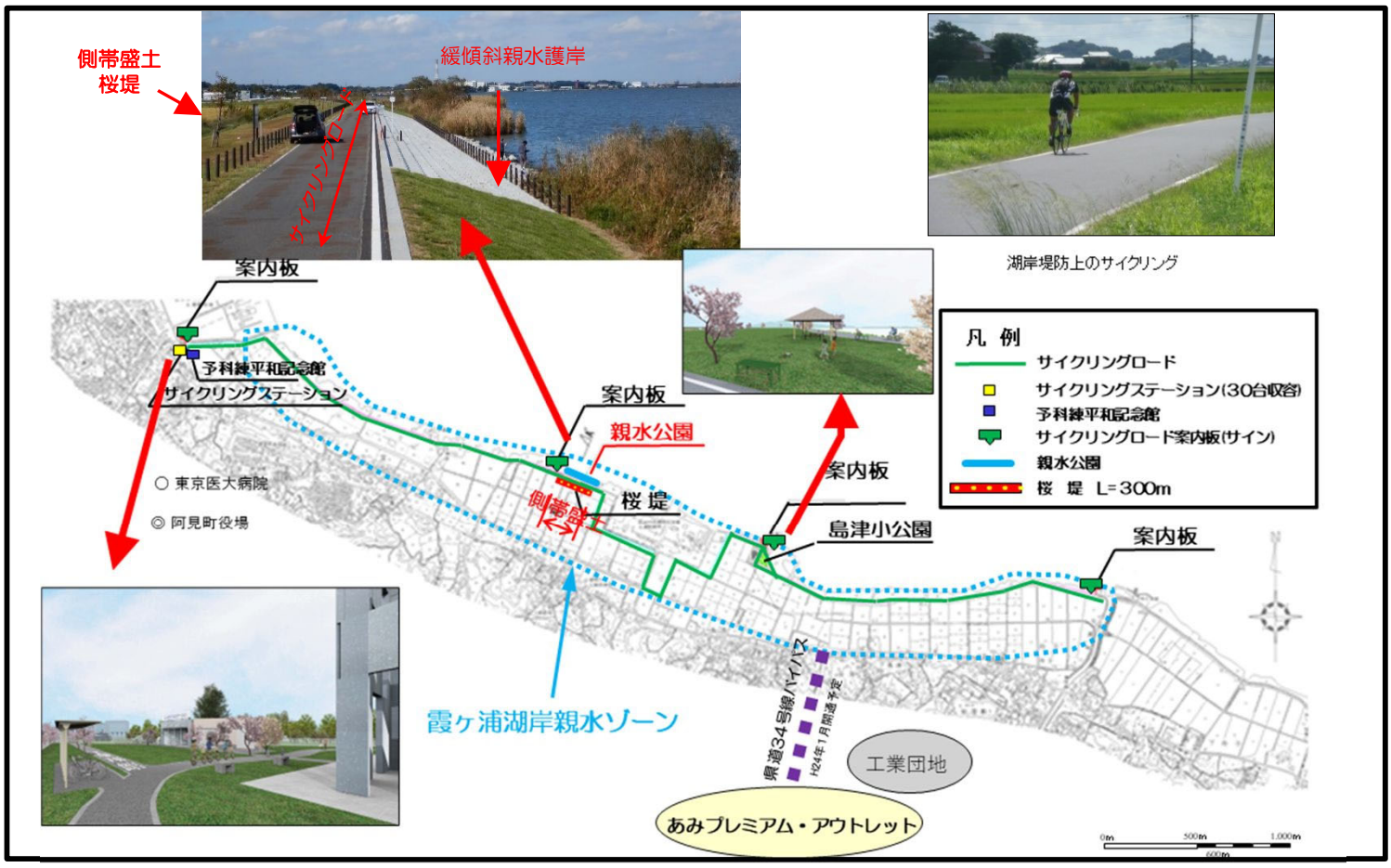
阿見地区の霞ヶ浦湖岸親水ゾーンにおいては、ビュースポットとして訪れる人々が絶えない場所ですが、近傍にあみプレミアム・アウトレットがオープンしたことにより年間300万人を越える観光客を湖岸沿いに誘導することで、より多くの人々に町の魅力を感じてもらうことが可能となります。湖岸沿いの公園は地域住民の憩いの場であることから、湖岸の清掃活動も実施されていますが、水辺に触れ合う場所が無いことから、親水拠点の整備が切望されており、ニーズも高い状況です。一方、増水時には波浪による堤防洗掘の危険性が高い場所であるため、緩傾斜堤防の河川管理施設を整備することで、地域の安心・安全が確保されるとともに地域の活性化を支援するものです。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　側帯盛土、緩傾斜親水護岸　等　　阿見町　：サイクルステーション、公園整備　等

3. ソフト施策の内容

阿見町　：　レンタサイクル事業の運営、サイクリングイベント、湖岸清掃　等



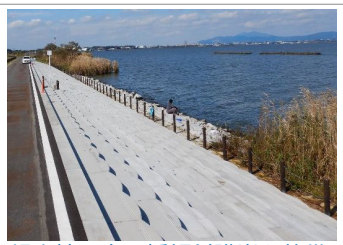
阿見地区かわまちづくり【完】

利根川水系常陸利根川（茨城県阿見町）【直】

事業実施の効果

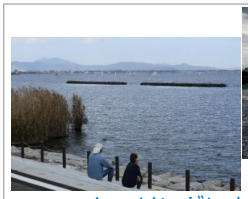


整備前



親水性の高い緩傾斜護岸を整備

指標名　水辺利用





セーリングによる水辺利用

事業実施の効果

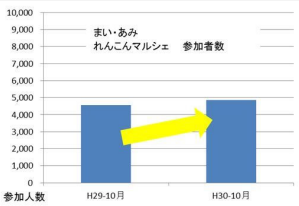


予科練平和記念館



利用者の増加

指標名　利用者数



予科練平和記念館周辺で
実施された青空市場の利用者数

事業実施の効果



整備前



茨城国体（セーリング会場）

指標名　水辺利用





レンタサイクル事業

阿見地区かわまちづくり【完】

利根川水系常陸利根川（茨城県阿見町）【直】

ソフト施策



【サイクリングイベント】



【青空市場】



【サイクリングマップ】



【引き網体験】

＜水辺空間の利活用状況＞
○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・整備した緩傾斜堤防、側帯盛土および、平成31年の茨城国体におけるセーリング競技会場として、国体本番と前年のプレ大会において、仮設の桟橋・スロープ等を占用して、利用されている。



桟橋

＜参画機関＞

＜ かわまちの運営（維持管理）＞

・管理の覚書等により、阿見町が維持管理を実施。
・市民団体による湖岸清掃イベントを継続実施。



湖岸清掃活動

【H25年度】

「土浦市かわまちづくり」（茨城県土浦市）

登録年月日：H26.3.26
事業年度：H26～H30

対象河川　：　一級河川　利根川水系桜川　【県管理河川】
市町村名　：　茨城県土浦市
推進主体　：　茨城県、土浦市



1. 概要

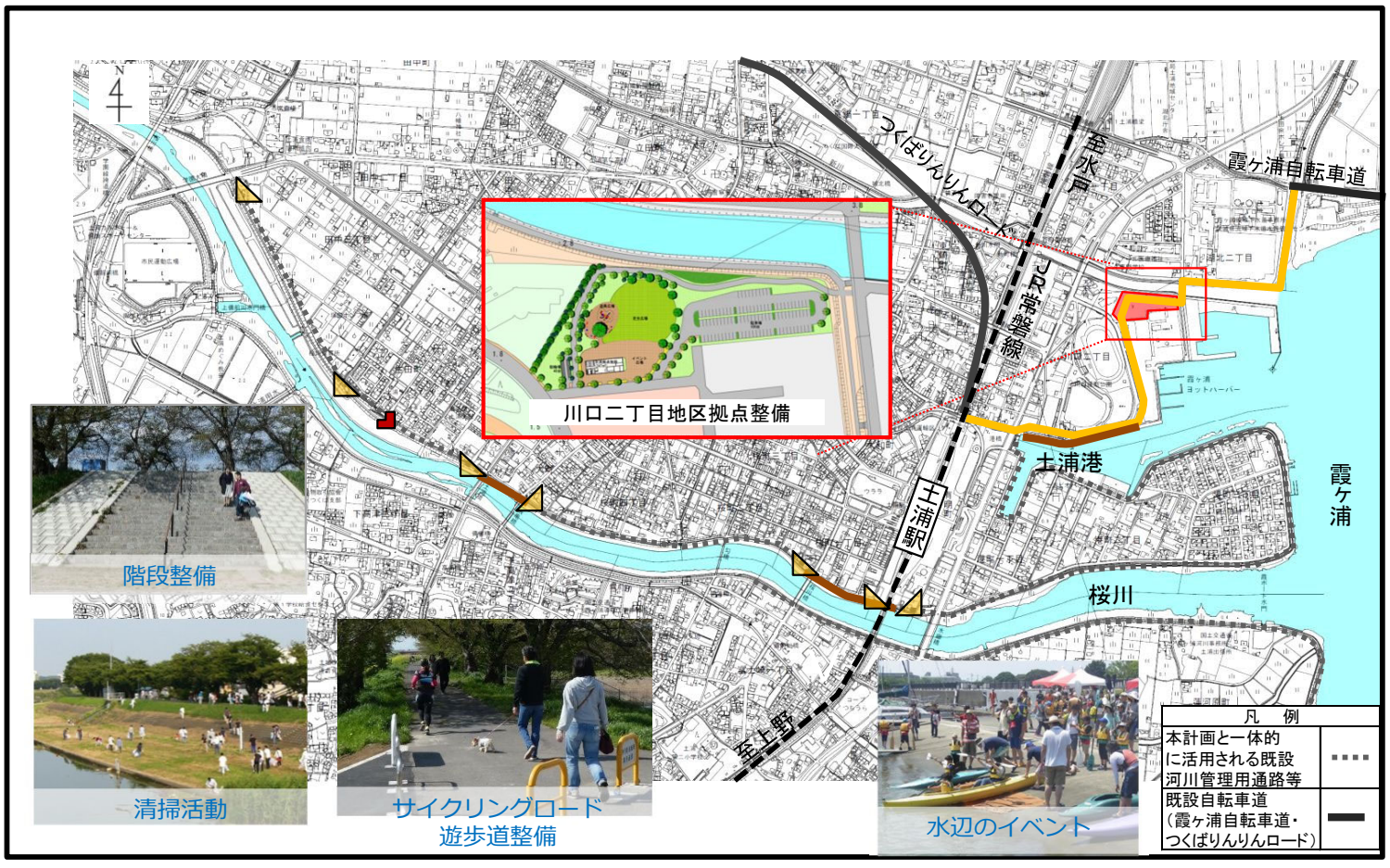
水郷筑波国定公園の玄関口にふさわしい水辺空間の創出を目指すとともに、中心市街地に近接する水辺空間の魅力を高めるため、霞ヶ浦及び桜川において、水辺の遊歩道・サイクリングロード・坂路などを整備し、水辺の回遊性の向上、賑わい創出を図る。また土浦港に隣接して、霞ヶ浦を生かした複合レクリエーション施設を整備し、水辺を介した市民の交流を活発化させるとともに、サイクリング・舟運の広域的な観光拠点の形成を推進する。

2. ハード施策の内容

茨城県　：　サイクリングロード整備、坂路、階段　等　　土浦市　：サイクリングロード整備、遊歩道、ベンチ　等

3. ソフト施策の内容

茨城県・土浦市　：　イベント運営、環境学習、施設管理、清掃活動　等



土浦市かわまちづくり【完】

利根川水系霞ヶ浦・桜川（茨城県土浦市）【直・補】

事業実施の効果


整備前の桜川高水敷


遊歩道整備後の桜川高水敷

地域のコメント

・桜の時期にはとても気持ち良い散歩コースであり、安心して子供もつれていけるので楽しみです。（30代女性・土浦市）
・川との距離が縮まり、これまで以上に桜川を身近に感じられそうです。（60代男性・土浦市）

事業実施の効果


整備前の川表法面


階段整備後の川表法面

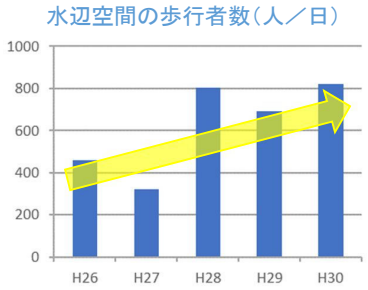
地域のコメント

・安心して降りられるようになった。（60代男性・土浦市）
・高水敷はグラウンドゴルフで利用していますが、階段が出来てとても便利になりました。（70代女性・土浦市）

事業実施の効果


桜川堤防上遊歩道が散策等に利用されている状況


水郷土浦・筑波レガッタの開催状況



土浦市かわまちづくり【完】

利根川水系霞ヶ浦・桜川（茨城県土浦市）【直・補】

ソフト施策


ドラゴンボートのイベント


小型船（サッパ舟）の運航


清掃活動




水辺のイベント

＜参画機関＞

・土浦市かわまちづくり計画策定委員会（H25年度全3回開催）
10名（学識経験者2名、国、県、市、関係企業1社、市民・関係団体等4団体）
・国土交通省霞ヶ浦河川事務所、茨城県と適宜協議を行いながら整備を推進中。

○今後の展望

・関係機関と適宜協議を行いながら、かわまちづくり計画で整備した施設を活用していく。

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・移動式便所設置（土浦市商工観光課）：生田町地内
・緑地整備（土浦市公園街路課）：生田町地内
・緑地・運動施設（土浦市公園街路課）：千束町～田中三丁目
・桜樹植栽（土浦市公園街路課）：港町一丁目地内
・港町遊歩道舗装工事（土浦市公園街路課）：港町三丁目地内
・遊歩道整備（土浦市公園街路課）：桜町一丁目地内
・遊歩道整備・ベンチ設置（土浦市公園街路課）：大町～千束町

○今後の展望

・土浦港周辺広域交流拠点に賑わい創出を図る

＜かわまちの運営（維持管理）＞

施設整備後の維持管理状況

・草刈り（年２回程度、県・市）
・清掃活動（年数回、県・市・地元町内会・市民団体）

04 かわまちづくり計画　事例集

北陸地方整備局管内

【H21年度】花と清流に癒やされる、関川村・高瀬湯沢の休日

「高瀬・湯沢地区かわまちづくり」（新潟県岩船郡関川村）

登録年月日：H21.5.22
事業年度：H21～H23

対象河川　：　一級河川　荒川水系荒川　【国管理河川】
市町村名　：　新潟県岩船郡関川村
推進主体　：　国土交通省・関川村



1. 概要

高瀬・湯沢地区は関川村の中心部に位置しており、周辺の温泉施設や道の駅、桜づつみなどと連携した集客や、高齢者福祉施設との連携により、賑わいとやすらぎの地域づくりを目指しています。毎年8月には、竹とワラで作られた世界一長い大蛇（英国ギネス社認定）で村内を練り歩く『大したもん蛇まつり』が開催されます。また、これは令和6年9月に内閣府、国土交通省の『NIPPON防災資産』として優良認定を受けています。

国土交通省と関川村では、高瀬・湯沢地区やその周辺の地域活性化を目的に、高水敷の整正や緩傾斜坂路の設置などを通して地域の皆様や観光客がより河川を身近に感じていただける空間の整備を行いました。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　管理用道路(散策路・管理橋)、坂路、高水敷整正　等
関川村　：　多目的広場、駐車場　等

3. ソフト施策の内容

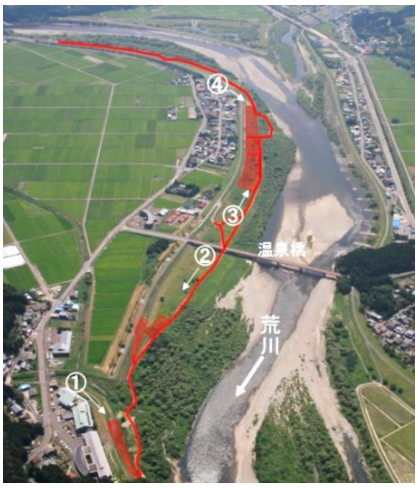
国土交通省　：　都市・地域再生等利用区域の指定　等　　関川村　：　パンフレット作成　等



高瀬・湯沢地区かわまちづくり【完】

荒川水系荒川（新潟県岩船郡関川村）【直】

事業実施の効果

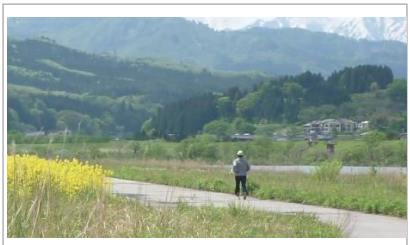




①緩傾斜坂路の整備

整備による効果

・高齢者福祉施設が堤防天端と連続しており、緩傾斜坂路等によりアクセス性が向上した。
・駐車場整備、高水敷整正によって多目的に利用できるエリアが拡大し、利便性が向上した。



③高水敷整正と散策路の整備

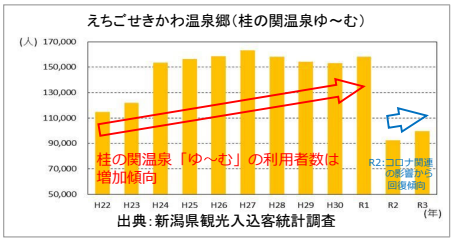
新潟県観光地満足度調査

【第4回新潟県観光地満足度調査】H28.4発表
・「えちごせきかわ温泉郷」の満足度は、
◎総合満足度　第３位
◎宿泊施設　第１位
◎食事　第１位
◎景観　第１位



④桜並木の整備

温泉施設利用者数



高瀬・湯沢地区かわまちづくり【完】

荒川水系荒川（新潟県岩船郡関川村）【直】

ソフト施策



＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の利用状況
・荒川の右岸側に位置する「かわまちづくり」及び左岸側の「水辺プラザ」により、それぞれ遊歩道、桜づつみ、スポーツ公園等を村と連携して整備し、地域の憩いの場、産業振興に寄与している。

＜参画機関＞

・国土交通省　北陸地方整備局　羽越河川国道事務所
・関川村（関川村自然環境管理公社）
・地元の行政、温泉組合、民間団体等で構成する意見交換会の場を設け、地域の意向を計画に反映。
　地域と一体となった体制で推進。

＜かわまちの運営（維持管理）＞

施設整備後の維持管理状況

・施設の維持管理については、施設管理者が行う。
　国土交通省：管理用通路、坂路
　関川村：階段、高水敷の駐車場

・日常的な施設管理、清掃等については、関川村を中心に地元の温泉組合や、既に荒川で活動している「“清流”荒川を考える流域ワークショップ」等各団体との連携を図っていく。

【H21年度】季節をめぐる阿賀野川フラワーライン

「新潟市かわまちづくり」（新潟県新潟市）

登録年月日：H21.5.22
事業年度：H20～H25

対象河川　：　1級河川　阿賀野川水系阿賀野川　【国管理河川】　位置図

市町村名　：　新潟県新潟市

推進主体　：　新潟市



1. 概要

新潟市では、まちづくりの指針である「新・新潟市総合計画」において豊かな水と共生するまちづくりと題して水環境と共生するまちづくりと題して水環境と共生する都市づくりを目指しています。とりわけ信濃川や阿賀野川、通船川、小阿賀野川で囲む「都心を囲む水とみどりの回廊」及びその周辺の整備を推進しており、近年では信濃川やすらぎ堤や阿賀野川ふれあい公園等が整備され、市民の憩いの場やイベント会場として有効に活用されています。今後、阿賀野川、通船川において未整備となっている水辺環境整備を進めることにより、「都心を囲む水とみどりの回廊」のネットワークを強化し、本市の財産である豊かな水辺を活用することにより、季節感と潤いのあるまちづくりを推進します。

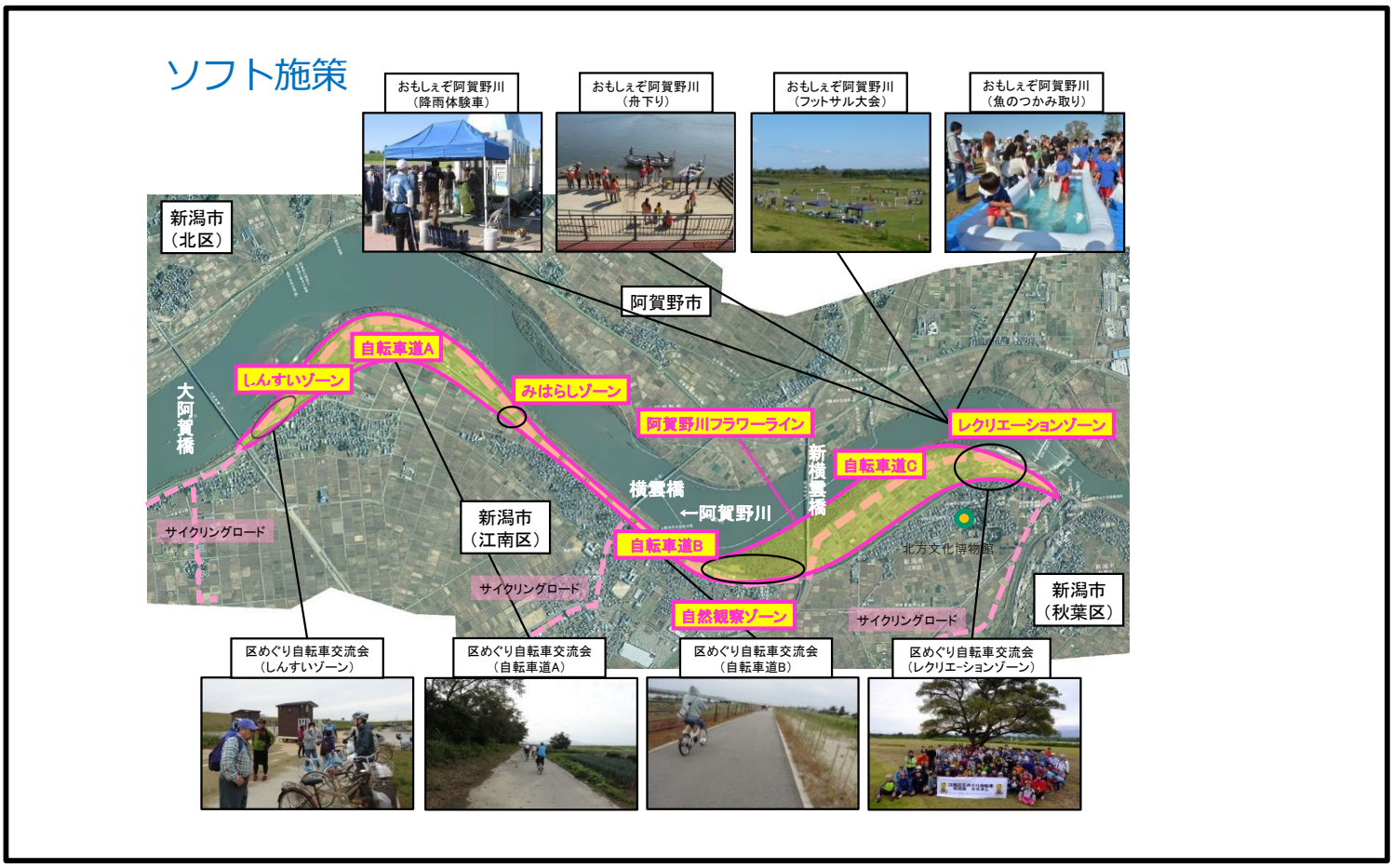
2. ハード施策の内容

国土交通省　：　緩傾斜盛土、階段、管理用通路　等

新潟市　　：　レクリエーションゾーン、みはらしゾーン、自然観察ゾーン、しんすいゾーン整備
サイクリングロード　等

3. ソフト施策の内容

新潟市　：　新潟市HP　https://www.city.niigata.lg.jp/kurashi/park/shoukai/area/konanku/agano-flower.html



新潟市かわまちづくり【完】

阿賀野川水系阿賀野川（新潟県新潟市）【直】

事業実施の効果





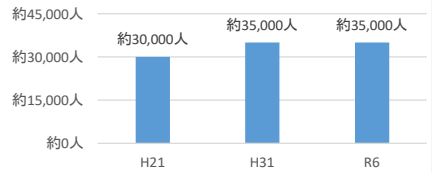
整備した河川緑地

河川区域内に水洗トイレ（公共下水道接続）を設け利用環境の向上を図り、自然に触れ合えるイベントなどを提供することで川の大切さを知り、川に感謝するようになりました。



公園利用者数

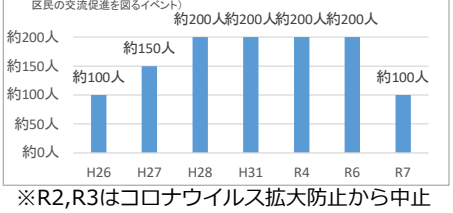
河川空間利用実態調査　年間利用者数より





イベント参加者数

・江南体験隊　エンジョイ！サイクルツアーズ
（かわまちづくりにより整備した自転車道（フラワーライン）を活用した、区民の交流促進を図るイベント）

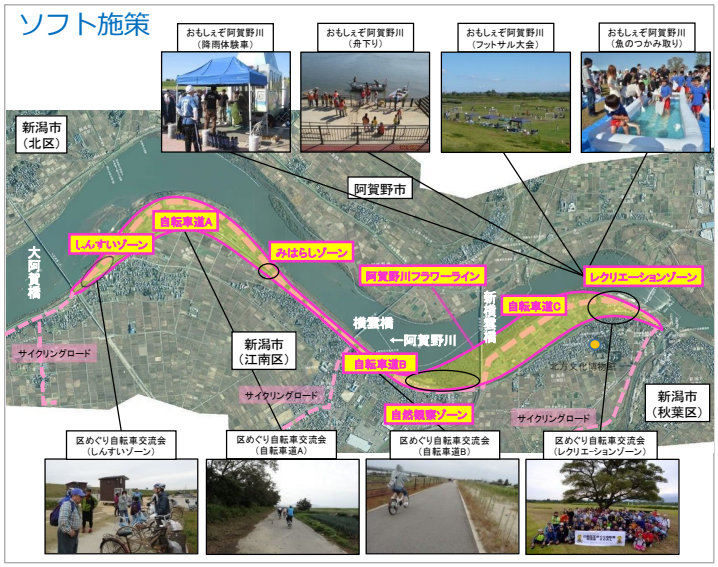


※R2,R3はコロナウイルス拡大防止から中止

新潟市かわまちづくり【完】

阿賀野川水系阿賀野川（新潟県新潟市）【直】

ソフト施策



＜参画機関＞

阿賀野川フラワーラインは、旧横越町の新潟市への合併にあわせて、合併建設計画に盛り込んで事業実施した。

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

市の整備が全て完了し４つのゾーン（しんすい、みはらし、自然観察、レクリエーション）及びサイクリングロードの占用手続きがなされ、一般利用のほか各種イベントの開催など、幅広く活用されている。

＜かわまちの運営（維持管理）＞

施設整備後の維持管理状況

- 阿賀野川フラワーラインの維持管理は、直営及び業者委託により実施している。
- みはらしゾーンは、横越コミュニティ協議会が公園愛護会加盟団体として維持管理を行っている。
- 今後は、地元自治会等から維持管理されるよう協議を進めていく。
- 洪水時の遊具等撤去については、協力業者と協定を締結して実施している。（協力業者：4社）

【H21年度】

「新潟市かわまちづくり」（新潟県新潟市）

登録年月日：H21.5.22
事業年度：H21～R1

対象河川　：　一級河川　信濃川水系通船川　【県管理河川】

市町村名　：　新潟県新潟市

推進主体　：　新潟市

位置図



1. 概要

新潟市では、まちづくりの指針である「新・新潟市総合計画」において豊かな水と共生するまちづくりと題して水環境と共生する都市づくりを目指しています。また、阿賀野川、通船川において未整備となっている水辺環境整備を進めることにより、「都心を囲む水とみどりの回廊」のネットワークを強化し、本市の財産である豊かな水辺を活用することにより、季節感と潤いのあるまちづくりを推進します。

2. ハード施策の内容

新潟県　：　護岸根固工、管理用通路　等

新潟市　：　散策路、緑地広場、市道拡幅　等

3. ソフト施策の内容

新潟県・新潟市　：　通船川・栗ノ木川下流再生市民会議の支援　等

親水護岸整備の状況



整備前



整備後



船付場整備

ソフト施策の状況



市民会議の様子



こども環境会議の様子



新潟市東区公認キャラクター
「ぬたりん」

新潟市かわまちづくり【完】

信濃水系通船川（新潟県新潟市）【補】

事業実施の効果



親水護岸整備前状況写真



河川への親水性をもつ空間を創出

地域住民の声

・当整備を進めることにより、都市の身近な自然である河川への親水性をもつ良好な市街地空間を確保できることはもちろんのこと、舟運の復活や現在行われている各種イベントの充実によるまちの活性化を図ることができる。

事業実施の効果

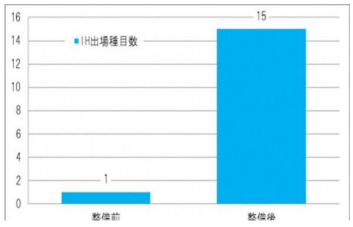


船付場・船揚場整備状況写真



カヌーによる河川敷利用人口の増加

指標名　万代高校端艇部の実績



事業実施の効果

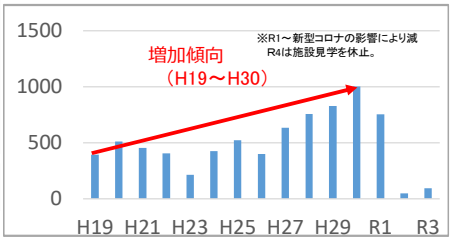


【河口の森工区】ふれあい広場の整備



山の下閘門排水機場の見学者の増加

指標名　施設見学者の推移



新潟市かわまちづくり【完】

信濃水系通船川（新潟県新潟市）【補】

ソフト施策

河川敷占用許可準則の特例措置①



舟小屋等の設置状況

河川敷占用許可準則の特例措置②



大形灯篭流しの様子

こども環境会議への支援



こども環境会議通船川水質測定・成果発表の様子

通船川・栗ノ木川下流再生市民会議への支援



つうくり市民会議の様子

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・河川敷地占用許可準則22条による、都市・地域再生等利用区域が指定（H25.3.19）されており、舟小屋等の占用を許可している。

○今後の展望

・計画区域周辺の活動団体による占用が期待されている。

＜参画機関＞

・かわまち計画策定にあたっては、平成１０年６月に設立された「通船川・栗ノ木川下流再生市民会議」より、平成１３年３月に出された提言書を受け「まちづくりと一体となったかわづくり」や「かわと関わりを持ったまちづくり」を揚げ、市民、新潟市、河川管理者の三者が連携して行っている。

・具体的な計画案については地域住民とのワークショップを重ね、その結果を反映している。

○今後の展望

・地域による水辺環境の保全活動を支援する。

・治水の役割だけでなく、自然ゆたかな水辺環境を身近に体験してもらい「人々が集う憩いの水辺」として、地域の愛着を深めてもらう。

＜かわまちの運営（維持管理）＞

【松崎・津島屋工区】

●施設の維持管理は、各施設管理者が行う。（護岸等は河川管理者、緑地や散策路は新潟市）

●除草・清掃活動は自治会、市民団体が主体となり行う。

【河口の森工区】

●緑地基盤や桟橋等は河川管理者、樹木や散策路は新潟市が行う。

●除草・清掃活動は自治会、市民団体、万代高校、企業が中心となり行う。

【H21年度】おさんぽ日和は、蓮潟で

「蓮潟地区かわまちづくり」（新潟県長岡市）

登録年月日：H21.5.22
事業年度：H17～H24



対象河川　：　一級級河川　信濃川水系信濃川　【国管理河川】

市町村名　：　新潟県長岡市

推進主体　：　長岡市

1. 概要

長岡市蓮潟地区は、背後に市街地が広がっており、地域住民にとって川とのふれあいや自然との共生を感じられる貴重な空間となっています。本事業では、長岡市が進める公園整備事業との連携を図りながら、地域の特性や住民のニーズを踏まえた計画的な整備が行われました。具体的には、緩やかな傾斜を持つ堤防の整備や、堤防天端の拡幅などを通じて、安全性と快適性の両立を目指しました。これらの整備により、散策やレクリエーションの場としての利便性が向上し、地域の魅力を高めることにもつながっています。

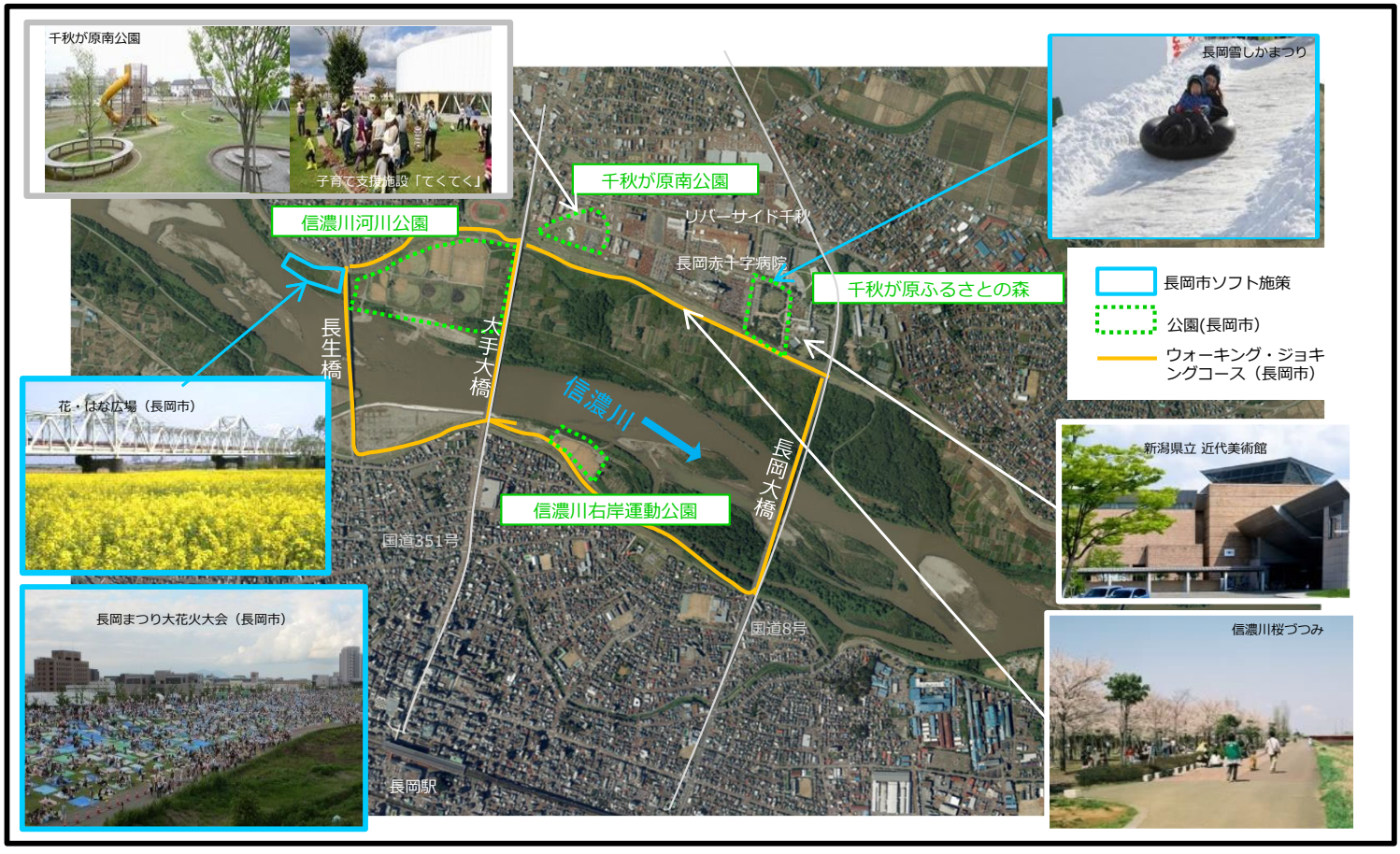
国土交通省では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備のほか、河川空間において営利活動を実施する場合には、河川敷地占用許可準則第22に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　堤防拡幅、緩傾斜堤防、スロープ、河川管理用通路
長岡市　　：　植栽、散策路、東屋

3. ソフト施策の内容

国土交通省　：　都市・地域再生等利用区域の指定　等
長岡市　　：　花・はな広場、長岡まつり大花火大会会場、長岡雪しかまつり会場　等



蓮潟地区かわまちづくり【完】

信濃川水系信濃川（新潟県長岡市）【直】

事業実施の効果





地域のコメント

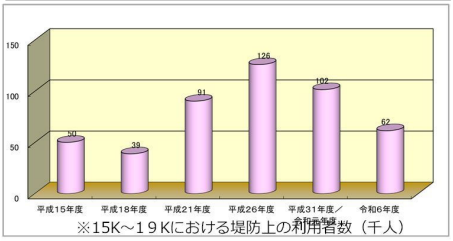
- 花火大会のメイン会場であり、市民以外の方が多く来場するので、長岡市のイメージ向上につながった。
- 行きやすくなることで川に親しみがわき、環境について考え自然の大切さを身近にとらえることができる。

事業実施の効果





堤防上の利用者数



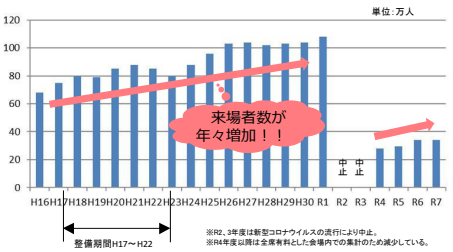
※15K～19Kにおける堤防上の利用者数（千人）

事業実施の効果





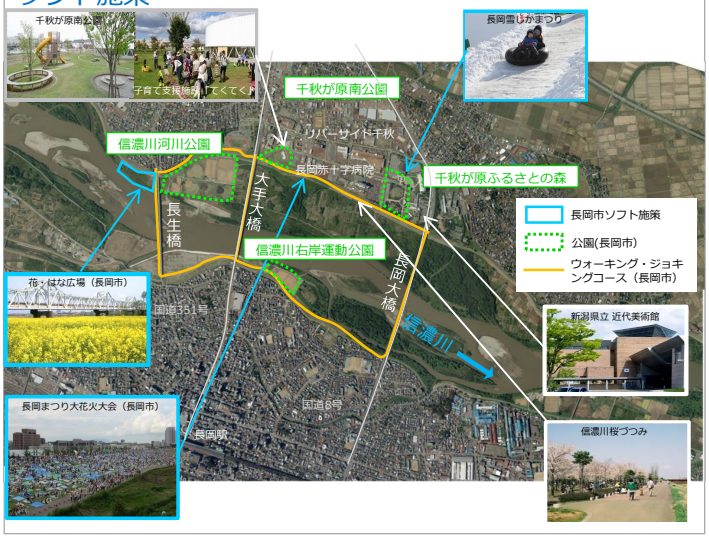
長岡祭り大花火大会の経年来場者数



蓮潟地区かわまちづくり【完】

信濃川水系信濃川（新潟県長岡市）【直】

ソフト施策



＜参画機関＞

- 国土交通省信濃川河川事務所
- 長岡市都市整備部公園緑地課

かわまち計画策定にあたって、調整会議等を実施。

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

- 信濃川河川公園、信濃川右岸運動公園及び花・はな広場等について占用許可がされている。

＜かわまちの運営（維持管理）＞

- 国土交通省：堤防除草、管理用通路補修
- 長岡市：公園除草、散策路補修、樹木・休憩施設等管理

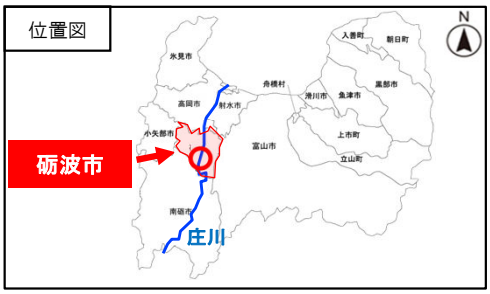
長岡まつり開催時の清掃等については、市による清掃を含め、地元市民のボランティア等により実施している。

【H21年度】庄川と散居に広がる快適なまちづくり

「雄神地区かわまちづくり」（富山県砺波市）

登録年月日：H21.5.22
事業年度：H21～H26

対象河川　：　一級河川　庄川水系庄川　【国管理河川】
市町村名　：　富山県砺波市
推進主体　：　砺波市



1. 概要

砺波市は、富山県西部に位置し、一級河川庄川によって形成された扇状地に広がる美しい景観が特徴です。名水が潤す豊かな大地には屋敷林が点在し、典型的な「散居村」が広がっています。水田裏作として始まったチューリップの球根栽培は、今日の「となみチューリップフェア」に発展し、全国から多くの観光客が訪れています。また、庄川に面した弁財天公園やパットゴルフ場周辺は、スポーツレクリエーションや散策、水遊びを楽しむ地域住民の憩いの場として親しまれており、「厄払い鯉の放流」などの伝統行事にも利用されています。この取組を充実させるため、本計画では、自然を生かした観光の拠点づくりや周辺整備を進め、庄川温泉郷などの観光資源、さらには地域の歴史や文化資源を最大限に活用して、通年型・滞在型観光の拡大に官民一体となって推進を図ります。

国土交通省では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備のほか、河川空間において営利活動を実施する場合には、河川敷地占用許可準則第22に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　高水敷整正、通路工　　砺波市　：　パークゴルフ場、多目的広場造成

3. ソフト施策の内容

砺波市　：　厄払い鯉の放流(1月)、庄川峡桜まつり(4月)、庄川観光祭(5月)、庄川水まつり(通年)









雄神地区かわまちづくり【完】

庄川水系庄川（富山県砺波市）【直】

事業実施の効果





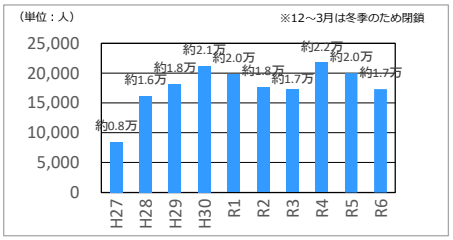


地域のコメント

パークゴルフの県大会開催や水辺広場やピクニック広場ができたことによる、賑わいのある河畔空間として幅広い年齢層の人に利用して頂きたい。



パークゴルフ場の利用者数

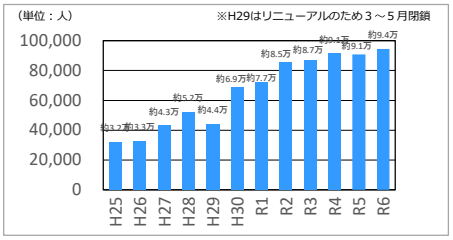


事業実施の効果





道の駅庄川観光客入込数



雄神地区かわまちづくり【完】

庄川水系庄川（富山県砺波市）【直】

ソフト施策



＜参画機関＞

・国土交通省北陸地方整備局富山河川国道事務所
・富山県砺波市

※事業実施時は、行政・自治会・観光組合等で構成する「かわまちづくり事業推進協議会」を設置し、地域との連携を図った。

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・多目的広場、パークゴルフ場は砺波市が占用。

＜かわまちの運営（維持管理）＞

施設整備後の維持管理状況

・施設の維持管理については、施設管理者が行う。
　国土交通省：管理用通路、階段等
　砺波市　　：パークゴルフ場、多目的広場、駐車場、ベンチ、トイレ等

・毎年5月下旬頃には、河川の増水に備え、砺波市・シルバー人材センター・建設業協会により、情報伝達やベンチやトイレ等の搬出などの演習を実施。





搬出訓練

【H21年度】

「上須頃地区かわまちづくり」（新潟県三条市）

登録年月日：H21.8.7
事業年度：H23～H26

対象河川 ： 一級河川 信濃川水系信濃川 【国管理河川】
一級河川 信濃川水系五十嵐川【県管理河川】
市町村名 ： 新潟県三条市
推進主体 ： 信濃川下流河川事務所、三条市



1. 概要

信濃川は、三条市にとって、古くは三条の土壌を運び、その後は人や文化、技術や産業をもたらしてきた、まさに交流のシンボルといえる川です。しかしながら、現在は身近に接することのできる施設が限られていることなどから、市民生活との関わりが希薄になり、川が身近な存在でなくなりつつあります。また、平成16年には記録的な豪雨により五十嵐川が破堤し、市民の心と生活に大きなダメージを与えました。

上須頃地区は、信濃川と支川五十嵐川の合流点に位置し、国道8号に面していることから、外部への情報発信基地としての役割が期待されます。そのため、交流拠点や施設の整備、ソフト面での情報発信と一体となった水辺の整備を進め、川がまちの賑わいの中心となるような、魅力ある水辺空間を創造していきます。

2. ハード施策の内容

国土交通省 ： 防災ステーション事業、護岸・基盤整備

三条市 ： 水防センター事業、広場整備

3. ソフト施策の内容

三条市： 都市・地域再生等利用区域の指定 【ミズベリング三条】
三条凧合戦、消防・防災フェスタ、カヌー・Eボート体験、7.13キャンドルイベント等のイベント開催


三条凧（イカ）合戦


三条夏祭り


キャンプ



三条市水防学習館


ウォーターアクティビティ



スケートボード場

上須頃地区かわまちづくり【完】

信濃川水系信濃川（新潟県三条市）【直】

事業実施の効果









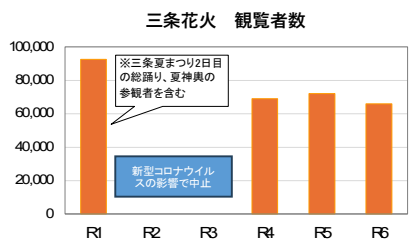


地域のコメント

今後も様々なイベント活動や防災教育の場として、川がまちづくりの賑わいの中心となるような魅力ある水辺空間としていきたい。
（三条市役所職員）

花火大会観客数の推移

出展：三条商会議所 事業報告書並びに収支決算書



上須頃地区かわまちづくり【完】

信濃川水系信濃川（新潟県三条市）【直】

ソフト施策



凧合戦



キャンプ



三条夏祭り



水防学習館の展示物

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・河川敷地占用許可準則22条による、都市・地域再生等利用区域の指定がされており、各種イベント毎に飲食店や物品販売等が営まれる。 →　H28年10月9日民間事業者出店

・さんじょう消防・防災フェスタ、ミズベリング三条フェス等（R4実績）
・ミズベリング三条フェス等（R5実績）
・さんじょう消防・防災フェスタ、ミズベリング三条フェス、7.13メモリアルキャンドル等（R6実績）

＜参画機関＞

・三条市かわまち交流拠点施設利用調整協議会
　平成28年7月25日　第１回開催
　平成28年8月 2日　第２回開催

五十嵐川については、地元の行政、商店街、市民団体、住民等で構成する「五十嵐川を愛する会」が活動を行っている。信濃川については、従前、感覚として遠かったこともあり具体的な活動を行う組織は今のところないが、今後の整備にあたっては、この組織の協力を得るのなどして、地域と一体となった体制で推進する。

＜かわまちの運営（維持管理）＞

施設整備後の維持管理状況

→占用主体である三条市が施設の維持管理を実施。

・施設の維持管理については、施設管理者が行う
　交流広場：国土交通省（護岸、階段）
　三条市（高水敷の芝生公園、散策路）
・日常的な施設管理、清掃等については、三条市が地元や協力者の協力を得て実施するものとする。

「寺島地区かわまちづくり」（新潟県糸魚川市）

登録年月日：H22.9.24
事業年度：H23～H25

対象河川　：　一級河川　姫川水系姫川　【国管理河川】
市町村名　：　新潟県糸魚川市
推進主体　：　糸魚川市

位置図



1. 概要

糸魚川市では、平成21年8月に糸魚川ジオパークが日本初の世界ジオパークに認定されたことから、ジオパークを見学するジオツーリズムを核としたまちづくりに取り組んでいます。市民にとっても憩いの場、ジオパークの学習の場等、人々の交流の場及び地域活性化の拠点づくりが求められています。

この取組を充実させるため、本計画では、整備済みの市民運動広場・多目的広場、桜づつみと連携し、治水事業と合わせて姫川の自然災害や防災を考える場、ジオパーク等の環境学習の場の形成による水辺交流拠点整備を実施し、水辺の利用促進とともに、観光振興の交流人口の拡大および地域活性化などを図ります。

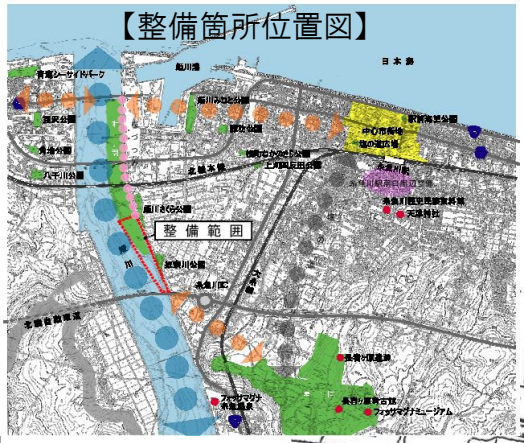
国土交通省では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備等の支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　緩傾斜堤防、河川管理用通路　等
糸魚川市　　：　姫川ふれあい石公園、桜づつみ、情報看板　等

3. ソフト施策の内容

国土交通省　：　出前講座（水防学習、石の観察会、水生生物調査）　等
糸魚川市　　：　糸魚川ジオパークにおける各種イベント利用の促進　等





【平面図（整備イメージ）】

寺島地区かわまちづくり【完】

姫川水系姫川（新潟県糸魚川市）【直】

事業実施の効果





事業実施の効果





事業実施の効果



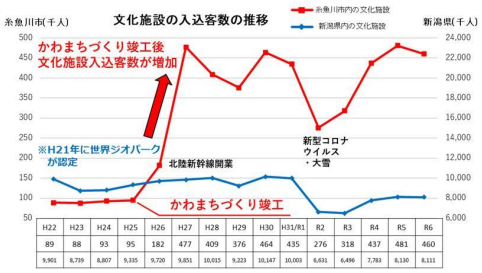


地域住民の声

・糸魚川世界ジオパークにふさわしい公園をつくりたい！！この公園をジオパーク巡りの起点としたい！

・ジオツアーを誘致していきたい。愛着あるこの公園の維持管理に関わっていきたい。　（地元区長・市民団体）

糸魚川市の観光の状況



	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6
	89	88	93	95	182	477	409	376	464	435	276	318	437	481	460
	9,901	8,739	8,807	9,335	9,720	9,851	10,015	9,223	10,147	10,003	6,631	6,496	7,783	8,130	8,111

※糸魚川市HP_糸魚川市観光入込客統計調査結果より

寺島地区かわまちづくり【完】

姫川水系姫川（新潟県糸魚川市）【直】

ソフト施策



＜参画機関＞

・かわまち計画策定にあたっては、地元区長、市民団体（糸魚川ジオパーク市民の会、姫川を愛でる会）で構成される姫川かわまちづくり懇談会を開催。地域の声を聞きながら事業を実施

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・姫川ふれあい石公園(看板含む)は、糸魚川市がH25年より占用

＜かわまちの運営（維持管理）＞

・国土交通省高田河川国道事務所：
毎年、河川管理施設である緩傾斜堤防の除草を実施。

・糸魚川市：
姫川ふれあい石公園の除草、桜づつみの除草や桜の枝の剪定を実施。

【H22年度】

「刈谷田川かわまちづくり」（新潟県見附市・三条市）

登録年月日：H22.9.24
事業年度：H22～H25

対象河川　：　1級河川　信濃川水系刈谷田川　【県管理河川】
市町村名　：　新潟県見附市・三条市
推進主体　：　見附市



1. 概要

刈谷田川は、古くから川と人々の暮らしが直接的に結びつき、生活、農業、産業、かつての舟運等に広く利用されてきました。また、これまで繰り返し甚大な洪水被害を受け、水害との戦いが続いた歴史があります。平成16年7月の洪水被害を起因とする河川改修事業により、安全・安心度が向上しており、防災拠点、交流・物産拠点、堤防天端道路、河川空間を有効利用した安全安心なまちづくり、人が交流するまちづくりによる地域活性化を目指しています。

2. ハード施策の内容

新潟県長岡地域振興局治水課　：　堤防天端道路の整備、防災拠点の基盤整備　等
見附市　：　案内板等の整備、防災公園の整備　　等

3. ソフト施策の内容

新潟県長岡地域振興局治水課　：　高水敷の市民利用促進　等
見附市　：　防災公園・河川空間の利用促進　等



刈谷田川かわまちづくり【完】

信濃水系刈谷田川（新潟県見附市・三条市）【補】

事業実施の効果

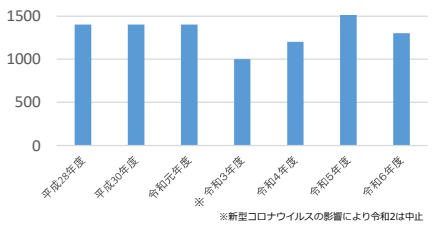


河川敷の整備



刈谷田川フェスティバルの賑わい

指標名　刈谷田川フェスティバル参加者数



※新型コロナウイルスの影響により令和2は中止

事業実施の効果

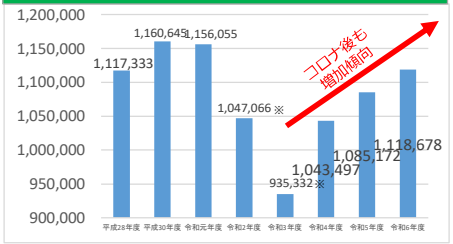


防災公園の整備



隣接する道の駅の入込客数の増加

指標名　道の駅利用者数の推移



※新型コロナウイルスの影響により令和2～3年度は来場者減

事業実施の効果

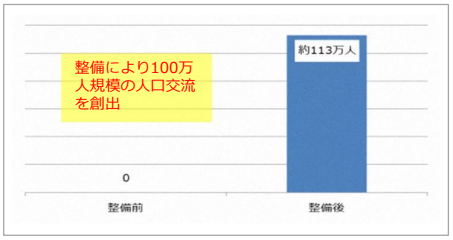


農産物直売所・農家レストランの整備



直売所・レストランの賑わい

指標名　道の駅による交流人口の増加



刈谷田川かわまちづくり【完】

信濃水系刈谷田川（新潟県見附市・三条市）【補】

ソフト施策

「安全安心な暮らし」に向けた事業



水害の記憶を伝える防災アーカイブ

「人と自然の共生」に向けた事業



Eボート川下り

「人が交流するまち」に向けた事業①



ヤギによる堤防除草

「人が交流するまち」に向けた事業②



刈谷田川ウォーキング

<水辺空間の利活用状況>

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・河川敷地占用許可準則22条による、都市・地域再生等利用区域の指定（H24.10.26）がされており、レストラン等が営まれる。

○今後の展望

・今後、多目的広場の利用については、候補地が遊水地であることも踏まえ、近年の出水状況等を考慮しながら検討を継続する。

<参画機関>

・かわまちづくり計画は、見附市と三条市が主体となって推進する。アドバイザーとして、北陸地方整備局信濃川下流河川事務所、新潟県長岡地域振興局地域整備部よりサポートを受ける。

・実施する事業ごとに、地元住民や各種団体と行政が連携して推進する。

○今後の展望

・施設の維持管理は積極的に住民団体やボランティアと協働する。

・各種施設（民間施設含む）から休憩所等を提供してもらう。

<かわまちの運営（維持管理）>

施設の維持管理については、施設管理者で行う。

【ショートカット3ha】

防災公園：見附市、住民団体やボランティア

【河川空間の利用】

高水敷の広場など利用施設：見附市、住民団体やボランティア

Eボート乗降場：見附市、三条市

【サイクリングロード】

サイクリングロード：見附市、三条市

案内板等：見附市、三条市

【多目的広場】

多目的広場：見附市

【H27年度】ミズベからにぎわいを、まちへ。

「信濃川やすらぎ堤かわまちづくり」（新潟県新潟市）

登録年月日：H28.3.28
事業年度：H29～R3

対象河川　：　一級河川　信濃川水系信濃川　【国管理河川】
市町村名　：　新潟県新潟市
推進主体　：　信濃川下流河川事務所、新潟市



1. 概要

信濃川本川下流やすらぎ堤ではミズベリングプロジェクトが展開されており、新潟市のシンボル「萬代橋」に隣接した主要区間は、平成28年2月25日に都市・地域再生等利用区域に指定され、民間事業者主導の商業活動を含む河川空間の活性化が図られている。

本計画では、新潟市は従来より実施する公園整備と併せ、市街地と河川空間を一体とした利用者の周遊性・利便性の向上に寄与する堤防天端石張広場の拡大等を整備する。また、国は利用者の増加も考慮し、防災機能や安全利用、管理の効率化を高めるための管理用通路の整備や高水敷整正等を行い、適切な河川管理と平常時の水辺の賑わい創造の両面に資する河川空間の整備を行い、ソフト施策の円滑・有効な展開を目指す。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　高水敷整正、管理用通路　　新潟市　：　天端石張広場拡大

3. ソフト施策の内容

新潟市　：　河川敷地占用許可準則第22条による、都市・地域再生等利用区域の指定
【ミズベリング信濃川やすらぎ堤】


やすらぎ堤川まつり


新潟まつり　花火大会


ミズベリングやすらぎ堤


TAKIBIラウンジ


水辺 Day Camp / ミーティング


Morning YOGA

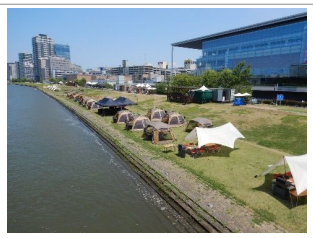
信濃川やすらぎ堤かわまちづくり【完】

信濃川水系信濃川（新潟県新潟市）【直】

事業実施の効果



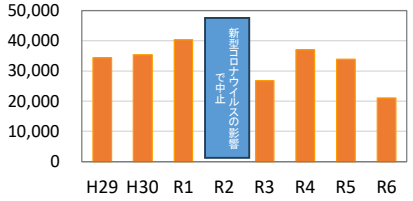
ミズベリング実施前の様子



ミズベリング実施後の様子

利用者数

出典：信濃川やすらぎ堤利用調整協議会 資料



信濃川やすらぎ堤かわまちづくり【完】

信濃川水系信濃川（新潟県新潟市）【直】

ソフト施策



萬代橋上流左岸：ヨガイベント



水上利用：SUP体験、Eボート体験



萬代橋上流右岸：盆踊りイベント



店舗出店（カフェ、ビアガーデン等）

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・H28.2.25に、萬代橋～八千代橋までの河川空間が、河川敷地占用許可準則第22条に基づく都市・地域再生等利用区域に指定。

・その後、新潟市が一括占用し、民間事業者公募により、オープンカフェ・バーベキュー・ビアガーデン等が営まれている。

→　右岸５店舗（R５実績）
　　右岸６店舗（R６実績）

＜参画機関＞

・ミズベリング信濃川やすらぎ堤会議
第1回（H27.1.31）、第2回（H28.3.5）、第3回（H29.3.25）

・やすらぎ堤デザイン検討委員会
第1回（H27.2.5）、第2回（H27.3.16）、第3回（H27.7.28）
第4回（H27.10.7）

・ミズベリングやすらぎ堤研究会
第1回（H27.3.17）、第2回（H27.5.25）、第3回（H27.11.26）
第4回（H28.1.28）、第5回（H28.4.21）、第6回（H28.6.21）
第7回（H28.8.18）、第8回（H28.12.7）、第9回（H29.1.12）
第10回（H29.5.19）、第11回（H29.6.26）
第12回（H29.11.28）、第13回（H30.7.6）
第14回（H30.9.21）、第15回（H31.1.25）、第16回（R1.5.14）
第17回（R1.8.22）、第18回（R1.10.28）、第19回（R2.6.26）
第20回（R3.5.11）、第21回（R3.11.25）、第22回（R4.5.17）

・信濃川やすらぎ堤利用調整協議会
第1回（H28.1.26）、第2回（H28.5.26）、第3回（H29.2.2）
第4回（H29.3.29）、第5回（H29.5.16）、第6回（H29.6.21）
第7回（H29.10.19）、第8回（H30.4.10）、第9回（H30.8.6）
第10回（H30.12.19）、第11回（H31.3.6）、第12回（R1.5.30）
第13回（R1.9.6）、第14回（R1.11.12）、第15回（R2.3.19）
第16回（R3.3.26）、第17回（R3.6.2）、第18回（R3.12.2）
第19回（R4.3.24）、第20回（R4.6.27）、第21回（R4.9.5）
第22回（R5.3.6）、第23回（R5.5.17）、第24回（R5.11.28）
第25回（R6.5.16）、第26回（R7.1.15）、第27回（R7.6.13）

＜かわまちの運営（維持管理）＞

施設整備後の維持管理状況

→（新潟市）ミズベリング実施期間中に、河川管理者の代わりに堤防除草（１回）を実施できないか検討中。
ミズベリング期間中、新潟市及び事業者による自主的な除草及びゴミ拾いは実施している。

「上田市千曲川×依田川かわまちづくり」（長野県上田市）

登録年月日：H30.3.26
事業年度：H30～R6

対象河川　：　一級河川　信濃川水系千曲川　【国管理河川】
市町村名　：　長野県上田市
推進主体　：　上田市

位置図



1. 概要

上田市では、「健幸都市(スマートウェルネスシティ)の実現」を目指し、安全で安心な河川空間の形成やまちの地域活性化に取り組んでいます。

この取組を充実させるため、本計画では、護岸の整備や芝生広場の整備等を実施し、またPark-PFI等の制度を活用することで賑わいの場の創出を図ります。

国土交通省では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備のほか、河川空間において営利活動を実施する場合には、河川敷地占用許可準則第22に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　河川管理用道路、護岸、高水敷整正　等　　上田市　：　芝生広場、管理棟　等

3. ソフト施策の内容

国土交通省　：　都市・地域再生等利用区域の指定　等　　上田市　：　魚つかみ取り等の水辺体験　等



上田市千曲川×依田川地区かわまちづくり【完】

信濃川水系千曲川
（長野県上田市）【直・補】

事業実施の効果





地域のコメント

『かわを感じ！かわと触れ合い！まちが賑わう！千曲川×依田川地区』を掲げ、親水広場やカヤックポート、自然観察エリアなど、水辺と触れ合う空間を構築することを目的に、遊歩道やイベント広場、管理棟などを整備することで利活用の充実を図り、市民はもとより観光客にとっても魅力あるまちの拠点を創出し、地域の活性化を推進します。

事業実施の効果





地域のコメント

依田川沿いに整備されている「依田川ウォーキングロード」と連携することで、歩ける距離も増え、サイクリングなど他の用途としても利用できる。また、雨宿りのできる休憩所（トイレ）があることが非常に嬉しい。このような場は地域のコミュニケーションの場となる

事業実施の効果





地域のコメント

最近は川に触れ合う機会が少なくなっているが、子供たちにとって川から見る風景は、普段と全く異なり貴重な体験になる。水辺イベントなどでその機会を増やしていきたい。

上田市千曲川×依田川地区かわまちづくり【完】

信濃川水系千曲川
（長野県上田市）【直・補】

ソフト施策



<水辺空間の利活用状況>
○かわまち計画範囲内の占用許可状況
・今後、協議会と連携し、民間事業者等とのタイアップ等を検討していく。

<参画機関>

- 上田市千曲川×依田川地区かわまちづくり協議会（委員名簿）
  - 下長瀬自治会・石井自治会・茂沢自治会・尾野山自治会
  - 大屋自治会・岩下自治会・丸子まちづくり会議（２地区）
  - 茂愛会・長野大学環境ツーリズム学部・オヤジ改造倶楽部
  - 上田市商工会塩川支部・信州上田アウトドアビジターセンター
  - 石井マレットゴルフクラブ・信州上田千曲川少年団
  - 長野県上田養護学校・日本野鳥の会長野支部
  - 上小漁業協同組合・国土交通省千曲川河川事務所
  - 長野県上田建設事務所・上田市丸子地域建設課
- 毎年、商工会で「魚のつかみ取り大会＆魚の塩焼き大会」を地元の漁業組合と連携して実施している。
- 依田川上流では、毎年「依田川爆水RUN」が開催されている。
- マレットゴルフ場や大石グラウンドの利用が盛んである。

<かわまちの運営（維持管理）>

- 持続可能な維持管理（予定）
  - エリアマネジメント
    エリアごとに管理運営団体を決めた自主的なマネジメント
  - 地域共同
    地域住民共同の積極的な維持管理（河川清掃や美化運動など）

- 収入源案（予定）
  - エリアの使用料
  - レンタル事業（カヤック＆SUPの貸出、魚釣りセットの貸出BBQセットの貸出）
  - チェーンソー体験＆（チェーンソー体験で使用した）薪の販売会

【H30年度】

「千曲川北信5市町かわまちづくり」（長野県長野市・須坂市・中野市・飯山市・小布施町）

登録年月日：H.31.3.8
事業年度：R2～R7

対象河川　：　1級河川　信濃川水系千曲川　【国管理河川】

市町村名　：　長野県長野市・須坂市・中野市・飯山市・小布施町

推進主体　：　千曲川北信5市町かわまちづくり推進協議会



1. 概要

長野市、須坂市、中野市、飯山市、小布施町の5市町では、千曲川を軸とした広域観光ルートの構築、地域の歴史・文化の伝承、未来へ繋げる関係人口の創出等により、広域観光の推進と地域活性化に取り組んでいます。

この取組を充実させるため、本計画では、各市町で行われている水辺アクティビティを広域に連携し、相互の経済効果を図ると共に、アウトドア民間事業者や鉄道事業者による「イベントやツアーを5市町で連携することで更なる観光振興を図ります。

国土交通省では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備のほか、河川空間において営利活動を実施する場合には、河川敷地占用許可準則第22に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　河川管理用通路、親水護岸　等

5市町（長野市・須坂市・中野市・飯山市・小布施町）：　駐車場、遊歩道、案内看板　等

3. ソフト施策の内容

国土交通省　：　都市・地域再生等利用区域の指定　等

5市町（推進協議会）：歴史散策マップの作成
：かわまちPRキャラクター作成



千曲川北信５市町かわまちづくり

信濃川水系千曲川（長野県長野市、須坂市、中野市、飯山市、小布施町）【直】

事業実施の効果





・まちの拠点と河川空間を遊歩道やサイクリングロードでつなぎ、一体的かつ広域な整備を行うことで、回遊性が高い水辺アクティビティを創出します。
・さらに、水辺アクティビティイベントの広域な連携、アウトドアメーカーや鉄道事業者等との連携強化による観光振興の促進を図ります。

事業実施の効果





・地元小学生の川下り体験教室や親子を対象とした川下りツアーが開催されるようになりました。
・川下りツアーには、地元観光協会、や旅行会社のツアー担当者にも参加いただき、千曲川での川下りの魅力を体験していただいています。

事業実施の効果





・地域への愛着心を育て、魅力ある地域を誇れる将来の地域づくりの担い手を創出します。
・川沿いの石碑や遺跡施設の周辺整備と合わせ、水辺体験を通じて、地域の歴史や文化を伝え継ぐ子どもたちの育成を図ります。

千曲川北信５市町かわまちづくり

信濃川水系千曲川（長野県長野市、須坂市、中野市、飯山市、小布施町）【直】

ソフト施策（イメージ）

①水辺イベントを利用した広域拡充



・これまで行われている「千曲川・高社山SEA TO SUMMIT」の広域拡充や「千曲川ラフティング体験」などの水辺アクティビティを広域に連携することにより、相互の経済的活性化の相乗効果を図る。

②広域観光ルートの構築



・まちの拠点である「道の駅」などと水辺整備箇所を融合し、これまで独自に行われてきたマラソンやウォーキングイベント等を広域に連携し、新たなイベントの開催など、広域観光ルートを構築する。

③民間事業者等の参入・連携と広域観光推進に向けた仕組みづくり



・民間事業者等による各種イベントやツアー企画をタイアップすることにより、更なる観光振興を図る。また、地域間の利用を図るため、エリア内が連携した各種マップの作成やサポートステーションの整備など広域観光に向けた仕組み作りを行う。

④歴史や文化から未来を繋ぐ地域の魅力を再発見



・子ども達を対象とした川下りツアーや千曲川体験教室など、川に親しむ機会を創出し、地域の歴史や文化、水辺体験から千曲川に親しみを持たせることで、未来の関係人口を育み、更なる地域活性化を推進していく。

<水辺空間の利活用状況>
・市内小学校での川下り体験教室の実施
・推進協議会主催による川下りツアーの実施
・シーツーサミットの実施

○かわまち計画範囲内の占用許可状況
今後、協議会と連携し、民間企業等とのタイアップ等を検討していく。

<参画機関>
●千曲川北信5市町かわまちづくり推進協議会
・長野市カヌー協会POWERDRIVE R117
・NPO法人散走が楽しい地域を拓く会
・株式会社モンベル・JR東日本株式会社
・長野電鉄株式会社・長野市・須坂市 ・小布施町
・中野市・飯山市・千曲川河川事務所（国）
・長野県埋蔵文化財センター

<かわまちの運営（維持管理）>
○施設の維持管理や補修は施設の管理者が行う。
・国土交通省（護岸・管理用道路）
・市・町（遊歩道・駐車場・アプローチ用通路）

○日常的な施設管理や美化清掃は利用団体・地域住民と市・町が協働で行う。

【R1年度】中心市街地を流れる水と緑のネットワークの中心軸となる浅野川

「金沢地区かわまちづくり」（石川県金沢市）

登録年月日：R2.3.13
事業年度：R1～R7

対象河川 ： 二級河川 大野川水系浅野川 【県管理河川】
市町村名 ： 石川県金沢市
推進主体 ： 金沢市



1. 概要

石川県が河川管理用通路や親水護岸の整備等を行うとともに、金沢市が犀川と浅野川を結ぶ西部緑道の整備等を行うことにより、市内の水と緑のネットワークの連続性及び回遊性が確保され、地域の活性化を推進します。

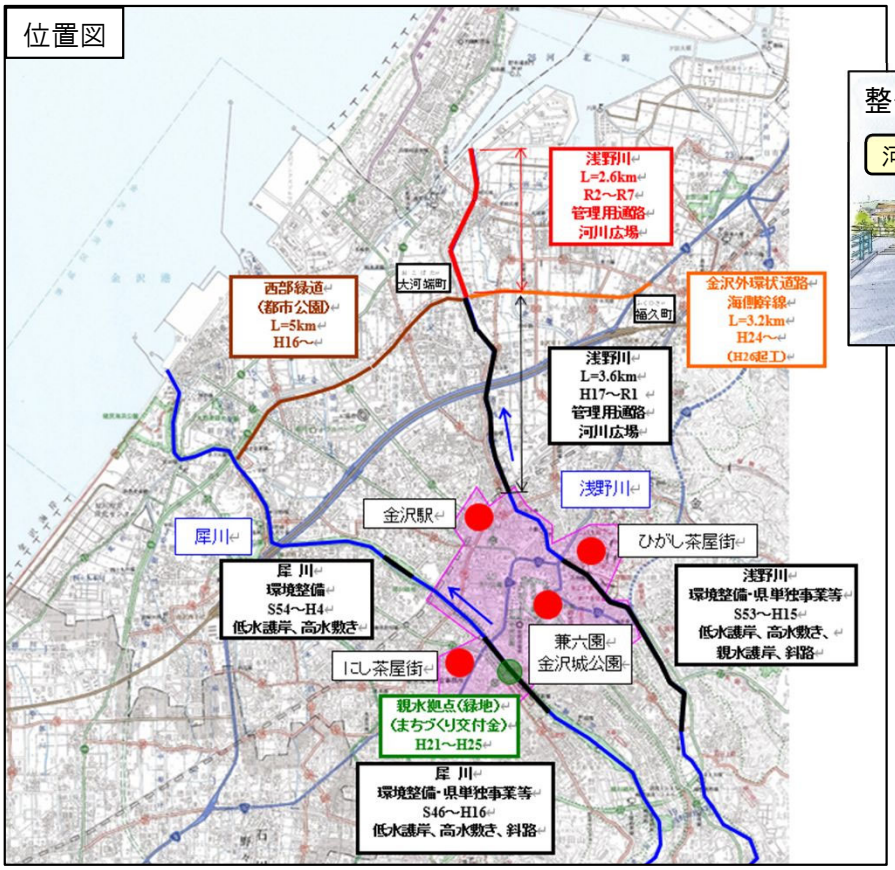
実施にあたっては、毎年開催されているかわづくり協議会にて具体的な整備内容を協議し、地元住民と一体となって整備を行うこととしています。

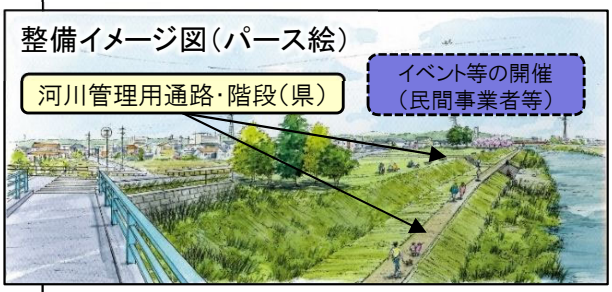
2. ハード施策の内容

石川県 ： 河川管理用通路、階段 等　　金沢市 ： 緑道整備 等

3. ソフト施策の内容

石川県 ： 協議会の支援・要望対応 等　　金沢市 ： 利活用促進のためのウォーキングマップの作成 等









ウォーキングイベント等での利活用

金沢地区かわまちづくり

大野川水系浅野川（石川県金沢市）【補】

事業実施の効果

整備前



整備後



地域のコメント

浅野川下流域かわづくり協議会会長によるコメント

浅野川河川敷はうるおいと憩いの場となり大変良くなった。
今後もお互いに協力し、より愛される川になるよう住民の意見も取り入れて整備してもらいたい。

住民等による活動



除草作業



花壇の管理

河川敷の利活用状況



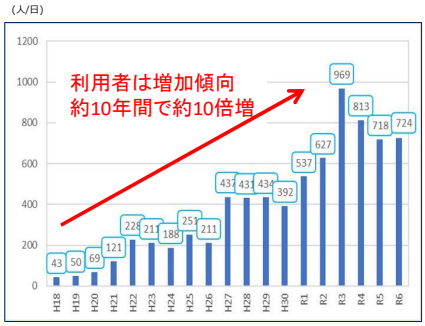
記念ウォーク



サイクリング

河川利用状況

行政により整備された遊歩道等の河川整備と住民による植栽や日常的な維持管理により、魅力ある親水空間が創出され、地域の魅力向上に貢献している。
日常的に利用者がおり、イベントにも利用されている。



金沢地区かわまちづくり

大野川水系浅野川（石川県金沢市）【補】

＜ソフト施策内容＞

中学生による花壇の管理



記念ウォークの実施



住民による河川敷の芝張り



加賀友禅灯籠流し



＜参画機関＞

・地元住民や関係者、行政から組織する「浅野川下流域かわづくり協議会」を毎年開催し、日常の維持管理、イベントでの利活用や地域の以降を反映した整備方針について調整しながら、住民参加型かわづくりを行っている。

○今後の展望

- 引き続き協議会を継続し、よりよい河川環境を整備する。
- いしかわ我がまちアドプト制度活動団体や、河川愛護団体を増やす取り組みについて検討する。

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・イベント時の飲食ブース等について一時的に占用許可
・浅野川中学校に松寺広場を整備のための占用許可
・かわづくり協議会が沖町ポケットパークにて修景施設の整備のため占用許可

○今後の展望

- 今後も引き続き、地元や協議会から占用申請があれば許可基準内にて許可できるよう努める。

＜かわまちの運営（維持管理）＞

- いしかわ我がまちアドプト制度活動団体が、金沢市磯部町にて活動しており、河川清掃や除草を行っている。
- 地元中学生や地元のボランティア団体により、花壇整備および維持管理を行っている。

【R3年度】水と緑に彩られた風情と趣のある、地域の賑わいを創出する犀川

「犀川かわまちづくり」（石川県金沢市）

登録年月日：R3.8.20
事業年度：R3～R8

対象河川 ： 二級河川 犀川水系犀川 【県管理河川】
市町村名 ： 石川県金沢市
推進主体 ： 金沢市



1. 概要

金沢市では、伝統的な町並み、寺社風景などの「保全」と近代的都市機能の「開発」との調和を図る、本市固有のまちづくりを進めており、水と緑に彩られた風情と趣のある川筋景観の保全を推進するとともに、犀川周辺の公共空間を活用した中心市街地の新たな賑わいの創出に取り組んでいます。

この取組を充実させるため、本計画では、犀川の河川空間及び隣接する中心市街地を一体的に整備し、風情と趣のある川筋景観を創出するとともに、イベント開催など民間事業者等の活力を生かした日常的な利活用を促進することで、犀川の新たな魅力や賑わいの創出を図ります。

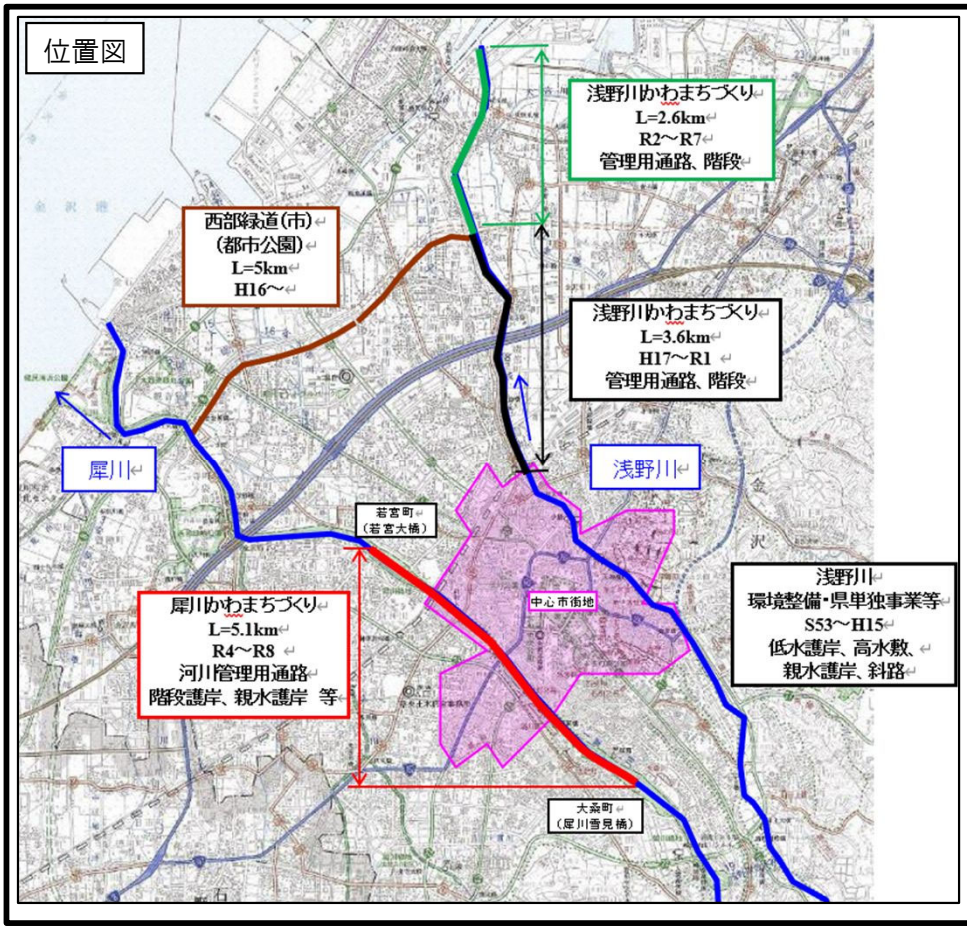
石川県では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備のほか、河川空間において営利活動を実施する場合には、河川占用敷地許可準則第22に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

石川県 ： 河川管理用通路、階段護岸、親水護岸 等　　金沢市 ： 照明設備の設置 等

3. ソフト施策の内容

石川県 ： 協議会の支援・要望対応 等　　金沢市 ： ライトアップイベントの実施 等




親水護岸整備


ライトアップイベント

犀川かわまちづくり

犀川水系犀川（石川県金沢市）【補】

事業実施の効果

整備前

親水護岸の設置　桜橋上流右岸



管理用通路の整備　犀川大橋上流左岸





整備後









地域のコメント

犀川利活用推進協議会総会
嶋浦会長挨拶より
　日常に気づかない近隣にあるものの再認識が活性化につながるカギとなるため、金沢らしい地域密着型で日常的に足を運ぶような内容でかわまちづくりを検討していきたい。

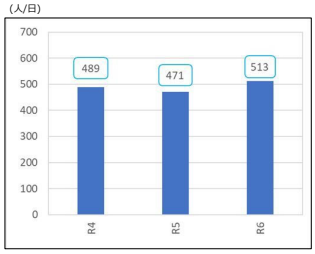
河川利用状況

　今後、かわまちづくりの取り組みと併せ適宜フォローアップを行っていく。
　成果指標として、中心市街地の休日の歩行者通行量、中心市街地の市文化施設（１４施設）の利用者数を設定。

目標指標	基準値（R2）	目標値（R8）
中心市街地の休日の歩行者通行量※1	27,126人（R2）	49,650人（R8）
中心市街地の市文化施設（14施設）の利用者数※2	171,206人（R2）	357,000人（R8）

犀川かわまちづくり計画より抜粋

　また、日常的な利用者数調査の実施も行っている。



犀川かわまちづくり

犀川水系犀川（石川県金沢市）【補】

＜ソフト施策内容＞

- 日常的な利活用の促進


飲食・休憩スペースの設置
（キッチンカーの出店）


レクリエーション活動

- 環境教育活動




鮎釣り・稚魚の放流体験

＜参画機関＞

- 関係団体、地域住民、民間事業者、行政等で組織する「犀川利活用推進協議会」を中心とし、地域や民間事業者の意向を反映し事業を推進する。

「犀川利活用推進協議会」
　構　成：商工会議所、まちづくり会社、地域団体、
　　地域住民、民間事業者、学識経験者、行政

○今後の展望

- 地域や民間事業者の活力を生かし、犀川の河川空間の利活用策を官民連携で検討・実施するほか、必要なハード整備を検討（年に２～３回開催）し、賑わいと憩いのある持続可能な「かわまちづくり」の実現を目指す

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

- イベント時の飲食ブース等について一時的に占用許可

○今後の展望

- 河川空間において営利活動を実施する場合には、河川占用敷地許可準則２２条に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していく。

＜かわまちの運営（維持管理）＞

○維持管理の役割分担について

- 河川管理者　：河川管理施設の維持管理
- 公園管理者　：公園施設の維持管理
　（指定管理者：清掃、植栽維持管理、公園施設の保守点検・小規模修繕）
- 道路協力団体：国道157号（香林坊交差点～犀川大橋沿道）の歩道清掃、植栽等
- 地域住民　　：河川敷の清掃、植栽等

【R6年度】人、自然、歴史が“巡る”水郷のにぎわい合流拠点

「安曇野市犀川×前川かわまちづくり」（長野県安曇野市）

登録年月日：R6.8.8
事業年度：R6～R10

対象河川　：　1級河川　信濃川水系犀川　【国管理河川】

市町村名　：　長野県安曇野市

推進主体　：　安曇野市



1. 概要

安曇野市では、「人、自然、歴史が“巡る”水郷のにぎわい合流拠点」という構想のもと、「『にぎわいが巡る』」かわまちづくり」を基本方針の1つとして掲げ、市民がより集いやすくなり、水辺空間を中心に人々がまちを巡り、地域全体で新たな出会いや活動が創出されることを目的としています。

本計画では、明科地域を流れる犀川・前川を中心としてウォーターアクティビティを活用していくために、犀川と前川に隣接する龍門渕公園・あやめ公園に、にぎわいを生み出すアウトドア拠点の中核としてセンターハウスと憩いのエリア等、犀川・前川の水際に親水性の高い護岸等を整備します。

国土交通省では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備のほか、河川空間において営利活動を実施する場合には、河川敷地占用許可準則第22に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

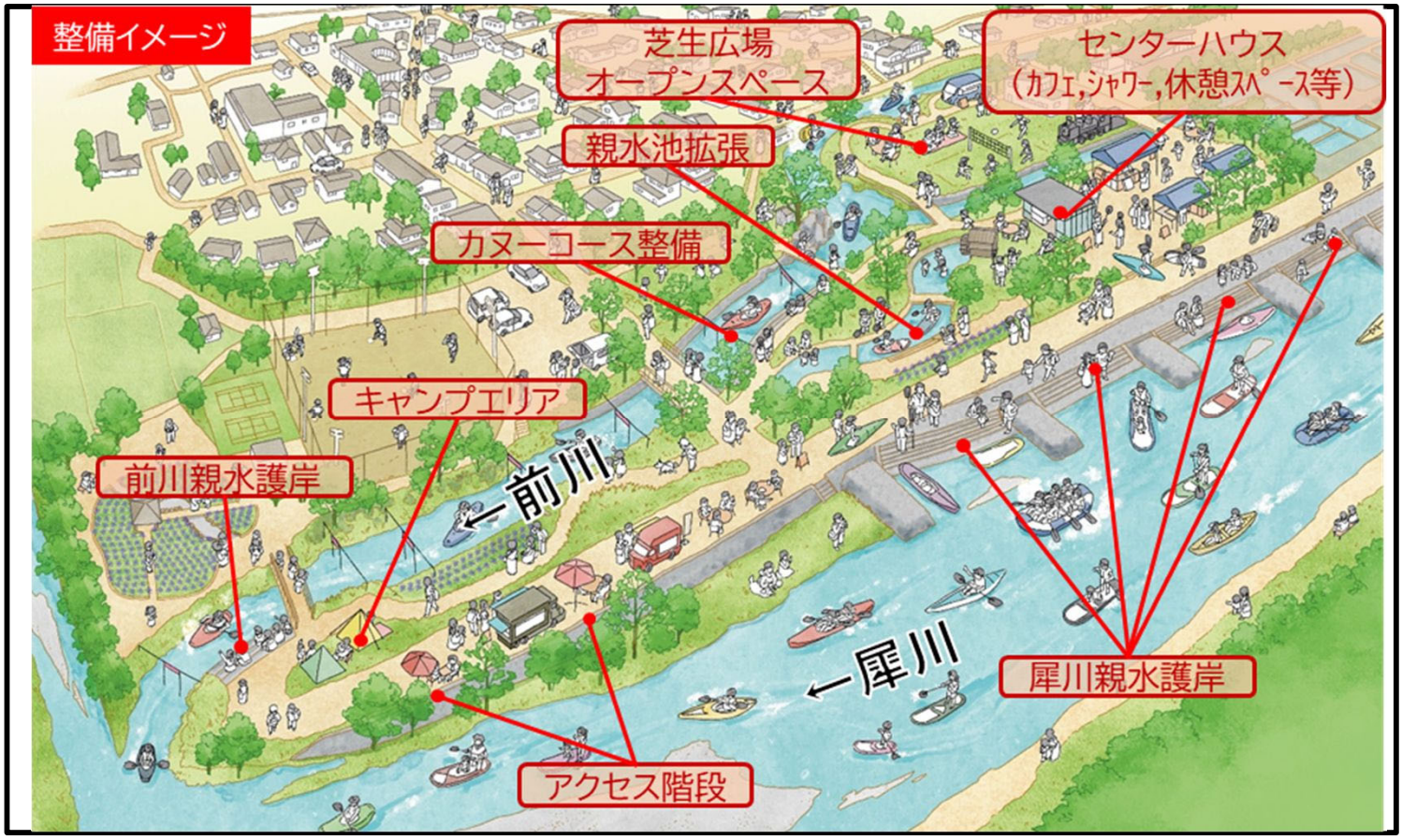
国土交通省　：　犀川の親水護岸整備　等　　長野県　：　前川の親水護岸整備　等

安曇野市　　：　センターハウス、駐車場、案内看板　等

3. ソフト施策の内容

国土交通省　：　優良事例に関する情報提供や必要な調査　等

安曇野市　　：　まちなか及び水辺空間のにぎわい創出に資するイベント拡充、人材育成、PR　等

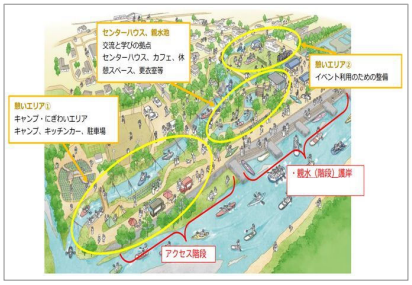


安曇野市犀川×前川かわまちづくり

信濃川水系犀川・前川
（長野県安曇野市）【直・補】

事業実施の効果





龍門渕公園・あやめ公園利用者数

・かわまちづくり対象範囲内の龍門渕公園・あやめ公園の年間利用者数
・第２次安曇野市観光振興ビジョンで目指す観光地延利用者数を参考に目標値を設定
・公園管理者から月別の記録を収集し合計する
従前値：56,800人（平成25年）
目標値：90,900人（令和９年）

事業実施の効果





水辺空間でのイベント開催数

・水辺空間の年間のイベント開催数
・現在は龍門渕さくらまつりとあやめ祭り等の６回であるが、アウトドアイベントやマルシェを定期的に実施するなどにより、年間を通じて水辺でイベントが開催される状況を目標として設定する
従前値：６回（令和５年）
目標値：12回（令和９年）

事業実施の効果





明科地域の市民生活満足度

・市域全体と同水準を目標値として設定する（「満足している」「やや満足している」の回答率）
・安曇野市が毎年市民を対象に実施する市民意識調査より集計する
従前値：66.6%（令和４年）
目標値：75%（令和９年）

安曇野市犀川×前川かわまちづくり

信濃川水系犀川・前川
（長野県安曇野市）【直・補】

ソフト施策



各種イベント（アウトドアイベント、マルシェ等）の開催



自然体験・環境教育



アクティビティ体験
（リバーサーフィン・SUP等）



アウトドア教育（安全指導）
次世代育成　等

＜水辺空間の利活用状況＞
○かわまち計画範囲内の占用許可状況
・今後、協議会と連携し、民間企業等とのタイアップ等を検討していく。

＜参画機関＞
・安曇野市東部アウトドア拠点整備基本構想
犀川×前川かわまちづくり推進協議会
・国（千曲川河川事務所）
・県（安曇野建設事務所）
・安曇野市観光協会/安曇野市商工会/河川利用団体/地域活性化団体/地元区長/小中学校長/見識者/安曇野市
・安曇野市東部アウトドア拠点基本構想推進プロジェクトチーム（市役所内）
・安曇野市東部アウトドア拠点運営組織（今後設立予定）
※基本構想の推進、カヌーコースの管理運営、地域クラブの運営等

＜かわまちの運営（維持管理）＞
・施設の維持管理については、施設管理者が行う
国土交通省（犀川護岸）
安曇野市　（アウトドア拠点、龍門渕公園・あやめ公園、前川カヌーコース）
長野県　（前川護岸）

・アウトドア拠点施設、公園、カヌーコースの日常的な管理、清掃等について、施設供用開始後は指定管理者による管理を想定。
・当面の日常的な施設管理、清掃等については、整備箇所が既存の都市公園等の活用が主であることから、現状を引き継ぐ

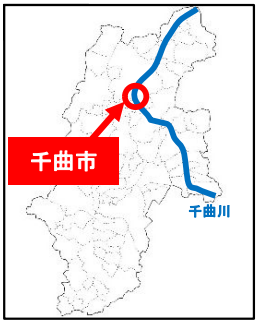
「戸倉上山田地区かわまちづくり」（長野県千曲市）

登録年月日：R7.8.1
事業年度：R8～R11

対象河川 ： 一級河川 信濃川水系千曲川 【国管理河川】

市町村名 ： 長野県千曲市

推進主体 ： 千曲市



1. 概要

千曲市の南部に位置する戸倉上山田地区では、令和5年3月に千曲市総合運動公園基本構想が策定されたことに伴い、「みんなが集い、憩い、楽しめるコミュニティスポーツパーク」を全体コンセプトに掲げて、総合運動公園が地域の人々の暮らしや経済、資源を上手く循環させる一つの核として機能する「つながる」地域の実現を目指しています。

この取り組みを充実させるため、基本構想の計画対象地である戸倉体育館エリア、白鳥園エリア及びその周辺整備に併せて、「かわを感じる・かわと親しむ・かわを楽しむ地域の縁側」を整備コンセプトとして、周辺地域とのつながりを軸としながら、右岸側の河川敷エリアでは来訪者の憩いの場、アクティビティ施設及び駐車場等の整備を、左岸側の戸倉千曲川緑地公園においては既存公園をリニューアルし、利便性を向上させることにより賑わいの創出を図ります。

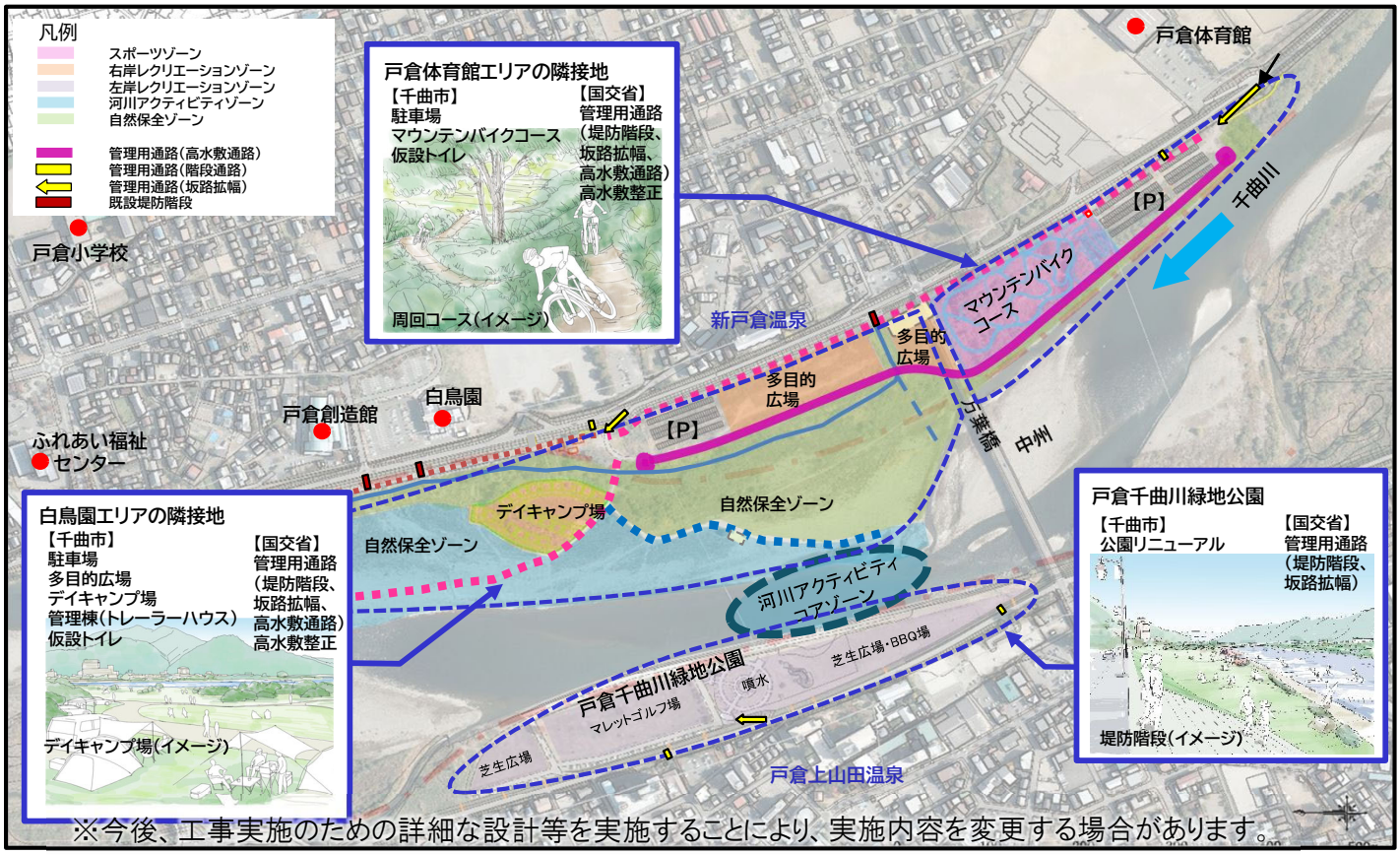
河川管理者（国土交通省）では、この取組みに対し、必要となる河川管理施設を整備するほか、河川敷地占用許可準則第22に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

国土交通省 ： 管理用通路整備（堤防階段、坂路拡幅、高水敷通路）、高水敷整正
千曲市 ： 多目的広場、キャンプ場、マウンテンバイクコース、駐車場、釣り場 等

3. ソフト施策の内容

国土交通省 ： 優良事例に関する情報提供や必要な調査、都市・地域再生等利用区域の指定
千曲市 ： 周辺施設と連携した利用促進、川とふれあう機会の提供、賑わいの場の創出（イベント拡充）



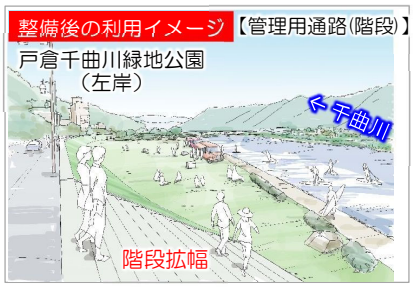
※今後、工事実施のための詳細な設計等を実施することにより、実施内容を変更する場合があります。

戸倉上山田地区かわまちづくり

信濃川水系千曲川（長野県千曲市）【直】

事業実施の効果





＜イベント開催数（KPI）＞

- 計画対象地内で行われるイベントの年間の開催数。
- 令和５年度に実施されたイベントは釣りイベントと煙火大会等３件のみ。今後、SUPやマウンテンバイクのイベント等を定期的に実施し、年間を通じてイベントが開催される状況を目標として設定。
- R13年目標：左岸側_６回
  右岸側_６回

事業実施の効果





＜施設利用者数（KPI）＞

- かわまちづくり対象範囲（河川敷エリア）内における主要施設の年間利用者数（キャンプ場利用者数、釣券購入者数、SUP事業利用者数）
- 各施設の運営者から月別の記録を収集し合計する。※利用者のカウントが可能な施設のみを対象
- R13年目標：施設利用者_3,000人

事業実施の効果





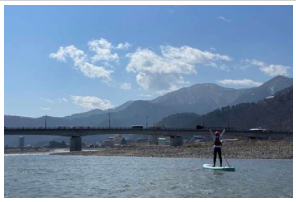
＜市政への満足度（「そう思う」「ややそう思う」の回答率）（KPI）＞

- 千曲市が毎年市民を対象に実施する市民意識調査より集計する。
- スポーツやレクリエーション活動を楽しめる環境の充実・整備を進めており、このうち「スポーツを通じ、心身の健康と活力あるまちが作られている」と思う市民の割合。
- R13年目標：49%

戸倉上山田地区かわまちづくり

信濃川水系千曲川（長野県千曲市）【直】

ソフト施策



【千曲川リバーサップ体験】



【小中学生ニジマス釣り教室】



【信州千曲市千曲川納涼煙火大会】



【CHIKUMA river NIGHT CAMP FESTIIVAL】

＜水辺空間の利活用状況＞
○かわまち計画範囲内の占用許可状況

- 今後、協議会や関係各所と連携し、民間企業等とのタイアップ等を検討していく。

＜参画機関＞

「戸倉上山田地区かわまちづくり協議会」

【事務局】
千曲市
【構成団体】
スポーツ振興団体、観光関連団体、商工団体、漁業団体、教育関係団体、有識者、関係行政機関（千曲川河川事務所）、地元区長等地域住民、河川利用事業者（今後）、その他
【オブザーバー】
長野県

＜かわまちの運営（維持管理）＞

・施設の維持管理については、各施設管理者が行う
国土交通省（管理用通路）
千曲市　（高水敷の多目的広場やデイキャンプ場等の施設、戸倉千曲川緑地公園）

・隣接する市所有施設（白鳥園、戸倉体育館エリア）の指定管理者等とも連携して、維持管理体制を構築していく。
・河川環境の整備（クズなどの除去、河畔林の維持管理など）を地域と連携して行うなど、国が推進する住民参加型の河川管理（ボランティアサポートプログラム等）についても今後検討を行う。

04 かわまちづくり計画　事例集

中部地方整備局管内

【H21年度】

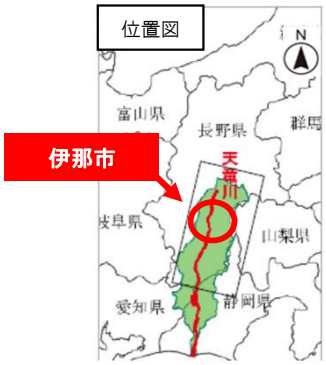
「下新田・伊那地区かわまちづくり」（長野県伊那市）

登録年月日：H21.5.22
事業年度：H21～H21

対象河川 ： 1級河川 天竜川水系天竜川・三峰川 【国管理河川】

市町村名 ： 長野県伊那市

推進主体 ： 伊那市



1. 概要

伊那市では、川シンポジウムとして、せせらぎウォッチングや水質調査などにより多くの住民が天竜川・三峰川に知ってもらうという取り組みを昭和63年から行っています。

さらなる水辺の利活用として、市役所前面のオープンスペースを拠点とし、天竜川、三峰川、南・中央の両アルプスの壮大な景観を生かした観光資源の場、親水性を活かした魅力的な水辺環境の創出を目的とし整備を行いました。

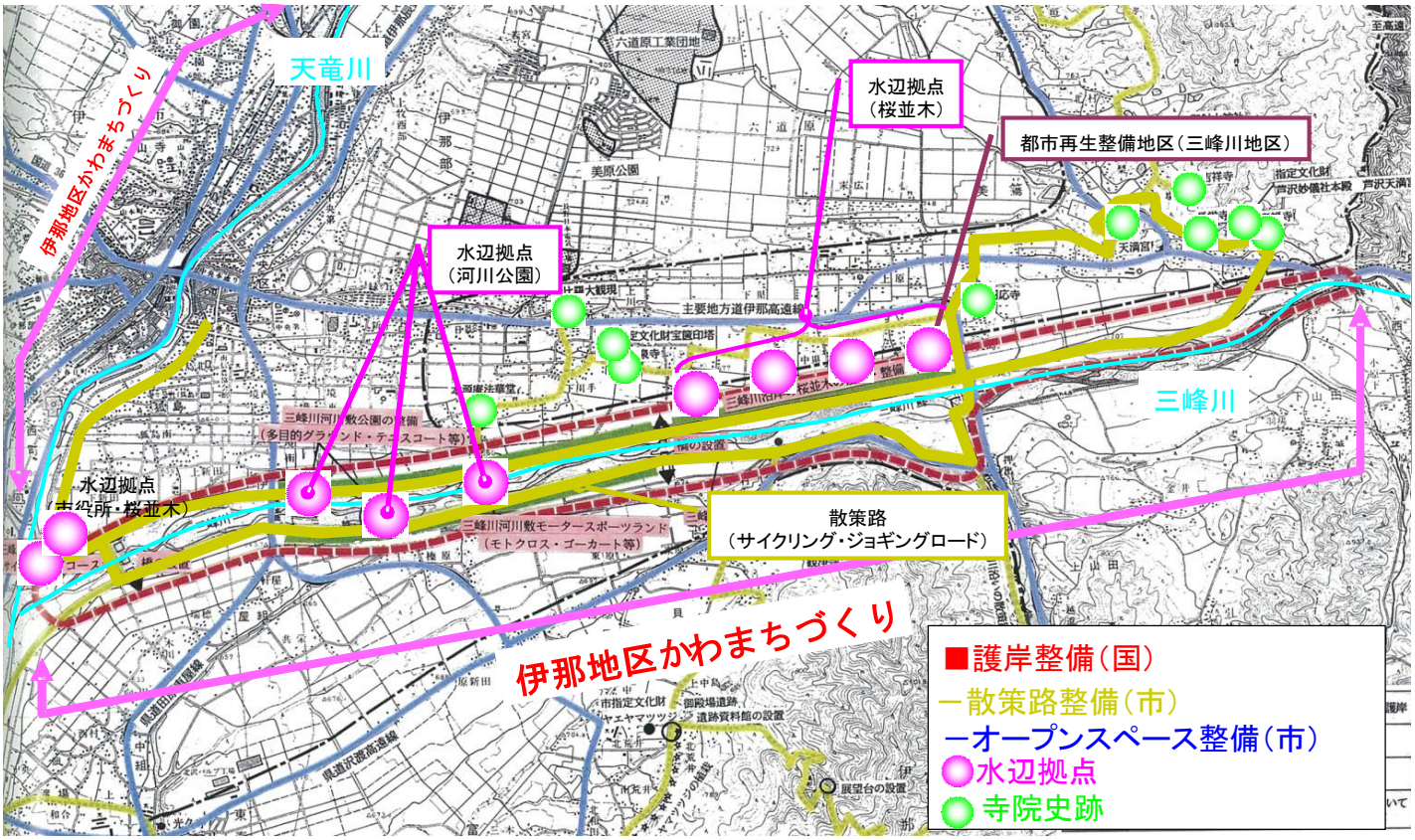
国土交通省では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備を実施しました。

2. ハード施策の内容

国土交通省 ： 階段護岸、低水路護岸、高水敷護岸　　伊那市 ： 散策路整備、オープンスペース整備

3. ソフト施策の内容

伊那市 ： 川シンポジウムや伊那まつりの花火等のイベント開催 等



下新田・伊那地区かわまちづくり【完】

天竜川水系天竜川・三峰川（長野県伊那市）【直】

事業実施の効果

事業実施前



事業実施後



（高水敷整備で利便性・安全性が向上）

指標名　水生生物調査



地域住民参加による水生生物調査

事業実施の効果

事業実施前の状況写真等



雄大な景色を背景に「桜ウォーキング」





河原でＢＢＱ　小川もあって子供達も退屈しません

下新田・伊那地区かわまちづくり【完】

天竜川水系天竜川・三峰川（長野県伊那市）【直】

ソフト施策













＜水辺空間の利活用状況＞
○かわまち計画範囲内の占用許可状況
・伊那まつりによる花火

＜参画機関＞
・伊那市
・三峰川みらい会議

＜かわまちの運営（維持管理）＞
施設整備後の維持管理状況
・施設の維持管理については、施設管理者が行う。
　護岸、階段護岸、散策路：国土交通省
　河川公園、散策路：伊那市
・日常的な施設管理、清掃等については、現在も地元住民を中心に実施しているところであり、引き続き連携を図りながら実施する。

【H21年度】

「多治見かわまちづくり」（岐阜県多治見市）

登録年月日：H21.5.22
事業年度：H21～H25

対象河川　：　一級河川　庄内川水系土岐川　【国管理河川】
市町村名　：　岐阜県多治見市
推進主体　：　多治見市



1. 概要

多治見市では、市街地の中央を流れる土岐川が、まちに涼や潤いを与え、市民にとっては貴重な憩いの場となっており、「第6次多治見市総合計画」に基づき、水辺環境を生かして人が憩える交流の場の整備や、多治見駅周辺の整備にあわせて、商店街や駅とを効果的につなぐための河川管理用通路が整備されている。また、同計画では「健康づくり」「地域福祉」が施策として挙げられています。

この取組を充実させるため、本計画では、堤防整備にあわせ、地域の医療施設と一体となった河川の憩いの空間の整備を実施し、医療の面のみならず、高齢者や子供などに優しい空間整備を図ります。

国土交通省では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備のほか、今後の利活用に向けた必要な支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

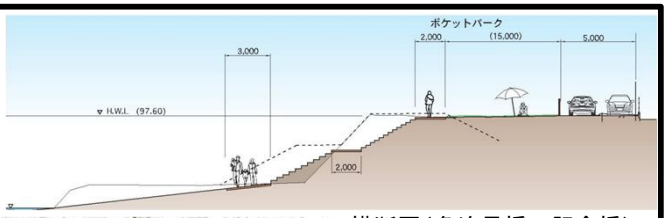
国土交通省　：　管理用道路、管理用階段、病院と連携した河川整備　等
多治見市　：　市民病院と堤防天端をつなぐブリッジ　等

3. ソフト施策の内容

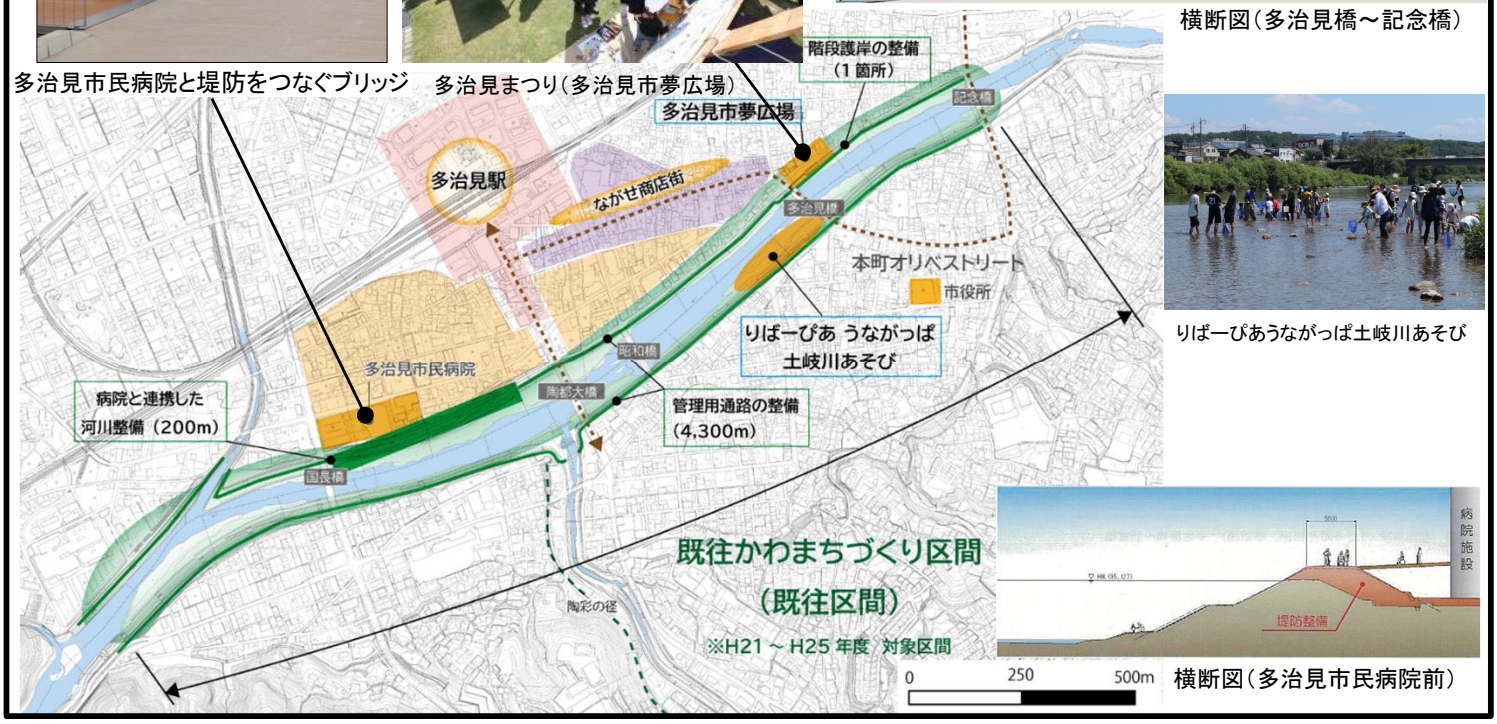
多治見市　：　多治見まつり、市制記念花火大会、市民病院患者によるリハビリ活用　など


多治見市民病院と堤防をつなぐブリッジ


多治見まつり（多治見市夢広場）



横断図（多治見橋～記念橋）



りばーぴあうながっぱ土岐川あそび

横断図（多治見市民病院前）

多治見かわまちづくり【完】

庄内川水系土岐川（岐阜県多治見市）【直】

事業実施の効果

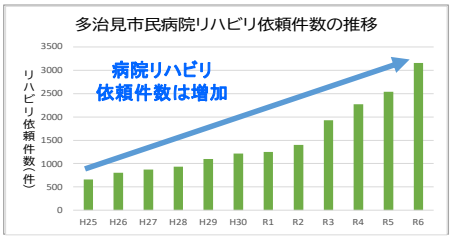


市民病院と連携前の河川敷



リハビリへの活用

指標名　市民病院の利用者



事業実施の効果

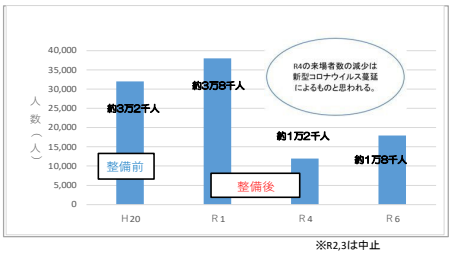


遊歩道・階段を整備



多治見まつり（多治見市夢広場）

指標名「多治見まつり」来場者数



※R2,3は中止

事業実施の効果



遊歩道（管理用通路）を整備



りばーぴあうながっぱ土岐川あそび

指標名　りばーぴあ来場者数



多治見かわまちづくり【完】

庄内川水系土岐川（岐阜県多治見市）【直】

ソフト施策



多治見まつり（多治見橋夢広場）



多治見まつり（本町オリベストリート）



多治見市制記念花火大会



りばーぴあうながっぱ土岐川まつり

＜参画機関＞

・地域の意向を反映させるために、行政や地元関係者等から構成する意見交換会の場として「多治見かわまちづくり協議会」を設置し、協議会を開催。

記念橋～陶都大橋区間
＜第1回＞　平成21年3月21日
＜第2回＞　平成21年6月9日
＜第3回＞　平成21年8月4日
＜第4回＞　平成21年11月25日
＜第5回＞　平成22年7月22日
＜第6回＞　平成23年3月22日

国長橋～陶都大橋区間
＜第1回＞　平成23年9月14日
＜第2回＞　平成24年11月30日
＜第3回＞　平成25年3月13日

＜水辺空間の利活用状況＞
○かわまち計画範囲内の占用許可状況

主な占用許可状況
・遊歩道（多治見市占用）
・花火大会での桟敷席の利用
・りばーぴあうながっぱ土岐川まつりでの河川敷の利用

＜かわまちの運営（維持管理）＞

施設整備後の維持管理状況
護岸、階段：国
芝生、樹木、遊歩道：多治見市
日常的な施設管理、清掃等：地元市民団体等

【H21年度】

「飛騨川下呂地区かわまちづくり」（岐阜県下呂市）

登録年月日：H21.5.22
事業年度：H16～H21

対象河川 ： 一級河川 木曽川水系飛騨川 【国管理河川】

市町村名 ： 岐阜県下呂市

推進主体 ： 下呂市



1. 概要

下呂市では、下呂温泉街中心地の新たなオープンスペースの創出と潤いと安らぎのある親水空間創出を目的として飛騨川河川敷を活かした「しらさぎ緑地」整備に取り組んでいます。

この取組を充実させるため、本計画では、同緑地利用に係る取り組みを実施し、地域の魅力の向上及び観光振興の促進を図ります。

2. ハード施策の内容

岐阜県 ： 散策路、環境護岸　　下呂市 ： 緑地整備

3. ソフト施策の内容

下呂市 ： パンフレット作成 等


軽トラ市


下呂温泉謝肉祭


下呂温泉花火ミュージカル冬公演


Machi-Onフェス

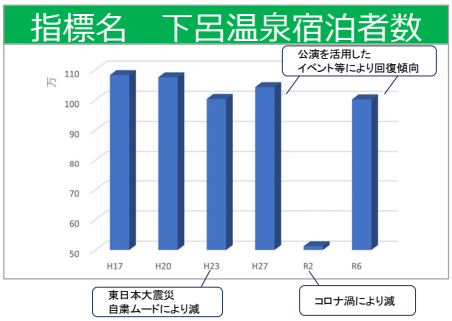
飛騨川下呂地区かわまちづくり【完】

木曽川水系飛騨川（岐阜県下呂市）【補】

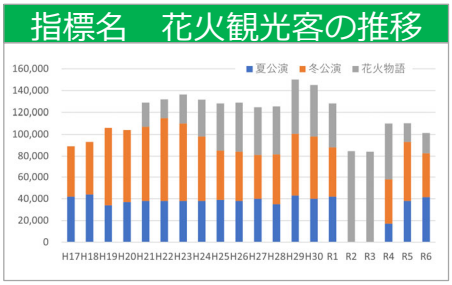
事業実施の効果


整備前（オープンスペースの不足）


新たなオープンスペースの創出




オープンスペースを活用したイベント
（飛騨川下呂温泉花火ミュージカル）



飛騨川下呂地区かわまちづくり【完】

木曽川水系飛騨川（岐阜県下呂市）【補】

ソフト施策


下呂温泉花火ミュージカル冬公演


Machi-Onフェス


下呂温泉謝肉祭

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・岐阜県下呂土木事務所と下呂市の間で、「一級河川飛騨川しらさぎ緑地公園の親水施設管理に関する協定」を締結

＜参画機関＞

「下呂町まちづくり総合支援事業基本計画　～下呂温泉地区まちづくり構想～　平成16年２月」において、緑化重点地区に指定された「一級河川木曽川水系飛騨川河川敷のしらさぎ緑地」の整備が進められる運びとなった。

当該計画地は、下呂温泉街の中心に位置し、観光客の目に触れる機会も多く、下呂温泉街のシンボルとなる場所である。

当該計画地の整備については、「益田の川を活かしたまちづくり」や「飛騨川流域懇談会」でも議論されているところである。

岐阜県では、安全で快適な生活を支える道路・河川・砂防などの社会基盤を整備するにあたり、各地域の個性・特性を活かした、地域が望む地域密着型の公共事業が進められている。

下呂市においても、同様の考えのもと、地域の意見をいただき計画に反映させるため、「しらさぎ緑地検討委員会」を立ち上げられた。

しらさぎ緑地検討委員会参加者
・「下呂町まちづくり総合支援事業基本計画」策定委員会
・下呂温泉観光協会　　・下呂商工会
・開発関係地区　　・下呂土木事務所
・下呂市

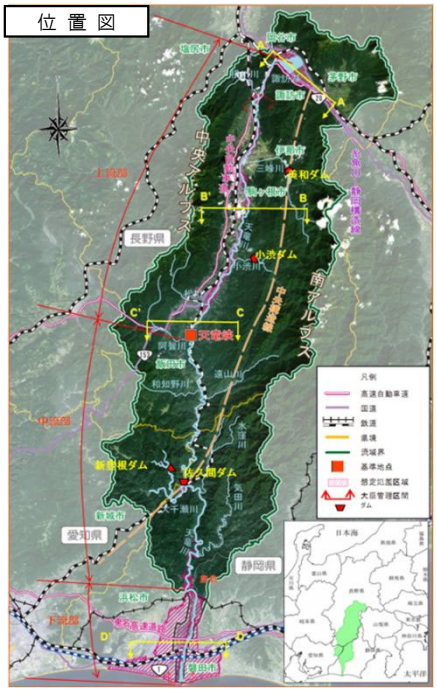
＜かわまちの運営（維持管理）＞

・日常的な維持管理は地元区に委託するとともに市直営で管理

「天竜川下流左岸かわまちづくり」（静岡県磐田市）

登録年月日：H21.5.22
事業年度：H21～H25

対象河川　：　一級河川　天竜川水系天竜川　【国管理河川】
市町村名　：　静岡県磐田市
推進主体　：　磐田市



1. 概要

天竜川に整備された自転車道は、静岡市まで繋がる太平洋自転車道と接続され日常やイベントで利用されています。

また、「子供達が自然と出会える安全な水辺の整備・地域づくり」をテーマにした「水辺の楽校いわた」や天竜川の広い河川敷にある芝生のある「池田の渡し公園」では、のびのび遊べる天竜川の水辺空間を日常的な地域交流の場として活用されています。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　環境護岸、高水敷自転車道の基盤整備
磐田市　：　看板、木製ベンチ等

3. ソフト施策の内容

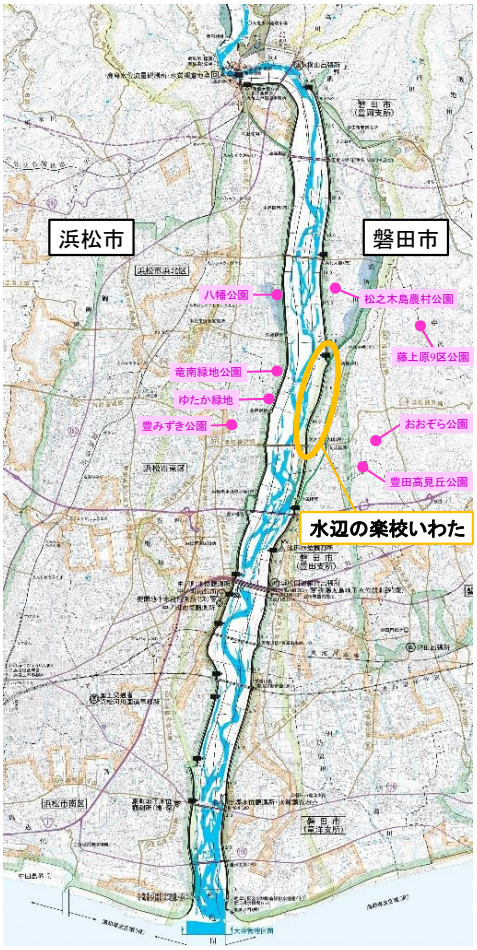
国土交通省　：　リバーウォッチング（水生生物調査等の支援）
磐田市　：　リバーウォッチング（イベント主催）

「水辺の楽校いわた」整備イメージパース









天竜川下流左岸かわまちづくり【完】

天竜川水系天竜川（静岡県磐田市）【直】

ハード整備





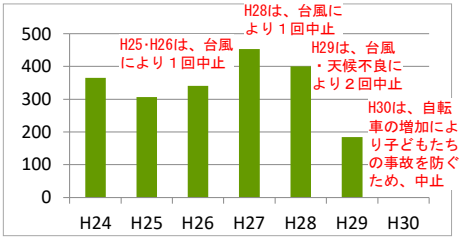
地域のコメント
磐田市では、市全域の自転車道のネットワーク化による環境にやさしいまちづくりを進めています。磐田市内の施設でレンタサイクルすることができ、多くの方に利用されています。

地域（河川）





月例マラソン記録会参加者

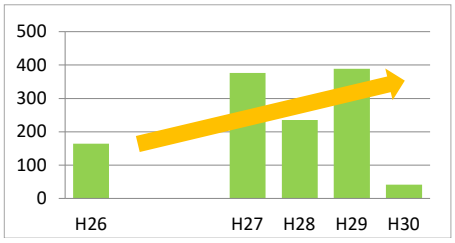


地域（経済効果）





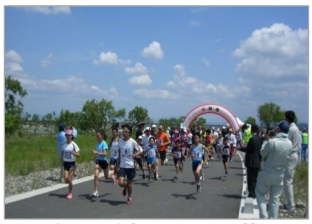
ゆるゆる遠州ガイドライド参加者



天竜川下流左岸かわまちづくり【完】

天竜川水系天竜川（静岡県磐田市）【直】

＜ソフト施策＞


■磐田月例マラソンの状況


■ゆるゆる遠州ガイドライド


■天竜川一輪車　駅伝・ミニマラソン


■リバーウォッチング・あゆのつかみどり

＜水辺空間の利活用状況＞
○かわまち計画範囲内の占用許可状況
・民間等による占用許可なし

○今後の展望
・現在、予定なし

＜参画機関＞

○磐田市
・月例マラソン記録会：磐田市陸上競技協会
・天竜川一輪車　駅伝・ミニマラソン：ＵＣ　Ｉｗａｔａクローバーカイト
・ゆるゆる遠州ガイドライド：静岡遠州観光ネットワーク
・水辺の楽校「いわた」リバーウォッチング・あゆのつかみどり：天竜川水辺の楽校いわた活動推進会

○今後の展望
・新たな活用に向け、「ミズベリング会議」の開催を検討

＜かわまちの運営（維持管理）＞

施設整備後の維持管理状況

・天竜川下流左岸自転車道
：磐田市が河川法24条、26条に基づき占用し、自転車道周辺の除草を年２回実施
・水辺の楽校「いわた」周辺
：地元自治会が天竜川河川敷の除草を年２回実施
・天竜川クリーン作戦
：10月第4日曜日を一斉清掃日として継続

【H21年度】静岡の夏の風物詩

「牛妻地区かわまちづくり」（静岡県静岡市）

登録年月日：H21.5.22
事業年度：H21～H24



対象河川　：　一級河川　安倍川水系安倍川　【国管理河川】

市町村名　：　静岡県静岡市

推進主体　：　静岡市

1. 概要

静岡市では、安倍川の豊かな自然を感じることのできるまちづくりに取り組んでいます。この取組を充実させるため、本計画では、子どもたちが楽しめる水辺の楽校整備、桜を楽しめる公園や遊歩道の整備ををを実施します。特に、水辺の楽校は地域住民が「うしづま水辺の楽校世話人会」を組成し、長年にわたり運営・維持管理を実施しており、今では「静岡の夏の風物詩」に成長しています。

国土交通省では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備のほか、水辺の楽校期間中に売店を実施してその売上を運営費・維持管理費に充当するため、河川敷地占用許可準則第22に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施してます。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　緩傾斜護岸、高水敷、高水敷水路

静　岡　市　：　公園、遊歩道

3. ソフト施策の内容

国土交通省　：　都市・地域再生等利用区域の指定

静　岡　市　：　仮設トイレのリース・汲取り、AEDのリース


うしづま水辺の楽校開催時の様子


売店の収益での施設運営


うしづま水辺の楽校世話人会によるボランティア


イカダ遊びなど多様な遊び方を提供

牛妻地区かわまちづくり【完】

安倍川水系安倍川（静岡県静岡市）【直】

事業実施の効果

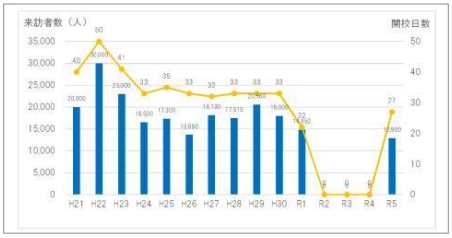


一般的な堤防護岸



緩傾斜化により水辺に行きやすい

水辺の楽校利用者数の推移



事業実施の効果

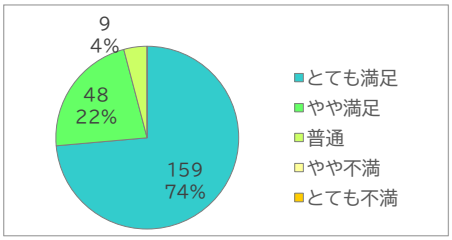


市民による桜の植樹



しずなか桜公園は春に花見が楽しめる

令和5年調査(回答者216人)



事業実施の効果



市民による積極的な草刈りの実施



常に綺麗な環境を維持している

観光や環境との連携



オクシズガイドマップに掲載

牛妻地区かわまちづくり【完】

安倍川水系安倍川（静岡県静岡市）【直】

ソフト施策



水辺の楽校の利用状況



売店の利益を維持管理費に充当



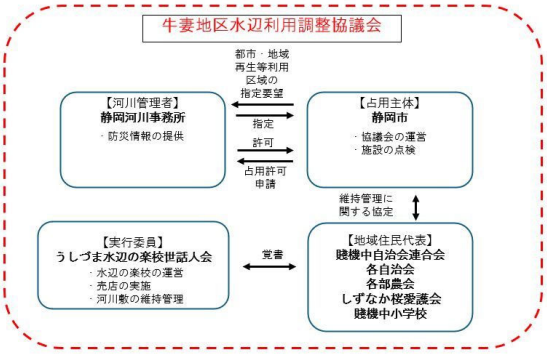
幼児用プールがあり未就学児も安心



安倍川の生物学習

＜参画機関＞

・牛妻地区かわまちづくり協議会を牛妻地区水辺利用調整協議会に承継



＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・水辺の楽校
　静岡市が河川占用し、連合自治会との協定により活用

・水辺の散歩道
　静岡市が河川占用

・しずなか桜公園
　静岡市が河川占用

＜かわまちの運営（維持管理）＞

・施設の維持管理は各施設管理者が行う。
　高水敷/堤防：静岡河川事務所
　公園/遊歩道：静岡市

・桜の管理
　市民がしずなか桜愛護会を立ち上げ、
　各施設の桜の管理を行っている

・うしづま水辺の楽校
　市民が水辺の楽校世話人会を立ち上げ、
　日常的な草刈りに加え、
　イベント実施時の施設設置等を行っている。

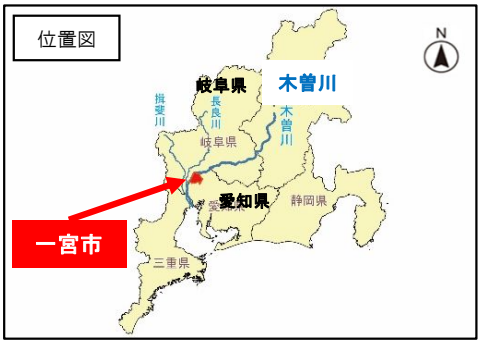
【H21年度】

「一宮北部地区かわまちづくり」（愛知県一宮市）

登録年月日：H21.5.22
事業年度：H20～H25

対象河川 ： 一級河川 木曽川水系木曽川 【国管理河川】
市町村名 ： 愛知県一宮市
推進主体 ： 一宮市

位置図



1. 概要

一宮市では、「第6次一宮市総合計画」等に基づく木曽川河川敷公園整備事業として位置付けられており、市内の拠点となる公園と木曽川河川敷を活用した遊歩道・自転車道を結ぶことにより木曽川に縦断的なネットワークを形成しています。

水環境や緑などの自然を活かしたうるおいのあるレクリエーション空間や、豊富に残されている史跡・旧跡を活かし歴史的文化の交流の場の構築をすることにより、木曽川を散策する人々に快適な空間を提供し、既存の公園や歴史資産等を拠点として地域の活性化を図るものです。

2. ハード施策の内容

国土交通省 ： 親水護岸、緩傾斜堤防 等
一宮市 ： 散策路 等

3. ソフト施策の内容

一宮市 ： 情報発信、案内板設置 等
民間企業等 ： 定期イベント、河川清掃 等

かわまちづくり対象地域



ハード整備（写真）



ソフト整備（写真）


リバーサイドフェスティバル


タワーパークマラソン


木曽川周遊ファミリーサイクリング

一宮北部地区かわまちづくり【完】

木曽川水系木曽川（愛知県一宮市）【直】

事業実施の効果

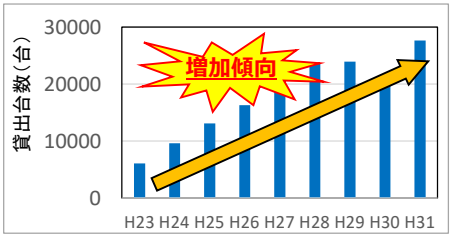


整備前
（人が利用できない高水敷）



整備後
（人が集まり、賑わいのある空間を形成）

レンタサイクル貸出台数



事業実施の効果

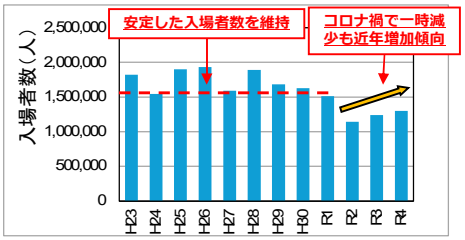


人の交流が途絶えていた河川敷
（遠くに見えるツインアーチ138）



いちのみやリバーサイドフェスティバル
高水敷利用状況

138タワーパーク入場者数



事業実施の効果

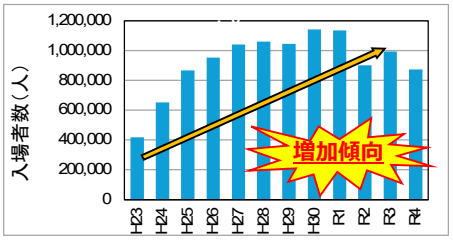


近隣市町との交流が途絶えていた河川敷
（お隣りの江南市付近に架かる河田橋）



自転車道を利用し近隣市町まで
足を運べるようになりました。

フラワーパーク江南入場者



一宮北部地区かわまちづくり【完】

木曽川水系木曽川（愛知県一宮市）【直】

ソフト施策









＜水辺空間の利活用状況＞
○かわまち計画範囲内の占用許可状況
・サイクリングロード、歩道、ポケットパーク（一宮市占用）

＜参画機関＞

○官民一体となり木曽川沿川の公園利用者促進と運営を目的に組織されている。
・国営木曽三川公園三派川地区センターイベント実行委員会
・いちのみやリバーサイドフェスティバル運営協議会
・国営木曽三川公園（上流域）管理運営協議会

＜かわまちの運営（維持管理）＞

○施設整備後の維持管理状況
・指定管理委託と合わせ、10月中旬に開催される市と地域が一体となって取り組む一斉清掃の際に、施設の点検を行う。

【H21年度】まちとまち、まちと人をつなぐ水辺の賑わい軸づくり

「清須地区かわまちづくり」（愛知県清須市　他）

登録年月日：H21.5.22
事業年度：H24～H25

対象河川　：　一級河川　庄内川水系庄内川　【国管理河川】
市町村名　：　愛知県清須市、あま市、海部郡大治町
推進主体　：　清須・あま・大治かわまちづくり協議会



1. 概要

清須市・あま市・大治町の2市1町は、ともに庄内川の水辺空間を生かした都市づくりを目指しており、名古屋市管理庄内緑地公園（遊水地）～みずとぴぁ庄内・リバーランド～大治町河川敷公園までの回遊性を確保するため、6.7kmにわたる散策路を整備しました。

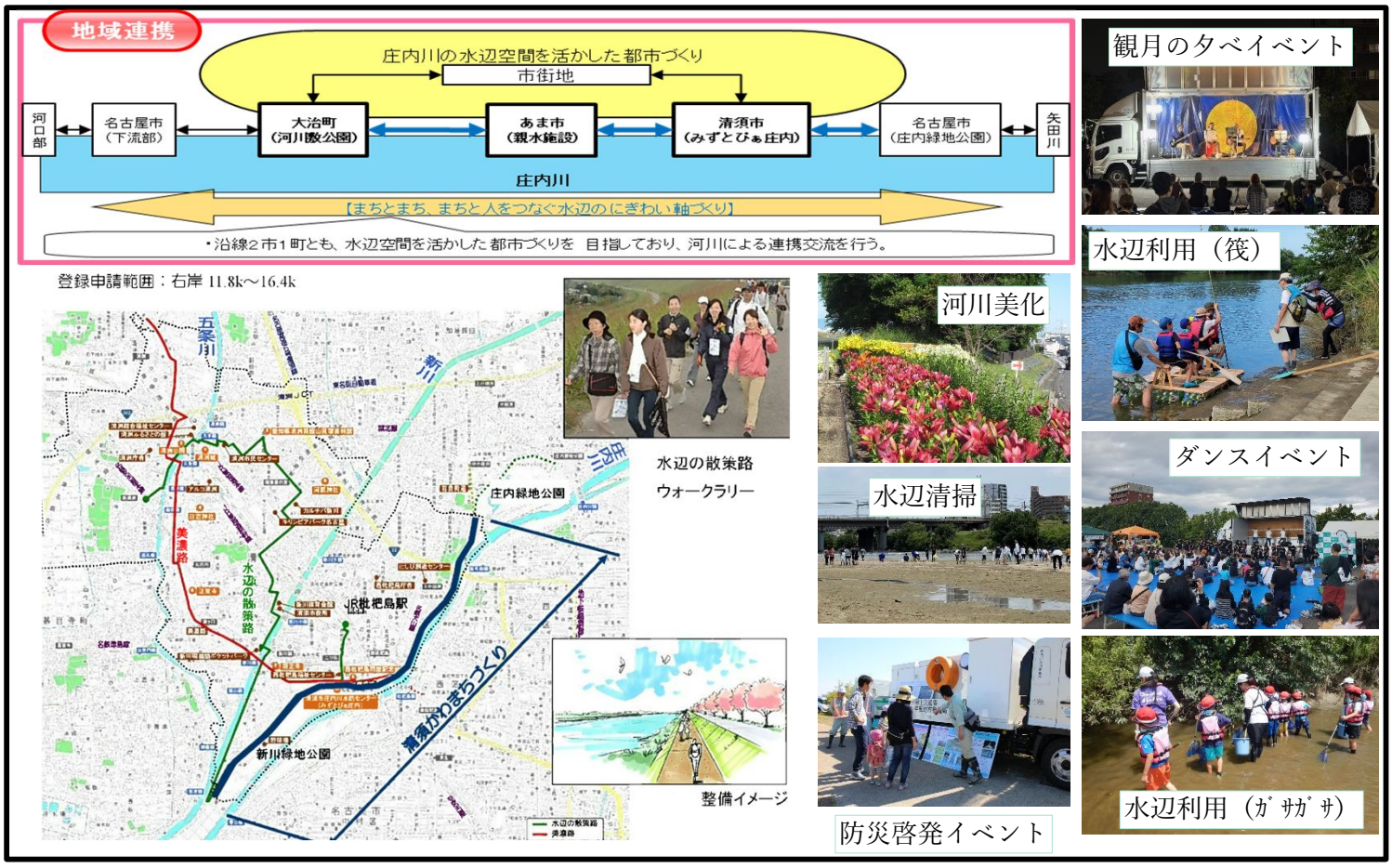
この散策路を利用して、2市1町合同でのウォーキング大会が実施されたほか、散策路に接する複数の緑地公園やワンド、親水階段などを利用した各種の河川・水に触れ合うイベントが毎年のように開催されています。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　水辺の散策路（基盤整備）、親水護岸　等　　清須市ほか　：　案内看板、緑地公園等整備

3. ソフト施策の内容

水辺の利活用（散策路、ワンド、親水階段、各地区の緑地公園）、みずとぴぁ庄内前朝市による地域活性化、観月の夕べイベント、尾張西枇杷島まつり（花火）開催による賑わいの創出



清須地区かわまちづくり【完】

庄内川水系庄内川（愛知県清須市・あま市・大治町）【直】

事業実施の効果


高水敷整正前



憩いの水辺空間として公園整備

市町職員の声

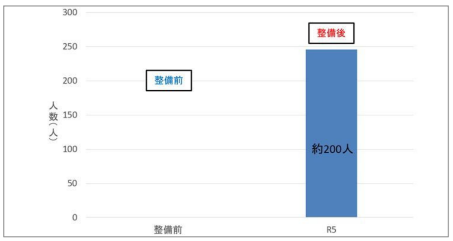
平成12年の東海豪雨水害を契機に堤防の強化や水防センター（防災拠点）の整備が進められてきました。今後は、この場所が安全で憩いの水辺空間としてもっと利活用頂けるよう、３市町協働でさまざまなイベントを展開していきたいと考えています。

事業実施の効果


整備された散策路


散策路ウォーキング大会

指標名　ウォーキング大会参加者



事業実施の効果


整備された河川敷（みずとぴぁ庄内付近）



西枇杷島まつりの花火

指標名　西枇杷島まつり来場者



※R2,3は中止、R4,は規模を縮小して開催

清須地区かわまちづくり【完】

庄内川水系庄内川（愛知県清須市・あま市・大治町）【直】

ソフト施策


地元小学生による環境学習


大治町河川敷公園ウォーキング


西枇杷島まつり花火大会


みずとぴぁ庄内朝市

<水辺空間の利活用状況>

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・水防センター（みずとぴぁ庄内）、緑地、散策路（清須市占用）
・花火大会での利用

<参画機関>

・清須・あま・大治かわまちづくり協議会※を設置し、
　ソフト施策を実施。

※アダプト活動にも参加

<かわまちの運営（維持管理）>

施設整備後の維持管理状況
　護岸、階段：国
　芝生、樹木、日常的な施設管理、清掃等：地元市民団体等

【H21年度】伊勢の文化と歴史と人をつなぐかわまちづくり

「伊勢地区かわまちづくり」（三重県伊勢市）

登録年月日：H21.5.22
事業年度：H21～H24

対象河川　：　一級河川　宮川水系宮川・勢田川　【国管理河川】
市町村名　：　三重県伊勢市
推進主体　：　伊勢市



1. 概要

伊勢市では、都市マスタープラン等の計画において日本有数の清流である宮川と伊勢参りで繁栄した勢田川を含む宮川水系を環境及び歴史文化の軸として、観光の重要な資源と位置付け、まちの開発を合わせ整備を進めました。

この取組を充実させるため、本計画では、フットパスの整備や高水敷を利用したパーク＆バスライドを実施し、伊勢市の歴史ある街並みの散策や既存の観光スポットの有効活用を図りました。

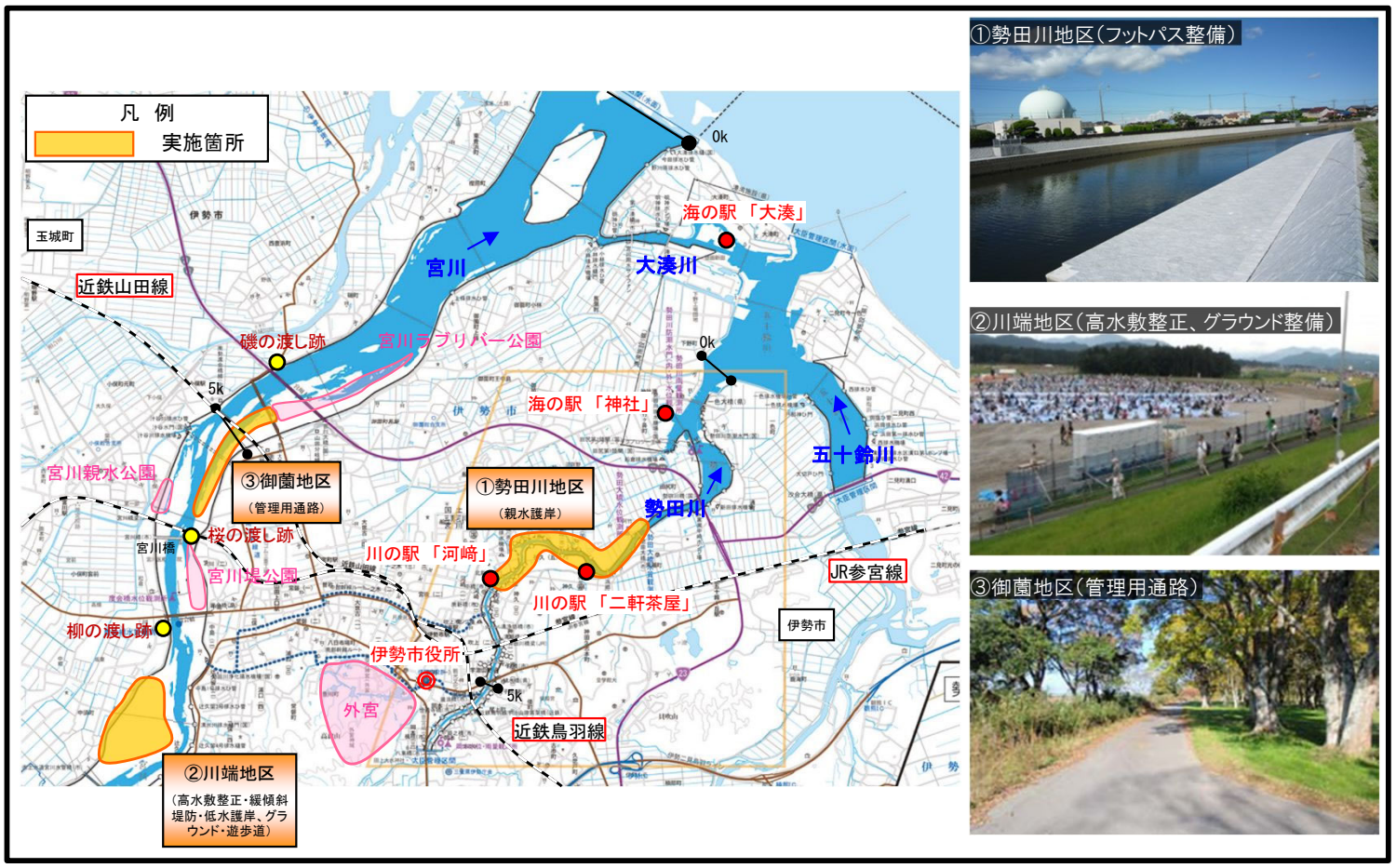
国土交通省では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備を実施しました。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　河川管理用通路、緩傾斜堤防、高水敷整正　等　　伊勢市　：　散策路整備　等

3. ソフト施策の内容

伊勢市　：　案内版設置、市民参加型イベントの開催　等



伊勢地区かわまちづくり【完】

宮川水系宮川、勢田川（三重県伊勢市）【直】

事業実施の効果

［御薗地区］





指標名　地域住民の声

・運動に歩いています。大変歩きやすく、景色も楽しめて喜んでおります。（60代男性・伊勢市在住）

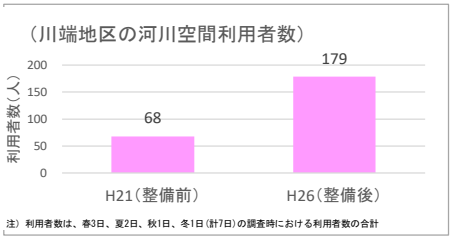
事業実施の効果

［川端地区］





指標名　河川空間利用者



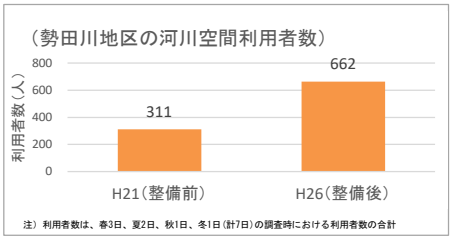
事業実施の効果

［勢田川地区］





指標名　河川空間利用者



伊勢地区かわまちづくり【完】

宮川水系宮川、勢田川（三重県伊勢市）【直】

ソフト施策









＜参画機関＞

○伊勢市

＜勢田川地区＞

・勢田川七夕大掃除
・河崎天王祭
（水中金魚花火、手筒花火）
・キャンドルナイト伊勢

＜川端地区＞

・神宮奉納全国花火大会

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・伊勢市による公園占用。

＜かわまちの運営（維持管理）＞

・宮川ルネッサンス協議会では、宮川を活用した様々なイベントを行っている。
・勢田川では、地域の団体等による清掃活動が行われている。

【H22年度】三つの拠点による賑わい創出、かわとまちの回遊性向上

「美濃加茂地区かわまち」（岐阜県美濃加茂市）

登録年月日：H.22.9.24
事業年度：H22～H29

対象河川　：　一級河川　木曽川水系木曽川　【国管理河川】
市町村名　：　岐阜県美濃加茂市
推進主体　：　美濃加茂市



1. 概要

河川管理に必要な低水護岸、高水敷整正等の整備にあわせ、「美濃加茂市都市計画マスタープラン」「美濃加茂市第5次総合計画」等に基づき、美濃加茂市により進められている都市拠点としての美濃太田駅前から交流拠点として旧中山道太田宿地区と親水拠点地区（木曽川河岸）の整備を行い、地域資源を活かしたまちづくりを進めていく。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　高水敷整正、親水護岸整備

美濃加茂市　：散策路整備、公園整備　等

3. ソフト施策の内容

美濃加茂市　：　情報発信　等

民間：定期イベント、河川清掃　等



美濃加茂地区かわまちづくり【完】

木曽川水系木曽川（岐阜県美濃加茂市）【直】

事業実施の効果



整備イメージ（遊歩道、階段護岸）



社会実験「川のアクティビティー体験」

事業実施の効果



整備前の状況





SWEETS WALK
（中山道会館～中之島公園）

事業実施の効果



整備イメージ（高水敷広場）



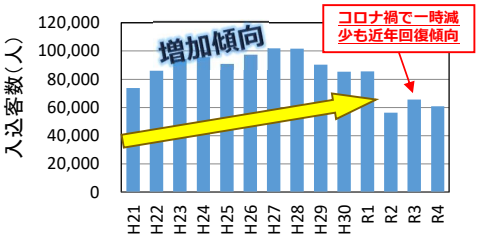
グリーンマーケット（朝市）

中之島公園利用者数



※R2～R4は、岐阜県観光入込客数統計調査での
「RIVER PORT PARK 美濃加茂」の入込客数の数値を使用

太田宿中山道会館の入込客数



美濃加茂地区かわまちづくり【完】

木曽川水系木曽川（岐阜県美濃加茂市）【直】

＜ソフト施策内容＞









＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・なし

＜参画機関＞

・かわまちづくり協議会の開催
　参加機関：学識者、商工会議所、漁協、NPO団体、一般公募、
　　美濃加茂市　等
・市民協議会や、イベント実施団体、アウトドア事業実施団体の
　意見を、公園整備に反映している。

＜かわまちの運営（維持管理）＞

・地域の団体が主催となった清掃活動の実施（美濃加茂ライオンズクラブ・ボーイスカウト）
・市民団体の主催によるイベント開催（ハピネットみのかも、美濃加茂ロータリークラブ等）
・参加者だけでなくボランティアも楽しむ工夫により活動人口の増加を実施。

【H25年度】

「北方町かわまちづくり」（岐阜県本巣郡北方町）

登録年月日：H25.11.12
事業年度：H25～H26

対象河川　：　一級河川　木曽川水系糸貫川　【県管理河川】

市町村名　：　岐阜県本巣郡北方町

推進主体　：　北方町

位置図



1. 概要

北方町は、平成22年度から、宅地の利用促進を図り、良好な市街地整備を進めるため、土地区画整理事業を立ち上げ、その中で創出した用地と糸貫川の高水敷を利用した「清流平和公園」を整備しました。

公園に隣接する糸貫川において、親水性の高い護岸を整備することで、高水敷は河川内広場として川に親しむ水辺空間を形成し、また、公園中央には糸貫川へつながるせせらぎ水路を整備したことにより、公園から川までの地形の連続性を意識した一体的な空間を創出しました。

整備後は、公園一帯を利用したイベントを開催しており、多くの方々が集い新たな賑わいの場として利用され、今後も行政だけでなく民間主導のイベントが開催できるよう管理し、魅力をPRします。

河川管理者（岐阜県）は、今後、河川空間において営利活動を実施する場合には、河川占用敷地許可準則22条に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

岐阜県　：　親水護岸・木工沈床・散策路　等
北方町　：　公園整備、せせらぎ水路・小水力発電・平和の鐘等

3. ソフト施策の内容

北方町及び民間事業者　：　公園一帯を利用したイベントの開催等
岐阜県及び北方町　　：　糸貫川での河川を利用した総合学習



北方町かわまちづくり【完】

木曽川水系糸貫川（岐阜県北方町）【補】

事業実施の効果


公園整備前の様子


公園整備後の様子

公園整備による周遊性向上

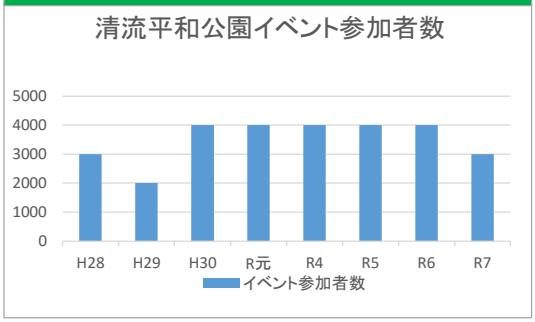
効果（地域住民や観光客等の声）

（利用者の声）
- 芝生を駆け下りたら、いつの間にか川に入っていました。川がとても身近に感じることができます。（１０代男児）
- いろいろな種類の樹木が植えてあって、とても気持ちいい。（５０代男性）



KITAGATA清流フェスの様子

水辺空間の利活用による賑わいの創出



※令和2.3年度は新型コロナウイルス感染症によりイベント開催中止

北方町かわまちづくり【完】

木曽川水系糸貫川（岐阜県北方町）【補】

ソフト施策


清流のかわまちづくり活動開始式


町内小中学校　河川学習




岐阜農林高校　環境学習会

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

【きたがた環境フェア】

流域団体、企業による飲食屋台、イベント展示コーナーの出展

第1回　平成27年9月5日　23ブース
第2回　平成28年9月3日　28ブース

【ＫＩＴＡＧＡＴＡ清流フェス】

野外音楽ステージ設置やケータリングカー、飲食屋台ブース出展

第1回　平成28年9月4日　11ブース　3,000名
第2回　平成29年9月9日　16ブース　2,000名
第3回　平成30年9月9日　15ブース　4,000名
第4回　令和元年9月1日　15ブース　4,000名
第5回　令和4年8月28日　17ブース　4,000名
第6回　令和5年8月27日　21ブース　4,000名
第7回　令和6年8月25日　22ブース　4,000名
第8回　令和7年8月24日　23ブース　3,000名

※令和2.3年度は新型コロナウイルス感染症によりイベント開催中止

＜参画機関＞

【清流平和公園整備前】
- 河川公園計画づくりワークショップ（Ｈ25年度に4回開催）
  →地元自治会長、ＰＴＡ会長、教育委員会、河川管理者等
- 糸貫川水対策検討会（Ｈ２６年度以降継続）
  →岐阜県、糸貫川上下流域の市町の行政、団体等
- ゆうすいの会（Ｈ26年度以降継続）
  →地元住民、団体、企業等

【清流平和公園整備後】
- ＫＩＴＡＧＡＴＡ清流フェス実行委員会（Ｈ28年度以降継続）

＜かわまちの運営（維持管理）＞

施設整備後の維持管理状況

◎岐阜県→護岸の保守や除草（低水路内）

◎北方町→公園施設、高水敷の芝、樹木の維持管理

◎ゆうすいの会→ごみ拾い（低水路含む）、高水敷の除草、せせらぎ水路、トイレの清掃、河川巡視活動


ゆうすいの会の清掃活動

【平成26年度】乙川エリアの将来像：自然と都市が交わる暮らし。

「乙川リバーフロント地区かわまちづくり」（愛知県岡崎市）

登録年月日：H27.3.30
事業年度：
愛知県：H27～R1
岡崎市：H27～R2年

対象河川　：　1級河川　矢作川水系乙川　【県管理河川】
市町村名　：　愛知県岡崎市
推進主体　：　岡崎市

1. 概要

乙川リバーフロント地区は、名古屋鉄道本線の東岡崎駅に近く、岡崎市の中心市街地を流れる矢作川水系乙川である。この地区では乙川、岡崎公園及び都市空間の景観整備や観光拠点としての可能性を引き出すこと、水辺空間の活用、交通インフラの改善、まちづくり・街のリノベーションの促進が課題となっており、都市空間と水辺空間を一体的に整備し、回遊性を確保し、観光拠点となる賑わいの場を創出するように整備を行う。

2. 整備内容

（仮称）岡崎セントラルアベニューの整備、乙川河川堤防道路整備、乙川河川敷の整備、橋のライトアップ（殿橋・明代橋）、徳川四天王像設置、名鉄東岡崎駅周辺整備、「泰平の祈り」プロジェクトの実施、乙川水面の利活用等を行う。







乙川リバーフロント地区かわまちづくり【完】

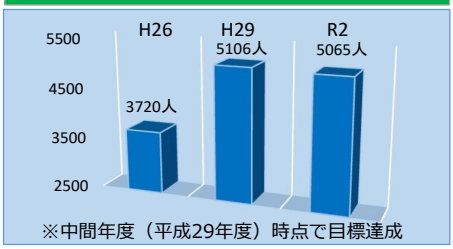
矢作川水系乙川（愛知県岡崎市）【補】

事業実施の効果





週末（12ｈ）における橋の歩行者・自転車数



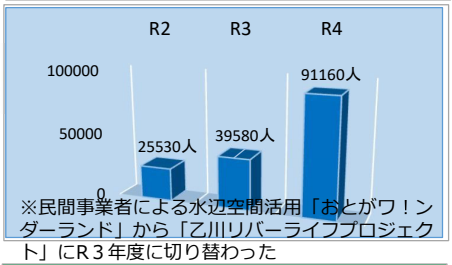
※中間年度（平成29年度）時点で目標達成

事業実施の効果





定期イベント来場者数



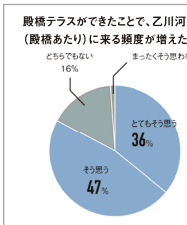
※民間事業者による水辺空間活用「おとがワ！ンダーランド」から「乙川リバーライフプロジェクト」にR３年度に切り替わった

事業実施の効果





殿橋テラス利用者の声



・殿橋テラスが岡崎の華です。（20代女性）
・もう無くては困る存在です。約束もなくふらっと立ち寄り交流が生まれるこの場所の可能性は大きい！（30代女性）

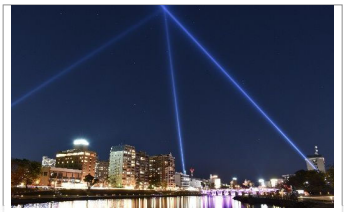
乙川リバーフロント地区かわまちづくり【完】

矢作川水系乙川（愛知県岡崎市）【補】

ソフト施策



オープンカフェ社会実験
→平成28年度～令和元年度に実施。
今後、殿橋テラス常設化を目指す。



「泰平の祈りプロジェクト」
→平成27年度から令和４年度まで
計８回実施。

観光船社会実験事業
→平成27~28年度に社会実験実施。
平成29年３月より民間事業化。

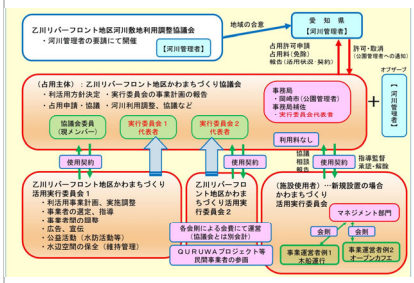


水上アクティビティ社会実験事業
→平成27~29年度社会実験を実施。
平成30年度より民間事業化。



＜水辺空間の利活用状況＞
○かわまち計画範囲内の占用許可状況
・河川敷地占用許可準則22条による、都市・地域再生等利用区域の指定がされている。（平成27年11月26日）
・乙川リバーフロント地区かわまちづくり協議会が占用主体として占用許可を取得。
・各占用許可について準則25条の使用契約を活用実行委員会と締結し、民間主体による河川空間の活用を実現。
＞乙川リバーライフプロジェクト　30プログラム　実施

＜参画機関＞　かわまちづくりスキーム図



平成27年10月1日「乙川リバーフロント地区かわまちづくり協議会」を設置。現在まで、合計27回開催。

平成28年9月3日ミズベリング乙川会議を開催。



＜かわまちの運営（維持管理）＞

施設整備後の維持管理状況

【公共】
施設の修繕については、公園管理者である岡崎市が対応

【民間】
乙川リバーライフプロジェクトの活動の一つ「リバークリーン」やマネジメント主体が得た管理費による草刈の実施により
河川空間の市の維持管理費の低減に民間が貢献している。

【H27年度】*富士山を望む絶好の立地！道の駅と融合したかわまちづくり！*

「函南町塚本地区かわまちづくり」（静岡県函南町）

登録年月日：H28.3.28
事業年度：H28～H30

対象河川　：　一級河川　狩野川水系狩野川　【国管理河川】
市町村名　：　静岡県函南町
推進主体　：　函南町

位置図



1. 概要

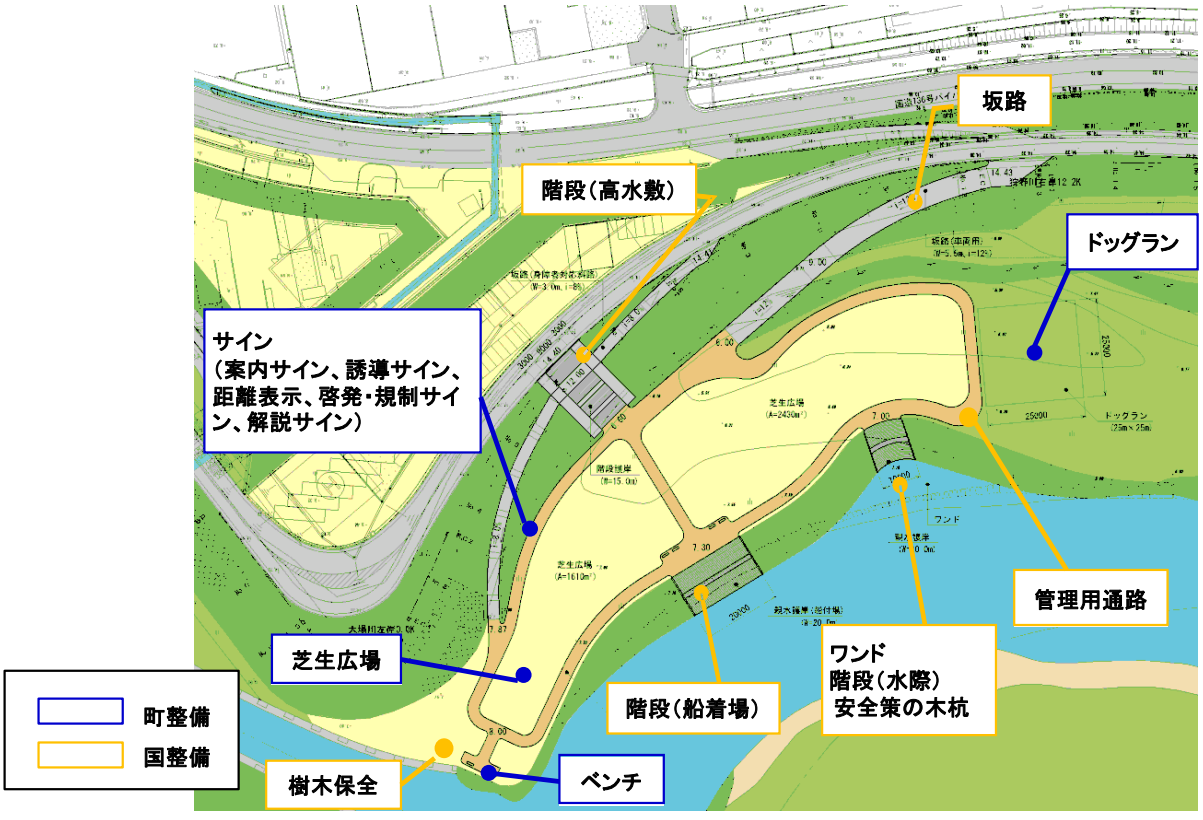
函南町塚本地区かわまちづくりは、「道の駅・川の駅」と連続した水辺空間整備を行うものです。「道の駅・川の駅」の総利用者数は、年間で約69万人と想定しており、芝生広場や水辺へアプローチする階段等の整備実施後は、アウトドアスポーツの体験拠点、観光客の休憩施設、地域住民の散策やジョギング等の憩いの場としての活用が考えられます。伊豆半島の玄関口となる函南町に「観光・交流」「にぎわい」「憩いの場」を創出できる水辺空間を整備し、地域を含めた流域の活性化への貢献を目指します。 国土交通省では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備のほか、河川敷地占用許可準則第22に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施しています。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　高水敷整正、樹木伐採　等　　函南町　：　案内看板　等

3. ソフト施策の内容

国土交通省　：　都市・地域再生等利用区域の指定　等　　函南町　：　パンフレット作成　等



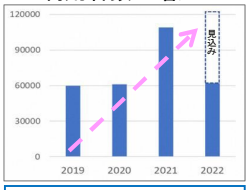
事業実施の効果





整備箇所の利用者数の変化

利用者数が増加



年間入場者数

地域（河川）





カヌー・ＳＵＰ体験

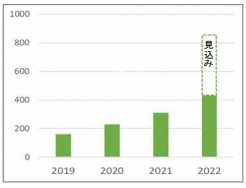


地域（周辺）

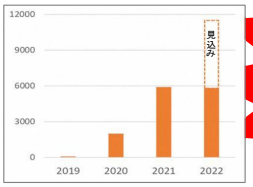


川の駅のイベント数と参加人数

出店者数



おもしろ自転車来場者数



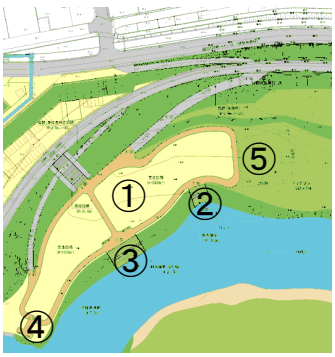
出典：函南町2022年　9月現在
※破線は、見込み数量



函南町塚本地区かわまちづくり【完】　　狩野川水系狩野川（静岡県函南町）【直】

ソフト施策

時期	利活用内容
春	④植物観察などの自然体験
	②稚鮎等の放流イベント
	①きれいな狩野川プロジェクト（清掃活動等）
	⑤お散歩マナー教室とドッグラン体験
夏	①かんなみ猫おどり
	①水防訓練
	③カヌーや川遊びなどの自然体験
	②子どもつかみどりイベント
秋	狩野川マラソン（仮称）
	①軽トラ市等の食のイベント（仮称）
	④植物観察などの自然体験
	⑤お散歩マナー教室とドッグラン体験
冬	④バードウォッチングなど自然体験プログラム実施
	①イルミネーションやコンサート等のイベント
通年	①、④自然体験、遠足、学習
	①オープンカフェ
	①気球、コンサート、マルシェ、アート展示、軽トラ市、ミズベカフェ、マルシェ、ラン&ウォーク大会などのイベント
	②狩野川わくわくクラブの自然体験



①：高水敷
②：ワンド
③：親水護岸（船着き場）
④：休憩施設（自然を残す箇所）
⑤：ドッグラン

＜参画機関＞

- 函南町
- 狩野川漁業協同組合
- 函南町観光協会
- 田方農業高校造景部
- 地域活動団体
- 動物愛護団体
- NPO
- 小学校
- 民間事業者　など

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

河川法第24条、第26条第1項の許可について

- 堤防道路（町道塚本84号線）
- 函南「道の駅・川の駅」PFI事業展望歩道橋
- 函南「川の駅」駐車場、観光案内用看板、水辺広場、水防多目的センター等

※ 函南「道の駅」は河川区域外の為、占用許可不要

＜かわまちの運営（維持管理）＞

施設の占用及び維持管理については、函南町が主体的に行います。出水等の災害に対する施設被害に関しては、国土交通省が支援し、函南町が主体的に行います。

イベント時の使用に対するゴミ拾いなどの維持管理はイベント主催者で行うなど、道の駅運営者やNPO法人、地域住民等も協働で維持管理について取り組むことを検討していきます。

【H27年度】水が息づく心地よいまち　水都大垣

「大垣市かわまちづくり」（岐阜県大垣市）

登録年月日：H28.3.28
事業年度：H28～R3

対象河川　：　1級河川　木曽川水系水門川　【県管理河川】

市町村名　：　岐阜県大垣市

推進主体　：　大垣市



1. 概要

大垣市の中心市街地を流れる水門川では親水空間の整備を進めてきた。本計画により、大垣市役所の庁舎が隣接する区間を整備し、水門川沿いの景観や回遊性、他の観光名所との連続性を確保する。

新庁舎建設に併せて、水門川の親水護岸や隣接する丸の内公園を一体的に再整備することで、市の中心地であり、シンボルでもある庁舎の利点を活かした観光拠点を新たに整備し、中心市街地の回遊性の向上、イベント等の開催により、にぎわいの創出を図る。

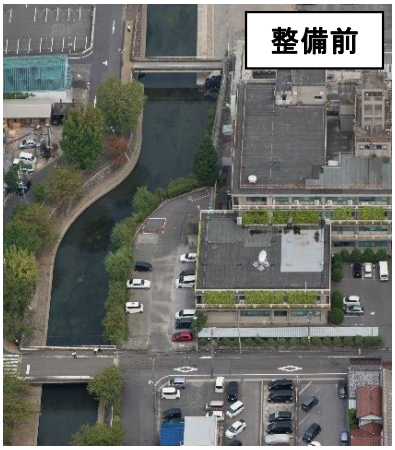
2. ハード施策の内容

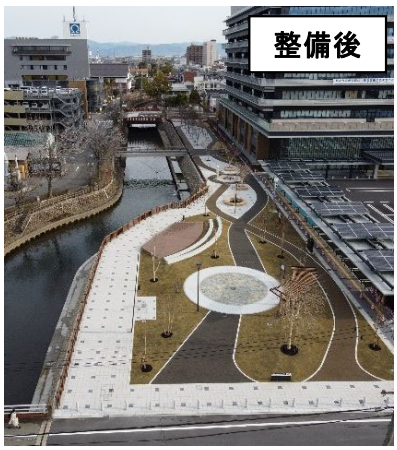
県　：　親水護岸整備　　大垣市　：　新庁舎及び丸の内公園整備

3. ソフト施策の内容

・まちなかテラス事業：水門川周辺の公共空間の利活用、にぎわいづくり。
　（例）まるのうちテラス、かわまちテラス
・水門川を活用したウォーターアクティビティ
　（例）舟下り、たらい舟、SUP体験会







【活用事例】

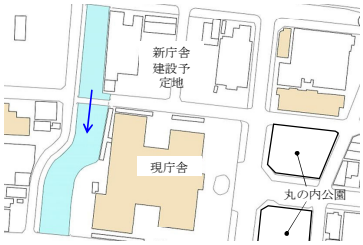




大垣市かわまちづくり【完】

木曽川水系水門川（岐阜県大垣市）【補】

事業実施の効果



川沿いに建物があり、イベント開催や休憩スペースがない



イベント開催や休憩のためのスペースを確保

指標名　イベント開催状況

・水門川の水辺に親水テラスを設置する親水広場を新庁舎駐車場と一体的に整備し臨時カフェテリアやイベントなどが開催できるスペースを確保することにより、新たな市民等の憩いの場や観光客の休憩スペースを提供する。
・イベント開催数と集客数の推移

事業実施の効果



左岸には遊歩道や高水敷がなく、回遊性がない

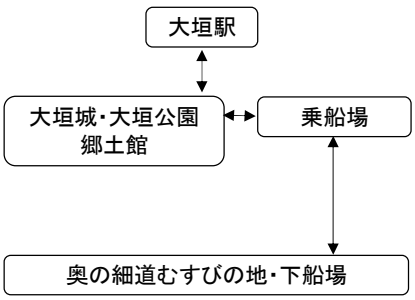


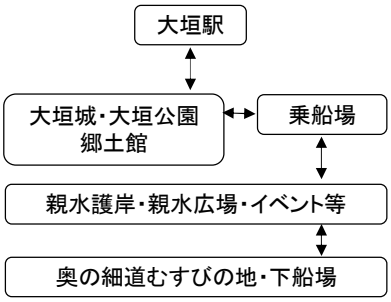
親水護岸の整備により憩いの場を創出（写真はイメージ）

指標名　歩行者・自転車通行

・大垣城や郷土館、水門川の桜並木、国名勝などを巡る“(仮称)水と緑の遊歩道”を設けることで、奥の細道むすびの地までの連続性を確保し、来垣される方々の回遊性を高め、新たな観光拠点として有効利用していく。
・沿線の休日歩行者・自転車通行量の推移

事業実施の効果





水門川の修景及び回遊性の向上

指標名　歩行者・自転車通行

・遊歩道”を設けることで、大垣城や郷土館、水門川の桜並木、奥の細道むすびの地までの連続性を確保し、来垣される方々の回遊性を高め、新たな観光拠点として有効利用していく。
・休日歩行者・自転車通行量の推移を確認する予定。

大垣市かわまちづくり【完】

木曽川水系水門川（岐阜県大垣市）【補】

<ソフト施策>



水都大垣の学び（井戸ぶね、自噴水井戸など）



他の観光拠点とのネットワーク化



臨時カフェテラス



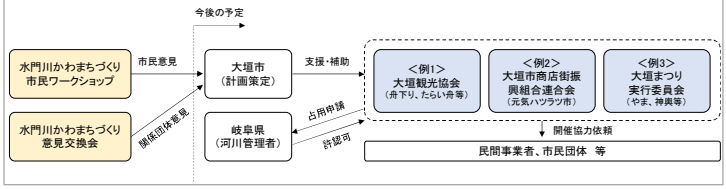
舟下りの休憩所

<参画機関>

・まちづくり市民活動支援センターなどと連携し、「水門川かわまちづくり市民ワークショップ」を開催。
　<第1回>　　平成27年6月20日
　<第2回>　　平成27年7月4日
　<第3回>　　平成27年7月11日

・「水門川かわまちづくり意見交換会」を開催。
　<第1回>　　平成27年9月8日

・市民をはじめ、学識経験者、観光関係者など多くの方の意見を集約した。



<水辺空間の利活用状況>
○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・かわまちテラス
　水門川の水辺において、臨時カフェテリアや高校生の美術作品展示、子どもたち向けた絵本読み聞かせを実施。

・既存のイベントとの連携
　既存の観光事業を踏襲し、新たな試みとしてのまちづくり事業や官民連携による市民活動事業など、既存事業に紐づく団体や関係機関の枠組みを超え、「かわまちテラス」として一体的に実施。

<かわまちの運営（維持管理）>

・施設の維持管理は各施設管理者が行う。
　親水護岸：岐阜県
　公園・駐車場：大垣市

・日常的な施設管理及び清掃活動等は、市民団体等と連携し、大垣市が中心となって実施する。

「大井川宝来地区かわまちづくり」（静岡県島田市）

登録年月日：H29.3.7
事業年度：H29～R3

対象河川 ： 一級河川 大井川水系大井川 【国管理河川】
市町村名 ： 静岡県島田市
推進主体 ： 島田市



1. 概要

島田市では、地域の景観、歴史、文化及び観光基盤などの資源等を活かしたまちづくりと一体なった賑わいのある水辺空間の創出に取り組んでいます。

この取組を充実させるため、本計画では、蓬莱橋を核とした水辺の整備を実施し、右岸にて整備中である大井川蓬莱橋右岸かわまちとあわせて、地域の魅力の向上、観光振興の促進などを図ります。

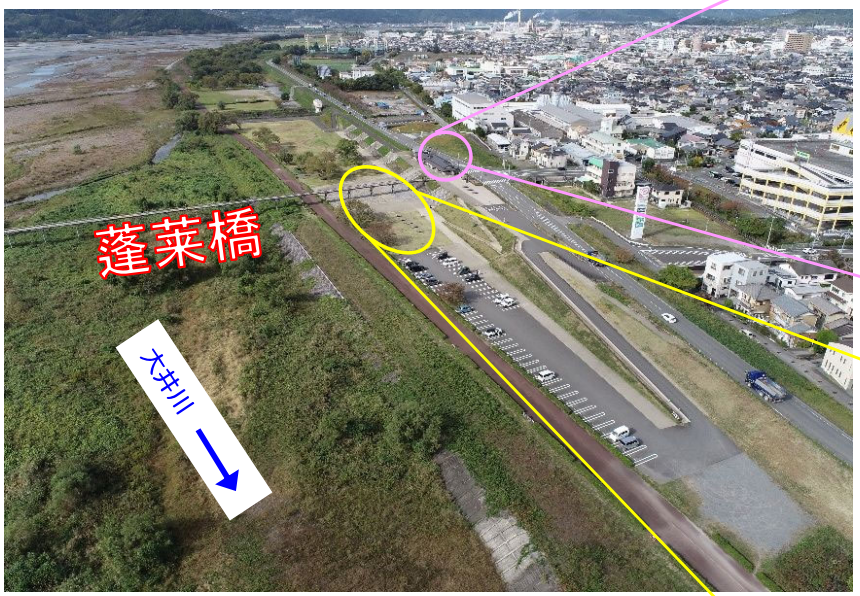
国土交通省では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備のほか、河川空間において営利活動を実施するため、河川敷地占用許可準則第22に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施しています。

2. ハード施策の内容

国土交通省 ： 階段、坂路 等　　島田市 ： 番小屋・物販施設・トイレ、駐車場、案内看板 等

3. ソフト施策の内容

国土交通省 ： 都市・地域再生等利用区域の指定 等　　島田市 ： 広場等利用促進 チラシ作成 等



全 景



番小屋・物販施設



オープンスペース

「水辺」と「歴史」が融合した賑わいある水辺空間整備

・大井川宝来地区かわまちづくりは、歴史ある蓬莱橋を中心としたまちづくりと一体となった水辺整備により賑わいある水辺空間を創出します。
・観光地として人気がある蓬莱橋と融合することで相乗効果により更に多くの利用者が見込まれ、観光客と地域住民の憩いや交流が図られるとともに歴史・文化の継承や地域活性化に繋がることが考えられます。

事業実施の効果



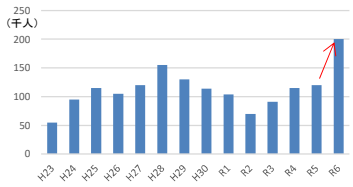


観光地である蓬莱橋を拠点に「交流」「にぎわい」を創出する。
・蓬莱橋は年間15万人以上が訪れる観光スポットとなっており、蓬莱橋周辺の拠点整備を行うことで、更なる観光誘客と地域の活性化を図っていく。

事業実施の効果







蓬莱橋渡橋者数の推移予想

大井川宝来地区かわまちづくり【完】　大井川水系大井川（静岡県島田市）【直】

ソフト施策


物販施設


休憩施設


ぼんぼり祭り


しまだ大井川マラソン

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・蓬莱橋周辺の天端、高水敷、堤内地に、観光トイレ、番小屋、天端未舗装駐車場、番小屋、花壇、一般車駐車場、バス駐車場を占用している。

＜参画機関＞

○「島田市大井川ミズベリング協議会」によるソフト施策の展開
平成28年5月23日に大井川をフィールドとして活動する様々な市民団体が集まり、「島田市大井川ミズベリング協議会」が結成され、蓬莱橋周辺地区を中心とした水辺空間を活かした地域活性化に向け協議を行っている。
（協議会）
平成28年　5月23日、9月20日、10月18日、12月26日
平成29年　1月23日、3月1日、9月19日、12月25日
平成30年　1月22日、3月2日、10月1日
平成31年　2月21日、4月25日、11月14日

○今後の展望

・大井川左岸の蓬莱橋周辺整備に向け詳細な検討を実施するとともに、今後の右岸側や周辺施設との連携に向けた取り組みや、活性化イベントの実施についても検討していく。

＜かわまちの運営（維持管理）＞

施設整備後の維持管理状況

施設の占用及び維持管理については、島田市が主体的に行っていく。
出水等の災害に対する施設被害に関しては、国土交通省が支援し、島田市が主体的に行います。
イベント時の使用に対するゴミ拾い等の維持管理は、イベント主催者で行ったり、蓬莱橋周辺整備促進協議会や花の会、地元も協働で維持実施していきます。
なお、番小屋及び物販施設が平成30年3月20日にオープンするが、事業全体が完成する令和３年度までは島田市が維持管理します。その後は指定管理者制度を活用し運営者が維持管理を実施していきます。

【H28年度】賑わいと潤いに満ちた「かわのほとりの散歩道」

「可児市かわまちづくり」（岐阜県可児市）

登録年月日：H.29.3.7
事業年度：H29～R3

対象河川　：　一級河川　木曽川水系木曽川　【国管理河川】
市町村名　：　岐阜県可児市
推進主体　：　可児市



1. 概要

可児市では、河川管理に必要な通路や階段等の整備にあわせ、「可児市第4次総合計画」や「可児市総合戦略」等に基づく市民に親しまれる都市空間（親水・水辺空間）を目指し、遊歩道や多目的広場の整備を進めるとともに、木曽川が持つ魅力・地域資源を磨き上げ、活用し、賑わいと潤いに満ちたかわまちづくりを進めていきます。

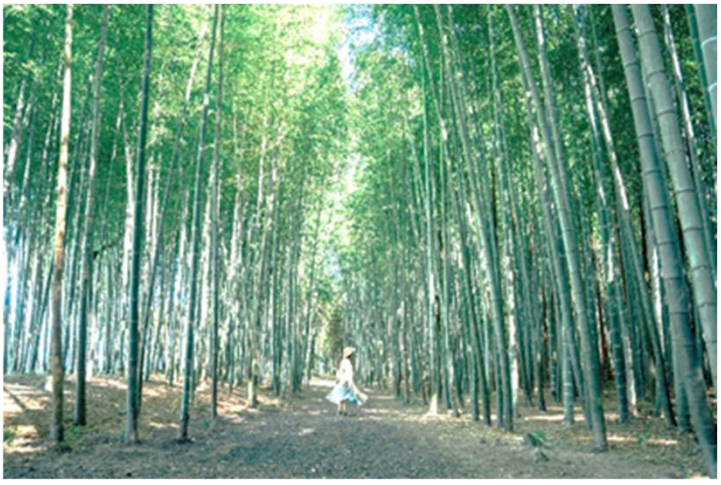
2. ハード施策の内容

国土交通省　：　緩傾斜堤防、河川管理用通路　、可児市　：　遊歩道の整備、休憩所の整備　等

3. ソフト施策の内容

可児市　：　情報発信、案内板設置　等　　民間：定期イベント、河川清掃等





可児市かわまちづくり【完】

木曽川水系木曽川（岐阜県可児市）【直】

事業実施の効果





親水空間、階段等の整備（国）

事業実施の効果



下流へ続く未舗装の堤防



休憩所の整備（市）・管理用道路整備（国）

事業実施の効果





地元団体による渡し場跡の整備

木曽川左岸エリアの環境に対する満足度

休憩所や親水護岸整備等の環境整備により、安全・快適性が高く評価され、木曽川左岸エリアの環境に対する満足度が向上した。
地区内を対象とした市民アンケート調査により、当エリアのかわまちづくりに関して「安心して利用できる」と答えた人の割合
整備前29.4%（目標値49.1%）
整備後50.6%

木曽川の遊歩道などの利用者数

かに木曽川左岸公園（日特スパークテックWKS（ワークス）パーク）の供用開始(令和4年度)をはじめ、左岸エリアの環境整備により、利用者数が目標値を大幅に上回って増加した。
エリアの拠点施設となる箇所における利用者数の計測
整備前101人（目標値202人）
整備後385人

可児市かわまちづくり【完】

木曽川水系木曽川（岐阜県可児市）【直】

ソフト施策









＜参画機関＞

・かわまちづくり協議会の開催
参加機関：学識者、河川管理者、県土木事務所、商工会議所、NPO団体、漁協、観光協会、自治連合会、市民団体　等

懇談会や市民アンケートの意見を反映し計画策定している。

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況
・なし

＜かわまちの運営（維持管理）＞

・地元ボランティア団体による既存遊歩道の整備・維持管理の継続（木曽川左岸遊歩道友の会）
・市民団体の主催によるイベントの開催

【H29年度】*魅力的な生活空間のあるまちづくり*

「富加町かわまちづくり」（岐阜県加茂郡富加町）

登録年月日：H30.3.26
事業年度：H30～R6

対象河川　：　一級河川　木曽川水系川浦川　【県管理河川】
市町村名　：　岐阜県加茂郡富加町
推進主体　：　加茂郡富加町

位置図



1. 概要

富加町では、町内を東西に流れる川浦川において親水公園の整備を計画し、周辺の歴史的資源との連携を図ることで、町内はもとより広く町外の人々が自然や歴史に触れあうことが出来る空間の創出を目指しています。

河川公園の完成や川浦川沿いの河川管理道路を散策する人々や公園利用者が増えている状況に加え、整備中の左岸道路が今後全線開通されることにより、公園周辺への民間事業者による開発や、町内外からの利用が一層増えることが見込まれることから、これまでの区間に加え、親水空間の利活用を図ります。

河川管理者は、この取組に対し、必要な河川管理施設を整備するほか、河川空間において営利活動を実施する場合には、河川占用敷地許可準則22条に基づく都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

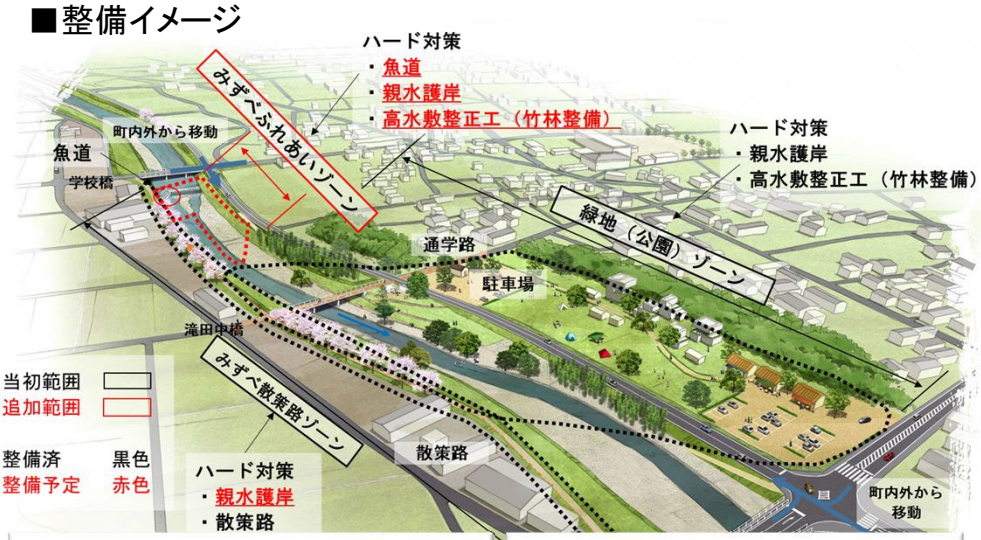
2. ハード施策の内容

岐阜県　：　高水敷整正、親水護岸　等
富加町　：　公園整備、道路整備

3. ソフト施策の内容

富加町　：　富加の魅力を知るためのイベント開催　等

■整備イメージ





親水護岸の利用状況（整備済み）



散策路（河川管理用通路）の整備状況

■利用イメージ

川の魅力発信イベント



カワゲラウォッチング



鮎の放流会

事業実施の効果


河川沿いを活用した散策道の整備

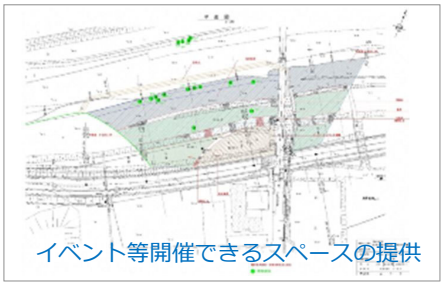

散策道の整備後（イメージ図）

指標名　散策者の推移

効果

・河川公園を核として、河川管理道や既存のウォーキングロード、フットパス、歩道等で連続的につなぎ、川とまちを結ぶ快適な回廊空間となるような散策道を整備していく。
（整備前後で散策者数を比較）

事業実施の効果


イベント等開催できるスペースの提供



イベントの様子（イメージ）

指標名　イベントの開催

効果

・河川公園の広場を利用し、現在行っている「富加町民まつり」のサテライト会場や「駅前夏まつり」「花火大会」などを計画し、イベントスペースを提供する。
（整備前後で開催回数を比較）

事業実施の効果


竹林などで近づきにくく、自然とのふれあいの場にならない


上流部での環境学習の様子

指標名　総合的な学習の機会

効果

・小学校や公民館講座など、総合的な学習の機会が増え、生き物調査など自然とのふれあいの学習の場として利用できます。
（整備前後で開催回数を比較）

富加町かわまちづくり【完】　木曽川水系川浦川（岐阜県富加町）【補】

ソフト施策


小学校の総合的な学習



イベントの計画


花火大会の計画



ウォーキングマップ作成

＜参画機関＞

・かわまちづくり計画の策定は、町民をはじめ知識経験者や町内各種団体の代表者等で構成する「富加町かわまちづくり協議会」にて、学識経験者（河川工学・都市形成）のアドバイスのもと、全６回の会議により「富加町かわまちづくり計画」として、基本構想を策定した。

○今後の展望

・富加町及び富加町商工会等との連携を図る。

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・事業中であり実績なし

○今後の展望

・総合的な学習の場として活用
富加小学校による総合的な学習である、生き物調査など自然とのふれあいにより体験や、公民館講座でも活用。

・既存イベントとの連携
現在行っている「富加町民まつり」や「駅前夏まつり」との連携、「花火大会」など新たなイベントを検討。

＜かわまちの運営（維持管理）＞

施設整備後の維持管理計画（案）は、以下に示すような役割分担により、それぞれの施設を維持管理していく。

・河川公園の除草、清掃などの維持管理
→富加町及び地域住民との連携による。

・河川管理施設等の防災上必要とされる施設の維持管理
→岐阜県による。


ボランティアによる清掃活動

【H29年度】木曽三川の歴史と自然環境を学ぶ拠点空間づくり

「愛西市かわまちづくり」（愛知県愛西市）

登録年月日：H30.3.26
事業年度：R1～R7

対象河川 ： 一級河川 木曽川水系木曽川・長良川 【国管理河川】

市町村名 ： 愛知県愛西市

推進主体 ： 愛西市



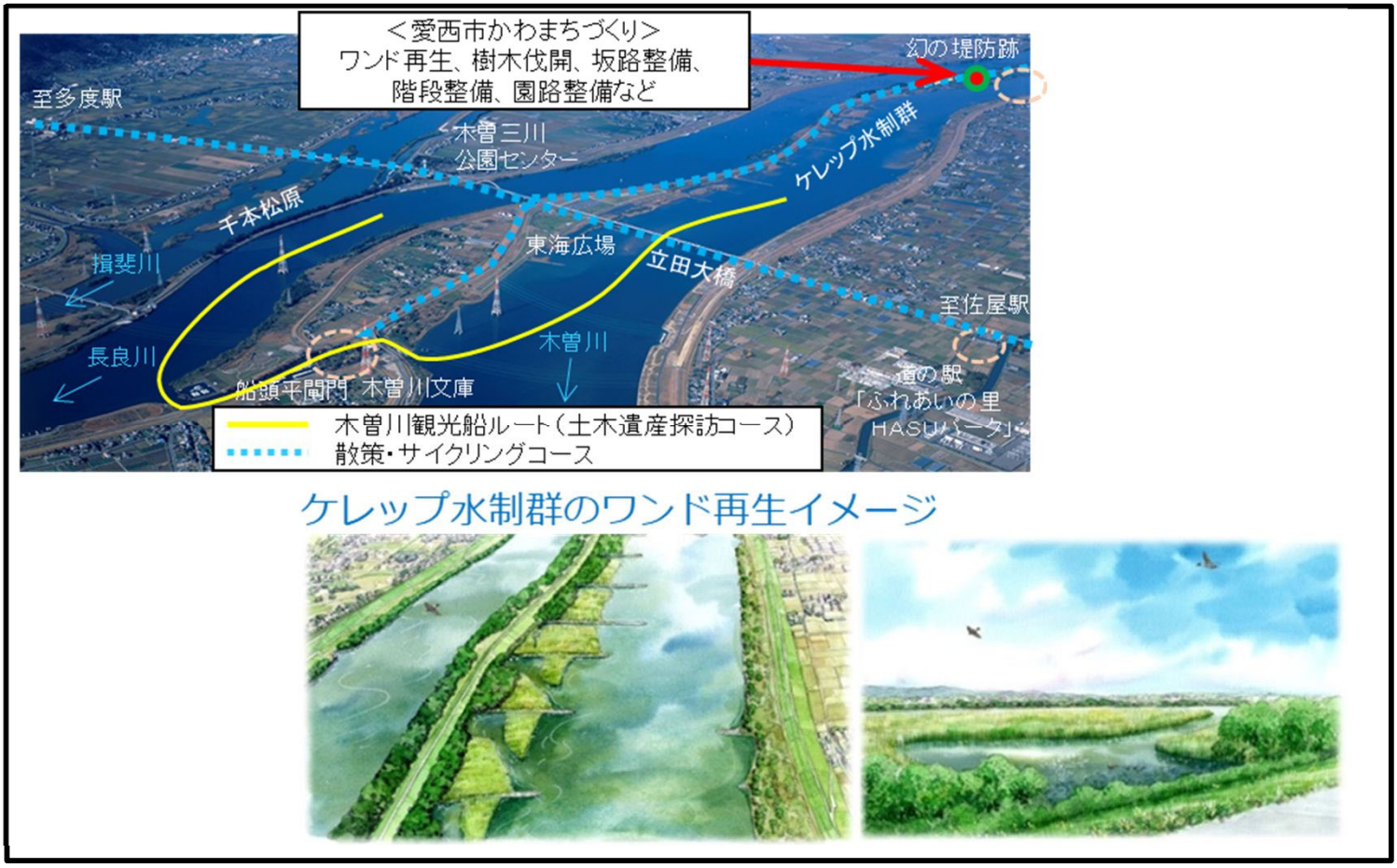
1. 概要　個性的な歴史的資源や自然環境に恵まれた木曽三川下流の愛西市において、地域資源をつなげ、エコツアー、インフラツアーとして観光ルートの設定、舟運の活用によりさらなる観光振興を推進します。

2. ハード施策の内容

国土交通省 ： ワンド整備、樹木伐採等　　愛西市 ： 案内看板　散策路等

3. ソフト施策の内容

愛西市 ： パンフレット作成、観光船の運航、木曽川体験イベントの開催　等



愛西市かわまちづくり【完】

木曽川水系木曽川・長良川（愛知県愛西市）【直】

事業実施の効果(自然)





かつてのケレップ水制群周辺には良好な自然環境が形成されていたが、近年樹林化の進行により自然環境が悪化してきている。



ケレップ水制群のワンド再生実施個所

自然体験学習利用者数

・樹木の伐採等を実施し、自然環境の保全・再生により良好な自然環境を創出することで、エコツアーとして自然を体験し、自然環境の理解を深めるとともに、土木遺産のケレップ水制も含めた学校の体験学習の場として利用することを期待。
⇒事業着手前後の体験学習等利用者数の推移を調査する。

事業実施の効果(観光)





・かわまち体験イベント（R6.8実施）

観光船利用者数、サイクリング利用者数、散策者数

・サイクリングルートの充実、体験プログラムの展開等により、ツアー数、利用者数が増加すること（経済効果発現）を期待する。
・観光拠点がつながることにより、道の駅「立田ふれあいの里HASUパーク」の売上の増加を期待する。
⇒事業着手前後のサイクリング、散策者数の推移を調査する。

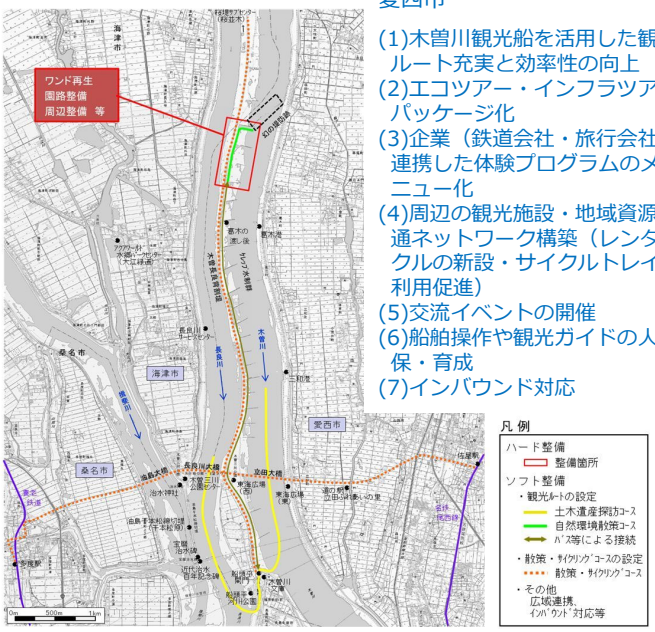
近隣施設利用者数

・木曽川の利用者やツアーへの参加者が観光ルート拡充による周遊ルートを活用し、国営木曽三川公園、道の駅「立田ふれあいの里HASUパーク」、木曽川文庫等を利用することを期待。
⇒事業着手前後の各施設利用者数の推移を調査する。

愛西市かわまちづくり【完】

木曽川水系木曽川・長良川（愛知県愛西市）【直】

ソフト施策



愛西市

(1)木曽川観光船を活用した観光ルート充実と効率性の向上
(2)エコツアー・インフラツアーのパッケージ化
(3)企業（鉄道会社・旅行会社）と連携した体験プログラムのメニュー化
(4)周辺の観光施設・地域資源の交通ネットワーク構築（レンタサイクルの新設・サイクルトレインの利用促進）
(5)交流イベントの開催
(6)船舶操作や観光ガイドの人材確保・育成
(7)インバウンド対応

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・木曽三川公園　・・・　公園管理者が占用

○今後の展望

・ケレップ水制周辺の観察施設（散策路等）
・・・　愛西市が河川占用予定（調整中）

＜参画機関＞

・かわまち計画策定にあたり、平成29年度に地域関係団体、愛西市、木曽川下流河川事務所からなる「愛西市木曽三川ミズベリング協議会」を設置し、事業計画、今後の推進方針等を議論している。
・協議会は、Ｈ２９年から計８回実施済み。
・海津市にもオブザーバーとして参加いただいている。



第1回協議会（H29.9.27）

○今後の展望

・協議会では、「かわまちづくり計画」策定後においても、利用区域の利用や管理運営に関するルール等の検討など、活用に関する必要な事項についても検討をしている.

＜かわまちの運営（維持管理）＞

・河川管理施設と一体的な構造物など：国土交通省
・その他：愛西市
・なお、日常的な施設管理、清掃については、地域住民、関係団体との連携を検討する。

※具体的な利活用や日常的な維持管理については、「愛西市木曽三川ミズベリング協議会」の場で検討していく。

【H30年度】市民が日常的に楽しめる菊川スポーツ＆アクティビティ

「菊川かわまちづくり」（静岡県菊川市）

登録年月日：H31.3.8
事業年度：H31～R6

対象河川　：　一級河川　菊川水系菊川　【国管理河川】
市町村名　：　静岡県菊川市
推進主体　：　菊川市

位置図



1. 概要

菊川市では、スポーツを通して市民が健康で、生きがいをもって生活できるまちの実現を目指しています。この取り組みを充実させるため、本計画では、スポーツ施設や地域資源をサイクリングやウォーキングを行う中で安全かつ快適に回遊できるように河川空間を整備します。加えて、菊川沿いに位置する拠点を整備することで、菊川の水辺空間を日常的な地域交流の場として活用し、菊川という河川を中心とした地域の魅力の向上を図ります。

国土交通省では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備のほか、河川空間において営利活動を実施する場合には、河川敷地占用許可準則第22に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

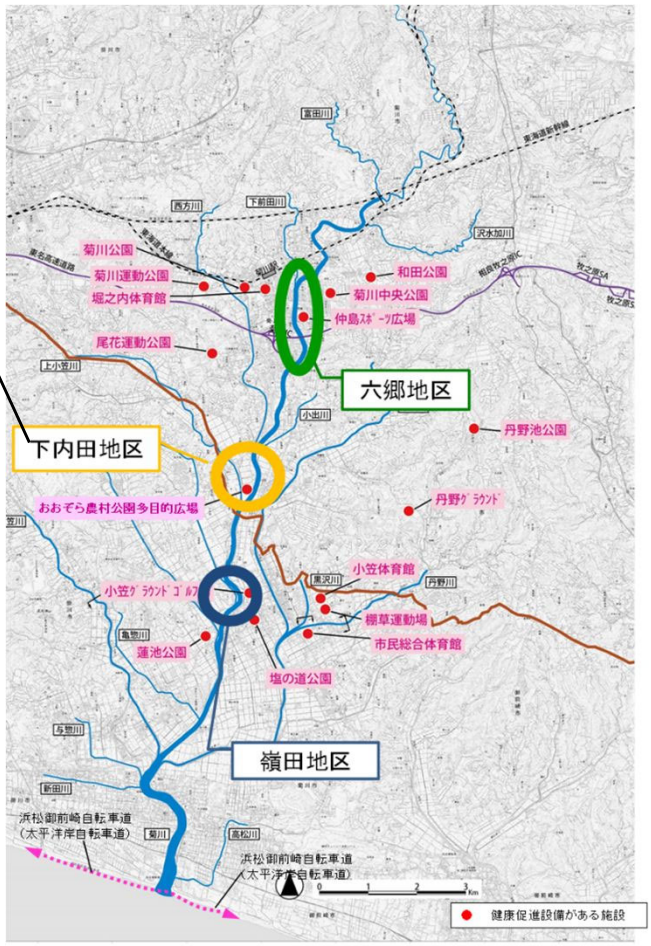
2. ハード施策の内容

国土交通省　：　防災ST、河川管理用通路、高水敷整正　等　　菊川市　：　防災ST案内看板、休憩施設　等

3. ソフト施策の内容

国土交通省　：　都市・地域再生等利用区域の指定　等
菊川市　　：　サイクリングコースの見直し検討、市民が楽しめるスポーツ＆アクティビティ施策の定期的な開催等







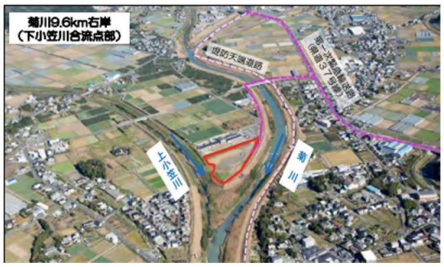


第1回菊川MIZBEフェスの様子（菊川下内田防災ST）

菊川かわまちづくり

菊川水系菊川（静岡県菊川市）【直】

事業実施の効果


菊川9.6km右岸
（下小笠川合流点部）
堤防天端道路
斜面緑化工(芝張)
斜面緑化工(植生マット)
斜面緑化工(芝張)
斜面緑化工(植生マット)
斜面緑化工(芝張)
斜面緑化工(植生マット)

【H30年度】人々と蟹江川の関わりを取り戻す～*水郷の里の魅力再生*～

「蟹江川かわまちづくり」（愛知県海部郡蟹江町）

登録年月日：H31.3.8
事業年度：H31～R5

対象河川　：　二級河川　日光川水系蟹江川　【県管理河川】
市町村名　：　愛知県海部郡蟹江町
推進主体　：　海部郡蟹江町



1. 概要

蟹江町では、2016年にユネスコ無形文化遺産に登録された「須成（すなり）祭」と水郷・温泉・歴史と美食のまちとして地域の文化や、既存施設を活かした、観光・産業の振興、交流人口の拡大・地域活性化に取り組んでいます。

この取組を充実させるため、「須成祭」が行われる蟹江川及び、その周辺との周遊性を高め、隣接した観光交流センター「祭人（さいと）」を拠点としたイベント、地域特産品の販売、観光資源の魅力を発信していくなど、水郷の町と称された蟹江町の魅力を向上させ、観光・産業振興の促進を図ります。

河川管理者である愛知県は、この取組に対し、必要な河川管理施設を整備し、支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

愛知県　：　親水護岸の整備　等
蟹江町　：　観光交流センターの整備　道路の補修整備　案内看板　等

3. ソフト施策の内容

蟹江町　：　須成地区及び蟹江川に関する地域資源の発掘及び情報発信
地域住民や地域団体との協働による河川環境の保全　地域主導による防災啓発　等











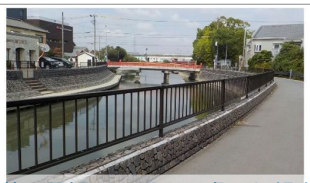
蟹江川かわまちづくり【完】

日光川水系蟹江川（愛知県海部郡蟹江町）【補】

事業実施の効果



観光交流センター「祭人（さいと）」（以下「祭人」という。）から眺める単調なコンクリート護岸



昔の景観の再現に配慮した親水護岸の整備は河川空間の魅力を高め、蟹江川を中心とした交流や観光を促進することに寄与する

事業実施の効果



まちづくりの拠点となる施設がない



蟹江川沿いにある地域振興の拠点となる「祭人」がH30.5に誕生

事業実施の効果



須成祭（車楽船）と単調なコンクリート護岸

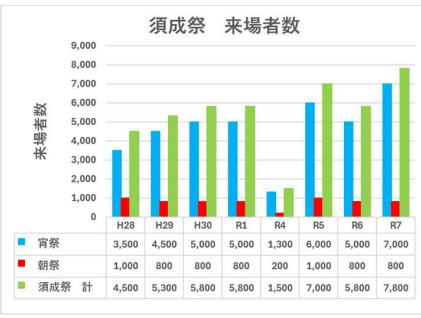


整備後の護岸と須成祭（車楽船）

拠点効果

・祭人　利用者数（H30）50,051人
・利用者アンケートとノートに書き込むタイプの２つの方法でアンケート実施
・満足度としては大変よい・よいが95%を占めていた

来場者数推移



	H28	H29	H30	R1	R4	R5	R6	R7
宵祭	3,500	4,500	5,000	5,000	1,300	6,000	5,000	7,000
朝祭	1,000	800	800	800	200	1,000	800	800
須成祭　計	4,500	5,300	5,800	5,800	1,500	7,000	5,800	7,800

※新型コロナウイルス感染症により、
R2,R3は開催中止
R4は規模を縮小して開催

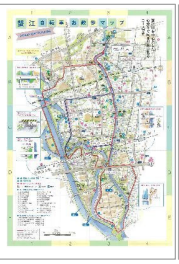
蟹江川かわまちづくり【完】

日光川水系蟹江川（愛知県海部郡蟹江町）【補】

ソフト施策



祭人による、レンタサイクルの貸出





舟めぐりの様子



船から見える武骨なコンクリート護岸

蟹江水郷のまちの会により、水辺の生き物を近くで観察しながら、蟹江川の舟めぐり



最大で１日3,000人程度の参加

鉄道事業者（JR東海、近畿日本鉄道）による蟹江の魅力を徒歩で巡るイベント



春の清掃活動



秋の清掃活動

ボランティアが参加する「蟹江川をきれいにする会」による定期的な清掃活動

指定管理者「祭人」による河川空間利活用の取組み内容

祭人：蟹江川の利活用の主体的な役割を期待された指定管理者
◇観光・産業振興と地域の再活性化を図る目的でH30.5月に開館し4ヵ月間で22,000人の来館者。（１年間で50,000人の来館者）
◇須成祭をはじめ、町の魅力を発信する拠点。
◇蟹江町の素晴らしさを知ってもらい周遊につなげる仕掛けの積極的な展開を図る。
・河川沿いにある地元特産品を使った新商品の開発販売
・魅力を紹介するマップの作成及び配布
・レンタサイクルの貸出
＊河川敷地占用許可準則22条による、都市・地域再生等利用区域の指定（令和2年3月27日）

<参画機関>

「蟹江！観光・産業振興プロジェクト会議」（平成29年8月23日発足）
・委員長　蟹江町長
・委員　商工会会長、観光協会長、JR東海桑名駅長、近畿日本鉄道蟹江駅長、敬神会（須成祭）会長、かにえボランティアガイド夢案内人代表、湯元館取締役、婦人会長、蟹江歴史民俗資料館学芸員
・アドバイザー　電通名鉄コミュニケーションズ営業部長、船井アソシエイツ代表取締役
・オブザーバー　愛知県
※ 敬神会、ガイドボランティア、婦人会、有識者等で組織し、官民連携による観光振興事業を検討し、事業実施状況の報告・検証するための会議
【活動状況】
平成29年度に会議を3回実施
平成30年度は会議を3回実施
平成31年度以降も継続して会議を実施する予定

連携

「蟹江川かわまちづくり推進会議」（令和元年5月24日発足）
・主催　蟹江町
・委員長
蟹江町産業建設部長
・委員
蟹江川をきれいにする会　会長
かにえボランティアガイド夢案内人代表
蟹江町観光交流センター 祭人指定管理者
観光協会　事務局長
敬神会　会長
須成区長
・オブザーバー
愛知県建設局河川課
愛知県海部建設事務所
【目的】
蟹江川及びその周辺地域の観光・産業振興と地域の再活性化を目指したまちづくりの推進を目的とする。なお、関係する行政機関や市民団体及び民間事業者等の参加のもと、情報共有、意見交換、相互の連絡・調整を図る。
【所掌事務】
・蟹江川及びその周辺地域のまちづくりに関する事項について検討。
・検討結果について「蟹江！観光・産業振興プロジェクト会議」に報告し、連携を図る。

下部組織として以下の３部会を設置（平成２９年９月発足）
○商品・産業開発部会
蟹江町内の企業による地域の特色を生かした商品、産品の開発と拡販について検討
○観光誘致部会
蟹江町への観光誘致について観光ルートの設定など各種施策を検討
○運営・販促部会
観光交流センターの集客・自立運営を目指し、施設のコンテンツや、施設を基点とした蟹江町産品の販促を検討

<かわまちの運営（維持管理）>

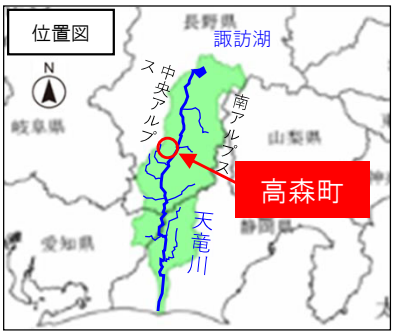
○運営
・令和元年5月に「蟹江川かわまちづくり推進会議」を立ち上げ、関係する行政機関や市民団体及び民間事業者等の参加のもと、情報共有、意見交換、相互の連絡・調整を図りながら「蟹江川かわまちづくり計画」の推進。
・蟹江町全体の観光振興事業の検討を行っている「蟹江！観光・産業振興プロジェクト会議」と連携し、町内外への情報発信及び蟹江川の魅力を多くの方への周知。
・これらの会議を中心に、地域住民や観光交流センター「祭人」の指定管理者等を含めた行政・地域が一体となった体制の推進。
○維持管理
・地域住民による日常的な清掃活動に加え、「蟹江川をきれいにする会」による年2回のボートを使用した大規模な清掃活動の実施。
・観光交流センター「祭人」の指定管理者による日常的な見回り、清掃活動の実施。

【R1年度】

「天竜川高森かわまちづくり」（長野県 高森町）

登録年月日：R2.3.13
事業年度：R2～R11

対象河川 ： 一級河川 天竜川水系天竜川 【国管理河川】
市町村名 ： 長野県 高森町
推進主体 ： 高森町



1. 概要

高森町は長野県の南部、中央アルプスと南アルプスに囲まれ、天竜川がその間を流れる伊那谷の西側に位置し、天竜川での灯籠流しやカヌー下りなど、地域資源を活かしたまちづくりに取り組んでいる。また、当町は、将来開業予定のリニア中央新幹線長野県駅（仮称）から車で15分の立地にあり、今後交流人口の増加が期待され、地域一帯の更なる活性化が期待されている。

2028年には、信州やまなみ国民スポーツ大会のカヌーとビーチバレーの競技会場となることが決定しており、「カヌーの町」としての魅力をさらに高めていく機運の中、2020年3月に「天竜川高森かわまちづくり」計画を策定し、水辺の利活用や防災拠点の整備を積極的に進めている。さらに、2023年3月に「山吹地区MIZBEステーション」として計画登録された防災拠点は、かわまちづくり計画と一体的に整備され、地域の防災機能の向上はもちろん、新たな交流拠点として、地域の魅力をさらに高めることが期待されている。

国土交通省では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備のほか、ソフト施策の支援を実施していきます。

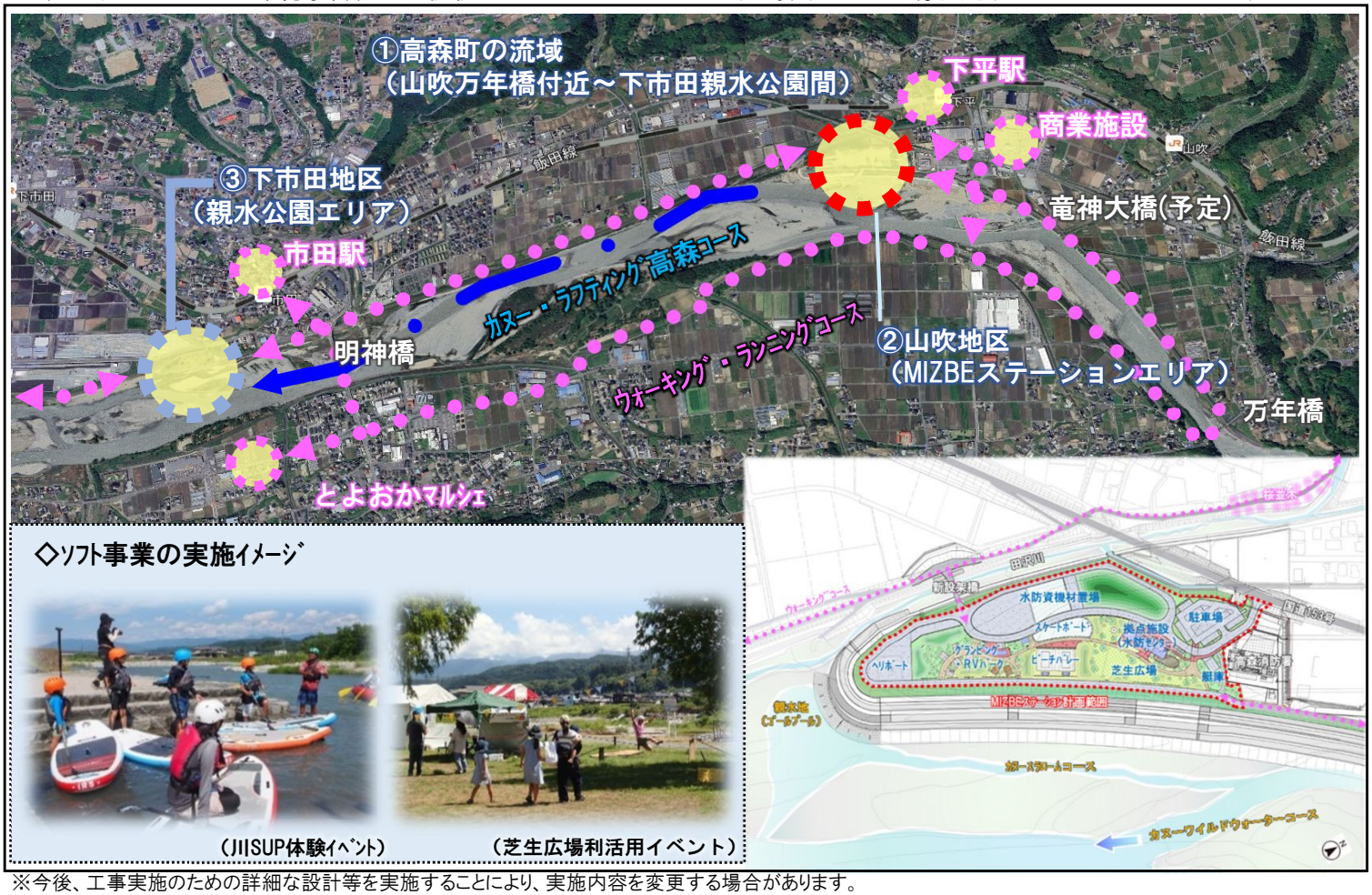
2. ハード施策の内容

国土交通省：盛土（防災敷材置き場）、緊急復旧資材（根固めブロック等）の備蓄、ヘリポートなど
高 森 町 ：カヌースラロームコース、親水池・体験水路、拠点施設（水防センター・レストラン等）、アウトドア広場（グランピングサイト・RVパーク）スポーツパーク（スケートボードパーク・ビーチバレーコート）など

※青字：MIZBEステーション整備計画の整備メニュー

3. ソフト施策の内容（高森町）

・拠点施設（水防センター）を用いた水防学習機会の提供
・スポーツ体験を通じた町内外の交流促進・健康増進
・直に水とふれあえる環境学習機会の提供
・イベント開催による賑わい創出
・滞在利用による周辺観光の促進、地域の魅力発信
・長野国スポの会場利用（R10：カヌー及びビーチバレー）



※今後、工事実施のための詳細な設計等を実施することにより、実施内容を変更する場合があります。

天竜川高森かわまちづくり

天竜川水系天竜川（長野県下伊那郡高森町）【直】

地域活性化や賑わいあるまちづくりに資する定量的目標
本計画の5年間は、拠点施設の整備途上の段階であることを踏まえ、この期間に展開される社会実験や国スポ時の利用に基づいて、まちづくりに資する定量的目標を設定する

事業実施の効果





かわまちづくりイベント実施の様子

定性的効果

かわまちづくりの取り組みおよびイベントの実施により、遊休化していた河川空間を活用し、新たな賑わいの可能性を創出することができた

指標	内容	定量的目標
かわまちづくり関連のイベントの実施を通じた取組みの周知促進	かわまちづくり関連のイベント実施による賑わいあるまちづくりに向けた周知促進。 延べ参加者数を指標とし、年次ごとに参加者50人増を目指した取り組みの促進を行う。	イベントの回数　年２回以上 イベント参加者数　年合計500人以上
拠点施設帯での魅力向上策具体化のための連携強化	賑わいあるまちづくりに向けた構想実現のために、町内外団体と連携した取り組みの実施。	年1回 町内関係団体関与１団体（協議会以外）
地域の広域連携を主眼とした企画の実施	供用開始後の南信州地域での広域連携を視野に、広域エリアでのイベントの実施	計画期間中２回

天竜川高森かわまちづくり

天竜川水系天竜川（長野県下伊那郡高森町）【直】

ソフト施策





カヌー大会の様子



各種社会実験実施の様子

＜参画機関＞

・高森町
・高森町商工会
・高森町消防団
・高森町カヌークラブ
・駒場河原商業店舗関係者

年度	内　容
R1年 7月	光でつなぐ水辺で乾杯 in 天竜川流域 +α
8月	天竜川を遊びつくせ
9月	川辺で映画観賞会
R2年 9月	水辺の演奏会 MIZBERING TAKAMORI 2020
R4年 3月	ウォーキングコースとしての堤防の活用可能性を検証したイベント
R5年 8月	全日本カヌー大会に合わせ、親水公園を会場に、川ＳＵＰや水辺のアウトドア利活用を検証したイベントを実施
R6年 8月	水辺空間の賑わい創出検討の一環で、共同検討者によるスケートボードパークの実現可能性を検証したイベントを実施

＜水辺空間の利活用状況＞
○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・高森町：カヌーコース、階段護岸、堤外坂路
（占用協議は令和７年度以降の実施予定）

＜かわまちの運営（維持管理）＞

施設整備後の維持管理
・施設の維持管理については、施設管理者が行う。
カヌーコース、階段護岸、堤外坂路：高森町

・施設の運営については、民間事業者が行う予定。

【R2年度】未来につなぐ岐阜市の財産・長良川

「ぎふ長良川鵜飼かわまちづくり」（岐阜県岐阜市）

登録年月日：R3.3.19
事業年度：R3～R7

対象河川　：　一級河川　木曽川水系長良川　【国管理河川】
市町村名　：　岐阜県岐阜市
推進主体　：　岐阜市



1. 概要

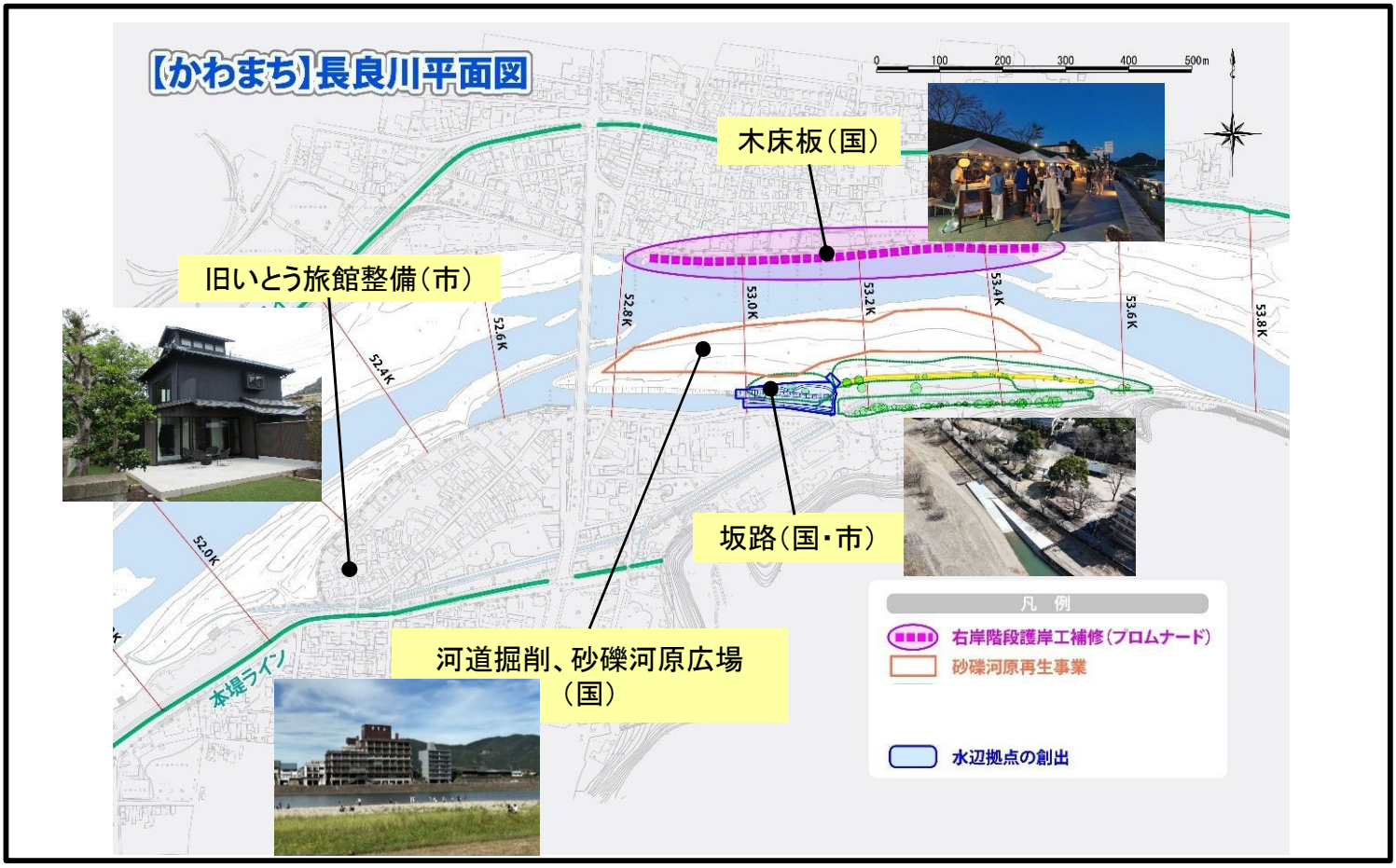
長良川の川原町・鵜飼屋地区は、古くから河川利用が活発な地域で、長良川の雄大な流れや風光明媚な景観、豊かな自然の癒しを求め、日々、川のほとりを散歩する人々の姿も多くみられ、四季を通じて、多くの市民に親しまれ、岐阜市民の心の拠り所となっています。国の重要無形民俗文化財に指定された「ぎふ長良川の鵜飼」は、近代以降に船頭や旅館業者をはじめとする多くの地域住民が携わる重要な観光事業として発展し、観覧船造船技術とともに、伝統的な川文化が伝承されています。岐阜城・金華山や岐阜公園等とともに、岐阜市を代表する観光拠点となっており、食文化や伝統文化に触れられるなど観光客にも親しまれています。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　河道掘削・砂礫河原広場、木床板、坂路
岐阜市　　：　旧いとう旅館整備、坂路、散策路

3. ソフト施策の内容

国土交通省　：　都市・地域再生等利用区域の指定
岐阜市　　：　鵜飼桟敷、遊覧船等



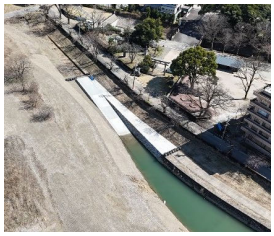
ぎふ長良川鵜飼かわまちづくり

木曽川水系長良川（岐阜県岐阜市）【直】

事業実施の効果



テラスから水辺へアクセスしづらい。



坂路、散策路等の整備

水辺へのアクセス

現在整備中（令和８年２月完成予定）。
整備後は各種イベント等を実施し、周辺観光施設への周遊を促進する。
長良川温泉宿泊者数、観光施設入場者数、観覧船乗船者数により効果を確認する。

事業実施の効果



草木が茂り、水辺空間を有効活用できていない



人が歩きやすいように整備し、周遊性を向上（実験イベント時の写真）

基盤整備

現在実験イベントの実施により、整備にかかる課題を整理中。
整備後は各種イベント等を実施し、周辺観光施設への周遊を促進する。
長良川温泉宿泊者数、観光施設入場者数、観覧船乗船者数により効果を確認する。

事業実施の効果



草本の浸入や樹林化等で河川景観が悪化



河川敷特有の河原植物等が生育できる砂礫河原が再生

砂礫河原広場

令和５年度に整備完了し、美しい河川景観が形成された。
周辺での実験イベント開催時には、多くの人が水際まで立ち入り、水に親しむ様子が伺えた。

ぎふ長良川鵜飼かわまちづくり

木曽川水系長良川（岐阜県岐阜市）【直】

＜ソフト施策内容＞



夜一の開催



鵜飼桟敷



岐阜長良川花火



長良川まつり

＜水辺空間の利活用状況＞
○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・令和3年3月に長良川右岸プロムナードエリアが都市・地域再生等利用区域の指定を受けた。これにより、飲食サービスの提供や物販といった店舗営業やイベントの開催など新たなにぎわいや憩いの場を創出した。今後は、長良川左岸でも都市・地域再生等利用区域の指定を受けることにより、長良川両岸でさらなる地域の活性化に寄与できるよう取り組んでいく。

＜参画機関＞

・「かわまちづくり計画」の策定にあたり、市民等を対象とした公開での会議や市民を対象としたパブリックコメントの手続きを行うなど、幅広く意見を伺いながら、その意見を盛り込んだ計画の策定を行った。また、地元自治会連合会やまちづくり団体、観光、商工業及び漁業団体関係者等で構成される協議会及び長良川の活用に取り組む地域のまちづくり団体や観光事業者、学識経験者等のシンキングチームにおいて、計画に対する意見や施策事業の意見交換を実施した。
・ぎふ長良川水辺空間活用協議会の開催
　＜第1回＞　令和２年８月３日
　＜第2回＞　令和２年１２月１５日
　＜第3回＞　令和３年１２月２０日
・ぎふ長良川水辺空間活用協議会シンキングチームの開催
　令和２年８月～令和７年１１月までに計８回開催した。

＜かわまちの運営（維持管理）＞

・坂路、散策路等は国と市が協議し、維持管理を行う。
・砂礫河原広場については、環境保全に取り組むNPO 法人等との連携を図り、取り組んでいく。
・テラス等の水辺拠点周辺の日常的な管理や清掃、砂礫河原を含むイベント等利用後の清掃は市又は利用者が行う。
・河川増水時に、確実に鵜飼観覧船を陸揚する退避計画（ルール）を策定する。
・隣接地で計画されている国の環境整備と連携して市が日常的な維持管理、清掃等について実施する。
・長良川右岸プロムナードの今後の平時な占用については、市が実施することを前提に都市・地域再生等利用区域の指定を受け、協議会等により、利用方法（ルール）など計画を策定する。
・旧いとう旅館の施設の維持管理、運営は、民間事業者等が行う。

「中津川市かわまちづくり」（岐阜県中津川市）

登録年月日：R3.3.19
事業年度：R3～R9

対象河川　：　一級河川　木曽川水系千旦林川　【県管理河川】

市町村名　：　岐阜県中津川市

推進主体　：　中津川市

位置図



1. 概要

令和9年（2027年）の開業予定が延期となった、リニア中央新幹線品川～名古屋間において、中津川市には中間駅であるリニア岐阜県駅（仮称）が設置され、これを契機とした駅周辺のまちづくりを進めています。

岐阜県の東の玄関口となる駅周辺を流れる千旦林川では、「岐阜らしさ」、「中津川らしさ」が感じられる親水性のある空間づくりをコンセプトとして親水施設を整備し、まちづくりと一体となった水辺空間の創出を図るため、千旦林川沿いを回遊できる親水性のある空間の創出を図り、自然や街道文化等の「中津川らしさ」を表現するとともに、駅周辺の土地区画整理事業とあわせて親水性のある広場や回遊可能な川沿いの歩道を整備し、駅利用者や地域住民が川沿いの駅前広場に集い、にぎわいを創出することを目指します。

河川管理者（岐阜県）は、この取組みに対し、必要な河川管理施設を整備するほか、河川空間において営利活動を実施する場合には、河川占用敷地許可準則22条に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

岐阜県　：　河川管理用通路、親水護岸　等

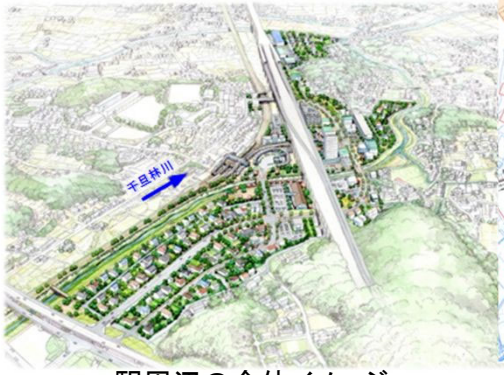
中津川市　：　散策路、橋梁（人道橋）、張り出しデッキ、親水公園　等

3. ソフト施策の内容

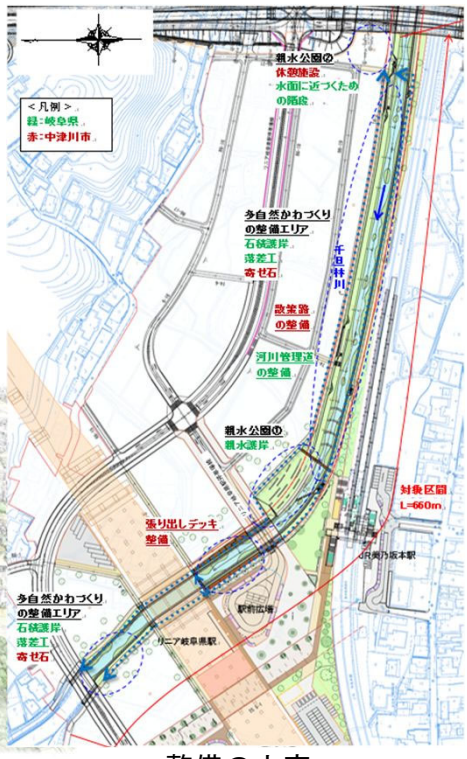
中津川市　：　駅前広場と一体となった空間を活用したイベントの推進　等



駅周辺の空間づくりのコンセプト



駅周辺の全体イメージ



整備の内容



千旦林川の整備イメージ





水辺空間の利活用イメージ

※今後、詳細な設計等を実施することにより、実施内容を変更する場合があります。

事業実施の効果


集客施設はなく、人通りが少ない


イベント開催や休憩のためのスペースを確保

指標名　イベント開催状況

・親水公園において、駅前広場に隣接した立地を生かし、駅前広場と一体となったイベントを開催

・イベント開催数と集客数の推移


親水護岸の整備により憩いの場を創出（写真はイメージ）

指標名　歩行者通行数

・河川の多様な自然を鑑賞しつつ河川沿いを周遊できる、河川管理道を活用した散策路を整備し、駅を訪れた人や地元の人々の憩いの場を創出する。

・沿線の休日歩行者通行量の推移

中津川市かわまちづくり　　木曽川水系千旦林川（岐阜県中津川市）【補】

<ソフト施策>


散策路と休憩所


公園や広場を活用したイベント


張り出しデッキでのオープンカフェ

<参画機関>

・令和元年度に地元住民を対象とした「千旦林川の改修に伴う意見交換会」を4回開催し、整備の方向性、整備後の活用方法などについて検討。

・学識者や市民、関係団体などで構成する「リニア岐阜県駅周辺デザイン会議」を組織し、意見聴取を図りながら駅周辺のエリアデザインを検討。
　<第1回>　令和元年８月
　<第2回>　令和元年１２月
　<第3回>　令和２年7月
　<第4回>　令和３年６月（書面開催）
　<第5回>　令和３年12月
　<第6回>　令和４年３月（書面開催）
　※「リニア岐阜県駅周辺エリアデザイン指針（デザインブック）案」について、令和4年1月に意見募集し、令和4年3月に中間とりまとめ結果を公表。
・上記会議の内容を踏まえ、「リニア岐阜県駅周辺エリアデザイン指針」を策定し、公表する予定。

<水辺空間の利活用状況>
○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・事業中のため、実績なし。

<今後の予定>
・マルシェやオープンカフェ等のイベント
　親水公園において、駅前広場に隣接した立地を生かし、駅前広場と一体となったイベントを開催予定
・散策路や環境学習の場
　河川の多様な自然を鑑賞しつつ河川沿いを周遊できる散策路や、川と触れ合える空間を確保することで環境学習等に活用。

<かわまちの運営（維持管理）>

・施設の維持管理は各施設管理者が行う。
　親水護岸：岐阜県
　親水公園、張り出しデッキ：中津川市

・日常的な施設管理及び清掃活動等は、商業施設、地元住民等と連携し、中津川市が中心となって実施する。

【R2年度】

「天王川曲路地区かわまちづくり」（岐阜県本巣郡北方町）

登録年月日：R3.3.19
事業年度：R3～R4

対象河川 ： 一級河川 木曽川水系天王川 【県管理河川】

市町村名 ： 岐阜県本巣郡北方町

推進主体 ： 北方町



1. 概要

北方町は、令和2年度より天王川に隣接する曲路地区において「健康・福祉・農業と人をつなぐ食」をテーマに掲げ、地域住民や広域からの人々が集い、楽しみ、賑わい（集客性）のある新たな魅力あふれる活力の場を創出して地域活性化を図るための商業施設を整備する広域交流拠点整備事業を実施しています。

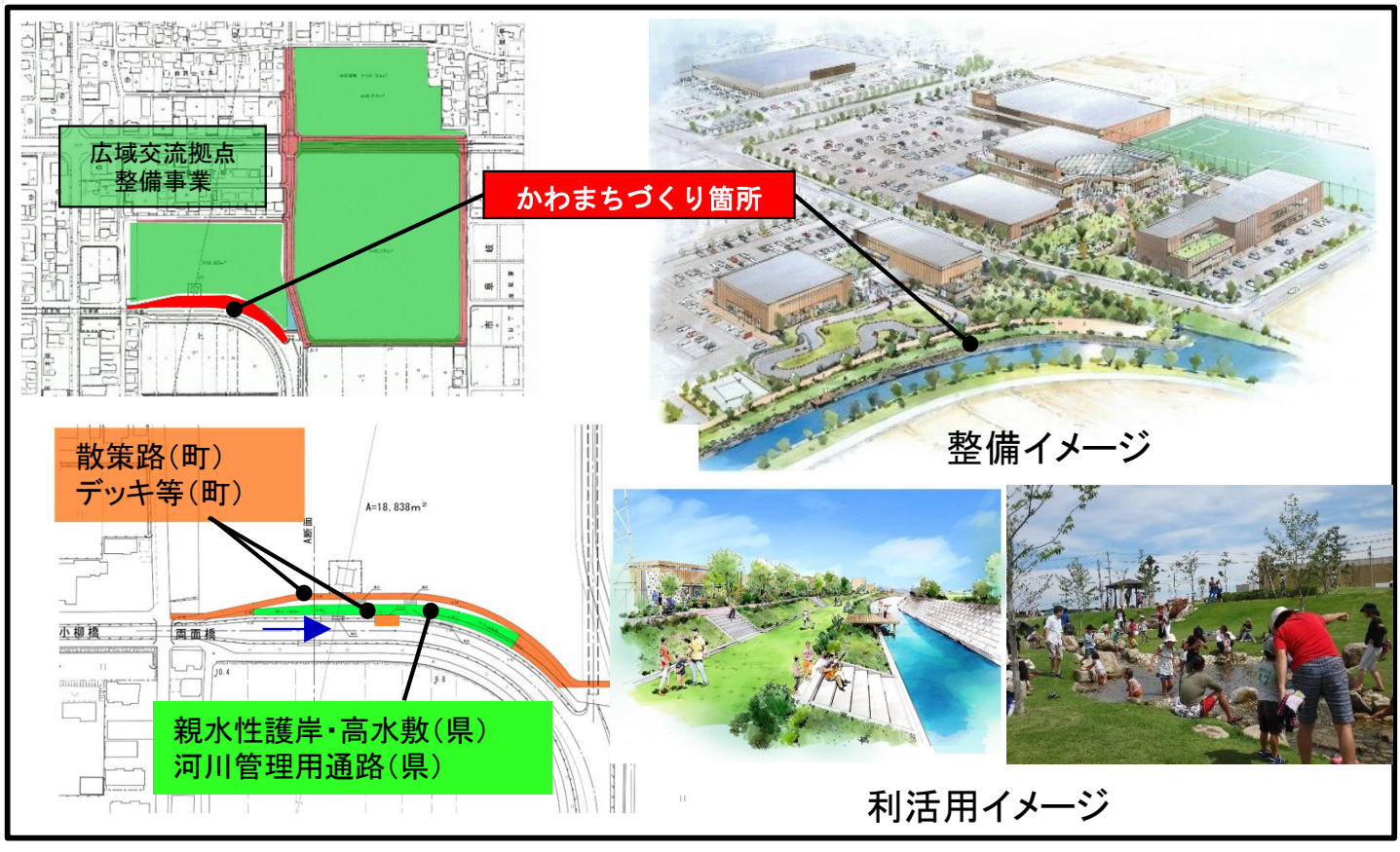
このような集客性のある施設に隣接する天王川において、親水性の高い護岸を整備し、高水敷は河川内広場として川に親しむ水辺空間を形成し、広域交流拠点からのウォーキングコースとなる散策路を整備することで、広域交流拠点と河川内広場が繋がり、両施設を活かしたイベント等を実施することで、さらなる賑わいの創出を図ります。

2. ハード施策の内容

岐阜県 ： 親水護岸・高水敷・河川管理用通路 等
北方町 ： デッキ、散策路等
※関連施策
民間事業者：広域交流拠点整備

3. ソフト施策の内容

北方町及び民間事業者 ： 広域交流拠点事業者との連携したイベントの開催 等



※今後、工事実施のための詳細な設計等を実施することにより、実施内容を変更する場合があります。

天王川曲路地区かわまちづくり【完】

木曽川水系天王川（岐阜県北方町）【補】

事業実施の効果



集客施設はなく、人通りが少ない



イベント開催や休憩のためのスペースを確保

指標名　イベント開催状況

・高水敷等において、広域交流拠点に隣接した立地を生かし、広域交流拠点と連携したイベントを開催

・イベント開催数と集客数の推移



親水護岸の整備により憩いの場を創出（イメージ）



親水護岸の整備により憩いの場を創出（整備後）

指標名　歩行者通行数

・河川管理道路と広域交流拠点内のウォーキングロード等を繋げ、健康づくりの場を提供するとともに、あわせて河川の自然環境が感じられる空間を創出することで、広域交流拠点を訪れた人や地元の人々の憩いの場を創出する。

・沿線の休日歩行者通行量の推移

天王川曲路地区かわまちづくり【完】

木曽川水系天王川（岐阜県北方町）【補】

ソフト施策



水と親しむ憩いの場



水と親しむ憩いの場（整備後）



広域交流拠点施設と連携したマルシェやスポーツイベントの実施



近隣の小学校と連携した環境・防災学習

＜参画機関＞

○広域交流拠点施設整備事業

コンセプトに「つなぐガーデン北方」を掲げ、エリア中央には芝生の広場「もちの木広場」を、西側には北方町の「天王川曲路地区かわまちづくり」により、岐阜県と連携のうえ整備した「河川内広場」を備える。地域の皆さまが気兼ねなく立ち寄れる、“よりどころ”となるような拠点を目指すとともに、町と事業者で「包括・地域連携協定」および「防災活動協力に関する協定」を締結し、安全・安心な地域づくりに貢献

・令和２年９月１４日　イオンタウン（株）と基本協定を締結
・県道岐阜関ヶ原線以北のBゾーンに、令和５年４月にヤマダ電機が先行オープン
・県道岐阜関ヶ原線以南のAゾーン西側に、令和７年２月１5日にガリバー岐阜北方店がオープン
・県道岐阜関ヶ原線以南のAゾーンに、令和８年３月１８日カインズ、３月２７日にイオンスタイル等がオープン

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・事業中のため、実績なし。

＜今後の予定＞
・河川利用のオープン化を行い、民間事業者による夏祭りイベントやマルシェ、フリーマーケット等のイベント会場として活用。
・近隣の小学校と連携し、小学生の環境学習プログラムや水難事故講習会等を実施。

＜かわまちの運営（維持管理）＞

・施設の維持管理は各施設管理者が行う。
親水護岸、管理用道路：岐阜県
河川敷階段、散策路：北方町

・日常的な管理及び清掃活動等は、高水敷河川内広場等とあわせ一体的な利用を検討している広域交流拠点事業者が、北方町と調整しながら行う。

【R7年度】

「木曽川中流域自転車で繋ぐかわまちづくり」（木曽川沿川12市町）

登録年月日：R.7.8.1
事業年度：R8～R12

対象河川　：　一級河川　木曽川系木曽川　【国管理河川】

市町村名　：　岐阜県・愛知県12市町（美濃加茂市、坂祝町、可児市、各務原市、笠松町、岐南町、羽島市、犬山市、扶桑町、江南市、一宮市、稲沢市）

推進主体　：　木曽川中流域自転車で繋ぐかわまちづくり協議会



1. 概要

木曽川上流河川事務所管内では、木曽三川の雄大な河川空間を活かしたレクリエーションや健康づくりの推進に向け、サイクリングコースのネットワークの整備や利活用に向けた取り組みを進めています。

この取組みをさらに充実させるため、木曽川沿川の多様な自然環境・河川景観や文化、歴史的遺産等を活かした水辺の拠点整備・活用を推進し、さらにサイクリングコースのよる広域的なネットワークの形成を図ります。また、官民が連携してまちづくりに取組み、新たな人の流れや賑わいの創出、まちなかへのアクセス性の向上を目指します。

国土交通省では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備のほか、河川空間において営利活動を実施する場合には、河川敷地占用許可準則第22に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　坂路整備

沿川自治体　：　サイクリングロード、駐車場・トイレ、サイクルラック、モニュメント、ベンチ、スロープ、階段　等

3. ソフト施策の内容

国土交通省　：　都市・地域再生等利用区域の指定　等

沿川自治体　：　広域的なサイクリングコースの設定、水辺空間でのイベント利用の企画、民間企業の誘致・調整

民間企業等　：　木曽川の水辺利用、イベント開催　等



事業実施の効果



坂路新規整備箇所（愛知県一宮市内）

事業実施後の効果が分かる写真

説明文・・・・・・・・・・・・・・・

指標名：○○

事業実施の効果



未整備区間（愛知県一宮市内）

事業実施後の効果が分かる写真

説明文・・・・・・・・・・・・・・・

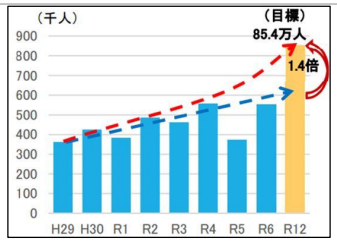
指標名　●●

効果（定量評価or定性評価）

事業実施の効果

事業実施前の状況写真等

説明文・・・・・・・・・・・・・・・



三派川地区内の自転車利用者数

指標名：三派川地区内の自転車利用者数

三派川地区内の自転車利用者数は、令和12年には61万人と予想される。整備後の訪問頻度は、1.4倍に増加するというアンケート結果から、令和12年の来訪者数の目標を85.4万人と設定する。

木曽川中流域自転車で繋ぐかわまちづくり

木曽川水系木曽川（岐阜県羽島市、美濃加茂市、各務原市、可児市、岐南町、笠松町、坂祝町
愛知県一宮市、江南市、犬山市、稲沢市、扶桑町）【直】

ソフト施策



広域モデルコースの設定（MAP作成）イメージ



イベント開催（イメージ）

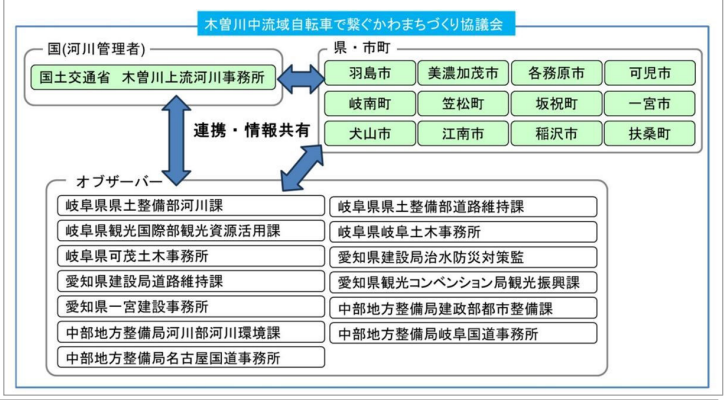


レンタサイクルの実施・展開（イメージ）



WEB発信（イメージ）

＜参画機関＞



＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・既存のサイクリングロード、沿川の地域拠点（公園等）は沿川市町や国営公園管理者が占用されており、利活用されている。

・地域拠点として位置付けている公園のうち、笠松みなと公園と各務原市前渡南公園は、河川占用敷地許可準則22条に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定を行っており、オープンカフェ、キャンプ場、バーベキュー場として利用している。

＜かわまちの運営（維持管理）＞

○サイクリングロード

国　：河川管理施設の管理（河川巡視・点検）

市町：サイクリングロードの管理（除草や清掃等の施設維持、補修）

○地域拠点

市町：かわまちづくりに関する施設の占用、維持管理については、市町が主体的に行う

○サイクリングロードを活用したイベント

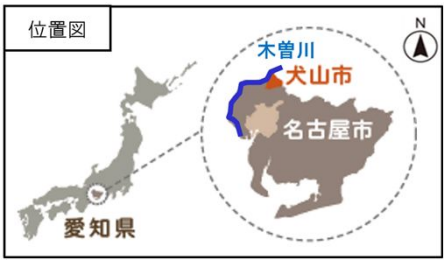
イベント等の利用促進等は、市民団体、主催者などと連携を図る。イベント主催者・利用者は、イベント後に清掃するなど、かわまちづくりの区域を心地よく利用していくための取組を徹底する

【R7年度】犬山三景「水景・城景・緑景」～ 日本一 美しい河畔へ ～

「犬山市かわまちづくり」（愛知県犬山市）

登録年月日：R7.8.1
事業年度：R8～R12

対象河川 ： 一級河川 木曽川水系木曽川 【国管理河川】
市町村名 ： 愛知県犬山市
推進主体 ： 犬山市



1. 概要

国宝犬山城や木曽川鵜飼、名勝木曽川等の歴史・自然資源を活かし、市、事業者、住民及び河川管理者が連携・協力して「日本一美しい河畔」を創ります。内田地区では歩行・滞在空間整備と商業施設連坦等による賑わい創出で混雑する城下町からの回遊性を促し、課題改善と共に市民も観光客も憩い楽しめる、新たな観光拠点を形成します。

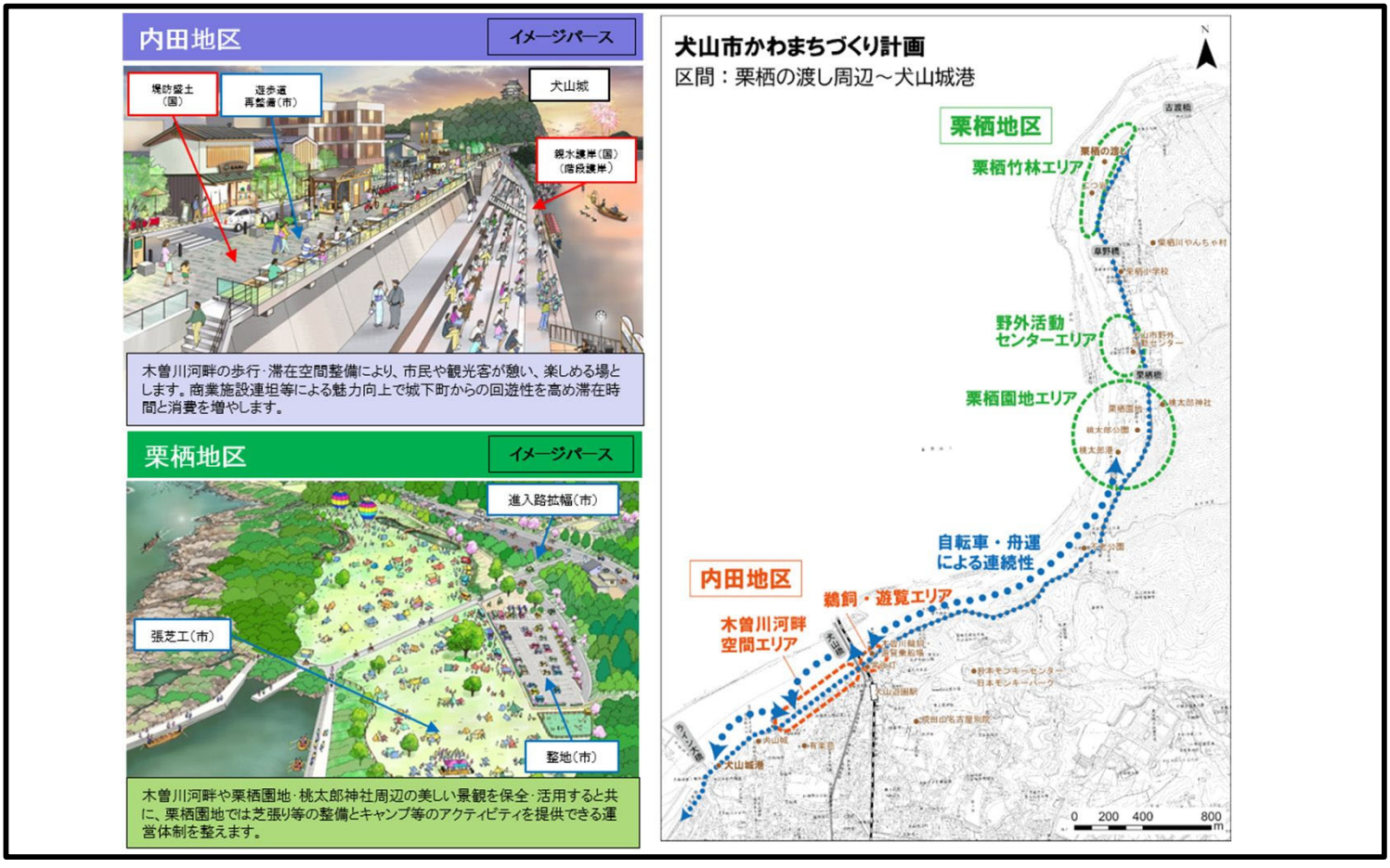
栗栖地区では豊かな自然を活かしつつ、栗栖園地の芝張り等整備と園地の管理体制を構築しキャンプ利用等更なる活用を進めます。国土交通省は親水護岸整備等の他、都市・地域再生等利用区域の指定等を行いエリアマネジメントの実現を支援します。両地区を結ぶのは舟運です。繋がることで「ここにしかない楽しみと喜び」を創り出します。

2. ハード施策の内容

国土交通省 ： 親水護岸（階段護岸）整備、堤防盛土
犬山市：遊歩道再整備 、整地・張芝工・進入路の拡幅工事 等

3. ソフト施策の内容

国土交通省 ： 内田地区・栗栖地区で都市・地域再生等利用区域の指定 等
犬山市 ： 木曽川鵜飼・遊覧船・花火等の充実・商業施設連坦等による賑わい創出、アウトドアアクティビティの提供等



犬山市かわまちづくり

木曽川水系木曽川（愛知県犬山市）【直】

事業実施の効果





木曽川河畔空間の歩行者数

1,531人（R6年度） ▶ 1,700人（R13年度）

事業実施の効果





年間乗船者数

木曽川鵜飼 年間乗船者数

17,538人（R6年度） ▶ 20,000人（R13年度）

犬山城遊覧船 年間乗船者数

4,664人（R6年度） ▶ 6,000人（R13年度）

事業実施の効果





観光消費額

日帰り消費額

4,306円/人（R4年度） ▶ 4,737円/人（R13年度）

宿泊消費額

23,036円/人（R4年度） ▶ 25,340円/人（R13年度）

犬山市かわまちづくり

木曽川水系木曽川（愛知県犬山市）【直】

ソフト施策

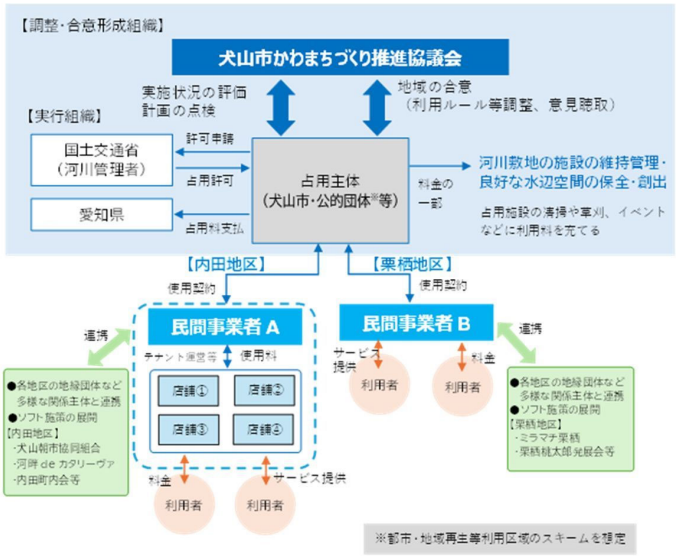








＜参画機関＞



＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

【内田地区】

・木曽川鵜飼、遊覧船の実施
　犬山朝市の出店によるにぎわい創出

【栗栖地区】

・栗栖園地におけるキャンプを中心とした利活用
・民間事業者による遊覧船・ラフティング

＜かわまちの運営（維持管理）＞

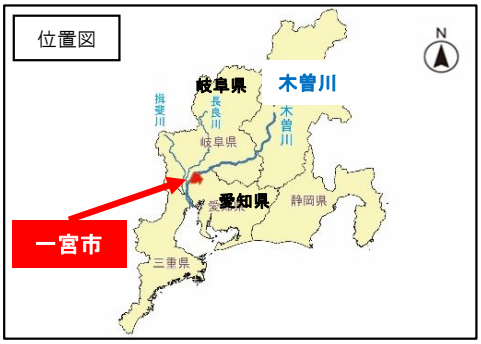
- 整備後の施設の占用及び維持管理については、犬山市及び関係団体が主体的に実施。
- 日常の清掃等維持管理については、犬山市をはじめ、地域団体、住民、民間事業者等との連携により実施。

【R7年度】KISOGAWA　FUN&FAN

「一宮西部地区かわまちづくり」（愛知県一宮市）

登録年月日：R7.8.1
事業年度：H8～R12

対象河川　：　一級河川　木曽川水系木曽川【国管理河川】
市町村名　：　愛知県一宮市
推進主体　：　一宮市・一宮西部地区かわまちづくり協議会



1. 概要

一宮市では、木曽川の河川敷を水と緑のオープンスペースに位置付け、河川敷公園の整備と利活用推進を進めています。

本計画では、冨田山公園の官民連携施設の整備と連携した水辺拠点の整備や、上下流をつなぐサイクリングロードの活用を推進するとともに、多様な主体の参画を促し、地域の魅力向上、観光振興の促進などを図ります。

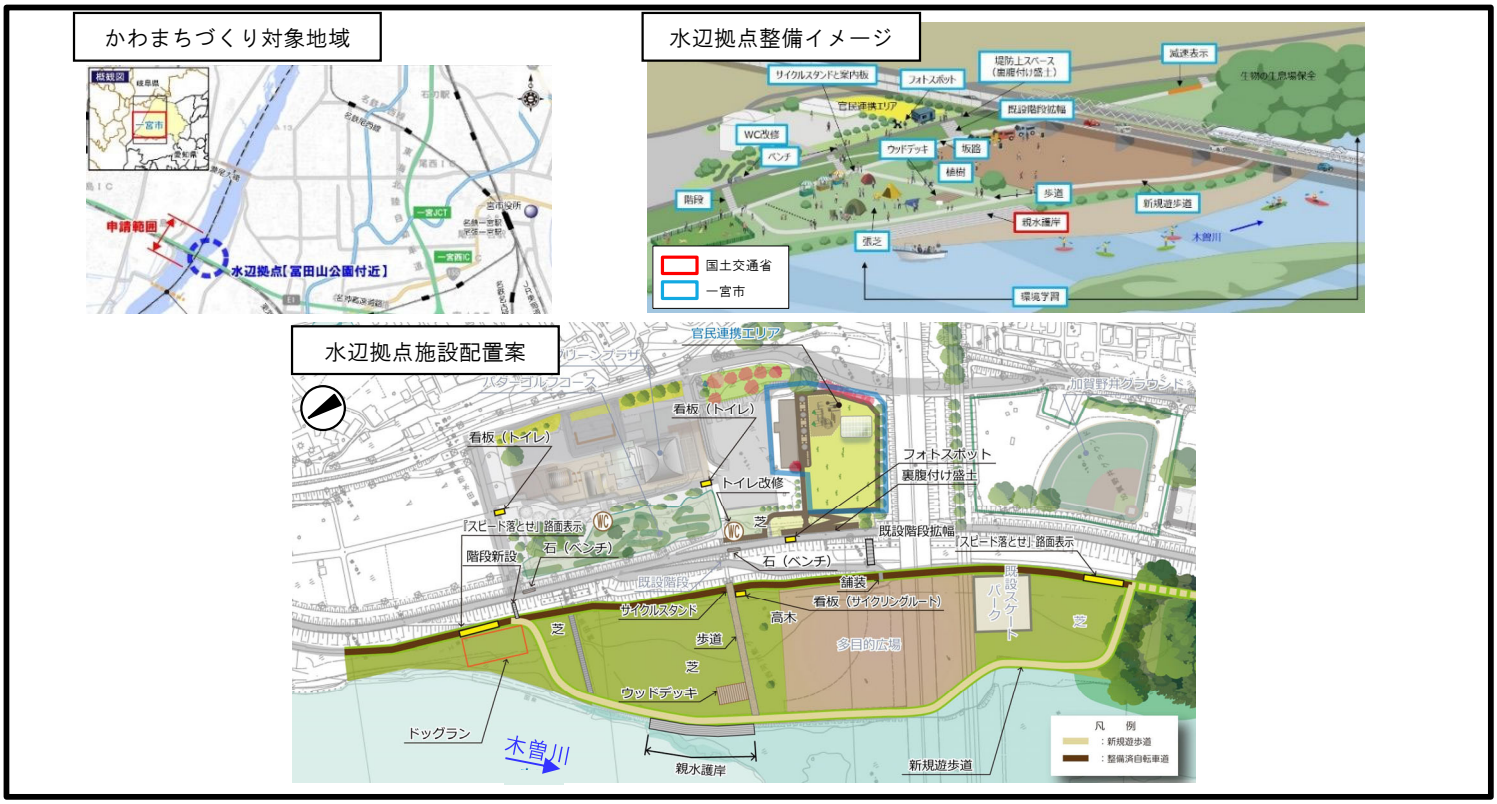
国土交通省では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備のほか、河川空間において営利活動を実施する場合には、河川敷地占用許可準則第22に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　親水護岸
一宮市　：　遊歩道、裏腹付盛土、芝、トイレ、案内看板、ウッドデッキ、サイクルスタンド　等

3. ソフト施策の内容

国土交通省　：　都市・地域再生等利用区域の指定　等
一宮市　：　サイクリング等の利活用促進、環境・舟運に関する教育、市民等と連携したイベント、推進体制の構築　等
民間企業等　：　イベント開催等



※今後、工事実施のための詳細な設計等を実施することにより、実施内容を変更する場合があります。

一宮西部地区かわまちづくり

木曽川水系木曽川（愛知県一宮市）【直】

事業実施の効果



草が繁茂して、水辺に近づけない

事業実施後の効果が分かる写真

説明文・・・・・・・・・・・・・・・

河川区域の利用者数

2020年時点の31.0～33.0kの河川区域の利用者数は、水辺の国勢調査によると19.9万人である。市民WEBアンケートでは、冨田山公園と周辺河川区域の利用者は、かわまちづくりの整備により概ね訪問頻度を2倍増やすと回答しており目標値を以下通り4万人増として設定する。

	高水敷		水面・水際	堤防	合計	改め	集計期間
	スポーツ	散策・その他	水辺(左の他)	散策・その他			
現状	159,288	28,637	123	11,311	199,359	**199,000**	2020年
目標	159,288	57,274	246	22,622	239,430	**239,000**	2030年開業直後
増加	0	28,637	123	11,311	40,071	**40,000**	

事業実施の効果

事業実施前の状況写真等

説明文・・・・・・・・・・・・・・・

事業実施後の効果が分かる写真

説明文・・・・・・・・・・・・・・・

指標名　●●

効果（定量評価or定性評価）

事業実施の効果

事業実施前の状況写真等

説明文・・・・・・・・・・・・・・・

事業実施後の効果が分かる写真

説明文・・・・・・・・・・・・・・・

指標名　●●

効果（定量評価or定性評価）

一宮西部地区かわまちづくり

木曽川水系木曽川（愛知県一宮市）【直】

ソフト施策



水辺で乾杯



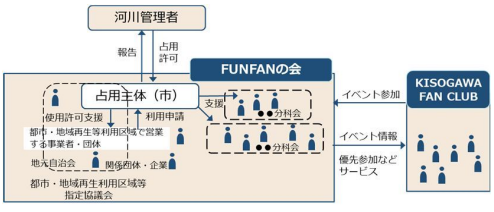
きそがわリバーサイドライド

実施写真
またはイメージ
(写真の説明も記載すること)

実施写真
またはイメージ
(写真の説明も記載すること)

＜参画機関＞

・かわまちづくり協議会を母体に「FUNFANの会」を立ち上げる。
・将来的に、持続的な運営をめざした、都市・地域再生等利用区域の運営、かわまちエリア及び冨田山公園全体のマネジメント・維持管理を行う指定管理者制度等の導入を目指す。



＜水辺空間の利活用状況＞
○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・水辺で乾杯の実施（令和7年7月5日）
・きそがわリバーサイドライドの実施（令和7年9月27日）
（サイクリングイベント）

・都市・地域再生等利用区域の指定に向けて検討していく

＜かわまちの運営（維持管理）＞

・施設の維持管理については、施設管理者が行う
国交省：親水護岸
一宮市：芝生広場、遊歩道、ドッグラン、多目的広場など

・将来的には冨田山公園と連動した指定管理者制度の導入を想定

04 かわまちづくり計画　事例集

近畿地方整備局管内

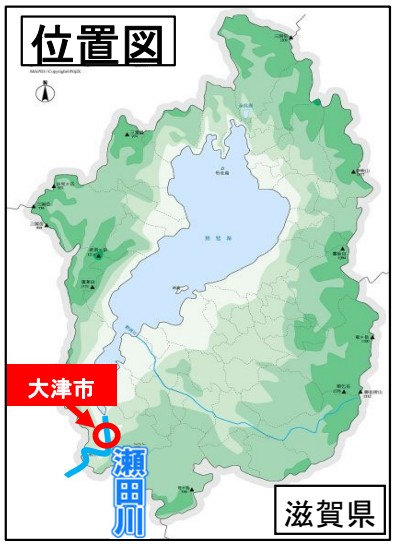
「瀬田川かわまちづくり」（滋賀県大津市）

登録年月日：H21.5.22
事業年度：H21～H26

対象河川　：　1級河川　淀川水系瀬田川　【国管理河川】

市町村名　：　滋賀県大津市

推進主体　：　大津市



1. 概要

大津市では、瀬田川沿川において、川の文化・交流施設や歴史・観光施設が多くあることから、瀬田川高水敷・散策路を利用して、様々な行事が開催されており、水辺の賑わい創出に取り組んでいます。

この取組を充実させるため、本計画では、環境に配慮した護岸や河川管理用通路を整備することにより、巡視・点検が効率的に行えるとともに、水辺利用者が、瀬田川沿川の文化・交流施設や歴史・観光拠点間を、安全で快適に移動することを図ります。

2. ハード施策の内容

国土交通省：高水敷、管理用通路

滋賀県：夕照の道、大津市：水辺のプロムナード、唐橋公園

3. ソフト施策の内容

・石山寺（牛玉さん）　・石山寺（青鬼まつり）　・瀬田の唐橋（夏のライトアップ）　・石山寺・瀬田川川岸（石山寺千日会と瀬田川に煌めく炎のページェント祭）　・建部大社・瀬田川（船幸祭）　・石山寺（石山寺秋月祭、紅葉の石山寺ライトアップと夜間参拝）　・瀬田川（観光船）　・琵琶湖漕艇場（水上競技：レガッタ・カヌー他）



瀬田川かわまちづくり【完】

淀川水系瀬田川（滋賀県大津市）【直】

事業実施の効果

事業実施前



管理用通路整備前

事業実施後



管理用通路整備後(沿川の観光施設への周回の利便性が向上

指標名　スポーツイベント

効果

・朝日レガッタ
10,000人(H26)→10,700人(R元)

事業実施の効果

事業実施前



管理用通路整備前

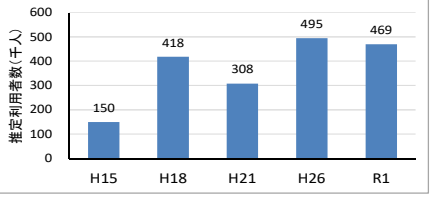
事業実施後



管理用通路整備後(沿川の観光施設への周回の利便性が向上

指標名　水辺空間利用者

効果



瀬田川かわまちづくり【完】

淀川水系瀬田川（滋賀県大津市）【直】

ソフト施策

瀬田川沿川には、川の文化・交流施設や歴史・観光施設が多くあることから、瀬田川高水敷・管理用通路を利用して以下のような様々な行事が開催されており、整備中の事業とあわせ水辺の賑わいを創出する。

・石山寺（牛玉さん）
・石山寺（青鬼まつり）
・瀬田の唐橋
（夏のライトアップ）
・石山寺・瀬田川川岸
（石山寺千日会と瀬田川に煌めく炎のページェント祭）
・建部大社・瀬田川（船幸祭）
・石山寺（石山寺秋月祭、紅葉の石山寺ライトアップと夜間参拝）
・瀬田川（観光船）
・琵琶湖漕艇場
（水上競技：レガッタ・カヌー他）

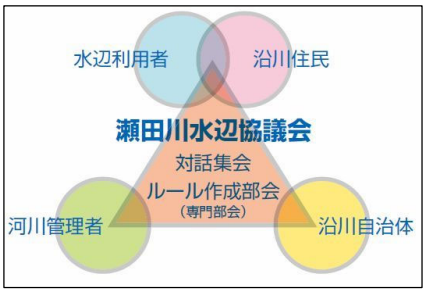


＜水辺空間の利活用状況＞
○かわまち計画範囲内の占用許可状況

〇公園
・大津市　唐橋公園（S44.12～）
他2ヶ所
〇係留施設
・レークウエスト観光(株)　（H23.2～）
他30ヶ所

＜参画機関＞

●瀬田川水辺協議会
瀬田川水辺協議会は、水辺のあり方について検討することを中心に、瀬田川に関するテーマについて協議し、その協議内容を今後の瀬田川の整備・利用のしかたに反映させることを目的としている。
委員は、学識経験者、地元住民代表、利用者代表、自治体関係者（滋賀県、大津市）河川利用者で構成されている。



＜かわまちの運営（維持管理）＞

・河川管理者：高水敷・管理用通路の維持管理
・滋賀県：夕照の道の維持管理、案内・誘導看板、標識の設置
・大津市：公園、水辺プロムナードの維持管理、案内・誘導看板、標識の設置
・地元住民・NPO：日常の清掃活動、観光案内、マップの作成・配布



瀬田川クリーン作戦（令和5年10月22日）

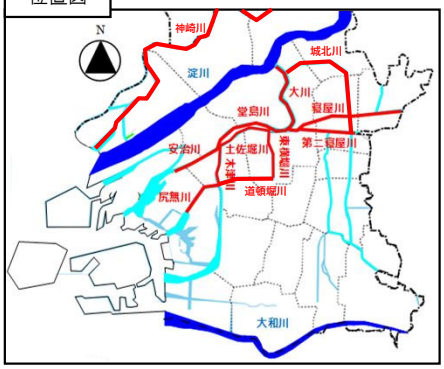
【H21年度】

「大阪市かわまちづくり」（大阪府大阪市）

登録年月日：H.21.5.22
事業年度：H21～R2

対象河川　：　一級河川　淀川水系道頓堀川他　【市管理河川】
市町村名　：　大阪府大阪市
推進主体　：　大阪市

位置図



1. 概要

「水都大阪」の再生を目指し、まちと一体となった河川空間の創出
並びに舟運の活性化を図る。

2. ハード施策の内容

大阪府　：　船着場整備、遊歩道整備　等
大阪市　：　河川護岸の耐震化、親水施設整備　等

3. ソフト施策の内容

大阪市　：　都市・地域再生等利用区域の指定、検討会の運営、業務委託の締結　等
民間　　：　舟運、オープンカフェ運営、イベント実施　等



整備後のにぎわい創出の状況



映画PRの実施



難波八坂神社船渡御の実施



整備前の状況



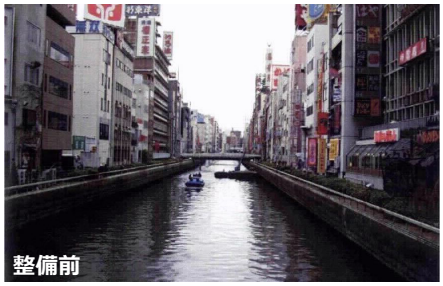
整備後の状況



オープンカフェの利用

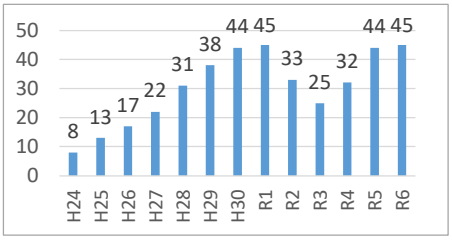
大阪市かわまちづくり【完】

事業実施の効果

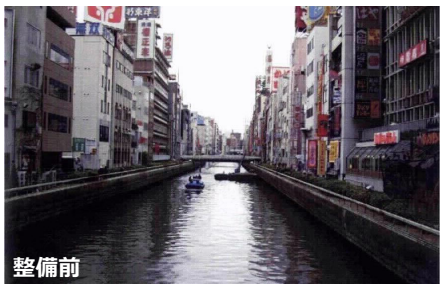




オープンカフェ設置件数

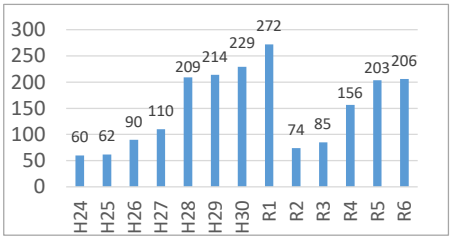


事業実施の効果

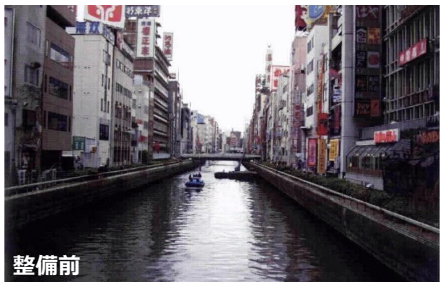




イベント実施回数

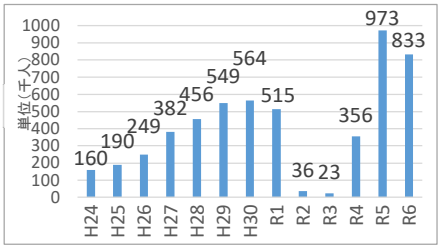


事業実施の効果





観光船乗降客数(道頓堀川)



大阪市かわまちづくり【完】

淀川水系道頓堀川他（大阪府大阪市）【補】

ソフト施策

道頓堀川　イベント（映画PR）



旧淀川（土佐堀川）　北浜テラス（川床）



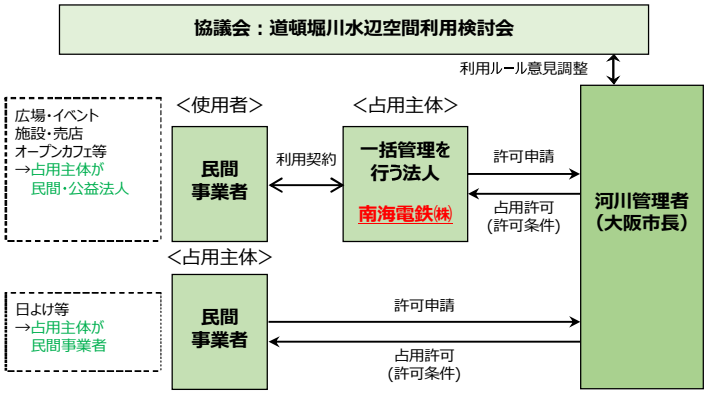
旧淀川（堂島川）中之島にぎわいの森



東横堀川　β本町橋



＜参画機関＞



＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況(道頓堀川)

・河川敷地占用許可準則22条による、都市・地域再生等利用区域の指定がされており、オープンカフェやイベント等が実施されている。

→　オープンカフェ：45件（令和6年度）

　　イベント　　：206件（令和6年度）

＜かわまちの運営（維持管理）＞

○施設整備後の維持管理状況（道頓堀川の事例）

日常管理

・大阪市が占用主体である南海電気鉄道（株）に維持管理（清掃・警備・にぎわいづくり等）について業務委託を締結しており、遊歩道を美しく維持していくための清掃については、管理運営主体である南海電鉄が近隣商店会・地元地域や沿川店舗等と連携しながら実施している。

施設の管理

・施設老朽化等に伴って必要となる修繕は、大阪市で実施する。また修繕が必要な状況を管理運営主体が発見した場合には、管理運営主体にて現場保全措置をとったのち、大阪市に報告を求めている。

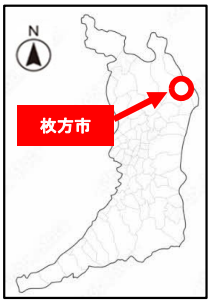
【H21年度】自然を生かし、自然を楽しむ天野川・穂谷川

「枚方市かわまちづくり」（大阪府枚方市）

登録年月日：H.21.5
事業年度：H21～H23

対象河川　：　一級河川　淀川水系天野川・穂谷川【府管理河川】
市町村名　：　大阪府枚方市
推進主体　：　枚方市

位置図



1. 概要

枚方市かわまちづくりは、枚方駅前周辺基本整備構想に位置付けられている天野川周辺整備の一環とし実施されるものであり、市街地における憩いのスペースとして、また周辺まちづくりにおいて重要な役割を果たす回遊性を高める整備として必要である。その実施に当たっては、地域住民とのワークショップを開催し整備計画に反映させた魅力あふれる水辺空間の整備を行う。

また、水辺における様々なイベントを地元商店会や自治会等と連携して行い、まちの賑わいを創出する。

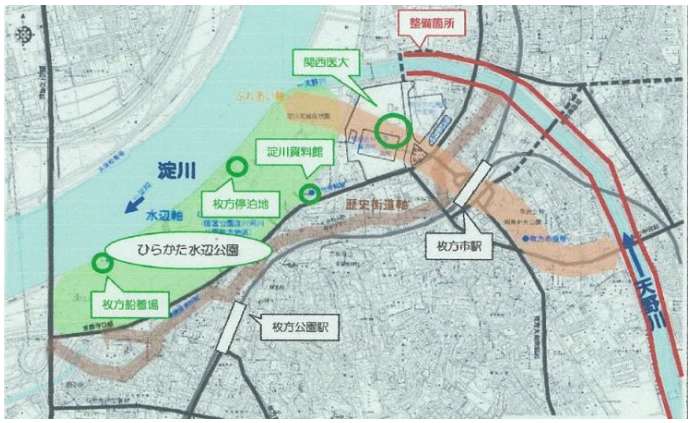
2. ハード施策の内容

大阪府　：　側帯、河川管理用通路、低水護岸、遊歩道、桜堤整備

3. ソフト施策の内容

枚方市　：　河川空間を活用したイベント

平面図



地域との連携

ひらかた七夕まつり



こどもゆめのほしフェスタ



整備前（天野川）



整備後（天野川）



桜まつり



枚方市かわまちづくり【完】

淀川水系天野川・穂谷川（大阪府枚方市）【補】

事業実施の効果



整備前（天野川）



整備後（天野川）

地域のコメント

本地域の景観や歴史・文化観光資源を活用し、市民が憩えるイベントを実施することにより、まちの賑わいを創出する。

事業実施の効果



天野川（整備後）



ゆめのほしフェスタ

ひらかた七夕まつり

七夕伝説ゆかりの地といわれる本地域において「ゆめのほしフェスタ」を実施。多くの来場者で賑わう。

枚方市かわまちづくり【完】

淀川水系天野川・穂谷川（大阪府枚方市）【補】

ソフト施策

令和７年７月４日～７日
ひらかた七夕まつり
イルミネーションやキッチンカー



令和７年７月６日
こどもゆめのほしフェスタ
子どもたちが絵を描いたランタンを川に流すなど



３月ごろ　桜まつり
桜を見ながら人力車や飲食



＜参画機関＞

・一般社団法人くらわんか観光マネジメント
・一般社団法人こどもゆめのほしプロジェクト
・枚方ローズライオンズクラブ

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

該当なし

＜かわまちの運営（維持管理）＞

・施設整備後の維持管理状況
➡桜の維持管理、東屋の維持管理（枚方市）、地元ボランティアによる清掃活動等を行っている。

【H21年度】市のシンボルにふさわしい魅力ある寝屋川の再生

「寝屋川市かわまちづくり」（大阪府寝屋川市）

登録年月日：H21.5.22
事業年度：H21～H25

対象河川　：　一級河川　淀川水系寝屋川【府管理河川】
市町村名　：　大阪府寝屋川市
推進主体　：　寝屋川市



1. 概要

寝屋川市は大阪府の北東部、淀川左岸に位置し、大阪市の中心部まで15km、京都市の中心部まで35kmの距離にあり市域の東部は交野市から四条畷市の丘陵にあたり、西部は淀川に沿う低地となっている

また、「寝屋川市」という河川名が市名になっていることもあり、寝屋川をまちのシンボルとし、市街地の貴重なオープンスペースを活かしたまちづくりを進めている。

2. ハード施策の内容

○大阪府：護岸、遊歩道、親水空間整備など
○寝屋川市：公園整備など

3. ソフト施策の内容

○寝屋川市：河川清掃　など

クリーンリバー寝屋川作戦



＜クリーンリバー寝屋川作戦（春・秋）＞

年2回、春と秋に市民・地元大学・企業・府・市協働で、清掃を行っている。

＜川勝水辺ひろば生物観察＞

小～高学校の生徒による生物観察があり様々な動植物の観察をし自然豊かな寝屋川を満喫していた。





＜船・カヌーなど浮かせで水辺で遊ぶ＞

地元大学生が中心となり市民とコミュニケーションを取り水遊びの楽しさや怖さを学ぶ場所になっている。

事業実施の効果





クリーンリバー寝屋川作戦

クリーンリバー寝屋川作戦（春・秋）

○令和2～4年度　コロナ・雨天の為中止
○令和5年度（春秋開催）138人参加
○令和6年度（春秋開催）160人参加
○令和7年度（春：雨天の為中止）

事業実施の効果





川勝水辺ひろば環境整備

○令和3年度　川勝水辺ひろば整備活動
2回　33人
○令和5年度　川勝水辺ひろば自然観察会
1回　17人

寝屋川市かわまちづくり【完】　淀川水系寝屋川（大阪府寝屋川市）【補】

ソフト施策









＜参画機関＞

寝屋川再生ワークショップ
ねやがわ水辺クラブ
クリーンリバー寝屋川作戦実行委員会
地元自治会、市民
地元企業
他

＜水辺空間の利活用状況＞

川勝水辺ひろば及び幸町公園水辺のつどいを実施（不定期）
幸町公園水辺の集いは平成28年度まで。
平成29年度以降は川勝町水辺の集いへ移行

施設整備後の維持管理状況

クリーンリバー寝屋川作戦実行委員会主催の
クリーンリバー寝屋川作戦を年２回実施

＜かわまちの運営（維持管理）＞
令和2～4年春（5月）までコロナの影響により中止
令和4年秋については雨天中止
令和5年春・秋含め138名参加
令和6年春・秋含め160名参加
令和7年春　雨天により中止
年1回程度の水辺の集い（川勝町）を実施
令和3年度からは未実施

【H21年度】水辺の歴史を巡るにぎわい空間の創出

「今宿・中広瀬地区かわまちづくり」（兵庫県宍粟市）

登録年月日：H.21.5.22
事業年度：H21～H29

対象河川　：　1級河川　揖保川水系揖保川　【国管理河川】
市町村名　：　兵庫県宍粟市
推進主体　：　宍粟市

位置図



1. 概要

今宿・中広瀬地区かわまちづくりは、宍粟市の都市計画マスタープランにおいて、「都市計画区域の整備方針として河川周辺の緑化や親水公園等の整備、および自然環境、景観に配慮した護岸改修などを図る」とある。

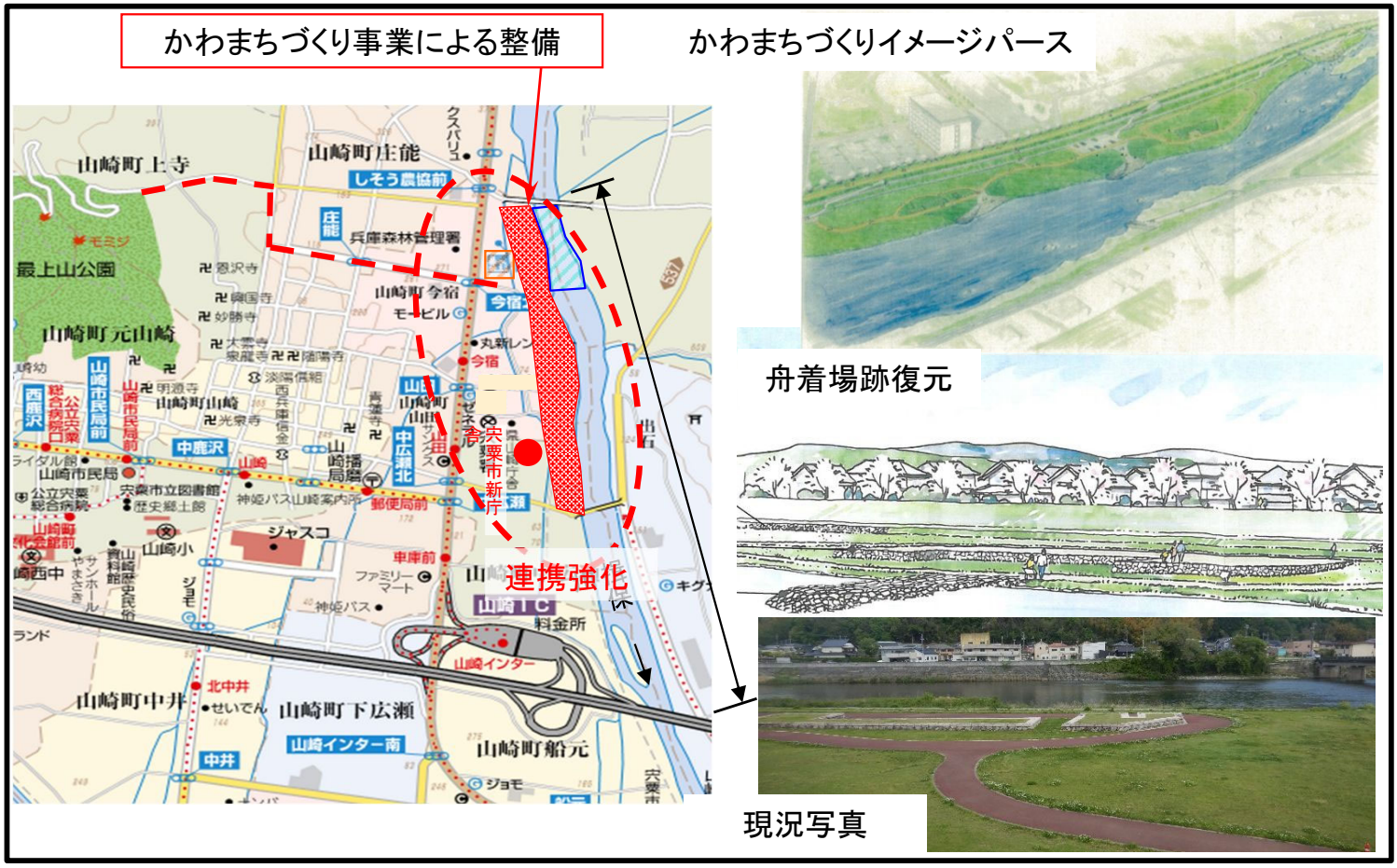
これにより、揖保川のうち宍粟市内を流れる区域（今宿、中広瀬地区）において、河川改修と併せたアメニティ空間の創出を図り、一体的な整備により山崎地区の中心市街地活性化を進めると共に、親水性を活かした魅力的な水辺等環境空間の創出を図る。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　舟着場跡復元、親水空間・階段整備、スロープ設置　等
宍粟市　：　石積み復元、散策路整備、わんど造成、交流広場・桜並木整備　等

3. ソフト施策の内容

国土交通省　：　宍粟市を占用者として、地元自治会と連携して河川空間の活用を図る　等
宍粟市　：　かわまちづくりで整備を行った交流広場におけるイベントの主催　等

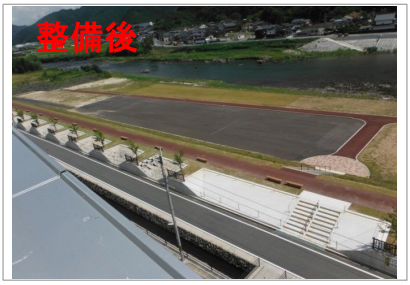


今宿・中広瀬地区かわまちづくり【完】

揖保川水系揖保川（兵庫県宍粟市）【直】

事業実施の効果





事業実施の効果



整備前は無堤のため河川敷が無く、夏場に少数の利用のみ



事業実施の効果



整備前は民地等のためイベント利用者無し



指標名　住民の声

地域住民の声

・水辺に「にぎわい」を創り出し交流と連携による、「まちおこし」の拠点づくりをすすめたい。
・安心して暮らせる河川整備の早期完成を望みます。
・雑草だらけの河川敷がきれいな公園となり、とてもうれしい！

今宿・中広瀬地区かわまちづくり【完】

揖保川水系揖保川（兵庫県宍粟市）【直】

<ソフト施策内容>

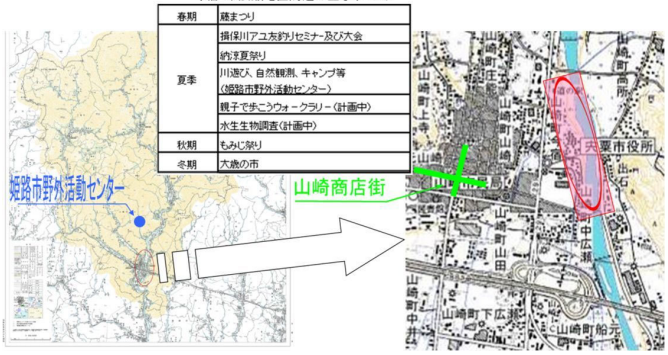
○宍粟市
・7月　揖保川アユ友釣り大会
・8月　山崎納涼夏祭り
・9月　宍粟市消防団操法大会
・「みんなで創る夢の小径事業」として、市民参加による思い出陶板の制作。焼き上げた陶板を沿道に貼り付けることにより、何度でも訪れたくなるような愛着ある遊歩道整備を展開

○今後の展望

・全体施設の供用後、市内の小学校、保育園・幼稚園を対象とした「水生生物調査」の実施や、市民参加による「親子ウォークラリー」の開催を予定

今宿・中広瀬地区周辺の主なイベント

春期	桃まつり
夏季	揖保川アユ友釣りセミナー及び大会
	納涼夏祭り
	川遊び、自然観測、キャンプ等（姫路市野外活動センター）
	親子でまちウォークラリー（計画中）
	水生生物調査（計画中）
秋期	もみじ祭り
冬期	大歳の市



<水辺空間の利活用状況>

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・水際～堤防にかけては宍粟市が占用
・二次占用は無し。

今後の展望

・特になし

<参画機関>

・かわまち計画策定にあたって、揖保川地域委員会を設立、委員として地元の役員、郷土研究会の代表者、揖保川漁業協同組合、県土木等の参加により意見交換会の場として「かわまちづくり会議」を住民主導で開催

○今後の展望

・市内の各種団体（教育委員会・子供会・商工会等）と、イベント利用について協議予定

<かわまちの運営（維持管理）>

・せせらぎ公園（都市公園）として市で維持管理を行う。
・除草作業については国土交通省と市で、管理範囲を定め実施する。（堤防法面は国土交通省）

【H21年度】

「橋本地区かわまちづくり」（和歌山県橋本市）

登録年月日：H21.5.22
事業年度：H21～H29

対象河川　：　一級河川　紀の川水系紀の川　【国管理河川】
市町村名　：　和歌山県橋本市
推進主体　：　橋本市



1. 概要

歴史街道のまち 橋本地区かわまちづくり事業は、橋本市の地域計画と連携･調整し、水辺の安全性・親水性の向上を図るとともに、新たな憩いの場と水辺にふれあうことのできる水辺空間の創出を目的としている。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　河川管理用通路、親水護岸、階段護岸
橋本市　：　ちびっこ公園、みはらし公園、紀の川公園設置

3. ソフト施策の内容

橋本市　：　歴史街道案内板の設置



橋本地区かわまちづくり【完】

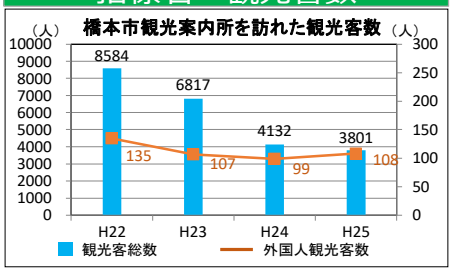
紀の川水系紀の川（和歌山県橋本市）【直】

事業実施の効果





指標名　観光客数

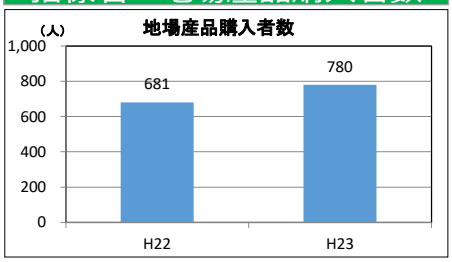


事業実施の効果





指標名　地場産品購入者数



事業実施の効果





指標名　事業主の想い

まちづくり事業と一体となった紀の川の親水護岸工事が終わり、紀の川の自然とふれあう憩いの空間が形成され徐々に人々の利用が始まっています。

今後は、橋本市の区画整理事業の進捗にあわせ、もっと多くの方に訪れてもらいたい、訪れてもらえるように事業を進めたいと思っています。

（橋本市建設部市街地整備課長）

橋本地区かわまちづくり【完】

紀の川水系紀の川（和歌山県橋本市）【直】

ソフト施策：歴史街道案内板の設置



＜参画機関＞

橋本市

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

特になし

＜かわまちの運営（維持管理）＞

施設整備後の維持管理状況

・委託による公園敷地内の清掃

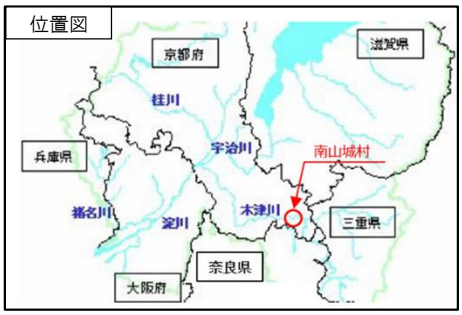
・地元区による清掃活動

【H21年度】未来を想像する潤いに満ちた元気むらをめざして

「南山城村地区かわまちづくり」（京都府南山城村）

登録年月日：H21.8.7
事業年度：H21～H23

対象河川　：　一級河川　淀川水系木津川　【国管理河川】
市町村名　：　京都府南山城村
推進主体　：　南山城村



1. 概要

南山城村総合計画では、「未来を想像する潤いに満ちた元気むらをめざして」をテーマに「水と緑の豊かな環境づくり」として自然環境の保全・育成が位置づけられている。

本事業は河川管理用通路等を整備することにより、村の中核施設が集中して隣接している地域に環境学習等の安全な河川敷利用、水防訓練等多目的な活動が可能となるような事業を実施するものである。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　管理用通路、高水敷整正、階段・坂路
南 山 城 村　：　桜並木、展望デッキ、テーブルベンチ

3. ソフト施策の内容

南 山 城 村　：　四季折々のイベント開催









南山城村地区かわまちづくり【完】

淀川水系木津川（京都府南山城村）【直】

事業実施の効果





指標名　利活用状況

効果（地域住民の声）

・やまなみホールエントランスからは木津川の風景が見渡せ、開放的で癒されます。（村内在住・女性）

・河川敷でのイベント件数
整備前0件　⇒　整備後年数回程度

事業実施の効果





指標名　利活用状況

効果（観光客等の声）

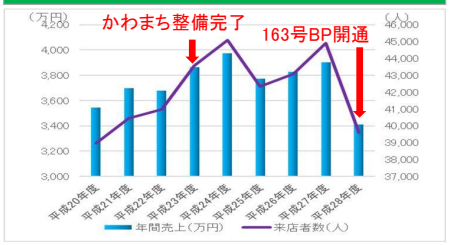
・屋外で聞く音楽がよかったです。
（精華町在住）
・にぎやかで非常に良い雰囲気でした。
（奈良県生駒市在住）

事業実施の効果





整備箇所に近接する農林産物直売所
来店者数と売上の推移



南山城村地区かわまちづくり【完】

淀川水系木津川（京都府南山城村）【直】

ソフト施策









＜参画機関＞

南山城村

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

特になし

＜かわまちの運営（維持管理）＞

施設整備後の維持管理状況

→南山城村や地元住民等により、除草、清掃、基盤補修（出水による流失対応）等に維持管理が適切に行われている。

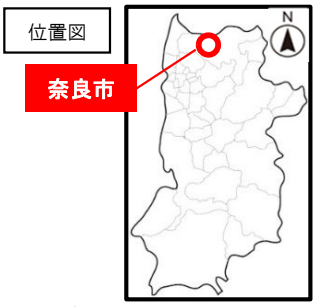
【H21年度】

「佐保、西の京地区かわまちづくり」（奈良県奈良市）

登録年月日：H.21.8.7
事業年度：H21～H25

対象河川　：　1級河川　大和川水系佐保川・秋篠川　【県管理河川】
市町村名　：　奈良県奈良市
推進主体　：　奈良市

位置図



1. 概要

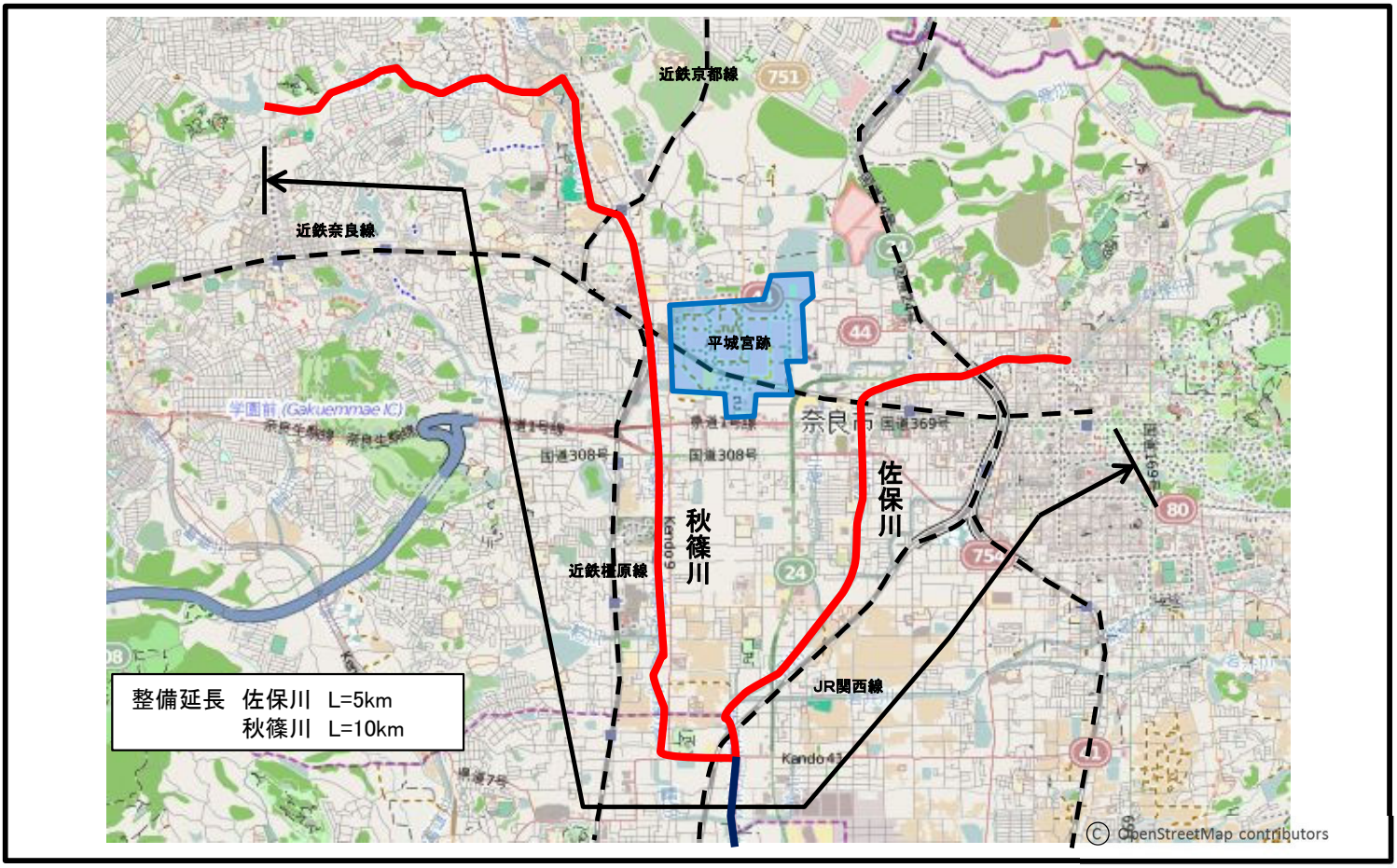
当該区間は、周辺に唐招提寺や薬師寺が存在すると共に、平城京跡を南下しており、奈良時代には当河川が舟運として利用されていた。平城京を中心とした河川軸（佐保川・秋篠川）に基づき様々な整備が行われている。佐保川では５ｋｍにわたり桜並木が市民の憩いの空間として永年親しまれ、「水辺の楽校」も設けられ環境学習等により積極的な利活用が図られている。また秋篠川の上流部においても桜が植樹され、「自転車道」等により、地域の住民によって親しまれてきた。堤防天端及び堤防側帯部に遊歩道を整備し、川と一体となって歩ける水辺空間を整備する。

2. ハード施策の内容

奈良県：　遊歩道ネットワーク整備・護岸整備　等

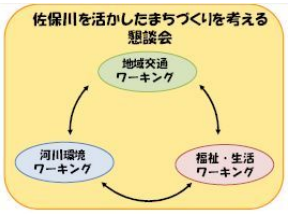
3. ソフト施策の内容

－



事業実施の効果

佐保川及びその周辺の河川空間と地域の連携を活かし、健康で癒される空間を形成することにより、子供から高齢者まで多世代がいきいきと暮らせるまちづくりを目指し、「佐保川を活かしたまちづくりを考える懇談会」を設立。




花植え


観察会


オープンカフェ


ふるまいカレー

地域連携の輪を拡大

地域での連携の輪をひろげるとともに、河川空間を活かした「いきいきと暮らせるまちづくり」を推進。

←まちを良くするために自治会、周辺施設、行政が各々何ができるのか考え、試験的に行うイベントを実施

事業実施の効果

国土交通省 近畿地方整備局
国営飛鳥歴史公園事務所提供







観光ネットワーク

遊歩道を整備することにより、平城宮跡や西の京地域（唐招提寺、薬師寺等）をネットワーク化。人が集まり集う空間を創造。

佐保、西の京地区かわまちづくり【完】
大和川水系佐保川、秋篠川（奈良県奈良市）【補】

地域と一体となって楽しめる水辺空間に！

水辺空間の利用状況

地元住民等による沿川での清掃活動や花の植栽等河川美化啓発活動数の増加を図り、かつ、環境学習やイベント等による河川敷の利用者数の増加を図る。


環境学習（リバーウォッチング）


コンサート

かわまちの運営（維持管理）

奈良県では地域サポート事業として、地域住民等が主体的に行う河川の草刈、花の植栽、清掃等の河川美化活動を支援しており、憩いと潤いのある河川空間の創出を図るとともに、地域と連携し効果的・効率的な維持管理を目指している。


地元住民等による河川清掃活動

【H21年度】

「大和郡山市かわまちづくり」（奈良県大和郡山市）

登録年月日：H21.8.7
事業年度：H21～H22

対象河川　：　一級河川　大和川水系佐保川　【国管理河川】
市町村名　：　奈良県大和郡山市
推進主体　：　大和郡山市



1. 概要

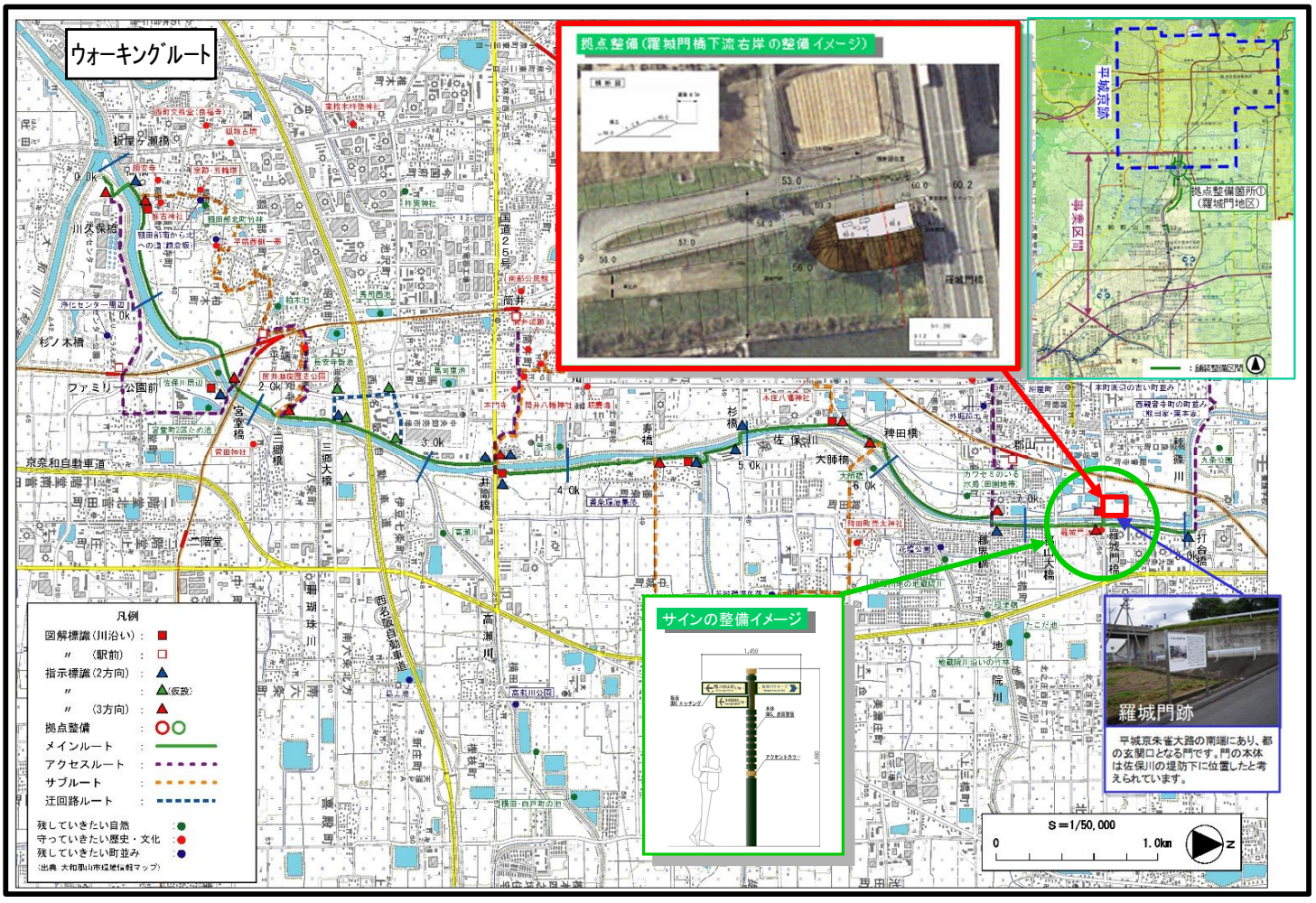
「大和郡山市都市計画マスタープラン」では、「将来都市構造」において、佐保川は、各地の公園、水辺空間等を有機的につなぎ、生活に潤いを与える“水と緑の連携軸”として位置付けています。また、2010年に平城遷都1300年、2012年に古事記1300年という節目を迎えた佐保川流域は、平城京跡をはじめ、環濠集落(跡)、請堤(順慶堤)など、歴史、文化、自然資源が多数分布し、河川に関わりを持つものがあります。

それらの地域資源と河川空間を有効に活用するネットワーク型の整備を行い、地域活性化及び観光振興を図っています。

国土交通省では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備のほか、河川空間において営利活動を実施する場合には、河川敷地占用許可準則第22に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　河川管理用通路(天端舗装)、拠点整備　　大和郡山市　：　羅城門橋高欄取替、案内標識設置



大和郡山市かわまちづくり【完】

大和川水系佐保川（奈良県大和郡山市）【直】

事業実施の効果

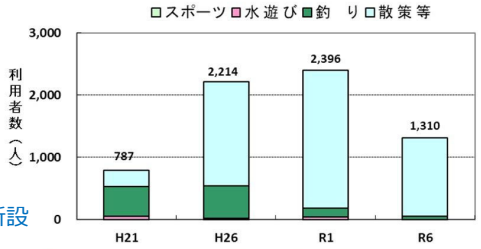


河川管理用通路だけが・・・



休憩・展望できるオープンスペースを新設

指標名　空間利用実態調査



事業実施の効果



降雨後には歩きづらかった道路が・・・



散策に適した道路に

利用者の声

羅城門橋から真北を一望すると平城京跡が見え、復元された朱雀門と大極殿を見ることができるポイントです。
（40代男性・大和郡山市在住）

事業実施の効果



目立たない場所にある案内板の老朽化が・・・



人目に付く橋梁の高欄に新設

社会実験アンケート結果

社会実験全体に対する自由意見

自由意見
堤内地に休憩所や花壇などを整備して、地域の方に管理や活用をしてもらえる仕組みを作れれば。今日はありがとうございました。大変おつかれ様でした。
今日は10月にしてはかなり暑かった。日陰があると良いのではと感じる（東屋など）
六地蔵は地域との兼ね合い上むずかしいかもしれないが、案内板などあればいいのでは
増々きれいで住民に親しみのあるエリアにしていただければと思います
郡山周辺も奈良と同様名所づくり（桜の植樹等）をして戴きたい
川ぞいの道の植物が多く、川に降りにくそうなので、一部でも降りられるように刈って欲しい
一番最後の歌碑で何かイベントをということでしたので、梅も植えて梅酒会など。桜の時期も日本酒会など良いかも（歌をながして風流に）。ガイド中に日本酒の話もあったので。
水鳥がたくさんいたので、この生き物が生活しやすい護岸が望ましいと思う
周辺の景観に配慮してデザインしてほしい
子供が楽しめる開発をお願いします

大和郡山市かわまちづくり【完】

大和川水系佐保川（奈良県大和郡山市）【直】

ソフト施策



ウォークマップの作成





羅城門跡を説明する案内板

＜参画機関＞

・大和郡山市



番条環濠集落



羅城門跡

佐保川ガイドウォーク(社会実験：令和4年10月22日)
参加団体：大和郡山市観光協会、大和郡山市ボランティアクラブ

＜水辺空間の利活用状況＞
○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・占用許可はなし

＜かわまちの運営（維持管理）＞

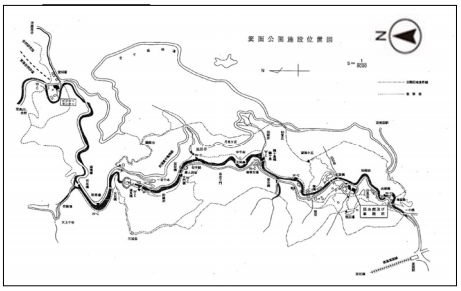
・国：河川管理施設補修などの維持管理
・大和郡山市、地域住民等：清掃活動などの日常管理

【H22年度】ココロときめく 優雅なひととき 箕面川床

「箕面市かわまちづくり」（大阪府箕面市）

登録年月日：H23.3.31
事業年度：H21～

対象河川 ： 一級河川 淀川水系箕面川 【府管理河川】
市町村名 ： 大阪府箕面市
推進主体 ： 箕面市



1. 概要

大阪府箕面市の箕面公園内を流れる一級河川箕面川は、箕面大滝をはじめとした自然環境に恵まれ、多くの観光でにぎわっていますが、護岸の老朽化が進んでおり、崩壊の危険性を有する箇所も多く、また一部計画断面の不足する箇所も存在します。このため、かわまちづくり事業として治水上及び河川利用上の安全・安心にかかる護岸の整備や、転落防止柵の設置に併せて、親水護岸や河床（展望台）などの水辺空間整備を、一体的に行うことにより、箕面公園内の治水安全度を確保しつつ、豊かな自然環境と調和した、水辺のにぎわい空間を創出し、箕面川のさらなる魅力アップや地域の活性化を図ります。

2. ハード施策の内容

大阪府、箕面市、川床事業者 ： 石畳整備、河床整備、護岸補修、柵補修

3. ソフト施策の内容

箕面市 ： チラシ・パンフレット作成、HP・SNS掲載等の広報活動
川床事業者 ： 箕面川床店舗の運営









箕面市かわまちづくり【完】

淀川水系箕面川（大阪府箕面市）【補】

事業実施の効果

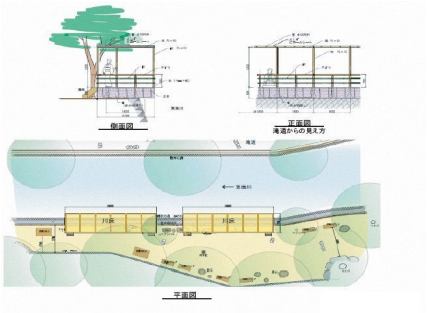
箕面川床設置前



梅屋敷



紅葉橋



地域のコメント

一級河川箕面川が流れる箕面公園のさらなる魅力アップや地域の活性化を目指し、箕面の豊かな自然環境の保全及び再生を図りつつ、これらの自然環境を活用した、箕面らしい水辺のにぎわいの創出及び渓流の景勝地としてブランド化を図っていきたいと考えている。

事業実施の効果

箕面川床設置前

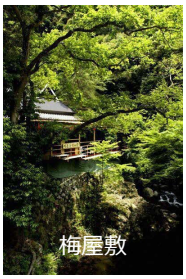


梅屋敷



紅葉橋

箕面川床設置後



梅屋敷



紅葉橋

箕面川床を実施することで、箕面らしい水辺のにぎわいの創出を図ることができた

箕面川床利用者数

（人）

R3	R4	R5	R6
2,137	3,388	3,769	4,439

H29年10月に発生した台風被害により、箕面公園内で通行止めが発生。H30年11月に開通したが、H30年営業期間中は通行止めの影響を受け、利用者が減少。
前述のような状況でありながらも、営業年数を重ねるごとに、リピーターが増加するなど、「箕面＝川床」が定着しつつある。
新型コロナウイルス感染症の影響を受け、R2、R3年は利用者が低迷したが、R4年度以降は回復傾向にある。

箕面市かわまちづくり【完】

淀川水系箕面川（大阪府箕面市）【補】

ソフト施策



ポスター・チラシを作成し、阪急電鉄各駅などで掲出・配架。



滝道のキャンドルロードイベント時も川床を営業。



箕面市観光協会などのHP、SNSで周知。



新緑カーニバル、サマーフェスタ箕面公園など箕面公園で実施するイベントと連携。

＜参画機関＞

・大阪府、箕面市、地元住民、有識者などで構成される箕面川床協議会が設置されている。
・今後も運営方法の検討などを行っていく。

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・河川敷地占用許可準則22条による、都市・地域再生等利用区域の指定がされており箕面川床が営まれている。
→２店舗

＜かわまちの運営（維持管理）＞

・現在、市内を流れる河川のうち箕面川、千里川、箕川、勝尾寺川では、9つのボランティア団体の方々が河川の清掃活動をされている。これらの河川は、いずれも大阪府管理の河川で、清掃用品の支給、保険の加入は大阪府、ゴミ袋の支給、ゴミの回収は箕面市が行い、府市共同で水辺の空間の清掃活動を支援している。
・また、大阪府および箕面公園の指定管理者と連携し、本事業で整備された水辺空間も含め、清掃活動を中心に、維持管理を行っていく。

【H24年度】

「若林地区(わかばやしちく)・太田地区(おおたちく)かわまちづくり」(大阪府八尾市(やおし))

登録年月日:H25.3.29
事業年度:H25～H26

対象河川 ： 一級河川 大和川(やまとがわ)水系大和川(やまとがわ)【国管理河川】

市町村名 ： 大阪府八尾市

推進主体 ： 八尾市



1. 概要

八尾市は、第5次総合計画「やお総合計画2020」の地域別計画で「水辺環境と緑を活かしたうるおいのまちづくり」として、地域と行政が連携し、施設整備や管理を進めた。既存の大和川河川敷公園及び河川防災ステーションと連携し、水辺とふれあえる空間整備を行い、日常的なレクリエーション利用や環境教育、防災学習と併せて非常時の水防活動等も含めて、大和川における総合的な活動拠点を整備した。

国土交通省では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備のほか、河川空間において営利活動を実施する場合には、河川敷地占用許可準則第22に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

国土交通省 ： 河川防護のための護岸の整備　　八尾市 ： 水防センター(コミュニティーセンター)の整備

3. ソフト施策の内容

八尾市 ： 日常的な水辺・河川管理施設の管理及び除草、清掃等の維持、いきもの観察会、水防啓発・訓練

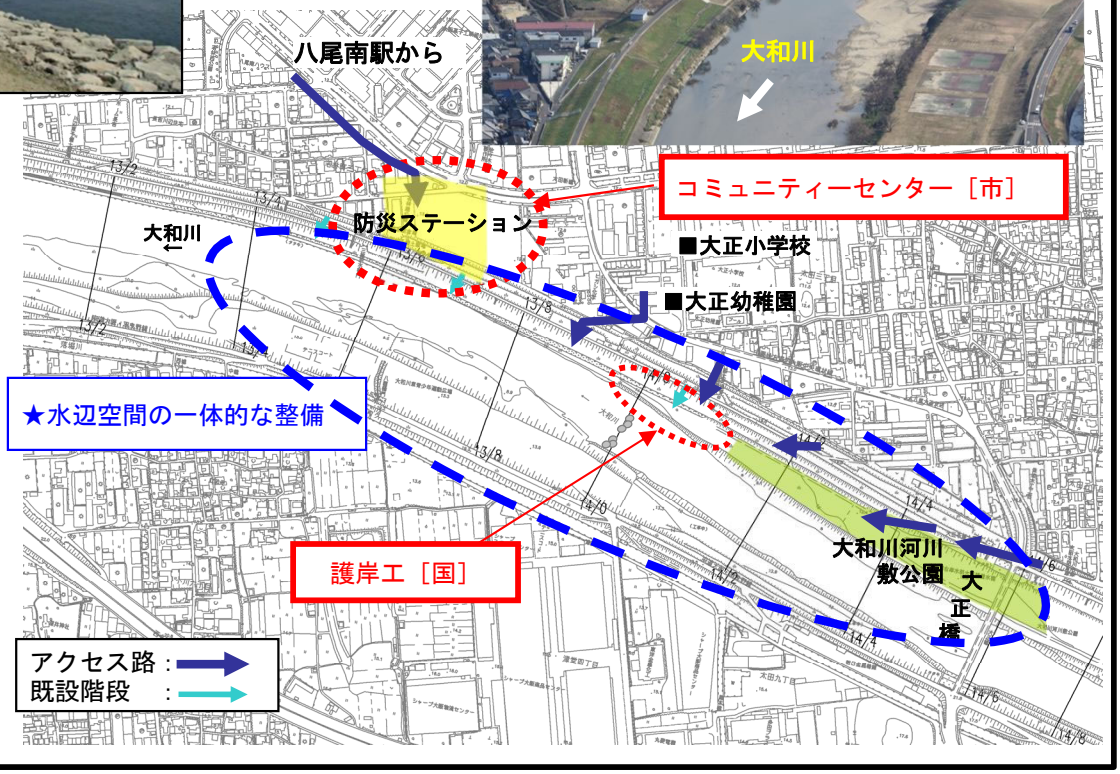












若林地区・太田地区かわまちづくり【完】

大和川水系大和川（大阪府八尾市）【直】

事業実施の効果

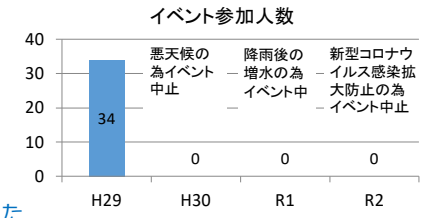


生物が棲むところが少なかった



わんどを整備し、生物が棲むところが増えた

指標名　イベント参加人数



事業実施の効果



整備前は水際へは近寄りがたかった



整備後はいきもの観察会などを実施

地域住民の声

子どものころから大和川の近くに住んでいて、大和川のイメージはずっと汚い川のままでしたが、地引網体験に参加し、イメージとの違いに驚きました。



若林地区・太田地区かわまちづくり【完】

大和川水系大和川（大阪府八尾市）【直】

ソフト施策





大和川いきもの観察会



水防啓発・訓練



わんどクリーンキャンペーン

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・平成２７年３月１１日付で、かわまちづくり計画にもとづき、自然観察施設の活用、遊歩道等の施設設置を目的として包括占用許可。

＜参画機関＞

・大正小学校区まちづくり協議会と八尾市が主催で、いきもの観察会等を実施し、近畿大学農学部、大阪府生物多様性センター、近畿地方整備局大和川河川事務所が協力している。

＜かわまちの運営（維持管理）＞

・平成２７年１月９日付で、大和川河川事務所と八尾市で管理協定を締結。

国：災害防除の施設等についての老朽化に伴う補修等

市：国が実施する以外の補修等及び日常的な除草、清掃、巡視等の維持

今後の展望

・堆積物等によるわんどの地形変化が進み、水深が浅くなっている。学識者などの助言により改変していくことを検討する。

【H25年度】ひとと魚にやさしい川づくり

「芥川かわまちづくり」（大阪府高槻市）

登録年月日：H.26.3.26
事業年度：H26～H31

対象河川　：　一級河川　淀川水系芥川　【府管理河川】
市町村名　：　大阪府高槻市
推進主体　：　高槻市



1. 概要

高槻市では、高槻駅前から摂津峡の周辺整備と一体となった水辺空間の整備により、河川沿いの点在する公園と融合する河川空間を創出し、高槻市が掲げる「住みやすさナンバーワン」のまちづくりを目指している。 本計画では、大阪府が河川管理用通路や親水護岸の整備等を行うとともに、高槻市が看板設置や照明灯の整備等を行うことにより、河川空間と公園空間が一体となった新たな都市空間を醸成し、地域の活性化を推進する。

2. ハード施策の内容

大阪府：　**遊歩道整備（左岸）、落差工（魚道）等**　　高槻市　：　看板設置　等

3. ソフト施策の内容

高槻市　：　イベント開催

「ひとと魚にやさしい川づくり」
・遊歩道の整備等を行い、芥川を中心に芥川桜堤公園から摂津峡公園を結ぶネットワークを構築します。



真如寺川により分断されている芥川の左岸に連絡橋を整備し、遊歩道の連続性を確保します





・アユの遡上等に必要な魚道の整備されていない落差工に、魚道を設置し、より魚にもやさしい川にしていきます。

ソフト施策


こいのぼりフェスタの実施状況


小学生を対象とした観察会


遊歩道イベントの実施状況


ふれあいフェスタの実施状況

＜参画機関＞

・かわまち計画策定にあたっては、芥川創生に取り組んできた「芥川・ひとと魚にやさしい川づくりネットワーク～愛称：芥川倶楽部」を構成する市民団体と検討をおこなった。

○今後の展望

・整備に際しては、周辺自治会・水利組合などの地元関係者と連携し、地域で一体となった体制で推進する。

芥川かわまちづくり【完】

淀川水系芥川（大阪府高槻市）【補】

事業実施の効果





真如寺川で堤防が分断されていた箇所に連絡橋を整備し、遊歩道の連続性を確保。

地域のコメント

- こんなに自然豊かで綺麗な水が流れる芥川を、一貫して見ることができる素晴らしい道となるだろう。
- 人々がより川に親しむことができるよう、安全に自然と触れ合える空間にしたい。
- また、芥川の名前を市外にも広く発信できるチャンスだと思う。

事業実施の効果





アユ等魚類の遡上に必要な魚道が整備されていない落差工に魚道を設置。

市民参加型イベント等での活用

- 市民団体主催で、かわまちづくり事業で整備された水辺空間を舞台としたボランティア活動を実施。
- 子どもたちを含む多くの人々が参加し、芥川及びその生態系に親しんでいる。

芥川かわまちづくり【完】

淀川水系芥川（大阪府高槻市）【補】

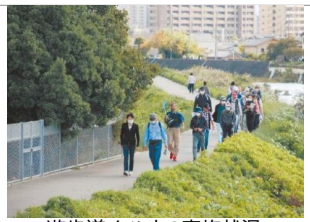
ソフト施策



こいのぼりフェスタの実施状況



小学生を対象とした観察会



遊歩道イベントの実施状況



ふれあいフェスタの実施状況

＜参画機関＞

・かわまち計画策定にあたっては、芥川創生に取り組んできた「芥川・ひとと魚にやさしい川づくりネットワーク～愛称：芥川倶楽部」を構成する市民団体と検討をおこなった。

○今後の展望

・整備に際しては、周辺自治会・水利組合などの地元関係者と連携し、地域で一体となった体制で推進する。

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

該当なし

○今後の展望

現在のところ予定なし

＜かわまちの運営（維持管理）＞

施設整備後の維持管理状況

・遊歩道

遊歩道の表面管理は、高槻市が維持管理を行う。
また、地元自治体、地元ボランティア団体等とともに、淀川・芥川クリーンアップ大作戦などで清掃活動を行う。

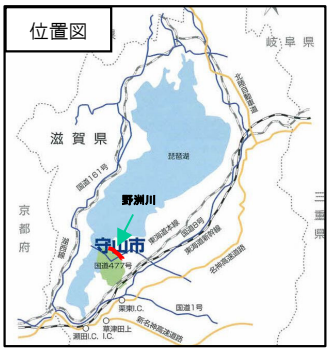
・魚道

洪水等により泥がたまったり、破損等が発生した際には、市民団体が中心となって、土砂の除去、コンクリート補強等の魚道補修を実施する。

【H26年度】「こころの安らぎ･癒やし」の空間　野洲川

「野洲川中洲地区かわまちづくり」（滋賀県守山市）

登録年月日：H26.12.19
事業年度：H27～H29



対象河川　：　一級河川　淀川水系野洲川　【国管理河川】

市町村名　：　滋賀県守山市

推進主体　：　守山市

1. 概要

中洲学区は野洲川に寄り添いながら暮らしてきた地域であり、頻繁に発生する大水害への対策として新放水路が整備され、安全性は向上しましたが、野洲川や伏流水の恵みを受け豊かに育ってきた生活や文化は失われつつあります。

そこで、野洲川に親しみやすい環境を整備し、様々な世代の人が集まる場として水辺とふれあえる空間整備を行い、「こころの安らぎ」と「癒やし」の場を創造すると共に、自然と共生し、自然と人とのふれあいの場を創出することでまちの活性化を図っています。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　緩傾斜護岸整備、管理用通路

守山市　：　公園整備

3. ソフト施策の内容

守山市　：　イベントの開催（野洲川冒険大会、守山野洲川クリテリウム）、防災訓練
漁協　　：　漁業体験
野洲川でんくうの会　：　野洲川の生態調査

整備前



草木が繁茂し利用が困難な状態

整備後





野洲川中洲地区かわまちづくり【完】

淀川水系野洲川（滋賀県県守山市）【直】

事業実施の効果

事業実施前



水際に近づきにくい状態

事業実施後



緩傾斜護岸を設置し野洲川の自然を舞台とした筏下り大会を実施

指標名 イベント参加者人数

効果

・野洲川冒険大会（いかだ下り）
202人(H26)→約230人(R７)
※観客含めると約750名

事業実施の効果

事業実施前



草木が繁茂し利用が困難な状態

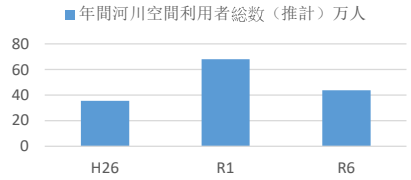
事業実施後



水際の散策路を設置し利用しやすい公園整備を実施

指標名　水辺空間利用者

効果（利用者数）



事業実施の効果

事業実施前



草木が繁茂し利用が困難な状態

事業実施後



野洲川の堤防をコースに利用した「野洲川健康ファミリーマラソン大会」

指標名　スポーツイベント

効果

・野洲川健康ファミリーマラソン大会
905人(H26)→900人(R7)
参加人数に制限あり

野洲川中洲地区かわまちづくり【完】

淀川水系野洲川（滋賀県県守山市）【直】

ソフト施策

○守山市
・野洲川冒険大会
・夏祭り
・防災訓練　他

○漁協
・漁業体験

○野洲川でんくうの会
・野洲川の生態調査



野洲川冒険大会



守山野洲川クリテリウム



野洲川健康ファミリーマラソン大会



田舟の乗船体験（中洲小学校）

＜参画機関＞

○かわまちづくり検討委員会
・地元等（中洲学区の5自治会長、野洲川田空の会正副会長）
・学校関係等（中洲小学校長、中洲小学校PTA本部役員2名、中洲小学校保護者代表、中洲幼稚園長）
・行政（守山市都市経済部長、次長、国県事業対策課長、国県事業対策課主事）

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

○守山市
・河川公園占用　H27.12.1

＜かわまちの運営（維持管理）＞

○施設整備後の維持管理

・中洲地区かわまちづくり確認書　H26.3.7
→施設の維持管理を明確にするため、河川管理者が整備する施設の維持管理について確認書を取り交わす

・維持管理協定締結　H27.3.31
→国が整備した施設の維持管理について、管理区分、費用負担、賠償の責務等を国と守山市で取り決める

・野洲川河川公園　管理計画を作成　H27.12
→野洲川河川公園の施設管理及び安全管理方法等を定める

【H30年度】

「樫井川かわまちづくり」（大阪府　泉佐野市）

登録年月日：H31.3.8
事業年度：R1～R9

対象河川　：　二級河川　樫井川水系樫井川　【府管理河川】
市町村名　：　大阪府泉佐野市
推進主体　：　泉佐野市



1. 概要

泉佐野市は、関西国際空港が存する世界と日本を結ぶ玄関都市であり、集客の中心地である「りんくうタウン」は、多くの旅行客で賑わっていますが、 周辺の歴史文化施設や、自然環境など、地域資源や特性を活かしたさらなる観光振興を推進しています。 この取組を充実させるため、本計画では市内を流れる樫井川を中心に、サイクリングやウォーキング等 による拠点施設間の回遊性を高め、泉佐野南部公園付近では、水辺での神楽を実施していくなど、魅力ある水辺空間を創出し、観光振興の促進を図ります。 河川管理者である大阪府では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備等の支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

大阪府　：親水護岸、河川管理用通路 等
泉佐野市：防災公園、神楽舞台、自転車用通路、案内看板、休憩施設 等

3. ソフト施策の内容

樫井川かわまちづくり推進協議会：　イベント開催　等



樫井川かわまちづくり【完】

樫井川水系樫井川（大阪府泉佐野市）【補】

事業実施の効果





サイクリングロードの整備により、安心して快適なサイクリングが楽しめます。

地域住民の声

樫井川沿いの魅力を感じながらのサイクリングを安全に楽しんでいただき、今後の地域活性化に繋がることを期待しています。

事業実施の効果





イベント開催時の写真



地域住民の声

イベント開催時に集客しやすい環境整備が整い、周辺に存在する歴史や文化などの資源と連携した観光利用に繋がりました。

また、南部公園前において、鯉のぼりの川渡し掲揚を行い、多くの家族連れで賑わいました。

樫井川かわまちづくり【完】

樫井川水系樫井川（大阪府泉佐野市）【補】

ソフト施策



ちぬうみ創生神楽



大井関公園　桜まつり

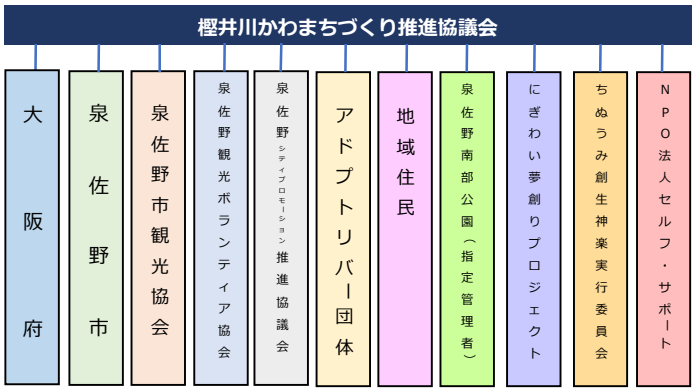


紅葉歴史散策



大坂夏の陣
（チャンバラ合戦イベント）

＜参画機関＞



＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

＜かわまちの運営（維持管理）＞

施設整備後の維持管理状況

・施設の維持管理については、施設管理者が行います。
　大阪府：護岸、堤防
　泉佐野市：遊歩道（天端保護工上面部、管理用通路、スロープ）、休憩施設等の付帯施設、植栽
・日常的な施設管理、清掃等については、泉佐野市及び地元市民により実施するものとします。

04 かわまちづくり計画　事例集

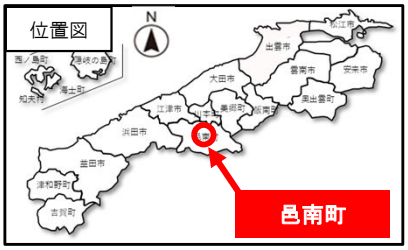
中国地方整備局管内

【H21年度】ハンザケが暮らし　ほたるが舞う　自然豊かな源流　出羽川

「出羽川かわまちづくり」（島根県邑智郡邑南町）

登録年月日：H.21.5.22
事業年度：H22～R9

対象河川　：　1級河川　江の川水系出羽川　【県管理河川】
市町村名　：　島根県邑智郡邑南町
推進主体　：　邑南町



1. 概要

出羽川流域は市街地区間においても特別天然記念物オオサンショウウオが生息するなど、豊かな自然と人が共存している。この恵まれた環境を保護し、学習の場として有効に活用していく中で、ハンザケ（オオサンショウウオ）自然館や河川の整備を進めている。また清流を活かし、商店街と自治会が連携して開催するアユ釣り、ほたるまつり、灯篭流し等の河川利用も多い。

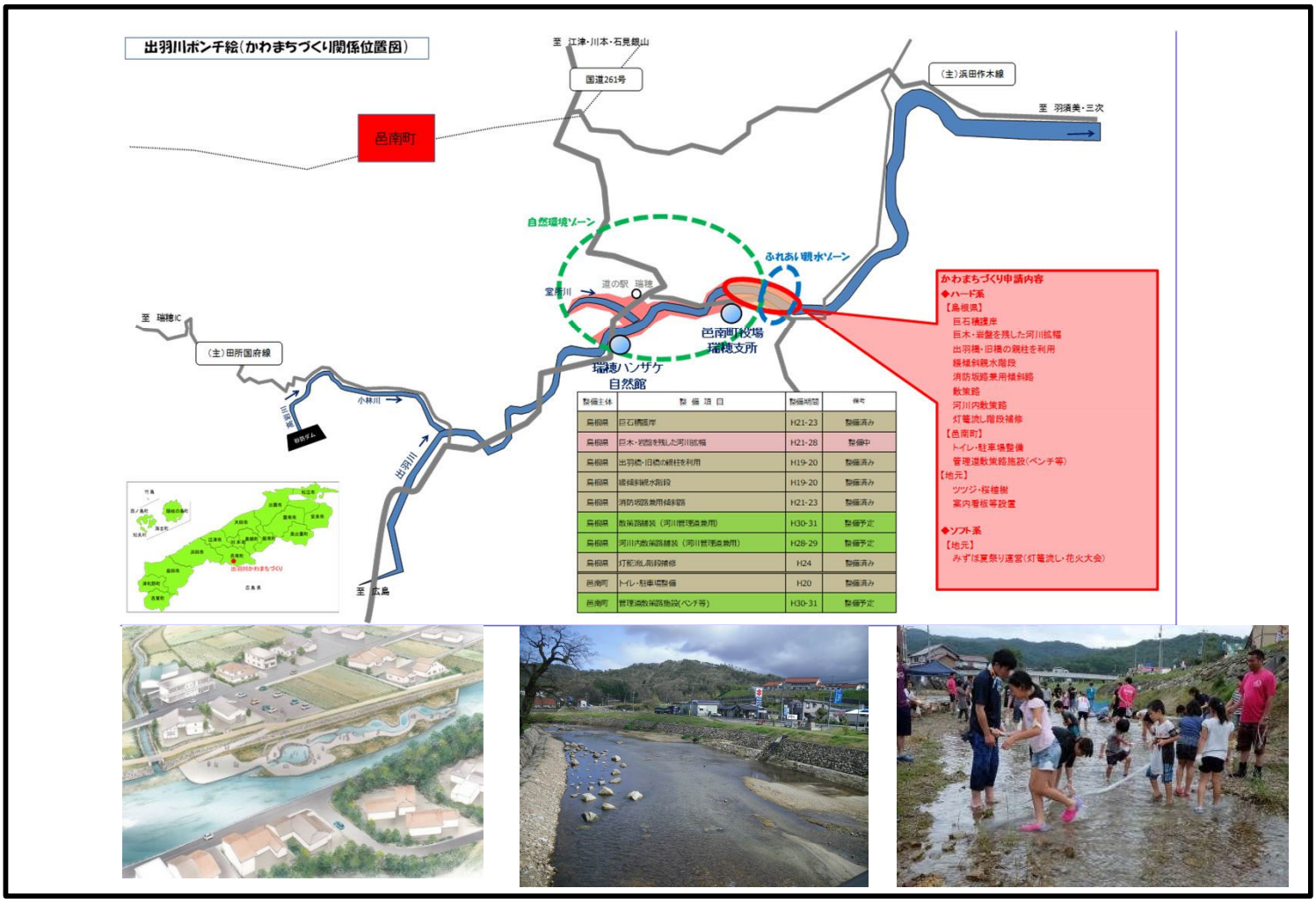
この「かわまちづくり計画」により、川を利用した賑わいの創出及び子供の河川学習の機会増加を図る。

2. ハード施策の内容

島根県　：　巨石積護岸、巨木･岩盤を残した河川拡幅　等　　邑南町　：　トイレ･駐車場整備　等

3. ソフト施策の内容

地元　：　みずほ夏祭り運営（灯篭流し、花火大会）



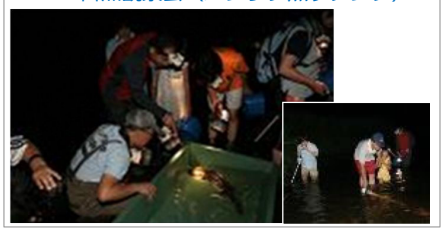
整備主体	整備項目	整備時期	備考
島根県	巨石積護岸	H21-23	整備済み
島根県	巨木・岩盤を残した河川拡幅	H21-28	整備中
島根県	出羽橋・旧橋の親柱を利用	H19-20	整備済み
島根県	緩傾斜親水階段	H19-20	整備済み
島根県	消防坂路兼用傾斜路	H21-23	整備済み
島根県	数策路舗装（河川管理道費用）	H30-31	整備予定
島根県	河川内数策路舗装（河川管理道費用）	H28-29	整備予定
島根県	灯籠流し階段補修	H24	整備済み
邑南町	トイレ・駐車場整備	H20	整備済み
邑南町	管理道数策路施設（ベンチ等）	H30-31	整備予定

ハンザケと人が共存する川

出羽川流域はオオサンショウウオ（ハンザケ）が生息する、自然と人が共存している川であり、この恵まれた環境を保護し、学習の場として活かすために川に親しめるような整備を進めています。また川を活かしたイベントの開催により市街地の活性化を進めていきます。

地域（周辺）

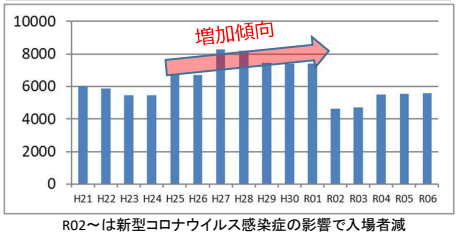
出羽川を利用した
自然観察会（ハンザケ魚ッチング）



利活用に関連する周辺観光施設
（瑞穂ハンザケ自然館）



指標名　瑞穂ハンザケ自然館の入館者数



R02～は新型コロナウイルス感染症の影響で入場者減

地域（経済効果）

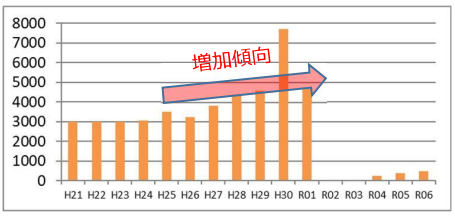
地元特産の鮎の掴み取りイベント



出羽川沿川でのイベント



指標名　イベント参加人数



R02～は新型コロナウイルス感染症を受けイベント数減少

出羽川かわまちづくり　一級河川江の川水系出羽川（島根県邑智郡邑南町）【補】

ソフト施策

改修区間を利用した夏の川遊び合宿



地元特産の鮎の掴み取りイベント



出羽川をテーマにした「みずほ夏まつり」



自然観察会（ハンザケ魚（うお）ッチング）



＜水辺空間の利活用状況＞
○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・出羽川かわまちづくり計画区間において、河川敷占用許可の事例は無し。

＜参画機関＞

・住民参加による川づくりを計画するため、地域住民で構成される「出羽川の川づくりを語る会」を平成１６年に発足させ、ワークショップにより出羽川の将来像について議論を深め、かわまちづくり計画を策定した。

【開催状況】
・第１回：平成１６年　７月２８日
・第２回：平成１６年１２月２２日
・第３回：平成１７年　３月２３日

＜かわまちの運営（維持管理）＞

◇施設の維持管理については、施設管理者が行う。
　島根県（護岸、階段、散策路）
　邑南町（散策路等の動産物）

◇植生や日常的な施設管理及び清掃等については、地元町民により実施するものとし、現在、地元の出羽商店街や出羽自治体と連携を図るため河川愛護団体の設立に向け調整中である。（桜やつつじ等の植生の管理については実施中である。）

【H21年度】「水の都ひろしま」の実現を目指すかわまち

「天満川・旧太田川(本川)・元安川地区及び京橋川・猿猴川地区かわまちづくり」(広島県広島市)

登録年月日:H21.5.22
事業年度:H21～R12

対象河川:一級河川　太田川水系天満川・旧太田川(本川)・元安川　【国管理河川】
一級河川　太田川水系京橋川・猿猴川　【県管理河川】



市町村名:広島県広島市

推進主体:広島市及び水の都ひろしま推進協議会

1. 概要

広島市では、平成15年1月に市民と行政(国・県・市)との協働で、①水辺などにおける都市の楽しみ方の創出、②都市観光の主要な舞台づくり、③「水の都ひろしま」にふさわしい個性と魅力ある風景づくりの3点を目的とする「水の都ひろしま」構想を策定し、広島の都心全体で川の活用に取り組んでいます。

この取組を充実させるため、本計画では、様々なイベントの開催、憩いや交流の場の提供等により河川空間に新たな風景を生み出すとともに、エリアの魅力を高め、新たな広島の川の文化を創造することを目指します。

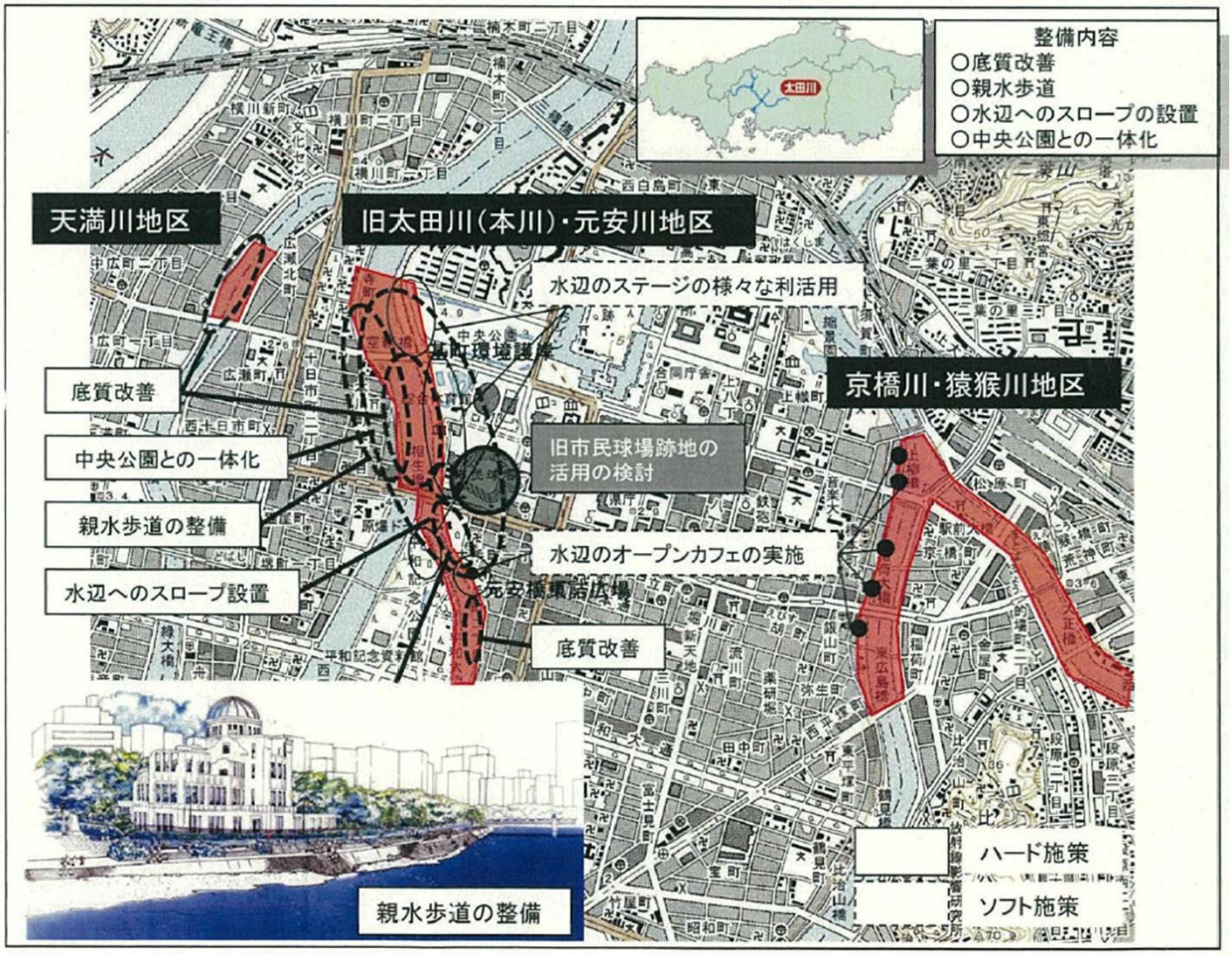
国土交通省では、この取組に対し、親水歩道の整備、底質改善を実施するほか、河川空間において営利活動を実施する場合には、河川敷地占用許可準則第22に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

国土交通省:親水歩道、底質改善

3. ソフト施策の内容

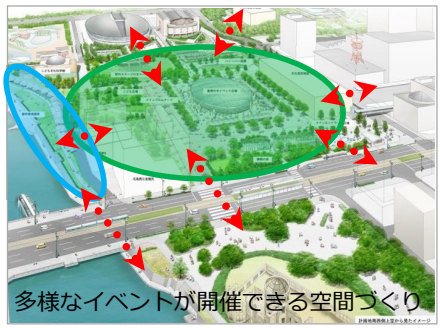
国土交通省・広島県　:都市・地域再生等利用区域の指定
広島市及び水の都ひろしま推進協議会:水辺のコンサート・
水辺のオープンカフェの実施、水辺空間のにぎわい創出　等



天満川・旧太田川（本川）・元安川地区及び京橋川・猿猴川地区かわまちづくり　太田川水系元安川ほか（広島県広島市）【直・補】

事業実施の効果





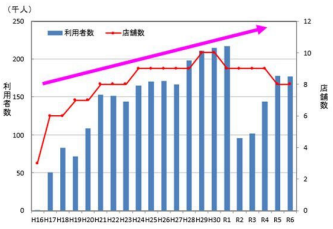


事業実施の効果





店舗利用者数・店舗数



※R2年度の減少はコロナウイルスの影響と推測される

事業実施の効果

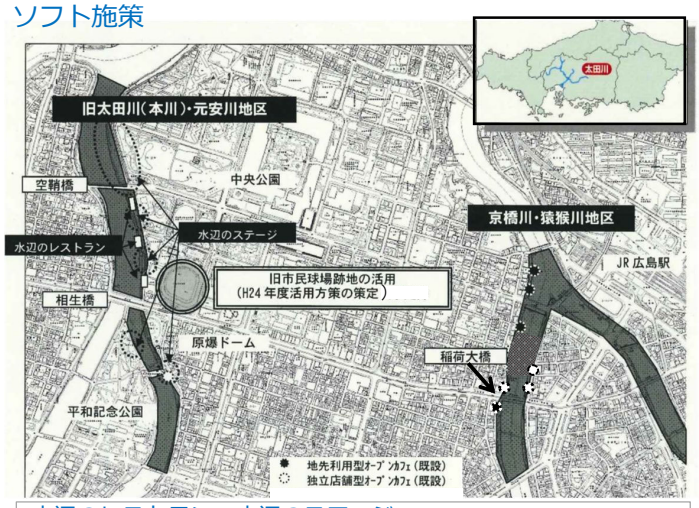






天満川・旧太田川（本川）・元安川地区及び京橋川・猿猴川地区かわまちづくり　太田川水系元安川ほか（広島県広島市）【直・補】

ソフト施策



水辺のレストラン・水辺のステージ


水辺のオープンカフェ（京橋川）


朗読上映会（旧太田川）

＜水辺空間の利活用状況＞

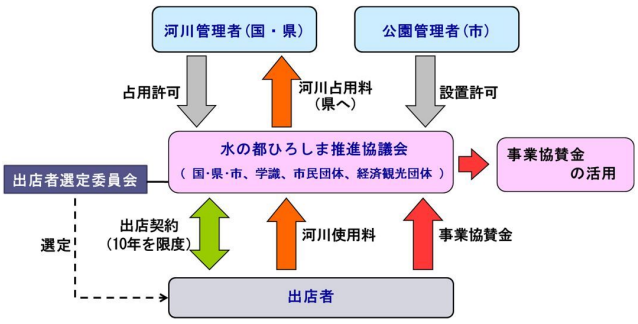
○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・河川敷地占用許可準則22条による、都市・地域再生等利用区域の指定（H23.4.12）（H24.3.27）を受け、オープンカフェを営業している。

・また、相生橋東詰北側旧太田川水域において都市・地域再生等利用区域の指定（R3.4.23）を受け、「RiverDo!基町川辺コンソーシアム」が占用主体となって、民間主導による河川空間と連携したエリアの価値向上に取り組んでいる。

＜参画機関＞

・水の都ひろしま推進協議会を適宜開催し、事業を実施している。



＜かわまちの運営（維持管理）＞

・行政、民間事業者、地域住民、河川協力団体、ボランティア等が連携する関係を構築し、事業の推進や施設の維持管理等を検討する必要がある。

・出店者から預かる事業協賛金をカフェ周辺の環境整備に活用し、地域の景観向上に還元している。

【H21年度】*地域の玄関口としての個性を活かしたかわまちづくり*

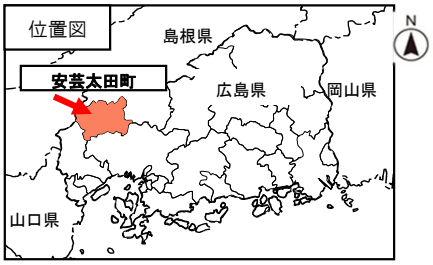
「とごうちかわまちづくり」（広島県安芸太田町）

登録年月日：H21.5.22
事業年度：H21～H23

対象河川　：　一級河川　太田川水系太田川　【国管理河川】

市町村名　：　広島県安芸太田町

推進主体　：　安芸太田町



1. 概要

安芸太田町における地域整備構想として、基本方針となる「安芸太田町長期総合計画」では、個性を活かした観光振興の基本方針として、太田川を親水性のある癒し型交流資源のひとつとして位置づけ、観光資源の保全・整備、情報発信、受入体制の充実に努めることとしています。

町域の太田川周辺流域を水辺とまちづくりの区域として位置づけ、エリア毎に太田川を活用できる交流空間を創出。

特に、戸河内IC　周辺エリアは、中国縦貫自動車道戸河内IC、国道186号、国道191号が交わるとともに、道の駅が整備されるなど町の玄関口で多くの人が集まるにぎわいのある場所であるとともに、近くに小学校・保育園・児童館などなどがあり、既存の施設と連携し地域住民が水に親しむことのできる場づくりを実施しました。

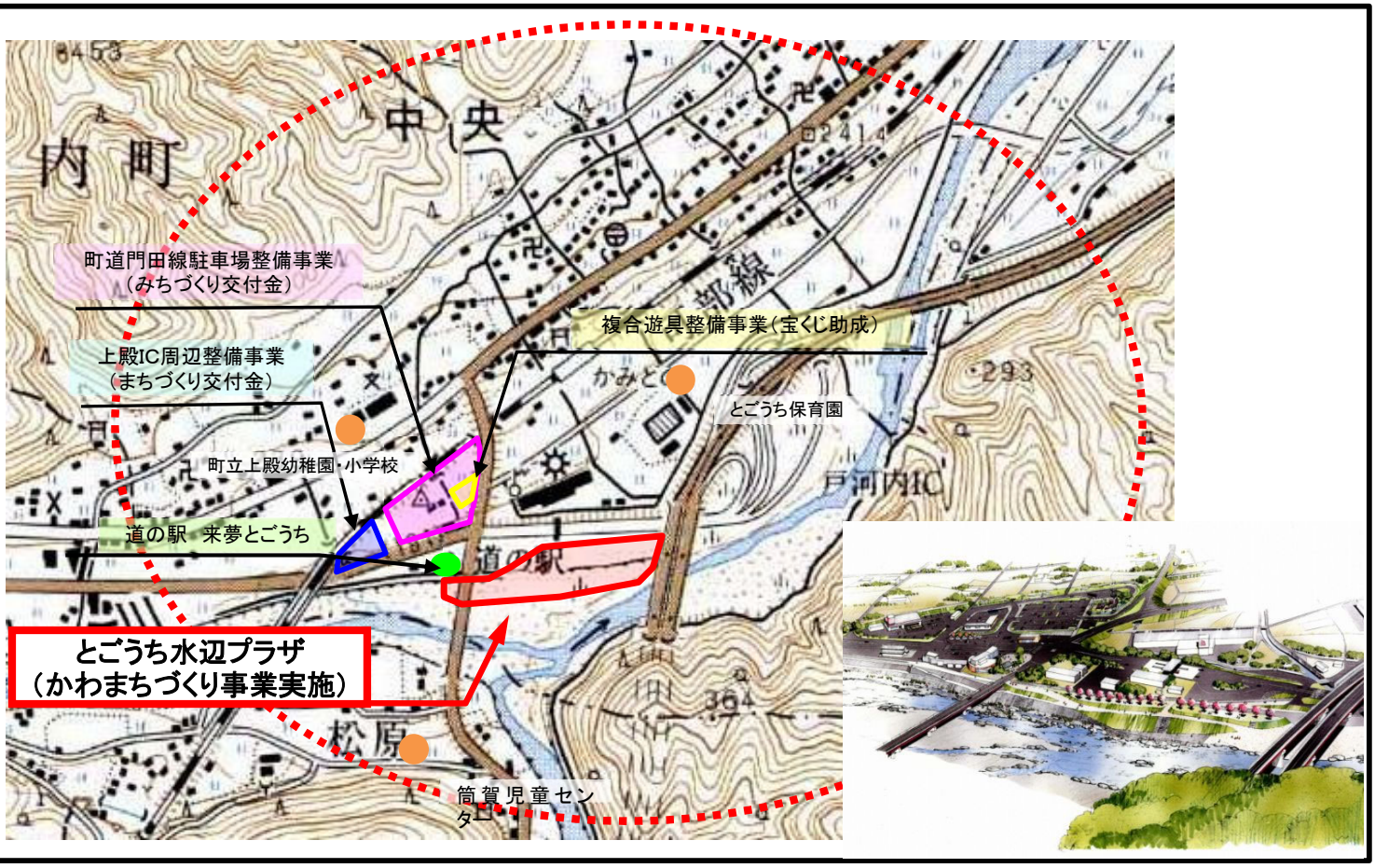
2. ハード施策の内容

国土交通省：高水護岸整備

安芸太田町：拠点整備

3. ソフト施策の内容

安芸太田町：周辺施設と連携した利用促進



とごうちかわまちづくり【完】

太田川水系太田川（広島県安芸太田町）【直】

事業実施の効果







事業実施の効果



上殿さくら公園ライトアップ

地域で守り育ててきたさくら並木は見ごろを迎える３月下旬から地域の方々で提灯ライトアップをされています。

期間中、多くの方が花見や夜桜を楽しみ町民の憩いの場となっています。

戸河内エリアの来場者数



※R2年度の減少はコロナウイルスの影響と推測される

事業実施の効果





道の駅・周辺案内マップ



とごうちかわまちづくり【完】

太田川水系太田川（広島県安芸太田町）【直】

ソフト施策



＜参画機関＞

・地元住民等によるイベント開催、ボランティア活動等を通じて、コミュニティーを作り上げる場とする。

＜かわまちの運営（維持管理）＞

・地元住民により、除草やゴミ拾いなどの美化活動が実施されている。

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・桜並木（上殿さくら公園）は、安芸太田町が占用している。

「古川(ふるかわ)かわまちづくり」(広島県広島市(ひろしまし))

登録年月日:H21.8.7
事業年度:H24～26

対象河川 ： 一級河川 太田川(おおたがわ)水系古川(ふるかわ) 【国管理河川】
市町村名 ： 広島県広島市(ひろしまし)
推進主体 ： 広島市(ひろしまし)



1. 概要

広島市では、第4次広島市基本計画に基づき、古川地区において「自然・都市・人が調和した魅力あるまちづくり」に取り組んでいる。

自然・・・古川
（地区のシンボルに位置づけられている貴重なオープンスペース）
都市・・・広域拠点 広島IC周辺地区
（高次都市機能を分担し、都心を補完する位置づけ。交通の利便性等の開発ポテンシャルにより大規模商業施設等が集積）
人・・・・著しい人口集積地区
（交通・行政・文化施設など公共施設が整った立地条件から、集合住宅も林立）

八木・緑井地区の親水歩道整備、昭和橋アンダーパス整備などにより、親水性の向上を図るとともに、古川水鳥緑道(広島市施行事業)との遊歩道の連続性の確保を実施。

また、ラブリバー区間にも認定されている古川せせらぎ河川公園が有する良好な自然空間を、市民の憩い、子育て・教育、健康づくりの場として、さらなる活用を図ることとしている。

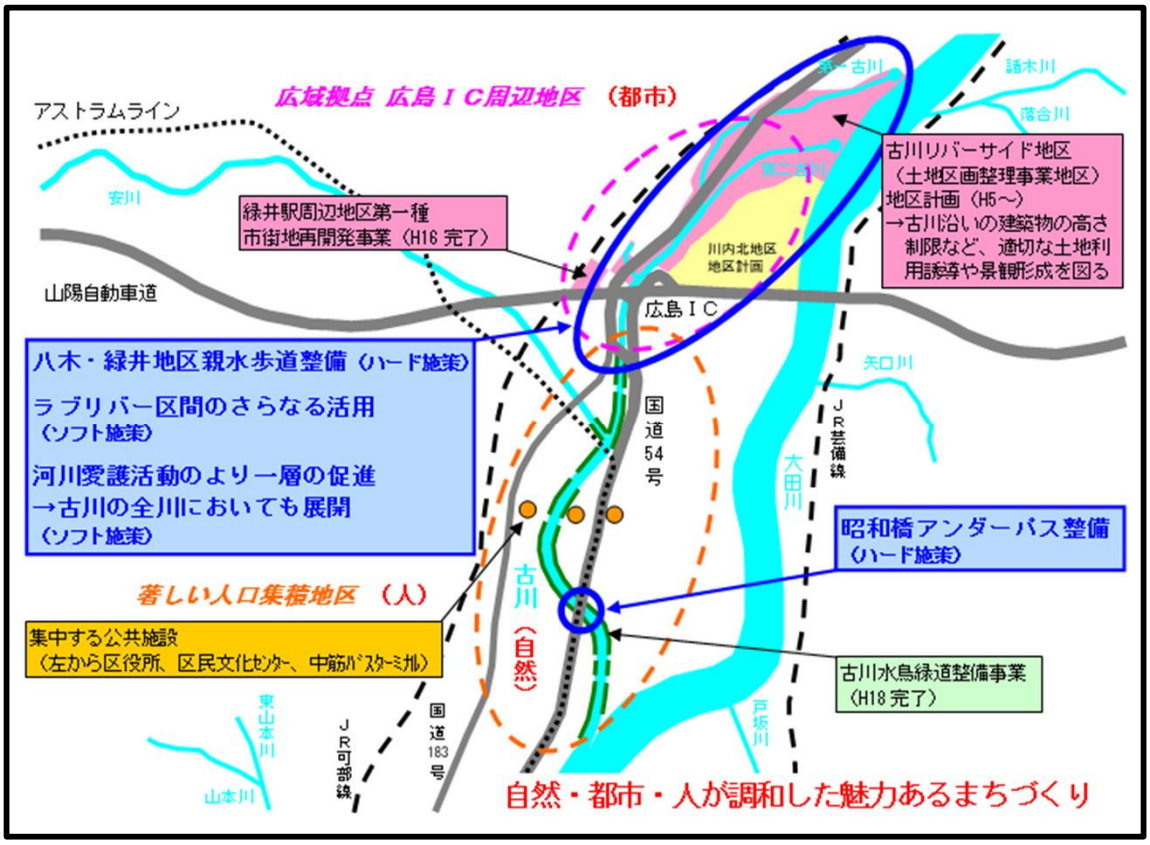
さらに、地元団体による河川清掃、地域交流イベント等の河川愛護活動をより一層促進するとともに、これらの活動を手本に、古川の全川においても河川愛護活動が展開できるよう取り組んでいる。

2. ハード施策の内容

国土交通省:アンダーパス整備

3. ソフト施策の内容

広島市:教育や健康づくりの利用促進、河川愛護活動促進



古川かわまちづくり【完】

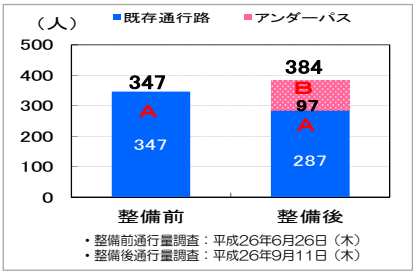
太田川水系古川（広島県広島市）【直】

事業実施の効果





堤防通路利用者数



事業実施の効果





地域のコメント

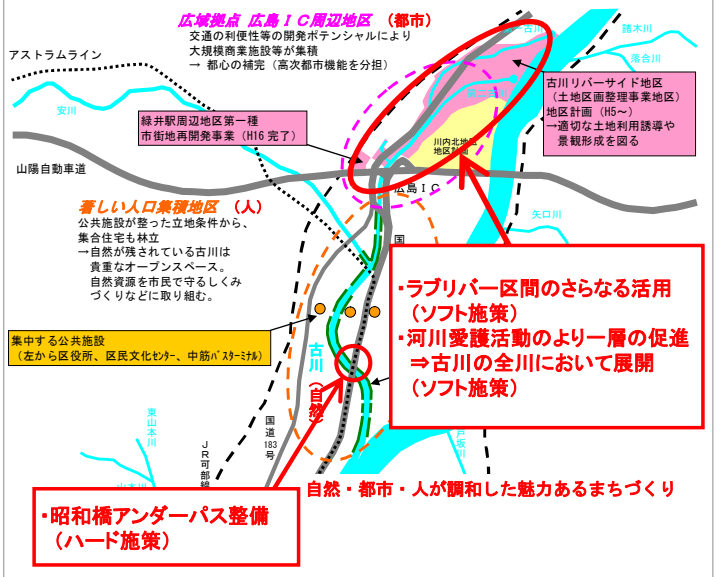
昭和橋橋詰めのアンダーパスが整備される以前は、古川の散策等を行う河川利用者は数百メートル離れた信号交差点まで迂回する必要があった。

アンダーパスの整備により、水辺の連続性が確保され、安全に移動できるようになったことから、利用者の増加が見込まれる。

古川かわまちづくり【完】

太田川水系古川（広島県広島市）【直】

ソフト施策



＜参画機関＞

・せせらぎ会、佐東地区まちづくり協議会等の地元団体による河川清掃、地域交流イベント等を促進する。
・施設の維持管理を含め、事業の推進においては、地域と一体となった体制で行う必要がある。

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・アンダーパスは広島市が占用している。

＜かわまちの運営（維持管理）＞

・日常の維持管理は、広島市が実施している。

【H22年度】江の川の三川合流部の歴史、文化、ミズベを散策しよう

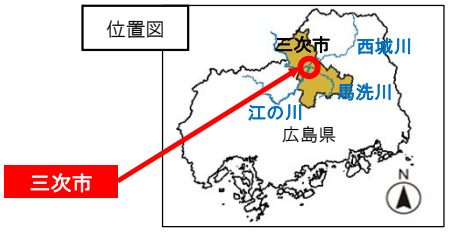
「三次三川合流部かわまちづくり」（広島県三次市）

登録年月日：H22.9.24
事業年度：H22～R3

対象河川　：　一級河川　江の川水系江の川・馬洗川・西城川　【国管理河川】

市町村名　：　広島県三次市

推進主体　：　三次市



1. 概要

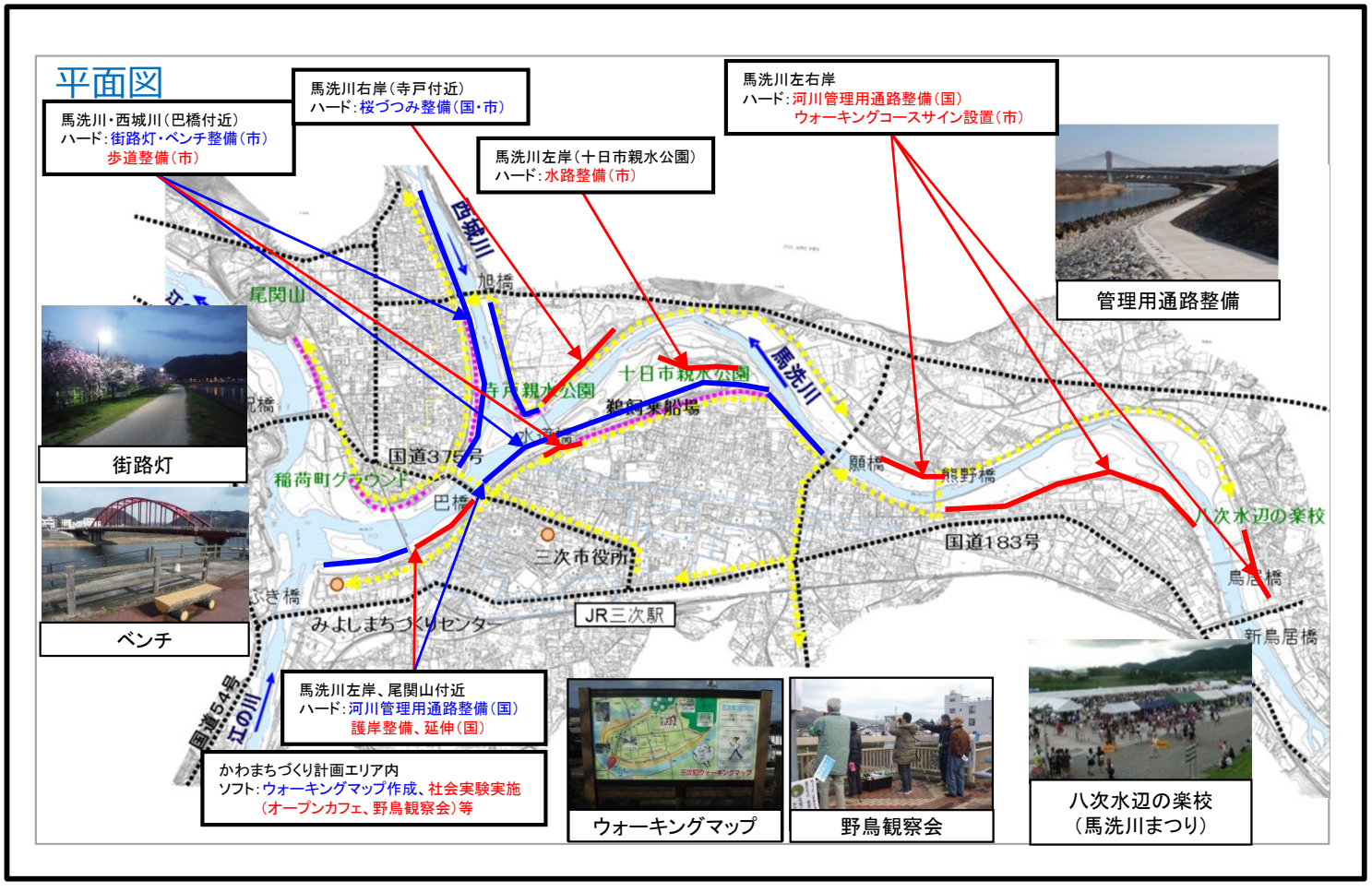
江の川水系江の川、馬洗川、西城川において効率的な河川管理の実施と合わせ、歴史、文化、観光資源を活かし、「かわ」と「まち」が一体となったハード、ソフト施策を実施する。

2. ハード整備の内容

○国土交通省：護岸整備、河川管理用通路、桜づつみ整備　等
○三　次　市　：街路灯、ベンチ、植樹　等

3. ソフト施策の内容

○三　次　市　：社会実験（オープンカフェ）　等
○民間事業者：舟運、イベントへの出店　等



三次市三川合流部かわまちづくり【完】

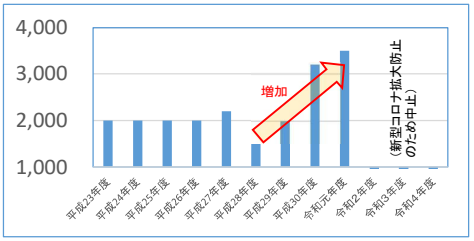
江の川水系江の川 他（広島県三次市）【直】

事業実施の効果





三次鵜飼まつり客数



事業実施の効果





河川利用者数

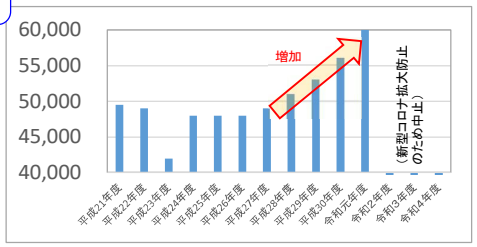


利用状況





花火大会客数



三次市三川合流部かわまちづくり【完】

江の川水系江の川 他（広島県三次市）【直】

ソフト施策



野鳥観察会
（実施・市）



畠敷水辺の楽校
（馬洗川まつり）



マラソン大会等での堤防利用
（実施・市）



オープンカフェ社会実験
（実施・市）

＜参画機関＞

・三次市かわまちづくり懇話会
　かわづくりに関する様々な情報が集約され、かわづくりに関して市民、行政、専門家などが協働して計画検討、実施、見直しなどについて議論することが出来る組織
（令和３年度参画期間）
三次地区自治会連合会、粟屋町づくり協議会、十日市自治連合会、八次地区連合自治会、三次商工会議所女性会、一般社団法人三次観光協会、江の川漁業協同組合、三次市公衆衛生推進協議会、三次市女性連合会、（公財）日本鳥類保護連盟広島県支部三次地方分会、三次河川国道事務所、広島県北部建設事務所、三次市

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況
・オープンカフェ等の規模や内容についてその都度調整・協議
→平成29年11月18日に社会実験として
　オープンカフェを実施
　【来場者　約２００人】
→H30年度も実施を予定していた
　【荒天のため中止】
→R１年度　7月・11月実施
　【来場者　7月300人、11月1700人】



＜かわまちの運営（維持管理）＞

施設整備後の維持管理状況

→十日市親水公園周辺では17団体が実行委員会を組織し、役割分担の下でラブリバー環境美化活動が行われている。
　他の地区においても、日常的な施設管理、清掃等については地域住民等関係者との協議のうえで、アダプト制度、ラブリバー制度等を活用していくことを検討していく。

【H24年度】

「旭川（あさひがわ）かわまちづくり」（岡山県岡山市）

登録年月日：H25.3.29
事業年度：H25～R8

対象河川　：　1級河川　旭川水系旭川　【国管理河川】

市町村名　：　岡山県岡山市

推進主体　：　岡山市

位置図



1. 概要

岡山市では、歴史的文化施設が集中している岡山城周辺を「岡山カルチャーゾーン」と位置付け、観光客や地域住民が歩いて楽しいまちづくりを目指し、「旭川さくらみち」という周遊ルートの整備や、さくらカーニバルなどのイベント開催等、観光客増加の取組みを行ってきました。

・ この取組みの更なる充実のため、本計画を変更し、旭川の周遊性を高めるほか、朝市やカヌーイベントの開催、歴史・文化を醸し出すまちづくり、烏城（石山）公園のリニューアルなど、水辺を活用した地域の魅力向上を図り、観光振興の促進を目指しています。

・ この取組みに対し、国土交通省では、京橋地区・出石地区への河川管理用通路（「旭川おしろみち」）の延伸やカヌー等が安全に利用できる親水護岸の整備などの支援を実施してまいります。

2. 整備内容

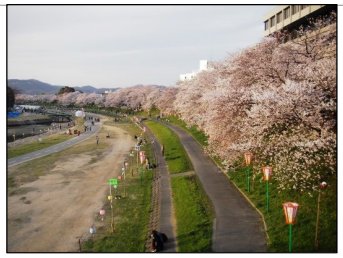
ハード（国）：隠し護岸・堤防整備、河川管理用通路整備、親水護岸整備
ハード（市）：歩行空間整備、烏城（石山）公園リニューアル、
　　コミュニティサイクルポート設置
ソフト：さくらカーニバル、カヌーを利用した体験型エコツアーの開催等



旭川かわまちづくり【完】

旭川水系旭川（岡山県岡山市）【直】

事業実施の効果



「旭川さくらみち」整備前



整備後

事業実施の効果



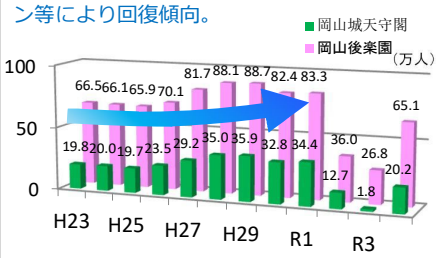
「旭川おしろみち」整備前



平成３０年３月一部供用

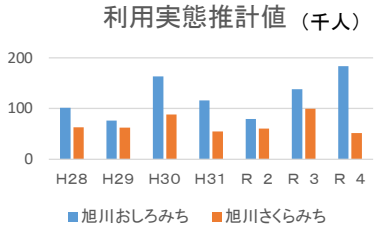
指標名　観光施設への入場者数

岡山後楽園・岡山城の入場者数は増加傾向にあったが、Ｒ２年度から新型コロナの影響により減少、R5.11岡山城リニューアルオープン等により回復傾向。



指標名　空間利用実態調査

「旭川おしろみち」「旭川さくらみち」における年間利用者数の推計結果を経年的に比較すると増加傾向にあったが、R2年度から新型コロナの影響により減少したがＲ５は回復傾向。



旭川かわまちづくり【完】

旭川水系旭川（岡山県岡山市）【直】

ソフト施策

桜カーニバル（旭川さくらみち）



岡山後楽園　幻想庭園開催



岡山城･後楽園カヌー駅伝大会



オープンカフェ実施状況



＜参画機関＞

平成26年6月2日に岡山市、岡山商工会議所を中心としたメンバーにより、「旭川かわまちづくり計画事業推進会議」を発足させ事業を進めている。



旭川かわまちづくり計画検討・推進会議　令和4年1月12日開催

＜かわまちの運営（維持管理）＞

地元団体が中心となり、毎年旭川一斉清掃が実施されている。



＜水辺空間の利活用状況＞

岡山後楽園・岡山城周辺の賑わいを創出するため、水辺空間を活用したイベントを開催し、都市・地域再生等利用実施区域の指定に向けた検討を行っている。



オ盆夜市



ミズベリング岡山旭川

「大竹和木かわまちづくり」（山口県玖珂郡和木町、広島県大竹市）

登録年月日：H25.11.12
事業年度：H26～R6

対象河川　：　一級河川　小瀬川水系小瀬川　【国管理河川】
市町村名　：　山口県玖珂郡和木町、広島県大竹市
推進主体　：　和木町、大竹市

位置図



1. 概要

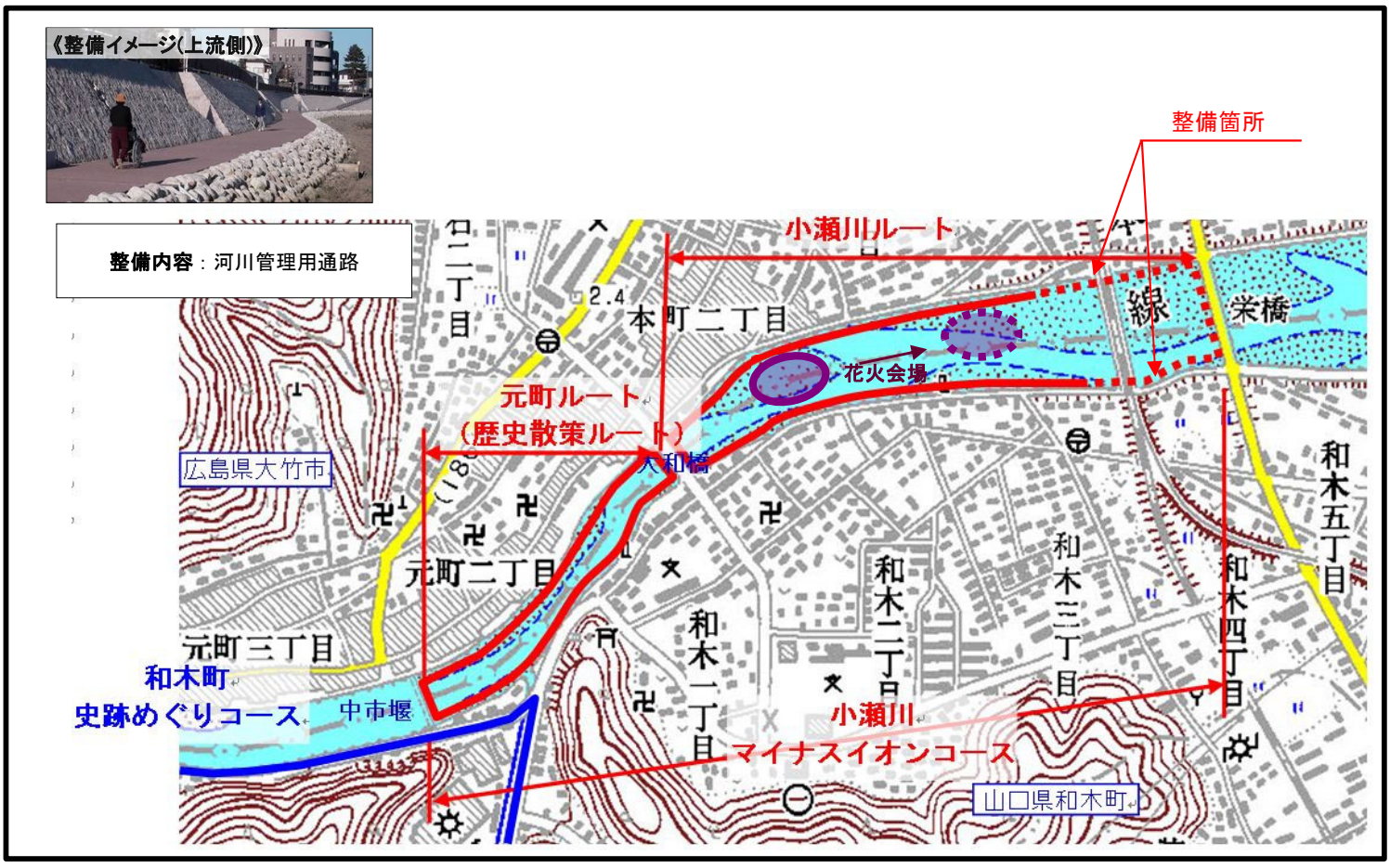
和木町では現在完成している河川管理用通路を健康づくり計画において「マイナスイオンコース」、「史跡めぐりコース」と名付け、歴史的遺産（米元廣右衛門碑や願掛地蔵等）をつなぎ、山口・広島両県を周遊可能なウォーキングロードとして整備し、文化を愛し、薫り高いまちづくりを目指している。
また、対岸の大竹市でもスイスイワクワク散歩道プロジェクトとして河川管理用通路に「小瀬川ルート」、「元町ルート（歴史散策ルート）」等のニックネームを付けて、住民コミュニティの増進につなげ、住みやすいまちづくりを目指している。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　河川管理用通路整備

3. ソフト施策の内容

大竹市・和木町：ルートマップ作成、PR等使用促進



大竹和木かわまちづくり【完】

小瀬川水系小瀬川（広島県大竹市、山口県和木町）【直】

事業実施の効果


水辺に歩行者スペース、
水際に近づく階段がない


水辺で散策を楽しむ人々

地域のコメント

管理用通路の整備により中市堰～栄橋（国道２号）において連続性が確保され散策等の健康増進の場として多くの住民に利用が期待される。

事業実施の効果


堤防に歩行者スペースがない

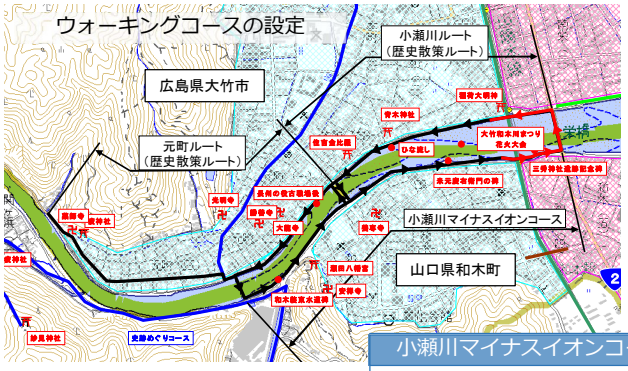

スロージョギング


散策

大竹和木かわまちづくり【完】

小瀬川水系小瀬川（広島県大竹市、山口県和木町）【直】

ソフト施策




和木町ウォーキングマップ（和木町）

小瀬川マイナスイオンコース



- 県境の小瀬川を巡るコース。
- 一部、小瀬川河川敷が散策道に整備されている区間もあり、マイナスイオンで心もリフレッシュ。

＜参画機関＞

・自治会、地元団体等が定期的に行っている河川清掃、地域交流イベント等を促進する。
・施設の維持管理を含め、事業の推進においては、地域と一体となった体制で行う必要がある。

＜かわまちの運営（維持管理）＞

・堤防、護岸等の維持管理や補修は国土交通省が行う。
・巡視・点検及び小修繕は市町が行う。

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・特になし

【H25年度】

「新橋地区かわまちづくり」（山口県防府市）

登録年月日：H26.3.26
事業年度：H26～R3

対象河川　：　1級河川　佐波川水系佐波川　【国管理河川】
市町村名　：　山口県防府市
推進主体　：　防府市



1. 概要

防府市では、第四次防府市総合計画「防府まちづくりプラン2020」において、佐波川などの豊かな自然と千年のときを超えて息づく歴史と文化などの市固有のすばらしい資源、魅力として再認識し、守り育てていくことを目指している。

新橋地区周辺は、市の代表的景観や街のなかの貴重な自然空間として大切にされており、地域のイベントやスポーツ、サイクリング、環境学習の場としても積極的な利用がなされている。

国土交通省が河川管理用通路やワンド整備等を行うとともに、防府市が周辺の公園や街路整備を行うことにより、水辺･水面利用時の安全性と快適性が確保されるとともに、歴史や文化の色濃いまちとの回遊散策空間を形成させることで、地域の活性化を推進する。

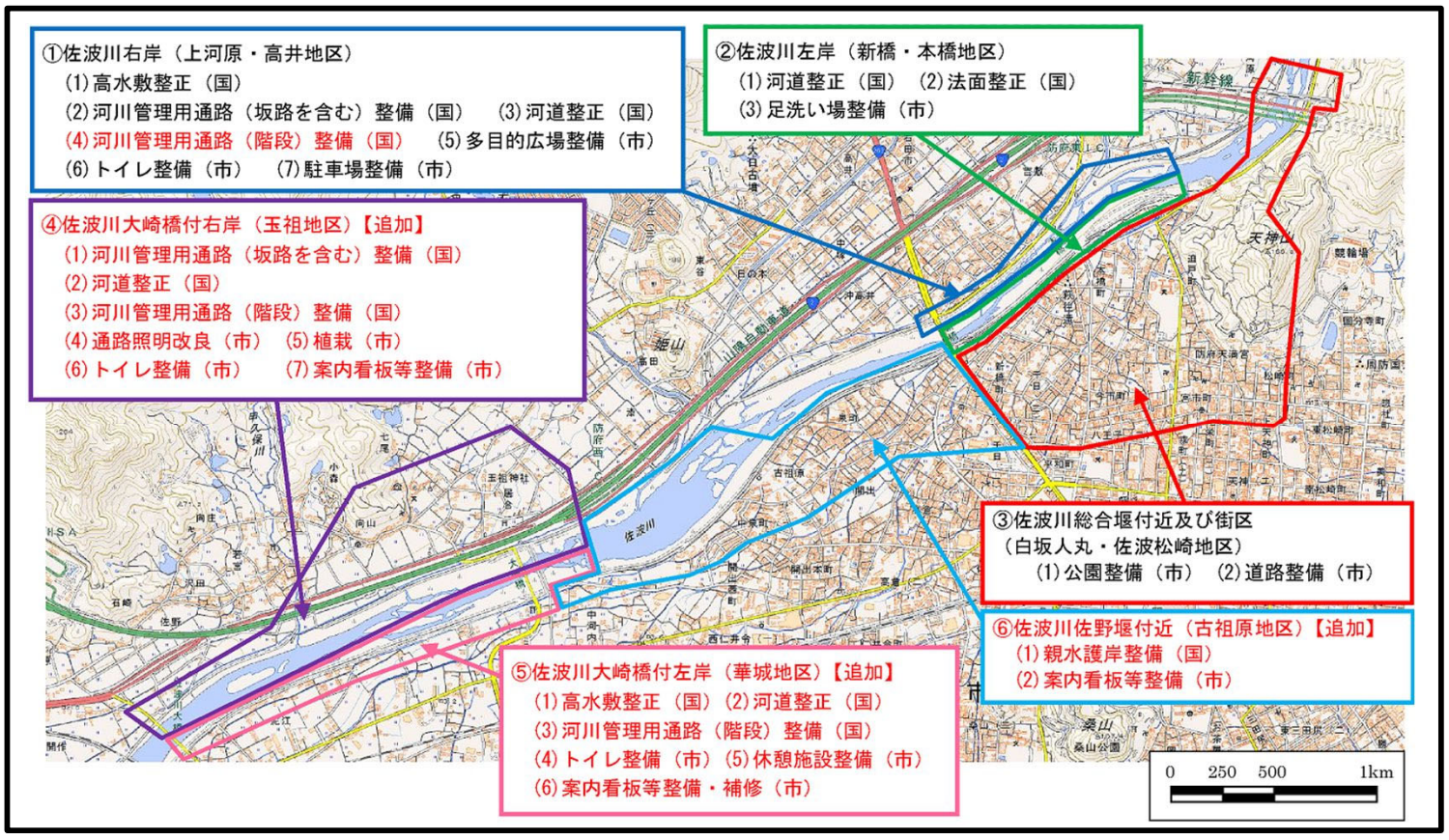
2. ハード施策の内容

国土交通省　：親水護岸整備、高水敷整正、河川管理用通路（坂路を含む）整備、河道整正、河川管理用通路（階段）

防　府　市　：公園整備、多目的広場整備、休憩施設整備、トイレ整備、駐車場整備、案内看板等整備、足洗い場整備、道路整備、通路照明改良、植栽

3. ソフト施策の内容

国土交通省　：　水生生物観察会など、　防　　府　　市：周辺マップ作成など、　民間：各種イベント開催など



新橋地区かわまちづくり【完】

佐波川水系佐波川（山口県防府市）【直】

地域（河川）



佐波川とまちの結節点に位置する桜堤・桜本児童遊園付近を整備（テコ入れ）し、新たな「かわとまちの交流」を生み出す。



整備により多くの人が利用。併せて背後の佐波川へも足を伸ばす人が増加。

地域（周辺）



街路整備等により川とまちの間の人の動きが生まれ、周辺の観光施設等へ訪れる観光客の増加を見込む。



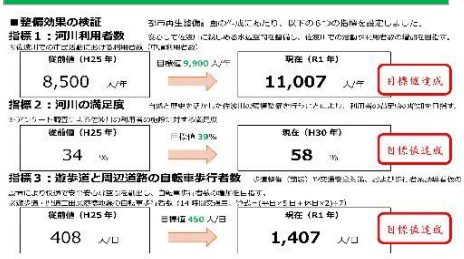
地域（経済効果）



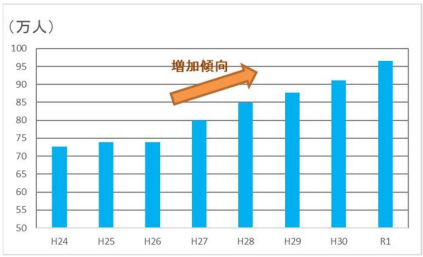
街路整備等により川とまちの間の人の動きが生まれ、周辺施設の利用増加を見込む。



［指標］佐波川を活かしたまちづくり



［指標］周辺観光拠点（防府天満宮）の入込客数



［指標］周辺観光拠点の売上高

効果（方向性）

・現在は事業中であり効果が発現していない。整備完了後には周辺観光拠点（うめてらす）を訪れ、売上高の増加が見込まれることからこれを指標として効果を示す予定。（市と調整中）

新橋地区かわまちづくり【完】

佐波川水系佐波川（山口県防府市）【直】

＜ソフト施策内容＞









＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・新橋箇所の左岸高水敷は防府市が都市公園「佐波川左岸緑地」として占用・指定しており、市民の利用がある。

・新橋箇所右岸についても防府市が占用しキャンプ場として市内外からの利活用が盛んである。

・華城箇所の左岸高水敷についても防府市が公園として占用しており、市民の利用がある。

○今後の展望

・かわまちづくりで整備された華城玉祖箇所等も含めた一帯の占用や都市公園指定についても防府市と協議を継続中。

・更なる利活用を目指し水辺空間のオープン化を検討中。

＜参画機関＞

・かわまちづくり計画策定にあたり「佐波川かわまちづくり協議会」を設置。H25年度の計画策定後も毎年協議会を開催し、整備の進捗状況の確認やソフト施策の運営協議等を実施。

・同協議会の中に行政、自治会、教育関係、市民団体等を組み込むことで連携を図っている。

○今後の展望

・H27年度より協議会にて維持管理に関する協議を行っており、H29年度に新橋箇所一部の管理協定を締結。今後も利活用状況を見ながら順次管理協定や占用の手続きを実施予定。

＜かわまちの運営（維持管理）＞

・施設整備後の維持管理について、整備の進捗を見ながら防府市と管理協定策定を締結。（第１段としてはH30年3月）

・占用で対応できる部分については占用手続きを実施。R1年度には新橋箇所右岸キャンプ場を占用。

【H27年度】公園と一体となった親水空間を創出し地域活性化

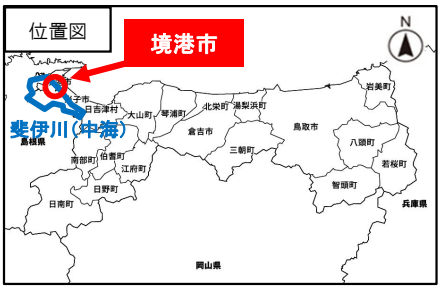
「夕日ヶ丘地区中海かわまちづくり」（鳥取県境港市）

登録年月日：H28.3.28
事業年度：H28～R2

対象河川　：　一級河川 斐伊川水系斐伊川（中海）【国管理河川】

市町村名　：　鳥取県境港市

推進主体　：　境港市



1. 概要

境港市では、「境港市都市計画マスタープラン」において、中海に面する海岸線は、都市景観や市街地景観の構成要素として重要な役割を有するほか、人々が自然に親しめる資源としても貴重なものであることに配慮し、自然環境の回復、親水空間の整備や水辺空間の修景など、自然に親しめる水辺環境の育成に取り組んでいます。

この取組を充実させるため、本計画では、公園やスポーツ広場などの各種スポーツ・レクリエーション施設が集積している夕日ヶ丘地区において、親水施設などの整備を実施し、水辺の利活用の向上を図るとともに地域活性化を目指します。

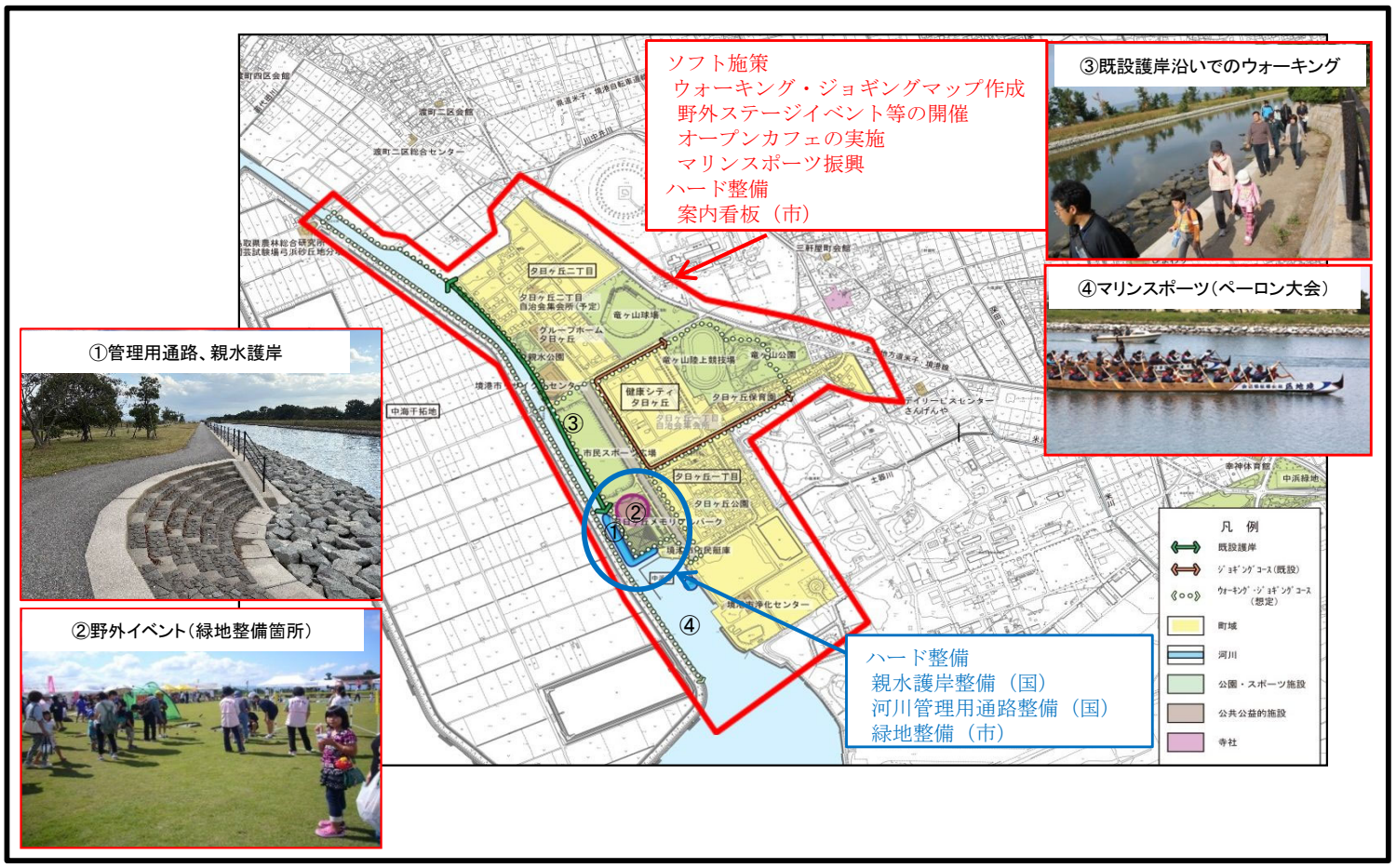
国土交通省では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備を実施します。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　河川管理用通路、親水護岸　　境港市　：　案内看板、緑地

3. ソフト施策の内容

境港市　：　ウォーキング・ジョギングマップ作成　等



夕日ヶ丘地区中海かわまちづくり【完】

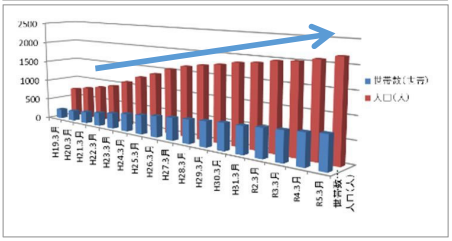
斐伊川水系斐伊川（鳥取県境港市）【直】

地域（周辺）





指標名　夕日ヶ丘地区人口推移



地域（経済効果）

指標名　●●

その他

指標名　●●

夕日ヶ丘地区中海かわまちづくり【完】

斐伊川水系斐伊川（鳥取県境港市）【直】

＜ソフト施策内容＞

○境港市

・夕日ヶ丘『水辺で乾杯』（ペーロン体験乗船・清掃作業・ミニコンサートを同時開催）
・夕日ヶ丘サンセットコンサート
・中海ＳＵＰフェスティバル
・こどもペーロン大会、境港ボートマラソン大会、他


よくぞここまで集まりました賞
（平成27年度 受賞）

○今後の展望

・陸上及び水上スポーツなどの各種大会や、コンサートなどの各種イベントの開催を働きかけ、水辺空間での交流や賑わいを創出するべく、関係機関との協議調整中

＜参画機関＞

・かわまちづくり計画の策定にあたっては、地域住民、保護者、活動団体等の代表者に参加頂き、「夕日ヶ丘地区中海かわまちづくり協議会」を設置し、平成26年10月～平成27年3月までの間に、他河川での「かわまちづくり計画」や水辺空間利用事例などを参考に、住民アンケート調査を実施するなどして「夕日ヶ丘地区中海かわまちづくり計画」を策定した。

○今後の展望

・陸上及び水上スポーツなどの各種大会や、コンサートなどの各種イベントの開催を働きかけ、水辺空間での交流や賑わいを創出するべく、関係機関との協議調整中

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・

・現段階では、一時占用等の事案なし。

○今後の展望

・また、日常的な清掃活動などは、地元で活動されている団体等に実施して頂けるよう、今後、関係機関等と調整する。

＜かわまちの運営（維持管理）＞

かわまちづくり計画に基づき整備した護岸や噴水等は各施設管理者が管理すると共に、国交省・境港市で管理協定を締結し適切な維持管理に努めることとしている。

また、日常的な清掃活動などは、地元で活動されている団体等に実施して頂けるよう、今後、関係機関等と調整する。

【H29年度】

「和気町かわまちづくり」（岡山県和気町）

登録年月日：H30.3.26
事業年度：H30～R8

対象河川　：　1級河川　吉井川水系吉井川　【国管理河川】

市町村名　：　岡山県和気町

推進主体　：　和気町



1. 概要

和気町では、「人かがやき　共に支え合う　快適で　健やかなまち」を将来像としたまちづくりに取り組んでいます。

整備箇所である田原地区は、JR 和気駅に近く、桜づつみや高水敷のグラウンドが整備されており、花見や高水敷でのスポーツ、和文字焼きまつり、環境学習等で利用されています。

本計画では、整備箇所付近の「リバーサイド和気（食事施設等）」に駐輪場を整備し、サイクリングの利用者を誘導するとともに、新たに多目的広場（芝生）、親水護岸等を整備し、民間工場の見学やカヌーエコツアー等で利用することにより、地域の活性化を推進します

2. 整備内容

国：高水敷整正、親水護岸、河川管理用通路、緩傾斜法面整備等

町：多目的広場（芝生）、簡易トイレ、駐輪場等



和気町かわまちづくり【完】

吉井川水系吉井川（岡山県和気郡和気町）【直】

事業実施の効果




和文字焼きまつりの開催や県下最大規模のグランドゴルフ場の整備が行われているが、安全に水辺に近づけない状況であり、水辺利用者がほとんど見られない。



緩傾斜法面や親水護岸等の整備により、安全に水辺を利用できるようになり、全体の利用者が増加する。

指標名　イベント回数

従来実施のイベントに加え、イベントの拡充等により河川敷及び水辺の利用回数を増やす。

従来のイベント
・和文字焼きまつり
・グランドゴルフ
・岡山和気ヤクルト工場見学
拡充するイベント
・片鉄ロマン街道イベントとの拡充
・カヌーエコツアーの定期化及び拡充
・水生生物観察会の開催

事業実施の効果



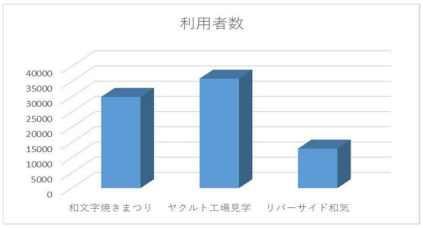
片鉄ロマン街道（廃線となった片上鉄道を利用した自転車道）において、サイクリングやウォーキングを行うイベントが開催されている。



まちと川の回遊性を向上させる。これにより、和気町全体の魅力が高まり、和気町を訪れる観光客が増加する。

指標名　利用者数

従来実施のイベントに加え、イベントの拡充等により利用者数の増加を図っていく。



和気町かわまちづくり【完】

吉井川水系吉井川（岡山県和気郡和気町）【直】

ソフト施策

和文字焼きまつり



カヌーエコツアー

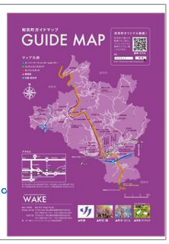


水生生物観察会



周辺マップ作成

整備箇所を含めた詳細なマップを作成する等、拡充を図り、情報発信に努める。



＜参画機関＞

和気町が中心となり、「吉井川（和気町）かわまちづくり協議会」を発足させ事業を進めている。



＜かわまちの運営（維持管理）＞

施設の維持管理は施設管理者が行う。
　国：高水敷、親水護岸、河川管理用通路、堤防法面
　町：多目的広場、簡易トイレ、駐輪場

日常的な清掃等は地元団体、地元住民により実施。

利用者の安全を確保するため、国、占用者との安全利用点検を実施する。

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

河川敷地占用許可準則22条による、都市・地域再生等利用区域に指定(H25.6.3)されており、堤防天端に河川公園の休憩所として広場および飲食店が設置されている。

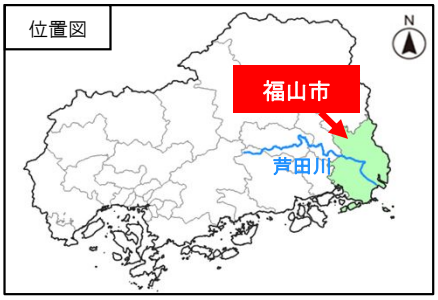


【H29年度】*若者が集う水辺がまちを変える－福山かわまち広場の挑戦*

「千代田地区かわまちづくり」（広島県福山市）

登録年月日：H30.3.26
事業年度：H30～R1

対象河川　：　1級河川芦田川水系芦田川【国管理河川】
市町村名　：　広島県　福山市
推進主体　：　あしだがわ利活用推進委員会
構成員：福山市、国土交通省中国地方整備局福山河川国道事務所、芦活部、
福山市自治会連合会　他8団体



1. 概要

旧競馬場跡地と河川空間を一体的に利活用できるよう、総合体育館等と連動したかわまち広場の整備を行いました。整備後も福山市、市民有志や利用者、民間企業と協議や社会実験を重ねながら、よりよいかわまち広場をつくるため、環境整備や利用促進にむけた改善を続けています。

国土交通省ではこの取り組みに対し、必要な河川管理施設の整備のほか、河川敷地占用許可準則第22に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施しています。また、福山市において「千代田地区かわまちづくりプラットフォーム」を通じて多彩な民間活動を支援しています。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　階段状護岸、親水護岸、坂路、河川管理用道路　他
福山市　：　連絡歩道橋、スケートボードパーク、BBQエリア、多目的広場、自転車歩行者用通路、駐車場、トイレ　他

3. ソフト施策の内容

国土交通省　：　都市・地域再生等利用区域の指定　他　　福山市：ネーミングライツ協定の締結　他



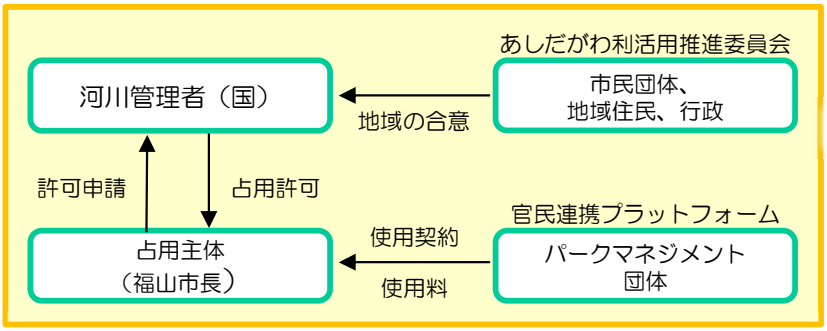
施設整備の状況図











都市・地域再生等利用区域の運営スキーム



写真提供　芦活部

千代田地区かわまちづくり【完】

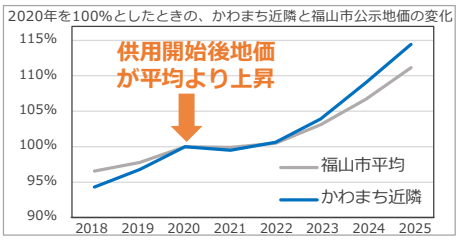
芦田川水系芦田川（広島県福山市）【直】

事業実施の効果





指標名　周辺地価の上昇

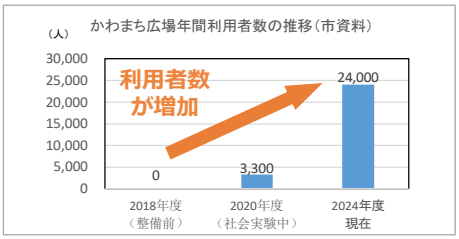


事業実施の効果





指標名　利用者数の推移

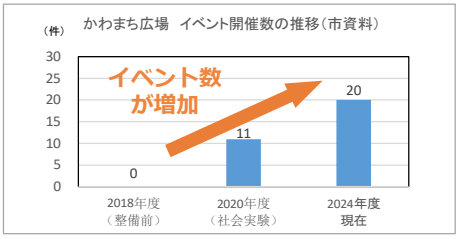


事業実施の効果





指標名　イベント開催数



千代田地区かわまちづくり

芦田川水系芦田川（広島県福山市）【直】

ソフト施策





写真提供　福山かわまちトライアスロン実行委員会





写真提供　芦活部

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

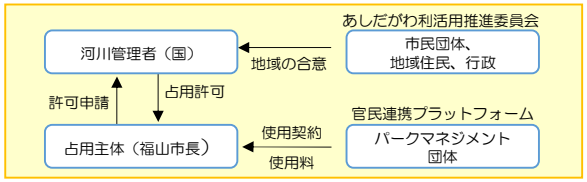
・社会実験を経て、河川敷地占用許可準則22条による都市・地域再生等利用区域に指定。（R4.2.9）

・区域指定後、福山市と官民連携プラットフォームとの間で使用契約締結。（R4.4～）
マルシェやトライアスロン、スケートボード教室、音楽フェスなどの多彩な民間イベントが定着。

＜参画機関＞

・かわまち計画策定にあたり、福山市、国、自治会、各種団体等による「**あしだがわ利活用推進委員会**」を設置。（H28.11）。委員会での6回の検討をへて、「**千代田地区かわまちづくり**」計画が登録。（H30.3）

・パークマネジメント団体として行政、地域住民、企業、団体が連携した「**千代田地区かわまちづくり官民連携プラットフォーム**」を設立。（R3.6）



＜かわまちの運営（維持管理）＞

・施設の維持管理は各施設管理者が行う。
　親水護岸・管理用通路　：国交省（河川管理者）
　かわまち広場　　：福山市（公園管理者）

・日常的な点検・管理等は福山市（指定管理者）が実施。

・営業活動を伴う広場利用は官民連携プラットフォームが実施。（各種イベントを公募）

・ネーミングライツを導入し、施設管理費へ充当。



ネーミングライツの導入状況

【H30年度】商都の歴史的背景を活かした、新たな水辺拠点の創出

「中海・錦海かわまちづくり」（鳥取県米子市）

登録年月日：H31.3.8
事業年度：R2～R7

対象河川：一級河川 斐伊川水系斐伊川(中海)【国管理河川】
市町村名：鳥取県米子市
推進主体：米子市



1. 概要

米子市では、「米子城跡」や「城下町」などの歴史的、文化的資源があり、平成30年4月には、「米子まちづくり公社」が設立される等、歴史、文化、飲食、買い物等、地域の観光資源を活用した観光客誘致に取り組んでいます。

この取組を充実させるため、新たな水上アクティビティの拠点の創出や、遊覧船を活用した周遊性の多様化、イベント開催や観光の拠点となる賑わいの場の創出を図ります。さらに、民間事業者にも参画を促し、観光振興の活性化を図ります。

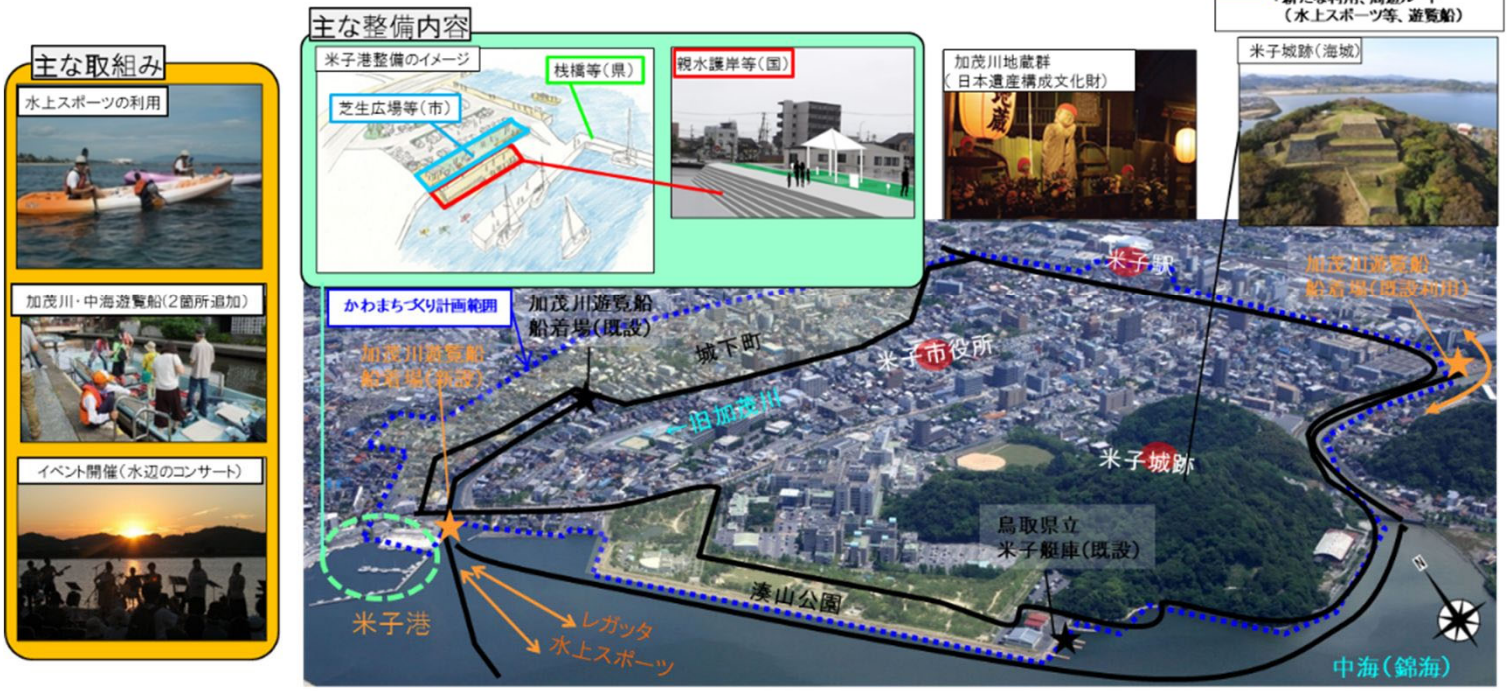
国土交通省では、この取組に対し、米子港を管理する鳥取県とも連携を図りつつ、必要となる河川管理施設を整備するほか、河川空間において営利活動を実施する場合には、河川占用敷地許可準則22条に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

国土交通省 ： 親水護岸、河川管理用通路等
鳥取県(港湾管理者) ： 桟橋 等
米子市 ： 芝生広場、船着場、案内看板等

3. ソフト施策の内容

米子市 ： ・水上アクティビティの実施
・環境保全活動の実施
・親水護岸背後地の利活用の検討
・加茂川・中海遊覧船の新たな発着場の設定
・芝生広場の利活用促進
・街歩き周遊コースの設定と利用促進



中海・錦海かわまちづくり

斐伊川水系斐伊川（鳥取県米子市）【直】

地域（周辺）



現状、周辺地域への周遊が充分でなく、一層の賑わい創出が望まれる



周辺地域（米子港～城下町～米子城跡等）の賑わい創出

指標名　テラスを利用する住民の増加

【効果】
・テラスの整備により、芝生広場や休憩所の利用を目的として、訪れる市民や観光客数の増加が見込まれる。
・既存の近隣バス停２か所や、テラス内に設置予定の新設バス停１か所での乗降客数も、増加が見込まれる。
【指標値】来訪客数

地域（経済効果）



中心市街地の航空写真（平成29年）



「中海憩いのテラス」整備後イメージ

指標名　テラスを活用したイベント開催の拡大

【効果】
・トイレや駐車場が整備されることにより、民間事業者がイベントを開催する際のハードルが大きく低下。
・新たにイベント開催する場所の１つとして、既存イベントの拡大的な活用も期待される。
【指標値】イベント開催数

その他

指標名　●●

中海・錦海かわまちづくり

斐伊川水系斐伊川（鳥取県米子市）【直】

＜ソフト施策内容＞

○米子市
・まち歩き周遊コースの設定
・今後、サップ、カヤック等の実施など、湖面やテラスの活用希望者の掘り起こし予定





○今後の展望

・観光関係団体と協議しながら、設定したまち歩き周遊コースの利用促進を図る。
・水辺空間の活用拡大に向け、イベント開催を地元事業者に促す。
・清掃活動や環境学習等の環境保全の取組が、整備する「中海憩いのテラス」での活動に繋がるよう、関係団体と協議する。

＜参画機関＞

・中海・錦海かわまちづくり計画の策定に当たっては、「中海のワイズユースを考える会」を設置し、参加いただいた水上利用者、城下町、遊覧船等の観光関係者、地元自治会等の意見を踏まえて策定した。策定にあたり、随時情報共有、意見聴取をすることで意見集約及び本計画への反映を行い、地元理解を得た。

○今後の展望

・広場等の管理業者や、今後港湾管理者が計画する港湾の適正管理にかかる事業者、水上利用者、観光事業者、地元団体への声掛けにより、親水護岸整備後の環境を活用した具体的な各種大会、イベント、清掃活動等の取組を進めていく。

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・整備前のため、占用許可の手続き等なし。

○今後の展望

・民間事業者による利活用を推進すべく、調整を行う予定。

＜かわまちの運営（維持管理）＞

・親水護岸：市が国交省と維持管理協定を締結し管理体制を構築する予定
・港湾：県管理
・芝生広場等：市管理（管理委託）

※港湾管理と広場管理の運用については、県と協議しながら合理的な維持管理手法の在り方を検討する。

【平成30年度】「かわ」と「まち」が融合した交流拠点

「木次地区斐伊川かわまちづくり」（島根県雲南市）

登録年月日：H31.3.8
事業年度：R2～R6



対象河川　：　一級河川　斐伊川水系斐伊川【国管理河川】
市町村名　：　島根県雲南市
推進主体　：　雲南市

1. 概要

雲南市では、JR木次駅周辺の商業エリアを中心に、道路改良や福祉トイレ等を整備し、地域活性化に取り組んでいます。

この取組みを充実させるため、本計画では、隣接する斐伊川との周遊性を向上させるほか、「桜並木などの自然環境」や中山間地で貴重なオープンスペースとなる「斐伊川の高水敷」を活用したイベント空間を創出し、河川空間の魅力を向上させ、交流人口の増加を図るとともに、地域の活性化を図ります。さくらねがい広場と命名しました。

国土交通省では、この取組みに対し、必要な河川管理施設の整備などの支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　高水敷整正、河川管理用通路、親水護岸　等
雲南市　　：　高水敷芝生植栽、案内表示、ベンチ、イベント電源　等

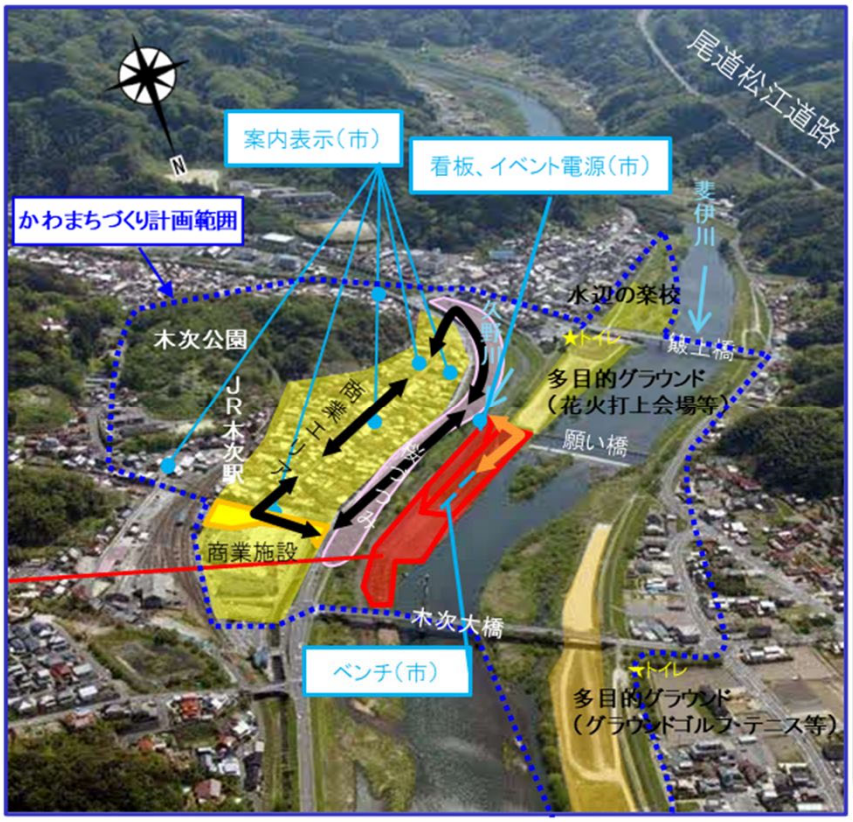
3. ソフト施策の内容

雲南市：　・ウォーキング・ジョギングイベントの開催
・野外イベントの開催
・水上スポーツ（カナディアンカヌー、SUP）の振興
・環境美化活動（斐伊川一斉清掃、花いっぱい運動）の展開

凡例
：整備内容【国】
：整備内容【市】
：現在の周遊ルート
：新たな利用、周遊ルート

主な整備内容





主な取組み







木次地区斐伊川かわまちづくり【完】

斐伊川水系斐伊川（島根県雲南市）【直】

「まちと斐伊川を繋ぐ」

本地区は日本さくら名所百選に認定された斐伊川堤防のほか、「水辺の楽校」「多目的グラウンド」が整備され、地元や多くの観光客も訪れる憩いの場として親しまれています。市内で開催が困難となっている様々なイベントに活用できる場を整備することで、更に賑わいのある水辺空間を創出していきます。

広場名称は市内小学生に募集し、「さくらねがい広場」に決定！



久野川導流堤（整備前）



久野川導流堤（整備後、さくらねがい広場）





木次駅前　秋の賑わい市



ウォーキングコース（斐伊川堤防）



◆「さくらねがい広場」オープニングイベント
令和7年4月6日
島根県内のよさこい団体が雲南市に集結し、「きすきの桜はえ～よさこい」を演舞



◆さくらねがい広場オープン後
クモノイチイベントの開催（令和7年6月、9月）

木次地区斐伊川かわまちづくり【完】

斐伊川水系斐伊川（島根県雲南市）【直】

＜ソフト施策内容＞

○雲南市

【雲南市桜まつり】
毎年3月下旬～4月上旬



【きすき夏祭り（花火）】
毎年７月２０日





○今後の展望

・今後も、雲南市桜まつり、きすき夏祭りを継続し、河川敷を活用した交流イベントも開催予定。

＜参画機関＞

・かわまち計画策定にあたっては平成29年11月に協議会を設置、整備内容について住民合意を図る。

【参画期間】

行政：国土交通省、雲南市
地域：三新塔あきば協議会、八日市地域づくりの会
下熊谷ふれあい会、新市いきいき会
雲南市観光協会、雲南市中心市街地活性化協議会

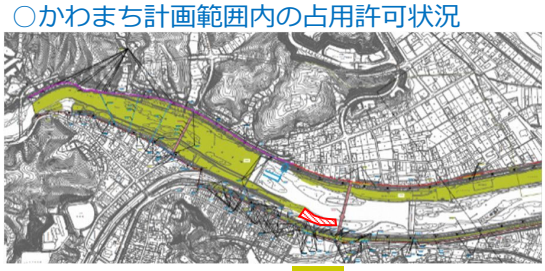
平成31年　3月　8日　かわまち計画策定

○今後の展望

整備した広場を「さくらねがい広場」に決定。
まちづくり団体による交流イベントを企画開催予定。

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況



河川法第24条の占用許可済み範囲
河川法第24条の占用許可拡張範囲

○今後の展望

・引き続き雲南市が占用するとともに、整備範囲拡大部分も管理を行う。

＜かわまちの運営（維持管理）＞

・雲南市による除草などの維持管理のほか、市民参加による斐伊川一斉清掃（年1回）、景観向上の環境美化活動を行う。
・高水敷整備した芝生広場は、協議会や地元こども園の園児により芝ポット苗を植え、雲南市により定期的な芝刈りを行う。



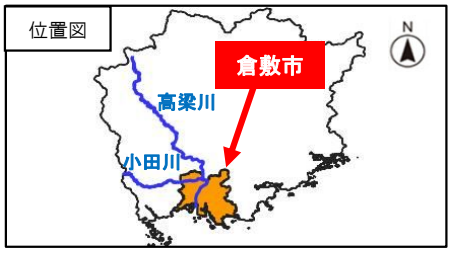


【R2年度】

「小田川かわまちづくり」（岡山県倉敷市）

登録年月日：R.3.3.19
事業年度：R4～R6

対象河川 ： 一級河川 高梁川水系小田川【国管理河川】
市町村名 ： 岡山県倉敷市
推進主体 ： 倉敷市



1. 概要

倉敷市では、地域資源を活かした交流環境づくりのため、「小田川沿いの水辺を活かし点在する地域資源に親しめる回遊空間の形成」に取り組んでおり、また、本地区では平成30年7月豪雨の被害を受けて策定した「真備地区復興計画」に基づき、「川を感じ楽しめる空間の整備」や「地域資源の発掘・活用」等に取り組んでいるところです。

この取組を充実させるため、本計画では、真備緊急治水対策プロジェクトとの連携により、復興防災公園（仮称）を拠点にサイクリングロードによる水辺のネットワークを形成し、地域資源や魅力ある水辺空間の利活用を促進し、真備地区の復興推進をはじめ、地域の活性化や魅力の向上を図ります。

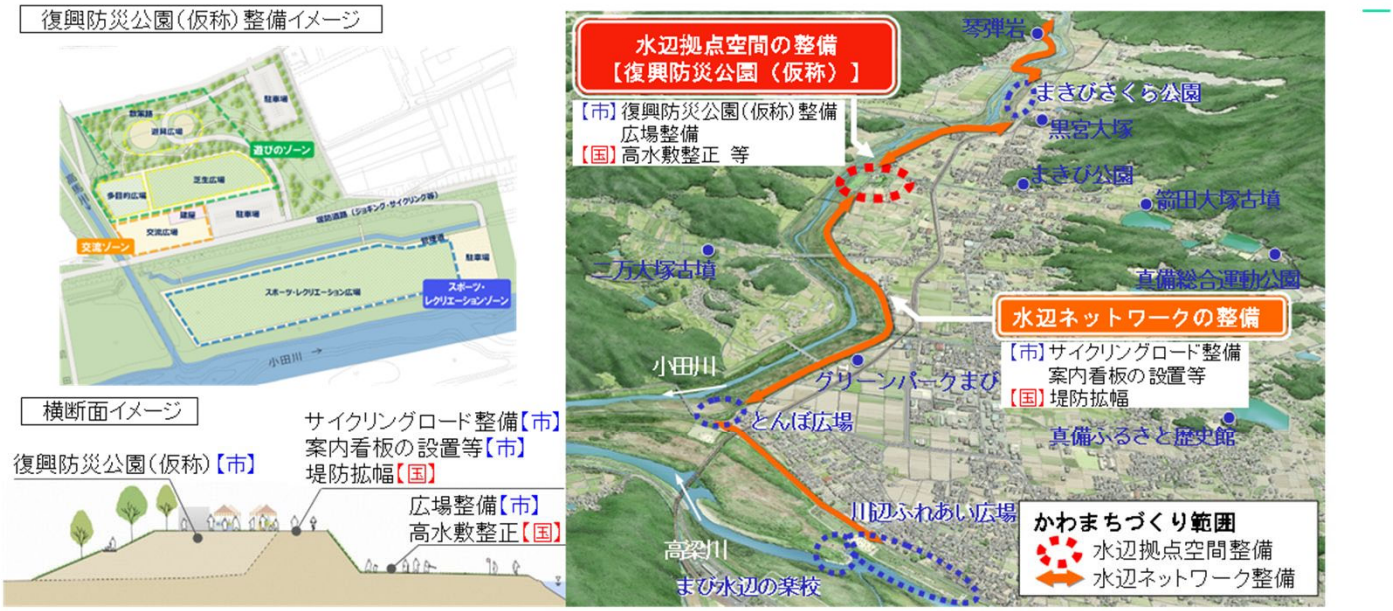
国土交通省では、この取組に対し、必要な河川管理施設を整備するほか、河川空間において営利活動を実施する場合には、河川敷地占用許可準則22条に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

国土交通省 ： 堤防拡幅、高水敷整正 等
倉 敷 市 ： 復興防災公園（仮称）整備、広場整備、サイクリングロード整備、案内看板の設置 等

3. ソフト施策の内容

国土交通省 ： パネル、パンフレットによる防災・河川事業についての情報発信 等
倉 敷 市 ： 各種イベント、サイクリング・散策コース設定、防災訓練、自然観察会 等





利活用イメージ

小田川かわまちづくり【完】

高梁川水系小田川（岡山県倉敷市真備町）【直】

事業実施の効果

事業実施前の状況写真等



事業実施後の効果が分かる写真

説明文・・・・・・・・・・・・・・・

指標名　●●

効果（グラフor地域住民や観光客等の声）

事業実施の効果

事業実施前の状況写真等



事業実施後の効果が分かる写真

説明文・・・・・・・・・・・・・・・

指標名　●●

効果（グラフor地域住民や観光客等の声）

事業実施の効果

事業実施前の状況写真等

説明文・・・・・・・・・・・・・・・

事業実施後の効果が分かる写真

説明文・・・・・・・・・・・・・・・

指標名　●●

効果（グラフor地域住民や観光客等の声）

小田川かわまちづくり【完】

高梁川水系小田川（岡山県倉敷市真備町）【直】

ソフト施策

実施写真
またはイメージ
(写真の説明も記載すること)

実施写真
またはイメージ
(写真の説明も記載すること)

実施写真
またはイメージ
(写真の説明も記載すること)

実施写真
またはイメージ
(写真の説明も記載すること)

<参画機関>

<かわまちの運営（維持管理）>

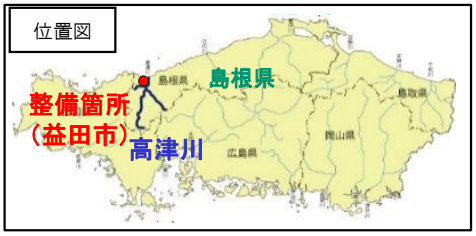
<水辺空間の利活用状況>
○かわまち計画範囲内の占用許可状況

【R4年度】

「益田市高津川かわまちづくり」（島根県益田市）

登録年月日：R.4.8.9
事業年度：R5～R9

対象河川　：　1級河川　高津川水系高津川　【国管理河川】
市町村名　：　島根県益田市
推進主体　：　益田市



1. 概要

「益田市高津川かわまちづくり計画」では、「自転車にける健康増進」と「拠点における賑わい創出」を目標に掲げ、高津川を周遊できる新たなサイクリングコースの整備、マルシェや水辺キャンプなどの新たな取り組みを可能とする拠点整備を行い、地域活性化を図ります。

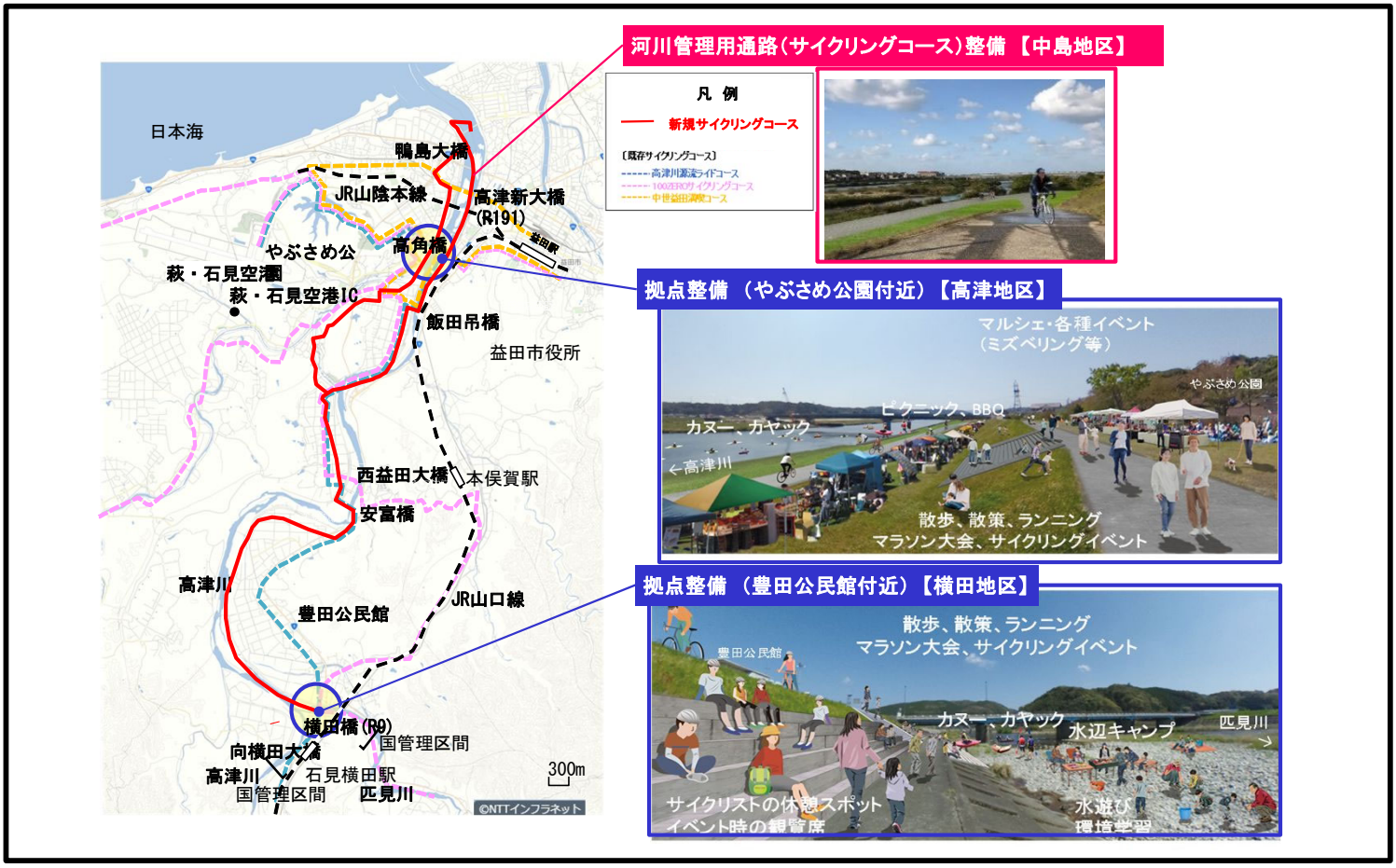
国土交通省では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備のほか、河川空間において営利活動を実施する場合には、河川占用敷地許可準則第22条に基づく、都市・地域再生等利用区域指定等の支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　河川管理用通路、親水護岸、階段護岸　等
益田市　：　案内看板、サイクルスタンド、トイレ改修　等

3. ソフト施策の内容

国土交通省　：　都市・地域再生等利用区域の指定　等　　益田市　：　サイクリングマップ作成　等



益田市高津川かわまちづくり計画

高津川水系高津川・匹見川（島根県益田市）【直】

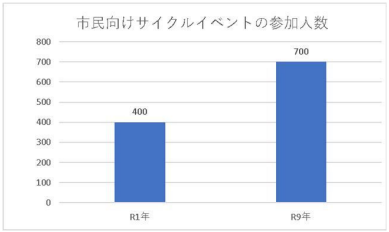
【河川管理用通路（サイクリングコース）整備】

事業実施の効果





自転車による健康増進・地域振興



【やぶさめ公園付近】

事業実施の効果



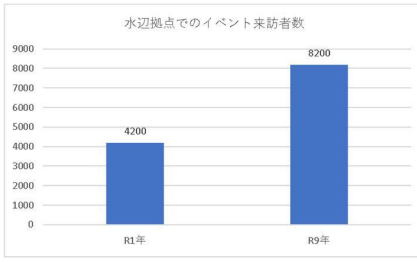


・高水敷は草本が繁茂しており、近づくための階段も狭いため、利用は進んでいません。
・水際が整備されておらず、安全な利用ができません。
・サイクリストの休憩スポットはありません。



・階段護岸や通路を整備することで、マルシェなどのイベントやピクニックなどで高水敷が利用できるようになります。
・水際に階段護岸や傾斜の緩やかな親水護岸を整備することで、カヌー・カヤックなどの水面利用や環境学習などが安全にできるようになります。
・サイクリストの休憩スポットとして利用できるようになります。

水辺空間を利用したレクリエーションによる賑わい創出



【豊田公民館付近】

事業実施の効果





・河原は草本が繁茂しており、近づくための階段も狭いため、利用は進んでいません。
・いかだ流しなどの地域行事の観覧スペースがありません。
・サイクリストの休憩スポットはありません。



・階段護岸を整備することで、水辺キャンプや水遊び、カヌー・カヤックなどで河原が利用できるようになります。
・地域行事やイベント時の観覧スペースが確保されます。
・サイクリストの休憩スポットとして利用できるようになります。

益田市高津川かわまちづくり計画

高津川水系高津川・匹見川（島根県益田市）【直】

＜ソフト施策＞



令和2年7月28日（火）
第１回「高津川かわまちづくり協議会」を開催。



令和2年8月30日（日）
「親子川流れ」の参加者へ利活用に関するアンケートを実施。



令和2年９月30日（日）
高津川　堤防上の管理用通路を自転車で試走。



令和４年９月２４日（土）
「マルシェ」にも多くに人たちが来場（柿本神社駐車場）



令和４年９月２４日（土）
「高津川かわまちづくり」に関するアンケートを実施。



令和５年７月１６日（日）
「マルシェ」にも多くに人たちが来場（やぶさめ公園）



令和６年１月２５日（木）
「益田市高津川かわまちづくり利活用・維持管理推進協議会」の立ち上げ式及び第1回協議会を開催



令和６年２月２０日（火）
「益田市高津川かわまちづくり利活用・維持管理推進協議会」第2回を開催

＜参画機関＞

「益田市高津川かわまちづくり計画」を推進するため、必要な事項を行政、地域、ＮＰＯなど、かわまちづくりに関わる各分野の主体が協議・調整し、利活用・維持管理等を行うことを目的とする『益田市高津川かわまちづくり利活用・維持管理推進協議会』を令和６年１月２５日に立ち上げ、令和７年１０月までで協議会を計５回開催し意見交換など実施している。

益田市高津川かわまちづくり利活用・維持管理推進協議会
委　員

※令和7年10月末時点

所属
吉田地区自治協議会
吉田地区連合自治会
万葉の里 高津未来の会
川丁自治会
上市自治会
西益田まちづくりの会
西益田地区連合自治会
西益田地区つろうて子育て協議会
益田商工会議所
公立学校法人島根県立大学 地域政策学部 地域づくりコース
NPO法人アンダンテ２１
益田サイクリングサークル
健康ますだ市２１推進協議会
（一社）豊かな暮らしラボラトリー
（一社）益田市観光協会
益田市カヌー協会
西益田小学校学校運営協議会

【R6年度】

「とくぢ佐波川かわまちづくり」（山口県山口市）

登録年月日：R.6.8.8
事業年度：R7～R11

対象河川　：　1級河川　佐波川水系佐波川　【国管理河川】

市町村名　：　山口県山口市

推進主体　：　山口市



1. 概要

山口市は、 豊富な緑や清澄な水を有する自然に満ちた都市であり、『第二次山口市総合計画』では、豊かで美しい自然と調和した県都である魅力を受け継ぎ、高め、山口市全体が活力を創出し、発展していくこととされている。

堀地区周辺は、中央を流れる佐波川を中心として歴史文化が築かれた地域であり、現在もサイクリングロードや、花火大会、ホタル観賞の場として利用されている。

本計画では、佐波川の高水敷を人が近づきやすいように整備することで、現在でも人気の高い花火大会やホタル観賞、サイクリングロード等を活用し、市外からの集客促進を図り、地域の活性化を促進する。

2. ハード整備の内容

国土交通省　：　坂路整備、護岸整備、親水護岸整備　高水敷整備　等　　山口市　：　トイレ整備、駐車場整備　等



※今後、工事実施のための詳細な設計等を実施　することにより、実施内容を変更する場合があります。

とくぢ佐波川かわまちづくり

佐波川水系佐波川（山口県山口市）【直】

事業実施の効果

事業実施前の状況写真等



事業実施後の効果が分かる写真

未実施

説明文・・・・・・・・・・・・・・・

指標名　●●

効果（定量評価or定性評価）

未実施

事業実施の効果

事業実施前の状況写真等



事業実施後の効果が分かる写真

未実施

説明文・・・・・・・・・・・・・・・

指標名　●●

効果（定量評価or定性評価）

未実施

事業実施の効果

事業実施前の状況写真等

説明文・・・・・・・・・・・・・・・

事業実施後の効果が分かる写真

説明文・・・・・・・・・・・・・・・

指標名　●●

効果（定量評価or定性評価）

とくぢ佐波川かわまちづくり

佐波川水系佐波川（山口県山口市）【直】

ソフト施策

実施写真
またはイメージ
(写真の説明も記載すること)

実施写真
またはイメージ
(写真の説明も記載すること)

現時点では未実施

実施写真
またはイメージ
(写真の説明も記載すること)

実施写真
またはイメージ
(写真の説明も記載すること)

＜参画機関＞

＜かわまちの運営（維持管理）＞

＜水辺空間の利活用状況＞
○かわまち計画範囲内の占用許可状況

【R6年度】*中国地方最大の河川「江の川」のミズベに新たな観光拠点を*

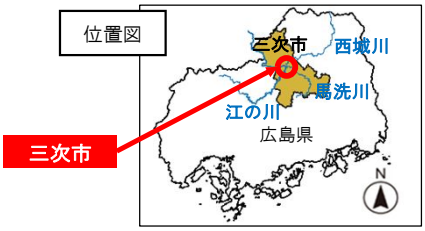
「巴峡三次かわまちづくり」（広島県三次市）

登録年月日：R6.8.8
事業年度：R7～R11

対象河川　：　一級河川　江の川水系江の川・馬洗川・西城川　【国管理河川】

市町村名　：　広島県三次市

推進主体　：　三次市



1. 概要

三次市では、魅力ある観光拠点を活かし、自然とふれあう地域交流の場となるまちづくりとして、「三次市三川合流部周辺河川環境整備計画（H22.3）」を策定し、令和6年8月に「巴峡三次かわまちづくり計画」を新規登録。

「三次の鵜飼」を活かした遊覧船の運航及び、カヤック等の体験コンテンツや観光拠点整備による沿川エリアの魅力向上、レールカート、グリーンスローモビリティ等、沿川の観光拠点を周遊できる整備を推進します。

2. ハード整備の内容

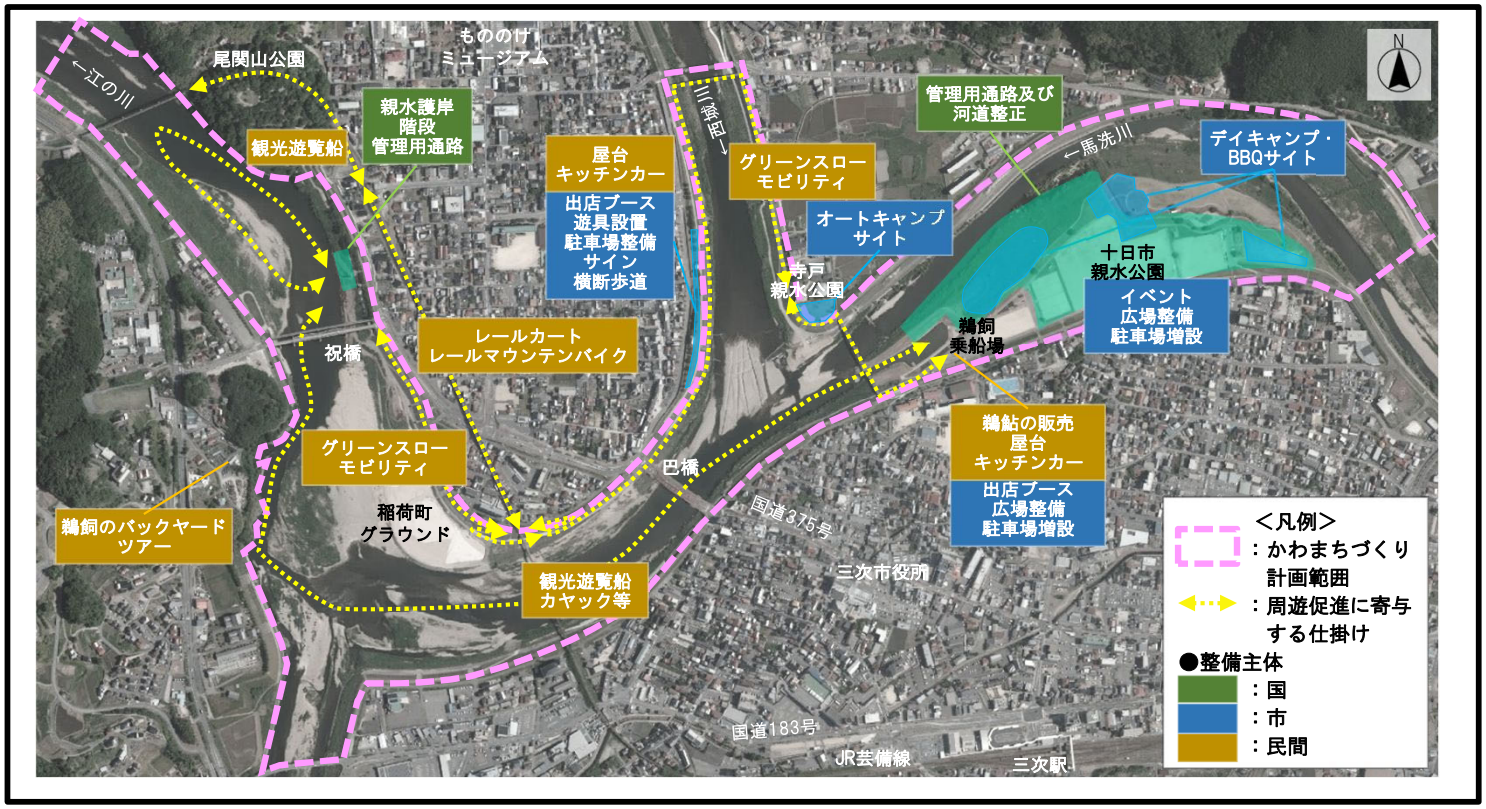
○国土交通省：親水護岸、階段、管理用通路、河道整正　等
○三　次　市　：出店ブース（区画整備、電気・水道等）、
　　デイキャンプ・BBQサイト、遊具、駐車場　等



整備イメージ

3. ソフト施策の内容

○国土交通省：都市・地域再生等利用区域の指定　等
○三　次　市　：オートキャンプ、デイキャンプ、BBQの運営支援　等
○民間事業者：屋台・キッチンカー等出店、観光遊覧船運航　等



※今後、工事実施のための詳細な設計等を実施　することにより、実施内容を変更する場合があります。

巴峡三次かわまちづくり

江の川水系江の川 他（広島県三次市）【直】

事業実施の効果

事業実施前の状況写真



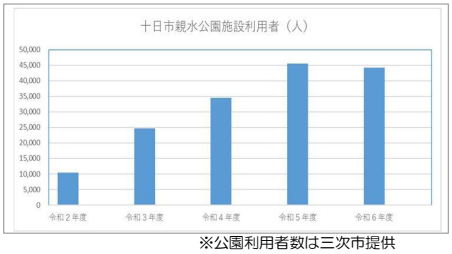
河川敷は公園が整備されているが、水際は未整備で利用できない。

事業実施後の効果 【整備イメージ図】



公園内のキャンプサイト等区画と水際まで近づきやすい法面の整備。

指標名　十日市親水公園利用者数



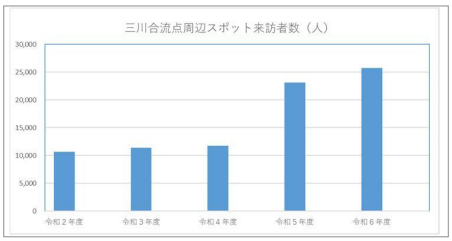
※公園利用者数は三次市提供

事業実施の効果

事業実施前の状況写真
（十日市親水公園の水際部）



指標名　三川合流部周辺スポット来訪者数



※来訪者数は三次市提供
※スポット箇所は、馬洗川鵜飼乗船場、西城川旭堤、江の川尾関山桜土手等の合計

事業実施の効果

事業実施前の状況写真

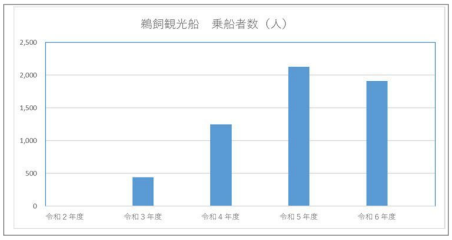


事業実施後の効果 【整備イメージ図】



親水護岸・階段、水際までの坂路整備で、カヤック等の体験型施設の利用が可能に。

指標名　●●



巴峡三次かわまちづくり

江の川水系江の川 他（広島県三次市）【直】

ソフト施策

デイキャンプ　イメージ（十日市親水公園　R7社会実験）



かわまちカフェ　イメージ
（西城川堤防　R7社会実験）



旧JR路線を利用した
レールマウンテンバイク



<水辺空間の利活用状況>
○かわまち計画範囲内の占用許可



<参画機関>

検討中【現時点未定】

<かわまちの運営（維持管理）>

検討中

【R6年度】小瀬川の史跡・歴史を活かしたかわまちづくり。

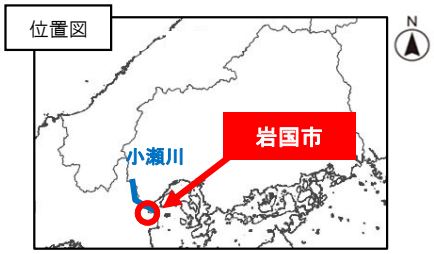
「小瀬地区かわまちづくり」（山口県岩国市）

登録年月日：R6.8.8
事業年度：R7～R13

対象河川 ： 一級河川 小瀬川水系小瀬川 【国管理河川】

市町村名 ： 山口県岩国市

推進主体 ： 岩国市



1. 概要

小瀬川小瀬地区は、狭隘な小瀬地域において住民が集うことができる貴重なオープンスペースであり、旧山陽道小瀬の渡し場跡として地域の歴史を伝える重要な史跡でもある。しかし、2つの水路に遮られ、水辺へのアプローチも未整備であるために、その活用が限られている。

こうしたことから、水辺に親しむ安全な遊歩道としての河川管理通路の整備や歴史ある小瀬渡し場跡へのアプローチを含む親水護岸の整備、さらには人々が集うコミュニティエリアとしての広場の整備を望む地元の要望は強い。

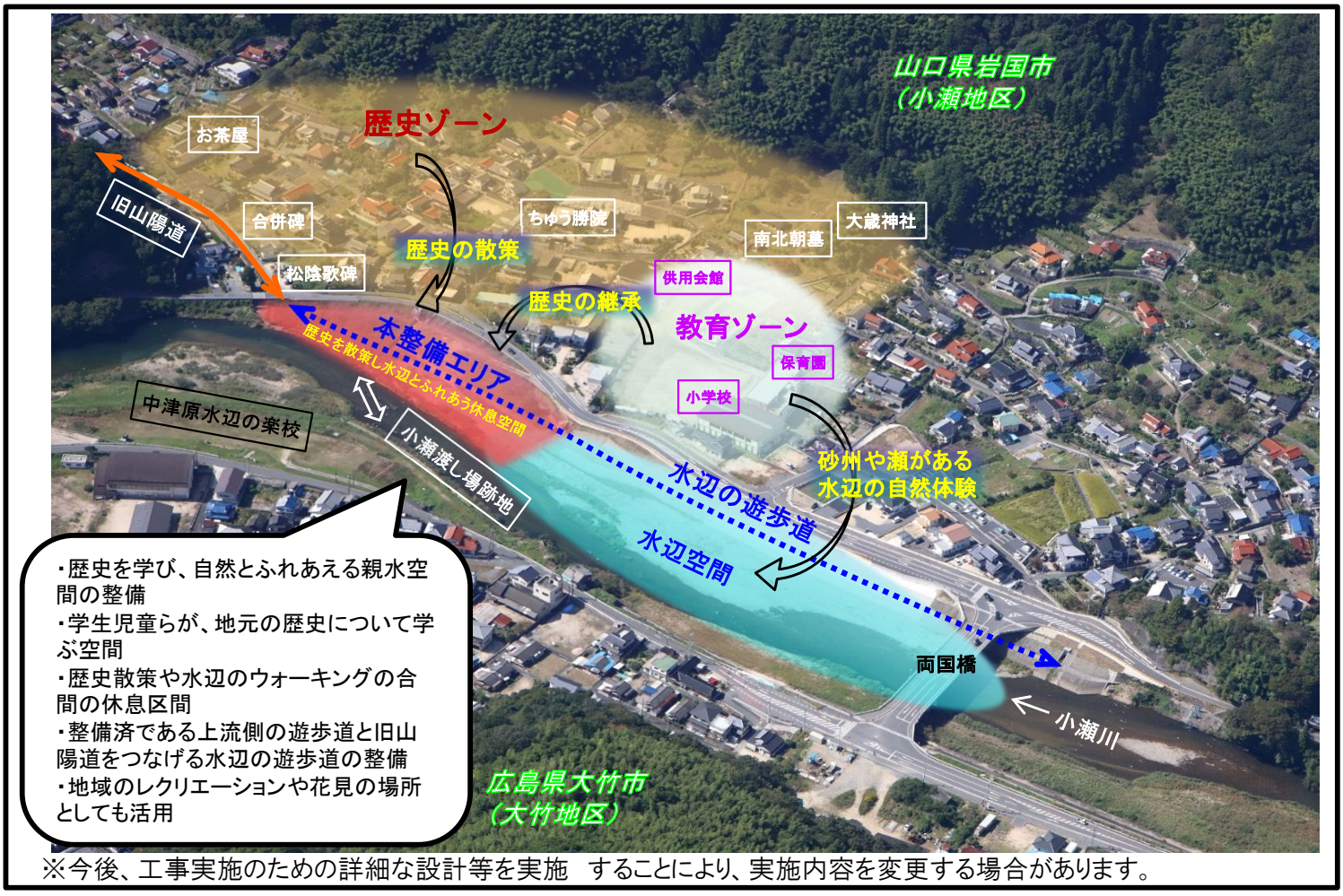
これらを整備することにより、小瀬川が有する地域資源を生かし、河川空間と一体となった小瀬地区のまちづくりを推進することが可能となる。

2. ハード整備の内容

国土交通省 ： 河川管理用通路、河川管理用階段、高水敷整正 等　　岩国市 ： 案内看板 等

3. ソフト施策の内容

岩国市 ： パンフレット作成 等



※今後、工事実施のための詳細な設計等を実施　することにより、実施内容を変更する場合があります。

小瀬地区かわまちづくり

小瀬川水系小瀬川（山口県岩国市）【直】

事業実施の効果







小瀬の渡場　整備イメージ

水辺利用者数

河川空間利用実態調査により利用者数を把握予定

小瀬地区かわまちづくり

小瀬川水系小瀬川（山口県岩国市）【直】

ソフト施策



ウォーキングイベント（イメージ）



西国街道と連携した広域情報発信





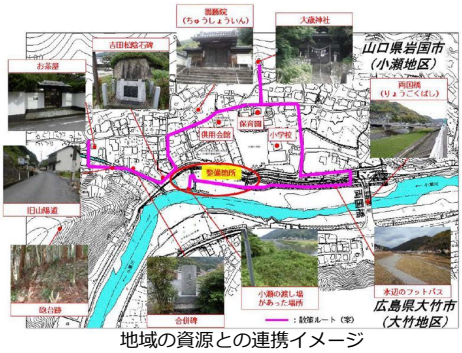
〈左：小瀬マップ歴史・文化遺産散策（表紙中央に描かれているのが小瀬川）、 右：小瀬再発見　地名の由来・いわれ　いずれも地元住民を含む実行委員会が明治維新 150 年記念して発行したもの〉

＜参画機関＞

・協議会体制　協議会会長－協議会事務局長－協議会会員（５名）
－小瀬地区地域づくり実行委員会（小瀬の歴史関係）

・小瀬地区岩国市小瀬出張所、岩国市教育委員会生涯学習課中央公民館小瀬分館、岩国市立小瀬小学校、国土交通省太田川河川事務所等と連携

（例：小瀬地区歴史講座の開催、自然教室の開催　等）



地域の資源との連携イメージ

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・高水敷を公園として占用する計画

＜かわまちの運営（維持管理）＞

・施設の維持管理については、施設管理者が行う
国土交通省：護岸、河川管理用通路、橋、河川管理用階段等
岩国市：高水敷の公園、樹木等

・日常的な清掃活動については、小瀬地区自治会連合会、小瀬地区社会福祉協議会等、地域住民と連携して実施





04 かわまちづくり計画　事例集

四国地方整備局管内

「今切川百石須地区かわまちづくり」（徳島県板野郡北島町）

登録年月日：H21.5.22
事業年度：H19～H22

対象河川　：　一級河川　吉野川水系旧吉野川　【国管理河川】
市町村名　：　徳島県板野郡北島町
推進主体　：　北島町



1. 概要

国土交通省による護岸、坂路、管理用道路等の基盤整備と、北島町による芝生広場や園路、ボードウォーク等の水辺の上物整備を実施する。さらに、堤内には、北島町が交流及び情報発信の拠点となる地域交流施設を整備し、それらを一体として「にぎわいのある水辺空間」を創出する。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　堤防の階段、堤防の坂路、親水護岸、遊歩道　等
北島町　　：　水辺交流プラザ施設（トイレ、休憩施設、駐車場　等）、多目的広場　等

3. ソフト施策の内容

北島町：　BBQやカヌーをしながらの婚活イベントの開催　等



国土交通省　堤防の階段、堤防の坂路、親水護岸、遊歩道
北島町　　水辺交流プラザ施設（トイレ、休憩施設、駐車場など）、多目的広場

今切川百石須地区かわまちづくり【完】

吉野川水系吉野川
（徳島県板野郡北島町）【直】

事業実施の効果

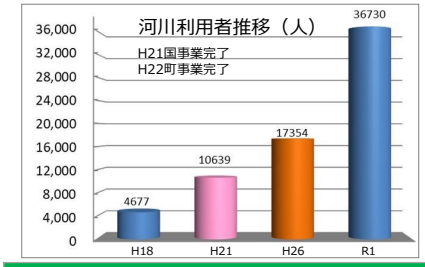


水辺に人が近づけない状態



多くの人が水辺を利用している

指標名　利用者数の推移



事業実施の効果

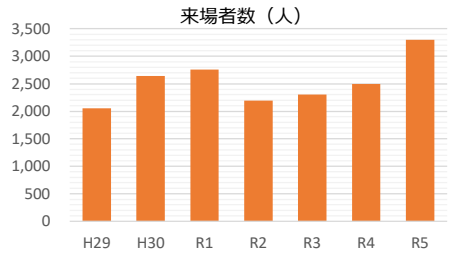


水辺に容易に近づけない状況



親水護岸を整備し、水とふれあえる場所を整備

指標名　産直市の来場者数



事業実施の効果

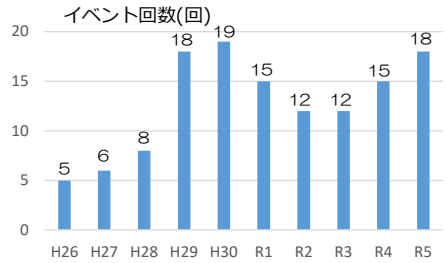


河川敷に人がいない状況



利用する人の増加

指標名　イベント数



今切川百石須地区かわまちづくり【完】

吉野川水系吉野川
（徳島県板野郡北島町）【直】

ソフト施策

実施写真



カヌー体験

実施写真



ボートでの釣り

実施写真

BBQやカヌーをしながらの婚活イベント



実施写真



水辺で乾杯

＜参画機関＞

・商工会青年部が取り組んでいる「日曜市」の定例化や町消費者協会、農産物の生産者、農業協同組合との連携により「地産地消」を目標に農産物市の常設を目指す。

・地域交流施設（堤内）のアクアプラザで地場産品の販売を継続中

＜かわまちの運営（維持管理）＞

施設整備後の維持管理状況

吉野川水系では、流域の企業や住民グループが、担当する区間の堤防や高水敷を対象に、清掃・美化活動を定期的にボランティアで行う『アドプト・プログラム吉野川』が実施されている。当計画区間も地先の企業や団体が河川愛護活動を行うこととなっている。

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

河川法第２４条による占用許可

【H21年度】

「桑野川かわまちづくり」（徳島県阿南市）

登録年月日：H21.5.22
事業年度：H17～H24

対象河川　：　一級河川　那賀川水系桑野川　【国管理河川】
市町村名　：　徳島県阿南市
推進主体　：　阿南市



1. 概要

阿南市が進める「阿南光のまちづくり」と連携を図りながら、阿南市中心街のにぎわいの核となる魅力ある水辺を創出し、「桑野川フラワーロード」、「浜の浦緑地公園」、「井関健康運動公園」の拠点整備に加えて、拠点間のネットワーク（管理用通路）を整備することにより、市民の憩いや交流の場、スポーツやレクリエーションの場となる河川空間を創出します。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　低水護岸、管理用通路・階段、河川敷整備、根固めブロック　等
阿南市　：　築山、東屋、トイレ、管理事務所、ベンチ、植栽、城門、発光ダイオード（LED）電飾、モニュメント製作据付け　等

3. ソフト施策の内容

阿南市　：　阿南夏まつり、観月会、クリスマスイベント　等



桑野川かわまちづくり【完】

那賀川水系桑野川（徳島県阿南市）【直】

事業実施の効果

整備前

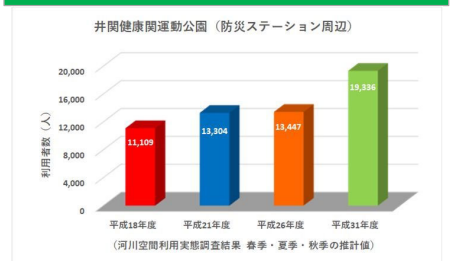


整備後



堤防の安全上必要となる低水護岸や管理用通路の整備を通じ、人々がスポーツや趣味を満喫できるリクリエーション空間の整備を支援する。なお、低水護岸は、河川景観や親水性に配慮した構造で整備する。（平成23年に完成）

井関健康運動公園の利用状況



事業実施の効果

整備前



整備後



阿南市が進める「阿南光のまちづくり」との連携の下、河川利用上の安全・安心に係る河川敷整正や管理用通路を整備することにより、様々な活動やイベントができる憩い空間の整備を支援する。また、富岡商店街との連携を図りながら、河川空間と商業空間が一体となった賑わいのある中心市街地の形成を支援する。（平成21年に完成）

浜の浦緑地公園の利用状況



事業実施の効果



桑野川防災ステーション
テニスコート



阿南駅前児童公園

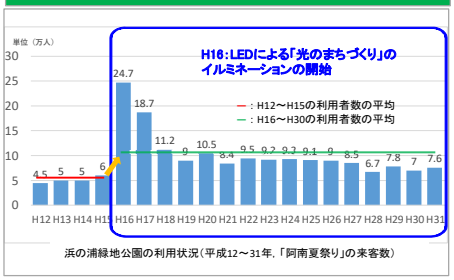
都市再生整備計画において、地域の憩いと交流の空間となる阿南駅前児童公園、桑野川防災ステーション等を整備している





地域の主要産業である発光ダイオード（LED）を用いた「光の導線」（阿南光のまちづくり）と横見・浜の浦・井関地区の各拠点をネットワーク（遊歩道としての通路）で結ぶことにより、地域の魅力が向上し、観光産業の振興に寄与するとともに、近接する商店街や地域の活性化が期待できる。

イベント参加者の推移



桑野川かわまちづくり【完】

那賀川水系桑野川（徳島県阿南市）【直】

<ソフト施策内容>

・阿南市
- ・阿南夏まつり：毎年7月第４金曜日~日曜日
  場所：浜の浦公園、牛岐城跡公園
  内容：阿波踊り、花火大会、フォトコンテスト　等
- ・観月会：毎年9月
  場所：牛岐城趾公園
  内容：吹奏楽演奏、琴演奏、影絵、抹茶の接待　等
- ・クリスマスイベント：毎年12月23日~25日
  場所：牛岐城趾公園
  内容：イルミネーション、光の結婚式、クリスマスライブ　等









<参画機関>

・横見をきれいにする会
・富岡まちづくり協議会
・富岡商店街協同組合
・阿南商工会議所
・光のまちづくり協議会



護岸のペイント
（横見をきれいにする会）



ミズベリング



植栽活動
（横見をきれいにする会）

<水辺空間の利活用状況>

○かわまち計画範囲内の占用許可状況
- ・浜の浦緑地公園
  阿南市が占用しており、阿南夏まつりの会場として利用されている。

○今後の展望

<かわまちの運営（維持管理）>

・ライオンズクラブ
　一斉清掃、アドプトで清掃活動を実施
・まちづくり協議会
　第３土曜日に浜ノ浦公園で清掃活動
・富岡西高校
　課外活動として清掃活動を実施
・横見町をきれいにする会
　河川敷での植栽を実施



ライオンズクラブ



富岡東高校



ごみゼロ大作戦



植栽活動

【H21年度】

「内町・新町地区かわまちづくり」（徳島県徳島市）

登録年月日：H21.5.22
事業年度：R6～R10

対象河川 ： 一級河川 吉野川水系新町川～助任川 【県管理河川】

市町村名 ： 徳島県徳島市

推進主体 ： 徳島市



1. 概要

吉野川水系の新町川と助任川に囲まれた「ひょうたん島」では、行政による修景護岸や親水公園などの整備をはじめ、「河川空間のオープン化の特例」を活用した市民団体による周遊船の運航や様々なイベントなど、官民一体となって水辺を生かしたにぎわいづくりに取り組んでいます。

本計画では、青石による修景護岸やまちづくりの一環としての遊歩道を継続するとともに、令和4年3月に策定された徳島市中心市街地活性化基本計画と連携し、地域資源であるLEDを活用した景観整備や「ひょうたん島川の駅ネットワーク構想」に基づく川の駅の利用の発展的拡大、また周遊船の本格運用により、河川を利用した人の流れを拡大しひょうたん島全体へと人を呼び込み、回遊させることで、ひょうたん島エリアと重なる本市中心市街地全体の「にぎわい」の創設につなげます。

2. ハード整備の内容

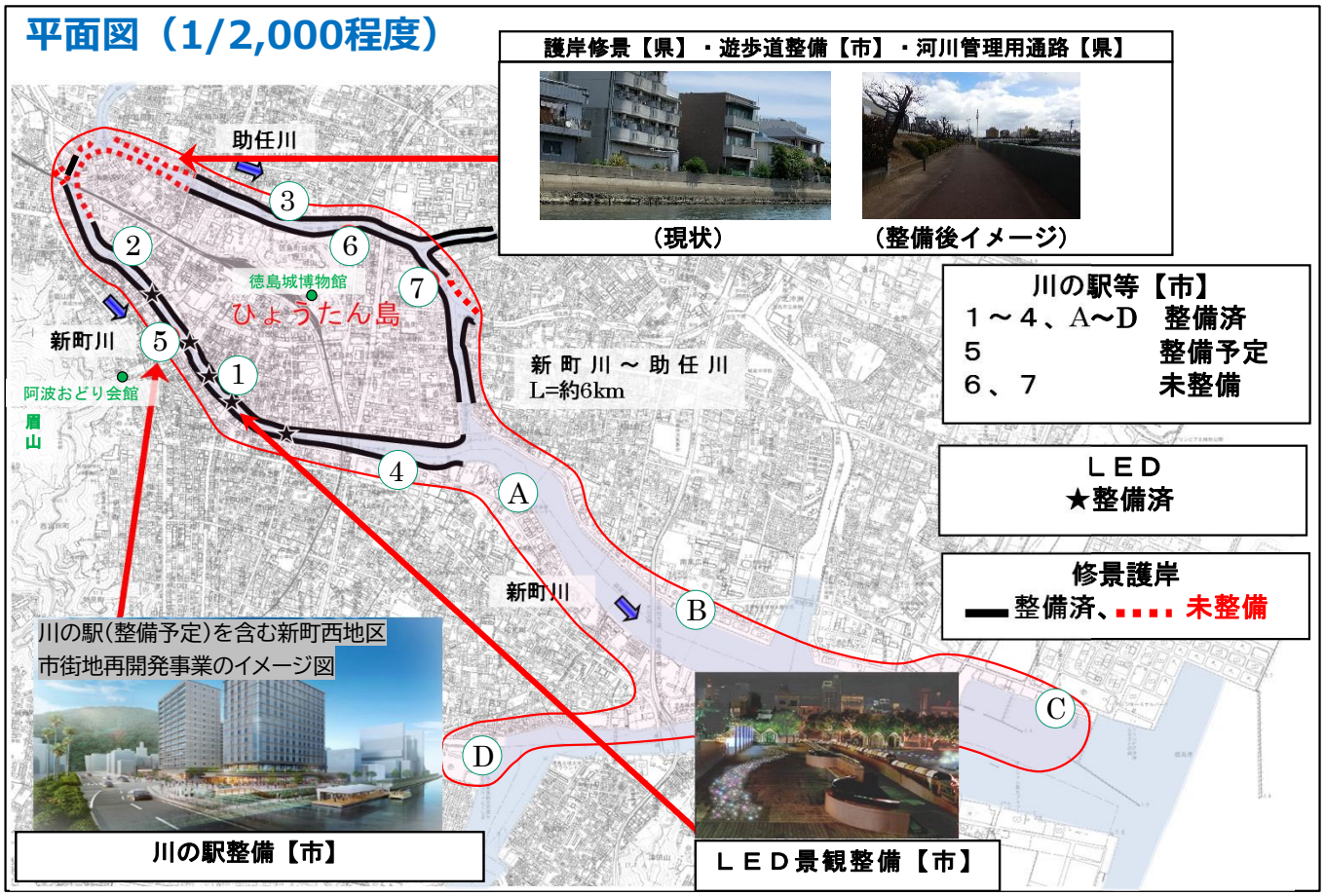
徳島県 ： 修景護岸、河川管理用通路

徳島市 ： 川の駅（船着き場）、遊歩道 等

3. ソフト施策の内容

徳島県 ： 都市・地域再生等利用区域の指定 等

徳島市 ： 周遊船の運航、にぎわい創出の各種取組 等



内町・新町地区かわまちづくり

吉野川水系新町川、助任川(徳島県徳島市)【補】

事業実施の効果

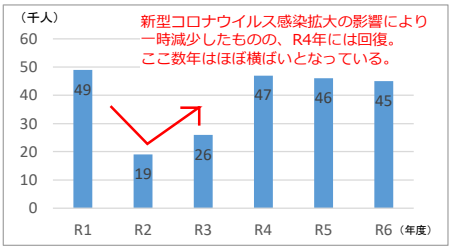


しんまちボードウォーク整備前



人々で賑わう水辺

ひょうたん島周遊船乗船者数(千人/年)



事業実施の効果



船着き場の整備



ひょうたん島周遊船

事業実施の効果



LEDを活用した景観整備



水辺空間における産直市等の開催

内町・新町地区かわまちづくり

吉野川水系新町川、助任川(徳島県徳島市)【補】

ソフト施策



阿波おどり



Retra！水都祭



吉野川ﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙ



水際コンサート

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

河川敷地占用許可準則22条による、都市・地域再生等利用区域の指定がされており船着き場等が整備されている。
→占用主体：徳島市、特定非営利法人 新町川を守る会

○「にぎわい」の創出

実行委員会形式によるRetra！水都祭や吉野川ﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙのほか、新町川を守る会による毎月の水際コンサートなど、多数のイベントが行われている。

＜参画機関＞

・ひょうたん島川の駅ネットワーク構想の推進に向けて、水辺で活動するNPO法人等が参画する「ひょうたん島川の駅連絡会」を設置し、検討を進めている。
・Retra！水都祭の開催にあたり、様々なNPO法人等が参加する事業主体として「水都祭実行委員会事務局」を設置している。

＜かわまちの運営（維持管理）＞

・施設整備後の維持管理状況
→施設の維持管理は占用主体となっているNPO法人新町川を守る会が実施している。

・清掃活動
→NPO法人新町川を守る会により、毎月２回、河川の浮遊ごみや岸辺の清掃が行われている。



＜かわまちの運営（護岸整備）＞

・ふるさと納税型クラウドファンディング
→阿波の青石を活用して、護岸整備を行う。

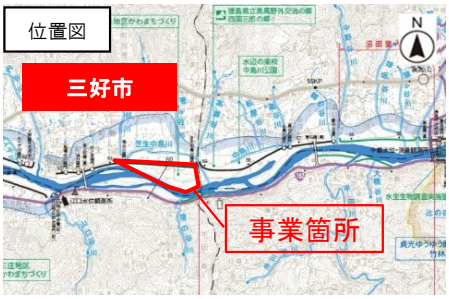


【H22年度】吉野川の雄大な自然の中で、遊び、学び、楽しめる場

「芝生地区かわまちづくり」（徳島県三好市）

登録年月日：H22.9.24
事業年度：H21～H28

対象河川　：　一級河川　吉野川水系吉野川【国管理河川】
市町村名　：　徳島県三好市
推進主体　：　三好市



1. 概要

徳島県西部最大の高水敷である立地を最大限に活かし、水と緑が豊かな観光資源を活かした水辺利用の拠点づくりを行うことにより、人々が川に親しみ、川の自然や文化を学ぶ多様な交流拠点を目的として、基盤整備（A=19ha）・管理道等を整備する。

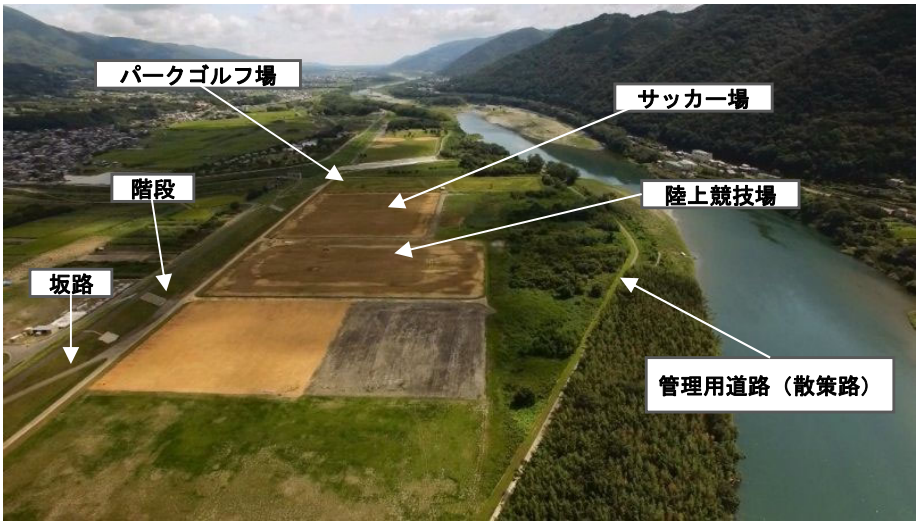
2. ハード施策の内容

国土交通省　：　高水敷整正、階段、管理道　等　　三好市　：　多目的広場、サッカー場　等

3. ソフト施策の内容

民間団体　：　スポーツイベント、カヌー体験、グランドゴルフ大会、サッカー大会　等

■　整備後の状況











芝生地区かわまちづくり【完】

吉野川水系吉野川（徳島県三好市）【直】

事業実施の効果



人が気軽に入れない状況



サッカー場を整備し交流の場に

事業実施の効果



未舗装道路であり、通行しにくい状態



グランドゴルフ場を整備

事業実施の効果

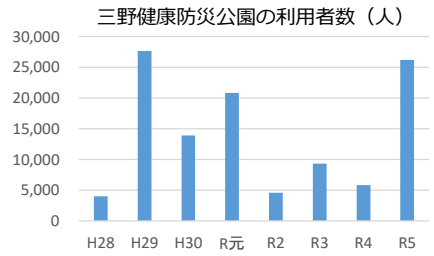


施設もなく使用しにくい状況

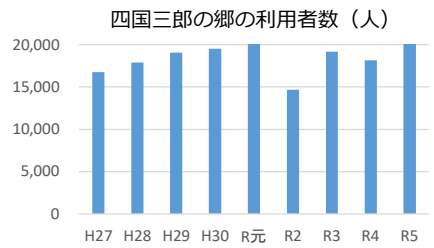


吉野川の雄大な自然の中で楽しむ場を整備

指標名　利用者数の推移



指標名　周辺施設の利用者数



主な利用状況

- 地元NPOの協力で親子でのカヌーツアーに参加
- 夏休みにキャンプ、サイクリング、水遊び利用
- 交通の利便性を活かして自転車ロードレースへの参加及び宿泊施設を活用

芝生地区かわまちづくり【完】

吉野川水系吉野川（徳島県三好市）【直】

ソフト施策

実施写真



スポーツイベント（マラソン）

実施写真



カヌー体験

実施写真



グランドゴルフの大会

実施写真



サッカーの大会

＜参画機関＞

- 「三好市吉野川三野水辺の未来を考える会」を設置

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

- 河川法第２４条、第２６条、第２７条による占用許可

＜かわまちの運営（維持管理）＞

施設整備後の維持管理状況

施設整備後の維持管理については、連絡協議会等を通じて地元自治体、地元ボランティアなどでの実施。

【H25年度】人と人との新しい出会いをもたらす喜びの空間を創出

「三庄地区かわまちづくり」（徳島県三好郡東みよし町）

登録年月日：H26.3.26
事業年度：H5～H30

対象河川　：　一級河川　吉野川水系吉野川　【国管理河川】
市町村名　：　徳島県三好郡東みよし町
推進主体　：　三好郡東みよし町



1. 概要

三庄地区は平成26年3月に「かわまちづくり」として登録され、水と緑が豊かな観光資源を活かした水辺利用の拠点づくりを行うことにより、人々が川に親しみ、川の自然や文化を学ぶ多様な交流拠点としての水辺空間を、自治体（東みよし町）と連携し整備を行うものである。隣接する水辺の楽校「ぶぶるパークみかも」と一体的な利用を計画している。

2. ハード施策の内容

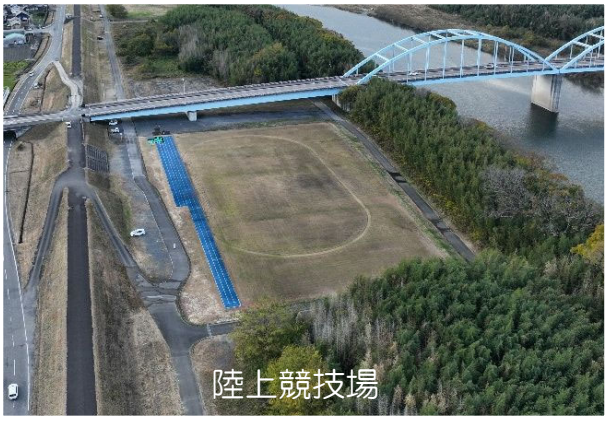
国土交通省　：　基盤整備、竹林伐採、高水敷整正、管理道　等
東みよし町　：　施設整備、多目的広場、陸上グラウンド　等

3. ソフト施策の内容

隣接する水辺の楽校「ぶぶるパーク」と一体的な利用

■　整備後の状況







整備後イメージパース



三庄地区かわまちづくり【完】

吉野川水系吉野川（徳島県三好郡東みよし町）【直】

事業実施の効果



竹藪があり人が通れない状態



管理道を整備し、散策もできる

町の声

マラソンや駅伝で使用したいとの声がある

事業実施の効果



未舗装道路であり、通行しにくい状態



舗装し、周回出来るように整備

今後の集計について

今後は河川水辺の国勢調査(空間利用調査)でデータ集計を行う

事業実施の効果



陸上競技場整備前



陸上競技場を整備

陸上競技場

陸上競技場を整備し、現在、地元の中学校等が練習に利用している。今後、スポーツ大会のようなイベントの開催も期待される。

三庄地区かわまちづくり【完】

吉野川水系吉野川（徳島県三好郡東みよし町）【直】

ソフト施策

・隣接する水辺の学校「ぶぶるパーク」と一体的な利用





写真：水辺の学校「ぶぶるパーク」の利用状況

＜参画機関＞

・三庄かわまちづくり協議会を設置。
・7月7日水辺で乾杯等に参加。

＜かわまちの運営（維持管理）＞

東みよし町にて占用し維持管理を行う。

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

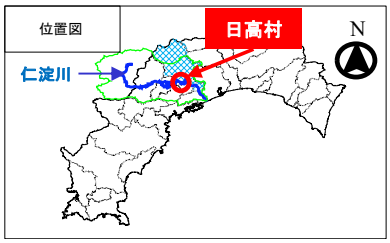
・河川法第２４条、第２６条による占用許可

【H25年度】

「江尻地区かわまちづくり」（高知県高岡郡日高村）

登録年月日：H26.3.26
事業年度：H27～R6

対象河川　：　1級河川　仁淀川水系仁淀川　【国管理河川】
市町村名　：　高知県高岡郡日高村
推進主体　：　日高村



1. 概要

仁淀川は、全国屈指の清流であり、また水辺空間も多数の利用者で賑わっている現状である。
江尻箇所は、日高村に位置し、周辺には仁淀川の治水の歴史に深く関わる「小村神社」や「江尻羽根」「神母閘門（現：神母樋門）」があり、歴史的遺産として村民に受け継がれている。
日高村では「第5次日高村総合振興計画」を策定し、観光・交流の振興の施策として、「小村神社のパワースポット」「環境保全型観光・体験型観光の開発」などを計画し、さらに「日高村観光資源活用調査事業」の中で、当江尻箇所及び近傍エリアとして「小村神社エリア」「仁淀川エリア」があり、「歴史・文化を活用したパワースポット」「仁淀川を学び、守りながら活用する環境保全型観光」などが上げられている。そうした取組と併せ、「かわまちづくり」として自治体と連携し整備を図るものである。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　管理用通路、親水護岸
日高村　　：　公園、トイレ、駐車場、多目的広場、竹林整備、遊歩道等

3. ソフト施策の内容

国土交通省　：　パンフレット作成　　日高村　：　広報活動



江尻地区かわまちづくり【完】

仁淀川水系仁淀川（高知県高岡群日高村）【直】

事業実施の効果











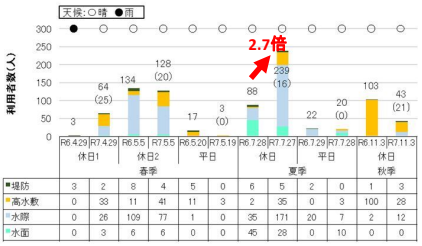


R6.10月オープン

整備後の利用状況

効果（河川空間利用実態調査）

- 河川空間利用実態調査を実施し、整備前後の利用者数の推移を確認。
- 整備前であるR6.4月～河川空間利用実態調査実施。
- R6.10月公園オープン。
  R7夏季休日の利用者数はR6と比較して約2.7倍に増加し、その多くは水際や高水敷利用者（公園等）であった。



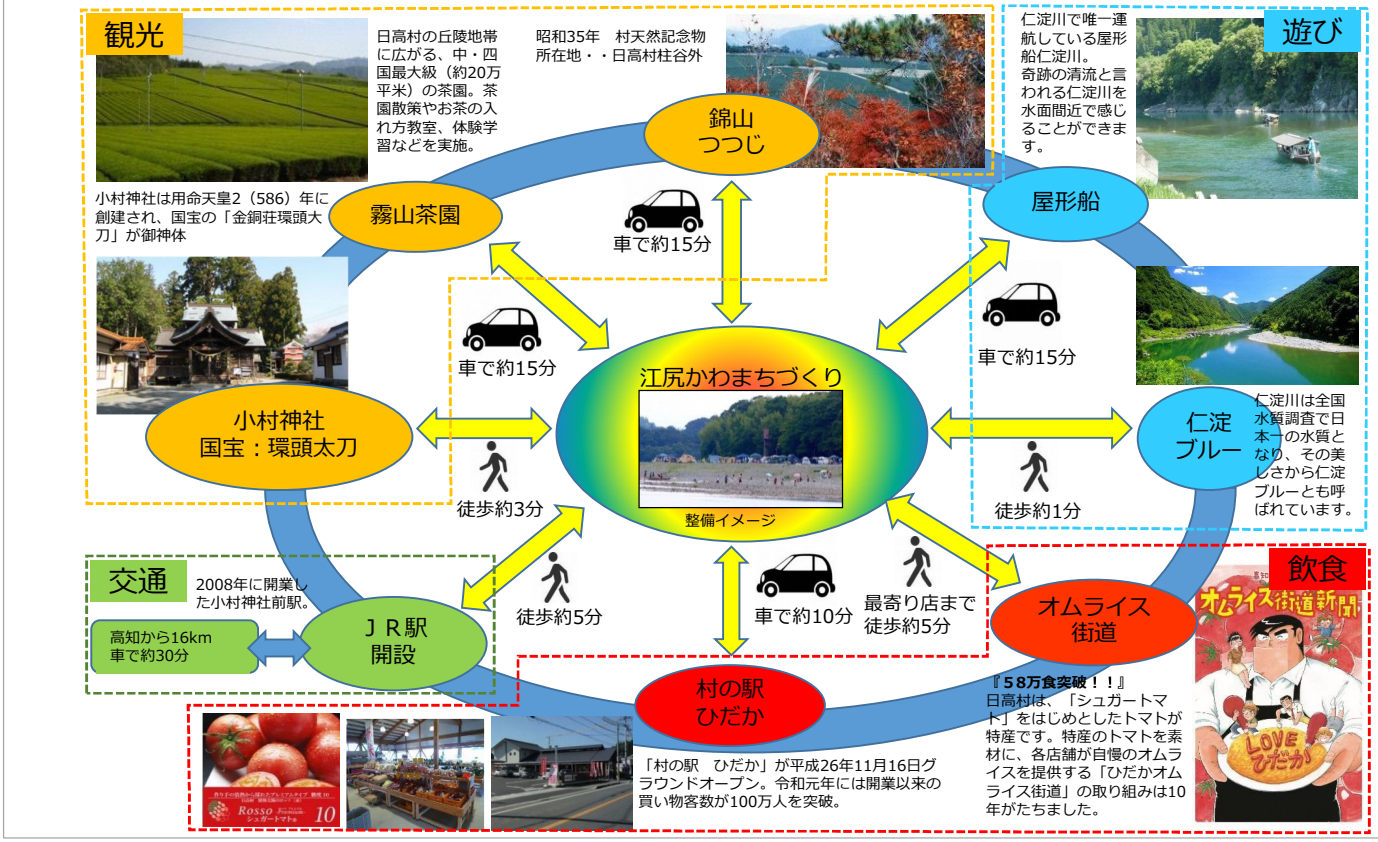
	R6.4.29 休日1	R7.4.29 休日1	R6.5.5 休日2	R7.5.5 休日2	R6.5.20 平日	R7.5.19 平日	R6.7.28 休日	R7.7.27 休日	R6.7.29 平日	R7.7.28 平日	R6.11.3 休日	R7.11.3 休日
堤防	3	2	8	4	5	0	6	5	2	0	1	3
高水敷	0	33	11	41	11	3	2	35	0	3	100	28
水際	0	26	109	77	1	0	35	171	20	7	2	12
水面	0	3	6	6	0	0	45	28	0	10	0	0

江尻地区かわまちづくり【完】

仁淀川水系仁淀川（高知県高岡群日高村）【直】

ソフト施策

江尻かわまちづくりを中核とした周遊性の高い観光を構築



【H29年度】

「那賀川かわまちづくり」（徳島県那賀郡那賀町）

登録年月日：H30.3.26
事業年度：H30～R3

対象河川　：　1級河川　那賀川水系那賀川

【国管理河川】

市町村名　：　徳島県那賀郡那賀町

推進主体　：　那賀川水源地域ビジョン推進会議



1. 概要

長安口ダムは、徳島県南部を東西に流れる一級河川那賀川水系那賀川の那賀町に位置し、昭和31年に建設されたダムであり再開発工事を実施した。

「那賀川かわまち事業」では、改造事業にて使用した仮設工作物の跡地を有効活用し、水源地域と受益地域の交流促進に資する水辺整備を実施した。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　舗装工、管理用通路、転落防止柵　等

那賀町　：　付帯施設　等

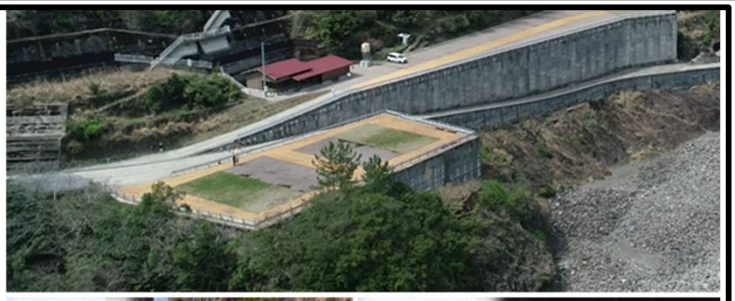
3. ソフト施策の内容

国土交通省　：　ダム見学　等

那賀町　：　パンフレット作成　等

整備状況













活用状況


ダム見学会


地元イベントで活用

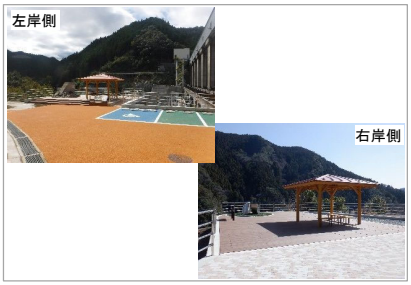

ドローン訓練に活用

那賀川かわまちづくり【完】

那賀川水系那賀川（徳島県那賀郡）【直】

事業実施の効果





利用者の声

・ココは確実に那賀町の名スポットになります。

・放流時の迫力がすごいです。

事業実施の効果

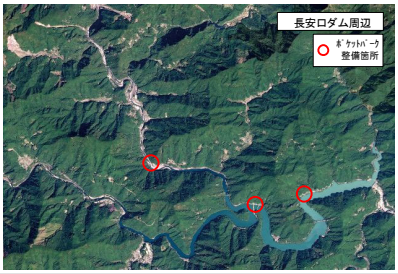




利用者の声

・ドローンを飛ばせる場所が出来、トイレや電源設備があるのが良い。

事業実施の効果





利用者の声

・ダム周辺に自転車を掛けて止まれる所が無かったので出来て良かったです。

那賀川かわまちづくり【完】

那賀川水系那賀川（徳島県那賀郡）【直】

ソフト施策

・ダム見学等「那賀川水源地域ビジョン」施策との連携。
・那賀町（ナカ祭り等）での祭りやイベント、地域資源との連携。
・ドローン特区でもある那賀町において、日本ドローンレース協会が実施しているドローンレース、那賀町が実施している空撮体験会等との連携。
・那賀町、徳島県企業局が実施している川口ダムライトアップイベントとの連携。
・那賀川流域住民で構成される団体（那賀川アフターフォーラム）が実施している那賀川源流コンサートや上下流交流イベントである、なかがわ探検バスツアーとの連携。

○今後の展望
・那賀川流域の河川空間、地域資源の利活用、維持管理について那賀川水源地域ビジョン推進会議で検討し、推進を図っていく。

＜参画機関＞

・那賀町商工会や阿南商工会を始め、地元住民と行政が一体となった那賀川水源地域ビジョン推進会議による、利活用、維持管理を進めていく。


「那賀川水源地域ビジョン推進会議」

○今後の展望
・ビジョン推進会議の取り組みと地域の様々な活動や、新たに民間事業者とも連携し、ダムと地域資源を繋ぎ、地域活性化に結びつけていく。

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況
・該当なし

○今後の展望
展望所・ドローン広場・ポケットパークを利活用したイベント等を実施していく。









＜かわまちの運営（維持管理）＞

・施設の維持管理については、国土交通省と那賀町が協力して行う。
・イベント時の使用に対する維持管理等は、イベント主催者と協力して行うなど、地域住民等も協働で維持管理を行うようルールづくりを行い、取り組むこと検討していく。

○那賀町（ドローン広場の日常管理）
○国土交通省（展望所、ポケットパークの日常管理）

【H30年度】自然と人、人と人との出あいの場、重信川

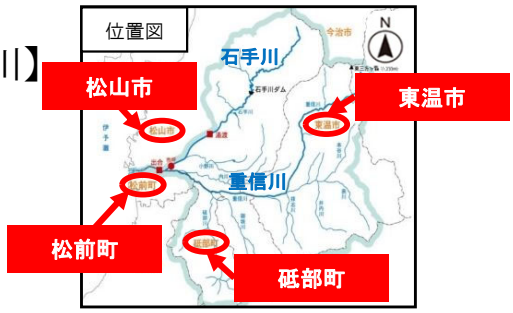
「重信川かわまちづくり」（愛媛県松山市・東温市・松前町・砥部町）

登録年月日：H31.3.8
事業年度：R1～R7

対象河川　：　1級河川　重信川水系重信川　【国管理河川】

市町村名　：　愛媛県松山市・東温市・松前町・砥部町

推進主体　：　松山市・東温市・松前町・砥部町



1. 概要

重信川を周遊する「重信川自転車道」は、愛媛県の重要施策である「愛媛マルゴト自転車道」の重点戦略エリアに指定されており、身近なサイクリングコースとして地域住民や県外客等多くの人々に利用されています。

本計画では、重信川沿川の自転車道を整備するとともに、自転車やウォーキング等の出発地点・休憩所、憩いの場や環境学習の場として拠点箇所の整備を行い、重信川において『出あいの場』,『安全・安心な水辺空間』,『学びの場』の創出を目指します。

国土交通省では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備のほか、河川空間において営利活動を実施する場合には、河川敷地占用許可準則第22に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

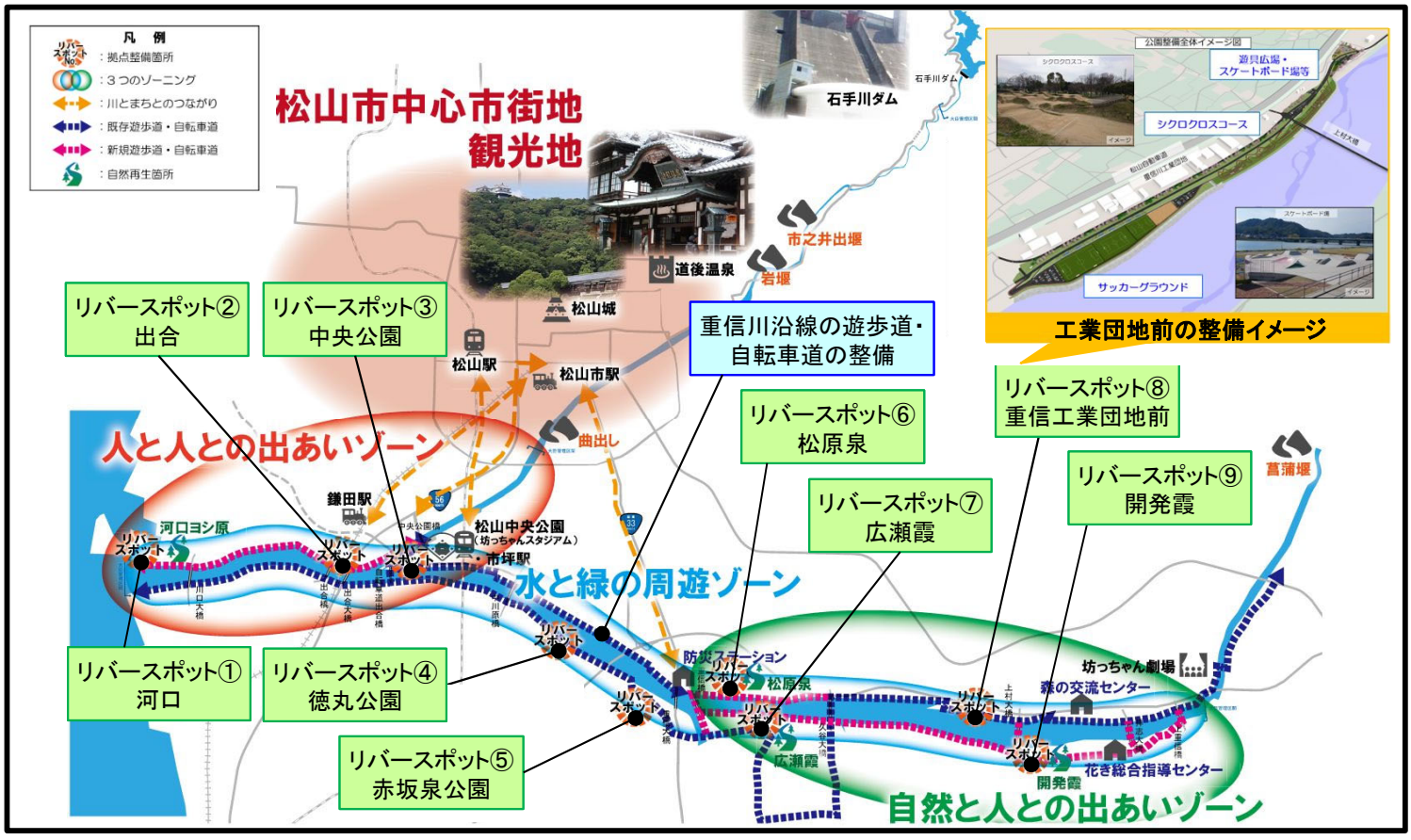
国土交通省　：　管理用通路、緩傾斜堤防・親水護岸、階段・坂路、高水敷造成の整備

松山市・東温市・松前町・砥部町　：　サッカー場、ベンチ・サイクルスタンド・シクロクロスコース等の整備

3. ソフト施策の内容

国土交通省　：　都市・地域再生等利用区域の指定　等

松山市・東温市・松前町・砥部町　：　環境学習、防災学習、スポーツイベント、マルシェ、パンフレット作成　等



重信川かわまちづくり

重信川水系重信川
（愛媛県松山市・東温市・松前町・砥部町）【直】

事業実施の効果

スポット①　河口

整備前



河口はｻｲｸﾘﾝｸﾞﾛｰﾄﾞの出発点となるﾘﾊﾞｰｽﾎﾟｯﾄとして整備

整備後



ベンチ、サイクルスタンドの設置

指標名　利用者数

効果（定量評価or定性評価）

河川空間利用実態調査やイベントでの集客数、サイクリング利用者数調査、人流データの分析によって、整備前後の増減および整備後の経年変化で効果を評価する

事業実施の効果

スポット⑥　管理用通路

整備前



橋梁交差点部で自歩道が分断（自動車との接触の危険）

整備後



橋梁箇所は河川管理用通路のアンダー化に整備

指標名　利用者数

効果（定量評価or定性評価）

河川空間利用実態調査やイベントでの集客数、サイクリング利用者数調査や人流データの分析によって、整備前後の増減および整備後の経年変化で効果を評価する

事業実施の効果

スポット⑧　工業団地前

整備前



堤外地の状況（雑草繁茂，水辺との分断）

整備中



高水敷の造成、管理用通路の整備によって水辺の親水性向上を目指す

指標名　利用者数

効果（定量評価or定性評価）

河川空間利用実態調査やイベントでの集客数、サイクリング利用者数調査や人流データの分析によって、整備前後の増減および整備後の経年変化で効果を評価する

重信川かわまちづくり

重信川水系重信川
（愛媛県松山市・東温市・松前町・砥部町）【直】

ソフト施策



シクロクロス大会

かすみの森公園の一部を利用してコースセッティング



自転車甲子園

高校生による自転車大会(道路交通法のクイズ、討論会等)



Vert マルシェ

かすみの森公園でのﾌﾘｰﾏｰｹｯﾄ



昆虫観察会

かすみの森公園での環境学習

＜水辺空間の利用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・ベンチ、サイクルスタンド設置

・自転車道、駐車場の整備

・サッカー場、ｼｸﾛｸﾛｽｺｰｽ、遊具広場・ｽｹｰﾄﾎﾞｰﾄﾞ場

○今後の展望

・愛媛県や民間業者と連携し、地域の活性化施策の一環として、整備した自転車道・遊歩道などを活用したサイクリングレース、カフェやマルシェ等のイベントを実施していく。

＜参画機関＞

・重信川かわまちづくり推進協議会（重信川沿川の市町、有識者、市民団体等で構成）による各リバースポットおよびサイクリングロードの利活用等の推進を図る。

【行政機関】
愛媛県・松山市・東温市
松前町・砥部町
【有識者】
愛媛大学・松山東雲女子大学
【市民団体等】
NPO森からつづく道
松山白鷺ﾗｲｵﾝｽﾞｸﾗﾌﾞ
松山商工会議所
Vertﾏﾙｼｪ・ｻｲｸﾙｼｮｯﾌﾟﾌｨｰﾙﾄﾞ社



重信川かわまちづくり推進協議会

＜かわまちの運営（維持管理）＞

・施設の占用及び維持管理については、重信川沿川の各市町（松山市、東温市、松前町、砥部町）が主体的に行う。出水等の災害に対する施設被害に関しては、国土交通省が支援し、各市町が主体的に行っていく。

・イベント時の使用に対するゴミ拾いや除草等の維持管理は、イベント主催者で行うなど、地域住民等も協働で維持管理に取り組む。

【R1年度】水郷文化とともに育ち続けるかわまちづくり

「肱川かわまちづくり(第1期)」(愛媛県大洲市)

登録年月日:R.2.3.13
事業年度:R2～R11

対象河川 ： 一級河川 肱川水系肱川 【国管理河川】
市町村名 ： 愛媛県大洲市
推進主体 ： 大洲市



1. 概要

大洲市では、平成30年7月豪雨災害の甚大な被害に対し、今後取り組むべき復旧・復興の基本施策を体系的に取りまとめた「大洲市復興計画」を作成しています。経済・産業の再生の施策の一つとして、新たな視点での観光資源の開発に取り組むこと、松山を訪れる観光客並びに東・中予の住民を当地域へ誘引するための拠点整備を県・南予各市町等とも協調しながら進めていくこととしています。

この取組を充実させるため、本計画では、かつての「かわ」と「まち」をつなぎ大洲の発展を支えた「かわみなと」を復活させ、人が集い、自然・歴史等にふれあえる水辺空間の整備を行い、新たな賑わいの創出、地域の活性化を目指します。

2. ハード施策の内容

国土交通省 ： 親水護岸、河川管理用通路、高水敷整正 等
大洲市 ： 案内看板、芝生植生、水道施設 等

3. ソフト施策の内容

国土交通省 ： 協議会・社会実験支援 等
大洲市 ： 地域イベント等での河川利用の促進 等



みどりのかわみなと（肱北地区）

市民の憩いの場である
緑地公園に「かわみなと」を整備


いもたきでの利用状況


サイン



しろしたかわみなと（肱南地区）

大洲のシンボル、
大洲城の下に「かわみなと」を整備








サイン

「肱川をナゲと共に楽しむ」
伝統的なナゲと共に肱川の水際まで散策可能とするナゲテラスの創出

肱川かわまちづくり（第１期）

肱川水系肱川（愛媛県大洲市）【直】

事業実施の効果





しろしたかわみなと利用者数の推移

【効果計測の方向性】
・整備後の利用実態調査や利用者アンケート調査等で効果を計測していく

事業実施の効果





みどりのかわみなと利用者数の推移

【効果計測の方向性】
・整備後の利用実態調査や利用者アンケート調査等で効果を計測していく

事業実施の効果





カヌー・船運の利用者推移

【効果計測の方向性】
・整備後の利用実態調査や利用者アンケート調査等で効果を計測していく

肱川かわまちづくり（第１期）

肱川水系肱川（愛媛県大洲市）【直】

ソフト施策



かわみなとを活用したカヌー・SUP・遊覧船等の利用活性化



河川利用のPR、民間活用の支援



主要観光地への来訪者を水辺空間へ誘導

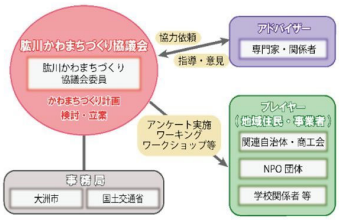


マルシェやいもたき等の地域イベントでの水辺の広場の活用促進

＜参画機関＞

・学識経験者、各種団体の代表者等で構成される「肱川かわまちづくり協議会」を設置。また、地域で活躍するプレイヤーの意見を取り入れるために「肱川かわまちづくり　ワークショップ」を開催。

・肱川かわまちづくり　ワークショップ　参加者
（大洲市、愛媛県、愛媛大学、大洲自治会連絡協会議、大洲市観光協会、大洲市サイクリング協会、愛媛県カヌー協会、大洲高校カヌー部　など）





＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

→該当無し

○その他の利用状況

・既存のイベントとの連携
しろしたかわみなと、みどりのかわみなとでは地域イベントが開催され、大洲市内外の人々が肱川沿いに集まり、遊覧船、カヌー、キッチンカー、景観等を楽しむ様子が見られている。

＜かわまちの運営（維持管理）＞

○施設整備後の維持管理状況

・施設の維持管理は各施設管理者が行う。
親水護岸等　：国交省
公園・駐車場：大洲市

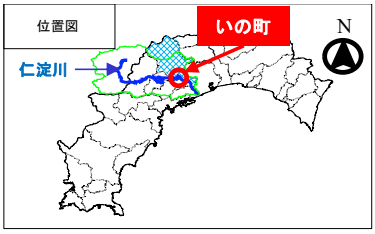
・日常的な施設管理及び清掃活動等は、市民団体等と連携し、大洲市が中心となって実施する。

【R3年度】

「波川地区かわまちづくり」（高知県いの町）

登録年月日：R3.8.20
事業年度：H4～R8

対象河川　：　1級河川　仁淀川水系仁淀川　【国管理河川】
市町村名　：　高知県いの町
推進主体　：　いの町



1. 概要

いの町には、「仁淀ブルー」で全国的に有名になった「奇跡の清流　仁淀川」が流れ、キャンプ場やカヌーなどの様々な水辺の観光資源があります。また、土佐和紙発祥の地でもあり、「いの町紙の博物館」・「土佐和紙工芸村」などの観光施設や土佐和紙で作られた鯉のぼりを清流仁淀川で泳がすなどのイベントも行われています。また令和3年秋ごろには全線開通予定である高知西バイパスなどの交通結節点をつなぐ動線の確保とそれに伴う水辺利用の向上に取り組むことで、賑わい創出を図り、観光拠点の中心となるまちづくりを目指しています。

この取り組みを充実させるため、憩いの場所や駐車場などの整備し、集客数向上を推進します。また、「MIZBERING NIYODOGAWA INOTOWN」や上下流域にある観光施設と連携し、地域住民の参画を促し、水辺の多様な利用による賑わい創出にも取り組んでいきます。

河川管理者（国土交通省）では、この取組みに対し、必要となる河川管理施設を整備するほか、河川敷地占用許可準則第22条に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

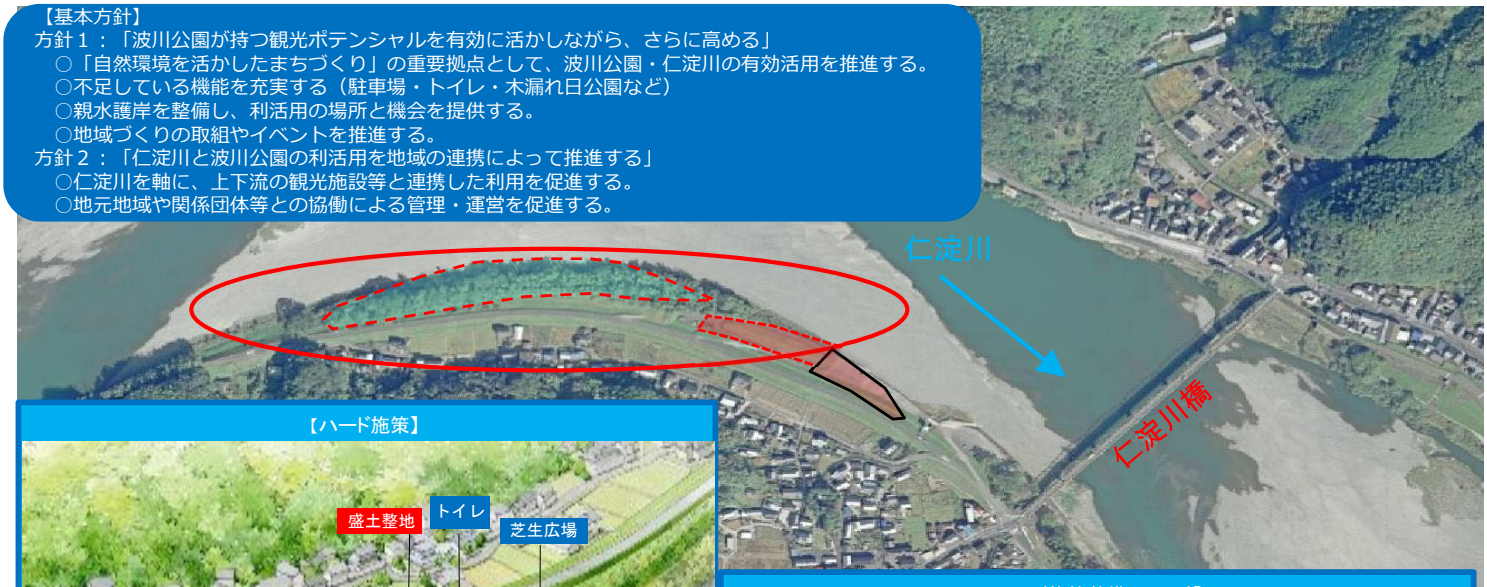
2. ハード施策の内容

国土交通省　：　親水（階段）護岸整備・河原スロープ整備・車両回転場整備　等
いの町　　：　河川敷駐車場整備、樹木伐採（間伐）、木漏れ日公園整備など　等

3. ソフト施策の内容

国土交通省　：　都市・地域再生等利用区域の指定　等　　いの町　：　河川空間の民間開放に向けた連携

【基本方針】
方針１：「波川公園が持つ観光ポテンシャルを有効に活かしながら、さらに高める」
○「自然環境を活かしたまちづくり」の重要拠点として、波川公園・仁淀川の有効活用を推進する。
○不足している機能を充実する（駐車場・トイレ・木漏れ日公園など）
○親水護岸を整備し、利活用の場所と機会を提供する。
○地域づくりの取組やイベントを推進する。
方針２：「仁淀川と波川公園の利活用を地域の連携によって推進する」
○仁淀川を軸に、上下流の観光施設等と連携した利用を促進する。
○地元地域や関係団体等との協働による管理・運営を促進する。







波川地区かわまちづくり

仁淀川水系仁淀川（高知県吾川郡いの町）【直】

事業実施の効果



木漏れ日公園内から自由に河原へアクセスできない。



自由に河原へアクセスできるように親水護岸を整備



木漏れ日公園の中から、樹木が生い茂って薄暗く、川が見えません。
（右側に仁淀川が流れています。）

（イメージ）



・木漏れ日公園内の樹木を間引いて快適な環境を創る
・木漏れ日公園内の整備後マルシェを開催



混雑時には、駐車場が不足しているため広場を開放し、対応しなければならない。

（イメージ）

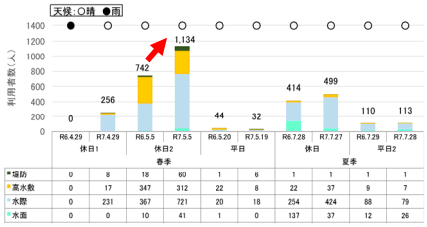


駐車場の拡張整備

整備後の利用状況

効果（河川空間利用実態調査）

・河川空間利用実態調査を実施し、整備前後の利用者数の推移を確認。
・R6に親水護岸等の国整備完了。
・河川利用実態調査を実施。
（R6：国整備中、R7：国整備後）
大型連休の5月5日を比較するとR7の利用者数が約1.5倍に増加。
・現在、いの町が整備中であり、今後も河川利用実態調査によるモニタリングを継続予定。



	R6.4.29	R7.4.29	R6.5.5	R7.5.5	R6.5.20	R7.5.19	R6.7.28	R7.7.27	R6.7.29	R7.7.28
堤防	0	8	18	60	1	6	1	1	1	1
高水敷	0	17	347	312	22	8	22	37	9	7
水際	0	231	367	721	20	18	254	424	88	79
水面	0	0	10	41	1	0	137	37	12	26

波川地区かわまちづくり

仁淀川水系仁淀川（高知県吾川郡いの町）【直】

ソフト施策



道の駅：土佐和紙工芸村「くらうど」のカヌーツーリング等をサポート



にこにこ館等の施設に観光情報ボードを設置
イベント情報等の最新の情報をSNSで発信



波川公園と仁淀川の環境を活かした体験プログラムの開催・企画



「銀橋マルシェ」等の拡大開催

＜参画機関＞

波川地区かわまちづくり協議会
・波川公民館（地域住民）　・いの町観光協会　・いの町商工会
・かんぽの宿 伊野　・土佐和紙工芸村「くらうど」
・MIZBERING NIYODOGAWA INOTOWN
・いの町　・国土交通省高知河川国道事務所





＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況
→該当なし

＜かわまちの運営（維持管理）＞

施設整備後の維持管理状況

→今後の協議会にて検討を行っていく。

【R6年度】

「中筋川流域かわまちづくり」（高知県宿毛市、四万十市、三原村）

登録年月日：R6.8.8
事業年度：R7～R11

対象河川　：　1級河川　渡川水系中筋川【国管理河川】
市町村名　：　高知県宿毛市、四万十市、三原村
推進主体　：　ダム利活用調整協議会



1. 概要

中筋川ダムは平成6年4月に「地域に開かれたダム」の認定を受け、地域の交流拠点として取り組みを行ってきました。令和元年、横瀬川ダム完成を前に、2ダム等を活用した地域活性化を目指し「ダム利活用調整協議会」、その実行組織としての「ダム活元気ネットワーク」が発足しました。

令和5年3月には同協議会における取り組みに向けた2ダム等を活用した新たな行動計画として「中筋川ダム水源地域ビジョン」から2ダム及びその周辺環境を含む「中筋川流域水源地域ビジョン」に改定を行いました。

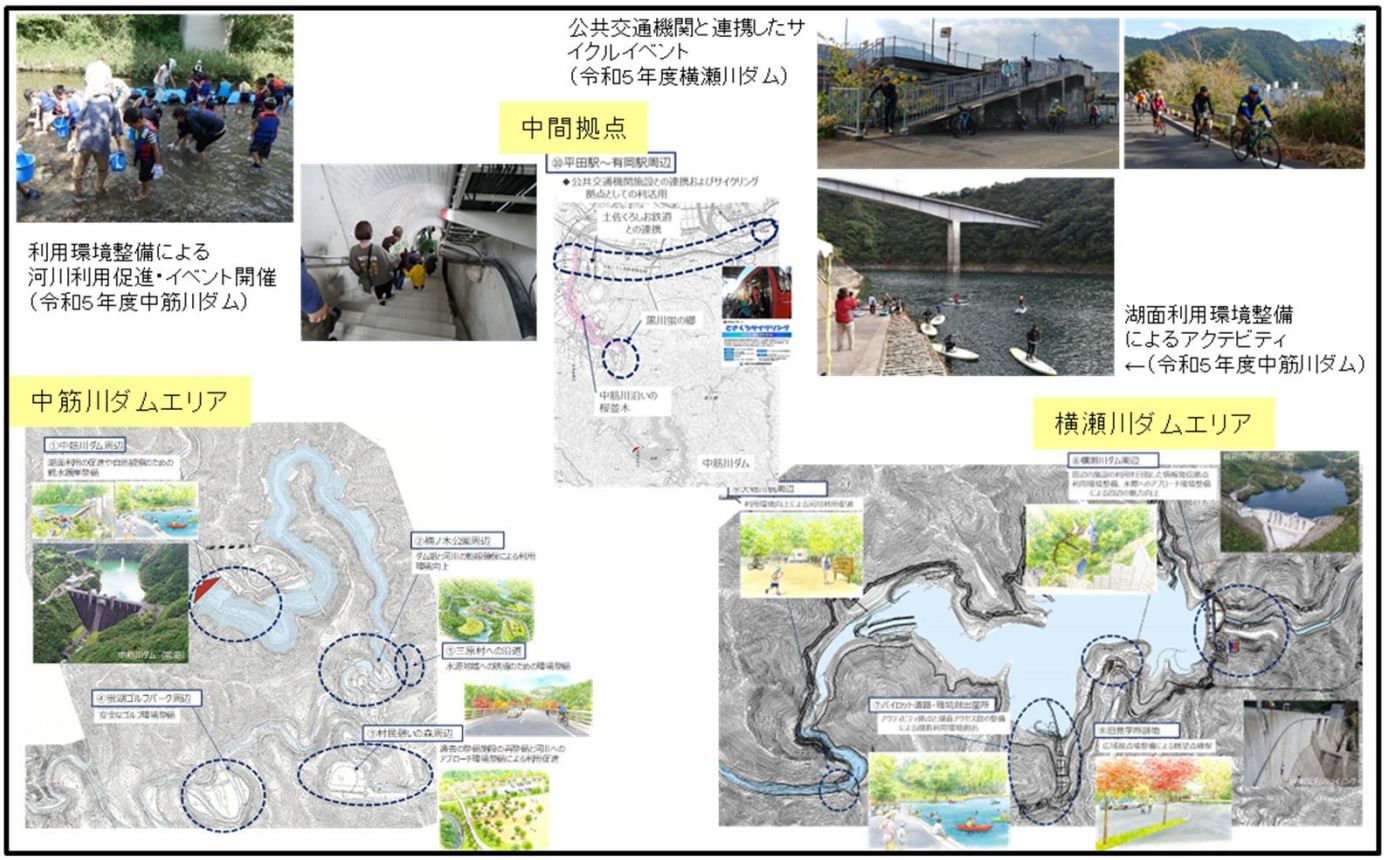
ダム利活用調整協議会では、地域に開かれたダムとして整備された中筋川ダム周辺の設備の利便性向上に向けた再整備、横瀬川ダム周辺の建設時の設備の活用、親水護岸整備などによる湖面等のアクティビティ活用促進に向けた基盤整備を行い、日本初の取り組みであるダム壁面クライミング施設（宿毛市、宿毛市観光協会）との組み合わせによる利用促進等、ダム周辺や湖面利用等、2ダム等の連携による地域活性化を目指します。国土交通省ではこの取組に対し、必要な河川管理施設の整備のほか、河川空間において営利活動を実施する場合には、河川敷地占用許可準則22条に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　河川管理用通路（湖面アクセス路）整備、親水護岸　等
ダム利活用調整協議会　：　利用環境向上施設整備、案内看板　等

3. ソフト施策の内容

国土交通省　：　都市・地域再生等利用区域の指定　等
ダム利活用調整協議会　：　クライミング施設運営、ダム周辺におけるアクティビティイベントの開催　等



※今後、工事実施のための詳細な設計等を実施することにより、実施内容を変更する場合があります。

中筋川流域かわまちづくり

渡川水系中筋川
（高知県宿毛市、四万十市、三原村）【直】

事業実施の効果



ダムの下流には、滝や祠があるが、アクセス路が整備されていない



アクセス路の整備や駐車場の整備によって、利用者が訪問しやすくする

指標名　来訪者増加

【効果計測の方向性】

・整備前であるため、整備後の来訪者について、利用実態調査やダムカード配布枚数等で効果を計測していく

事業実施の効果



ダム湖には、布団カゴが設置されているが、安全性に課題がある



親水護岸を整備することで、カヌー等で乗り降りしやすくする

指標名　来訪者増加・ｲﾍﾞﾝﾄ開催数

【効果計測の方向性】

・整備前であるため、整備後の来訪者について、利用実態調査やダムカード配布枚数等で効果を計測していく
・イベント開催回数や、各イベント時のアンケート調査による利用者の満足度向上などで目標の達成状況を確認していく

事業実施の効果



ダム建設時に見学所として利用されていた広場が現状では活用されていない。



ダム湖に張り出したデッキを整備することにより、あらたなビュースポットとして利用を促進する

指標名　来訪者増加

【効果計測の方向性】

・整備前であるため、整備後の来訪者について、利用実態調査やダムカード配布枚数等で効果を計測していく

中筋川流域かわまちづくり

渡川水系中筋川
（高知県宿毛市、四万十市、三原村）【直】

ソフト施策



中筋川ダムにおけるインフラツアーの開催



キッチンカーの出店などによる蛍湖まつりの活性化



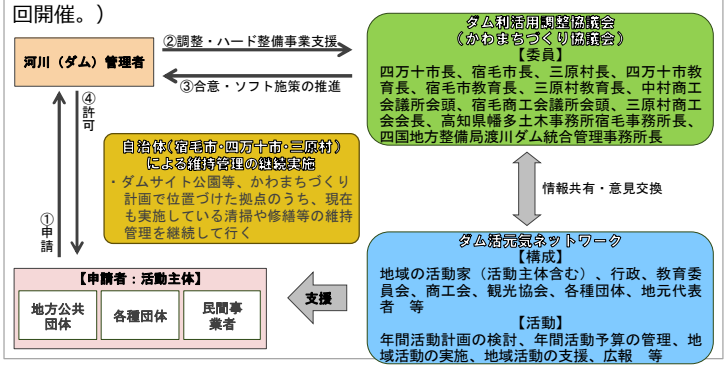
横瀬川ダムにおける既存施設、環境を活かしたアクティビティ利用



土佐くろしお鉄道を活用したサイクルトレインの開催

＜参画機関＞

「ダム利活用調整協議会」で意見交換をしつつ、「中筋川流域かわまちづくり計画」をとりまとめた。（令和5年度に協議会を2回、令和6年度に1回開催。）



＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

⇒該当なし

○今後の展望

・河川空間のオープン化に向け、ダム利活用調整協議会、ダム活元気ネットワークの枠組みを活用し、都市・地域再生等利用区域の指定について協議、調整を行っていく

＜かわまちの運営（維持管理）＞

・かわまちづくり計画で位置づけた拠点である蛍湖ゴルフパークや中筋川ダムサイト公園といった既存の施設については、現状も地元自治体による維持管理が行われており、これを継続して行く。

【R7年度】街中のオアシス、心安らぐ憩いの場、石手川

「石手川かわまちづくり」（愛媛県松山市）

登録年月日：R7.8.1
事業年度：R8～R13

対象河川　：　一級河川　重信川水系石手川　【国・県管理河川】
市町村名　：　愛媛県松山市
推進主体　：　重信川かわまちづくり推進協議会



1. 概要

松山市は、松山城を中心に発展してきた旧城下町で、道後温泉や「文学の街」としても知られる観光都市です。こうした豊かな観光資源を背景に、「国際観光温泉文化都市」に指定され、年間約600万人の観光客が訪れています。

松山市を流れる石手川は、自然環境に恵まれた水辺空間であるとともに、周辺には道後温泉やスポーツ施設が集まり、地域の回遊性向上や賑わいの創出につながる高いポテンシャルを有しています。

この特性を活かし、本計画では石手川沿いにランニングコースとして利用できる管理用通路を整備し、快適性や連続性の向上を図るとともに、憩いや交流の場、さらには子供たちの環境学習の場として利用できる拠点箇所を整備します。また、地域住民や民間事業者と連携し、水辺の多様な利用による賑わい創出にも取り組んでいきます。

河川管理者（国土交通省または愛媛県）においても、こうした取組に対し、必要となる河川管理施設を整備するほか、河川敷地占用許可準則第22条に基づく都市・地域再生等利用区域の指定などの支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

（国土交通省）　管理用通路、親水護岸、緩傾斜水辺　等　　（松山市）　ベンチ、サイクルスタンド　等
（愛媛県）　管理用通路、親水護岸　等

3. ソフト施策の内容

（国土交通省）　都市・地域再生等利用区域の指定　等　　（松山市・愛媛県）　コースマップの作成　等
（民間　等）　各種イベントの開催　等



●：実施担当　■：助言・アドバイス

整備箇所	整備内容	行政機関			民間事業者（想定）	有識者
		国交省松山河川	愛媛県	松山市		
石手川沿川ランニングコース	管理用通路	●	●		■	
	管理用通路（アンダーパス改修）	●				
	上物整備			●		
リバースポット①	親水護岸	●				
	ベンチ、サイクルスタンド			●		
リバースポット②	基盤整備	●		●		■
	ランニングステーション等				●	
	イベントスペース			●		
	ベンチ、サイクルスタンド			●		
リバースポット③	親水護岸	●				
	イベント、アウトドアスペース			●	●	
	ベンチ、サイクルスタンド			●		
	駐車場			●		
自然再生スポット	緩傾斜水辺（ワンド、水制置き石等）	●		●		■
	親水護岸	●				
	上物整備					■
県管理区間	親水護岸		●			

石手川かわまちづくり

重信川水系石手川（愛媛県松山市）【直・補】

事業実施の効果



市坪橋上流右岸（現状）



市坪橋上流右岸（整備後イメージ）

事業実施の効果



重信川合流点付近（現状）



重信川合流点付近（整備後イメージ）

指標名　利用者数

河川空間の利用者数の増加

「サイクリング利用者数調査」や「人流データの分析」により整備前後の増減および整備後の経年変化で効果を評価

事業実施の効果



泉永寺橋上流右岸（現状）



泉永寺橋上流右岸（整備後イメージ）

指標名　イベント回数

イベント回数の増加

河川敷一時使用届による高水敷の利用回数を把握し、整備前後の増減および整備後の経年変化で効果を評価

石手川かわまちづくり

重信川水系石手川（愛媛県松山市）【直・補】

ソフト施策



マラソン大会（例）



コースマップの作成（例）



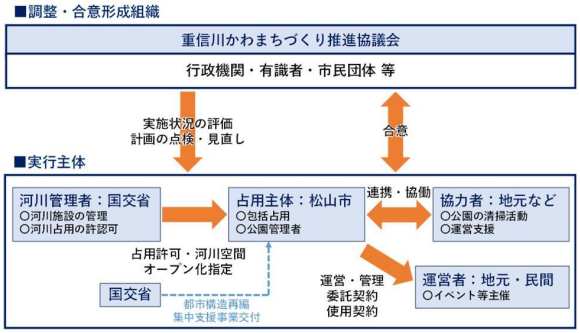
マルシェの開催（例）



環境学習の開催（例）

＜参画機関＞

- かわまちづくり計画の推進に係る多様な関係者の活動や施策実施について、「重信川かわまちづくり協議会」で審議し合意を図るとともに、実施状況の評価や計画の点検・見直しを行う。
- 占用許可や河川空間オープン化を活用し、行政と連携した運営体制のもと、民間事業者、地域住民と連携しながら、イベント開催やカフェ、ランニングステーションなど河川空間の多様な利活用を調整・支援する。



＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

- リバースポット②（武道館前）では、民間事業者によるランニングステーションやカフェ等の設置・運営を想定している。
- 重信川ミズベ会議において、営業活動を行う事業者の選定等の調整を行う予定である。
- 今後は、“RIVASITE（リバサイト）”を活用しながら、河川敷地を利用する区域、施設、主体、期間について地域の合意形成を図る。



リバースポット②（武道館前）の整備イメージ

＜かわまちの運営（維持管理）＞

- 基本的な施設の維持管理は施設管理者が行う。
- 管理用通路や護岸等の河川管理施設の防災上必要とされる施設機能の維持管理、出水時等における河川空間等の管理については、河川管理者が行う。
- 河川占用における占用物に関する維持管理、美化清掃等に関しては、占用主体が地元市民や市民団体等と協働で行う。
- 河川管理者、松山市、警察・消防等の関係機関による安全利用点検を定期的に行う。

04 かわまちづくり計画　事例集

九州地方整備局管内

【H21年度】*河川を身近に感じられる空間を創出し、集い、賑わう那珂川*

「那珂川かわまちづくり」（福岡県福岡市）

登録年月日：H.21.5.22
事業年度：H25～R13



対象河川 ： 二級河川 那珂川水系那珂川 【県管理河川】
二級河川 那珂川水系薬院新川 【県管理河川】
準用河川 那珂川水系博多川 【市管理河川】

市町村名 ： 福岡県福岡市

推進主体 ： 福岡市

1. 概要

那珂川は、福岡市の中心部を貫流する福岡市を代表する河川の一つであり、番托井堰の下流では、平成21年度までに河川改修に併せて遊歩道等の整備がなされるとともに、支川も含め、地域主体の祭りやイベント、憩いの場などに活用されており、多くの市民や観光客に親しまれている。番托井堰上流では、平成21年7月の洪水を受けて実施されている河川改修事業に伴う井堰改築により、河川水位が低下し、平成27年度に河川内に新たな敷地が生じた。

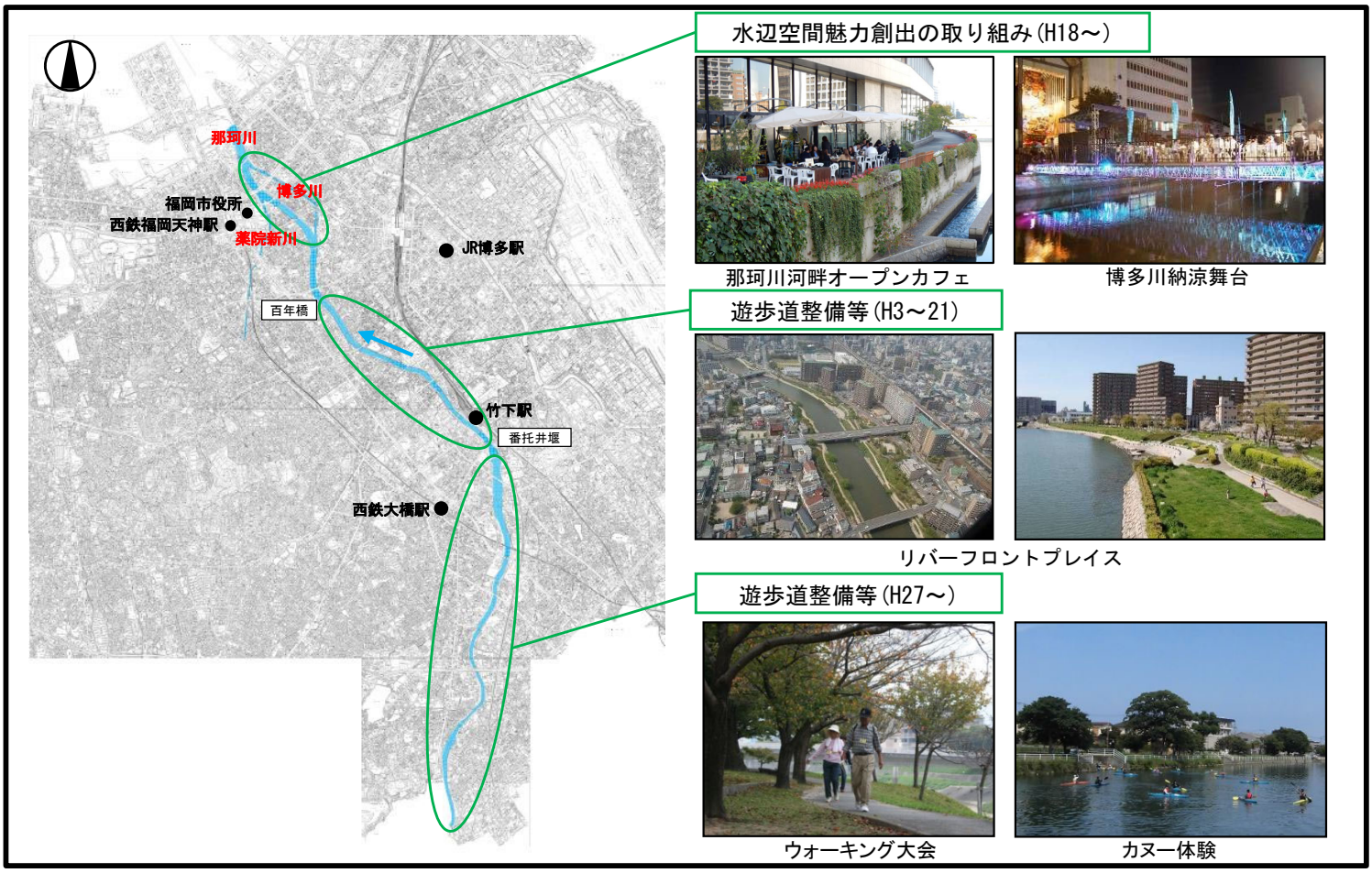
本計画では、この新たな敷地等を活用して、番托井堰上流に向けて、福岡県が遊歩道等の整備を行い、河川を身近に感じられる空間を創出する。また、あわせて福岡市や市民団体が共働で活動を行うことにより、地域の魅力を高める。

2. ハード施策の内容

福岡県 ： 高水敷整備、管理用通路 等　　福岡市 ： 公園整備 等

3. ソフト施策の内容

福岡市 ： 情報発信、オープンカフェ、散策ルート設定 等



那珂川かわまちづくり

那珂川水系那珂川ほか（福岡県福岡市）【補】

事業実施の効果



河川改修と遊歩道整備を合わせて実施



緑豊かな親水空間の創出

地域のコメント

JR竹下駅付近下流は、水とみどり豊かな遊歩道が広がる、新しい街が整備され、散策やジョギングで利用され、灯明祭などのイベントも開かれています。

さらに地域の魅力を高め、より多くの人々が利用できるよう、現在の遊歩道につながる、新たな遊歩道の整備に期待が寄せられています。

事業実施の効果

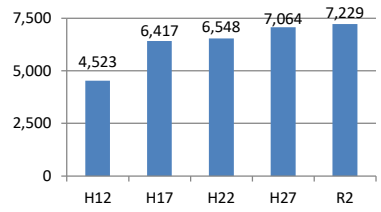


隣接区域で住宅市街地を整備



良好な居住環境の創出

住宅市街地の人口



事業実施の効果



河川整備を再開発事業に合わせ実施



賑わいのある明るい水辺空間の創出

地域の賑わい

博多座で、例年６月に公演される「六月博多座大歌舞伎」に先だって、出演者のご当地到着をお披露目する「船乗り込み」が催され、約３万人を超える観客が博多川一帯を埋め尽くし、華やかな賑わいに彩られます。

那珂川かわまちづくり

那珂川水系那珂川ほか（福岡県福岡市）【補】

ソフト施策

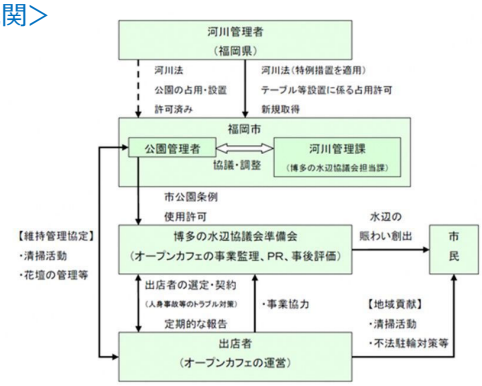


福岡市が占用し、民間事業者によるオープンカフェを運営。



不法駐輪が解消され、開放的な憩いの場へ。

＜参画機関＞



（オープンカフェ社会実験の事業スキーム）

＜かわまちの運営（維持管理）＞

施設整備後の維持管理状況

（オープンカフェ実施箇所）

花壇の整備は福岡市により実施。

占用区域の清掃や、花壇の手入れ等を民間事業者により実施。

（新たに整備予定の遊歩道）

公園として利用する部分は、福岡市が維持管理を行う。

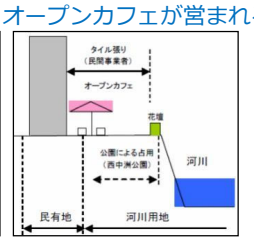
日常的な清掃等は、河川愛護団体等との連携を図る。

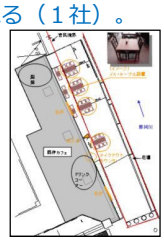
＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

河川敷地占用許可準則22条による、都市・地域再生等利用区域の指定がされており、オープンカフェが営まれる（１社）。





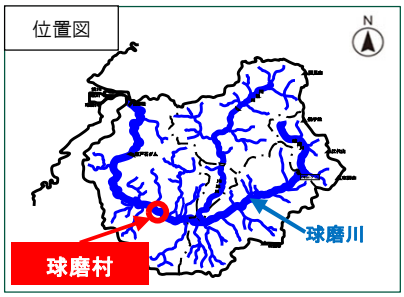


【H21年度】～日本三急流「球磨川」を感じる水辺空間～

「淋地区かわまちづくり」（熊本県球磨郡球磨村）

登録年月日：H21.5.22
事業年度：H21～H23

対象河川　：　一級河川　球磨川水系球磨川　【国管理河川】
市町村名　：　熊本県球磨郡球磨村
推進主体　：球磨村



1. 概要

球磨村淋地区では、魅力ある村づくりを進めていくことを目的として、自然交流拠点の整備・維持管理・利活用に関する検討に取り組んでいます。

この取組を充実させるため、本計画では、河川管理用通路・親水護岸の整備を行うとともに、球磨川の美しい流れや地域資源を生かした交流及び観光拠点としての河川利用を可能とし、地域の活性化を図ります。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　管理用通路、親水護岸、坂路　等　　球磨村　：　自然交流拠点整備　等

3. ソフト施策の内容

球磨村　：　柴立姫神社大祭、球磨川下り、ラフティング　等　　地域住民　：　美化活動　等







淋地区かわまちづくり【完】

球磨川水系球磨川（熊本県球磨村）【直】

事業実施の効果



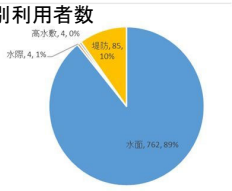
水辺に安全に近づくことが出来ず、河岸には樹木が繁茂している状況だった。



散策路や坂路を整備し、安全に水際まで近づけるように改善した。

指標名　淋地区河川空間利用者数

■利用場所別利用者数



出典：H31河川水辺の国勢調査　（利用実態調査）

事業実施の効果



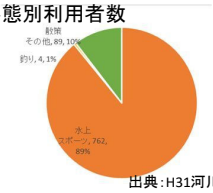
整備前の護岸は水面との落差が大きく、ラフティング等の利用が困難な状況であった。



階段護岸や坂路を整備し、ラフティング等の利便性の向上に寄与。

指標名　淋地区河川空間利用者数

■利用形態別利用者数



出典：H31河川水辺の国勢調査
（利用実態調査）

事業実施の効果



水辺に管理用通路路や坂路がなく、水際への人や車両のアクセスができず、安全に近づくことができなかった。



管理用通路路や水際に続く坂路を整備し人・車両のアクセス性、安全性が改善した。

指標名　球磨村観光客数の推移

現在も、舟下りやラフティング等などで利用されている。
⇒舟下りやラフティングなど観光客数の把握

淋地区かわまちづくり【完】

球磨川水系球磨川（熊本県球磨村）【直】

ソフト施策

・柴立姫神社大祭：毎年旧暦３月４日
・球磨川下り
・ラフティング







＜参画機関＞

・平成１７年から球磨村、熊本県、国交省による勉強会で意見交換
・平成２１年５月２２日にかわまちづくり認定
・球磨村「かわまちづくり」事業推進協議会を設置（H21.７設置）
関係機関：地域住民代表・観光協会・河川利用団体・球磨村・熊本県・国交省　等



＜かわまちの運営（維持管理）＞

・令和2年7月出水を受け休止中。

【H21年度】

「山鹿地区かわまちづくり」（熊本県山鹿市）

登録年月日：H21.5.22
事業年度：H21～H25

対象河川　：　一級河川　菊池川水系菊池川　【国管理河川】
市町村名　：　熊本県山鹿市
推進主体　：　山鹿市



1. 概要

山鹿市は、熊本県北部に位置し、様々な農産物や良質な温泉群、岳間･矢谷両渓谷など、豊かな自然に恵まれている。また、豊前街道、明治の芝居小屋「八千代座」（国指定重要文化財）、「山鹿灯籠まつり」など、数々の歴史･伝統に恵まれた地域であることから県内有数の観光地となっている。山鹿市街地は、地域交通のアクセス拠点となっており、広域観光誘致事業を展開する等観光による地域振興に力を入れた施策を進めている。

以上を踏まえ、山鹿市の各種計画による周辺整備計画にあわせて、隣接する菊池川とまちづくりが一体となった河川空間を整備することで賑わいの場を創出する。

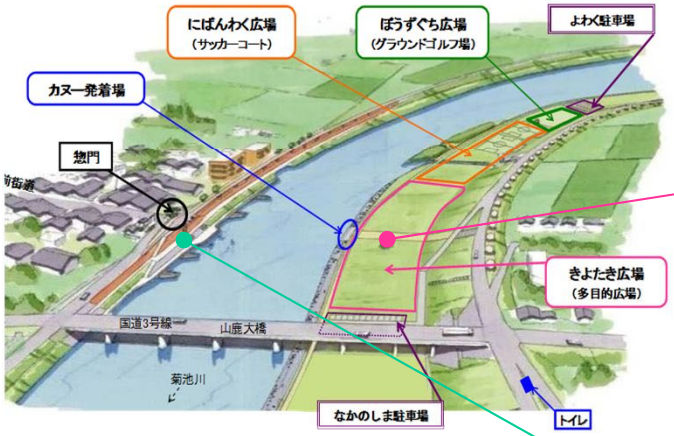
2. ハード施策の内容

国土交通省　：　高水敷整正、階段護岸、親水護岸、管理用通路 等
山鹿市　　：　案内板、トイレ　等

3. ソフト施策の内容

山鹿市　　：　イベント企画、パンフレット作成　等

地域と河川管理者が一体となって、舟運や参勤交代の宿場町として栄えた豊前街道のまちなみを保存するとともに、多くの観光客が訪れる豊前街道と菊池川の回遊性を高めることで、観光客を菊池川に誘導し、まちの賑わいを再生。



【整備イメージ】



【整備後の状況（河川敷）】



【整備後の状況（エントランス階段）】

・ラグビーやサッカー等の練習やイベント開催。
・年数回の河川防災啓発、河川愛護関連のイベントなどを河川協力団体が主体で実施中。

山鹿地区かわまちづくり【完】

菊池川水系菊池川（熊本県山鹿市）【直】

事業実施の効果



高水敷が利用されず草が繁茂し水辺に近づくことが出来ない状況でした。



階段護岸を整備することで、水辺へのアクセスが改善され、地域の憩いの場として創出します。

指標名　地域のコメント

効果（地域住民の声）

以前の河川敷と比べ**格段に利用しやすくなり、**ﾌｯﾄｻﾙ以外の利用もしやすい。（地元住民）

事業実施の効果



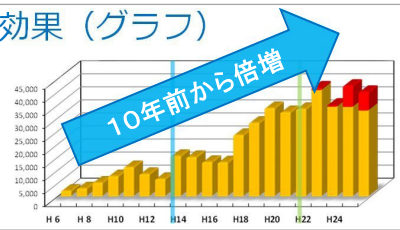
高水敷は、利用されず水辺に近づくことが出来ない状況でした。



高水敷や坂路を整備することで、水辺へのアクセスが改善され、地域の憩いの場として創出します。

指標名　利用者数推移

効果（グラフ）



山鹿地区かわまちづくり【完】

菊池川水系菊池川（熊本県山鹿市）【直】

ソフト施策





・地元の保育園などとスポーツイベント企画
・川のイベントとコラボ企画を実施
・毎月１回のゴミ拾い　等

＜参画機関＞

・当該箇所について協議会等メンバーや地元住民、関係機関（山鹿市）との連携を密におこなっている。

○今後の展望

・河川協力団体や山鹿市が中心になり継続的な利活用の仕組みづくりを鋭意検討中。

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・ラグビーやサッカー等の練習やイベント開催。
・年数回の河川防災啓発、河川愛護関連のイベントなどを河川協力団体が主体で実施中。

○今後の展望

・温泉客を対象に、菊池川を出発点とした「米米惣門（こめこめそうもん）ツアー」や、山鹿の魅力を伝える散策路マップ「やまがさろき」等も活用し、かわまちづくりを展開していく。

＜かわまちの運営（維持管理）＞

施設整備後の維持管理状況

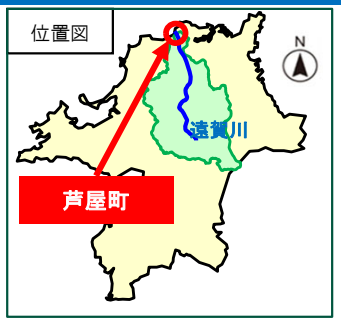
除草作業が一番大きな維持管理メニューになるが、山鹿市の美化委託と併せて地元の民間団体（河川協力団体会員）の協力が得られており実施中。

【H21年度】

「遠賀川山鹿地区かわまちづくり」（福岡県芦屋町）

登録年月日：H21.8.7
事業年度：H21～H23

対象河川　：　一級河川　遠賀川水系遠賀川　【国管理河川】
市町村名　：　福岡県芦屋町
推進主体　：　芦屋町



1. 概要

芦屋町では、「海、川、緑の自然条件を活かしたまちづくりを進める」ことを基本理念としてまちづくりに取り組んでいます。このまちづくりの取組推進のため、遠賀川の砂浜を復元し、水辺環境を向上することにより、レクリエーションや交流の場として活用し、交流人口の増加や地域コミュニティの再生を図ります。

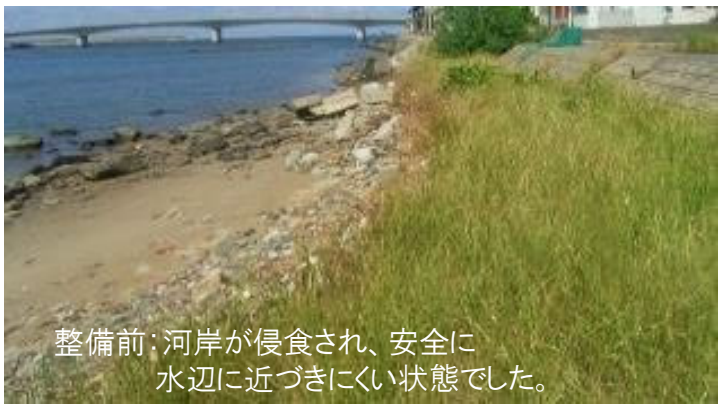
国土交通省では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備を実施していきます。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　管理用通路、階段工、水制工　等

3. ソフト施策の内容

芦屋町：　あしや花火大会


整備前：河岸が侵食され、安全に水辺に近づきにくい状態でした。


整備後：河岸が整備され、安全に水辺に近づけるようになりました。


あしや花火大会


あしや花火大会での利用状況

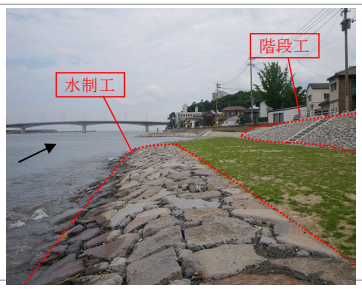
遠賀川山鹿地区かわまちづくり【完】

遠賀川水系遠賀川（福岡県芦屋町）【直】

事業実施の効果



整備前：河岸が侵食され、安全に水辺に近づきにくい状態となっていた。



整備後：河岸が整備され、安全に水辺に近づけるようになった。

指標名　地域住民や観光客等の声

効果

潮風を感じて憩い・散策が出来る水辺空間です。
例年７月～８月頃に開催される「あしや花火大会」や「あしや精霊流し」等、地域住民はもとより、多くの方々に親しまれている。

遠賀川山鹿地区かわまちづくり【完】

遠賀川水系遠賀川（福岡県芦屋町）【直】

ソフト施策



コメント：遠賀川を渡るナイアガラは必見。



コメント：あしや鐘楼流し（8月15日）



コメント：あしや花火大会



コメント：あしや花火大会での利用状況

＜参画機関＞

・芦屋橋及び周辺環境整備促進協議会　　４回実施

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・芦屋町にて整備範囲を占用。

＜かわまちの運営（維持管理）＞

○施設の老朽化等に伴う修繕の実施体制とし、芦屋町と確認書を締結し下記のとおり対応。

【維持管理】
・地元住民による清掃：1回/2週
・地元自治体による除草：２回/年

【修繕】
・芦屋町

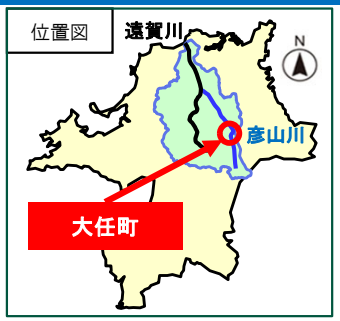
※災害等による大規模な修繕が必要となる場合は、別途、国、町にて協議。

【H21年度】

「大任地区かわまちづくり」（福岡県大任町）

登録年月日：H21.8.7
事業年度：H21

対象河川　：　一級河川　遠賀川水系彦山川　【国管理河川】
市町村名　：　福岡県大任町
推進主体　：　大任町



1. 概要

大任町では、彦山川の恵みを活かしたまちづくりに取り組んでいるが、町勢振興の核として、地域経済の発展と活力溢れる地域づくりを目的に、物産館整備事業を彦山川に隣接する大任地区で進めている。

このまちづくりと一体となった、親水護岸、遊歩道等の水辺整備を通して、今後、大任町のまちづくりの拠点となる当地区の河川空間のにぎわい創出及び地域交流・憩いの場を創出する。

国土交通省では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備を実施していきます。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　管理用通路、親水護岸　等　　大任町　：　物産館整備

3. ソフト施策の内容

大任町　：　しじみ祭りの開催


整備前：植物が繁茂し安全に
水辺に近づきにくい


整備後：河岸が整備され、安全に
水辺に近づきやすくなっています。


しじみ祭り



「道の駅おおとう桜街道」


メインストリート
おおとう桜街道


イルミネーション

大任地区かわまちづくり【完】

遠賀川水系彦山川（福岡県大任町）【直】

事業実施の効果



整備前：植物が繁茂し安全に水辺に近づきにくい。



整備後：河岸が整備され、安全に水辺に近づきやすくなり、カヌー利用者が楽しんでいる。

指標名 地域住民や観光客等の声

効果

道の駅のそばにある、水辺の癒し空間で日常的な散策や憩いの場としての利用のほか、毎年開催される「しじみ祭り」など、地域住民はもとより、多くの方々に親しまれている。

大任地区かわまちづくり【完】

遠賀川水系彦山川（福岡県大任町）【直】

ソフト施策



コメント：毎年４月、満開の桜のもと開催されます。



コメント：平日、休日とも多くの人で賑わっています。



コメント：毎年、10月下旬に実施され多くの人で賑わいます。



コメント：河岸が整備され、安全に水辺に近づきやすくなり、カヌー利用者が楽しんでいます。

＜参画機関＞

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・大任町にて整備範囲を占用。

＜かわまちの運営（維持管理）＞

○施設の老朽化等に伴う修繕の実施体制とし、大任町と確認書を締結し下記のとおり対応。

【維持管理】
・地元自治体による点検：1回/月
・地元自治体による除草：３回/年

【修繕】
・大任町

※災害等による大規模な修繕が必要となる場合は、別途、国、町にて協議。

【H21年度】

「桃川地区かわまちづくり」（佐賀県伊万里市）

登録年月日：H21.8.7
事業年度：H21～H22

対象河川　：　一級河川　松浦川水系松浦川　【国管理河川】

市町村名　：　佐賀県伊万里市

推進主体　：　伊万里市

位置図



1. 概要

松浦川上流に位置する、大黒井堰は1595年に着工し、難工事の末、1633年に完成した歴史的建造物として高く評価されており、地元からも堰周辺の整備について要望がある。また、中ノ島には大黒井堰の工事を指導した人物をまつった石碑等があり、地域住民が石碑周辺を自主的に維持管理しているが、水路を渡る通路がなく、十分な維持管理を行うことが出来ない。

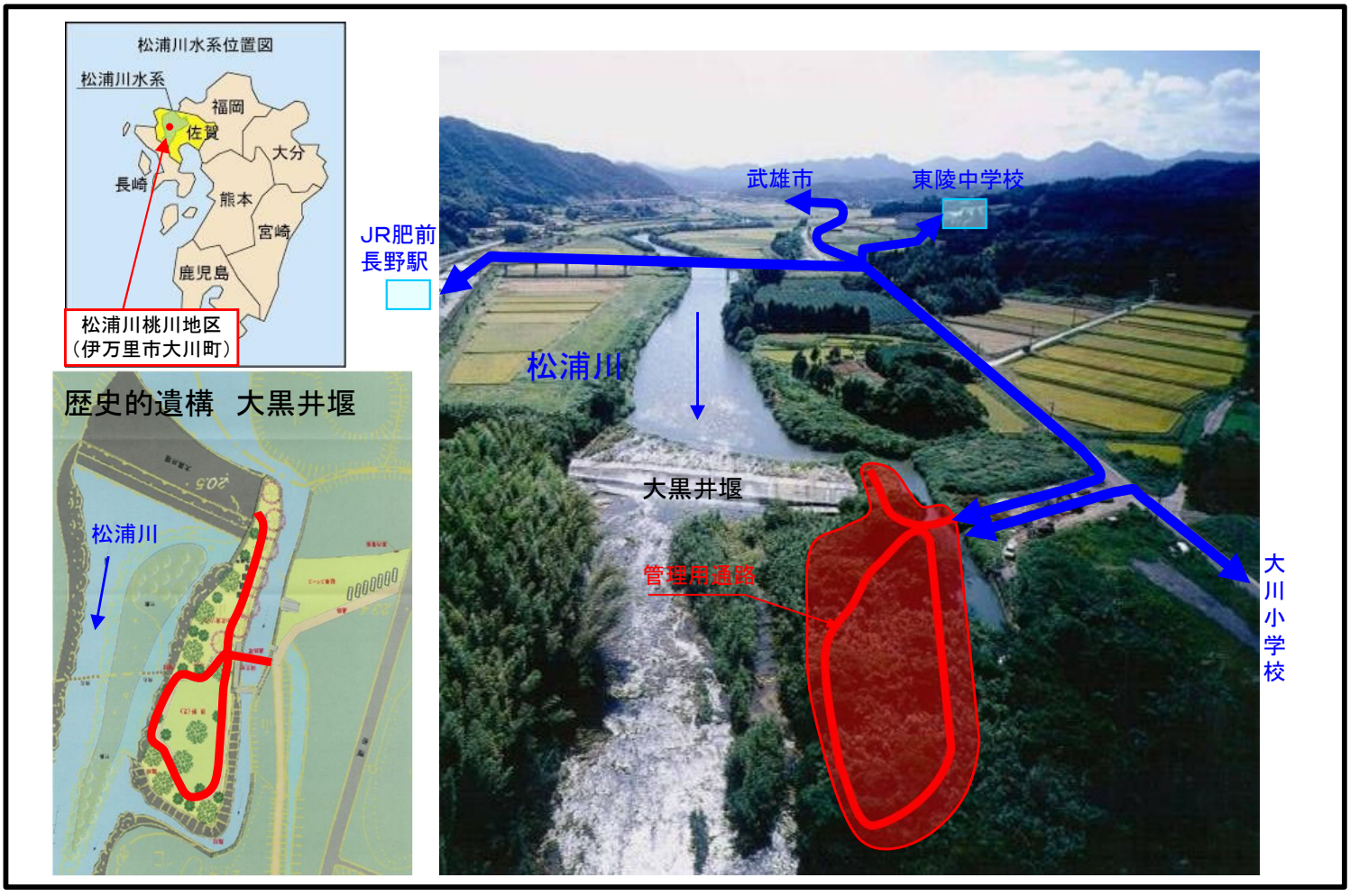
その為、地元住民、伊万里市で構成する、「水辺検討会（仮称）」を発足させ、整備・維持管理・利活用など多方面から意見交換を重ね、大黒井堰周辺の歴史文化継承のための水辺整備、子供から大人まで幅広い年代で利用可能な空間整備を実施する。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　伐採抜根、管理用通路　等

3. ソフト施策の内容

唐津市　：　維持管理、清掃、除草　等



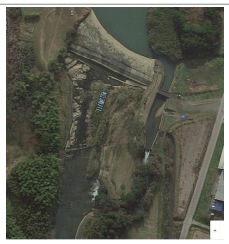
桃川地区かわまちづくり【完】

松浦川水系松浦川（佐賀県伊万里市）【直】

事業実施の効果



水路を渡るための通路がない。



通路を整備により、アクセスが可能。

事業実施の効果



歴史的遺跡等へ近づけない。



散策路や歴史学習等ができる公園利用

事業実施の効果



水辺へのアクセス路がない。



環境学習の場として利活用

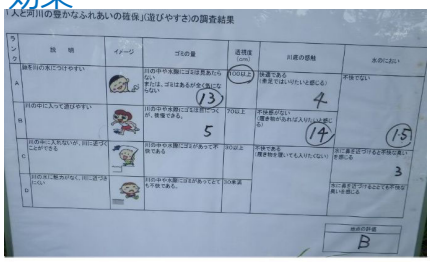
指標名　整備事業アンケート結果

効果

・今後も環境学習、歴史学習の場としておおいに利用されることを望みます。また、子供達が自由な発想で活動できる(遊べる)ように、安全面、清潔面に気配りをしてほしい。
・整備され、写真の様子からは、地域住民にとって散策できたり、子供達にとっては遊び場や歴史、環境の学習もできる場が身近にあることで体験型学習ができ、ふるさとを誇りに思う心を育てる事に役立つと思う。

指標名　住民アンケート結果

効果



【回答結果が多い意見】
・川の中や水際にゴミは見当たらない。
・川底の感触は、不快感がない。
・川の水の臭いが不快ではない。

桃川地区かわまちづくり【完】

松浦川水系松浦川（佐賀県伊万里市）【直】

ソフト施策









＜水辺空間の利活用状況＞
○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・大黒堰歴史ふれあい広場として、伊万里市が占用している。

＜参画機関＞

【大黒堰中之島整備委員会】

平成２１年７月から、地域住民、伊万里市、河川管理者で構成する「大黒堰中之島整備委員会」を設立し、まちづくりと一体となった整備メニュー、維持管理、利活用方法などについて協議を行っている。

第１回　平成２１年　７月２３日
第２回　平成２１年　８月２６日
第３回　平成２１年１２月　２日
第４回　平成２２年　１月２６日
第５回　平成２２年　３月１０日
第６回　平成２２年　４月　８日

＜かわまちの運営（維持管理）＞

（伊万里市）
・公園等の占用区間における除草及び清掃の実施。

（地域住民）
・日常的に利用する箇所の除草及び清掃の実施。



【H21年度】

「裏川かわまちづくり」（大分県大分市）

登録年月日：H21.8.7
事業年度：H21～H21

対象河川　：　一級河川　大分川水系裏川　【県管理河川】
市町村名　：　大分県大分市
推進主体　：　大分市



1. 概要

当該箇所は都市中心部の水辺であり、平和市民公園、能楽堂、埋蔵文化財センターなど文化施設が沿川に存在していることから、河川を含め各施設を一体的に利用できるよう整備することで、市民の散策の場や行事、イベント広場としての利用向上に取り組んでいます。

この取り組みを充実させるため、本計画では公園、文化施設と一体となった護岸工の整備や周辺施設を結ぶ散策路の整備、水辺に降りる階段工の整備を実施し、さらに多くの市民の利用向上を図ります。

河川管理者である大分県では、この取組に対し、必要な河川管理施設を整備するなど、支援を実施します。

2. ハード施策の内容

大分県　：　緩傾斜護岸、散策路、階段工


環境学習


清掃活動

散策路利用状況

裏川かわまちづくり【完】

大分川水系裏川（大分県大分市）【補】

にぎわいと活力あふれる、人と自然が共生するまちづくり～水と緑にふれあえる、うるおいのある河川空間を目指して～

市民が身近に水とふれあえる親水空間であり、多様な生物の生息空間として自然を活かした親水性のある河川空間の整備を行っている。また裏川沿川に整備されている公園は市街地における貴重なオープンスペースとして、様々なイベントや憩いの場として多くの人に利活用される空間となっている。

事業実施の効果

整備前の写真



整備後またはイメージパースの写真



地域のコメント
以前は殺風景な川で近づくこともできませんでしたが、散策路もでき護岸の傾斜も緩くなったことで、今では川を身近に感じることができます！

裏川かわまちづくり【完】

大分川水系裏川（大分県大分市）【補】

<ソフト施策>



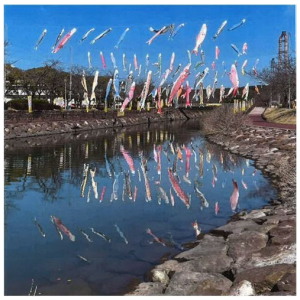
<参画機関>
・年に３回大分川・裏川快適環境推進協議会を開催し、裏川の河川環境について様々な角度から検証を続けている。

<かわまちの運営（維持管理）>





<水辺空間の利活用状況>
・鯉が泳ぐまちづくり
3月下旬から5月上旬にかけて裏川では地元のまちづくり協議会と地域住民によってこいのぼりの設置を実施。
春の風物詩としてたくさんの人々が訪れている。



【H21年度】水郷日田の歴史と暮らしの情景に溶け込んだ川とまちづくり

「日田地区かわまちづくり」（大分県日田市）

登録年月日：H21.8.7
事業年度：H21～H24

対象河川 ： 一級河川 筑後川水系筑後川 【国管理河川】
市町村名 ： 大分県日田市
推進主体 ： 日田市



1. 概要

日田市は温泉、伝統的建造物群保存地区である豆田地区、筑後川に浮かぶ屋形船、鵜飼い等多くの観光客で賑わう県内有数の観光地です。特に筑後川は「水郷日田」のシンボルでもあることから、市民の憩いの場、また川開き観光祭をはじめとする様々なイベントの場として、古くから親しまれています。この取組を一層充実させるため、本計画では、観光資源、河川利用のニーズに配慮し、水郷日田の歴史と暮らしの情景に溶け込んだ川とまちづくりを進めていきます。国土交通省では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備のほか、鮎やなや食事処の営業活動の実施に向け、河川敷地占用許可準則第22に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施しました。

2. ハード施策の内容

国土交通省 ： 管理用通路、坂路、高水敷整正　　日田市 ： 駐車場

3. ソフト施策の内容

国土交通省 ： 都市・地域再生等利用区域の指定　　日田市 ： イベント支援















日田地区かわまちづくり【完】

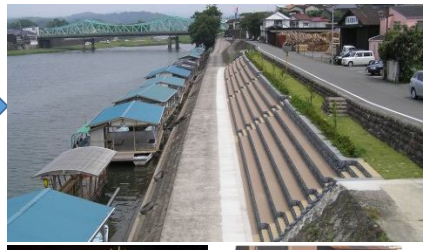
筑後川水系筑後川（大分県日田市）【直】

地域（周辺・経済効果）

親水護岸整備前



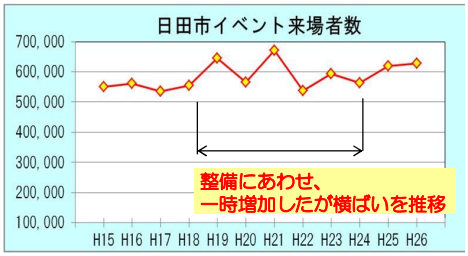
親水護岸整備後







指標名　イベント来場者数



地域（河川）

高水敷整正前



高水敷整正後





指標名　地域の声

効果（地域の声）

日田市より健康増進に対し「大変よい影響があった。」と伺っている。

日田地区かわまちづくり【完】

筑後川水系筑後川（大分県日田市）【直】

ソフト施策



リバーフェスタinみくま



リバーフェスタinみくま



グランドゴルフ



日田川開き観光際

＜参画機関＞

・日田市
・「日田の川づくり」計画策定委員会
・「日田の川つくり」ﾜｰｷﾝｸﾞｸﾞﾙｰﾌﾟ
・日田の川を考える会
・庄手川子どもの水辺協議会
・庄手川川づくり懇談会

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

日田市が占用し、日常的な維持管理は良好である。

・(２月)天領日田おひなまつり
・(３月)亀山公園さくらまつり
・(５月)日田川開き観光祭、水上大的射抜大会
・(６月)ホタルまつり
・(７月)日田祇園祭、水郷ひた三隈川ボート大会
・(８月)水面の盆、リバーフェスタｉｎみくま川
・(１１月)日田天領まつり、千年あかり

＜かわまちの運営（維持管理）＞

施設整備後の維持管理状況として、日田市及び利用者による維持管理は良好である。



【H23年度】人と自然・歴史が交流するかわづくり

「御船地区かわまちづくり」（熊本県御船町）

登録年月日：H24.2.15
事業年度：H24～H26

対象河川　：　一級河川　緑川水系御船川　【国管理河川】
市町村名　：　熊本県御船町
推進主体　：　御船町

位置図



1. 概要

御船町には一級河川御船川が流れており、散策や川遊び，釣り，カヌー等の利用や「があーっぱ祭り」等のイベントの場として利用されている。

この取組を充実させるため、御船川を軸として、イベント開催による地域の活性化・交流の促進を図るとともに、観光拠点との連携や近隣小中学校の環境学習・自然体験活動等を推進し、交通の利便性や豊かな自然環境、地域資源を活かした交流観光拠点として活用を図り、魅力あるまちづくりを進めていきます。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　高水敷整正、管理用通路、護岸　等　　御船町　：　トイレ、駐車場　等

3. ソフト施策の内容

御船町　：　情報発信、イベント等の河川利用促進　等

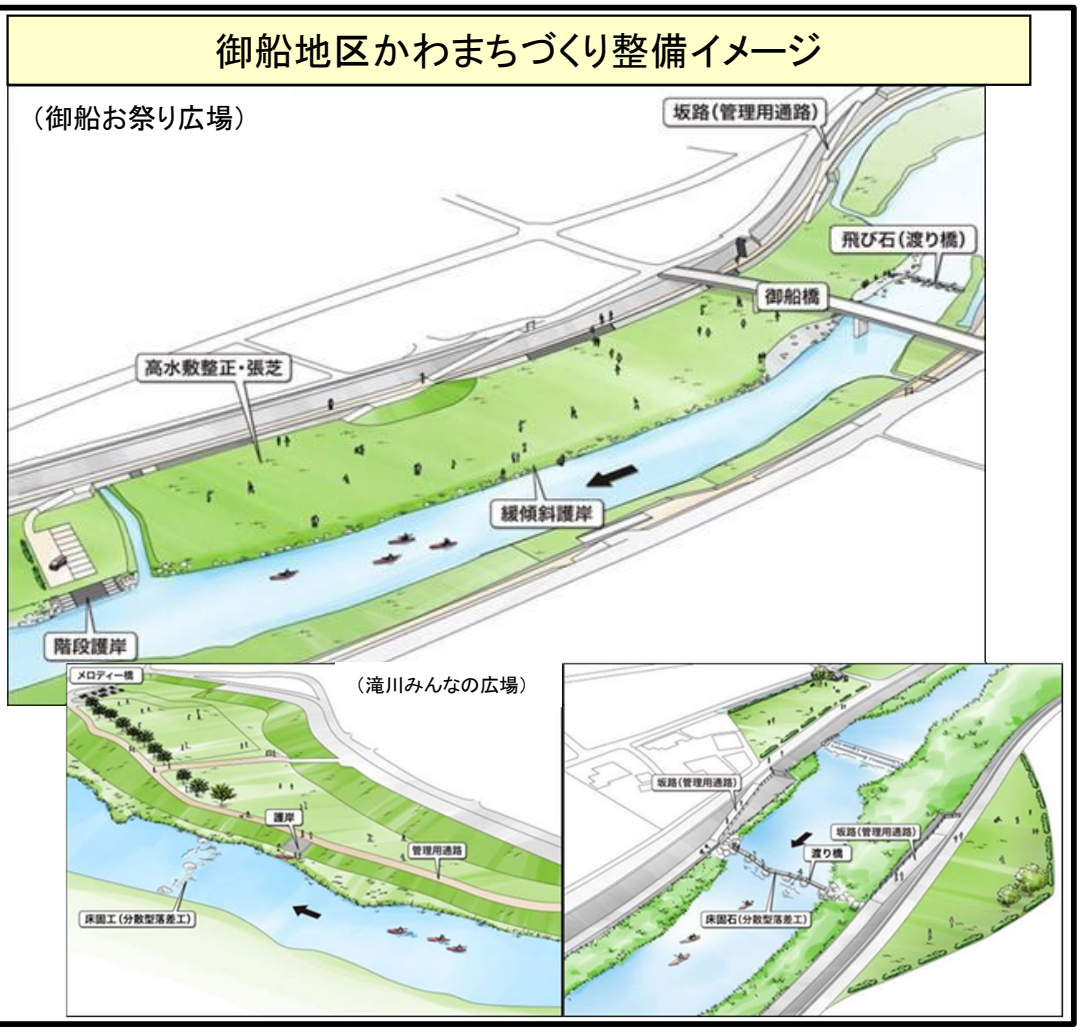




地域のイベント（があーっぱ祭り）



カヌーによる河川利用



御船地区かわまちづくり　【完】

緑川水系御船川（熊本県御船町）【直】

事業実施の効果


整備前は、河川敷を利用するスペースがありませんでした。


整備後は、河川敷を整正してイベント等利活用することができる。

指標名　地域住民の声

効果

・整備により御船川の環境が改善されたことに感謝する。
（御船地区かわまちづくり実行委員会）

事業実施の効果



整備前は御船川沿いを歩くスペースがありませんでした。


整備した散策路を利用し、毎日の散歩や散策イベントに使われています。

指標名　地域住民の声

効果

・整備により御船川の環境が改善されたことに感謝する。
（御船地区かわまちづくり実行委員会）

事業実施の効果


広場には平坦でないところがあり、水際には雑草等により安全に利用しにくい状態でした。


広場の段差や水際のアクセスが改善され、現在は祭り・イベントに多く利用されています。

指標名　河川敷利用者数

効果（データ収集方法）

・河川敷利用者数の推移の把握

御船地区かわまちづくり　【完】

緑川水系御船川（熊本県御船町）【直】

ソフト施策


地域住民と協働で川の講師になり、小学校で御船川に親しみ学ぶ「御船川学習」を実施
（H26.9.10）


御船川の生きものを捕まえて、川に棲む魚や水生生物を観察し、川の水質を調査しました
（H26.9.18）

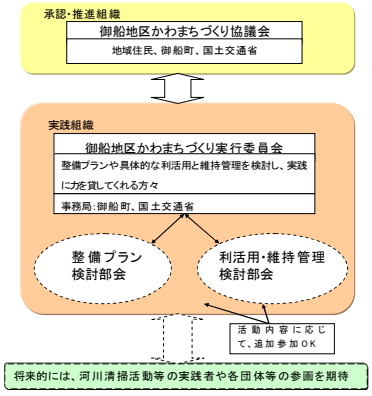

今後の維持管理を実際に体験するため「お祭り広場」の草刈りを試行しました
（H25.10.27）


「街なか探索」では、“かわ”と“まち”の魅力をつなぐコースを設定し、散策会を実践しました
（H26.11.24）

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況
　現在、御船町にて占用済み

＜参画機関＞



＜かわまちの運営（維持管理）＞

・祭り・イベント等にあわせて地域で維持管理活動を展開している。
・御船町役場により、御船町公園の管理及び使用に関する規定（御船町による利用と管理の規定制定）が制定された。これをもって、地域のボランティアと協働した維持管理の枠組みづくりを推進している。

ゾーン名称			地域交流ゾーン							自然環境保全ゾーン		回遊散策ルート		
整備メニュー			高水敷整正・張芝	坂路（管理用通路）	駐車スペース	標識	トイレ	緩傾斜護岸	階段護岸	床固工（分散型落差工）	水制	管理用通路	飛び石渡り橋	標識
利活用例			地域のイベント（がぁーっぱ祭り、種イモ市、精霊流し等）、オープンカフェ（堤防天端含む）、散策、休憩、軽スポーツ、レクリエーション、環境学習、適足					カヌー、釣り、精霊流し、河遊び、自然観察、環境学習		釣り、自然観察		散策、ジョギング、ウォーキング、休憩、語らい、景色を眺める		
かわまちづくり支援制度への適合性	ソフト面	河川敷利用特例措置等	○（イベント等）											
	ハード面	浴水整備	○（高盤整備）	○（管理通路）				○（河岸防護）	○（河岸防護）	○（堆積防止）	○（河岸防護）	○（管理通路）		
		利用安全整備						○	○					
整備主体（案）	国土交通省		○（高盤整備）	○				○	○	○	○	○		
	御船町		○（張り芝等）		○	○	○						○	○
維持管理主体（案）	国土交通省※1		○（土砂撤去）	○（補修等）				○（補修等）	○（補修等）	○（補修等）	○（補修等）	○（補修等）		
	御船町※2		○（土砂撤去）	○（清掃）	○（補修等）	○（補修等）	○（補修等）	○（除草）	○（除草）			○（清掃）	○（補修等）	○（補修等）
	地域住民（利用者）※3		○（除草・清掃）	○（清掃）	○（清掃）		○（清掃）	○（除草）	○（除草）			○（清掃）		

【H23年度】かつてのにぎわいを取り戻す『中ノ島公園』の復活

「船小屋地区かわまちづくり」（福岡県筑後市・みやま市）

登録年月日：H24.2.15
事業年度：R元～R9

対象河川 ： 一級河川 矢部川水系矢部川 【国管理河川】

市町村名 ： 福岡県筑後市・みやま市

推進主体 ： 筑後市・みやま市



1. 概要

船小屋地区は、既設の中ノ島公園をはじめ周辺には県内最大となる「県営筑後広域公園」の整備が進められるなど市民の憩いの場となっており、「筑後船小屋花火大会」・「マラソン大会」等の各種イベントが開催され、多くの人々で賑わっています。沿川には船小屋温泉が点在し、九州新幹線が開通による「筑後船小屋駅」や、「川の駅船小屋恋ぼたる」の開業により観光客等の増加も見込まれます。これらの資源を活かし、市民に親しまれる河川空間及びネットワークを創出し、水辺の安らぎを感じられるまちづくりを進めています。国土交通省では、この取組に対し、多目的に利用できる広場や水辺へのアクセスを改善するための整備を実施しました。今後はマルシェ等のイベントの営利活動の実施に向け、河川敷地占用許可準則第22に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を行っていきます。

2. ハード施策の内容

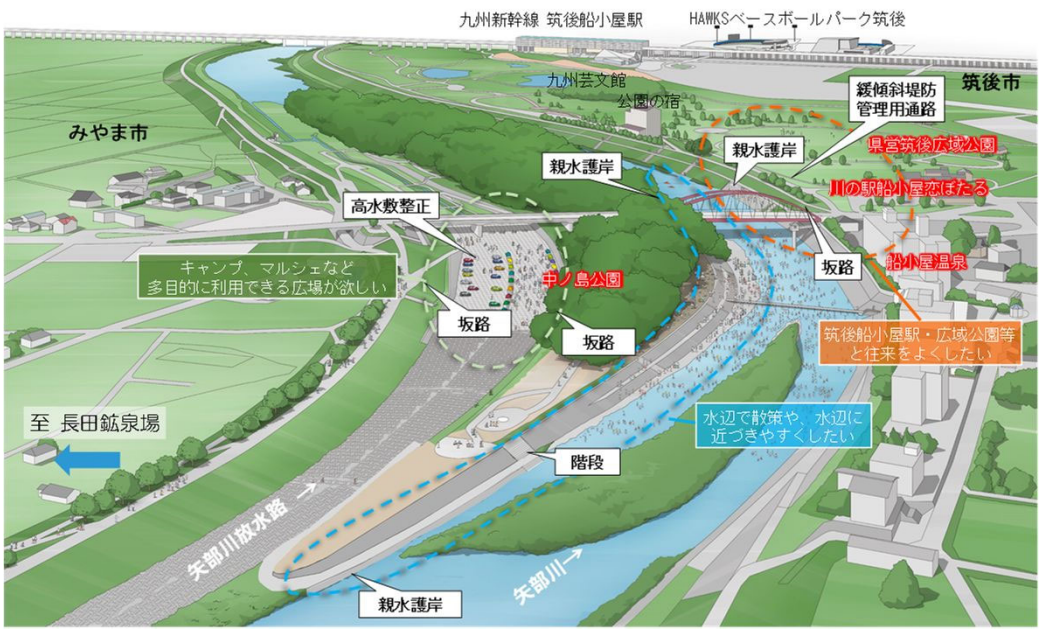
国土交通省 ： 高水敷整正、管理用通路、低水護岸、坂路、緩傾斜堤防、階段

筑後市 ： 案内看板　　みやま市 ： 案内看板

3. ソフト施策の内容

国土交通省 ： 都市・地域再生等利用区域の指定

筑後市・みやま市 ： イベント支援













船小屋地区かわまちづくり【完】

地域（河川）



高水敷整正前

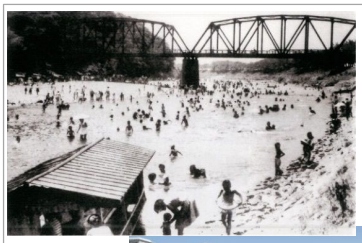
川へのアクセスしにくく、安全な利用の確保はできない状況となっています。



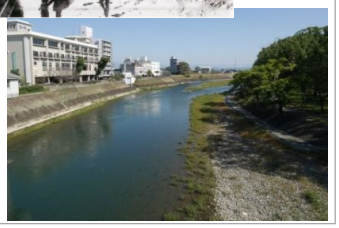
高水敷整正後

放水路（多目的広場、坂路）を整備することで川へのアクセスを容易とし、安全な利用の確保を図りました。

地域（経済効果）



昭和30年ごろの矢部川の賑わい



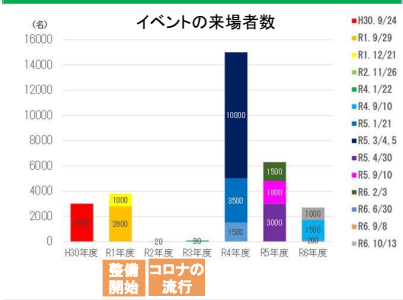
現状の矢部川



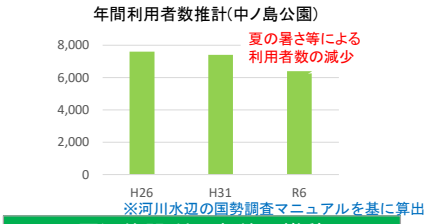
水辺の賑わい状況

各種イベント開催利用を推進し、周辺施設と一体となった利用を促進します。

河川敷利用者数の推移

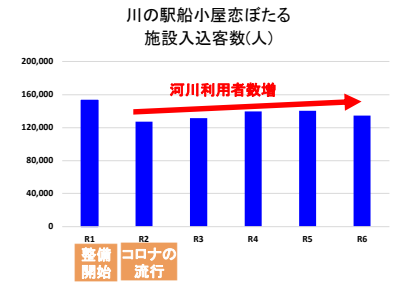


河川利用者の推移



※河川水辺の国勢調査マニュアルを基に算出

周辺施設利用者数の推移



船小屋地区かわまちづくり【完】

矢部川水系矢部川（福岡県筑後市・みやま市）【直】

ソフト施策



クリスマスイベント



マルシェ



ドライブインシアター



水辺イベント

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

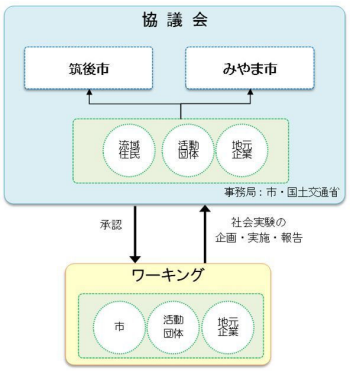
・整備に合わせ、みやま市及び筑後市が占用予定。

○今後の展望

各種イベント等の開催を通じ、河川敷地占用許可準則22条による、都市・地域再生等利用区域の指定の可能性を検討していく。

＜参画機関＞

・協議組織は平成２１年から、整備範囲の小学校校長、区長、みやま市・筑後市・県土整備事務所、国土交通省でかわまちづくり協議会を設置。
・平成２９年にみやま市及び筑後市の観光協会、商工会、青年会議所を組織拡大
・平成30年から、地域の活動団体や観光協会、商工会を中心としたワーキングを設置。利活用の実践や整備の具体的検討を実施。



＜かわまちの運営（維持管理）＞

・かわまちづくり協議会及びワーキングにて維持管理面について協議を進め、役割分担を設定する。

【H24年度】「自然」と「文化」、「にぎわい」のあるかわづくり

「熊本駅周辺かわまちづくり」（熊本県熊本市）

登録年月日：H25.3.29
事業年度：H25～H30

対象河川　：　一級河川　白川水系白川　【国管理河川】
市町村名　：　熊本県熊本市
推進主体　：　熊本市



1. 概要

当該地区に隣接する熊本駅周辺は九州新幹線開通に伴い周辺整備が進められている。白川は、熊本城を中心に歴史的な文化遺産が数多く点在しているとともに、市民の水と緑の空間として、憩い・安らぎの場を提供している。

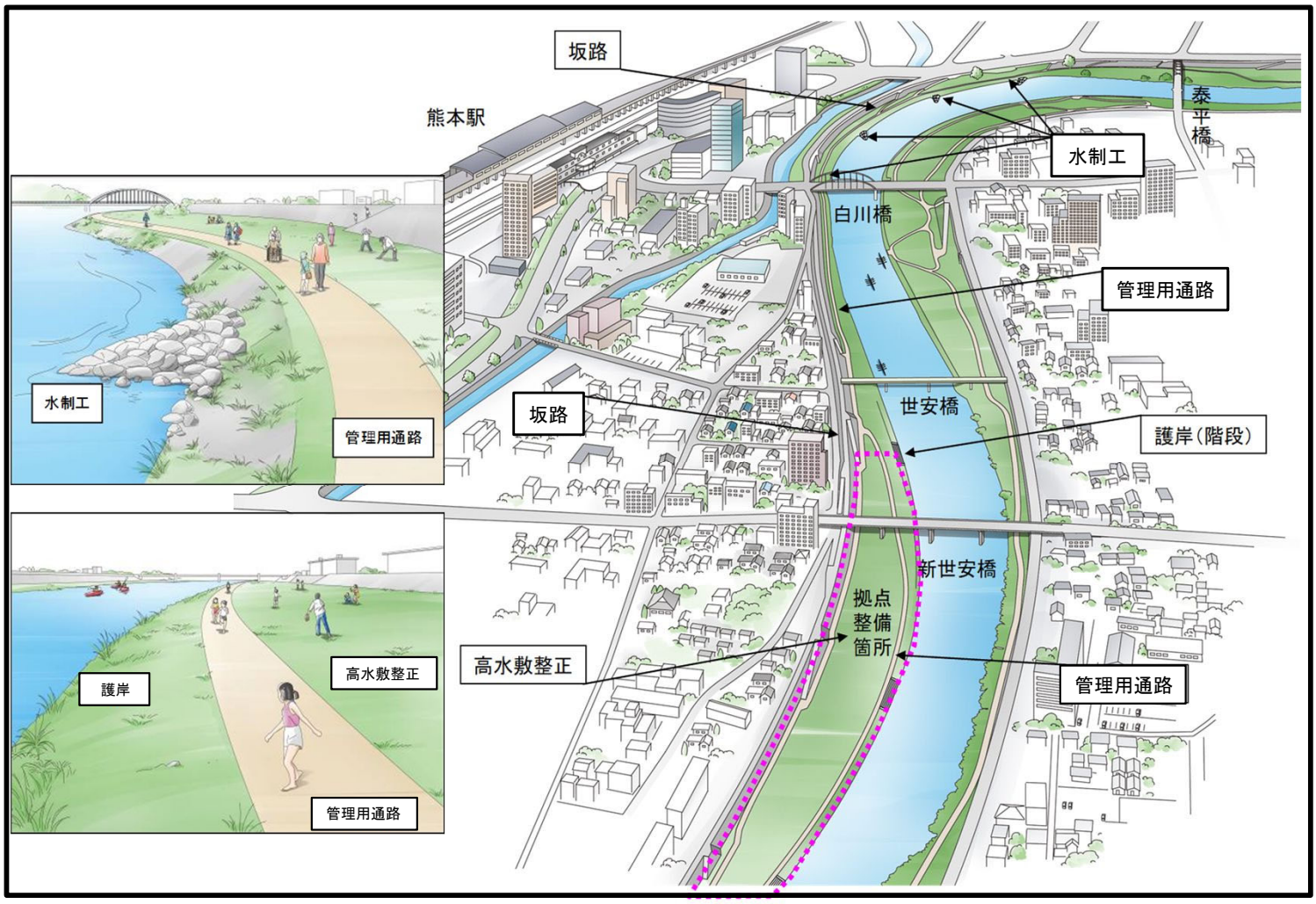
新たな熊本市の顔となる熊本駅周辺地域整備と連携し、白川に残る史跡や恵まれた自然を活かして、地域に安全な河川利用ができる場所として、また、白川の魅力・地域の魅力を周遊できるよう、環境整備を行う。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　高水敷整正、管理用通路、護岸、階段　等　　熊本市　：　張芝　等

3. ソフト施策の内容

熊本市　：　情報発信、イベント等の河川利用促進　等



熊本駅周辺かわまちづくり【完】

白川水系白川（熊本県熊本市）【直】

事業実施の効果





指標名　地域住民等の声

・皆が安全に利用出来る広場をつくりたい。
・グランドゴルフやジョギング等のスポーツの場としたい
・春の植木市やどんどや等のイベントを白川でやりたい

事業実施の効果





指標名　河川利用者数

効果（データ収集方法）

白川を利用したスポーツや散策などの利用者数

事業実施の効果





指標名　イベント利用者数

効果（データ収集方法）

イベント数及び利用者数の把握

熊本駅周辺かわまちづくり【完】

白川水系白川（熊本県熊本市）【直】

ソフト施策



白川の意識を高めてもらうため小学校で「白川学習」を実施



散策コースを設定するため現地踏査を実施

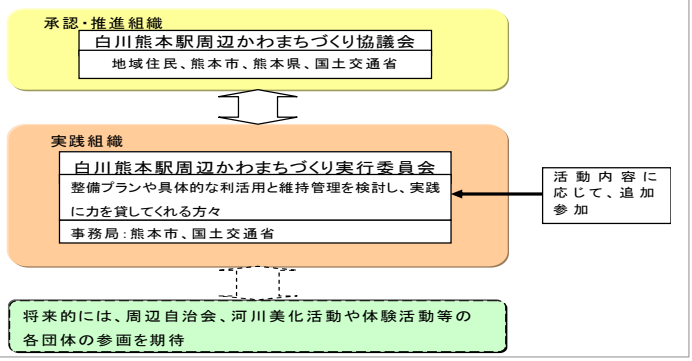


「白川学習」の成果を「子供フォーラム」で発表



先行事例から学ぶため現地を視察

＜参画機関＞



＜かわまちの運営（維持管理）＞

・国と熊本市、地域住民により役割分担を行い、維持管理を実施中である。

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

熊本市にて占用済み

ゾーン名称			交流拠点						自然環境保全ゾーン		回遊・散策ルート		
整備メニュー			高水敷整正・張芝	駐車スペース	標識	トイレ	緩傾斜護岸	階段護岸	床固工（分散型階段工）	水制	管理用通路	坂路（管理用通路）	標識
利活用例			地域のイベント（どんどや等）、散策、休憩、軽スポーツ、学校授業での利用、レクリエーション、環境学習、遠足				市民レガッタ、カヌー、釣り、川遊び、自然観察、環境学習		釣り、自然観察		散策、ジョギング、ウォーキング、休憩、語らい、景色を眺める		
かわまちづくり支援制度への適合性	ソフト面	河川敷利用特例措置等	○（イベント等）										
	ハード面	治水整備	○（基盤整備）				○（河岸防護）	○（河岸防護）	○（堆積防止）	○（河岸防護）	○（管理通路）	○（管理通路）	
		利用安全整備					○	○					
整備主体（案）	国土交通省		○（基盤整備）				○	○	○	○	○	○	
	熊本市		○（張り芝等）	○	○	○							○
維持管理主体（案）	国土交通省※1		○（土砂撤去）				○（補修等）	○（補修等）	○（補修等）	○（補修等）	○（補修等）	○（補修等）	
	熊本市※2		○（土砂撤去）	○（補修等）	○（補修等）	○（補修等）	○（除草）	○（除草）			○（清掃）	○（清掃）	○（補修等）
	地域住民(利用者)※3		○（除草・清掃）	○（清掃）		○（清掃）	○（除草）	○（除草）			○（清掃）	○（清掃）	

【H24年度】

「高瀬地区かわまちづくり」（熊本県玉名市）

登録年月日：H25.3.29
事業年度：H25～H28

対象河川　：　一級河川　菊池川水系菊池川　【国管理河川】
市町村名　：　熊本県玉名市
推進主体　：　玉名市



1. 概要

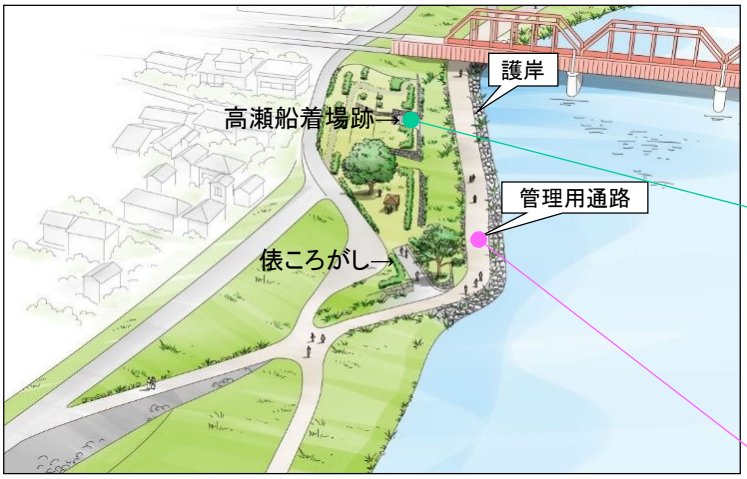
菊池川の下流部に位置する玉名市高瀬地区周辺は、玉名花火大会、高瀬裏川花しょうぶ祭り等のイベントや河川敷における野球・ラグビーなどのスポーツ利用の他、緑豊かな癒しの場として日常的な散策にも多く利用されています。
「高瀬地区かわまちづくり」では、『県北の都に「歴史」「自然」と「にぎわい」がとけ込む水辺空間の創出』をテーマとし、地域の自立的・持続的な活性化及び治水上・河川利用上の安全性向上に貢献するものである。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　高水敷整備、管理用通路、低水護岸　等
玉名市　　：　文化財多目的スペース　等

3. ソフト施策の内容

玉名市　　：　市民団体と協働で取り組む各種イベントの企画　等




船着場跡の活用状況



舗装・拡幅を含む管理用通路の整備、広場の整備が行われ安全で多様な利用がしやすくなりました。


玉名花火大会での利用状況

高瀬地区かわまちづくり【完】

菊池川水系菊池川（熊本県玉名市）【直】

事業実施の効果





河川敷の舗装がされておらず
広場にも段差や傾斜があり
利用しにくい状態でした。

事業実施の効果





舗装・拡幅を含む管理用通路の
整備、広場の整備等が行われ
安全で多様な利用がしやすく
なりました。

指標名　地域のコメント

効果（地域住民の声）

河川敷が整備され、**利用について期待がふくらむ。**（地元区長）

指標名　観光客推移

効果（グラフ）



高瀬地区かわまちづくり【完】

菊池川水系菊池川（熊本県玉名市）【直】

ソフト施策



・高瀬裏川花しょうぶまつり
毎年5月下旬～6月上旬
なお、花しょうぶまつりに
ついては、日本遺産認定を
受けて川のイベントとコラ
ボ企画を実施



・玉名花火大会に併せて
『大人の観覧席』を高瀬船着
場跡で実施。

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

7月7日には、地元、市民団体等含め水辺で乾杯を実施。毎年玉名花火大会に併せ、『大人の観覧席』を高瀬船着場で実施。その他、「菊池川あそび」など川に親しむイベントの実施。

○今後の展望

今後、当該箇所にて上記以外のいろいろなイベントを実施予定で、地元学生等とのタイアップ企画等も模索中。

＜参画機関＞

・当該箇所について協議会等メンバーや地元商店街、関係機関（玉名市）との連携状況を密におこなっている。

○今後の展望

・民間主導の継続的な利活用の仕組みづくりを鋭意検討中。

＜かわまちの運営（維持管理）＞

施設整備後の維持管理状況

多目的スペースの除草作業が一番大きな維持管理メニューになるが、玉名市の美化委託と併せて地元の民間団体（河川協力団体会員）の協力が得られており実施中。

「五ヶ瀬川かわまちづくり」（宮崎県延岡市）

登録年月日：H25. 3.29
事業年度：H26～R13

対象河川　：　一級河川五ヶ瀬川水系五ヶ瀬川・大瀬川　【国管理河川】

市町村名　：　宮崎県延岡市

推進主体　：　延岡市



1. 概要

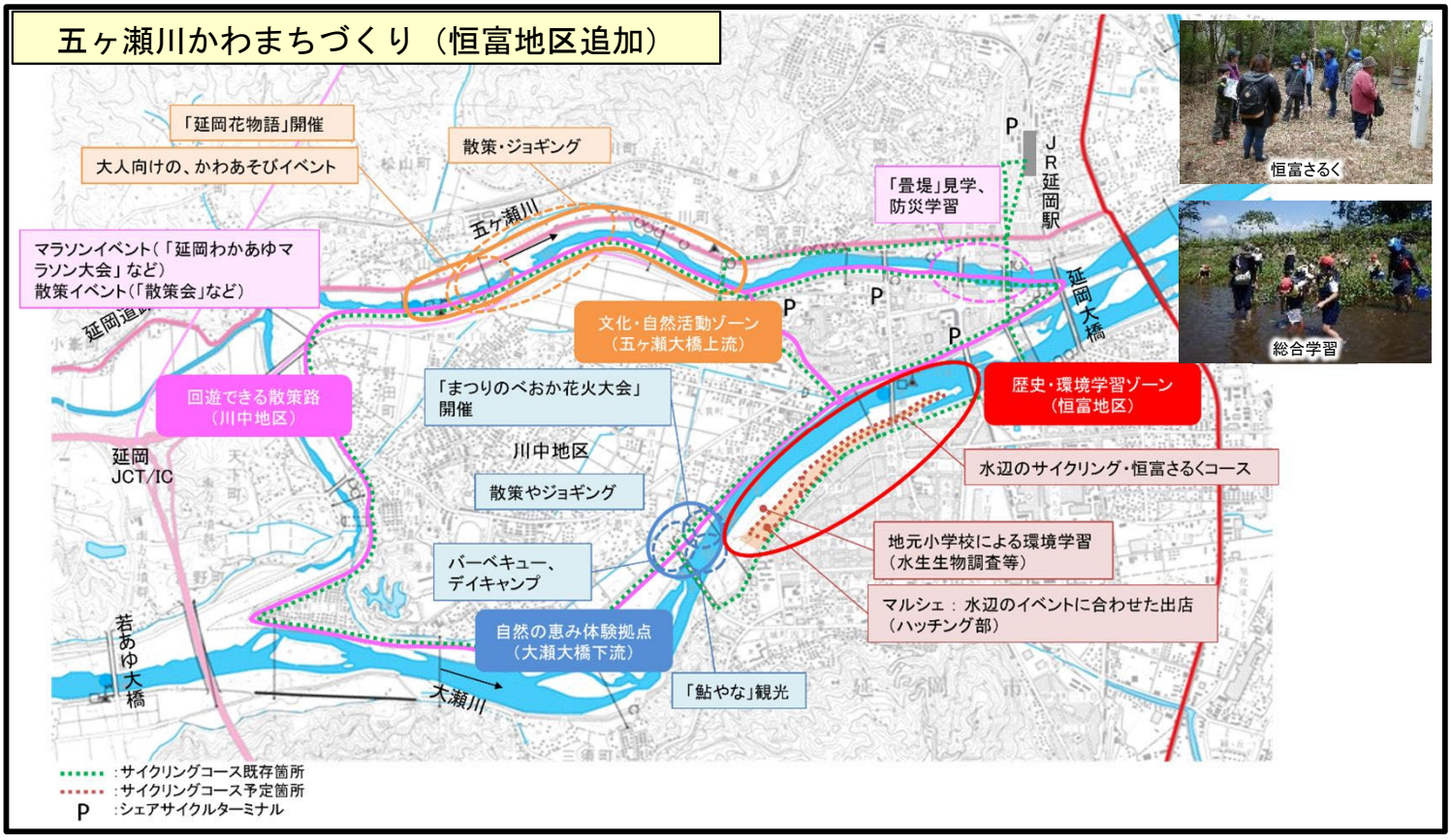
延岡市では、総合計画等において、人と物とが活発に行き交う交流拠点づくり・活力のある都市づくりを進めている。 また、市民と一体となったアスリートタウンづくりに取り組むとともに歴史遺産や鮎やな観光資源等を活用した観光客の誘致を推進している。 川中地区では五ヶ瀬川の河川敷の整備等により、市民の日常の利用者や「延岡花物語」の入込客数は年々増加傾向で、大瀬川の体験拠点においては、かわまち交流広場が整備され、「鮎やな」を中心とした地域の観光振興として河川敷地占用許可準則第22条に基づく都市・地域再生等利用区域の指定を受け、平成30年4月に「かわまち交流館」がオープンし、多くの賑わいを見せている。
令和2年度には川中地区3拠点の整備が完了し、その成果として「かわまち大賞」を受賞している。こうした川中地区の整備効果が波及し、恒富地区においてもかわまちづくりの気運が高まると共に、イベントやスポーツ等に多目的に利用できる河川空間の整備を希望する市民の声が寄せられた。恒富地区の整備を行う事で、子どもを始めとした新たな利用者層や利用メニューを拡大し、川中地区と一体となった更なる賑わい創出が見込まれたため、令和3年8月に五ヶ瀬川かわまちづくり計画の変更登録を行い、恒富地区を整備拠点として追加し、令和7年10月に完成を迎えた。

2. ハード施策の内容

国土交通省：高水敷整正、緩傾斜法面、管理用通路　等　　延岡市：トイレ、交流館整備　等

3. ソフト施策の内容

国土交通省：都市・地域再生等利用区域の指定　等　　延岡市：パンフレット作成　等



五ヶ瀬川かわまちづくり

五ヶ瀬川水系五ヶ瀬川・大瀬川（宮崎県延岡市）【直】

事業実施の効果

整備前



かわまち交流広場（緩傾斜護岸、スロープ、芝生広場、散策路、親水護岸、駐車スペース）が整備される前の河川敷。

整備後



多くの検討会メンバーの意見が集約された広場が完成し、かわまち交流館と広場を結ぶスロープも設置され喜ばしい。（地元区長）

事業実施の効果



かわまち交流広場が整備される前の「鮎やな」は、安全の面から関係者以外は近づくことができなかった。



鮎やなの期間に設置される桟橋から鮎が捕れる様子を見物する観光客



観光客や地元の人々で賑わう食事処

指標名　かわまち交流館食事棟　年間利用者の推移



事業実施の効果





かわまちづくりに伴って整備された護岸や散策路を、地域住民と連携し、清掃活動や除草作業を行っている。





整備された親水護岸により、水辺へ近づくことが容易に（左）
散策路を利用した近隣中学校のマラソン大会の様子（右）

指標名　かわまち交流広場周辺の利用者数の推移



事業実施の効果





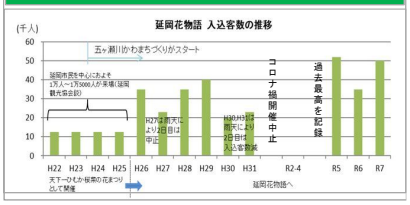
回遊できる散策路の整備により維持管理の効率化や水溜まりの解消で、イベントや日常利用の促進に繋がっている。





延岡花物語では、「新時代の土木業界」ＰＲブース出展（左）
市民団体が維持管理する川津桜と菜の花を楽しむ来場者（右）

指標名　延岡花物語来場者の推移



五ヶ瀬川かわまちづくり

五ヶ瀬川水系五ヶ瀬川・大瀬川（宮崎県延岡市）【直】

ソフト施策



延岡花物語（毎年2月開催）



公園愛護会活動（毎月1回開催）



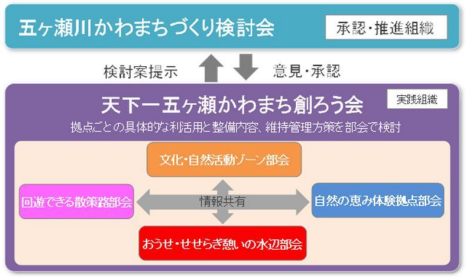
花火大会（毎年10月開催）



かわあそびin五ヶ瀬川（毎年8月開催）

＜参画機関＞

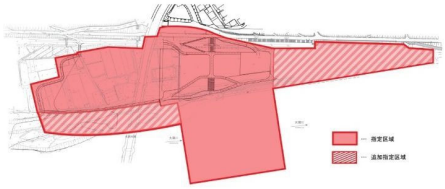
・承認･推進組織『五ヶ瀬川かわまちづくり検討会』（地域住民、学識者、延岡市、宮崎県、国土交通省）
・実践組織『天下一五ヶ瀬かわまち創ろう会』（実際に力を貸してくれる方々）
・周辺自治体、河川美化活動や体験活動等の各団体



＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・河川敷地占用許可準則22条による、都市･地域再生等利用区域の指定がされており、常設棟となる『かわまち交流館』では鮎やなシーズンの食事棟としてだけでなくレクリエーションや河川環境学習等の拠点としても利用されている。



＜かわまちの運営（維持管理）＞

施設整備後の維持管理状況
・延岡市において、都市公園の指定、除草等
・延岡観光協会において、鮎やな及びかわまち交流広場の運営管理、トイレ管理、ＢＢＱ広場の運営管理
・「五ヶ瀬川かわまちづくり検討会」および「天下一五ヶ瀬かわまち創ろう会」の運営支援を行うとともに、会議資料の作成やアクションプランの更新
・広報活動について、過年度から取組んでいる活動の継続対応を図る
・令和３年度新規拠点である恒富地区においては、地域と維持管理ルールについて検討し、スポーツチーム等の各団体及び地域住民が、延岡市の公園緑地愛護会制度を活用し月１回以上の草刈りとゴミ拾いを行うこととしている。

【H24年度】

「駒鳴地区かわまちづくり」（佐賀県伊万里市）

登録年月日：H25.3.29
事業年度：H25～H27

対象河川 ： 一級河川 松浦川水系松浦川 【国管理河川】

市町村名 ： 佐賀県伊万里市

推進主体 ： 伊万里市

位置図



1. 概要

伊万里市は平成21年6月に策定した「第5次伊万里市総合計画」の中で、「市民との協働による安心と豊かさの創造」を基本理念として掲げ、本市固有の歴史や自然と調和した都市景観の形成など都市基盤の充実やNPO法人、ボランティア、まちづくり団体等の様々な主体が取り組む活動を促進するなど、市民が主役のまちづくりを推進することとしている。また、松浦川旧河川を活かし、水辺とふれあえる場の整備を行い、「環境学習」「自然体験活動」「地域住民による美化活動」等を実施することにより住民の郷土理解を更に深め、それらを活かしたまちづくりの推進によるまちおこし・活性化を進めていく。

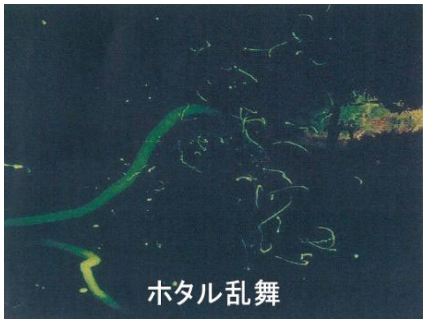
2. ハード施策の内容

国土交通省 ： 管理用通路、階段護岸、伐採抜根 等

3. ソフト施策の内容

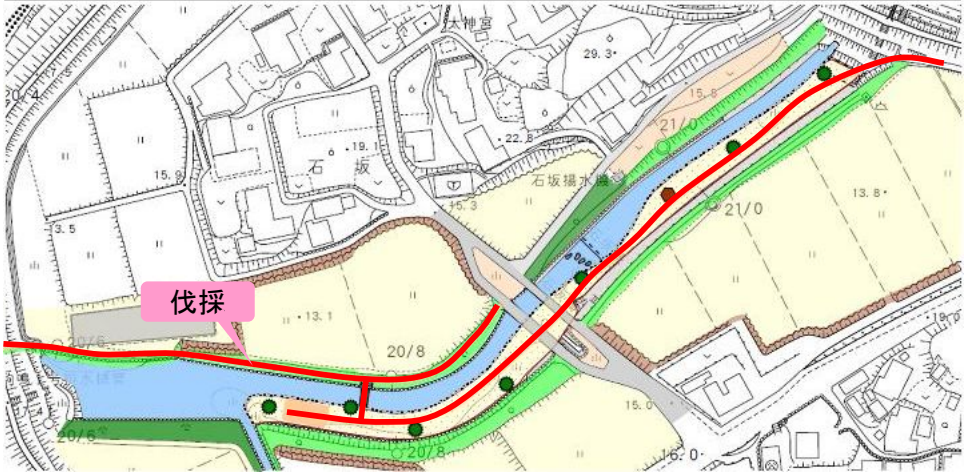
伊万里市 ： 維持管理 等





駒鳴地区かわまちづくり整備イメージ





駒鳴地区かわまちづくり【完】

松浦川水系松浦川（佐賀県伊万里市）【直】

事業実施の効果



水辺へのアクセス路がない。



散策路として利用、親水性の向上

指標名　整備事業アンケート回答

効果

・このような場所を複数作ってほしい。
・整備されている川だと意識したことがなかったが、こんなに環境整備が整っているなら、立ち寄ってみたいと思った。
・環境に適しているなら色々と整備してほしい。

事業実施の効果



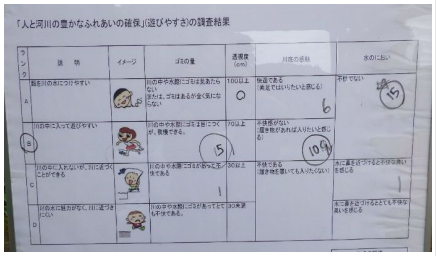
アクセス路がなく、水辺利用ができない。



川遊び等、水辺の利活用

指標名　住民アンケート結果

効果



【回答結果が多い意見】

・川に入って遊びやすい。
・川底の感触は、不快感がない。
・川の水の臭いが不快ではない。

事業実施の効果



アクセス路がなく、水辺利用ができない。



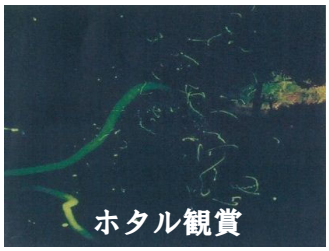
水生生物調査等、環境学習等の実施

駒鳴地区かわまちづくり【完】

松浦川水系松浦川（佐賀県伊万里市）【直】

ソフト施策









<参画機関>

【駒鳴地区かわづくり検討会】

平成２４年９月から、地域住民、伊万里市、河川管理者で構成する「駒鳴地区かわづくり検討会」を設立し、まちづくりと一体となった整備メニュー、維持管理、利活用方法などについて協議を行っている。

準備会	平成２４年　９月２０日
第１回	平成２４年１１月１３日
第２回	平成２４年１１月２７日
現地検討会	平成２５年　９月２５日
第３回	平成２５年　９月３０日
第４回	平成２５年１２月　２日
第５回	平成２６年　２月２５日

<水辺空間の利活用状況>

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・「ウォーターフロントこまなき」として、伊万里市が占用している。
・伊万里フットパスの駒鳴コースとして利用されている。



<かわまちの運営（維持管理）>

（伊万里市）
・公園等の占用区間における除草及び清掃の実施。

（地域住民）
・日常的に利用する箇所の除草及び清掃の実施。

【H24年度】自然や四季を感じる空間、「ほっ」と癒やされる本明川

「天満・永昌地区かわまちづくり」（長崎県諫早市）

登録年月日：H25.3.29
事業年度：H25～R9

対象河川　：　一級河川　本明川水系本明川　【国管理河川】
市町村名　：　長崎県諫早市
推進主体　：　諫早市



1. 概要

諫早市では、人の営みと自然・歴史・文化的環境が調和したまちづくりの実現に向け、地域資源を活かした魅力あるまちづくりに取り組んでいます。

諫早駅周辺には本明川を中心として眼鏡橋などの多くの歴史資源が点在しており、市民や市外から訪れた方々の回遊性を高めるために、駅前公園と本明川の一体整備など自然を活かした空間づくりを図ります。

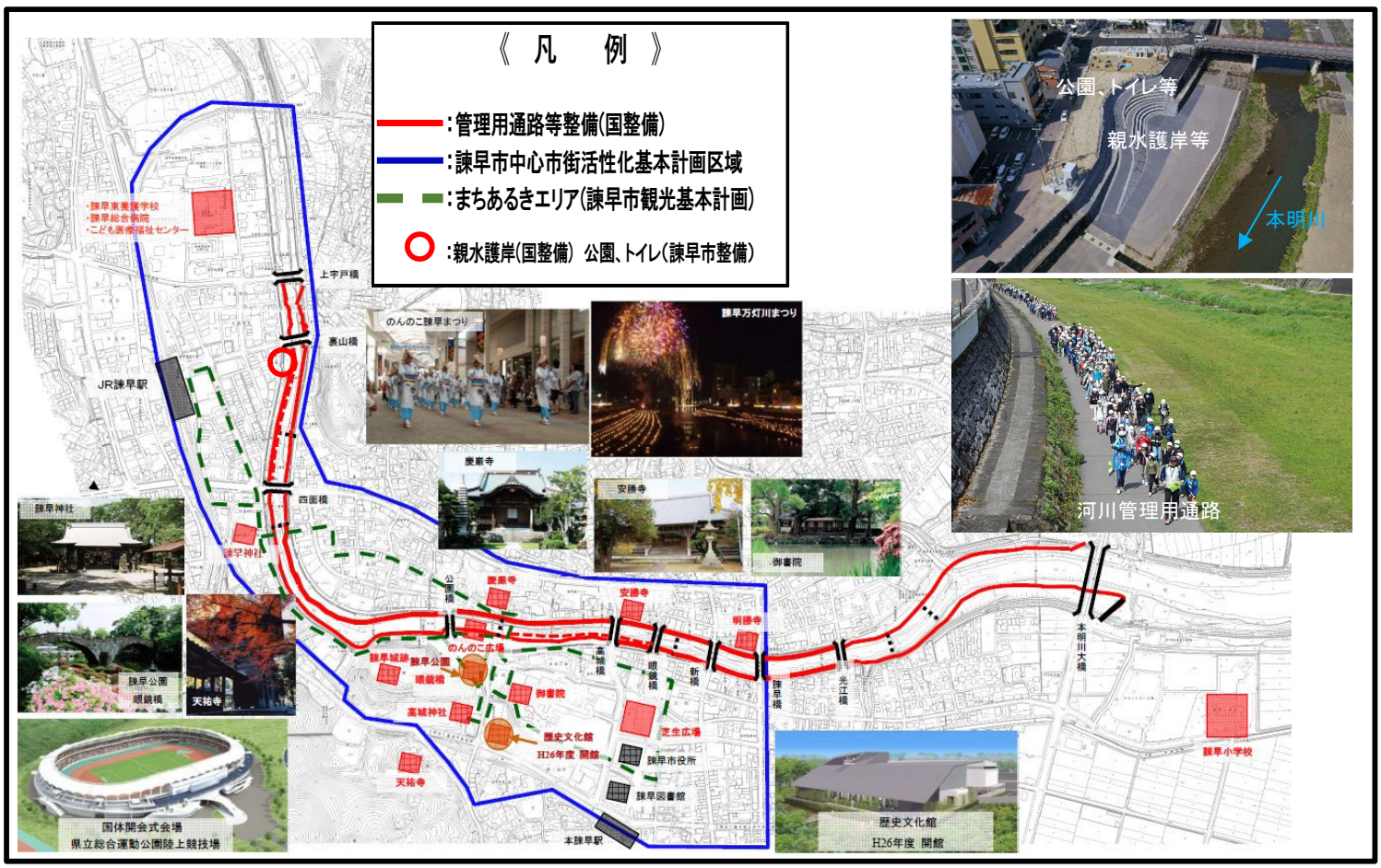
国土交通省では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備のほか、河川空間において営利活動を実施する場合には、河川敷地占用許可準則第22に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　管理用通路、親水護岸　等　　諫早市　：　公園、トイレ　等

3. ソフト施策の内容

国土交通省　：　都市・地域再生等利用区域の指定　等　　諫早市　：　地域イベント等での河川利用の促進、情報発信　等



天満・永昌地区かわまちづくり　【完】

本明川水系本明川（長崎県諫早市）【直】

事業実施の効果

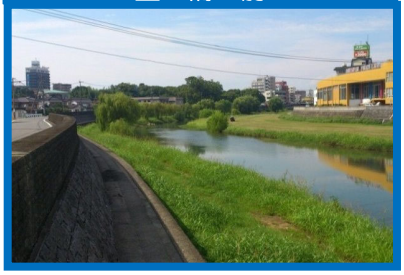
■散策路の整備でさらに親しみやすい川へ！

本明川では、歴史や文化等の地域特性を踏まえ、自然との調和に配慮しつつ環境教育の場としてなど多様な利用ができるよう、人々が川と触れ合い、親しめる、潤いのある水辺空間の整備を目指しています。

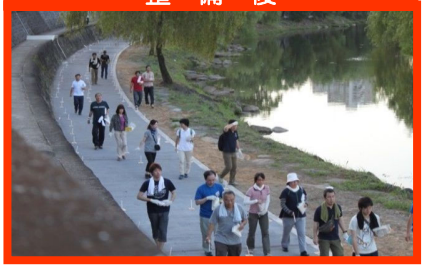
平成25年から、諫早市が進めるまちづくりと連携して整備を進めており、以前より、さらに親しみやすい川に生まれ変わりつつあります。

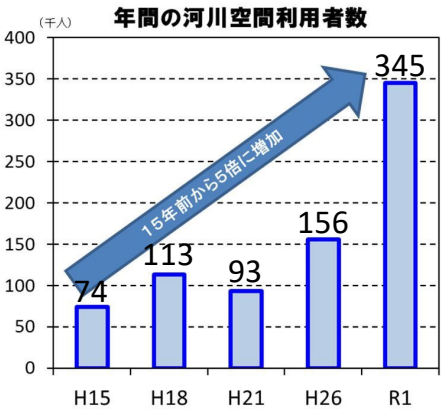
指標名　河川の年間利用者数・地域の声

整　備　前



整　備　後





■地元の方々と一緒になって考えました。

地元の方々と検討会や現地調査を実施し、より利用しやすい方法や散策路の景観について話し合いながら実施しており、魅力あるかわまちづくりを進めています。



地元の方々と現地で検討会を実施

○地域の声

・連続した歩道の整備ができていて歩き易くなり、市民のウォーキングの場所として利用が期待される。
・川の特徴を活かしたワンドや飛び石周辺の風景が良好。水音が心地良いなど、自然と調和している。

天満・永昌地区かわまちづくり　【完】

本明川水系本明川（長崎県諫早市）【直】

ソフト施策

○諫早市　等
・諫早万灯川まつり：毎年７月２５日
・本明川魚つかみ取り大会：毎年７～８月
・環境学習（水生生物調査等）：毎年７～９月





＜参画機関＞

・かわまち計画策定にあたっては、地域の河川利用へのニーズ、求めている河川環境等を把握し、住民と行政の合意形成を図るため、地域住民や諫早市、国等から構成される『本明川河川利用懇談会』を開催
・河川空間利用者の安全性の向上を目的として様々な議論を実施し、具体的な整備方針・目標を検討

＜かわまちの運営（維持管理）＞



河川美化イベント

＜水辺空間の利活用状況＞

・本地区の諫早市は、かわまち計画と新幹線開業に向けた効果を更に高めるため、まちづくりを具体化する「諫早地域活性化検討委員会」を立ち上げ議論され、その中の「本明川河川敷利活用部会」で新たな施策も検討されており、河川管理者としても積極的に支援していく予定。

●ベンチ等（休憩所）設置（おしゃれな空間の演出）



●イルミネーションの設置（諫早駅と公園広場を結ぶ）



●「屋外BAR」の開催（堤防擁壁（パラペット）を活用）



●街路灯の設置（観光名所となるモニュメント街路灯）

【H25年度】*川と日本人の心の再生を目指した神代川かわまちづくり*

「神代川かわまちづくり」（宮崎県高千穂町）

登録年月日：H.26.3.26
事業年度：H26～R6

対象河川　：　1級河川　五ヶ瀬川水系神代川　【県管理河川】
市町村名　：　宮崎県高千穂町
推進主体　：　高千穂町



1. 概要

高千穂町は、「日本発祥の地『神都』」として、観光を含めた地域活性化事業 に取り組んでいる。本事業では、宮崎県と高千穂町との緊密な連携のもと、地域の人びとが高千穂地域の環境と景観の再生を機に、川とともに生きることの喜びを取り戻し、またこの地域を訪れる人びとに日本文化の原風景の体験を共有できるように、川とまちを一体としたさまざまな取り組みを行っている。

県では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備等を実施します。

2. ハード施策の内容

宮崎県：護岸　落差工　管理用通路　等　　高千穂町：歩道整備、広場、植栽

3. ソフト施策の内容

宮崎県：情報発信（かわまちブログ等）　高千穂町：小学生の観光マップ作成



神代川かわまちづくり【完】

五ヶ瀬川水系神代川（宮崎県高千穂町）【補】

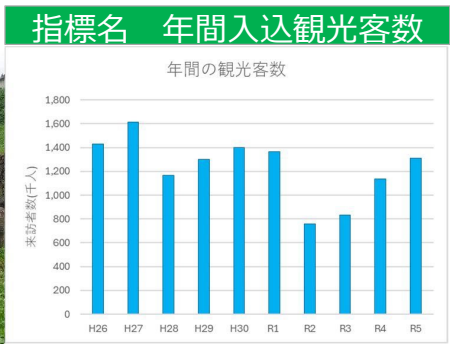
事業実施の効果（目標）



コンクリート三面張りの無機質な河川を･･･



かつての自然に溢れた姿を取り戻し、人々や生き物たちが集う癒やしの空間に！



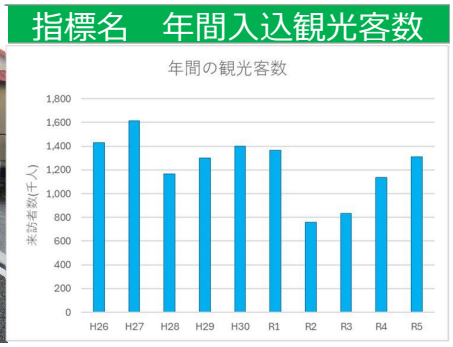
事業実施の効果（目標）



観光地らしさのない中心部の道路を･･･



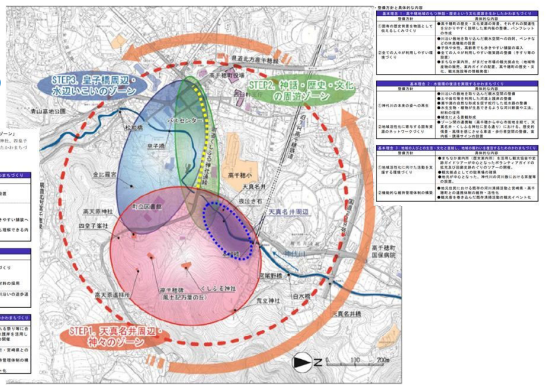
車止めを減らし、歩道を石畳風に変えることで、開放的で趣のある空間に！



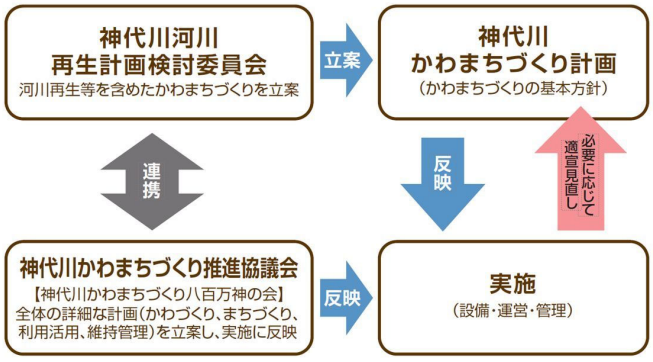
神代川かわまちづく【完】

五ヶ瀬川水系神代川（宮崎県高千穂町）【補】

〈ソフト施策の全体イメージ〉
○現計画
・案内板の設置
・パンフレットの作成
・各種イベントの開催
・ガイドやボランティア等の人材育成など



<参画機関>



<水辺空間の利活用状況>
○かわまち計画範囲内の占用許可状況
・植栽や休憩施設（四阿、ベンチ）について、占用許可申請済み。

○今後の展望
・また、地域の小学校と連携した水辺授業の実施や観光客を呼び込むためのソフト対策等、利活用へと繋がる取組を検討する。
・自然に溢れた河川と公園による癒やしの空間が完成し、各観光スポットを巡る回廊、休憩所や、地域の人々が集う憩いの空間として活用されていくことが期待される。
・新たな賑わいの創出に向けた施策を展開していくことで、さらなる利活用を促していく。

○今後の展望
・整備完了したため、今後は協議会等を立ち上げず、専門の方へ個別に相談する。

<かわまちの運営（維持管理）>
・整備の中心となる天真名井周辺では、地元公民館女性部による定期的な河川清掃が長年行われており、今後の神代川かわまちづくりにおいても、現在活動する地域住民を中心とした維持管理が可能である。
・こうした既存の取組を核としながら、今後は清掃活動や日常的な管理だけではなく、利用面を含めた積極的な活動につなげていくこととしている。
・取組の実施にあたっては、推進協議会や検討委員会において、検討･調整を行う。

「宮ノ陣地区かわまちづくり」（福岡県久留米市）

登録年月日：H27.3.30
事業年度：H27～R4

対象河川 ： 一級河川 筑後川水系筑後川 【国管理河川】

市町村名 ： 福岡県久留米市

推進主体 ： 久留米市

位置図



1. 概要

久留米市宮ノ陣地区の河川敷は、リバーサイド基本計画区域にあり、周辺では、住宅・工業団地の分布による人口増などを含めて農、商、工、住など多彩な変化が進んでいます。対岸には筑後川防災施設くるめウスがあり、水辺体験や安全講習会、交流イベント等が開催されるなど、筑後川に親しみ、学ぶ人々が集う拠点となっています。この河川敷を地域の交流拠点としての水辺を創出することにより、さらに魅力あるまちづくりを進めていきます。

国土交通省では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備を行い、今後は営利活動のニーズを把握しながら、河川敷地占用許可準則第22に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

国土交通省 ： 管理用通路、坂路、高水敷整正、階段　　久留米市 ： 駐車場、園路、芝張り 等

3. ソフト施策の内容

国土交通省 ： 都市・地域再生等利用区域の指定　　久留米市 ： リバーサイドパークの指定




伝統行事さぎっちょ


ウェイクボード






防災キャンプ

宮ノ陣地区かわまちづくり【完】

筑後川水系筑後川（福岡県久留米市）【直】

事業実施の効果



高水敷整正前



高水敷整正後（駐車場整備等）

親水エリア利用者の推移







Eボートやウェイクボート、水上スキー等で水面利用されている。

事業実施の効果



高水敷整正前

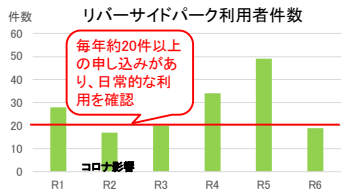


高水敷整正後

スポーツエリア･子供エリア利用者の推移







地域主催のグランドゴルフ大会や伝統行事、サッカー、ラグビー等のクラブで利用されている。

事業実施の効果



散策路整備前

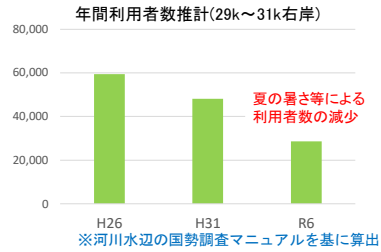


散策路整備後

河川利用者の推移







※河川水辺の国勢調査マニュアルを基に算出

宮ノ陣地区かわまちづくり【完】

筑後川水系筑後川（福岡県久留米市）【直】

<ソフト施策内容>



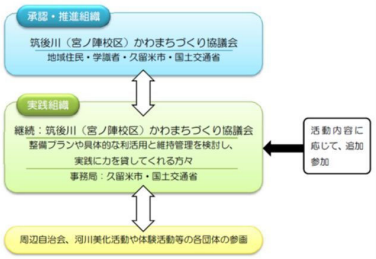






<参画機関>

・かわまち計画策定にあたって宮ノ陣校区でかわまちづくり協議会を設置し、年２回～３回協議会を開催している。



・都市、地域再生等利用区域の指定を目標とする実証実験の企画内容の審査や、事業者の選定を行うための推進協議会を、宮ノ陣校区、合川校区商工会議所等と設置し、年1回推進協議会を開催している。

○今後の展望

・各種イベント等の開催を通じ、河川敷地占用許可準則22条による都市・地域再生等利用区域の指定の可能性を検討していく。

<水辺空間の利活用状況>

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・下流部の整備箇所から久留米市に占用許可している。

○利用状況

・河川敷地占用許可準則２２による、都市・地域再生等利用区域の指定を目標とする実証実験として行われたカワベリング（筑後川左岸くるめウス側）を対岸の宮ノ陣側にも広げ実施している。

・既に整備された駐車場や広場は、地域のイベントやスポーツ練習等で利用されている。

<かわまちの運営（維持管理）>

・かわまちづくり協議会及び水面利用協議会にて維持管理面についても協議中であり、適切な役回り分担を目指す。

【H26年度】

「河口部地区かわまちづくり」（佐賀県唐津市）

登録年月日：H27.3.30
事業年度：H27～R6

対象河川　：　一級河川　松浦川水系松浦川　【国管理河川】
市町村名　：　佐賀県唐津市
推進主体　：　唐津市

位置図



1. 概要

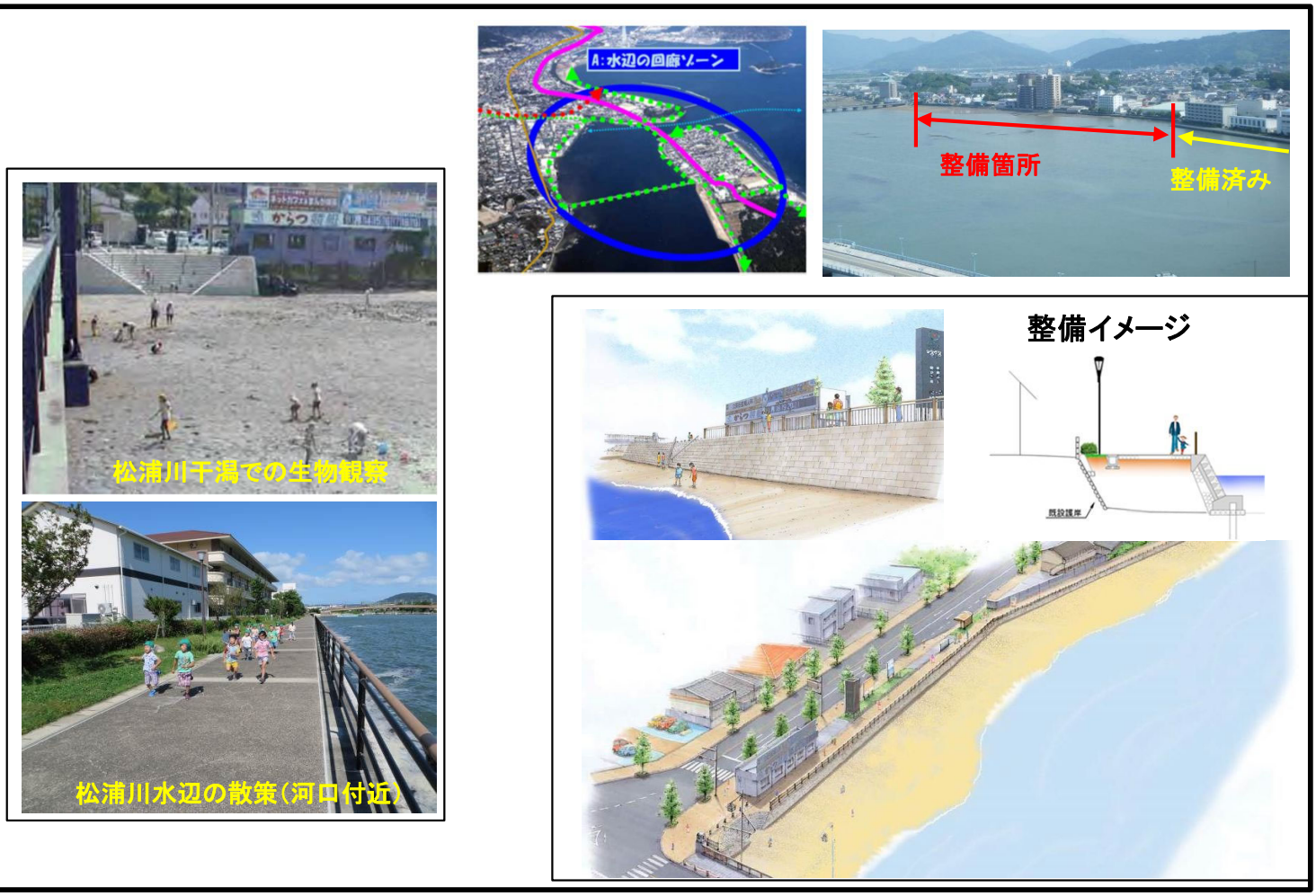
唐津市では、「唐津市都市計画マスタープラン」を策定し、将来の都市構造を形成していく上での重要な骨組み「都市骨格」として松浦川を位置づけている。この中で、松浦川沿いの公共施設整備の一環として、一部併用されている河畔遊歩道をはじめ、身近に水辺を感じることのできる“水辺の回廊ゾーン”の整備に、地域住民が主体となった検討を進めながら実現化に取り組むことが盛り込まれている。水辺整備の実施により“水辺の回廊ゾーン”としての利活用が向上し、また、当該地区を「人と川とのふれあいの場」として、地域住民による干潟での環境学習や体験活動等の利活用を促進し、市民と行政との協働によるまちづくりにより、地域の活性化を推進する。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　管理用通路　等　　唐津市　：　転落防止柵、植栽　等

3. ソフト施策の内容

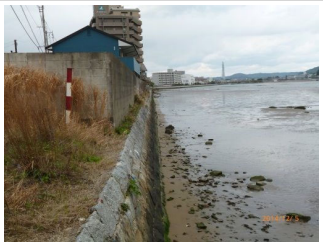
唐津市　：　情報発信、観光経路、イベント観覧場　等



河口部地区かわまちづくり【完】

松浦川水系松浦川（佐賀県唐津市）【直】

事業実施の効果



水辺へのアクセス路がない。



児童による散策、観光経路の利活用

指標名　整備事業アンケート回答

効果

・景観が良くなる事、それによって観光客からもたれる唐津市のイメージが良くなるのではという期待がもてる。

・ここから見る景色がいい。唐津城等ゆっくりとベンチに座り時間がすごせる。

事業実施の効果

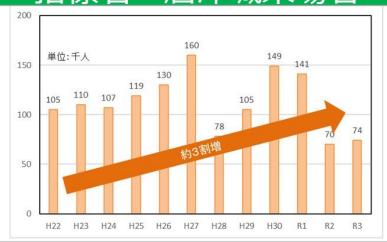


水辺の回廊から唐津城へのアクセス



唐津城へのアクセス路

指標名　唐津城来場者



事業実施の効果

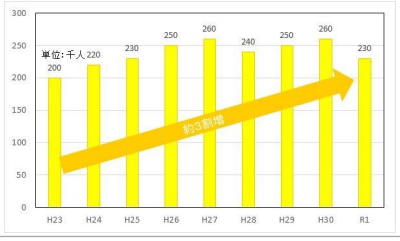


既設整備護岸からも花火大会を眺望できる



花火大会の観覧場として利用

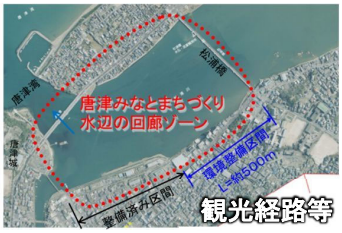
指標名　九州花火大会来場



河口部地区かわまちづくり【完】

松浦川水系松浦川（佐賀県唐津市）【直】

ソフト施策









<参画機関>

○参画機関

地域住民・学識経験者・漁協関係者・ＮＰＯ法人・市・県・国により構成される松浦川河口部水辺整備検討会を設置し、これまでに合計６回の検討会を開催。

項目	実施日	主な議題
第１回検討会	平成26年11月26日	事業趣旨・概要説明、意見交換
第２回検討会	平成27年1月19日	かわまちづくり計画の策定、意見交換
かわまちづくり計画登録申請	平成27年1月28日	かわまちづくり計画登録申請書を国土交通省に提出
かわまちづくり計画登録	平成27年3月30日	かわまちづくり計画として登録
第３回検討会	平成27年11月26日	調査結果・護岸整備計画・環境保全対策方針等の説明、整備計画（主に護岸）についての意見交換
第４回検討会	平成28年2月16日	整備計画（主に護岸平面形）についての意見交換
第５回検討会	平成28年11月21日	護岸等の基本設計図案についての意見交換
第６回検討会	平成29年2月22日	決定した基本設計図案に基づく全体整備計画及び施設毎の具体的整備案についての意見交換

<水辺空間の利活用状況>

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・管理用通路については、唐津市が占用している。

<かわまちの運営（維持管理）>

【唐津市】

・散策路及び緑地帯の維持管理

・除草、清掃活動

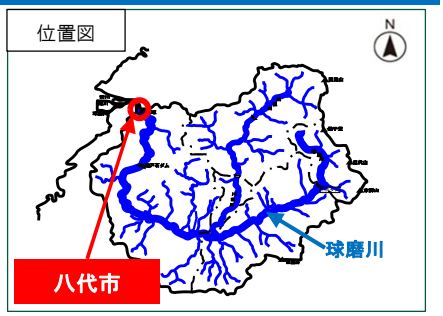
【地元住民】

・除草、清掃活動

「新萩原橋周辺地区かわまちづくり」（熊本県八代市）

登録年月日：H27.3.30
事業年度：H27～R1

対象河川　：　一級河川　球磨川水系球磨川　【国管理河川】
市町村名　：　熊本県八代市
推進主体　：八代市



1. 概要

八代市で新萩原橋周辺地区では住民を中心とした実行委員会等で水辺整備や利活用についての検討を重ね、球磨川の水辺空間を活かしつつ、八代市街地のまちづくりと一体となったかわまちづくりに取り組んでいます。

この取組を充実させるため、本計画では、地域の活性化と治水・河川利用の安全性向上を目的とした新たな水辺空間の創出を図ります。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　管理用通路、高水敷整正、護岸、床固工　等　　八代市　：　駐車場、トイレ、張芝　等

3. ソフト施策の内容

国土交通省　：各種イベントの支援　等　　八代市　：　情報発信　等




R6．5　春のリバーランド


R7．5　遥拝八の字広場利用状況

新萩原橋周辺地区かわまちづくり【完】

球磨川水系球磨川（熊本県八代市）【直】

事業実施の効果



遙拝堰下流は歴史・環境学習の場としての活用が望まれていた。



瀬の形成に大きな役割を果たしていた「八の字堰」を復元し、環境学習の場として活用できる環境ができた。

指標名　地域のコメント

・流域周辺にある様々な歴史的文化遺産や、土木以降と上手く活用し、まちの空間と融合する河川空間を創出するために関係団体・関係機関と連携しつつ、河川空間と周辺市街地空間が一体となった新たなまちづくりを進めて行きたい。

事業実施の効果

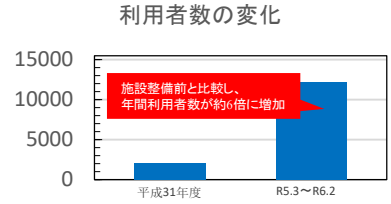


球磨川に隣接した場所だが、坂路や階段が未整備のため水辺に近づくことができず、利用できない。



水辺に近づけられる坂路・護岸を整備、多目的広場を整備を整備することでキャンプ等の利用者が増えた。

指標名　球磨川年間河川利用者数



事業実施の効果



樹木が生い茂っており川も見えず、水辺に安全に近づくことが出来なかった。



安全に下りられる護岸が整備され、平成２７年度から実施している水浴場など河川の水面利用向上に繋がっている。

指標名　地域のコメント

・かわまちづくり実行委員会のメンバーや、地域の方々が訪れたくなるような空間にしていきたい。
・カヌー体験や子供の水辺遊びなど、河に親しみが持てる空間になって欲しい。

新萩原橋周辺地区かわまちづくり【完】

球磨川水系球磨川（熊本県八代市）【直】

ソフト施策

●八代市

・やつしろ全国花火大会：毎年１０月第３土曜日



やつしろ全国花火大会
（有料観覧席(キャンプ利用)より）
※やつしろ全国花火競技大会実行委員会（八代市）より提供





やつしろ全国花火大会時の八の字広場

●かわまちづくり試行イベント：くまがわリバーランド(Ｒ６年５月)





＜参画機関＞

・八代地区（新萩原橋周辺・坂本）かわまちづくり協議会　関係機関：地域の組織の代表・学校関係者・地域史家・商工会議所・漁協・観光協会・八代市・熊本県・国土交通省等
・平成２７年３月３０にかわまちづくりに登録
・新萩原橋周辺地区かわまちづくり実行委員会（H28.2設置）
関係機関：地域住民・関係団体・行政機関・学生・河川環境や河川利用活動を行っている団体

承認・推進組織

球磨川・八代地区（新萩原橋周辺地区・坂本）かわまちづくり協議会
（地域住民の代表、学校関係者、漁協、八代市、熊本県、国土交通省　等）

↕

実践組織

球磨川・新萩原橋周辺地区かわまちづくり実行委員会
（地域住民、八代市、国土交通省　等）

※活動内容に応じて、追加参加が可能

＜かわまちの運営（維持管理）＞

・新萩原橋周辺地区かわまちづくり実行委員会で、利活用方策の向上について検討中。

【H27年度】

「田川地区かわまちづくり」（福岡県田川市）

登録年月日：H28.3.28
事業年度：R1～R11

対象河川　：　一級河川　遠賀川水系彦山川　【国管理河川】
市町村名　：　福岡県田川市
推進主体　：　田川市



1. 概要

彦山川の良好な自然環境や河川周辺の魅力を活かし、また川を通じた伝統行事の実施に伴う観光集客、さまざまな世代が集う水辺拠点として、地域の交流を促進するとともに、地域一体となっての川づくりを行うことで地域の活性化を目指します。また、河川空間利用者の安全性の向上、河川巡視・河川管理の円滑化を図ることを目的に、事業を進めていきます。

国土交通省では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備を実施していきます。

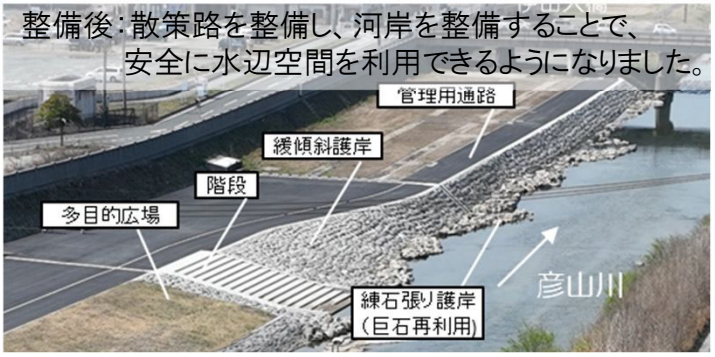
2. ハード施策の内容

国土交通省　：　管理用通路、親水護岸、高水敷整正　等　　田川市　：　駐車スペース、花壇　等

3. ソフト施策の内容

田川市　：　カヌー教室　等





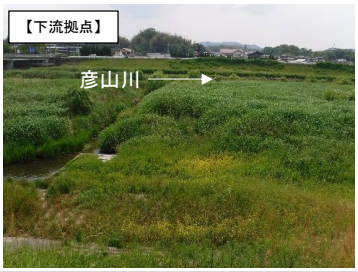




田川地区かわまちづくり

遠賀川水系彦山川（福岡県田川市）【直】

事業実施の効果





指標名　未定

効果

小学校から県道を通らずに安全に水際に近づくことが出来るように管理用通路の整備や高水敷整正を行います。

事業実施の効果





指標名　未定

効果

上下流を繋ぐ連続した散策路が整備され、水際の見通しが良くなり、安全に水辺に近づくことができるようになりました。

事業実施の効果





指標名　未定

効果

豊かな自然環境や景観を保全しつつ、安全に水際に近づくことができる空間づくりを行いました。

田川地区かわまちづくり

遠賀川水系彦山川（福岡県田川市）【直】

ソフト施策



コメント：福岡県三大祭りの一つに数えられる神幸祭は毎年5月に開催



コメント：河川環境学習

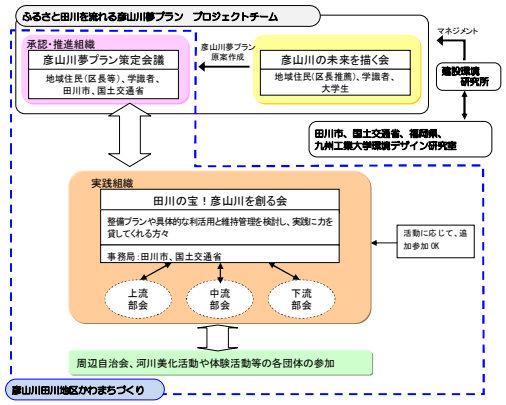


コメント：カヌー教室（タガッパ学校）



コメント：地域主体で取り組む社会実験「彦山川で水辺あそび」

＜参画機関＞　・かわまちづくり計画の推進体制と位置付け



＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

（下流拠点）
市と占用手続きに向けた調整中。

（中流拠点）
市と占用手続きに向け調整中。

（上流拠点）
市と占用手続きに向け調整中。

＜かわまちの運営（維持管理）＞

（下流拠点）
維持管理に関する協定等を締結する方向で市と調整中。

（中流拠点）
維持管理に関する協定等を締結する方向で市と調整中。

（上流拠点）
維持管理に関する協定等を締結する方向で市と調整中。

【H27年度】都城の人と自然、歴史文化が交流するかわづくり

「都城地区かわまちづくり」（宮崎県都城市）

登録年月日：H28.3.28
事業年度：H28～R8

対象河川 ： 一級河川 大淀川水系大淀川 【国管理河川】

市町村名 ： 宮崎県都城市

推進主体 ： 都城市



位置図

1. 概要

大淀川上流部に位置する都城市都島地区では大淀川河畔に川の駅公園が立地し、バスケットボールやインラインスケートなどのスポーツや憩いの場として利用され、周辺には「ななつ星」撮影スポットや都城市歴史資料館等のさまざまな魅力が存在しています。

「都城市総合計画」をはじめとする関連計画による周辺整備と連携し、大淀川の良好な自然環境や周辺に存在する歴史・文化資源、地域住民との関わり合いを活かし、「かわ」と「まち」が一体となった観光拠点及び地域の日常的な憩いの場・地域交流の場として水辺空間を創出するとともに、子ども達が安全に遊べる場として利用できる河川空間の創出を図ります。

国土交通省では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備のほか、河川空間において営利活動を実施する場合には、河川敷地占用許可準則第22に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

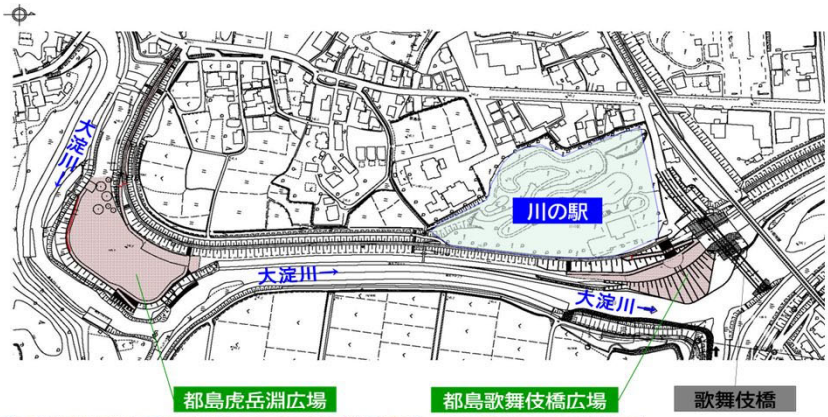
国土交通省 ： 高水敷整正、親水護岸 等

都城市 ： 張芝、橋梁掛替（都城市道） 等

3. ソフト施策の内容

国土交通省 ： 都市・地域再生等利用区域の指定 等

都城市 ： 利活用の計画の検討、推進 等




川の駅公園



都島虎岳淵広場



都城歌舞伎橋広場

都城地区かわまちづくり【完】

大淀川水系大淀川（宮崎県都城市）【直】

事業実施の効果



梅北川合流点付近の大淀川河川敷には、平坦でなく雑草が茂っており、利用が困難な箇所があります。



凹凸が大きい高水敷を整正し、多目的広場として活用することで、地域の憩いの場として賑わいを創出します。

指標名　拠点広場利用者数の増加

効果（データ集計方法）

- 拠点沿いに位置する「川の駅公園」利用者の流入等、一体的な施設の融合を図る
- 地元都島公民館での利用推進（グラウンドゴルフやドッグラン）及び維持管理
- 子供を対象としたカヌー教室の実施

⇒整備される拠点利用者数の把握

事業実施の効果



川の駅公園の前面に位置する大淀川は、水際に草が生い茂り水辺に近づきにくい箇所があります。



緩やかな傾斜の水際や階段護岸を整備し、水際利用の際の安全性を高めることで、カヌーや水遊びができる場を創出します。

指標名　隣接する川の駅公園との相乗効果

効果（データ集計方法）

- 拠点沿いに位置する「川の駅公園」利用者の流入等、一体的な施設の融合を図る
  ⇒整備される拠点利用者数の把握
- 施設融合の相乗効果による川の駅公園利用者数の増加
  ⇒川の駅公園利用者数の推移把握

都城地区かわまちづくり【完】

大淀川水系大淀川（宮崎県都城市）【直】

ソフト施策



地元による維持管理試行
（除草機械の操作訓練）



地元による維持管理試行
（除草機械の操作訓練）



利活用状況（かわあそび）



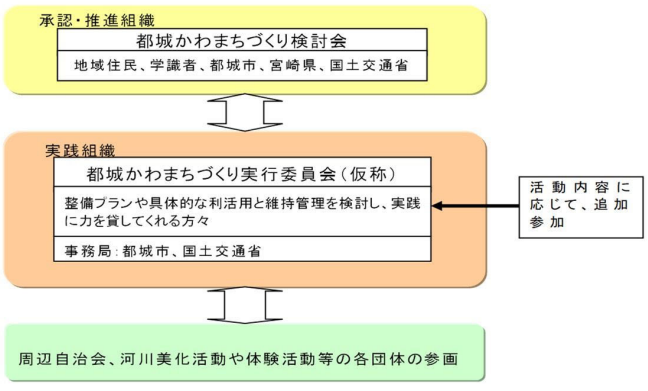
利活用状況（ミニコンサート）

＜水辺空間の利活用状況＞

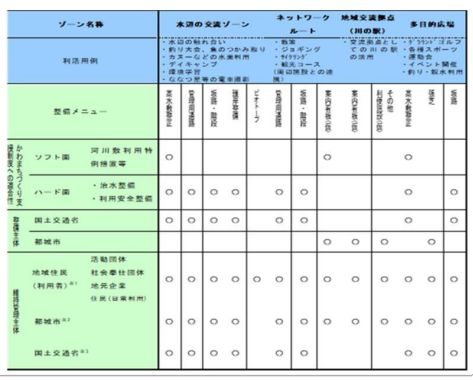
○かわまち計画範囲内の占用許可状況

- 都城市により占用
- 今後、整備箇所の利活用状況等を踏まえ、河川敷地占用許可準則第22による、都市・地域再生等利用区域の指定の可能性を検討する。

＜参画機関＞



＜かわまちの運営（維持管理）＞



※具体的な利活用に併せて維持管理の試行を行うなど、今後も幅広く呼びかけながら段階的に最適な維持管理形態を決定。
（原則として日常的な維持管理は利用者が行う）

【H28年度】川内川が結ぶ地域の魅力と観光交流

「川内川水系かわまちづくり」
（鹿児島県薩摩川内市、さつま町、伊佐市、湧水町、えびの市）

登録年月日：H29.3.7
事業年度：H30～R13

対象河川　：　一級河川　川内川水系川内川・樋脇川　【国・県管理河川】

市町村名　：　鹿児島県薩摩川内市、さつま町、伊佐市、湧水町、宮崎県えびの市

推進主体　：　薩摩川内市、さつま町、伊佐市、湧水町、えびの市



1. 概要

川内川流域では、川内川沿川3市2町が連携し、流域一体となって、川内川を軸としたかわまちづくりを推進しています。これまでの整備や利活用等を通じ、観光資源などを活かし、舟と自転車も特色としたかわまちづくりを推進し、観光を主軸とした川内川ブランド構築を目指し、地域活性化・観光振興に取り組んでいます。

国土交通省では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備のほか、河川空間において営利活動を実施する場合には、河川敷地占用許可準則第22に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　管理用通路、高水敷整正、階段護岸、坂路　等

鹿児島県　：　石積み護岸、水制工、管理用通路　　関係市町　：　案内看板類、トイレ、街灯　等

3. ソフト施策の内容

国土交通省　：　都市・地域再生等利用区域の指定　等　　関係市町　：　環境学習、河川安全講習　等

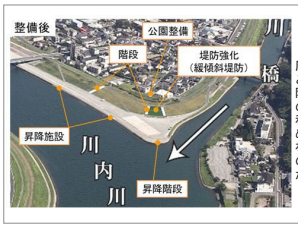


向田地区かわまちづくり【完】

川内川水系川内川（鹿児島県薩摩川内市）【直】

事業実施の効果





周辺の公園整備と一体となって、緩やかな堤防や階段、水面利用時の昇降施設等を整備し、利用の際の安全性を高めます。人々が集い賑わう“かわ・まち空間”の形成が図られることが期待されます。

指標名　地域のコメント

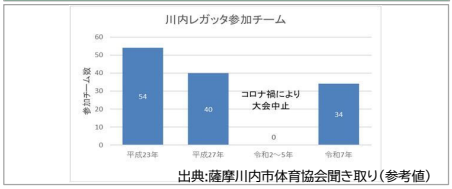
- 広場や駐車場が利用しやすい。
- 河川敷や水辺に近づきやすい。
- 公園として自由に利用できる。

事業実施の効果





指標名　川内レガッタ参加者



出典:薩摩川内市体育協会聞き取り(参考値)

事業実施の効果





指標名　公園整備の充実



事業実施の効果





指標名　薩摩川内市観光客数



出典:統計さつませんだい(R6年度版)

向田地区かわまちづくり【完】

川内川水系川内川（鹿児島県薩摩川内市）【直】

ソフト施策



毎年新春恒例行事として、川内川河川敷で薩摩川内市消防出初式が開催。1年の無火災を祈念して、一斉放水で出初式を締めくくる。



川内川河川敷に揚げられた鯉のぼりの下で、太鼓やフラダンスのステージショーやフリーマーケット等の様々なイベントが行われる。



毎年、地元の企業や市民、高校生のチームが多数参加する対抗戦を行うほか、4年に一度行われる早稲田大、慶応大による伝統の一戦である早慶戦は、大変見どころがあり、多くの観客で賑わっている。



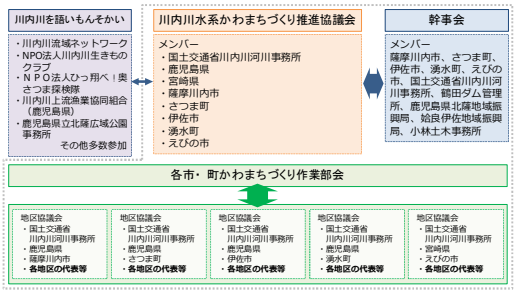
九州でも指折りの川内川花火大会は、毎年8月に行われ、約8万人の人出で賑わう。

＜水辺空間の利活用状況＞
○かわまち計画範囲内の占用許可状況

- 薩摩川内市が占用し管理を行っている。

＜参画機関＞

- かわまちづくりの推進体制として、上部組織に川内川水系かわまちづくり推進協議会を配置し、その下に各関係機関で組織された幹事会、具体的な内容について協議を行う地区住民代表も参加する地区協議会、作業部会で組織する。川内川で活動する「川内川を語いもんそかい」は、オブザーバー的役割を担う。



＜かわまちの運営（維持管理）＞

- 維持管理については、国、自治体、地域住民、活動団体等の関係機関が役割分担を明確にした中で、協力･協働で維持管理を行う方針とする。

○ 施設の維持管理は、河川法に基づく占用を行い、管理協定を締結し、自治体が主体となって管理を行う。
○ 日常的な施設管理、清掃等については、可能な限り地域住民、関係団体等により実施する。





川内市街部かわまちづくり【完】

川内川水系川内川（鹿児島県薩摩川内市）【直】

事業実施の効果



洪水を起こりにくくする工事を行っていることで広大な高水敷が生まれてきていますが、その場所は荒れ地となっており、スポーツや散策など安全に利用できない状況となっています。



高水敷の整正、散策路や階段・坂路等を整備し、利用の際の安全性を高めます。スポーツやイベントの場として活用されることで、市民の憩いの場等となることが期待されます。

指標名　地域のコメント

・改修事業による広大な河川敷が生まれるため、活用していきたい。
・河川敷が整備されれば、イベントの規模や回数を拡大していきたい。
（イベント事務局）

事業実施の効果



引堤工事により広大な空間が創出される



川内川の水辺は、九州各地から集った人々の観客席となって埋め尽くされる。

指標名　薩摩川内市観光客



事業実施の効果



安全に利用できない箇所がある。



木市、こいのぼりフェスティバル等のイベントが開催されている。

指標名　イベント参加者数

効果（データ収集方法）

現在も木市、こいのぼりフェスティバル等のイベントが開催されている。

川内市街部かわまちづくり【完】

川内川水系川内川（鹿児島県薩摩川内市）【直】

ソフト施策



毎年新春恒例行事として、川内川河川敷で薩摩川内市消防出初式が開催。1年の無火災を祈念して、一斉放水で出初式を締めくくる。



川内川河川敷に揚げられた鯉のぼりの下で、太鼓やフラダンスのステージショーやフリーマーケット等の様々なイベントが行われる。



毎年、地元の企業や市民、高校生のチームが多数参加する対抗戦を行うほか、4年に一度行われる早稲田大、慶応大による伝説の慶応戦は、大変見どころがあり、多くの人で賑わっている。



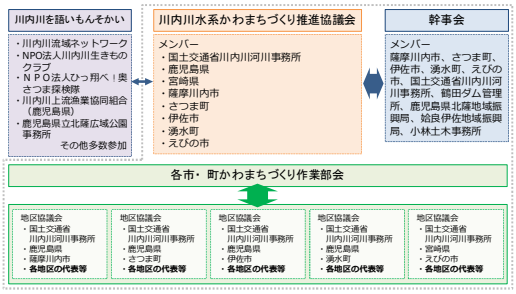
九州でも指折りの川内川花火大会は、毎年8月に行われ、約8万人の人出で賑わう。

＜水辺空間の利活用状況＞
○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・薩摩川内市が占用し、市と維持管理協定を締結した団体が管理を行っている。

＜参画機関＞

・かわまちづくりの推進体制として、上部組織に川内川水系かわまちづくり推進協議会を配置し、その下に各関係機関で組織された幹事会、具体的な内容について協議を行う地区住民代表も参加する地区協議会、作業部会で組織する。
川内川で活動する「川内川を語いもんそかい」は、オブザーバー的役割を担う。



＜かわまちの運営（維持管理）＞

・維持管理については、国、自治体、地域住民、活動団体等の関係機関が役割分担を明確にした中で、協力･協働で維持管理を行う方針とする。

○ 施設の維持管理は、河川法に基づく占用を行い、管理協定を締結し、自治体が主体となって管理を行う。
○ 日常的な施設管理、清掃等については、可能な限り地域住民、関係団体等により実施する。





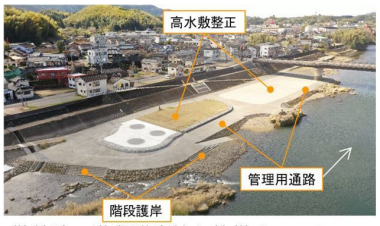
川内川宮之城屋地・虎居地区かわまちづくり

川内川水系川内川(鹿児島県さつま町)【直】

事業実施の効果



高水敷は石や岩による凸凹や草地になっていると共に、安全に川の中に下りられる状況となっていない。



散策路、階段護岸等を整備することで周辺の利用促進が図られる。

指標名　地域のコメント

- 宮之城屋地・虎居地区では、正月の泳ぎ初めや魚のつかみ取り大会など、川との親しみが大いにあった。
- 平成18年の大災害を受け、これに伴う河川整備が完了したが、美しい景観が保持された。また、復興祭や持久走大会など新たなイベントが行われるようになった。
- さらに、観光、教育、特産品づくり等のいろんな面から活用が期待される。
- 今後、川とのつながりを一層深めることにより、より良いまちづくりにつなげていきたい！

事業実施の効果



県立北薩広域公園が隣接している。



散策路、階段護岸等を整備することで周辺の利用促進が図られる。

指標名　県立北薩公園利用者数

効果（データ収集方法）

隣接する県立北薩公園との相乗効果
⇒県立北薩公園利用者数把握

川内川宮之城屋地・虎居地区かわまちづくり

川内川水系川内川(鹿児島県さつま町)【直】

ソフト施策



実施日：平成28年1月1日
コメント：昭和29年に当時の宮之城高校水泳部が泳いで依頼の風物詩です。



実施日：平成28年8月21日
コメント：ＮＰＯ法人ひっ翔べ奥さつま探検隊が主催する川遊び体験。



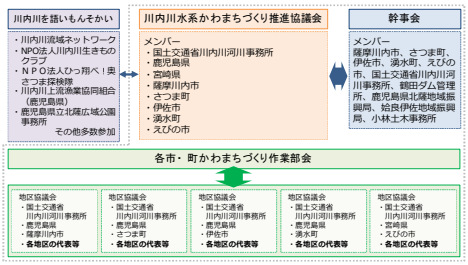
実施日：平成28年8月21日
コメント：ＮＰＯ法人ひっ翔べ奥さつま探検隊が主催する川遊び体験。

＜水辺空間の利活用状況＞
○かわまち計画範囲内の占用許可状況

- 整備が終了した箇所については、さつま町が占用し、管理を行っている。

＜参画機関＞

- かわまちづくりの推進体制として、上部組織として、川内川水系かわまちづくり推進協議会を配置し、その下に、各関係機関で組織された幹事会、具体的な内容について協議を行う地区住民代表も参加する地区協議会、作業部会で組織する。川内川で活動する「川内川を語いもんそかい」は、オブザーバー的役割を担う。



＜かわまちの運営（維持管理）＞

- 維持管理については、国、自治体、地域住民、活動団体等の関係機関が役割分担を明確にした中で、協力・協働で維持管理を行う方針とする。

○ 施設の維持管理は、河川法に基づく占用を行い、管理協定を締結し、自治体が主体となって管理を行う。
○ 日常的な施設管理、清掃等については、可能な限り、地域住民、関係団体等により実施する。





川内川ホタル地区かわまちづくり【完】

川内川水系川内川（鹿児島県さつま町）【直】

事業実施の効果



ホタル観賞場所、舟着場等として多くの人々が利用していますが、利用するには凹凸があるなど、安全に利用しにくい状況となっています。



水辺に近づきやすい散策路、階段護岸(舟着場)等を整備し、利用の際の安全性を高めます。

指標名　地域のコメント

平成29年には、旅館組合によるホタル舟と鶴田ダムのインフラツアーを行っており、今後も周辺のイベント等と連携して活性化を図っていきたい

事業実施の効果



毎年5月にホタル舟が運航されている。



階段護岸等を整備

指標名　ホタル舟乗船人数

効果（データ収集方法）

散策路、階段護岸等の整備によりホタル舟運航が促進
⇒ホタル船乗船人数の把握

事業実施の効果



ホタル舟降船箇所に健康ふれあいセンター「あびーる館」が位置している。



ホタル舟の乗船人数が増加することで、あびーる館にも相乗効果

指標名　あびーる館利用者数

効果（データ収集方法）

ホタル舟の乗船人数が増加することによる相乗効果
⇒あびーる館利用者数の把握

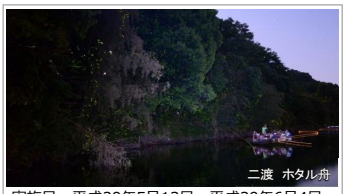
川内川ホタル地区かわまちづくり【完】

川内川水系川内川（鹿児島県さつま町）【直】

ソフト施策



実施日：平成29年5月11日～平成29年5月27日
コメント：神子地区におけるホタルの群生を鑑賞するイベント



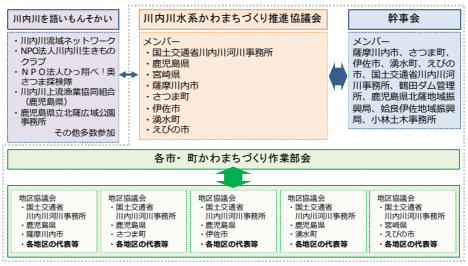
実施日：平成29年5月13日～平成29年6月4日
コメント：二渡地区におけるホタルの群生を鑑賞するイベント



実施日：平成29年8月27日
コメント：母なる川内川と思い切り遊ぼうと実施されており、平成29年で20回目を迎えます。

＜参画機関＞

・かわまちづくりの推進体制として、上部組織として、川内川水系かわまちづくり推進協議会を配置し、その下に、各関係機関で組織された幹事会、具体的な内容について協議を行う地区住民代表も参加する地区協議会、作業部会で組織する。川内川で活動する「川内川を語いもんそかい」は、オブザーバー的役割を担う。



＜かわまちの運営（維持管理）＞

・維持管理については、国、自治体、地域住民、活動団体等の関係機関が役割分担を明確にした中で、協力・協働で維持管理を行う方針とする。

○ 施設の維持管理は、河川法に基づく占用を行い、管理協定を締結し、自治体が主体となって管理を行う。
○ 日常的な施設管理、清掃等については、可能な限り、地域住民、関係団体等により実施する。





＜水辺空間の利活用状況＞
○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・整備が終了した箇所については、さつま町が占用し、管理を行っている。

川内川さつま町湯田地区かわまちづくり【完】

川内川水系川内川（鹿児島県さつま町）【直】

事業実施の効果



高水敷は草地になっており、また凸凹があるなど、アクセスがしにくく、有効に安全に利用しにくい状況となっています。



水辺に近づきやすい階段、河原の整正及び散策路等を整備し、アクセス性と利用の際の安全性を高めます。

指標名　地域のコメント

地域のボランティアが連携し、足湯として温泉を発掘・復活させる取り組みを行っており、今後も足湯を活用した活性化を図っていきたい。

事業実施の効果



高水敷に温泉が湧いている。



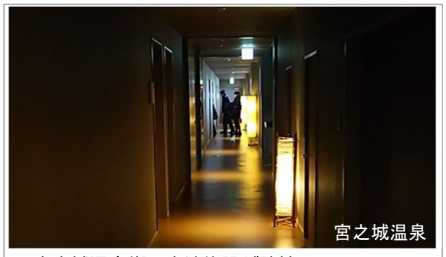
散策路等の整備により利用が促進

指標名　宮之城温泉利用者

効果（データ収集方法）

足湯利用者数増加による相乗効果
⇒宮之城温泉利用者数の把握

事業実施の効果



宮之城温泉街の宿泊施設が隣接している。



散策路等の整備により宮之城温泉の利用が促進

指標名　さつま町宿泊者数

効果（データ収集方法）

地域の魅力が増加することによる相乗効果
⇒さつま町宿泊者数把握

川内川さつま町湯田地区かわまちづくり【完】

川内川水系川内川（鹿児島県さつま町）【直】

ソフト施策



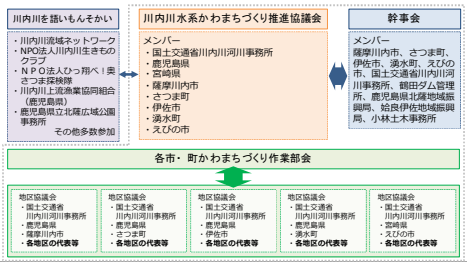
実施日：平成28年12月3日
宮之城温泉のある湯田地区で、約7千本の竹灯籠が幻想的な夜を演出します。



高水敷の足湯を活用。

＜参画機関＞

・かわまちづくりの推進体制として、上部組織として、川内川水系かわまちづくり推進協議会を配置し、その下に、各関係機関で組織された幹事会、具体的な内容について協議を行う地区住民代表も参加する地区協議会、作業部会で組織する。川内川で活動する「川内川を語いもんそかい」は、オブザーバー的役割を担う。



＜水辺空間の利活用状況＞
○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・整備が終了した箇所については、さつま町が占用し、管理を行っている。

＜かわまちの運営（維持管理）＞

・維持管理については、国、自治体、地域住民、活動団体等の関係機関が役割分担を明確にした中で、協力・協働で維持管理を行う方針とする。

○ 施設の維持管理は、河川法に基づく占用を行い、管理協定を締結し、自治体が主体となって管理を行う。
○ 日常的な施設管理、清掃等については、可能な限り、地域住民、関係団体等により実施する。





鶴田ダム湖面地区かわまちづくり

川内川水系川内川（鹿児島県さつま町、伊佐市）【直】

事業実施の効果





遺構に近づきやすい坂路、湖面からアクセスが可能となる階段(船着場)、散策路等を整備し、利用の際の安全性を高めます。ダム湖及び周辺の観光資源が一体となった魅力あるダム空間の形成が図られることが期待されます。

指標名　地域のコメント

- ＤＭＯ協議会等により鶴田ダム周辺では、民間事業者も含めた様々な整備や活性化を検討しており、鶴田ダム湖面かわまちづくりにも期待している。
- 曽木の滝周辺の整備ともあわせて地域活性化を図っていきたい。

事業実施の効果



ダム湖の遊覧が行われている。



階段等の整備により利用が促進

指標名　イベント参加者数

階段等の整備によりダム湖遊覧等のイベント増加が図られる
⇒イベント参加者数把握

事業実施の効果



周辺には鶴田ダムが位置している。



相乗効果により鶴田ダムの見学者数増加が図られる。

指標名　鶴田ダム見学者数

ダム湖遊覧等イベント増加の相乗効果
⇒鶴田ダム見学者数把握

事業実施の効果


周辺には曽木の滝が位置している。



相乗効果により曽木の滝公園利用者増加が図られる。

指標名　曽木の滝公園利用者数

地域の魅力が増加することによる相乗効果
⇒曽木の滝公園利用者数把握

鶴田ダム湖面地区かわまちづくり

川内川水系川内川（鹿児島県さつま町、伊佐市）【直】

ソフト施策


実施日：平成28年11月23日
コメント：曽木の滝公園多目的広場から鶴田第一ダムまでには吊り橋もあり、景色や自然を満喫できます。

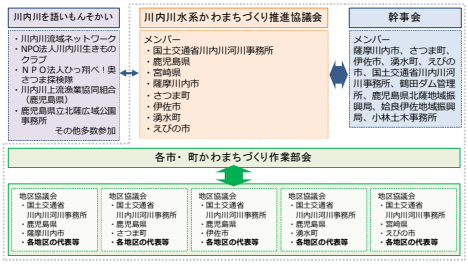
＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

- 整備内容の具体化と並行して、各市町と河川敷地の占用協定について協議していく。

＜参画機関＞

- かわまちづくりの推進体制として、上部組織として、川内川水系かわまちづくり推進協議会を配置し、その下に、各関係機関で組織された幹事会、具体的な内容について協議を行う地区住民代表も参加する地区協議会、作業部会で組織する。川内川で活動する「川内川を語いもんそかい」は、オブザーバー的役割を担う。



＜かわまちの運営（維持管理）＞

- 維持管理については、国、自治体、地域住民、活動団体等の関係機関が役割分担を明確にした中で、協力・協働で維持管理を行う方針とする。

○ 施設の維持管理は、河川法に基づく占用を行い、管理協定を締結し、自治体が主体となって管理を行う。
○ 日常的な施設管理、清掃等については、可能な限り、地域住民、関係団体等により実施する。





川内川曽木の滝周辺区かわまちづくり

川内川水系川内川（鹿児島県伊佐市）【直】

事業実施の効果



曽木の滝周辺は、良好な景観となっているため多くの方が訪れて、鹿児島県北部の重要な観光地となっていますが、安全に壮大な河川景観を観賞する場所等が少なく、利用しにくい状況となっています。



周辺の公園施設と一体となって、水辺に近づきやすい坂路や階段護岸(船着場)等を整備し、アクセス性と利用の際の安全性を高めます。曽木の滝を基軸とした観光振興・地域の活性化が図られることが期待されます。

指標名　地域のコメント

- ＤＭＯ協議会等により曽木の滝周辺では、民間事業者も含めた様々な整備や活性化を検討しており、曽木の滝周辺かわまちづくりにも期待している。
- 鶴田ダム湖面地区の整備ともあわせて地域活性化を図っていきたい。

事業実施の効果



ダム湖の遊覧が行われている。



階段等の整備により利用が促進

指標名　イベント参加者数

階段等の整備によりダム湖遊覧等のイベント増加が図られる
⇒イベント参加者数把握

事業実施の効果



周辺には曽木の滝が位置している。



相乗効果により曽木の滝公園利用者増加が図られる。

指標名　曽木の滝公園利用者数

地域の魅力が増加することによる相乗効果
⇒曽木の滝公園利用者数把握

川内川曽木の滝周辺区かわまちづくり

川内川水系川内川（鹿児島県伊佐市）【直】

ソフト施策



実施日：平成28年11月25日～26日
コメント：曽木の滝公園のもみじ祭りの時期に遊覧船が運航され、湖面から曽木発電所遺構を間近に見ることができ、人気です。



実施日：令和4年10月30日
コメント：曽木の滝分水路も景観を楽しめるコースになっており、健康増進にも寄与しています。

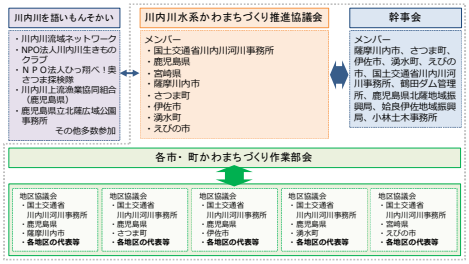
＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

- 伊佐市と河川敷地の占用協定について協議していく。

＜参画機関＞

- かわまちづくりの推進体制として、上部組織として、川内川水系かわまちづくり推進協議会を配置し、その下に、各関係機関で組織された幹事会、具体的な内容について協議を行う地区住民代表も参加する地区協議会、作業部会で組織する。川内川で活動する「川内川を語いもんそかい」は、オブザーバー的役割を担う。



＜かわまちの運営（維持管理）＞

- 維持管理については、国、自治体、地域住民、活動団体等の関係機関が役割分担を明確にした中で、協力・協働で維持管理を行う方針とする。

○ 施設の維持管理は、河川法に基づく占用を行い、管理協定を締結し、自治体が主体となって管理を行う。
○ 日常的な施設管理、清掃等については、可能な限り、地域住民、関係団体等により実施する。



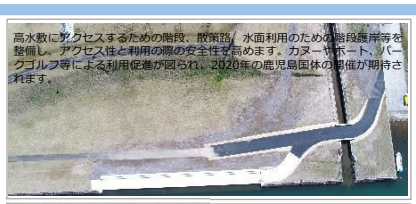


湯之尾地区かわまちづくり

川内川水系川内川（鹿児島県伊佐市）【直】

事業実施の効果





指標名　地域のコメント

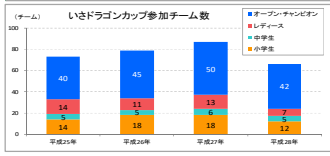
- パークゴルフやカヌーに利用しやすい。
- 景色もよいし、ゴミも少ない。
- 小さい子から家族までゆっくり過ごせる。
- 自然豊かである。

事業実施の効果





指標名　いさドラゴンカップ参加チーム



毎年多くのチームが参加！

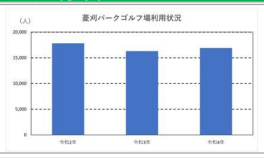
出典:いさドラゴンカップ公式サイト

事業実施の効果





指標名　パークゴルフ利用者数



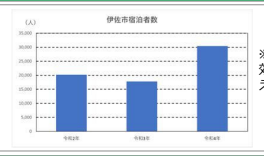
出典:統計いさ（令和5年度版）

事業実施の効果





指標名　伊佐市 宿泊者数



※カヌー合宿、大会等の効果もあり、宿泊客も増えています

出典:統計いさ(令和5年度版)

事業実施の効果





かごしま国体、SAGA国スポカヌー競技の会場として利用

指標名　川内川流域市町全体の観光客数の増加

効果（データ収集方法）

- かごしま国体、SAGA国スポを契機に、将来的にも継続的な県内外の交流が見込まれる。
- スポーツ交流乗じて、地域PRによる観光客の増加。
  →スポーツ交流による人数の把握
  周辺観光施設などの観光客数の推移把握

湯之尾地区かわまちづくり

川内川水系川内川（鹿児島県伊佐市）【直】

ソフト施策



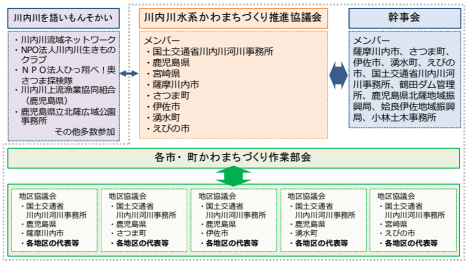
実施日：平成28年5月1日（伊佐市ドラゴンボートレース実行委員会）
コメント：毎年ゴールデンウィーク期間中に開催。川内川に設けられた250mのコースを、１チーム10人の選手たちが速さを競い合う。



実施日：令和元年12月（毎年12月頃に実施）
コメント：毎年12月頃に開催。九州からカヌーの競技者が集まり大規模なカヌー合宿が開催されている。

＜参画機関＞

- かわまちづくりの推進体制として、上部組織として、川内川水系かわまちづくり推進協議会を配置し、その下に、各関係機関で組織された幹事会、具体的な内容について協議を行う地区住民代表も参加する地区協議会、作業部会で組織する。川内川で活動する「川内川を語いもんそかい」は、オブザーバー的役割を担う。



＜かわまちの運営（維持管理）＞

- 維持管理については、国、自治体、地域住民、活動団体等の関係機関が役割分担を明確にした中で、協力・協働で維持管理を行う方針とする。

○ 施設の維持管理は、河川法に基づく占用を行い、管理協定を締結し、自治体が主体となって管理を行う。
○ 日常的な施設管理、清掃等については、可能な限り、地域住民、関係団体等により実施する。





＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

- 整備が終了した箇所については、伊佐市が占用し、管理を行っている。

轟地区かわまちづくり【完】

川内川水系川内川（鹿児島県湧水町）【直】

事業実施の効果



高水敷は、凸凹があるなど、人々が安全に利用しにくい状況となっています。



安全な河川利用、カヌー競技を行うための階段護岸や散策路等を整備し、利用の際の安全性を高めます。

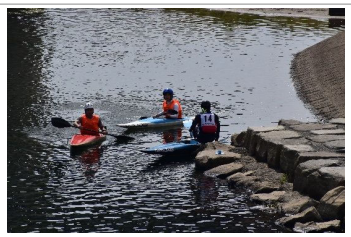
指標名　地域のコメント

- カヌーを利用する際に、安全に水辺で乗り降りできたらいい。
- かごしま国体のカヌースラローム・ワイルドウォーターの会場になっていることから、国体を契機に多くの人々が安全に利用できるコースになればよい。

事業実施の効果

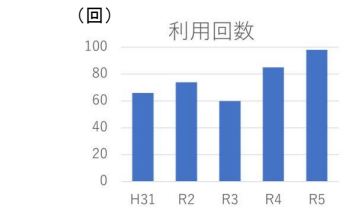


カヌー競技が行われている。



散策路、階段等の整備により利用が促進

指標名　カヌー競技利用回数



事業実施の効果





指標名　カヌー競技利用人数



轟地区かわまちづくり【完】

川内川水系川内川（鹿児島県湧水町）【直】

ソフト施策

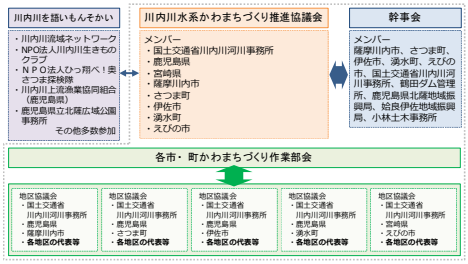


＜水辺空間の利活用状況＞
○かわまち計画範囲内の占用許可状況

- 整備が終了した箇所については、湧水町が占用し、管理を行う。

＜参画機関＞

- かわまちづくりの推進体制として、上部組織として、川内川水系かわまちづくり推進協議会を配置し、その下に、各関係機関で組織された幹事会、具体的な内容について協議を行う地区住民代表も参加する地区協議会、作業部会で組織する。川内川で活動する「川内川を語いもんそかい」は、オブザーバー的役割を担う。



＜かわまちの運営（維持管理）＞

- 維持管理については、国、自治体、地域住民、活動団体等の関係機関が役割分担を明確にした中で、協力・協働で維持管理を行う方針とする。

○ 施設の維持管理は、河川法に基づく占用を行い、管理協定を締結し、自治体が主体となって管理を行う。
○ 日常的な施設管理、清掃等については、可能な限り、地域住民、関係団体等により実施する。





湯田地区かわまちづくり【完】

川内川水系川内川（宮崎県えびの市）【直】

事業実施の効果



広い高水敷は、スポーツやレクリエーション広場等による利用が期待されていますが、高水敷の凹凸や草の繁茂により、広場として利用しにくい状況となっていると共に、安全に水辺にアクセスしにくい状況となっています。

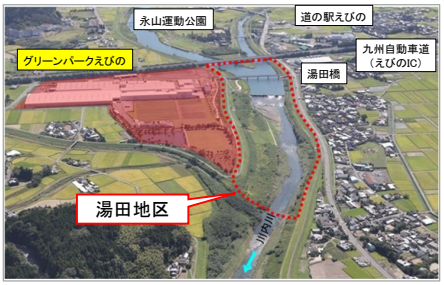


水辺に近づきやすい階段護岸、散策路や広場等を整備し、利用の際の安全性を高めます。グリーンパークえびのと一体となった賑わいのある水辺空間の形成が図られることが期待されます。

指標名　地域のコメント

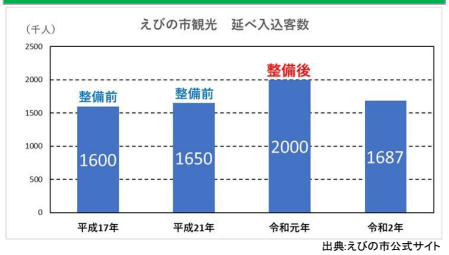
・かわまちづくりには大変期待を寄せており、近隣の道の駅や運動公園とも連携しながら、えびの市の活性化につなげていきたい。

事業実施の効果



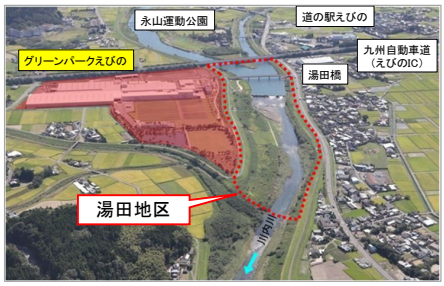


指標名　えびの市の観光客の増



出典:えびの市公式サイト

事業実施の効果





指標名　「道の駅えびの」の来場者

祝！800万人達成！

・道の駅えびのは、平成25年4月20日に開駅し、令和7年9月21日で来場者数800万人を達成。

湯田地区かわまちづくり【完】

川内川水系川内川（宮崎県えびの市）【直】

ソフト施策



えびの市消防出初め式：毎年1月



宮日キッズサッカー大会：毎年2月



環境学習活動：適宜



お米クエスト：毎年11月

＜参画機関＞

・地域住民、関係団体、地元行政、河川管理者で構成する意見交換の場として、平成24年10月から「えびのかわまちづくり協議会」を地元住民主導で設置。





＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・整備が終了した箇所についてはえびの市が占用し、管理を行う。

＜かわまちの運営（維持管理）＞

・施設の維持管理は、関係機関と協定を締結し、地域住民やこの場を利用する企業等による管理を行う。
・日常的な施設管理、清掃等については地域住民、企業等により実施する。

地元企業による
清掃活動



天辰地区かわまちづくり

事業実施の効果



洪水を起こりにくくする工事を行っていることで広大な高水敷が生まれてきていますが、その場所は荒れ地となっており、スポーツや散策など安全に利用できない状況となっています。



管理用通路等の整備を行うことで、川内川へのアクセスが容易となり、河川利用の安全性が確保される。また、高水敷をグラウンドや公園として整備することにより、様々なスポーツや市民の憩いの場として有効活用が図られることが期待される。

指標名　地域のコメント

・改修事業により広大な河川敷が生まれるため、活用していきたい。
・河川敷が整備されれば、少年野球の練習やイベント等で幅広い利用をしていきたい。
・様々なイベントの会場として利活用し、川に親しめる空間づくりと地域活性化していきたい。

事業実施の効果

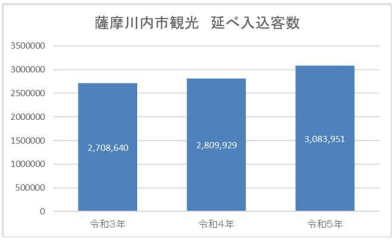


引堤工事により広大な空間が創出される。



川内川の水辺は、九州各地から集った人々の観客席となって埋め尽くされる。

指標名　薩摩川内市観光客



出典:統計さつませんだい(R6年度版)

天辰地区かわまちづくり

川内川水系川内川（鹿児島県薩摩川内市）【直】

ソフト施策



毎年新春恒例行事として、川内川河川敷で薩摩川内市消防出初式が開催。1年の無火災を祈念して一斉放水で出初式を締めくくる。



川内川河川敷に掲げられた鯉のぼりの下で、太鼓やフラダンスのステージショーやフリーマーケット等の様々なイベントが行われる。



毎年、地元の企業や市民、高校生のチームが多数参加する対抗戦を行うほか、4年に一度行われる早稲田大、慶応大による伝説の慶応戦は、大変見どころがあり、多くの人で賑わっている。



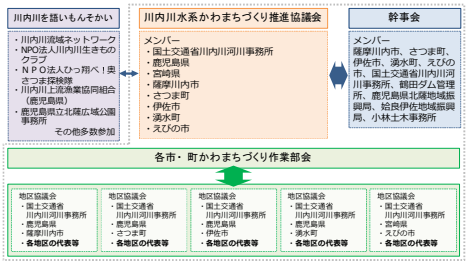
九州でも指折りの川内川花火大会は、毎年８月に行われ、約８万人の人出で賑わう。

＜水辺空間の利活用状況＞
○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・整備内容の具体化と並行して、薩摩川内市と河川敷地の占用協定について協議していく。

＜参画機関＞

・かわまちづくりの推進体制として、上部組織として、川内川水系かわまちづくり推進協議会を配置し、その下に、各関係機関で組織された幹事会、具体的な内容について協議を行う地区住民代表も参加する地区協議会、作業部会で組織する。川内川で活動する「川内川を語いもんそかい」は、オブザーバー的役割を担う。



＜かわまちの運営（維持管理）＞

・維持管理については、国、自治体、地域住民、活動団体等の関係機関が役割分担を明確にした中で、協力・協働で維持管理を行う方針とする。

○ 施設の維持管理は、河川法に基づく占用を行い、管理協定を締結し、自治体が主体となって管理を行う。
○ 日常的な施設管理、清掃等については、可能な限り、地域住民、関係団体等により実施する。





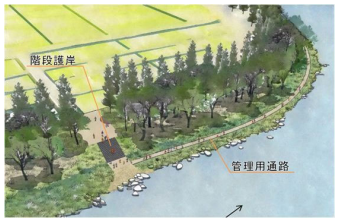
時吉地区かわまちづくり

川内川水系川内川(鹿児島県さつま町)【直】

事業実施の効果



散策道は草地になっている安全に川の中に下りられる状況となっていない。



散策路、階段護岸等を整備することで周辺の利用促進が図られる。

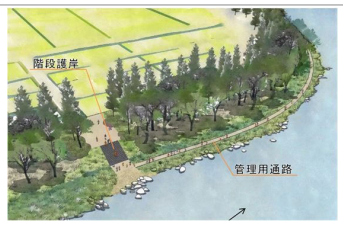
指標名　地域のコメント

- 新たなホタルを鑑賞するスポットとなり、ホタル観賞の安全性の確保や促進が図られることが期待される。
- また、近傍の「ちくりん館（物産館）」や「水辺の楽校」、温泉施設等と連携することで、地域の豊富な資源を組み合わせた観光メニューづくりが期待される。 今後、川とのつながりを一層深めることにより、より良いまちづくりにつなげていきたい！

事業実施の効果



ちくりん館（物産館）が隣接している。



散策路、階段護岸等を整備することで周辺の利用促進が図られる。

指標名　ちくりん館利用者数

効果（データ収集方法）

隣接するちくりん館との相乗効果
⇒ちくりん館利用者数把握

時吉地区かわまちづくり

川内川水系川内川(鹿児島県さつま町)【直】

ソフト施策



実施日：平成28年1月1日
コメント：昭和29年に当時の宮之城高校水泳部が泳いで依頼の風物詩です。



実施日：平成28年8月21日
コメント：ＮＰＯ法人ひっ翔べ奥さつま探検隊が主催する川遊び体験。



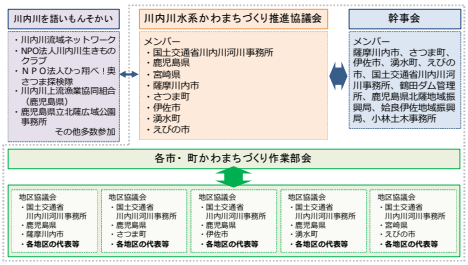
実施日：平成28年8月21日
コメント：ＮＰＯ法人ひっ翔べ奥さつま探検隊が主催する川遊び体験。

＜水辺空間の利活用状況＞
○かわまち計画範囲内の占用許可状況

- 整備内容の具体化と並行して、各市町と河川敷地の占用協定について協議していく。

＜参画機関＞

- かわまちづくりの推進体制として、上部組織として、川内川水系かわまちづくり推進協議会を配置し、その下に、各関係機関で組織された幹事会、具体的な内容について協議を行う地区住民代表も参加する地区協議会、作業部会で組織する。川内川で活動する「川内川を語いもんそかい」は、オブザーバー的役割を担う。



＜かわまちの運営（維持管理）＞

- 維持管理については、国、自治体、地域住民、活動団体等の関係機関が役割分担を明確にした中で、協力・協働で維持管理を行う方針とする。
  - ○ 施設の維持管理は、河川法に基づく占用を行い、管理協定を締結し、自治体が主体となって管理を行う。
  - ○ 日常的な施設管理、清掃等については、可能な限り、地域住民、関係団体等により実施する。



阿波渓谷地区かわまちづくり

川内川水系川内川（鹿児島県湧水町）【直】

事業実施の効果



現状では人々が安全に河川へアクセスできない状況であり、親水利用しにくい状況となっています。



階段を整備することで安全な親水利用の促進が図られる。また、町の拠点施設整備と連携して、水を活かした観光地づくりの推進が期待される。

指標名　地域のコメント

- カヌーを利用する際に、安全に水辺で乗り降りできたらいい。
- かごしま国体のカヌースラローム・ワイルドウォーターの会場になっていることから、国体を契機に多くの人々が安全に利用できるコースになればよい。

事業実施の効果



秋の景観（紅葉）



階段等の整備により利用が促進

指標名　阿波渓谷 来訪者数

効果（データ収集方法）

階段等の整備により利用増加が図られる。
⇒阿波渓谷来訪者数の把握

阿波渓谷地区かわまちづくり

川内川水系川内川（鹿児島県湧水町）【直】

ソフト施策





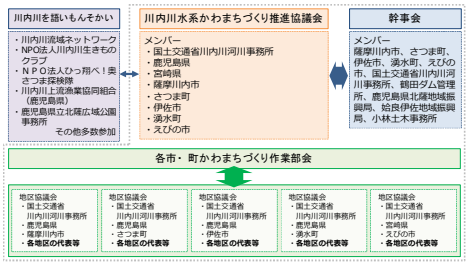


＜水辺空間の利活用状況＞
○かわまち計画範囲内の占用許可状況

- 整備内容の具体化と並行して、湧水町と河川敷地の占用協定について協議していく。

＜参画機関＞

- かわまちづくりの推進体制として、上部組織として、川内川水系かわまちづくり推進協議会を配置し、その下に、各関係機関で組織された幹事会、具体的な内容について協議を行う地区住民代表も参加する地区協議会、作業部会で組織する。川内川で活動する「川内川を語いもんそかい」は、オブザーバー的役割を担う。



＜かわまちの運営（維持管理）＞

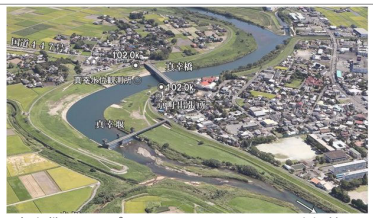
- 維持管理については、国、自治体、地域住民、活動団体等の関係機関が役割分担を明確にした中で、協力・協働で維持管理を行う方針とする。
  - ○ 施設の維持管理は、河川法に基づく占用を行い、管理協定を締結し、自治体が主体となって管理を行う。
  - ○ 日常的な施設管理、清掃等については、可能な限り、地域住民、関係団体等により実施する。



京町温泉地区かわまちづくり

川内川水系川内川（宮崎県えびの市）【直】

事業実施の効果



広い高水敷は、スポーツやレクリエーション広場等による利用が期待されていますが、高水敷の凹凸や草の繁茂により、広場として利用しにくい状況となっていると共に、安全に水辺にアクセスしにくい状況となっています。



高水敷整正、階段護岸、管理用通路等の整備を行うことで、高水敷利用及び水辺・水面利用時の安全性と快適性が確保され、京町温泉等周辺施設と連携した観光・交流拠点としての河川利用が促進されることが期待される。

指標名　地域のコメント

・かわまちづくりには大変期待を寄せており、近隣の道の駅や運動公園とも連携しながら、えびの市の活性化につなげていきたい。

事業実施の効果





指標名　商店街　来訪者数

・京町温泉地区の背後地には、飲食店や商店が並ぶ京町銀天街という商店街がある。
→商店街を訪れる人の把握

事業実施の効果





指標名　京町温泉の利用者

・京町温泉等周辺施設と連携した観光・交流拠点としての河川利用が促進されることが期待される。
→京町温泉の利用者数の把握

京町温泉地区かわまちづくり

川内川水系川内川（宮崎県えびの市）【直】

ソフト施策



親子でサイクリング：適宜



えびの京町温泉夏祭り花火大会：毎年７月



親子でバーベキュー：適宜



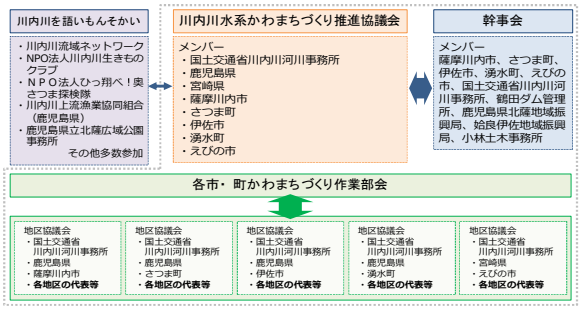
キャンプサイト：通年週末

＜水辺空間の利活用状況＞
○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・整備が終了した箇所については、えびの市が占用し、管理を行う。

＜参画機関＞

・地域住民、関係団体、地元行政、河川管理者で構成する意見交換の場として、令和３年６月３０日「京町温泉地区かわまちづくり推進協議会」を地元住民主導で設置。



＜かわまちの運営（維持管理）＞

・維持管理については、国、自治体、地域住民、活動団体等の関係機関が役割分担を明確にした中で、協力・協働で維持管理を行う方針とする。
- ○ 施設の維持管理は、河川法に基づく占用を行い、管理協定を締結し、自治体が主体となって管理を行う。
- ○ 日常的な施設管理、清掃等については、可能な限り、地域住民、関係団体等により実施する。



入来麓地区かわまちづくり

川内川水系川内川・樋脇川（鹿児島県薩摩川内市）【直・補】

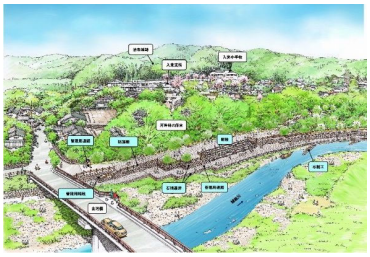
事業実施の効果

現況



・現在でも水生生物調査などで川を用いたイベントはしているが、安全に川におりる階段等がない。

整備イメージ



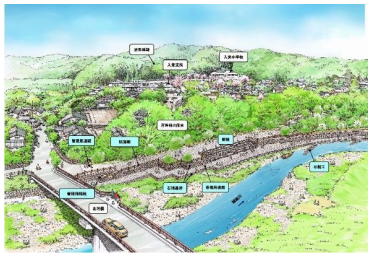
・河川管理用通路（散策路）や親水性階段が整備されることで、安全に川に親しめる空間が生まれ、様々な利用が期待される。

指標名　地域のコメント

・改修事業により河川に親水性が生まれるため、様々なイベントに活用したい。（地元住民）

・散策路や親水階段が整備されると、安全に利用できることから学校の課外授業等で使用したい。（学校関係者）

事業実施の効果

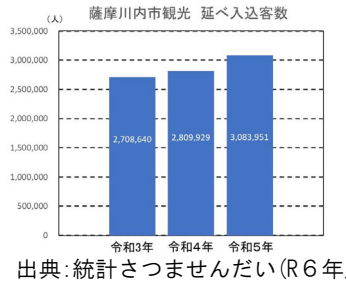


・環境整備事業により樋脇川が、これまで以上に親しみやすい川となる。



・樋脇川（川内川水系）の水辺は、地域住民はもとより全国から集まる観光客で埋め尽くされる。

指標名　薩摩川内市観光客



出典：統計さつませんだい（R６年度版）

入来麓地区かわまちづくり

川内川水系川内川・樋脇川（鹿児島県薩摩川内市）【直・補】

ソフト施策

サムライツーリズム（通年）



本格的な甲冑姿に変身や着物での散策、量コースターや竹箸づくり体験など、いにしえの日本文化を楽しめます。

入来麓タイムトラベル（毎年10月）
入来麓伝建地区協議会主催



国の重要文化財「旧増田家住宅」で、時空を超えた薩摩琵琶などの和洋弦楽の饗宴会が行われます。

薩摩川内サムライアカデミア～入来麓絵巻～
「清色城跡」国指定20周年記念イベント



麓歩きや各種ステージイベントで入来麓を堪能できます。

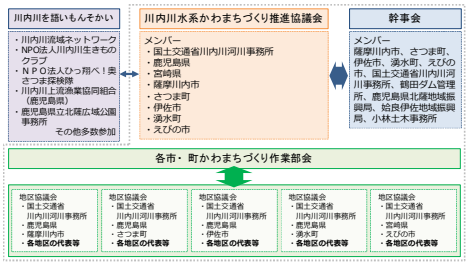
ひな祭りスタンプラリー（2月～3月）



市内各所にひな人形を飾り、参加者でスタンプラリーをするイベント。「旧増田家住宅」にも沢山のひな人形が飾られます。

＜参画機関＞

• かわまちづくりの推進体制として、上部組織として、川内川水系かわまちづくり推進協議会を配置し、その下に、各関係機関で組織された幹事会、具体的な内容について協議を行う地区住民代表も参加する地区協議会、作業部会で組織する。川内川で活動する「川内川を語いもんそかい」は、オブザーバー的役割を担う。



＜水辺空間の利活用状況＞
○かわまち計画範囲内の占用許可状況

•整備内容の具体化と並行して、薩摩川内市と河川敷地の占用協定について協議していく。

＜かわまちの運営（維持管理）＞

• 維持管理については、国、自治体、地域住民、活動団体等の関係機関が役割分担を明確にした中で、協力・協働で維持管理を行う方針とする。
- ○ 施設の維持管理は、河川法に基づく占用を行い、管理協定を締結し、自治体が主体となって管理を行う。
- ○ 日常的な施設管理、清掃等については、可能な限り、地域住民、関係団体等により実施する。



【H28年度】

「吾平地区かわまちづくり」（鹿児島県鹿屋市）

登録年月日：H29.3.7
事業年度：H30～R8

対象河川　：　一級河川　肝属川水系姶良川　【国管理河川】
市町村名　：　鹿児島県鹿屋市
推進主体　：　鹿屋市



1. 概要

- 姶良川で活動する住民団体や地域住民と連携し、姶良川の水辺拠点として「かわづくり」を進め、周辺に位置する温泉施設、桜並木やサイクリングロード等の地域資源を最大限に活かした「まちづくり」と一体となって、地域活性化を図ります。
- カヌー利用や近隣の小中学校では姶良川で環境学習を実施していることから、ハード整備によるアクセス性の向上を図ることにより、河川空間の利便性の向上及び利用者の安全性の確保と適切な河川管理の円滑化を図ります。

国土交通省では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備のほか、河川空間において営利活動を実施する場合には、河川敷地占用許可準則第22に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

〇国交省：高水敷整正（張芝）、階段護岸、塵芥荷揚場、管理用通路（坂路工）、階段工
〇鹿屋市：水道、電源確保、東屋、ベンチ、案内サイン、誘導サイン

3. ソフト施策の内容

〇鹿屋市：美里あいら夏祭り



吾平地区かわまちづくり【完】

肝属川水系姶良川（鹿児島県鹿屋市）【直】

事業実施の効果





指標名
隣接する湯遊ランドあいらとの相乗効果

効果（データ収集方法）
- 周辺施設と連携したイベントを開催するなど、水辺整備による地域活性化の相乗効果を図る

⇒水辺利用者の把握とともに、湯遊ランドあいらの集客数の推移把握

事業実施の効果





指標名
カヌー利用者の増加
イベント集客数の増加

効果（データ収集方法）
- 安全なカヌー乗り場、安全な階段護岸の整備により、水辺空間のにぎわいを創出する

⇒カヌー利用者やイベント数及び集客数の推移把握

事業実施の効果





指標名
拠点広場利用者数の増加

効果（データ収集方法）
- サイクリングロード利用者の休息場、及び水辺利用の空間を創出

⇒サイクリング利用者数、水辺利用者数の推移把握

吾平地区かわまちづくり【完】

肝属川水系姶良川（鹿児島県鹿屋市）【直】

<ソフト施策>

○鹿屋市：美里あいら夏祭り

- 鹿屋市吾平町で開催される一大イベント。姶良川から3000発が打ち上げられ、川面に美しく映る。また、メッセージと共に披露されるメモリアル花火も登場し、会場には約30店の夜店も出される。

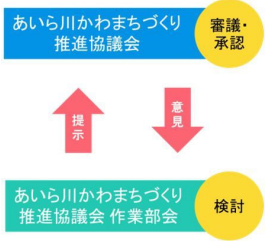


<参画機関>

- 地域住民や鹿屋市、姶良川の管理者である国土交通省等から構成される「姶良川かわまちづくり推進協議会・作業部会」を中心として、鹿屋市の「まちづくり」と姶良川の「かわづくり」が一体となり、姶良川を軸とした地域活性化や地域交流の促進、治水安全度や河川空間利用者の安全性の向上を目的として、様々な議論を行っている。

○今後の展望

- 「あいら川かわまちづくり推進協議会」にて利活用計画・維持管理計画について議論していく予定であり、利活用推進組織となる「かわまちづくり実行委員会」にて水辺や河川敷を活かしたイベント開催の企画が行われている。



<水辺空間の利活用状況>

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

- 整備内容の検討と並行して、鹿屋市と河川敷地の占用協定について協議中。

○今後の展望

- 地域活動団体や商工会議所など、関係機関と連携して、利活用方法について検討および実現化に向けた活動を実施予定。
- 周辺の民間業者との連携についても、検討を実施中。

<かわまちの運営（維持管理）>

- 施設の維持管理については、鹿屋市が占用を行い、主体となって管理を行う。
- 日常的な施設管理、清掃等については、地域住民、関係団体等により、実施するものとする。
- 現在でも、「姶良川河川愛護会」により、河川の美化を目的とした河川の清掃が行われている。



【H28年度】近代化産業遺産と一体感のあるかわまちづくり

「諏訪川かわまちづくり」（福岡県大牟田市）

登録年月日：H.29.3.7
事業年度：H29～R6

対象河川　：　2級河川　諏訪川水系諏訪川　【県管理河川】
市町村名　：　福岡県大牟田市
推進主体　：　福岡県、大牟田市



1. 概要

当該地区周辺は、福岡県の近代化遺産である三井港倶楽部などの産業遺産が多く点在し、三池港を核とした地域振興に取り組まれています。平成27年7月に「明治日本の産業革命遺産　九州・山口と関連地域」（23施設）として、ユネスコ（国連教育科学文化機関）として世界遺産に登録され、益々、地域の産業遺産が脚光を浴びています。

そのような中、諏訪川護岸整備により、石炭産業遺産における近代化遺産（産業遺産）と調和した景観整備を行い、まちづくりと一体となって河川利用を促進を図ります。

2. ハード施策の内容

福岡県　：　修景護岸、管理用通路の整備

3. ソフト施策の内容

大牟田市　：　情報発信、案内板設置　など



諏訪川かわまちづくり

諏訪川水系諏訪川（福岡県大牟田市）【補】

革命浪漫をさがして 諏訪川へGO!

事業実施の効果





「明治日本の産業革命遺産」として三池炭鉱（宮原抗、専用鉄道敷跡等）三池港がユネスコの世界文化遺産に登録され、世界的に脚光を浴びているところであり、大牟田市では石炭産業科学館を情報発信拠点として近代化産業遺産巡りを中心とした観光に力を入れています。
　近代化産業遺産と調和した景観整備により水辺空間の魅力を高めていきます。

諏訪公園の利用者数

事業実施の効果





【データの集計方法】
　石炭産業科学館の利用者数について、市が調査を実施し、経年変化を把握します。

諏訪川かわまちづくり

諏訪川水系諏訪川（福岡県大牟田市）【補】

ソフト施策

●諏訪神社　大蛇山の巡行



●港まつり　ランタンフェスタ



●はやめカッパ祭り



●なの花まつり



＜参画機関＞

・「おおむた環境ネットワーク」
・「関川・諏訪川流域会議」
・「駛馬校区社会福祉協議会」
・地元自治会、小中学校等

○今後の展望
・上記市民団体等と連携し、地域で一体となった体制でかわまちづくりを推進する。

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況
　・位置づけておらず、今後の予定もない。

○今後の展望
　・位置づけておらず、今後の予定もない。

＜かわまちの運営（維持管理）＞

・施設の維持管理や補修は、当該施設の管理者が行う。
　：修景護岸・管理用通路（福岡県）
　：案内板（大牟田市）

・施設の日常的な清掃等については、地元自治会や市民団体と大牟田市が協働して行う。

【H29年度】散策で、新発見、新体験、高良川！

「高良川かわまちづくり」（福岡県久留米市）

登録年月日：H30.3.26
事業年度：H30～R13

対象河川　：　1級河川　筑後川水系高良川　【県管理河川】
市町村名　：　福岡県久留米市
推進主体　：　福岡県、久留米市



1. 概要

久留米市では、「訪れてみたい」、「住んでみたい」と感じてもらえるまちづくりを進めるため、「ほとめき（おもてなし）」「歩きたくなる」「元気になる」まち久留米という3つの「目指す観光のまち像」を掲げ取り組んでいます。

この取組を充実させるため、本計画では、管理用通路及び遊歩道の整備を実施し、日常利用者の利便性向上、イベントにおける参加者の満足度向上と誘客促進、観光における周遊性の向上と沿川観光施設等への来訪者の誘導を図ります。

福岡県では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備を実施していきます。

2. ハード施策の内容

福岡県　：　河川管理用通路、低水護岸の整備

3. ソフト施策の内容

久留米市　：　案内板設置、イベント（ウォーキング大会、ライトアップ等）の実施



高良川かわまちづくり

筑後川水系高良川（福岡県久留米市）【補】

事業実施の効果

整備前の写真



整備イメージ



水辺空間の魅力向上

筑後川防災施設くるめウスや近隣商業施設の来客者にとって、高良川下流域については、散策路等が整備されています。県管理区間についても景観整備により上流部親水公園のように水辺空間の魅力を高めていきます。

事業実施の効果

案内看板整備（イメージ）



有用な情報提供によるまちの回遊性の向上



イベント参加者数

【データの集計方法】

つつじマーチやもみじ狩り等の参加者数について、市が調査を実施し、経年変化を把握します。

高良川かわまちづくり

筑後川水系高良川（福岡県久留米市）【補】

ソフト施策

久留米つつじマーチ



久留米つつじマーチは、久留米市最大のスポーツコンベンションとして、全国から1万5千人超が参加し久留米市の魅力を満喫するウォーキングイベント。5キロ、10キロ、20キロ、40キロに分けてコースが設定されるが、かわまちづくり計画区間は全コースのルートとなっています。しかし、パンフレットに「道幅がせまいので１列で歩こう」と注意喚起がされている状況です。

高良川彼岸花まつり



9種７万本の彼岸花を竹灯籠でライトアップされ、幻想的な秋の夕べを楽しむことができます。

○今後の展望

・筑後川防災施設くるめウスを訪れるこどもからお年寄りや近隣商業施設を訪れる若者等が久留米百年公園や高良川の下流域を訪れています。その上流の県が管理する高良川区間へ水辺空間を楽しみながら散策することで、中央公園や美術館の来客者を県が管理する高良川区間へ誘導し、新たな散策路の発見や、染物体験が出来ることを知ってもらいます。

・久留米市内の小・中・特別支援学校の生徒は、筑後川防災施設くるめウスでの体験的な活動を通して、地域の「ひと・もの・こと」との関りを深めながら、これから自分たちが地域に対してできることを考え、発信していきます。

・市内居住者や市内に勤務・通学する人を対象に久留米つつじマーチや高良山もみじ狩りなどを通して、地元に魅力ある散策コースがあることを発信していきます。

<水辺空間の利活用状況>

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・位置づけておらず、今後の予定もない。

<参画機関>

・久留米観光コンベンション国際交流会
・久留米つつじマーチ実行委員会
・つつじマーチ協賛企業
・河川愛護団体

○今後の展望

・上記団体や民間事業者などと連携し、地域一体となった体制で「サイクリングとウォーキングが似合うかわまちづくり」を推進します。

<かわまちの運営（維持管理）>

・施設の維持管理や補修は施設管理者が行い、日常的な清掃は地元自治体や市民団体と久留米市が協働して実施します。

福岡県：遊歩道、管理用通路（市道兼用部分以外）、護岸
久留米市：案内板、日常の清掃活動、管理用通路（市道兼用部分）
市民団体ほか：日常の清掃活動

市民や市民団体との協働による河川環境の保全



【H29年度】

「嘉瀬川ダム地区かわまちづくり」（佐賀県佐賀市）

登録年月日：H.30.3.26
事業年度：R1～R9

対象河川　：　一級河川　嘉瀬川水系嘉瀬川　【国管理河川】

市町村名　：　佐賀県佐賀市

推進主体　：　佐賀市



1. 概要

嘉瀬川ダムでは、ダム湖面を利用したボート競技、湿性地を利用した環境学習、マラソン大会等の様々なイベントが実施されています。
また、嘉瀬川ダム水源地域ビジョンに掲げる方針「人々が集うふるさとづくり」として、湖面利用の活性化や促進・普及、「美しいふるさとづくり」として、水源地域の景観、環境の保全を図りつつ、人々の交流・地域活性化に取り組んでいます。

本計画では、艇庫や河川管理用通路等が連携した水辺空間を整備することにより、利用者の利便性、安全性を確保し、水上競技やイベント等における利用者を増加させ、地域間交流の拡大及び地域活性化を図っております。
近年では令和6年9月から10月にかけて、国民スポーツ大会（国スポSAGA2024）のカヌー、ローイング競技会場としても活用され、競技風景等を見ようと約1万2,000人の来場がありました。
国土交通省では、必要な河川管理施設の整備のほか、河川空間において営利活動を実施する場合には、河川敷地占用許可準則第22に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　管理用通路、法面保護工　等　　佐賀市　：　艇庫、駐車場、展望広場、浮き桟橋　等

3. ソフト施策の内容

国土交通省　：　都市・地域再生等利用区域の指定　等　　佐賀市　：　艇庫企画運営、案内板設置　等



嘉瀬川ダム地区かわまちづくり【完】

嘉瀬川水系嘉瀬川（佐賀県佐賀市【直】

人々が集う美しい富士しゃくなげ湖

整備効果



水際は浸食により段差が生じ、水面へのアプローチが困難な状況。



水辺整備により、利便性、安全性及び快適性が確保され、更なる利活用が期待される。

地域（利用効果）

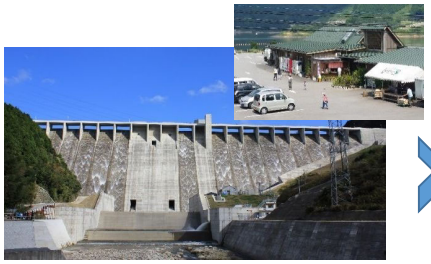


ダム湖面では、ボート競技や体験会が開催されている。



整備により、イベントや利用者数の増加が期待できる。

地域（経済効果）



周辺には、嘉瀬川ダムと富士しゃくなげの里（ダムの駅）が位置している。



ダム見学・富士しゃくなげの里（ダム駅）の利用者の増加が期待できる。

地域のコメント

・この整備が核となり、ダム湖周辺を含めた利活用が広がることに期待します。
・利用者が増えることによって、人々の交流や地域活性化に繋がることを期待します。

指標名　イベント参加者数

効果（データ収集方法）

・水辺整備により、ダム湖面を利用したボート競技大会やカヌー体験等のイベント増加が図られる。
　⇒ イベント参加者数把握

指標名　嘉瀬川ダム・ダム駅の利用者数

効果（データ収集方法）

・ダム湖面を利用したイベント等増加の相乗効果
　⇒嘉瀬川ダム見学者数把握

・ダム利活用の魅力が増加することによる相乗効果
　⇒ダムの駅来場者数把握

嘉瀬川ダム地区かわまちづくり【完】

嘉瀬川水系嘉瀬川（佐賀県佐賀市【直】

ソフト施策



カヌー、ボートの体験学習



ボート競技



実業団選手と地元学生の交流



ボート合宿

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・湖面については佐賀市が占用している。
・整備箇所についても、佐賀市にて占用している。

＜参画機関＞

・かわまち計画策定にあたっては、「嘉瀬川ダム利活用推進協議会」において、意見交換、検討を進めることとしている。



R４高校総体　カヌー競技大会（R4. 5. 28～29）

＜かわまちの運営（維持管理）＞

・除草、清掃活動については、佐賀市及び利用者と連携し実施していく。
・施設の維持管理については、佐賀市及び国交省が役割分担していく。



【H30年度】

「遠賀川中間地区かわまちづくり」（福岡県中間市）

登録年月日：H31.3.8
事業年度：R3～R12

対象河川　：　一級河川　遠賀川水系遠賀川　【国管理河川】
市町村名　：　福岡県中間市
推進主体　：　中間市



1. 概要

遠賀川中間地区では、フットパスの整備普及のほか、平成27年に世界遺産登録された『遠賀川水源地ポンプ室』を活用し、観光客の誘致や地域活性化に取り組んでいます。

この取組みを充実させるため、本計画では、市内を流れる遠賀川を活用し、まち空間と水辺空間の接続性を高め、NPO団体によるカヌー教室や、民間事業者を誘致し、オープンカフェを設置するなど、河川空間を活用した地域の魅力を図り、観光振興の促進を図ります。

国土交通省では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備のほか、河川空間において営利活動を実施する場合には、河川敷地占用許可準則第22に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　管理用通路、親水護岸　等　　中間市　：　案内看板　等

3. ソフト施策の内容

国土交通省　：　都市・地域再生等利用区域の指定　　中間市　：　フットパスの普及と整備　等



遠賀川中間地区かわまちづくり

遠賀川水系遠賀川（福岡県中間市）【直】

事業実施の効果





指標名　未定

効果

広場から水辺への安全なアクセスと広場の水捌けの悪さ解消のため、高水敷整正を行いました。また、周囲には散策路、水際には親水護岸を整備します。

事業実施の効果





指標名　未定

効果

広場から水辺へ安全に近づけるように、車道を堤防側へ歩道を水際へ整備します。

事業実施の効果





指標名　未定

効果

安全に高水敷が利用できるように、高水敷と遊歩道を整備します。

遠賀川中間地区かわまちづくり

遠賀川水系遠賀川（福岡県中間市）【直】

ソフト施策



コメント：社会実験「月見で乾杯！in遠賀川」、世界遺産前で月を見ながら乾杯イベントを開催



コメント：なかまフットパス
中間市の歴史や自然を楽しみながら歩く観光コースして、毎月第２日曜日に開催



コメント：世界遺産に訪れる観光客



コメント：中間市役所前の河川敷の利用

＜参画機関＞

承認・推進組織

遠賀川かわまちづくり推進協議会　※1

（自治会、NPO法人、商工会、学校関係者、中間市、県土整備事務所、国土交通省）

実践組織

遠賀川かわまちづくり作業部会　※2

（事務局：中間市、国土交通省）

※活動内容に応じて、追加参加が可能

将来的には、周辺自治体、河川美化活動や体験活動等の各団体の参画を期待

※1　遠賀川かわまちづくり推進協議会

- 地域の組織の代表（自治会やNPO法人）、商工会、学校関係者、中間市、県土整備事務所、遠賀川の管理者である国土交通省等から構成した承認・推進組織。
- 遠賀川かわまちづくり推進協議会を拡充させ、中間市域のかわまちづくりを統括する位置づけ。



※2　遠賀川かわまちづくり作業部会

- 整備内容や利活用・維持管理の具体化及び試行等をより実践的に検討する組織を立ち上げる。
- 推進協議会の下部組織として、位置づける。



＜かわまちの運営（維持管理）＞

維持管理に関する協定等を締結する方向で市と調整予定。

＜水辺空間の利活用状況＞
○かわまち計画範囲内の占用許可状況

整備が完了したゾーンから順に、市と占用手続きに向けた調整中。

【H30年度】

「菊池市かわまちづくり」（熊本県菊池市）

登録年月日：H31.3.8
事業年度：R2～R9

対象河川　：　一級河川　菊池川水系迫間川　【国管理河川】
市町村名　：　熊本県菊池市
推進主体　：　菊池市



1. 概要

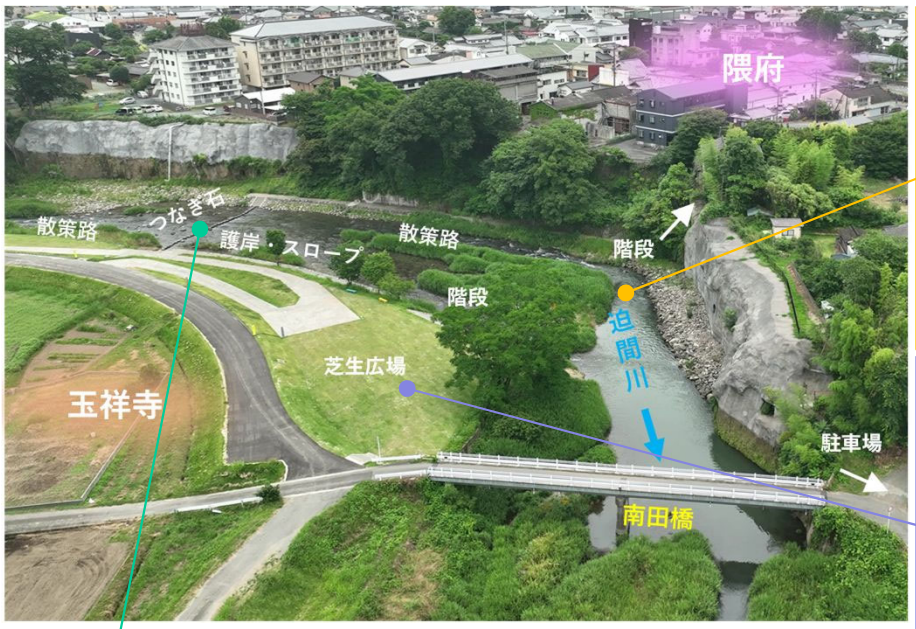
迫間川の本計画区間は、菊池市の中心市街地で、森の中のまちづくり事業や御所通りのまちなかギャラリーなど、まちの賑わいを生み出す取り組みが行われている隈府地区と、花の植栽や祭りを住民主体で行っている玉祥寺地区の間に位置しています。 本計画では、アクセス通路の整備や、河岸沿いの通路整備、高水敷の広場整備や水辺に近づきやすい河岸の整備等により、周辺住民等の日常利用の安全性、利便性の向上及びまちからのアクセス機能向上により観光等の地域活性化を図ります。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　高水敷整正、親水護岸、管理用通路、坂路･階段　等
菊池市　　：　水辺のアクセス階段、高木の一部伐採、桜植栽、案内看板設置　等

3. ソフト施策の内容

菊池市　　：　各種イベントの企画　等









隈府と玉祥寺をつなぐ飛び石、水辺に降りる階段やスロープ、芝生広場を備えた、ホッと心がなごむ空間になりました。

菊池市かわまちづくり【完】

菊池川水系迫間川（熊本県菊池市）【直】

事業実施の効果



河岸には、樹木が繁茂しており、水辺に安全に近づくことが出来ない状況でした。



河岸沿いの散策路を整備することにより、周辺住民の日常利用の安全性、利便性が図られます。

指標名　地域のコメント

川辺の岩に腰掛けて川を眺めると、昔のことを思い出せる。（玉祥寺住民・男性）

事業実施の効果



河岸には、樹木が繁茂しており、水辺に安全に近づくことが出来ない状況でした。



護岸や坂路を整備することにより川へのアクセスが容易となり、川遊びや環境学習など地域の憩いの場として創出します。

指標名　河川空間利用実態調査

効果(グラフ)

河川利用者数を把握する。

菊池市かわまちづくり【完】

菊池川水系迫間川（熊本県菊池市）【直】

ソフト施策





実施日：令和元年８月３日
コメント：菊池川キッズ探検隊（カヌー・水生生物調査・川遊び等）





実施日：令和7年７月２６日
コメント：かわびらきイベント

＜水辺空間の利活用状況＞

・地域住民の参画による迫間川の水辺の活発な利用が行われており、菊池川キッズ探検隊やかわびらき、まちあるき等の様々なイベントも開催されている。

＜参画機関＞

・協議会メンバー、熊本大学、地元住民、学生、関係機関（菊池市）との連携状況を密に行っている。



実施日：令和2年2月20日
コメント：第8回かわまちづくり会議



実施日：令和4年3月23日
コメント：菊池高校とのワークショップ

＜かわまちの運営（維持管理）＞

・イベント開催前には地域住民と協働の維持管理会を開催されている等、整備後も継続的な利用と管理が見込まれる。
・地元の菊池高校に「まちづくり部」を通じて、かわまちづくりに携わってもらい、地域との連携を一層深めていく予定。

【H30年度】

「芹川かわまちづくり」（大分県竹田市）

登録年月日：H31.3.8
事業年度：H31～R11

対象河川　：　一級河川　大分川水系芹川　【県管理河川】
市町村名　：　大分県竹田市
推進主体　：　竹田市



1. 概要

竹田市長湯地区では、古くより湯治場として愛されてきた長湯温泉があり、温泉利用型健康増進施設「クアハウス」の整備や街なみ再整備により温泉施設の周遊性を高め、観光客の誘致に取り組んでいます。

この取組を充実させるため、本計画では、温泉街を流れる芹川を活用した温泉施設周辺の周遊ルートの整備や、親水性を高めるなど、河川空間を活用した地域の魅力の向上を図り、観光振興の促進を図ります。

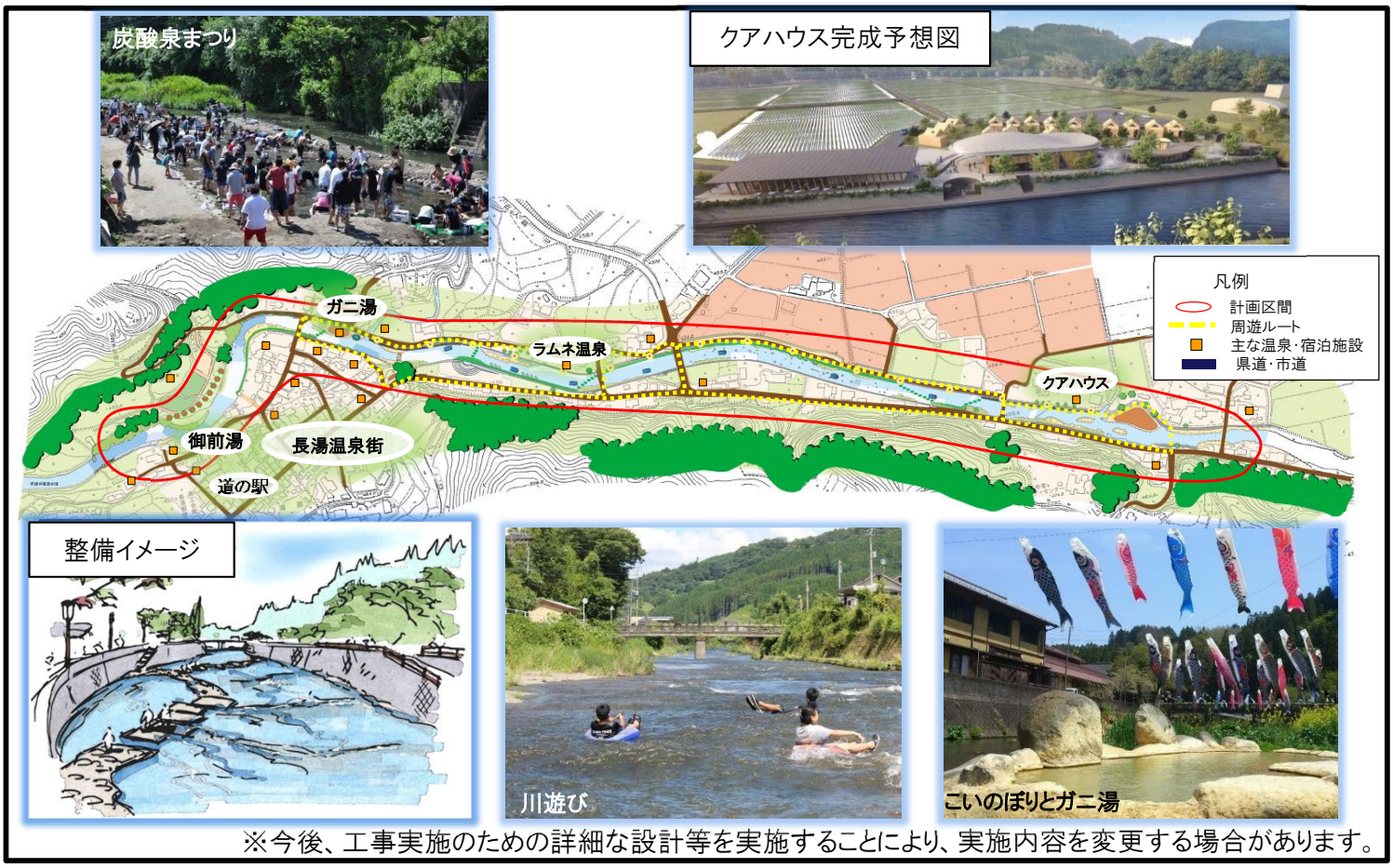
河川管理者である大分県では、この取組に対し、必要な河川管理施設を整備するなど、支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

大分県　：　河川管理用通路、高水敷整正、親水護岸　等
竹田市　：　クアハウス、街路灯、案内看板　等

3. ソフト施策の内容

竹田市　：　パンフレット作成　等



※今後、工事実施のための詳細な設計等を実施することにより、実施内容を変更する場合があります。

芹川かわまちづくり

大分川水系芹川（大分県竹田市）【補】

事業実施の効果

整備前の写真（川に降りれない）



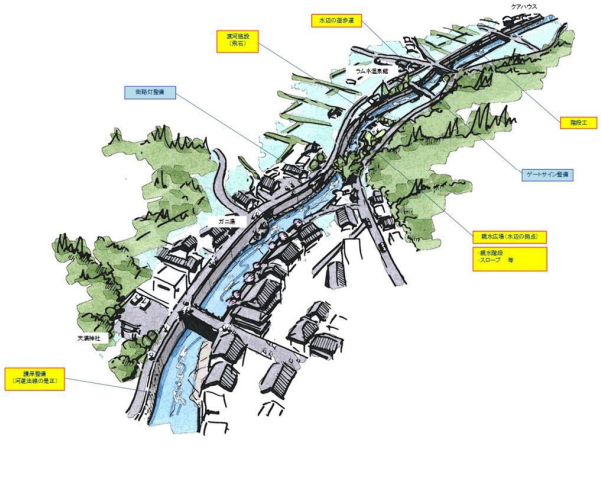
整備前の写真(不連続な管理道)

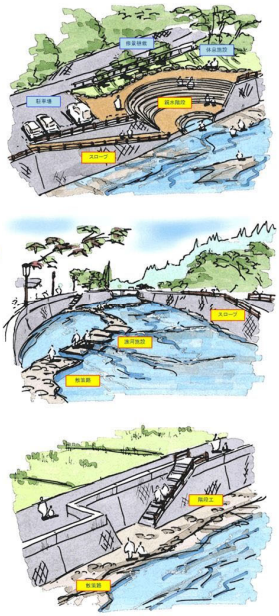


河川内は遊歩道が点在しているが、周遊ができないため近寄らない場所となっている。

整備イメージ

長湯温泉と芹川が一体となり、人が集い・交流するにぎやかな河川敷とする。





指標名　地域別の観光客数

効果（グラフor地域住民や観光客等の声）

・竹田市の統計情報から地域別の観光客数を集計する。

指標名　地域別の人口数

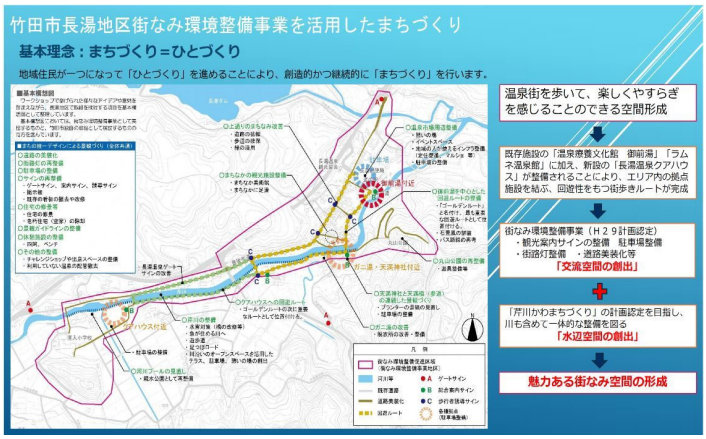
効果（グラフor地域住民や観光客等の声）

・竹田市の統計情報から地域別の人口数を集計する。

芹川かわまちづくり

大分川水系芹川（大分県竹田市）【補】

<ソフト施策>



<参画機関>

・地元住民や竹田市役所、大分県による意見交換会の場として「芹川かわまちづくり検討会」を開催し、地域の意向を踏まえた計画の策定・具体化を行っていく。
・今後の整備や利用についても竹田市役所を中心とし、国や県の関係機関の役割分担や連携をとりながら推進していく。

○検討会
日本文理大学（委員長）
長湯温泉観光協会
長湯温泉旅館組合
長湯温泉飲食組合
大分県漁業協同組合直入支部
九州アルプス商工会
湯ノ原区
栃原自治会
桑畑下自治会
山脇自治会
直入地域を考える若手の会
大分県竹田土木事務所
竹田市直入支部
竹田市議会

○ワーキング部会
日本文理大学（委員長）
長湯温泉観光協会
長湯温泉旅館組合
長湯温泉飲食組合
九州アルプス商工会
湯ノ原区
直入地域を考える若手の会
竹田ツーリズム協会直入支部

<水辺空間の利活用状況>
○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・「芹川かわまちづくり検討会」を開催し、地域の意向を踏まえた計画の策定・具体化を行っていく。

<かわまちの運営（維持管理）>

・まちづくり整備を一体的に実施し、様々なイベントを開催することにより賑わいの場を創出する。
・芹川内にあるガニ湯付近をスポットとした、高水敷でのオープンカフェなどを実施し、川のせせらぎを感じられる憩いの場を実施する。
・維持修繕的な管理は、竹田市にて実施（管理委託協定を締結）
・日常的な施設管理・清掃等は、関係団体や地域と連携を図りながら実施する。

・詳細は検討会にて検討予定。

【H30年度】

「玉来川かわまちづくり」（大分県竹田市）

登録年月日：H31.3.8
事業年度：H31～R7

対象河川　：　一級河川　大野川水系玉来川　【県管理河川】
市町村名　：　大分県竹田市
推進主体　：　竹田市



1. 概要

竹田市では、平成24年の九州北部豪雨で、文化資源の拠点的役割を担ってきた「文化会館」が被災をうけ、「総合文化ホール」としてリニューアルするほか、隣接する公園等施設の整備を行いながら魅力を高め、観光客の誘致に取り組んでいます。この取組を充実させるため、本計画では、玉来川の新河道と旧河道に囲まれた地域特性を生かし、総合文化ホールや公園施設等と河川空間が一体的に利用できる空間となるよう、ベンチ等の休憩施設や自然体験の場を整備するほか、新たなイベント開催を通じて観光振興の促進を図ってきました。

河川管理者である大分県では、この取組に対し、必要な河川管理施設を整備するなど支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

大分県　：　護岸修景、高水敷整正、管理用通路　等
竹田市　：　広場、遊歩道、ベンチ、植栽、その他イベント用施設（電源設備等）、文化ホール、公園、こども診療所　等

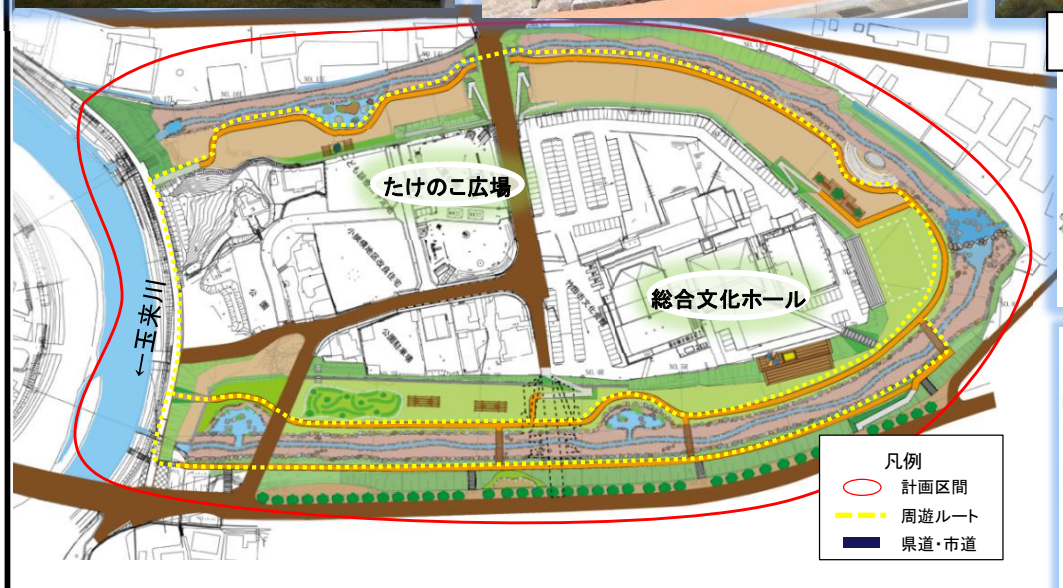
3. ソフト施策の内容

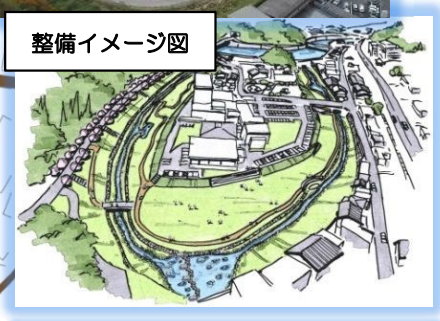
大分県　：　都市・地域再生等利用区域の指定
竹田市　：　公募で管理運営を行う民間事業者を決定、賑わい創出に資する活動を後押し













玉来川かわまちづくり【完】

大野水系玉来川（大分県竹田市）【補】

事業実施の効果

整備前の写真



草が繁茂し、河川に近づきにくい状況

整備イメージ



散策路や法面修景等を整備することで管理を容易にし、水辺と文化会館や公園が一体となるような賑わい空間の創出を図る

指標名　地域別の観光客数

効果（グラフor地域住民や観光客等の声）

・竹田市の統計情報から地域別の観光客数を集計する。

指標名　地域別の人口数

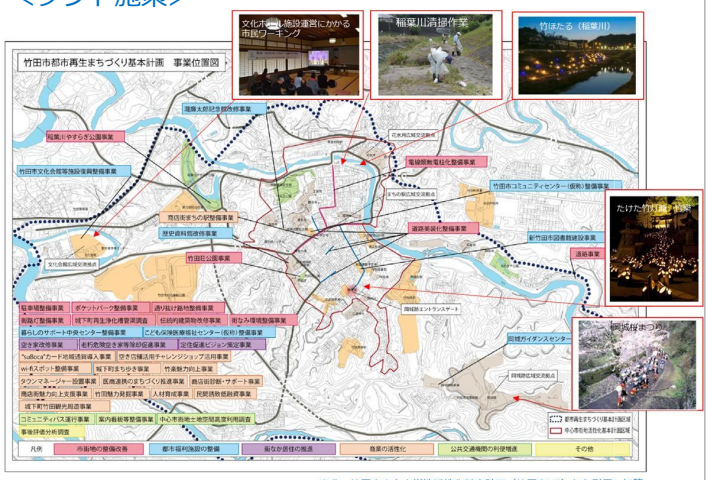
効果（グラフor地域住民や観光客等の声）

・竹田市の統計情報から地域別の人口数を集計する。

玉来川かわまちづくり【完】

大野水系玉来川（大分県竹田市）【補】

＜ソフト施策＞



出典：竹田市中心市街地活性化基本計画（竹田市HP）から引用し加筆

＜参画機関＞

・地元住民や竹田市役所、大分県による意見交換会の場として「玉来川かわまちづくり検討会」を開催し、地域の意向を踏まえた計画の策定・具体化を行っていく。

・今後の整備や利用についても竹田市役所を中心とし、国や県の関係機関の役割分担や連携をとりながら推進していく。

○検討会
日本文理大学（委員長）
竹田商工会議所
竹田市商店街連合会
阿蔵自治会
鬼ヶ城自治会
拝田原自治会
山手自治会
竹田市ＰＴＡ連合会
竹田市観光ツーリズム協会
大分県竹田土木事務所
竹田市建設課

○ワーキング部会
日本文理大学（委員長）
阿蔵自治会
鬼ヶ城自治会
拝田原自治会
ＰＴＡ連合会
まちづくりたけた㈱　・・・まちづくり第三セクター
竹田商工会議所　青年部
竹田市商店街連合会
竹田市スポーツ推進審議会
玉来えびす会　・・・地域づくり団体
竹田市レクリエーション協会
城下町と市場実行委員会　・・・イベント開催等若手有志
竹田っ子すこやか広場　・・・市地域子育て拠点
子育てひろば夢とんぼ　・・・市地域子育て拠点

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

「玉来川かわまちづくり検討会」を開催し、地域の意向を踏まえた計画の策定・具体化を行っていく。

＜かわまちの運営（維持管理）＞

・文化ホール周辺の整備とともに旧河川敷の整備を一体的に実施し、様々なイベントを開催することにより賑わいの場を創出する。
・河川敷が広くとれる場所においてはスポーツなどができる広場利用や、川の流れを変化させてワンドにより水を引き込ませて、安全な子供の水遊び場を提供する。
・維持修繕的な管理は、竹田市にて実施（管理委託協定を締結）
・日常的な施設管理・清掃等は、関係団体や地域と連携を図りながら実施する。

・詳細は検討会にて検討予定。

【R1年度】河川空間・歴史的資源を活かした“おもてなし”ゾーン

「山国川下流地区かわまちづくり」（福岡県吉富町、上毛町、大分県中津市）

登録年月日：R2.3.13
事業年度：R3～R12

対象河川 ： 一級河川 山国川水系山国川 【国管理河川】

市町村名 ： 福岡県吉富町、上毛町、大分県中津市

推進主体 ： 吉富町、上毛町、中津市



1. 概要

山国川下流地区は、福岡県吉富町、上毛町、大分県中津市の1市2町が連携し、広域的な観光振興に取り組んでいるが、地域活性化を望む拠点において、水辺へ安全に近づけない、管理用通路が一部つながっていない等の河川利用面及び河川管理面の課題があり、地域振興の拠点として活用できていない。

このことから、河川利用者の安全性の向上、河川巡視・河川管理の効率化を図ることを目的として、管理用通路や護岸の整備を行い、河川利用者の利便性・安全性を向上させることにより、地域活性化を図る。

2. ハード施策の内容

国土交通省 ： 親水護岸、管理用通路、階段工 等

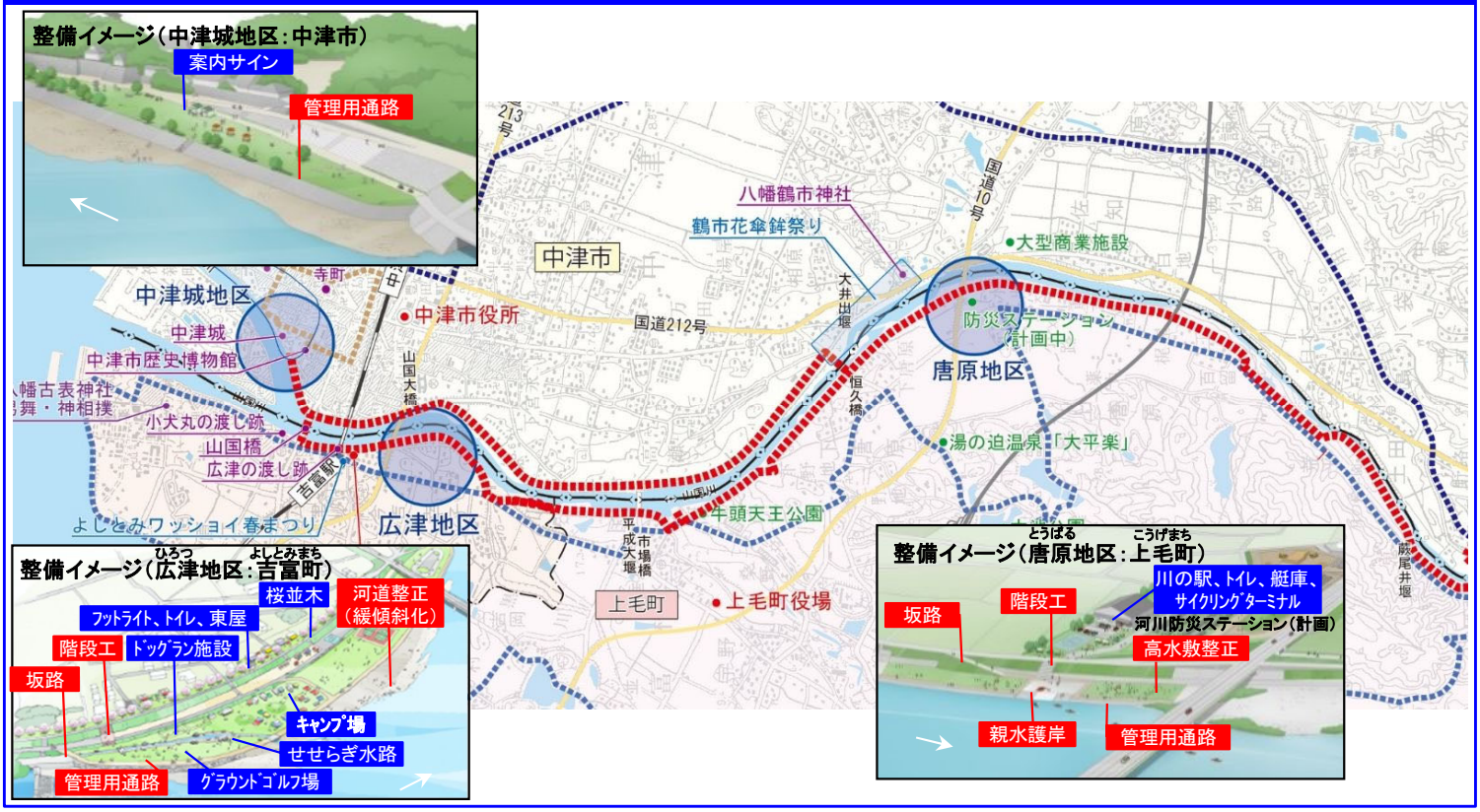
吉富町 ： 東屋、トイレ、キャンプ場 等
上毛町 ： 川の駅、カヌー艇庫 等
中津市 ： 案内看板の整備 等

3. ソフト施策の内容

国土交通省 ： 都市・地域再生等利用区域の指定 等

吉富町、上毛町、中津市 ： 情報発信 等

コンセプト：山国川の自然環境、歴史・文化の魅力をサイクリングルートでつなぎ、
にぎわいのあるかわづくりによる地域の活性化を目指す。



山国川下流地区かわまちづくり

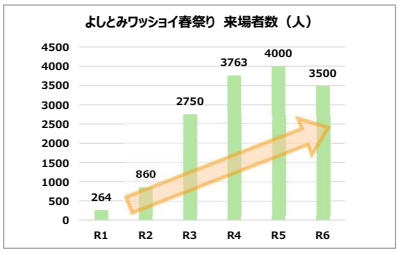
山国川水系山国川・中津川
（福岡県吉富町、上毛町、大分県中津市）【直】

事業実施の効果





指標名
イベント参加者数



関係自治体が連携した水辺拠点の整備により、イベント参加者数の増加や水辺周辺拠点の入込客数の増加が期待される。

事業実施の効果





指標名
イベントの開催



水辺拠点の整備により、河川空間利用者数の増加が期待される。

山国川下流地区かわまちづくり

山国川水系山国川・中津川
（福岡県吉富町、上毛町、大分県中津市）【直】

ソフト施策


花火大会（中津城地区）


カヌー利用状況（唐原地区）


サイクリング利用イメージ


河川利用状況（広津地区）

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

【中津城地区】中津市にて占用済み
【広津地区】吉富町にて占用済み
【唐原地区】整備に合わせ、上毛町にて今後占用予定

○今後の展望

【広津地区・唐原地区】河川敷地占用許可準則22条による、都市・地域再生等利用区域の指定を予定している。

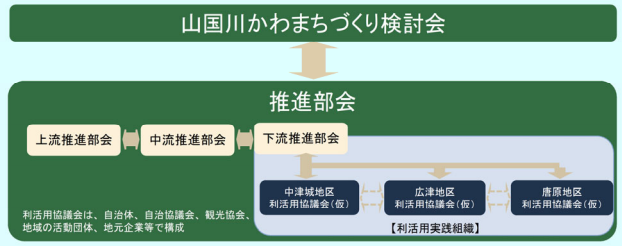
＜参画機関＞

- かわまち計画策定にあたっては、地域の河川利用へのニーズ等を把握し、商工会、NPO法人、関係自治体の中津市、吉富町、上毛町、福岡県、大分県、国等で構成される「山国川かわまちづくり検討会」を設置し、計画を策定。





- 山国川下流地区の「中津城地区」、「広津地区」、「唐原地区」の地区毎に地元住民や利用団体等による利活用協議会を設置し、今後の企画運営を行っていく



＜かわまちの運営（維持管理）＞

- 地区毎の利活用協議会にて企画・運営を予定
- 占用自治体、地元住民等により、清掃等の維持管理を行う予定
- 災害等による施設被害の復旧に関しては、国土交通省が主体的に実施


地元ボランティアによる清掃状況（広津地区）

【R1年度】筑後川と温泉地等を活用した、世代・地域を超えたにぎわいづくり

「大石（おおいし）かわまちづくり」（福岡県うきは市）

登録年月日：R2.3.13
事業年度：R3～R11

対象河川 ： 一級河川 筑後川（ちくごがわ）水系筑後川（ちくごがわ） 【国管理河川】

市町村名 ： 福岡県うきは市

推進主体 ： うきは市



1. 概要

うきは市では、筑後川をうきは市の恵まれた自然景観、優れた地域資源と位置づけ、筑後川を観光資源の一つとして活用・保全しながら、温泉等の地域資源も生かした「にぎわいのあるまちづくり」に取り組んでいます。この取組を充実させるため、本計画では、筑後川及び周辺をエリア毎の利活用沿った整備を実施し、温泉施設とともに魅力ある水辺空間を創出し、地域の魅力の向上、観光振興の促進を図ります。

国土交通省では、この取組に対し、日常的な利活用や賑わい創出イベントの安全な利用を促進するための整備を実施しました。今後は河川空間において営利活動を実施する場合には、河川敷地占用許可準則第22に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

国土交通省 ： 管理用通路、高水敷整正、坂路　　うきは市 ： 案内看板、道路改良

3. ソフト施策の内容

国土交通省 ： 都市・地域再生等利用区域の指定
うきは市 ： イベント支援、広報活動、民間事業者参入促進のための公募 等



大石かわまちづくり【完】

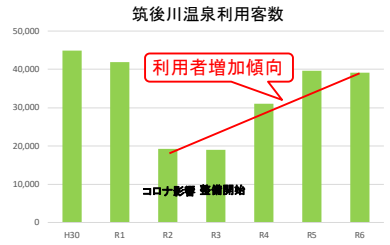
筑後川水系筑後川（福岡県うきは市）【直】

事業実施の効果





筑後川温泉の利用客数の推移



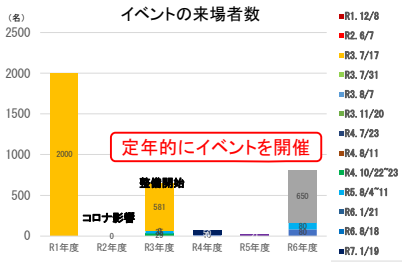
事業実施の効果



高水敷が荒れており、高水敷を利用した環境学習や釣りなどの水辺利用が安全にできない状態。



イベント利用者の推移

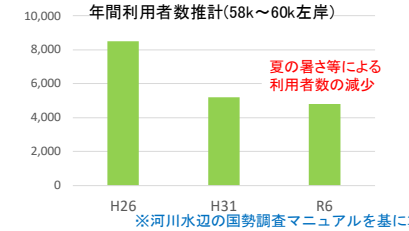


事業実施の効果





河川利用者の推移



※河川水辺の国勢調査マニュアルを基に算出

大石かわまちづくり【完】

筑後川水系筑後川（福岡県うきは市）【直】

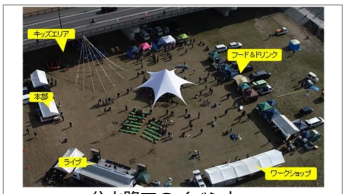
ソフト施策



温泉地等の散策



凧揚げ大会



分水路でのイベント
（音楽、マルシェ、ワークショップ等）

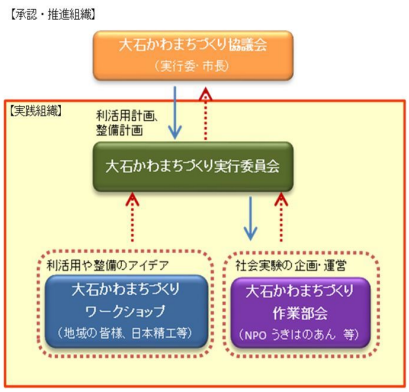


水面でのイベント
（カヌー・いかだ等）

＜参画機関＞

・平成30年度に自治会、NPO法人、温泉組合、学校関係者、地元有識者、うきは市、筑後川の管理者である国土交通省等から構成した「大石かわまちづくり協議会」、「大石かわまちづくり実行委員会」の２つの承認・推進組織および、社会実験等の企画運営を行う「作業部会」を設置した。

・協議会は年1~2回、実行委員会は年3~4回、作業部会は年10回ほど開催している。



＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況
・整備に合わせ、うきは市に占用予定。

○今後の展望
・各種イベント等の開催を通じ、河川敷地占用許可準則22条による都市・地域再生等利用区域の指定の可能性を検討していく。

＜かわまちの運営（維持管理）＞

・かわまちづくり協議会及び実行委員会にて、維持管理面についても協議し、役割分担を設定する。
・作業部会にて、整備後を見据えた民間事業者やイベント会社等の参画、日常の利活用促進について具体的に協議・検討していく。

【R3年度】本庄川の声を聴き、国富･綾をつむぐ、かわまちづくり

「本庄川かわまちづくり」（宮崎県国富町･綾町）

登録年月日：R3.8.20
事業年度：R4～R13

対象河川　：　一級河川　大淀川水系本庄川、深年川、綾北川
市町村名　：　宮崎県国富町･綾町　　【国管理河川】
推進主体　：　国富町･綾町



位置図

1. 概要

国富町、綾町は照葉樹林を源として、名水として湧き上がる大淀川水系本庄川の豊かな流れに育まれています。本庄川（かわ）と町の資源（まち）に加えて、両町が連携し、水辺での交流や賑わいのある空間とするため、『本庄川の声を聴き、国富･綾をつむぐ、かわまちづくり』を本庄川かわまちづくりのコンセプトに掲げ、本庄川かわまちづくりに取り組みます。

本庄川合流部（国富町）は、国富SICに近くアクセス性もよいため“本庄川かわまち”の玄関口と位置づけ、桜並木や季節の花の空間、軽トラ市等のイベント等を開催することにより「観光の目玉」の創出を目指します。

杢道地区（綾町、国富町含む）は、綾川荘、酒泉の杜、綾ユネスコパーク周辺には、県内外から多くの観光客が訪れており、綾北川から本庄川の豊かな自然を活かし、新にカヌー、オートキャンプ等の多様な自然体験ができるメニューをつくり観光客のさらなる集客を図ります。

この取組を充実させるため、本計画では、本庄川の利活用に沿った整備を実施し、地域資源とともに魅力ある水辺空間を創出し、地域の魅力の向上、観光振興の促進を図ります。国土交通省では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備のほか、河川空間において営利活動を実施する場合には、河川敷地占用許可準則第22に基づく、都市･地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　管理用通路、高水敷整正　等
国富町　：　植樹、ベンチ等
綾　町　：　駐車場、トイレ等

3. ソフト施策の内容

国土交通省　：　都市･地域再生等利用区域の指定　等
国富町･綾町　：　利活用の計画の検討、推進等



本庄川かわまちづくり

大淀川水系本庄川、深年川、綾北川（宮崎県国富町、綾町）【直】

事業実施の効果



・深年川（国富町）では、堤防上に季節の花木等を植栽し、日常的な散策や様々な催しに利用したいとの声があるが、植栽等のスペースがない。また、高水敷に竹藪・草木が繁茂しており、高水敷の安全な利用や水辺へのアクセスが困難である。



・「堤防腹付け」「高水敷整正」「管理用通路」等を整備することで、堤防上における日常的な散策、観光の目玉が創出できる。また、高水敷・水際における安全な利用や川遊びや散策が可能となり、町への観光客数の増加が期待できる。

指標名　入込客数の増加

効果（データ収集方法）

・国富町、綾町への入込客数を確認し蓄積する。

事業実施の効果



・本庄橋周辺（国富町）は、町民やサイクリング利用者のくつろぎの拠点とするとともに、本庄川の豊かな恵み（瀬渕、歴史文化）を活かし、伝統的な漁業や環境学習の拠点としたいとの声があるが、水辺に近づきにくい状況となっている。



・「親水護岸」等を整備することで、町民や町内外のサイクリング利用者による水辺でのくつろぎが可能となるとともに、水辺へのアクセス性の向上による安全な環境学習等が可能ととなる。また、河岸の巡視も可能となる。

指標名　河川の利用者数の推移

効果（データ収集方法）

・河川利用実態調査等による日常的な利用状況を確認し蓄積する。

事業実施の効果



・小田爪橋周辺（綾町）は、周辺施設（綾休養村公園センター等）の利用者によるカヌー体験や、地域の子供達の環境学習の際に、安全に水辺に近づくことが困難となっている。



・「高水敷整正」「緩傾斜化」「坂路」「散策路」等を整備することで、安全に水辺に近づくことが可能となり、イベント（カヌー教室、環境学習等）の場としての利用が可能となる。

指標名　整備拠点の利用者数

効果（データ収集方法）

・国富町、綾町のイベント数やイベントの参加者数を確認し蓄積する。

本庄川かわまちづくり

大淀川水系本庄川、深年川、綾北川（宮崎県国富町、綾町）【直】

ソフト施策



社会実験（こいのぼり設置）



社会実験（ランニングイベント）



社会実験（花壇の作成）



社会実験（キャンプイベント）

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・整備に合わせ、国富町、綾町が占用予定

・今後、社会実験や実証実験を通じて、河川敷地占用許可準則22による、都市・地域再生等利用区域の指定の可能性を検討する。

＜参画機関＞

・自治会、商工会、漁協組合、地元有識者、国富町、綾町、本庄川の管理者である国土交通省等から構成した「本庄川かわまちづくり協議会」及び「本庄川かわまちづくり推進部会」の２つの組織を設置。

本庄川かわまちづくり協議会

内容：事業のおおむねの方向性、推進部会にて具体化された計画の確認、チェック等

協議会の構成：自治体、国土交通省、地域住民　等

計画の確認・承認

計画（整備・利活用・維持管理）の作成・提案

本庄川かわまちづくり推進部会

内容：上記の整備、利活用、維持管理の方策について実際に地域で具体化できるように検討を行い、協議会に提案する。

推進部会の構成：かわまちづくり計画の実践に協力していただける方

国富町推進部会　　綾町推進部会

＜かわまちの運営（維持管理）＞

・協議会及び推進部会にて、維持管理面についても協議し、役割分担を設定する。

【R6年度】「過去と未来を厳木川でつなぐふれ合いプロジェクト！」

「厳木川中島地区かわまちづくり」（佐賀県唐津市）

登録年月日：R6.8.8
事業年度：R7～R16

対象河川　：　一級河川　松浦川水系厳木川　【国管理河川】

市町村名　：　佐賀県唐津市

推進主体　：　唐津市

位置図



1. 概要

厳木川中島地区は、瀬・淵で形成された砂礫河原の良好な河川環境を呈しており、ゲンジボタルが生息し、地域の川遊び、イベント及び環境学習の場として活用されているが、水辺へ近づきにくく、通路も整備されていない。一方で、地区周辺では、道の駅、認定こども園や小中学校などが点在し、かわとまちを繋いだ地域の活性化が期待されている。そこで、河道整正及び通路や広場の整備等を行い、中島地区における憩いと賑わいの場を創出するものである。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　管理用通路、河道整正　等　　唐津市　：　水場再整備、テラス整備　等

3. ソフト施策の内容

国土交通省　：　環境学習の支援　等　　唐津市　：　イベント支援（市報等での広報）　等

【トイレ（水場）の整備】
- 水場としての活用も可能なトイレの整備

→地域でのイベント、休憩等での活用
→トイレ（水場）があることで将来的な広場活用（BBQ、キャンプ等）にもつながる。

【広場（テラス）の整備】
- 既存樹木の間引き（中低木の伐採）、安全柵やベンチの設置、芝張り（または舗装）による広場整備

→地域でのイベント、休憩、花見、ホタル観賞等での活用
→将来的にBBQ、キャンプ、マルシェ等、人を呼び込む場としての活用も可能


テラスのイメージ

■整備イメージ（案）

既設階段の活用に加え親水階段を整備し、水辺へのアクセス、利便性を向上させる

【河道整正、通路の整備】
- 礫河原をなだらかに整正
- 既設護岸沿いに散策路の基盤整備

→地域での散策、川遊び、ホタル観賞、また環境学習の場として、より安全・安心に活用できる場となる。

【看板の設置】
- 川遊びの際の注意点等を掲示した看板の設置

→安全な河川利用の推進と啓発活動


地元小学生による環境学習


地元住民による
イベントの開催状況


地元住民による
水草（オオカナダモ）撤去作業

※今後、工事実施のための詳細な設計等を実施することにより、実施内容を変更する場合があります。

厳木川中島地区かわまちづくり

松浦川水系厳木川（佐賀県唐津市）【直】

事業実施の効果





指標名
イベントの開催数、参加人数

- 地域の将来を担う子供たちが参加できるようなイベントの開催数、もしくは参加人数を集計。

事業実施の効果





指標名
河川の利用者数

- 河川空間利用実態調査の定点設定と継続的なモニタリング。

事業実施の効果





指標名
河川の利用者数

- 河川空間利用実態調査の定点設定と継続的なモニタリング。

厳木川中島地区かわまちづくり

松浦川水系厳木川（佐賀県唐津市）【直】

ソフト施策


川のイベント


環境学習


魚取り体験

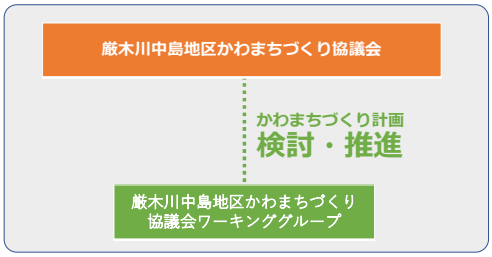

川流れ体験

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況
・整備した河川内の施設については、唐津市で占用予定

＜参画機関＞

現在利用を行っている中島地区の住民代表、周辺施設との連携を考慮し道の駅やこども園等の地域関係団体等、唐津市及び武雄河川事務所で構成される協議会を令和5年11月に設立



＜かわまちの運営（維持管理）＞

【国】河川管理上必要となる堤防等の除草を引き続き継続実施。

【唐津市】市有地内の施設の維持管理を行い、整備した河川内の施設について占用を行い、日常的な点検、軽微な維持管理を実施。

【地域住民】イベント開催のため、水草の撤去やヨシ刈り、ヨシ焼きの維持管理を継続して実施。



地域住民による維持管理
（水草除去の実施）

【R7年度】

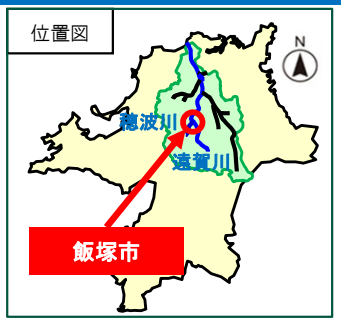
「飯塚地区かわまちづくり」（福岡県飯塚市）

登録年月日：R7.8.1
事業年度：R8～R17

対象河川　：　一級河川　遠賀川水系遠賀川・穂波川　【国管理河川】

市町村名　：　福岡県飯塚市

推進主体　：　飯塚市



1. 概要

飯塚市の中心部を流れる遠賀川では、高水敷に多目的広場や散策路、水際に親水護岸等が整備され、レクリエーションやイベント等に利用されており、市民の交流の場、水辺とのふれあいの場として親しまれるとともに、飯塚市民にとってシンボル的な場となっています。一方で街から高水敷と水辺へのアクセスが困難、河川敷にまとまった平場がなく、安全・安心・快適に利用しにくい等の課題があります。本計画では、護岸整備、管理用通路、高水敷整正などの整備を実施し、“まち”と“水辺”を繋ぎ、地域の自立的・持続的な活性化や、賑わいのある河川空間の創出を図ります。

国土交通省では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備のほか、河川空間において営利活動を実施する場合には、河川敷地占用許可準則第22に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

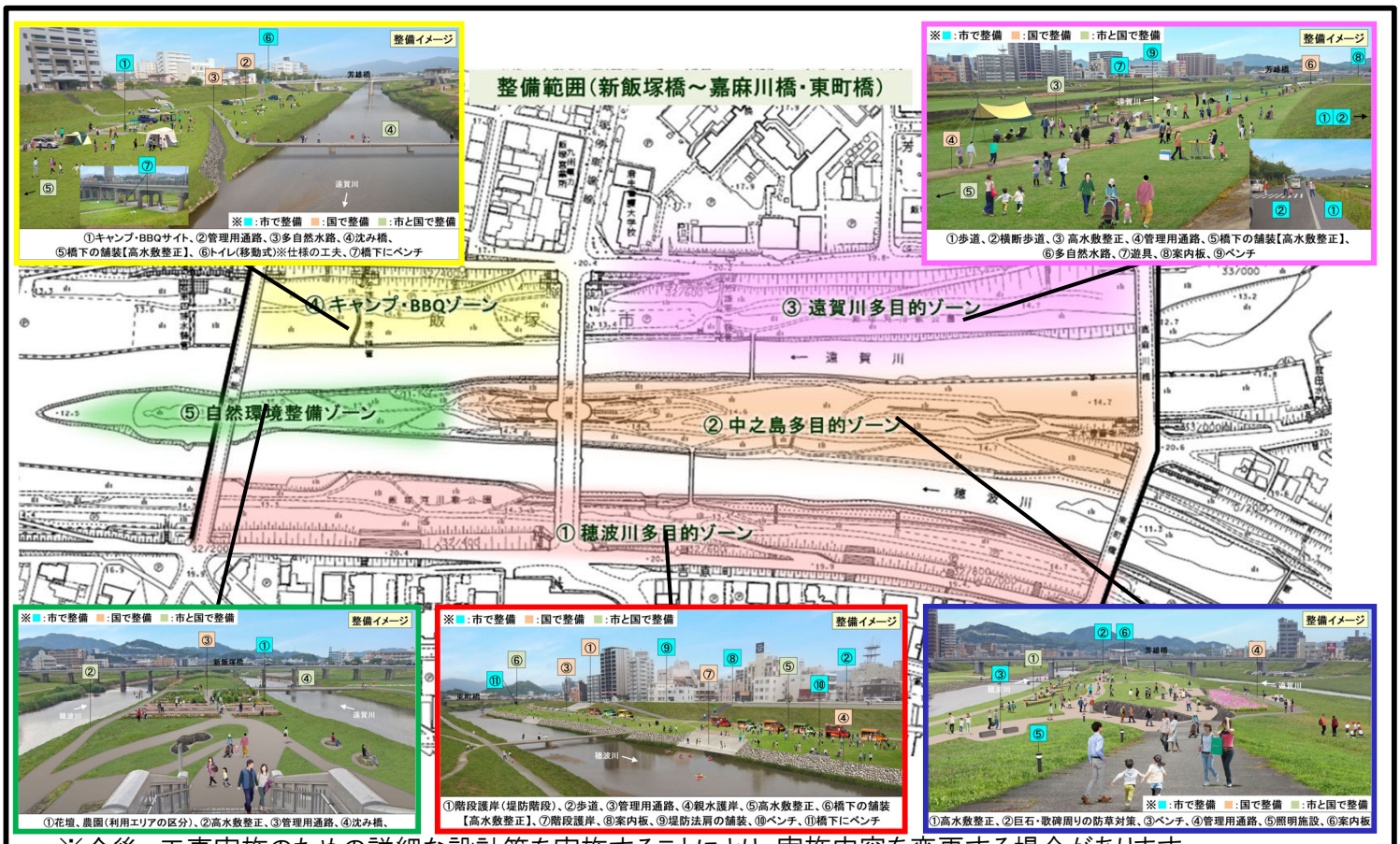
2. ハード施策の内容

国土交通省　：　親水護岸、階段護岸、高水敷整正、管理用通路、多自然水路等

飯　塚　市　：　高水敷舗装、キャンプ・BBQサイト、花壇・農園、トイレ、案内板、ベンチ、照明施設　等

3. ソフト施策の内容

国土交通省　：　都市・地域再生等利用区域の指定　等　　飯塚市　：　パンフレット作成　等



※今後、工事実施のための詳細な設計等を実施することにより、実施内容を変更する場合があります。

飯塚地区かわまちづくり

遠賀川水系遠賀川・穂波川（福岡県飯塚市）【直】

事業実施の効果





指標名　未定

効果

堤防道路沿いに歩道や階段護岸、水際に親水護岸を整備することで、街から安全に水辺に近づけるようになります。

事業実施の効果





指標名　未定

効果

堆積した土砂を撤去することで、通路が利用できるようになります。また、巨石周りの防草対策や、通路に土砂がたまりにくい構造に改善することで常に通路を利用できるようになります。

事業実施の効果





指標名　未定

効果

水路の高低差を緩和した多自然水路を整備することで、安全に広場を利用できるようになります。また、中之島につながる沈み橋や通路を整備することで、広場間を安全に回遊できるようになります。

飯塚地区かわまちづくり

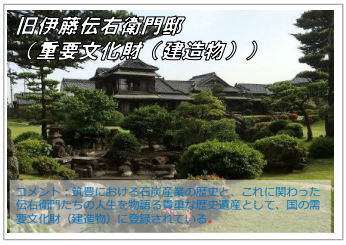
遠賀川水系遠賀川・穂波川（福岡県飯塚市）【直】

ソフト施策

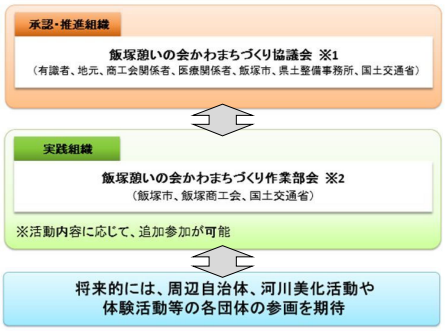








＜参画機関＞



※1 飯塚脳いの会かわまちづくり協議会
- 有識者、地元、商工会関係者、医療関係者、飯塚市、飯塚県土整備事務所、国土交通省等から構成した承認・推進組織。
- 飯塚脳いの会かわまちづくり協議会を拡充させ、飯塚市域のかわまちづくりを統括する位置づけ。

※2 飯塚脳いの会かわまちづくり作業部会
- 整備内容や利活用・維持管理の具体化及び試行等をより実践的に検討する組織。
- 協議会の下部組織として、位置づける。

＜かわまちの運営（維持管理）＞

維持管理に関する協定等を締結する方向で市と調整予定。

＜水辺空間の利活用状況＞
○かわまち計画範囲内の占用許可状況

整備が完了したゾーンから順に、市と占用手続きに向けた調整を実施予定。

【R7年度】

「山国川中流地区かわまちづくり」（大分県中津市）

登録年月日：R7.8.1
事業年度：R8～R17

対象河川　：　一級河川　山国川水系山国川　【国管理河川】

市町村名　：　大分県中津市

推進主体　：　中津市



1. 概要

中津市では、名勝「耶馬渓」や耶馬日田英彦山国定公園に指定された自然豊かな景勝地を有する山国川沿川の魅力ある河川空間と既存のサイクリングロードを活かしたまちづくりに取り組んでいる。

この取り組みを充実させるために、『山国川の景観、歴史・文化を通じ人と人とが行き交うかわづくり』『山国川の自然、地域の魅力に触れあえるかわづくり』を基本理念とした「山国川かわまちづくり全体構想」を令和2年3月に策定した。

中流地区は名称耶馬渓の象徴である奇岩・秀峰の景観的資源と耶馬三名橋や平田家住宅等の歴史的資源が川沿いに点在しているが、それらが既存のサイクリングロードと十分に連携できていないことが課題である。そのため、「山国川中流地区かわまちづくり計画」により、それら資源をサイクリングロードでつなぎ、観光客や地域住民等の人と人との交流を通じて地域の活性化を目指している。

国土交通省では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備のほか、河川空間において営利活動を実施する場合には、河川敷地占用許可準則第22に基づく、都市・地域再生利用区域の指定等の支援を実施していきます。

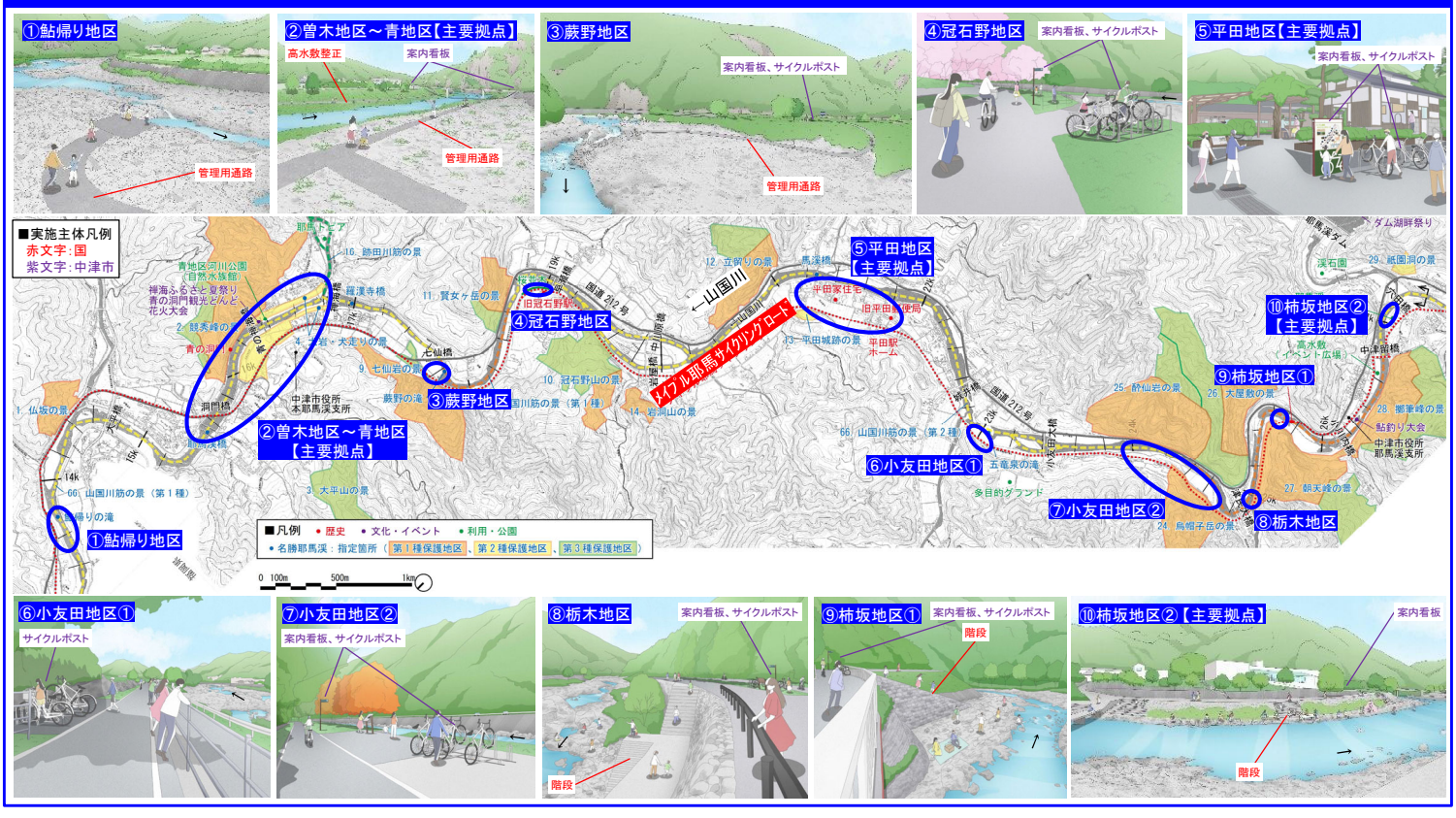
2. ハード施策の内容

国土交通省　：　管理用通路、階段の整備　等　　中津市　：　案内看板、サイクルポストの整備　等

3. ソフト施策の内容

国土交通省　：　都市・地域再生等利用区域の指定　等　　中津市　：　情報発信　等

コンセプト：メイプル耶馬サイクリングロードを基軸に、名勝「耶馬渓」の自然・景観・歴史を体感できる空間づくりを目指す。



山国川中流地区かわまちづくり

山国川水系山国川　（大分県中津市）【直】

事業実施の効果





指標名 河川利用者数
効果：河川利用者数の増加 データなし （整備前）

水辺の周遊性が向上し、河川利用者数の増加が期待される。

事業実施の効果



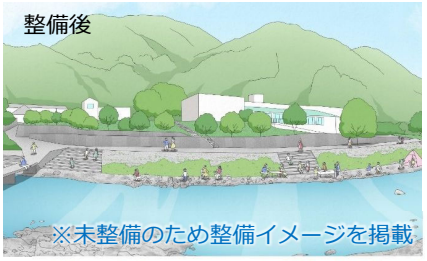


指標名 サイクリング利用者数
効果：サイクリング利用者数の増加 データなし （整備前）

サイクリング利用者の休憩場所が整備されることで、満足度向上やサイクリング利用者数の増加が期待される。

事業実施の効果





指標名 イベントの開催
効果：イベントの開催 データなし （整備前）

安全に水辺へ近づくことが可能となり、河川利用者数の増加や水辺でのイベント開催が期待される。

山国川中流地区かわまちづくり

山国川水系山国川　（大分県中津市）【直】

ソフト施策



耶馬渓観光ガイド（曽木地区～青地区）



環境学習（柿坂地区②）



サイクリングイベント

＜参画機関＞

- かわまち計画策定にあたっては、地域の河川利用へのニーズ等を把握し、確認・承認組織である「山国川かわまちづくり検討会」やかわまちづくり計画の検討を行う「山国川かわまちづくり推進部会」を設置し、計画を策定



第5回かわまちづくり検討会



第5回かわまちづくり推進部会

- 地元住民や利用団体等による利活用協議会を設置し、整備後の利活用・維持管理に関する検討を実施中



第1回かわまちづくり実践協議会



第2回かわまちづくり実践協議会

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

- 整備に合わせ、中津市にて今後占用予定

＜かわまちの運営（維持管理）＞

- 利活用協議会にて維持管理計画の検討を実施予定
- 占用自治体、地元住民等により、清掃等の維持管理を行う予定
- 災害等による施設被害の復旧に関しては、国土交通省が主体的に実施



サイクリングロードの清掃活動

【R7年度】ひとが集い・交わり・賑わう、おまるリバー高鍋

「小丸川下流地区かわまちづくり」（宮崎県高鍋町）

登録年月日：R7.8.1
事業年度：R8～R16

対象河川　：　一級河川小丸川水系小丸川【国管理河川】
市町村名　：　宮崎県児湯郡高鍋町
推進主体　：　高鍋町



1. 概要

高鍋町は、「第6次高鍋町総合計画　後期基本計画　高鍋みらい戦略（令和6年3月）」において「スマートウェルネスシティ」（健幸社会の実現）をまちづくり政策の中核に捉え、小丸川の水辺利活用推進、スポーツ誘致等に取り組んでいます。小丸川（かわ）と町の資源（まち）を連携させ、水辺での交流や賑わいのある空間を創出するため、小丸川下流地区かわまちづくりに取り組みます。

上流エリアは、地域住民の活動の場として、小丸河川敷広場周辺や河跡湖等の利活用の安全性、利便性の向上を図り、利用者の増加を目指します。下流エリアは、新たな賑わいの場として親水機能を高めボートやカヌー等の利用を促進するとともに、堤防天端と小丸大橋、高鍋大橋を繋ぐ周遊ルートを整備し、散策やウォーキング等による健康増進につなげます。

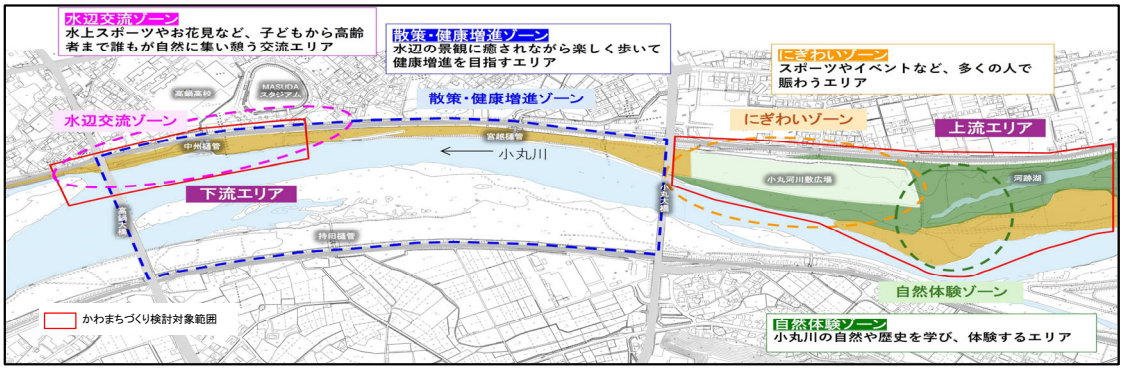
国土交通省では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備のほか、河川空間において営利活動を実施する場合には、河川敷地占用許可準則第22に基づく都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

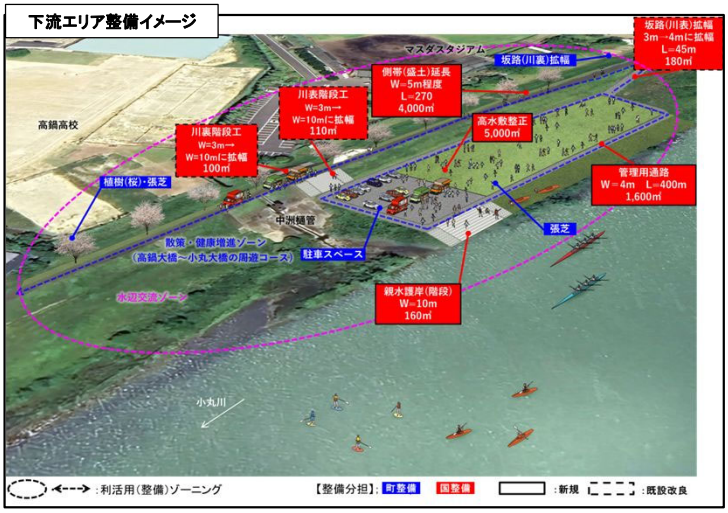
2. ハード施策の内容

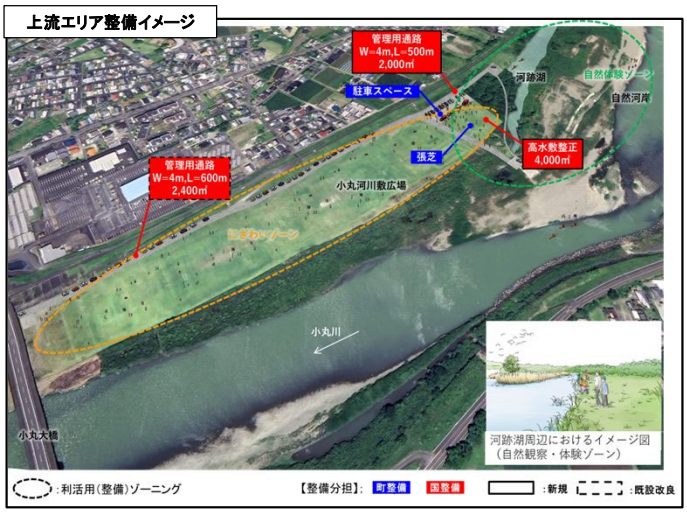
国土交通省　：　管理用通路、高水敷整正 等　　・　　高鍋町：張芝、植樹、駐車場整備　等

3. ソフト施策の内容

国土交通省　：　都市・地域再生等利用区域の指定　等　　高鍋町：利活用計画の検討、推進　等







※今後、工事実施のための詳細な設計等を実施することにより、実施内容を変更する場合があります。

小丸川下流地区かわまちづくり

小丸川水系小丸川（宮崎県高鍋町）【直】

事業実施の効果



大型ブロックが設置され、安全に水辺に近づけず、利用が困難である。



親水護岸の整備により安全な水辺の利用が可能となり、ボートやカヌー等の新たな水面利用の拠点となる。

整備拠点の利用者数の増加

平成31年度利用実態調査のかわまち整備拠点箇所の年間推計利用者数59,000人より4,000人の増加を目指す。

事業実施の効果



高水敷の不陸や草木の繁茂のため、安全な利用が困難である。



高水敷整正、張芝等を整備することで、イベント開催の場としての利用が可能となる。

持続的な利活用・維持管理

ボランティア等との協働による「環境保全活動・維持管理の回数」目標値を令和12年度までに、８回／年に設定する。

事業実施の効果



広場から安全にアクセスできる通路がなく、利便性に課題がある。



河跡湖へアクセスできる通路（管理用通路）をを整備することで、河跡湖での環境学習等の利用促進が期待される。

都市・地域再生等利用区域設定における活用件数

小丸河川敷広場周辺や高鍋大橋上流右岸を都市・地域再生等利用区域に指定し、活用件数の目標値を８件／年（２箇所×４回（春夏秋冬）／年）に設定する。

小丸川下流地区かわまちづくり

小丸川水系小丸川（宮崎県高鍋町）【直】

ソフト施策



R7.3.2 社会実験（小丸河川敷広場）



河跡湖周辺での環境学習



ボート・カヌー等の水面利用



植樹による散策者増加

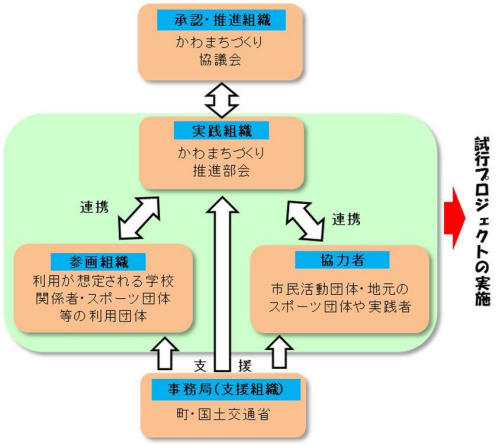
＜参画機関＞

○小丸川下流地区かわまちづくり協議会

承認組織として、かわまちづくり計画を策定するとともに、小丸川を軸とした地域の活性化や地域交流の促進、治水安全度の向上を目的として整備内容、利活用方法の承認・推進を実施。

○小丸川下流地区かわまちづくり推進部会

利活用及び維持管理の具体化、施行等について、実際に利用が想定される団体や地元の活動団体などの参画組織や協力者と連携しながら、より実践的な整備内容や利活用の推進の協議・検討を実施。



＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

・整備完了後は高鍋町が占用予定。

・利活用促進をはかるため、実証実験を実施予定。
実証実験の結果等を踏まえた利活用ルールの策定、河川敷地占用許可準則第22による都市・地域再生等利用区域の指定を検討する。

＜かわまちの運営（維持管理）＞

・地元ボランティア、NPO団体等をはじめ、賑わいづくりを担う民間事業者等と連携しながら、継続的な維持管理体制の検討を行う。

04 かわまちづくり計画　事例集

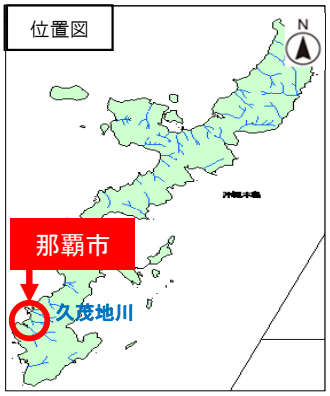
沖縄総合事務局管内

【H15年度】

「旭橋地区かわまちづくり」（沖縄県那覇市）

登録年月日：H15.4.22
事業年度：H21～H28

対象河川　：　二級河川　安里川水系久茂地川【県管理河川】
市町村名　：　沖縄県那覇市
推進主体　：　那覇市



1. 概要

那覇市では、県都の玄関口としてふさわしい空間形成を目指し、沖縄の顔にふさわしい景観づくりに取り組んでいます。

この取組を充実させるため、本計画では、都市機能と環境の調和を図り、魅力的なまちづくりを推進します。

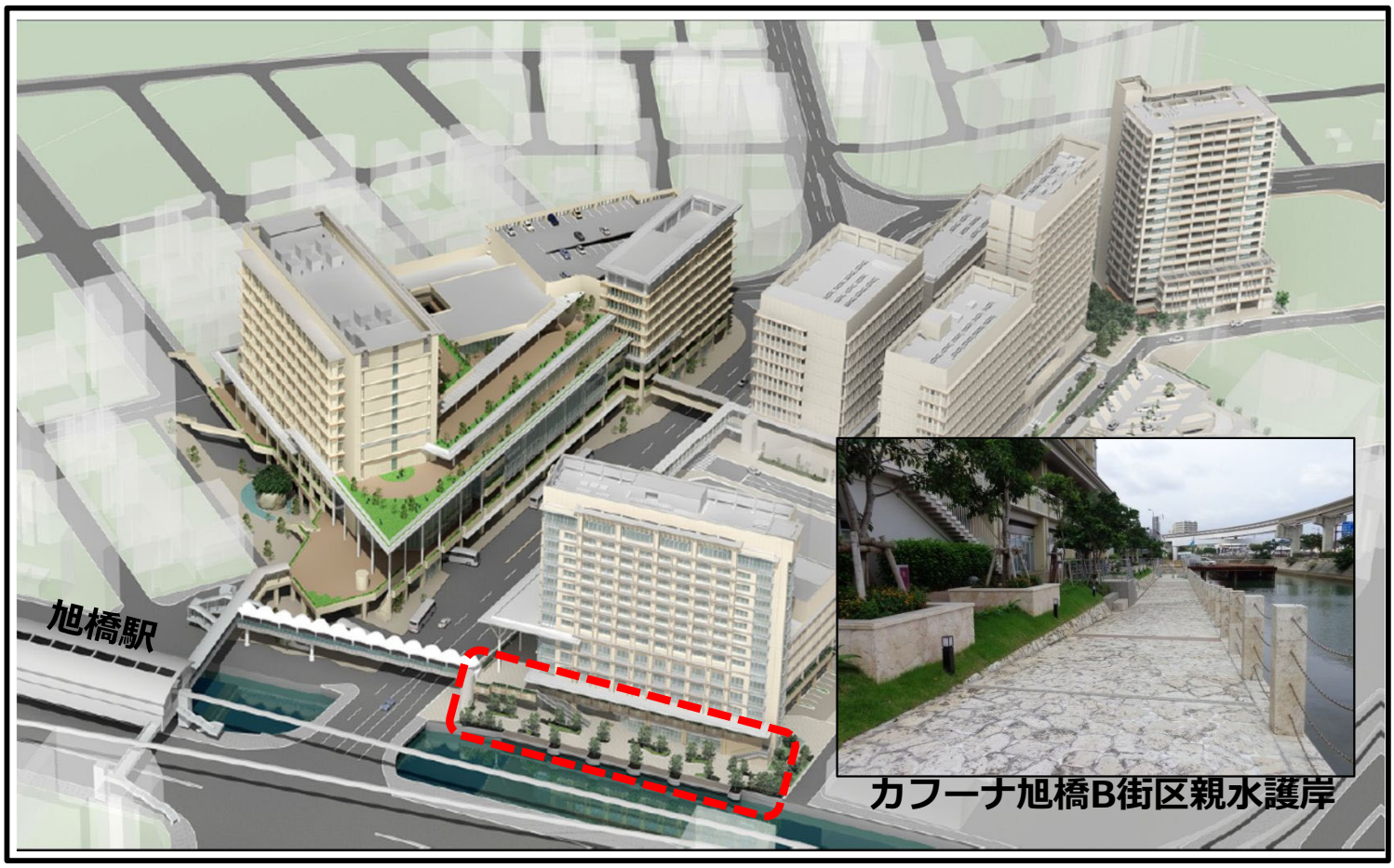
国土交通省では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備のほか、河川空間において営利活動を実施する場合には、河川敷地占用許可準則第22に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

国土交通省　：　河川管理用通路、親水護岸

3. ソフト施策の内容

国土交通省　：　都市・地域再生等利用区域の指定に向けた取り組み

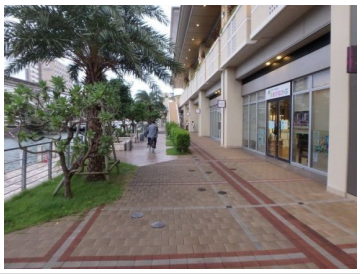


旭橋地区かわまちづくり【完】

安里川水系久茂地川（沖縄県那覇市）【補】

事業実施の効果





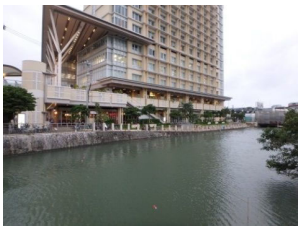
地域の声

旭橋再開発と一体となって整備した遊歩道、周遊性の向上、憩いの場としての利用が期待される。

事業実施の効果

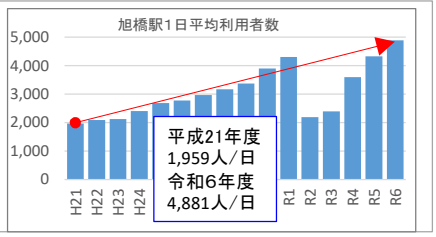


整備前写真（遊歩道なし）



整備後写真（遊歩道あり）

指標名　最寄駅乗降客数



事業実施の効果



最寄り旭橋駅と親水遊歩道が直結



周遊性が生まれ、周辺店舗も賑わう

利用者の声

・夜景も楽しめます。
・仕事の合間の息抜きに。

旭橋地区かわまちづくり【完】

安里川水系久茂地川（沖縄県那覇市）【補】

ソフト施策



鯉のぼりフェスタ



鯉のぼりフェスタ



カヌー体験学習



冬のイルミネーション

＜参画機関＞

旭橋都市再開発（株）

＜水辺空間の利活用状況＞

○かわまち計画範囲内の占用許可状況

なし

＜かわまちの運営（維持管理）＞

河川用地は、河川管理者である沖縄県が管理
遊歩道は、旭橋都市再開発（株）が管理

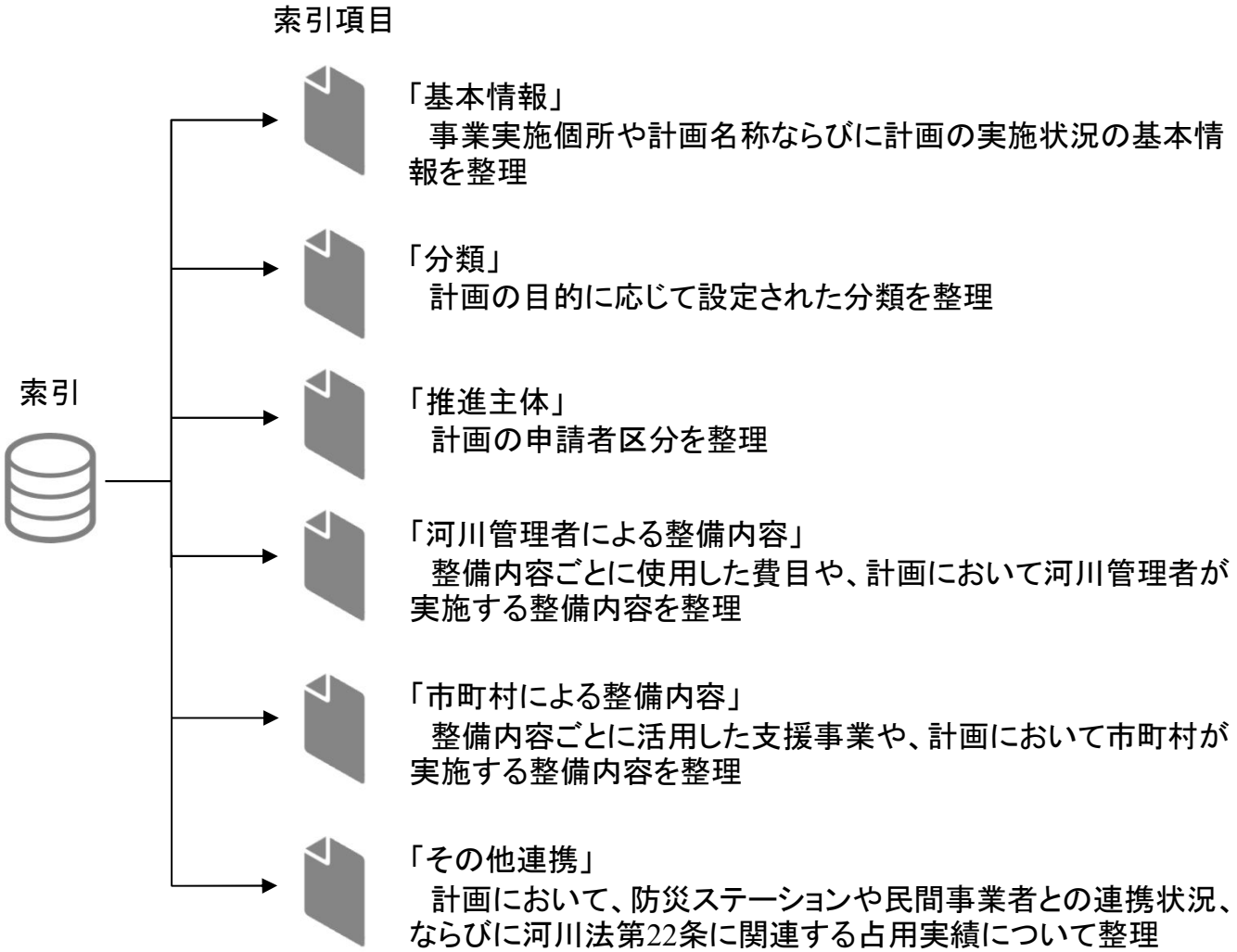
05 索引

全国のかわまちづくり計画の目的・役割分担が検索できる索引

本索引では、かわまちづくり計画の全体像を俯瞰できるよう整理しています。

主に、新たに計画登録を検討する実施主体が、各計画の目的や関係機関との役割分担、連携状況を把握できるよう、計画の目的、推進主体、河川管理者および市町村による整備内容等を一覧としてとりまとめました。

本索引を活用することで、各担当者が計画検討の初期段階における方向性整理や、既存計画との比較・参考等に役立てることを想定しています。



- 「索引」のダウンロード先

  ホーム >> 政策・仕事 >> 水管理・国土保全 >> 環境>>河川を活かしたまちづくり>>かわまちづくり計画策定の手引き

  https://www.mlit.go.jp/river/kankyo/main/kankyou/machizukuri/tebiki/index.html

06 参考情報

かわまちづくり　WEB

- トップページ

  ホーム >> 政策・仕事 >> 水管理・国土保全 >> 環境 >>河川を活かしたまちづくり>>

  http://www.mlit.go.jp/river/hourei_tsutatsu/riyou/kasen_riyou/kyoka/index.html

- 全国かわまちづくりMAP

  WEBサイト　トップページ >> 全国かわまちづくりMAP

  https://www.mlit.go.jp/river/kankyo/main/kankyou/machizukuri/map.html

- 「かわまちづくり」支援制度　実施要綱

  WEBサイト　トップページ >>「かわまちづくり」支援制度　実施要綱

  https://www.mlit.go.jp/river/kankyo/main/kankyou/machizukuri/shienseido/shienseido_1602.pdf

河川敷地占用許可準則

- 国土交通省ウェブサイト

  ホーム >> 政策・仕事 >> 水管理・国土保全 >> 利用 >> 河川敷地占用について >> 河川敷地占用許可準則について

  http://www.mlit.go.jp/river/hourei_tsutatsu/riyou/kasen_riyou/kyoka/index.html

ミズベリング｜MIZBERING

- ウェブサイト：https://mizbering.jp/

  ミズベリングは、新しい水辺の活用の可能性を切り開く官民一体の協働プロジェクトです。

リバサイト｜RIVASITE

- 詳細リンク：

  https://www.mlit.go.jp/river/kankyo/main/kankyou/machizukuri/pdf/rivasite_r50524.pdf

  リバサイトは、河川敷地における規制をさらに柔軟化し、民間事業者が参画しやすい環境を整える取り組みです。

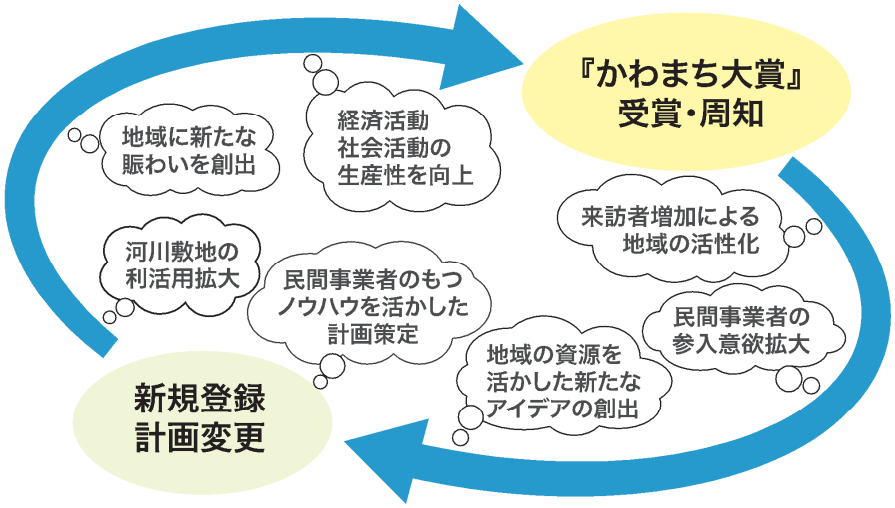
06 参考情報

かわまち大賞の概要

先進的な「かわまちづくり」を国土交通大臣が表彰！

国土交通省では、河川空間とまち空間の融合が図られた、良好な水辺空間の形成を目的とした「かわまちづくり」を推進しています。
河川空間を活用し、地域の賑わいを創出した、他の模範となる先進的な「かわまちづくり」を国土交通大臣が表彰し、その取組を全国に周知するのが「かわまち大賞」です。

「かわまち大賞」により取組団体を讃えるとともに、「かわまちづくり」支援制度を浸透させ、民間事業者の参入を促進し、民間事業者のもつ「ノウハウ」等を活かした質の高い「かわまちづくり」を目指します。



対象は地域の活性化がみられる「かわまちづくり」全て

かわまちづくり計画が登録されている地区のうち、全部又は一部が供用している箇所において、地域のニーズに応じた利活用が図られ、地域活性化に一定の成果を上げている応募主体が中心となって実施している取組を対象とします。

5つの観点で評価

先進性
全国の「かわまちづくり」のモデルとなるような、先進的な取組であること。

継続性
市町村、民間事業者及び地域住民等による組織や活動が継続的に行われ、発展していること。

創意工夫
利活用を活発化させるために、ハード施策及びソフト施策の両面で特徴的な工夫がなされていること。

連携性
活発かつ安定的な利活用・維持管理が行われるために、多様な主体が連携した体制が構築され、各主体の役割分担が明確で、適切に運営されていること。

効果（地域の活性化）
取組により、観光者の増加や地域の活動が活発化するなど、課題解決に資する良好な変化が生まれていること。

- かわまち大賞

ホーム >> 政策・仕事 >> 水管理・国土保全 >> 環境>>河川を活かしたまちづくり>>かわまち大賞（先進事例紹介）

https://www.mlit.go.jp/river/kankyo/main/kankyou/machizukuri/taisyo.html

06 参考情報

相談窓口「かわよろず」

- 水管理・国土保全局は、地域の人々が様々な観点から川との良好なつながりを築くことで、その地域ならではのまちの価値を高める「かわまちづくり」を支援しています。
- これまでなかなか関わりが難しかった民間企業等の方々にも、積極的にかわまちづくりの主体者の一員となっていただけるようになりました。
- 河口から上流まで、そこに川や湖があれば、その水辺が有する景観・歴史・文化等の魅力を活かした地域活性化が図られるよう、精一杯お手伝いします。

相談例①

「川沿いのビルのリノベーションにあわせて川テラスをつくりたい。建築基準法の扱いなど、プロジェクトを具体的に進めるためにはどうすればいいの？」

→窓口より法令解釈を省内担当課に照会し、相談者に情報提供します。

相談例②

「自転車道を川沿いに整備したい」

→基本的な占用ルールなどを説明します。構造や適用できる事業の可能性などを検討の上説明します。

「かわよろず」は、次に関連するご相談を承ります。



- □ 「かわまちづくり」支援制度に関すること
- □ ミズベリングに関すること
- □ 河川空間のオープン化（河川敷地占用許可準則の特例）に関すること
- □ 川の水を利用した発電に関すること
- □ 河川敷地の更なる規制緩和に関する社会実験「RIVASITE」に関すること
- □ その他、河川の空間及び流水の利活用、河川改修にあわせたまちづくりに関すること　など

- 国土交通省ウェブサイト

ホーム >> 政策・仕事 >> 水管理・国土保全 >> 環境>>河川を活かしたまちづくり>>相談窓口「かわよろず」

https://www.mlit.go.jp/river/kankyo/main/kankyou/machizukuri/kawayorozu.html

かわまちづくり計画事例集

発行:国土交通省　水管理・国土保全局　河川環境課　令和8年3月

お問合せ先
国土交通省　水管理・国土保全局　河川環境課
〒100-8918　東京都千代田区霞が関2-1-3